

柏北部中央地区 埋蔵文化財調査報告書8

— 柏市屋敷内遺跡 —

令和3年3月

千葉県教育委員会

柏北部中央地区 埋蔵文化財調査報告書 8

かしわし やしきうち いせき
—柏市屋敷内遺跡—



序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会では、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的とした諸活動に加え、千葉県が行う開発事業に係る埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について実施しております。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第36集として、柏北部中央地区土地区画整理事業に伴って実施した柏市屋敷内遺跡の発掘調査報告書です。今回の調査では、旧石器時代のナイフや槍などの石器製作跡をはじめ、縄文時代と古墳時代の竪穴住居跡や中・近世の屋敷跡と考えられる掘立柱建物跡・地下式の倉庫跡・井戸の跡など、長期間にわたる様々な人々の営みの跡が検出されました。既に調査報告第18集として報告した柏市須賀井遺跡などの周辺遺跡の調査成果と相まって、当地域における各時代の様相や変遷などを知る上での大貴重な資料を得ることができました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する理解を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

令和3年3月

千葉県教育庁教育振興部

文化財課長 田中 文昭

凡　例

- 1 本書は、千葉県県土整備部による柏北部中央地区土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記遺跡における第1～34次調査地点の調査成果を収録したものである。
屋敷内遺跡 柏市正連寺364ほか（遺跡コード217-025）
- 3 発掘調査及び基礎的な整理作業は、千葉県県土整備部の委託を受けて公益財団法人千葉県教育振興財團が平成24年度まで実施した。本格的な整理作業は千葉県県土整備部の依頼を受けて平成26年度から千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。なお、平成30年度以降の整理作業については、公益財団法人千葉県教育振興財團に支援業務委託して実施した。
- 4 調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は、第1章第1節に記載したとおりである。
- 5 本書の執筆は、第1章、第2章第1節・第4節を金丸誠、第2章第2節を落合章雄、第2章第3節(石器を除く)を安井健一、同石器を小澤政彦、第2章第5節を鳴田浩司と金丸誠、第3章を落合章雄と金丸誠が行い、編集については落合章雄と金丸誠が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、柏市教育委員会、千葉県県土整備部市街地整備課、同柏区画整理事務所はか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地図の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位は全て座標北である。
- 8 土器観察表及び本文中に記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖2007年版」に基づいている。
- 9 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
 - 第1図 柏市都市計画課発行 1/2,500 都市地形図「11・17」(平成5年3月修正測量)を編集
 - 第6・8図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「流山」(平成22年8月)を編集
 - 第7図 地図史料福纂会編 明治前期 関東平野地誌図集成 1/25,000 「流山」を編集
- 10 図版1の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和48年撮影のものを使用した。
- 11 各表中の()は推定数値、< >は現存数値を表す。
- 12 セクション図・エレベーション図中の_±を付した破線は湧水点を表している。
- 13 中世から近世の出土遺物の挿図番号の表記は、中世陶磁器・土器は「中世」、近世陶磁器・土器は「近世」、土製品は「土」、石製品は「石」、鉄製品・製鉄関連遺物は「鉄」、銭貨は「銭」と略し、その後ろに通し番号を付した。
- 14 遺構や遺物の図面に使用したスクリーントーンの用例は次のとおりである。挿図中の「K」は搅乱の略である。また、縄文土器拓影図の断面図中に黒丸を付した遺物は、繊維が含まれていることを示している。

 焼　土

 骨粉

本文目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査の概要.....	1
1 調査に至る経緯と経過.....	1
2 調査の方法と概要.....	1
第2節 遺跡の位置と環境.....	9
1 遺跡の位置と地形.....	9
2 周辺の遺跡.....	10
第2章 調査の成果.....	25
第1節 遺跡の概要.....	25
第2節 旧石器時代.....	33
第3節 繩文時代.....	278
1 堅穴住居跡・堅穴状遺構.....	278
2 陥穴.....	291
3 その他の土坑.....	293
4 遺構外出土遺物.....	298
第4節 古墳時代.....	311
1 堅穴住居跡.....	311
2 土坑.....	311
3 遺物集中地點.....	311
4 溝.....	314
第5節 中世から近世.....	315
1 第I区.....	315
2 第II区.....	325
3 第III区.....	333
4 第3・11次調査地点	350
5 第27次調査地点	351
6 第25次調査地点	353
7 第17・26・33・34次調査地点	358
8 第31次調査地点	360
9 その他の調査地点.....	361
10 出土遺物.....	363
第3章 まとめ.....	400
報告書抄録.....	卷末

挿図目次

第1図 柏北部中央地区遺跡位置図	4	第30図 第3 ブロック出土遺物(4)	54
第2図 上層確認トレンチ配置		第31図 第3 ブロック出土遺物(5)	55
・本調査範囲(1)	5	第32図 第3 ブロック出土遺物(6)	56
第3図 上層確認トレンチ配置		第33図 第3 ブロック出土遺物(7)	57
・本調査範囲(2)	6	第34図 第3 ブロック出土遺物(8)	58
第4図 下層確認グリッド配置		第35図 第4 ブロック器種別分布図	60
・本調査範囲(1)	7	第36図 第4 ブロック石材別分布図	61
第5図 下層確認グリッド配置		第37図 第4 ブロック出土遺物	62
・本調査範囲(2)	8	第38図 第5 ブロック器種別分布図	64
第6図 屋敷内遺跡と周辺の遺跡	11	第39図 第5 ブロック石材別分布図	65
第7図 屋敷内遺跡と周辺の遺跡(迅速測図)	12	第40図 第5 ブロック出土遺物(1)	66
第8図 屋敷内遺跡及び周辺の遺跡と高田台牧		第41図 第5 ブロック出土遺物(2)	67
・上野牧	17	第42図 第5 ブロック出土遺物(3)	68
第9図 上層遺構分布(1)	30	第43図 第5 ブロック出土遺物(4)	69
第10図 上層遺構分布(2)	31	第44図 第5 ブロック出土遺物(5)	70
第11図 屋敷内遺跡下層全測図	32	第45図 第5 ブロック出土遺物(6)	71
第12図 屋敷内遺跡地質図	34	第46図 第5 ブロック出土遺物(7)	72
第13図 屋敷内遺跡土層柱状図	35	第47図 第5 ブロック出土遺物(8)	73
第14図 第1 ブロック器種別分布図	36	第48図 第5 ブロック出土遺物(9)	74
第15図 第1 ブロック石材別分布図	37	第49図 第5 ブロック出土遺物(10)	75
第16図 第1 ブロック出土遺物(1)	38	第50図 第5 ブロック出土遺物(11)	76
第17図 第1 ブロック出土遺物(2)	40	第51図 第5 ブロック出土遺物(12)	77
第18図 第1 ブロック出土遺物(3)	41	第52図 第5 ブロック出土遺物(13)	78
第19図 第2 ブロック器種別分布図	42	第53図 第5 ブロック出土遺物(14)	79
第20図 第2 ブロック石材別分布図	44	第54図 第5 ブロック出土遺物(15)	80
第21図 第2 ブロック出土遺物(1)	45	第55図 第5 ブロック出土遺物(16)	81
第22図 第2 ブロック出土遺物(2)	46	第56図 第5 ブロック出土遺物(17)	82
第23図 第2 ブロック出土遺物(3)	47	第57図 第5 ブロック出土遺物(18)	83
第24図 第2 ブロック出土遺物(4)	48	第58図 第5 ブロック出土遺物(19)	84
第25図 第3 ブロック器種別分布図	49	第59図 第5 ブロック出土遺物(20)	86
第26図 第3 ブロック石材別分布図	50	第60図 第6 ブロック器種別分布図	88
第27図 第3 ブロック出土遺物(1)	51	第61図 第6 ブロック石材別分布図	89
第28図 第3 ブロック出土遺物(2)	52	第62図 第6 ブロック出土遺物(1)	90
第29図 第3 ブロック出土遺物(3)	53	第63図 第6 ブロック出土遺物(2)	91

第64図	第6ブロック出土遺物(3).....	92	第101図	第17ブロック器種別分布図	136
第65図	第6ブロック出土遺物(4).....	93	第102図	第17ブロック石材別分布図	137
第66図	第6ブロック出土遺物(5).....	94	第103図	第17ブロック出土遺物(1)	138
第67図	第6ブロック出土遺物(6).....	95	第104図	第17ブロック出土遺物(2)	139
第68図	第6ブロック出土遺物(7).....	96	第105図	第18ブロック器種別分布図	141
第69図	第6ブロック出土遺物(8).....	97	第106図	第18ブロック石材別分布図	142
第70図	第6ブロック出土遺物(9).....	98	第107図	第18ブロック出土遺物(1)	143
第71図	第6ブロック出土遺物(10).....	99	第108図	第18ブロック出土遺物(2)	144
第72図	第7ブロック器種別分布図.....	102	第109図	第18ブロック出土遺物(3)	145
第73図	第7ブロック石材別分布図.....	103	第110図	第18ブロック出土遺物(4)	146
第74図	第7ブロック出土遺物(1).....	104	第111図	第18ブロック出土遺物(5)	147
第75図	第7ブロック出土遺物(2).....	105	第112図	第19ブロック器種別分布図	149
第76図	第8ブロック器種別・石材別分布図.....	107	第113図	第19ブロック石材別分布図	150
第77図	第8ブロック出土遺物.....	108	第114図	第19ブロック出土遺物(1)	151
第78図	第9ブロック器種別分布図.....	109	第115図	第19ブロック出土遺物(2)	152
第79図	第9ブロック石材別分布図.....	110	第116図	第20ブロック器種別分布図	153
第80図	第9ブロック出土遺物.....	111	第117図	第20ブロック石材別分布図	154
第81図	第10ブロック出土遺物.....	112	第118図	第20ブロック出土遺物(1)	155
第82図	第10ブロック器種別・石材別分布図.....	113	第119図	第20ブロック出土遺物(2)	156
第83図	第11ブロック器種別分布図.....	114	第120図	第20ブロック出土遺物(3)	157
第84図	第11ブロック石材別分布図.....	115	第121図	第21ブロック器種別	
第85図	第11ブロック出土遺物.....	116		・石材別分布図.....	158
第86図	第12ブロック器種別分布図.....	117	第122図	第21ブロック出土遺物	159
第87図	第12ブロック石材別分布図.....	118	第123図	第22ブロック器種別	
第88図	第12ブロック出土遺物(1).....	119		・石材別分布図.....	160
第89図	第12ブロック出土遺物(2).....	120	第124図	第22ブロック出土遺物	161
第90図	第13ブロック器種別・石材別分布図.....	122	第125図	第23ブロック器種別分布図	162
第91図	第13ブロック出土遺物.....	123	第126図	第23ブロック石材別分布図	163
第92図	第14ブロック器種別分布図.....	124	第127図	第23ブロック出土遺物(1)	164
第93図	第14ブロック石材別分布図.....	125	第128図	第23ブロック出土遺物(2)	165
第94図	第14ブロック出土遺物.....	126	第129図	第23ブロック出土遺物(3)	166
第95図	第15ブロック器種別分布図.....	128	第130図	第24ブロック器種別	
第96図	第15ブロック石材別分布図.....	129		・石材別分布図.....	167
第97図	第15ブロック出土遺物.....	130	第131図	第24ブロック出土遺物	168
第98図	第16ブロック器種別分布図.....	132	第132図	第25ブロック器種別分布図	169
第99図	第16ブロック石材別分布図.....	133	第133図	第25ブロック石材別分布図	170
第100図	第16ブロック出土遺物	134	第134図	第25ブロック出土遺物(1)	171

第135図	第25ブロック出土遺物(2)	172	第171図	第33ブロック器種別分布図	212
第136図	第25ブロック出土遺物(3)	173	第172図	第33ブロック石材別分布図	213
第137図	第25ブロック出土遺物(4)	174	第173図	第33ブロック出土遺物(1)	214
第138図	第26ブロック器種別分布図	175	第174図	第33ブロック出土遺物(2)	215
第139図	第26ブロック石材別分布図	176	第175図	第33ブロック出土遺物(3)	216
第140図	第26ブロック出土遺物(1)	177	第176図	第33ブロック出土遺物(4)	217
第141図	第26ブロック出土遺物(2)	178	第177図	第33ブロック出土遺物(5)	218
第142図	第27ブロック器種別分布図	180	第178図	第33ブロック出土遺物(6)	219
第143図	第27ブロック石材別分布図	181	第179図	第33ブロック出土遺物(7)	220
第144図	第27ブロック出土遺物(1)	182	第180図	第33ブロック出土遺物(8)	221
第145図	第27ブロック出土遺物(2)	183	第181図	第33ブロック出土遺物(9)	222
第146図	第27ブロック出土遺物(3)	184	第182図	第33ブロック出土遺物(10)	223
第147図	第27ブロック出土遺物(4)	185	第183図	第33ブロック出土遺物(11)	224
第148図	第27ブロック出土遺物(5)	186	第184図	第33ブロック出土遺物(12)	225
第149図	第27ブロック出土遺物(6)	187	第185図	第34ブロック器種別分布図	226
第150図	第27ブロック出土遺物(7)	188	第186図	第34ブロック石材別分布図	227
第151図	第27ブロック出土遺物(8)	189	第187図	第34ブロック出土遺物(1)	228
第152図	第28ブロック器種別分布図	191	第188図	第34ブロック出土遺物(2)	229
第153図	第28ブロック石材別分布図	192	第189図	第34ブロック出土遺物(3)	230
第154図	第28ブロック出土遺物(1)	193	第190図	第34ブロック出土遺物(4)	231
第155図	第28ブロック出土遺物(2)	194	第191図	第34ブロック出土遺物(5)	233
第156図	第28ブロック出土遺物(3)	195	第192図	第35ブロック器種別分布図	234
第157図	第28ブロック出土遺物(4)	196	第193図	第35ブロック石材別分布図	235
第158図	第29ブロック器種別 ・石材別分布図	197	第194図	第35ブロック出土遺物(1)	236
第159図	第29ブロック出土遺物	198	第195図	第35ブロック出土遺物(2)	238
第160図	第30ブロック器種別分布図	199	第196図	第35ブロック出土遺物(3)	239
第161図	第30ブロック石材別分布図	200	第198図	第35ブロック出土遺物(5)	241
第162図	第30ブロック出土遺物	201	第199図	第35ブロック出土遺物(6)	242
第163図	第31ブロック器種別分布図	203	第200図	第35ブロック出土遺物(7)	243
第164図	第31ブロック石材別分布図	204	第201図	単独出土遺物(1)	245
第165図	第31ブロック出土遺物(1)	205	第202図	単独出土遺物(2)	246
第166図	第31ブロック出土遺物(2)	206	第203図	単独出土遺物(3)	247
第167図	第31ブロック出土遺物(3)	207	第204図	(13) SI-001	279
第168図	第32ブロック器種別分布図	209	第205図	(16) SI-001	280
第169図	第32ブロック石材別分布図	210	第206図	(16) SI-002	282
第170図	第32ブロック出土遺物	211	第207図	(16) SI-003	283

第208図	(16) SI-004	284	第235図	第Ⅲ区掘立柱建物跡・柱穴列	336
第209図	(21) SI-001(1)	285	第236図	第Ⅲ区掘立柱建物跡断面	337
第210図	(21) SI-001(2)	286	第237図	第Ⅲ区地下式坑・井戸(1)	340
第211図	(26) SI-001	288	第238図	第Ⅲ区井戸(2)・火葬遺構	
第212図	(26) SI-002	289		・土坑(1)	343
第213図	(33) SX-001	290	第239図	第Ⅲ区土坑(2)	345
第214図	(21) SK-001	292	第240図	第Ⅲ区土坑・溝断面	349
第215図	(26) SK-001・(32) SK-004 ・(33) SX-002	294	第241図	(3) SD-001・(11) SD-001	351
第216図	(16) SK-001～009	296	第242図	(27) SK-001(火葬遺構)～004 ・SD-001	352
第217図	(3) SK-029・(32) SK-002 ・(22) ピット群	298	第243図	(25) SK-001～008・SD-001～003	354
第218図	第22次調査地点出土土器	300	第244図	(25) SK-003・006(井戸)、SK-002 ・004・005(土坑)	356
第219図	その他の調査地点 出土縄文土器(1)	302	第245図	(17) SD-001、(26) SK-002・SD-001、 (33) SD-001、(34) SD-001～003	359
第220図	その他の調査地点 出土縄文土器(2)	303	第246図	(31) 野馬土手・野馬堀・溝	362
第221図	その他の調査地点 出土縄文土器(3)	304	第247図	中世陶磁器・土器(1)	365
第222図	その他の縄文時代石器(1)	308	第248図	中世陶磁器・土器(2)	367
第223図	その他の縄文時代石器(2)	309	第249図	中世陶磁器・土器(3)	368
第224図	(32) SI-001・SK-003	312	第250図	土製品	371
第225図	(32) SX-001・SD-001・遺構配置	313	第251図	石製品(1)	373
第226図	第1・8・14・15・19次調査地点 中世～近世遺構配置	316	第252図	石製品(2)	374
第227図	第I区遺構配置	317	第253図	石製品(3)	375
第228図	第I区掘立柱建物跡・柱穴列	319	第254図	石製品(4)	376
第229図	第I区地下式坑・井戸	321	第255図	石製品(5)	378
第230図	第I区火葬遺構・土坑	323	第256図	鉄製品・製鉄関連遺物(1)	378
第231図	第II区遺構配置	326	第257図	鉄製品・製鉄関連遺物(2)	379
第232図	第II区地下式坑・井戸・土坑	329	第258図	銭貨(1)	380
第233図	第II区(6) SD-030 ・(15) SD-001断面	332	第259図	銭貨(2)	381
第234図	第III区遺構配置	334	第260図	縄文時代遺構分布	402
			第261図	中世～近世遺構分布	404
			第262図	第1・8・14・15・19次調査地点中世～ 近世II遺構分布	406

表 目 次

第1表 屋敷内遺跡(1)～(34)調査一覧表	2	第27表 第21ブロック石器組成表	159
第2表 周辺の遺跡概要一覧表	21	第28表 第22ブロック石器組成表	161
第3表 堅穴住居跡・堅穴状遺構一覧表	25	第29表 第23ブロック石器組成表	166
第4表 掘立柱建物跡・柱穴列一覧表	26	第30表 第24ブロック石器組成表	168
第5表 地下式坑・井戸・火葬遺構		第31表 第25ブロック石器組成表	174
・土坑一覧表	26	第32表 第26ブロック石器組成表	179
第6表 溝一覧表	29	第33表 第27ブロック石器組成表	190
第7表 第1ブロック石器組成表	39	第34表 第28ブロック石器組成表	196
第8表 第2ブロック石器組成表	43	第35表 第29ブロック石器組成表	198
第9表 第3ブロック石器組成表	59	第36表 第30ブロック石器組成表	202
第10表 第4ブロック石器組成表	61	第37表 第31ブロック石器組成表	208
第11表 第5ブロック石器組成表	85	第38表 第32ブロック石器組成表	211
第12表 第6ブロック石器組成表	100	第39表 第33ブロック石器組成表	225
第13表 第7ブロック石器組成表	106	第40表 第34ブロック石器組成表	233
第14表 第8ブロック石器組成表	108	第41表 第35ブロック石器組成表	244
第15表 第9ブロック石器組成表	112	第42表 旧石器時代石器属性表	248
第16表 第10ブロック石器組成表	112	第43表 (22) ピット群計測表	298
第17表 第11ブロック石器組成表	116	第44表 繩文時代石器属性表	310
第18表 第12ブロック石器組成表	121	第45表 第32次調査地点土器観察表	314
第19表 第13ブロック石器組成表	123	第46表 中世陶磁器・土器観察表	382
第20表 第14ブロック石器組成表	127	第47表 近世陶磁器・土器観察表	383
第21表 第15ブロック石器組成表	131	第48表 土製品観察表	386
第22表 第16ブロック石器組成表	135	第49表 石製品観察表	386
第23表 第17ブロック石器組成表	140	第50表 鉄製品・製鉄関連遺物観察表	387
第24表 第18ブロック石器組成表	148	第51表 銭貨計測表	387
第25表 第19ブロック石器組成表	152	第52表 遺構別主要遺物観察表	388
第26表 第20ブロック石器組成表	157	第53表 遺構別出土遺物一覧表	396

図版目次

図版1	屋敷内遺跡周辺航空写真	図版11	(26) SI-002 (33) SX-001
図版2	(2)～(4) (6) (11) (16) (18) 確認トレ ンチ	図版12	(33) SX-001 (21) SK-001 (32) SK-004
図版3	(22) (25) (26) (29) (32)～(34) 確認トレンチ	図版13	(33) SX-002 (3) SK-029 (16) SK-001 (16) SK-002 (16) SK-003 (16) SK-004 (16) SK-005
図版4	第1～3ブロック(南西から) 第4～7ブロック(東から) 第8ブロック(南東から) 第9ブロック(南西から) 第11ブロック(南から) 第12ブロック(南東から) 第14ブロック(北西から) 第15ブロック(南西から)	図版14	(32) SK-002 (22) ピット群 (22) 集中地点A (22) 集中地点B (22) 集中地点C
図版5	第16ブロック(北から) 第17ブロック(南から) 第18ブロック(南東から) 第19ブロック(北から) 第20ブロック(東から) 第21ブロック(南から) 第23ブロック(西から) 第24ブロック(南東から)	図版15	(32) SI-001
図版6	第25ブロック(南東から) 第26ブロック(東から) 第27・28ブロック(南から) 第29ブロック(北から) 第30ブロック(西から) 第31ブロック(北東から) 第32・33・35ブロック(北西から) 第34ブロック(北から)	図版16	(32) SD-001 (32) SK-003 (32) SX-001
図版7	(13) SI-001 (16) SI-001	図版17	第I区西側全景 第I区東側全景
図版8	(16) SI-002 (16) SI-003	図版18	第I区西側北部全景 第I区西側南部全景
図版9	(16) SI-004 (16) 遺構群 (16) SI-002 (21) SI-001	図版19	第I区東側北部全景 第I区東側南部全景
図版10	(21) SI-001 (26) SI-001	図版20	第I区北西側全景 (1) SK-003 (14) SK-015 (1) SK-015 (1) SK-020 · 022
		図版21	第II区(15) A区全景 第II区(15) A区北 側 第II区(15) A区南側 (15) SK-016 (15) SK-003
		図版22	第II区(14) C区全景 第II区(14) D区全景
		図版23	(14) SK-004 (14) SD-009 第II区(8) 全 景 (8) SD-001 (6) SD-030
		図版24	第III区(14) A区全景 第III区(14) B区全景
		図版25	(14) SD-003 · 005 · SK-003 (14) SD-005 (14) SK-010 (14) SK-016 (14) SD-008 · SK-010 第III区(14) F区全景
		図版26	(14) F区全景 (14) SK-017 (14) SK-018 (14) SK-019 (14) SK-020 (14) SD-013 第III区(15) 据立柱建物跡・柱穴列
		図版27	第III区(15) B区南側全景 第III区(15) B区 北側全景
		図版28	(15) SE-001 (15) SE-003 第III区(15) C区西側全景 (15) SE-002 (15) SE-004

図版29	第Ⅲ区(15)C区東側全景 (15)SK-004 (15)SK-006 (15)SK-017 (15)SK-018	図版52 第5ブロック出土遺物(2)
図版30	(15)SK-019 (15)SK-020・022 (15)SK-021 (15)SK-023 第Ⅲ区(19)IW区全景	図版53 第5ブロック出土遺物(3)
図版31	第Ⅲ区(19)IW区全景 第Ⅲ区(19)II区全景	図版54 第5ブロック出土遺物(4)
図版32	第Ⅲ区(19)II区全景 第Ⅲ区(19)III区全景	図版55 第5ブロック出土遺物(5)
図版33	第Ⅲ区(19)III区全景 (19)SK-001・011・012・026 (19)SK-025 (19)SE-001・SK-005 (19)SE-002・SK-002	図版56 第5ブロック出土遺物(6)
図版34	(11)SD-001 (27)SD-001 (27)SD-001・SK-001～004 (27)SK-001 (27)SK-002	図版57 第5ブロック出土遺物(7)
図版35	(27)SK-003 (27)SK-004 (25)SK-001 (25)SK-002 (25)SK-003 (25)SK-004 (25)SK-005 (25)SK-006	図版58 第5ブロック出土遺物(8)
図版36	(25)SK-007 (25)SD-001 (25)SD-002 (25)SD-003 (17)SD-001	図版59 第5ブロック出土遺物(9)
図版37	(17)SD-001西側 (33)SD-001	図版60 第5ブロック出土遺物(10)
図版38	(33)SD-001 (26)SK-001・SD-001 (26)SK-002 (34)SD-003	図版61 第5ブロック出土遺物(11)
図版39	(34)SD-001 (34)SD-002 (31)SD-001 (31)SD-002 (31)SD-003	図版62 第5ブロック出土遺物(12)
図版40	第1ブロック出土遺物(1)	図版63 第5ブロック出土遺物(13)
図版41	第1ブロック出土遺物(2)	図版64 第5ブロック出土遺物(14)
図版42	第2ブロック出土遺物(1)	図版65 第5ブロック出土遺物(15)
図版43	第2ブロック出土遺物(2)	図版66 第5ブロック出土遺物(16)
図版44	第2ブロック出土遺物(3)	図版67 第5ブロック出土遺物(17)
図版45	第3ブロック出土遺物(1)	図版68 第5ブロック出土遺物(18)
図版46	第3ブロック出土遺物(2)	図版69 第5ブロック出土遺物(19)
図版47	第3ブロック出土遺物(3)	第6ブロック出土遺物(1)
図版48	第3ブロック出土遺物(4)	図版70 第6ブロック出土遺物(2)
図版49	第3ブロック出土遺物(5)	図版71 第6ブロック出土遺物(3)
図版50	第3ブロック出土遺物(6) 第4ブロック出土遺物(1)	図版72 第6ブロック出土遺物(4)
図版51	第4ブロック出土遺物(2) 第5ブロック出土遺物(1)	図版73 第6ブロック出土遺物(5)
		図版74 第6ブロック出土遺物(6)
		図版75 第6ブロック出土遺物(7)
		図版76 第6ブロック出土遺物(8)
		図版77 第6ブロック出土遺物(9)
		図版78 第7ブロック出土遺物(1)
		図版79 第7ブロック出土遺物(2)
		第8ブロック出土遺物
		第9ブロック出土遺物(1)
		図版80 第9ブロック出土遺物(2)
		第10ブロック出土遺物
		第11ブロック出土遺物
		図版81 第12ブロック出土遺物(1)
		図版82 第12ブロック出土遺物(2)
		第13ブロック出土遺物

	第14ブロック出土遺物(1)	図版111	第28ブロック出土遺物(5)
図版83	第14ブロック出土遺物(2)		第29ブロック出土遺物
	第15ブロック出土遺物		第30ブロック出土遺物(1)
図版84	第16ブロック出土遺物	図版112	第30ブロック出土遺物(2)
図版85	第17ブロック出土遺物(1)		第31ブロック出土遺物(1)
図版86	第17ブロック出土遺物(2)	図版113	第31ブロック出土遺物(2)
図版87	第18ブロック出土遺物(1)	図版114	第31ブロック出土遺物(3)
図版88	第18ブロック出土遺物(2)	図版115	第32ブロック出土遺物
図版89	第18ブロック出土遺物(3)		第33ブロック出土遺物(1)
図版90	第18ブロック出土遺物(4)	図版116	第33ブロック出土遺物(2)
図版91	第19ブロック出土遺物(1)	図版117	第33ブロック出土遺物(3)
図版92	第19ブロック出土遺物(2)	図版118	第33ブロック出土遺物(4)
	第20ブロック出土遺物(1)	図版119	第33ブロック出土遺物(5)
図版93	第20ブロック出土遺物(2)	図版120	第33ブロック出土遺物(6)
図版94	第21ブロック出土遺物	図版121	第33ブロック出土遺物(7)
	第22ブロック出土遺物	図版122	第33ブロック出土遺物(8)
	第23ブロック出土遺物(1)	図版123	第33ブロック出土遺物(9)
図版95	第23ブロック出土遺物(2)	図版124	第33ブロック出土遺物(10)
図版96	第23ブロック出土遺物(3)	図版125	第33ブロック出土遺物(11)
	第24ブロック出土遺物	図版126	第33ブロック出土遺物(12)
	第25ブロック出土遺物(1)	図版127	第33ブロック出土遺物(13)
図版97	第25ブロック出土遺物(2)		第34ブロック出土遺物(1)
図版98	第25ブロック出土遺物(3)	図版128	第34ブロック出土遺物(2)
図版99	第25ブロック出土遺物(4)	図版129	第34ブロック出土遺物(3)
	第26ブロック出土遺物(1)	図版130	第34ブロック出土遺物(4)
図版100	第26ブロック出土遺物(2)	図版131	第34ブロック出土遺物(5)
図版101	第27ブロック出土遺物(1)		第35ブロック出土遺物(1)
図版102	第27ブロック出土遺物(2)	図版132	第35ブロック出土遺物(2)
図版103	第27ブロック出土遺物(3)	図版133	第35ブロック出土遺物(3)
図版104	第27ブロック出土遺物(4)	図版134	第35ブロック出土遺物(4)
図版105	第27ブロック出土遺物(5)	図版135	第35ブロック出土遺物(5)
図版106	第27ブロック出土遺物(6)	図版136	第35ブロック出土遺物(6)
図版107	第27ブロック出土遺物(7)	図版137	第35ブロック出土遺物(7)
	第28ブロック出土遺物(1)		単独出土遺物(1)
図版108	第28ブロック出土遺物(2)	図版138	単独出土遺物(2)
図版109	第28ブロック出土遺物(3)	図版139	単独出土遺物(3)
図版110	第28ブロック出土遺物(4)	図版140	(13) SI-001出土遺物

- | | | |
|-------|-------------------|-------------------|
| | (16) SI-001出土遺物 | (32) SI-001出土遺物 |
| | (16) SI-002出土遺物 | (32) SX-001出土遺物 |
| | (16) SI-003出土遺物 | |
| 図版141 | (16) SI-004出土遺物 | 図版148 中世陶磁器・土器(1) |
| | (21) SI-001出土遺物 | 図版149 中世陶磁器・土器(2) |
| | (26) SI-001出土遺物 | 土製品 |
| | (26) SI-002出土遺物 | 図版150 近世陶磁器・土器(1) |
| 図版142 | (26) SI-002出土遺物 | 図版151 近世陶磁器・土器(2) |
| | (21) SK-001出土遺物 | 図版152 近世陶磁器・土器(3) |
| | (26) SK-001出土遺物 | 図版153 近世陶磁器・土器(4) |
| | (16) SK-003出土遺物 | 図版154 近世陶磁器・土器(5) |
| | (16) SK-006出土遺物 | 図版155 近世陶磁器・土器(6) |
| | (3) SK-029出土遺物 | 図版156 近世陶磁器・土器(7) |
| 図版143 | 第22次調査地点出土土器 | 図版157 近世陶磁器・土器(8) |
| | その他の調査地点出土縄文土器(1) | 図版158 石製品(板碑) |
| 図版144 | その他の調査地点出土縄文土器(2) | 図版159 石製品(石臼) |
| 図版145 | その他の調査地点出土縄文土器(3) | 図版160 石製品(砥石) |
| 図版146 | その他の縄文時代石器(1) | 図版161 鉄製品・製鉄関連遺物 |
| 図版147 | その他の縄文時代石器(2) | 図版162 銭貨(1) |
| | | 図版163 銭貨(2) |

第1章 はじめに

第1節 調査の概要(第1～5図・第1表)

1 調査に至る経緯と経過

千葉県企業庁は、つくばエクスプレス(旧・常磐新線)の建設に関連して柏北部中央地区一体型土地区画整理事業を計画した。この計画の実施に先立って、平成7年5月に事業地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会に提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成9年3月に事業地内には埋蔵文化財の包蔵地12か所(面積483,480m²)が所在する旨的回答を行った。この回答に基づき、埋蔵文化財の取扱いについて千葉県企業庁、千葉県教育委員会、柏市教育委員会の関係諸機関による協議を行った結果、可能な限り緑地として現状保存を図る一方、事業の性格上、現状保存及び計画変更が困難な地点については、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなつた。発掘調査は千葉県企業庁(平成18年度からは千葉県県土整備部)の委託を受け財團法人千葉県文化財センター(現・公益財團法人千葉県教育振興財團)が実施することとなつた。なお、平成25年度からは県事業に係る発掘調査について県教育委員会が実施することとなつた。

屋敷内遺跡については、平成21・22年度に調査対象範囲が追加され、合計163,490m²のうち用地を確保できた地点から順次発掘調査を行うこととなり、平成12年度から発掘調査を実施し、平成28年度末で第37次調査地点(面積105,809.1m²)まで終了している。今回報告する内容は、第1次調査地点から平成24年度に実施した第34次調査地点までの合計102,269.2m²を対象としており、基礎整理である水洗注記作業は発掘調査と並行して実施し、平成26年度から本格的な整理作業を実施することとなり、令和2年度に発掘調査報告書を刊行する運びとなつた¹¹。

各年度の調査組織及び担当者・期間・内容は第2～5図及び第1表のとおりである。

2 調査の方法と概要

発掘調査に当たっては、柏北部中央地区事業地全体を網羅するように日本測地系(第IX座標系)の公共座標に基づくグリッド設定を行った。グリッドの基準はX=-10500、Y=10000を起点とし、40m×40mの方眼網を設定し、大グリッドとした。名称は北から南へ1・2・3…、西から東へA・B・C…とし、Z以降はAA・BB・CC…と表記することとした。屋敷内遺跡は9U大グリッド(北端X=-10820、西端Y=10800)から29II大グリッド(南端X=-11660、東端Y=11400)の範囲の中に北西から南東にかけて長細い形で所在する。大グリッドは更に4m×4mの小グリッドに100分割し、北西隅を00、南東隅を99とした。大グリッドと小グリッドを組み合わせて、屋敷内遺跡では11X-03や23FF-77などと呼称した。

上層の確認調査は重機を使用し、調査対象面積の10%を目安に、調査区の形状や地形に合わせて2m幅の確認トレッチを設定した。ただし、調査対象面積が1,000m²以下で、調査の効率的な進捗が見込める場合は、100%確認調査を実施した。確認調査の結果、遺構が複数検出され、遺構の広がりが想定される地点を本調査範囲とし、本調査は重機で表土を除去し、包含層・遺構検出・精査・記録作成・写真作成、遺物取上げなどの作業を行つた。ただし、遺構が単独で検出された場合や遺構の分布が散漫な場合は、その周辺を拡張して遺構の精査・記録作成などを実施し、確認調査で終了した。下層の確認調査は、まず調査

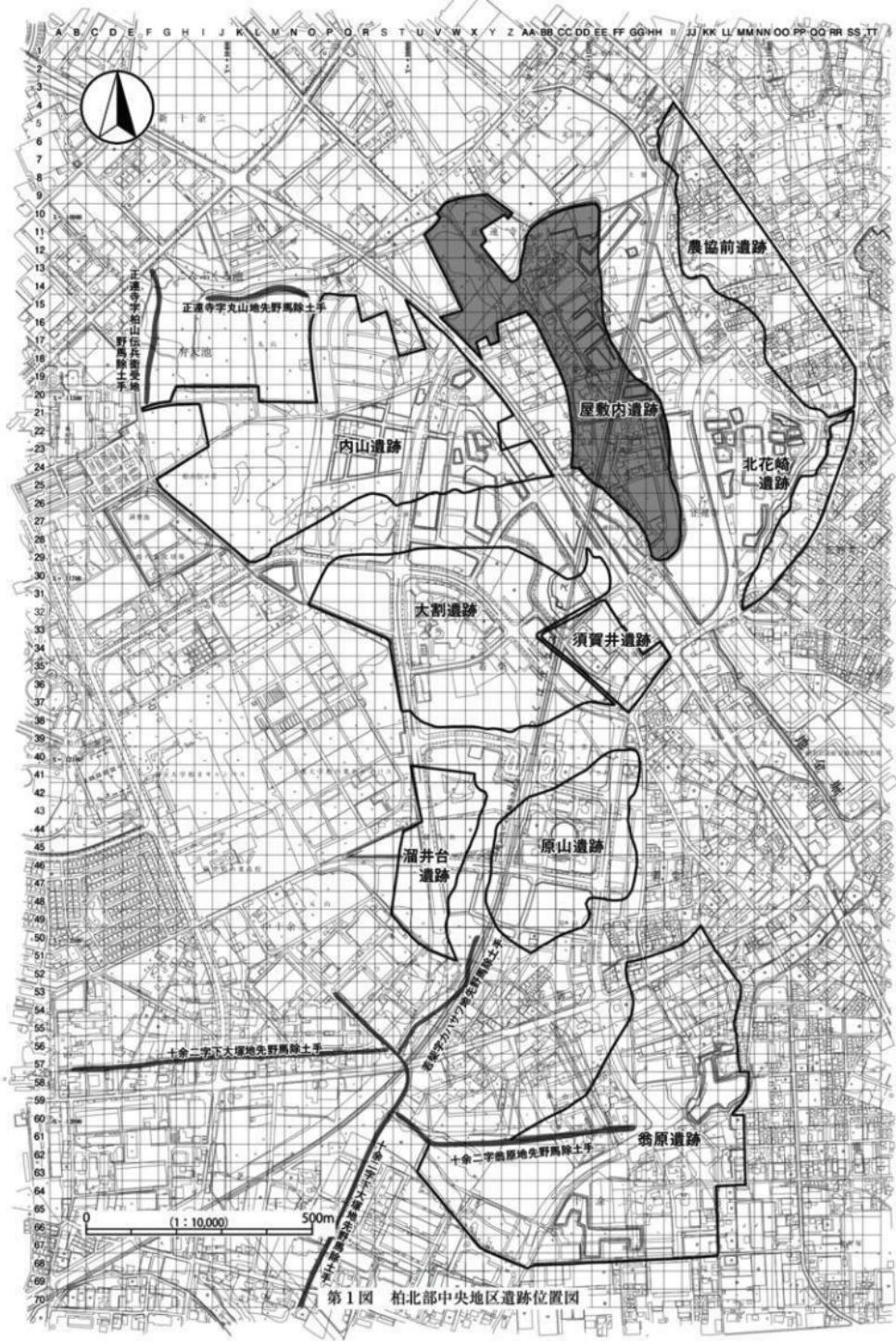
第1表 屋敷内遺跡(1)～(34)調査一覧表
〔発掘調査〕

調査地点	年度	事業名	調査期間	調査体制		担当者	対象面積	確認調査		本調査	上層	下層		
								上層	下層					
				確認面積/対象面積	確認面積/対象面積			確認面積/対象面積	確認面積/対象面積					
(1)	平成12	柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託	2000.9.11～ 2000.10.31	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 沢澤 雄 所長 佐川淳一	研究員 沖松信隆	1,146	284／1,146	24／1,146	1,146	0		
(2)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その2)	2002.5.1	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 喜木 騰 所長 田坂 浩	上席研究員 久高博勝	2,244	220／2,244	32／2,244	0	0		
(3)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その3)	2002.8.1 ～ 2002.9.9	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 喜木 騰 所長 田坂 浩	上席研究員 森合卓雄	1,548.41	308／1,548.41	36／1,548.41	0	0		
(4)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その3)	2002.9.10 ～ 2002.13	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 喜木 騰 所長 田坂 浩	上席研究員 森合卓雄	1,267	124／1,267	—／—	0	0		
(5)	平成14	柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その3)	2002.9.17 ～ 2002.9.30	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 喜木 騰 所長 田坂 浩	上席研究員 森合卓雄	157	42／157	23／157	0	0		
(6)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その4)	2002.10.1 ～ 2002.11.20	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 喜木 騰 所長 田坂 浩	上席研究員 森合卓雄	3,300	376／3,300	160／3,300	0	0		
(7)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その4)	2003.3.19 ～ 2003.22	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 喜木 騰 所長 田坂 浩	上席研究員 森合卓雄	288	32／288	16／288	0	0		
(8)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その4)	2003.3.31 ～ 2003.3.26	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 喜木 騰 所長 田坂 浩	上席研究員 久高博勝	664	242／664	24／664	0	0		
(9)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その4)	2003.5.6 ～ 2003.5.8	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 喜木 騰 所長 田坂 浩	柏北審査長 川島利道	313	30／313	—／—	0	0		
(10)	平成15	柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託	2003.9.22 ～ 2003.10.14	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 喜木 騰 所長 田坂 浩	柏北調査室長 川島利道	657	64／657	24／657	0	0		
(11)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託	2004.1.12 ～ 2004.2.27	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 喜木 騰 所長 田坂 浩	柏北審査長 川島利道	2,066	230／2,066	24／2,066	0	0		
(12)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その1)	2004.6.1 ～ 2004.6.30	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 田坂 浩	柏北調査室長 川島利道	826	826／826	68／826	0	266		
(13)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その2)	2004.12.6 ～ 2004.12.22	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 田坂 浩	柏北審査長 川島利道	1,907.79	238／1,907.79	140／1,907.79	0	630		
(14)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その1)	2005.6.1 ～ 2005.8.31	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 田坂 浩	柏北調査室長 川島利道	3,478	508／3,478	228／3,478	374	792		
(15)		柏北都中央地区埋蔵文化財調査委託(その3)	2006.2.1 ～ 2006.3.27	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 田坂 浩	柏北審査長 川島利道	2,531	256／2,531	64／2,531	375	0		
(16)	平成18	公営つくばシステムの施設整備委託(埋蔵文化財調査)	2006.6.16 ～ 2006.8.8	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 田坂 浩	上席研究員 山岸潤一郎	6,300	579／6,300	178／6,300	370	90		
(17)		公営つくばシステムの施設整備委託(埋蔵文化財調査)	2007.6.1 ～ 2007.8.10	財団法人千葉県 教育振興財團	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 佐川淳一	上席研究員 西尾龍太郎	13,762	1,362／13,762	400／13,762	0	352		
(18)		公営つくばシステムの施設整備委託(埋蔵文化財調査)	2007.6.1 ～ 2007.7.30	財団法人千葉県 教育振興財團	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 佐川淳一	上席研究員 鈴生一夫	7,340	730／7,340	216／7,340	0	360		
(19)	平成19	公営つくばシステムの施設整備委託(埋蔵文化財調査)	2007.11.19 ～ 2007.12.19	財団法人千葉県 教育振興財團	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 佐川淳一	上席研究員 鈴生一夫	958	180／958	20／958	340	0		
(20)		公営つくばシステムの施設整備委託(埋蔵文化財調査)	2008.3.10 ～ 2008.3.18	財団法人千葉県 教育振興財團	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 佐川淳一	上席研究員 鈴生一夫	900	90／900	24／900	0	0		
(21)		公営つくばシステムの施設整備委託(埋蔵文化財調査その2)	2008.4.14 ～ 2008.5.27	財団法人千葉県 教育振興財團	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 沖松信隆	1,440	184／1,440	85／1,440	0	337		
(22)	平成20	公営つくばシステムの施設整備委託(埋蔵文化財調査その3)	2009.3.2 ～ 2009.3.24	財団法人千葉県 教育振興財團	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 川島利道	6,890	582／6,890	112／6,890	0	0		

調査場所	年度	事業名	調査期間	調査体制	担当者	対象面積	確認調査		本調査		
							上層	下層	確認面積/対象面積	確認面積/対象面積	
							上層	下層			
(23)		公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査)	2009.1.6 ～ 2009.5.21	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 課長 桥本勝郎	主査研究員 田島利道	4,978	502 / 4,978	212 / 4,978	0 / 724
(24)		公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査)	2009.7.1 ～ 2009.7.30	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	上席研究員 鶴見雄二	2,947	228 / 2,947	80 / 2,047	0 / 321
(25)	平成21	公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査)	2009.11.5 ～ 2009.12.22	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	3,285	354 / 3,285	72 / 3,285	1,499 / 0
(26)		公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査)	2010.1.5 ～ 2010.2.22	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	5,825	260 / 5,825	102 / 5,825	176 / 541
(27)		公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査)	2010.2.23 ～ 2010.3.18	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	4,742	390 / 4,742	144 / 4,742	366 / 336
(28)		公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査その2)	2010.6.21 ～ 2010.6.25	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	4,000	400 / 4,000	80 / 4,000	0 / 0
(29)	平成22	公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査)	2010.7.1 ～ 2010.7.9	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	380	380 / 380	8 / 380	0 / 0
(30)		公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査)	2010.7.22 ～ 2010.8.23	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	1,470	148 / 1,470	80 / 1,470	0 / 208
(31)	平成23	公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査その2)	2011.6.6 ～ 2011.7.25	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	3,580	332 / 3,580	148 / 3,580	0 / 162
(32)		公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査その1)	2012.6.1 ～ 2012.8.31	財団法人千葉県 教育振興財団	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	5,209	540 / 5,209	358 / 5,209	560 / 1,080
(33)	平成24	公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査その2)	2012.9.3 ～ 2012.10.10	財団法人千葉県 教育振興財団	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	4,467	200 / 4,467	12 / 4,467	810 / 0
(34)		公共つくばエコストアレス沿線整備委託(環境文化財調査その3)	2013.2.1 ～ 2013.3.15	財団法人千葉県 教育振興財団	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	調査研究部長 及川淳一 主査研究員 田島利道	主査研究員 田島利道	2,083	634 / 2,083	80 / 2,083	0 / 0
合計							102,269.20	11,755 / 102,269.20	3,274 / 100,689.20	6,416 / 6,199	

【整理作業】

調査点	年度	事業名	調査期間	調査体制	担当者	内 容	
(1)	平成12 ～ 24	北西部中央地区里地文化財調査委託ほか	財団法人千葉県 文化振興センター ほか	西部調査 事務所 長 田嶋 雄 橋本勝郎 ほか	調査部長 森木 勝 課長 田嶋 雄 橋本勝郎 ほか	本洗・注記	
(33)	平成26	北西部中央地区土地 区间整備事業(環境文化財調査)	2014.1.1 ～ 2015.3.31	千葉県教育厅 教育振興部 文化財課	発掘調査課 課長 木浦律郎 副長 鮎川幸之	主任上席文化財主事 萩谷章雄	記録整理の一部～分類の一部まで
(34)	平成27	北西部中央地区土地 区间整備事業(環境文化財調査)	2015.4.1 ～ 2016.3.31	千葉県教育厅 教育振興部 文化財課	発掘調査課 課長 木浦律郎 副長 鮎川幸之	主任上席文化財主事 田島 新 主任上席文化財主事 岩田浩司	記録整理の一部～実調、トレスの一部まで
(1)	～ 34)	北西部中央地区土地 区间整備事業(環境文化財調査)	2016.4.1 ～ 2017.3.31	千葉県教育厅 教育振興部 文化財課	発掘調査課 課長 木浦律郎 副長 井川知二	主任上席文化財主事 田島 新 主任上席文化財主事 小澤政彦	本洗、注記の一部～実調、トレスの一部まで
(1)	～ 34)	北西部中央地区土地 区间整備事業(環境文化財調査)	2017.4.1 ～ 2018.3.31	千葉県教育厅 教育振興部 文化財課	発掘調査課 課長 萩谷章雄 副長 山田貴久	主任上席文化財主事 萩谷章雄 文化財主事 小澤政彦	実調、トレスの一一部～持続化の一部まで
(1)	～ 34)	北西部中央地区土地 区间整備事業(環境文化財調査)	2018.4.1 ～ 2019.3.31	千葉県教育厅 教育振興部 文化財課	発掘調査課 課長 古賀弘志 副長 山田貴久	主任上席文化財主事 萩谷章雄 主任上席文化財主事 金丸 誠 文化財主事 川原耕平 文化財主事 小澤政彦	実調、トレスの一一部～双軸執筆の一部まで
令和2	～	北西部中央地区土地 区间整備事業(環境文化財調査)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	千葉県教育厅 教育振興部 文化財課	発掘調査課 課長 大森千尋	主任上席文化財主事 萩谷章雄 主任上席文化財主事 金丸 誠	双軸執筆、編集の一一部まで
令和2	～	北西部中央地区土地 区间整備事業(環境文化財調査)	2020.4.1 ～ 2021.3.31	千葉県教育厅 教育振興部 文化財課	発掘調査課 課長 田中文昭 副長 大内千尋	主任上席文化財主事 萩谷章雄 主任上席文化財主事 金丸 誠	双軸執筆、報告書作成まで



第1図 柏北部中央地区遺跡位置図

第2図 上層確認トレーンチ配置・本調査範囲(1)





第4図 下層確認グリッド配置・本調査範囲(1)





第5図 下層確認グリッド配置・本調査範囲(2)

対象面積の2%を目安に2m×2mの確認グリッドを設定した。石器が出土した場合は、出土地点の周辺に確認グリッドを追加し、または確認グリッドを拡張し石器の広がりを捉えて本調査範囲とした。ただし、上層確認調査と同様に確認グリッドを追加又は拡張したが、更に石器の分布の広がりが認められなかつた場合は、精査・記録作成などを実施し、確認調査で終了した。本調査は重機で表土から石器が出土した層位に影響を及ぼさない深さまでローム層を除去し、石器集中地点の精査、記録作成、写真撮影、遺物取上げなどの作業を行つた。なお、遺跡の北側と東側に当たる第2・4・6・9・11・13~18・22・26・32・33次調査地点は低地に面しており、特に低地に近い場所では現表土面から0.6m~1.1mの深さで湧水があり、上層及び下層確認調査を実施することはできなかつた。

記録作成のうち全体図や遺構平面図などの実測図面は平板測量で行つたが、平成24年度に実施した第32~34次調査地点の調査に際しては、遺構実測支援システム「遺構くん」を使用して行つた。写真撮影はフィルムカメラ(35mmモノクロ、120mmモノクロ、35mmカラーリバーサル)を使用したが、平成24年度の第32次調査地点の調査からフィルムカメラ(120mmモノクロ、35mmカラーリバーサル)及びデジタルカメラ(RAW+JPEG)により実施した。上層調査に当たつては、遺構種類ごとに記号を付け掘立柱建物跡・柱穴列はSB、竪穴住居跡はSI、地下式坑・土坑・火葬遺構はSK、井戸はSE、溝はSD、その他はSXとし、種類記号ごとに3桁の通し番号と合わせてSI-001のように遺構番号として表記した。遺物は遺構ごとに通し番号を付け、旧石器時代の遺物や帰属遺構が不明確なものについては小グリッド単位で取り上げた。遺構番号は調査地点ごとに001から付けられていることから、整理作業に際して、第1次調査地点ならば「(1)」の調査地点番号を種類記号の前に付けて(1)SI-001と表記することとした。報告書作成に当たり、現地の発掘調査において付けた種類記号と遺構番号は原則として変更していない。整理段階で遺構と判断できなかつたものについては欠番とし、各遺跡の遺構一覧で参照できるようにした。整理作業は出土遺物の水洗・注記作業を行つた後、遺物の種別・器種分類を行つてから接合・復元作業を実施し、実測・拓本作業を行つた。出土遺物の写真撮影はデジタルカメラで行つた。発掘調査で作成した図面・写真などの記録整理の後、挿図・写真図版原図を作成し、挿図の一部及び写真図版については、それらをもとにデジタル編集によるトレースや写真補正等を行い、挿図・写真図版を作成した。その後、原稿執筆・編集・校正作業を経て、この度報告書刊行となつた。また、報告書編集中に報告書に基づいた収納整理作業も併せて実施した。

第2節 遺跡の位置と環境(第6~8図、第2表、図版1)

1 遺跡の位置と地形

柏市は千葉県の北西部に位置し、北西は野田市、北東は利根川を挟んで茨城県、東は我孫子市と印西市、南に鎌ヶ谷市と白井市、西に松戸市と流山市に接し、面積約115km²、人口約42万人の県内2番目の中核市である。鉄道はJR常磐線及びつくばエクスプレス、東武アーバンパークラインが通り、公共交通による通勤・通学のアクセスが良好で、特に、つくばエクスプレスが開業した平成17年度以降は駅周辺に高層住宅や大規模商業施設などが建設され、良質な居住地域として注目を集め、人口の増加が顕著である。道路は常磐自動車道をはじめ国道6号や国道16号などの幹線道路が交差する交通の要衝であり、これらの幹線道路沿いにはいくつもの工業団地が立地し製造・物流の拠点となつてゐる。

柏市周辺の地形は、下総台地の北西端に当たる利根川と江戸川に挟まれた、標高18m~29mの台地であり、利根川・手賀沼水系の大堀川・大津川と江戸川水系の坂川及び東京湾に注ぐ国分川・大柏川の分水界

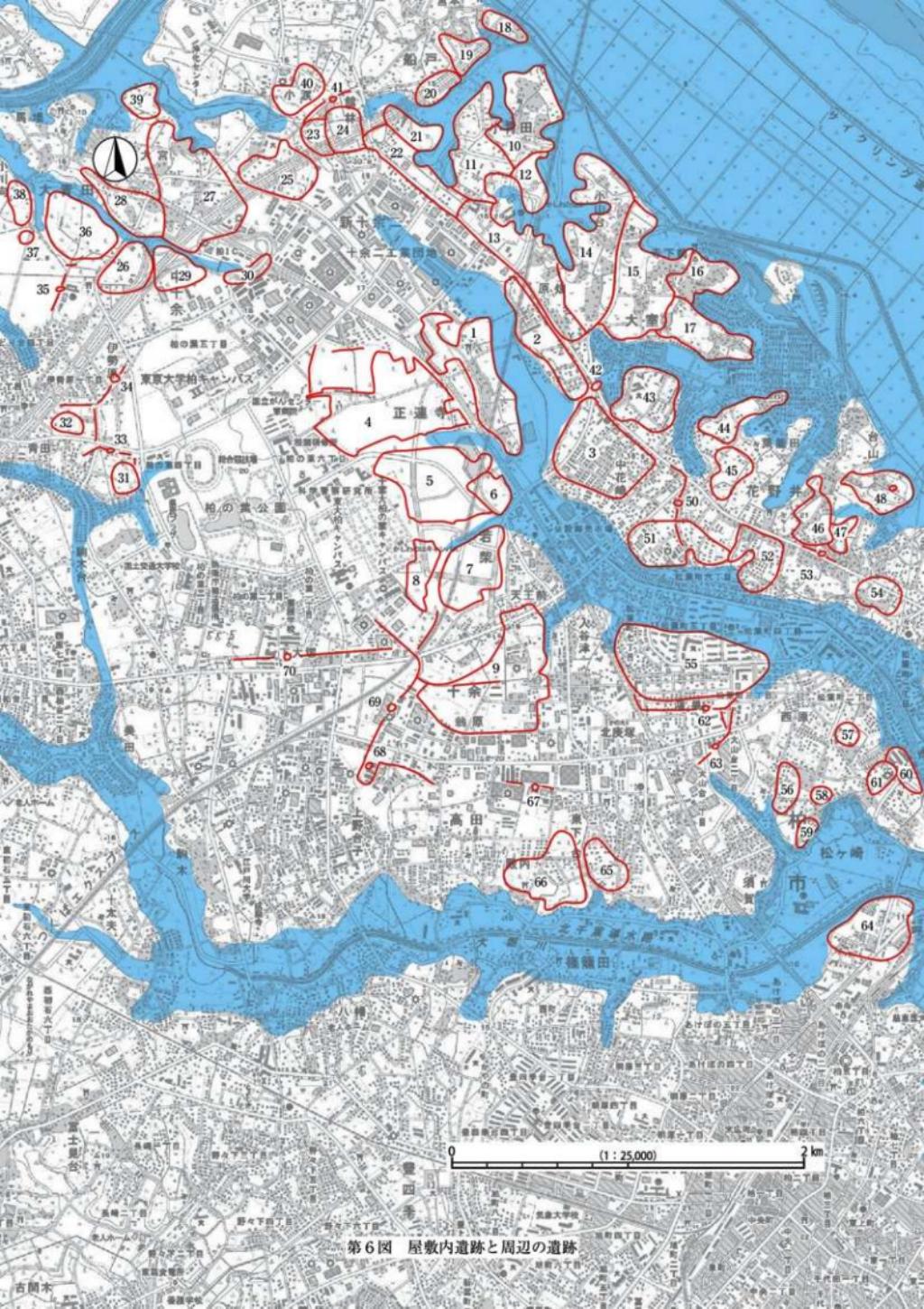
となっている。市内にはいずれも手賀沼水系で、北から地金堀、大堀川、大津川、「染井入り落とし」と呼ばれる河谷、「金山入り落とし」と呼ばれる河谷が流れ、更にそれらの支流などにより樹枝状に開析されている。柏北部中央地区土地区画整理事業地区が所在する柏市十余二、若柴、正連寺は、市北部の大堀川と地金堀に三方を囲まれた、標高が18m前後と比較的低い平坦な台地である。屋敷内遺跡は事業地区の中では最も北に位置し、南北側と東側は「こんぶくろ池」や「弁天池」を水源とする地金堀とその支流により開析され、標高は西側が17mほどで低地との標高差は5 m前後であるが、低地に近い場所では標高差は2 m～3 mである。

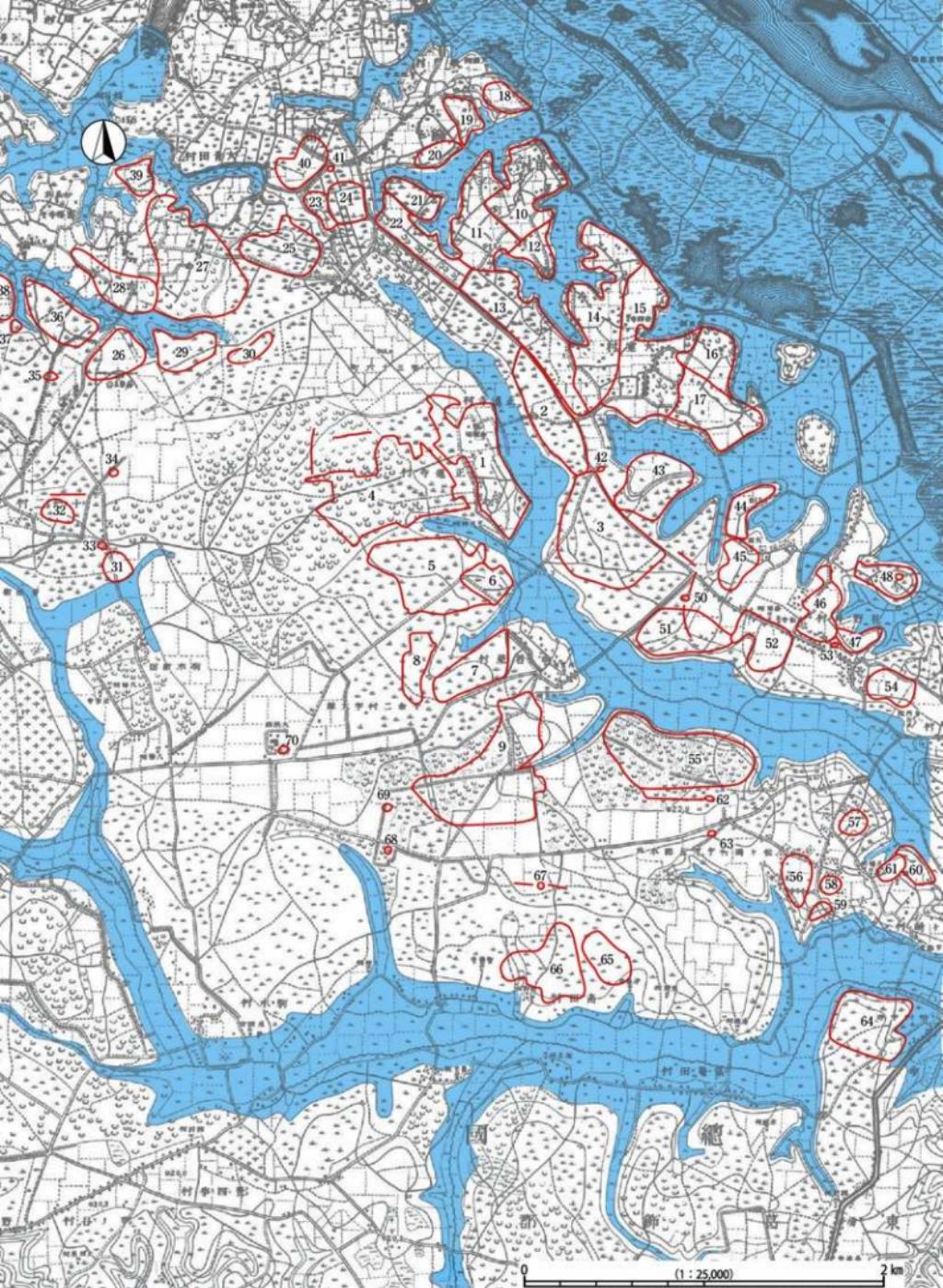
2 周辺の遺跡

本遺跡<1>の周辺では、常磐自動車道路建設事業を始めとして、現在進行中のつくばエクスプレス関連事業などに伴う大規模な発掘調査が行われ、その調査成果についても既に数多くの報告書が刊行されている。本遺跡を中心とした周辺遺跡の状況については、柏北部中央地区及び柏北部東地区に係る発掘調査報告書に詳細が記載されているので、ここでは時代ごとに主な遺跡について記述することにし、周辺の遺跡の概要については第2表の一覧を参照していただきたい。なお、第6・8図の遺跡範囲は、ふさの国文化財ナビゲーション(千葉県教育委員会2015)を基に、柏北部中央地区及び柏北部東地区に係る発掘調査報告書並びに柏市教育委員会による柏市内遺跡発掘調査報告書などを参考にして作成した。また、第7図の遺跡範囲は、迅速測地形図における地形に合わせて位置や形状などを調整して作成した。

旧石器時代 立川ローム最下層であるⅩ層～X層の石器群としては、本遺跡と同じ地金堀の右岸では、大割遺跡<5>の第1文化層からナイフ形石器・楔形石器・石刃など421点14ブロック、本遺跡の対岸にある農協前遺跡<2>の第1文化層から台形様石器・ナイフ形石器など912点12ブロックからなる環状ブロック群が検出されている。本遺跡の北東側の利根川を臨む台地上では、富士見遺跡<11>の第2文化層からナイフ形石器・楔形石器・石刃・石刃石核など625点4ブロック、原畠遺跡<13>の第1文化層からナイフ形石器・局部磨製石斧・楔形石器など119点7ブロックが検出されている。両遺跡は良好な接合資料の存在により局部磨製石斧の再生加工が行われていたことが明らかにされている。これらの遺跡とは異なり北西から樹枝状に延びる小支谷に面した台地上では、中山新田(I)遺跡<26>のⅩ層からナイフ形石器・局部磨製石斧・石刃・削器など2,156点9地点27ブロック(第9地点は環状ブロック群)などが検出されている。

第2黒色帯に相当するVI層下部～Ⅹ層の石器群としては、地金堀の右岸では、原山遺跡<7>の第Ⅱ文化層からナイフ形石器・台形様石器・石刃など1,449点25ブロック(第Ⅱa文化層は環状ブロック群)、対岸の農協前遺跡<2>の第2文化層からナイフ形石器・搔器など303点5ブロックなどが検出されている。利根川を臨む台地上では、富士見遺跡<11>の第3文化層からナイフ形石器・楔形石器・削器・石刃など433点7ブロック、大松遺跡<12>の第1文化層からナイフ形石器・石核など2,449点20ブロック、原畠遺跡<13>の第2文化層からナイフ形石器・石核など147点2ブロック、小山台遺跡<14>の第2文化層からナイフ形石器・台形様石器・局部磨製石斧・楔形石器・削器など2,279点21ブロック、同第3文化層からナイフ形石器・石刃・楔形石器・削器など818点13ブロックなどが検出されている。また、大松遺跡<12>第1文化層と小山台遺跡<14>第3文化層のうち15ブロックは環状ブロック群を構成し、富士見遺跡<11>第3文化層と小山台遺跡<14>第3文化層は疊群を伴っている。北西から延びる小支谷に面した台地上では、中山新田(Ⅱ)遺跡<27>のⅦ層～Ⅹ層から石核・剥片など101点1ユニット、聖人塚遺跡<29>の第4文化層からナイフ





第7図 屋敷内遺跡と周辺の遺跡(迅速測図)

形石器・削器・石核など300点5 ブロックなどが検出されている。いずれの地域でも遺跡数が増加しているが、特に、利根川を臨む台地上の遺跡では大規模な環状ブロック群を構成するなど内容が充実している。

第1 黒色帯に相当するⅢ層下部～Ⅵ層上部の石器群としては、地金堀の右岸では、大割遺跡<5>の第3 文化層からナイフ形石器・角錐状石器・削器・搔器など2,404点34 ブロック、須賀井遺跡<6>の第2 文化層からナイフ形石器・角錐状石器・彫器・削器など331点6 ブロック、原山遺跡<7>の第4 文化層からナイフ形石器・角錐状石器・石錐など657点18 ブロック、瀧井台遺跡<8>の第4 文化層からナイフ形石器・角錐状石器・石錐など761点6 ブロックが検出されている。利根川を臨む台地上では、駒形遺跡<10>の第2 文化層から砾群を伴ってナイフ形石器・楔形石器・削器など228点4 ブロック、富士見遺跡<11>の第4 文化層からナイフ形石器・尖頭器・削器・搔器など1,047点13 ブロック、原畠遺跡<13>の第3 文化層からナイフ形石器・角錐状石器・彫器・楔形石器・搔器・石核など291点22 ブロック、小山台遺跡<14>の第4 文化層からナイフ形石器・角錐状石器・彫器・楔形石器・搔器・石核など1,659点29 ブロック、同第5 文化層から砾群を伴ってナイフ形石器・尖頭器・楔形石器・彫器・搔器・石核など1,031点18 ブロック、矢船(I) 遺跡<21>の第3 文化層からナイフ形石器・削器・搔器など231点8 ブロックが検出されている。出土石器の総数が1,000点を超えるなど、この地域の石器群の規模や石器の種類・内容の充実がうかがえる。北西から延びる小支谷に面した台地上では、水砂遺跡<25>のⅢ層～Ⅳ層からナイフ形石器・尖頭器・細石刃石核・削器など567点4 ブロック、中山新田(Ⅱ) 遺跡<27>のⅣ層～V層からナイフ形石器・削器・石核など459点6 ユニット、聖人塚遺跡<29>の第2 文化層からナイフ形石器・角錐状石器・彫器・削器など566点6 ブロック、元割遺跡<30>の第2 文化層からナイフ形石器・削器・石錐・石核など1,096点2 地点6 ブロックが検出されている。

立川ローム層最上部のⅢ層(ソフトローム層)に相当する石器群としては、地金堀の右岸では、石器数やブロック数は少ないが、現在整理作業中である翁原遺跡<9>のⅢ層からは合計で23 ブロックが検出されている。利根川を臨む台地上では、駒形遺跡<10>の第3 文化層から尖頭器・彫器・削器・石核など259点3 ブロック、原畠遺跡<13>の第4 文化層からナイフ形石器・尖頭器・彫器・石核など304点7 ブロック、小山台遺跡<14>の第6 文化層から細石刃・細石刃石核など108点6 ブロック、八反目台遺跡<17>のⅢ層～Ⅱ層から尖頭器・搔器・楔形石器・細石刃など101点1 ブロック、矢船(Ⅱ) 遺跡<22>の第4 文化層からナイフ形石器・尖頭器・削器・搔器など759点11 ブロック、花前(Ⅲ) 遺跡<20>のⅢ層からナイフ形石器・石刃など635点4 ブロックが検出されている。北西から延びる小支谷に面した台地上では、館林(I) 遺跡<23>のⅢ層から石刃など185点2 ブロック、中山新田(Ⅱ) 遺跡<27>のⅢ層からナイフ形石器・削器など231点3 ユニット、聖人塚遺跡<29>の第1 文化層からナイフ形石器・尖頭器・楔形石器・彫器など449点8 ブロックが検出されている。

縄文時代 早期の遺構としては、炉穴や陥穴といったものが中心となるが、駒形遺跡<10>から鶴ガ島台式期の竪穴住居跡27軒・土坑7基・炉穴32基・陥穴34基・集石土坑1基、富士見遺跡<11>から鶴ガ島台式期～茅山下層式期の竪穴住居跡9軒・土坑16基・炉穴9基・陥穴15基、小山台遺跡<14>から田戸下層式期～野鳥式期の竪穴住居跡2軒・土坑13基・炉穴87基が検出され、この時期の数少ない集落跡として重要な存在である。これらの遺跡は利根川に面する台地上にあり、集落跡は利根川から延びる小支谷を挟んで対峙するような位置関係にある。炉穴や陥穴などについては、調査面積の大小にも関係するが、大割遺跡<5>から炉穴11基・陥穴8基・土坑1基、中山新田(I) 遺跡<26>から炉穴22基、聖人塚遺跡<29>から炉穴23基などとまとめた数が検出されている。

前期は堅穴住居跡を中心とした遺構数が急増し、利根川に面した台地上では、駒形遺跡<10>から関山式期～黒浜式期の堅穴住居跡90軒・土坑42基・炉穴5基・貝層1か所、富士見遺跡<11>から花積下層式期～黒浜式期の堅穴住居跡119軒・土坑43基、大松遺跡<12>から花積下層式期～黒浜式期の堅穴住居跡86軒・土坑86基・炉穴2群・貝層15か所・陥穴5基が検出されている。3遺跡は利根川から延びる小支谷により樹枝状に開析されるが、同一台地上に位置しており、特に、花積下層式期の堅穴住居跡は3遺跡で一つの集落を形成するよう見え、黒浜式期には堅穴住居跡が台地全体に拡大していくことから、この地域における拠点的集落として存在していたものと思われる。この3遺跡以外では、原山遺跡<7>から黒浜式期の堅穴住居跡6軒、原畑遺跡<13>から黒浜式期の堅穴住居跡21軒・土坑5基・遺構内貝層6か所、小山台遺跡<14>から黒浜式期～浮島式期の堅穴住居跡55軒・土坑21基・トンネル状遺構3基、花前(Ⅰ)遺跡<18>から黒浜式期～浮島式期の堅穴住居跡18軒、矢船(Ⅰ)遺跡<21>から黒浜式期～興津式期の堅穴住居跡16軒、田中小遺跡<43>から黒浜式期の堅穴住居跡10軒・土坑23基、上前留遺跡<51>から黒浜式期の堅穴住居跡4軒、鴻ノ巣遺跡<55>から黒浜式期の堅穴住居跡20軒・諸磯式期の堅穴住居跡1軒が検出されている。堅穴住居跡は検出されていないが、原遺跡<46>から諸磯式期～黒浜式期の43基を含む土坑107基が検出されている。これらは集落としての規模は小さく、先に述べた拠点的な集落の周縁に存在する短期的に形成された小集落と考えられる。

中期は、大松遺跡<12>から五領ヶ台式期～加曾利E式期の堅穴住居跡89軒・土坑242基などが検出され、前期から引き続いて集落を形成している。大松遺跡と小支谷を挟んで南東側にある小山台遺跡<14>から阿玉台式期～加曾利E式期の堅穴住居跡302軒・土坑824基などが検出され、2か所の環状集落が存在していたことが明らかになり、大松遺跡とともに当該時期の拠点集落を形成していたものと思われる。小規模な集落と考えられる遺跡としては、原畑遺跡<13>から阿玉台式期～中峰式期の堅穴住居跡6軒・堅穴状遺構2基・土坑148基、寺下前遺跡<15>から阿玉台式期の堅穴住居跡6軒、水砂遺跡<25>から阿玉台式期～中峰式期の堅穴住居跡7軒・土坑2基、中山新田(Ⅰ)遺跡<26>から阿玉台式期～加曾利E式期の堅穴住居跡7軒・堅穴状遺構4基・土坑9基、中山新田(Ⅱ)遺跡<27>から阿玉台式期の堅穴住居跡9軒・堅穴状遺構1基・土坑10基・陥穴9基・聖人塚遺跡<29>から阿玉台式期～中峰式期の堅穴住居跡14軒・堅穴状遺構5基・土坑3基・埋甕2基、田中小遺跡<43>から阿玉台式期の堅穴住居跡4軒・掘立柱建物跡8棟・柱穴列4基・土坑14基、原遺跡<46>から加曾利E式期の堅穴住居跡3軒・土坑5基が検出されており、この中では、田中小遺跡<43>の放射状に並ぶ掘立柱建物跡と柱穴列の存在が注目される。これらの遺跡は、前期と同様に拠点的な集落の周縁に形成された小集落として存在していたと思われる。

後期になると遺跡の数は激減し、拠点的な集落もなくなり、駒形遺跡<10>・富士見遺跡<11>・花前(Ⅰ)遺跡<18>・花前(Ⅱ)遺跡<19>・中山新田(Ⅰ)遺跡<26>で堀之内式期を中心とした堅穴住居跡が1～2軒検出されるにとどまっている。

晚期については、遺物は出土しているものの、遺構の存在は明らかではない。

弥生時代 周辺地域では前期・中期に属する遺構が検出された遺跡はなく、後期も極めて少ない。田中小遺跡<43>から堅穴住居跡1軒・土坑2基、香取神社遺跡<52>から堅穴住居跡4軒、鴻ノ巣遺跡<55>から堅穴住居跡2軒、呼塚遺跡<61>から堅穴住居跡3軒が検出されているだけである。これらの堅穴住居跡はいずれも北関東系の影響を受け、長岡式期や臼井南式期に属するものである。常磐自動車道路建設地区や柏北部中央地区・柏北部東地区といった広い範囲を面的に発掘調査しているにも関わらず、これら

の地区では明確な遺構は検出されていない。

古墳時代 前期で注目されるのは、手賀沼に注ぐ大堀川の南側台地上にある呼塚遺跡<64>から堅穴住居跡76軒と規模が150m×110mと推定される方形環濠などが検出されたことである。呼塚遺跡は陸上・水上交通の要衝地にあり、方形環濠とそれに伴う布堀、大型堅穴住居、環濠内に東海系・畿内系・北陸系などの儀礼用の土器が多量に廃棄されていたことなどから、この地域における重要な拠点集落(首長居館)であった可能性が指摘されている。呼塚遺跡の北にある田中小遺跡<43>から堅穴住居跡13軒とやまとまつて検出されているが、そのほかでは柏北部東地区の駒形遺跡<10>・同富士見遺跡<11>・原遺跡<46>・宿連寺遺跡<54>・八幡遺跡<57>から2~3軒の堅穴住居跡が検出されているだけである。駒形遺跡と富士見遺跡は同じ台地上にあり、堅穴住居跡は隣接して存在していることから、小規模な集落を形成していたものと思われる。

中期では呼塚遺跡から堅穴住居跡50軒などが検出されており、前期から引き続き拠点集落として存在していたものと思われる。この時期は堅穴住居跡が検出される遺跡が増加する傾向にあるが、後期に続かない遺跡が大部分である。現在整理作業中であるが、内山遺跡<4>から堅穴住居跡9軒が検出され、地金堀に続く小支谷を臨む台地の南側にまとまって存在している。駒形遺跡<10>と富士見遺跡<11>で合わせて8軒、矢船(II)遺跡<22>から12軒、田中小遺跡<43>から5軒、殿内遺跡<66>から7軒とやまとまつた堅穴住居跡が検出されているほかに、原畠遺跡<13>・寺下前遺跡<15>・花前(III)遺跡<20>・矢船(I)遺跡<21>・水砂遺跡<25>・尾井戸遺跡<44>・香取神社遺跡<52>・松ヶ崎見崎遺跡<59>から2~3軒の堅穴住居跡などが検出されている。

後期になると遺構が検出された遺跡は減少し、呼塚遺跡においても典型的な後期の土器を伴う堅穴住居跡は検出されていない。水砂遺跡<25>から堅穴住居跡4軒・堅穴状遺構1基、尾井戸遺跡<44>から堅穴住居跡8軒・土坑1基が検出され集落を形成していたと思われるほかには、大松遺跡<12>・八反目遺跡<17>・花前(II)遺跡<19>・花前(III)遺跡<20>・田中小遺跡<43>から単独あるいは2軒検出されているに過ぎない。第6図の範囲外となるが、呼塚遺跡とは大堀川を挟んだ東側の台地上にある中馬場遺跡は古墳時代後期から集落が形成され、平安時代に最も規模が大きくなることが知られており、この時期に呼塚遺跡から中馬場遺跡へ拠点集落が移っていったものと思われる。

古墳は利根川を臨む台地上に分布している。尾井戸遺跡<44>には墳丘は失われているが、土坑を埋葬主体とする6世紀前半の円墳がある。原遺跡<46>には下総型円筒埴輪をもち、帆立貝式前方後円墳の可能性がある6世紀後半の「変則的古墳」がある。原遺跡より更に利根川に近い台地上には塙原古墳群<49>がある。塙原古墳群を構成する花野井大塚古墳1号墳は粘土層を埋葬主体とする円墳で、短甲や胡鎌・直刀・鉄劍・円筒埴輪・形象埴輪などが出土している。花野井やまもの古墳は墳形や規模などの詳細は不明であるが、横穴式石室が調査されている。花野井諸羽左衛門稻荷古墳は割竹形木棺墓を埋葬主体とする方墳で、管玉・鉄鎌・鉄劍などが出土している。

奈良・平安時代 奈良時代は、常磐自動車道路建設事業に伴って発掘調査された遺跡を中心として多くの遺構が検出されている。花前(I)遺跡<18>~花前(III)遺跡<20>・館林(I)遺跡<23>・水砂遺跡<25>から複数の堅穴住居跡が検出されており、水砂遺跡では掘立柱建物跡と小鍛冶跡も検出されている。これらの遺跡の南西にある中山新田(I)遺跡<26>~中山新田(III)遺跡<28>と南東に離れた呼塚遺跡<64>でも単独あるいは少數の堅穴住居跡が検出されている。

平安時代は、内山遺跡<4>から堅穴住居跡が8軒検出され、6軒は古墳時代中期の堅穴住居跡の分布範囲と重なるが、1軒ずつ東と西に大きく離れて存在している。花前(Ⅰ)遺跡<18>～花前(Ⅲ)遺跡<20>からは、奈良時代に引き続いて10軒以上の堅穴住居跡や掘立柱建物跡などが検出され、その中で、花前(Ⅱ)遺跡<19>では製鍊炉・精鍊炉が複数存在していることから、これらの3遺跡は製鉄と鉄製品の管理・供給地としての拠点集落であったと考えられている。また、地金堀の右岸にある松ヶ崎泉遺跡<58>からは小鍛冶跡と思われる鍛冶炉をもつ堅穴住居跡が検出され、鴻ノ巣遺跡<55>の堅穴住居跡から鉄滓と馬形土製品が出土しているなど、この地域には製鉄に関連する遺構をもつ遺跡が多いといえる。古墳時代の概要でも述べた中馬場遺跡は、160軒を超える堅穴住居跡が検出されており、古代東海道における下総国の駅路沿いの拠点集落であったと考えられる。

中・近世 中世は、本遺跡と同じ地金堀の右岸にある須賀井遺跡<6>から台地整形区画3か所・掘立柱建物跡5棟・地下式坑24基・井戸9基・火葬施設7基・土坑194基以上・溝17条が検出されている。出土遺物は古瀬戸中期様式の皿・瓶類・古瀬戸後期様式の碗類と常滑窯5・6型式の大甕・8～11型式の片口鉢が主体となる一方、在地産の内耳土器や擂鉢が1点も見られないことから、これらの遺構の時期は14世紀～15世紀前半としている。また、掘立柱建物跡の規模などから屋敷跡ではなく「土坑墓・火葬墓を含む墓域や小屋・井戸などを伴う作業空間であった。」としている。利根川に面する台地上には中世の屋敷跡と考えられる堀込区画(台地整形区画)や堅穴状遺構などが検出された遺跡がいくつか存在している。富士見遺跡<11>から堀込区画3か所・堅穴状遺構9基・地下式坑19基・井戸1基・土坑109基・土坑墓2基・溝2条が検出されている。出土遺物は古瀬戸後期Ⅲ様式の写しと考えられる在地産の内耳土器・擂鉢が主体を占め、それに次ぐのが古瀬戸後期Ⅲ様式の平碗・折縁深皿・卸目付き大皿・大小皿などであることから、これらの遺構の時期は15世紀前半の時期を当てている。また、その性格は「掘り込みを伴う『屋敷地』2か所と隣接する墓所からなる一単位の生活空間」であったとしている。小山台遺跡<14>から台地整形区画2か所・掘立柱建物跡1棟・堅穴状遺構6基・地下式坑31基・土坑墓14基・方形周溝区画墓1基などが検出されている。寺下前遺跡<15>から台地整形区画1か所・地下式坑3基・土坑3基が検出されている。また、寺前遺跡<45>の平成11・12年度調査区から台地整形区画1か所・掘立柱建物跡3棟・堅穴状遺構7基・火葬施設4基・土坑80基などが検出されている。出土遺物は少ないが、これらの遺構は古瀬戸後期様式(15世紀代)の期間に機能していたとされている。これらの遺構の性格としては、平行もしくは直交する堀や溝で区画された墓域、それに関係する非日常的な建物群、仮小屋や倉庫的な小屋などを想定している。なお、中馬場遺跡では土塁と堀・溝に区画された中に地下式坑や土坑などを伴う掘立柱建物群が複数検出され、前代に引き続き古代東海道沿いの拠点集落であったと思われる。

近世は、須賀井遺跡<6>では掘立柱建物跡1棟・井戸1基・土坑2基・溝1条が一つの地点からまとまって検出され、これらの遺構はまとまってひとつの屋敷跡を構成していたと考えられている。内山遺跡<4>から地下式坑1基・井戸1基・土坑5基・溝3条が検出され、遺構の密度は希薄である。このうち溝は南北にはほぼ並行して走る2条とそれらを東西につなぐ溝の3条で構成されている。なお、南北に走る溝の東側の溝は、本遺跡の(27)SD-001につながる溝と考えられる。富士見遺跡<11>から掘立柱建物跡2棟・土坑10基・区画溝群3群(溝71条)が検出されている。出土遺物は瀬戸・美濃系の陶磁器が主体を占め、在地産の内耳土器やカワラケなどが出土しており、18世紀代前半から19世紀代の時期が示されているが、主体は18世紀後半から19世紀前半と思われる。遺構の性格については高田台牧小青田の土手に伴う溝群と畑地



第8図 屋敷内遺跡及び周辺の遺跡と高田台牧・上野牧

の区画や道路側溝と思われる溝群の2種類に大別し、掘立柱建物跡は「出作小屋ないし山小屋」を想定している。小山台遺跡<14>から掘立柱建物跡3棟・礎石建物1棟・井戸2基・土坑92基・土坑墓43基などが検出されている。しかし、富士見遺跡<11>に隣接する駒形遺跡<10>と大松遺跡<12>からは地下式坑や土坑・溝などがわずかに検出されただけで、調査面積に比べて遺構・遺物ともに希薄な状況である。富士見遺跡<11>と小支谷を挟んで北西側にある花前(Ⅲ)遺跡<20>から建物跡2棟・井戸2基・土坑4基・流逝3基・溝9条などが検出されている。出土遺物は17世紀後半から18世紀前半の肥前系唐津産陶器の灰釉象嵌鉢や18世紀代から19世紀代の肥前系と思われる染付碗・蓋・皿類など多種多様な陶磁器、在地産の土器、キセル・包丁・刀子等の金属製品など多くの遺物が出土している。遺構の規模や出土遺物の内容などから、富裕農民層の屋敷跡と推定される。花前(Ⅰ)遺跡<18>から土坑2基・地下式坑4基・溝1条が検出されている。溝は区画溝と思われ、土坑や地下式坑は溝の北東側にあり、遺構の規模や周辺の状況などから、これらは屋敷跡を構成する遺構群と考えることができる。これらの遺構の時期は、土坑から瀬戸・美濃系陶器の天目茶碗・志野丸皿・灰釉輪禿皿などが出土していることから、近世初頭(17世紀中葉以降)と考えられる。寺前遺跡<45>の第9次調査区から掘立柱建物跡4棟・井戸2基・土坑13基などが検出され、出土遺物は少ないが18世紀代を中心とした陶磁器などが出土している。溝状遺構に区画されたエリア内の遺構分布状況について、掘立柱建物跡や井戸の位置、後背地との位置関係から「一戸の『家』の占有していた範囲と土地利用のあり方(生活領域と生産領域の関係性など)を示している可能性がある。」としている。近世の牧については、柏市周辺には上野牧と高田台牧が広がっており、千葉県教育委員会発行の『県内遺跡詳細分調査報告書 房総の近世牧跡』による復元範囲図を周辺の遺跡に重ねたもの(第8図)を見ると、本遺跡の一部を含む柏北部中央地区の全ての遺跡が高田台牧の範囲の中にあり、本遺跡は北と東西のほぼ三方を牧に取り囲まれていたことが分かる。

注 第35・36次の下層調査成果については、本書で扱うこととした。

参考文献

- 文1 1997 『千葉県埋蔵文化財分布地図(1) - 施設施・印旛地区(改訂版) - 』千葉県教育委員会 財團法人千葉県文化財センター
文2 1999 『千葉県文化財センター年報No24 - 平成10年度 - 』
文3 2000 『千葉県文化財センター年報No25 - 平成11年度 - 』
文4 2001 『千葉県文化財センター年報No26 - 平成12年度 - 』
文5 2003 『千葉県文化財センター年報No27 - 平成13年度 - 』
文6 2003 『千葉県文化財センター年報No28 - 平成14年度 - 』
文7 2004 『千葉県文化財センター年報No29 - 平成15年度 - 』
文8 2005 『千葉県文化財センター年報No30 - 平成16年度 - 』
文9 2006 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No31 - 平成17年度 - 』
文10 2007 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No32 - 平成18年度 - 』
文11 2008 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No33 - 平成19年度 - 』
文12 2009 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No34 - 平成20年度 - 』
文13 2010 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No35 - 平成21年度 - 』
文14 2011 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No36 - 平成22年度 - 』
文15 2012 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No37 - 平成23年度 - 』
文16 2013 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No38 - 平成24年度 - 』
文17 2014 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No39 - 平成25年度 - 』
文18 2015 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No40 - 平成26年度 - 』
文19 2016 『千葉県教育振興財団 千葉県文化財センター年報No41 - 平成27年度 - 』

- 文20 2014 「平成26年度千葉県の博物館・文化財行政」千葉県教育庁教育振興部文化財課
- 文21 2015 「平成27年度千葉県の博物館・文化財行政」千葉県教育庁教育振興部文化財課
- 文22 2016 「平成28年度千葉県の博物館・文化財行政」千葉県教育庁教育振興部文化財課
- 文23 2017 「平成29年度千葉県の博物館・文化財行政」千葉県教育庁教育振興部文化財課
- 文24 2007 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書1-柏市瀧井台遺跡-」千葉県教育振興財团調査報告第585集
- 文25 2009 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書2-柏市原山遺跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財团調査報告第631集
- 文26 2011 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書3-柏市農協前遺跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財团調査報告第657集
- 文27 2012 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書4-柏市大割遺跡、須賀井遺跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財团調査報告第692集
- 文28 2013 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書5-柏市原山遺跡-縄文時代以降編」千葉県教育振興財团調査報告第699集
- 文29 2016 「柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書6-柏市大割遺跡、農協前遺跡-縄文時代以降編」千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第6集
- 文30 2017 「柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書7-柏市須賀井遺跡-縄文時代以降編」千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第18集
- 文31 2008 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書1-柏市大松遺跡- 旧石器時代編」千葉県教育振興財团調査報告第589集
- 文32 2009 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書2-柏市胸形遺跡-(縄文時代以降編1)」千葉県教育振興財团調査報告第616集
- 文33 2011 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書3-柏市原畠遺跡-(縄文時代以降編1)」千葉県教育振興財团調査報告第660集
- 文34 2011 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書4-柏市大松遺跡- 縄文時代以降編1」千葉県教育振興財团調査報告第666集
- 文35 2013 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書5-柏市胸形遺跡-(縄文時代以降編2)」千葉県教育振興財团調査報告第691集
- 文36 2014 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書6-柏市富士見遺跡- 縄文時代以降編1」千葉県教育振興財团調査報告第728集
- 文37 2015 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書7-柏市富士見遺跡- 縄文時代以降編2」千葉県教育振興財团調査報告第736集
- 文38 2017 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書8-柏市富士見遺跡、原畠遺跡、胸形遺跡- 旧石器時代編」千葉県教育振興財团調査報告第737集
- 文39 2016 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書9-柏市大松遺跡- 縄文時代以降編2」千葉県教育振興財团調査報告第754集
- 文40 2017 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書10-柏市小山台遺跡- 旧石器時代編」千葉県教育振興財团調査報告第763集
- 文41 2017 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書11-柏市花前Ⅱ遺跡、花前Ⅲ遺跡、矢船Ⅰ遺跡、矢船Ⅱ遺跡、館林Ⅱ遺跡、寺下前遺跡、八反日台遺跡-縄文時代以降編」千葉県教育振興財团調査報告第764集
- 文42 2017 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書12-柏市小山台遺跡A区-縄文時代以降編」千葉県教育振興財团調査報告第770集
- 文43 2018 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書13-柏市矢船Ⅰ遺跡、矢船Ⅱ遺跡、胸形遺跡、富士見遺跡、原畠遺跡、花前遺跡、花前Ⅲ遺跡、寺下前遺跡、大松遺跡、小山台遺跡、八反日台遺跡、館林Ⅱ遺跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財团調査報告第771集
- 文44 2018 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書14-柏市花前Ⅰ遺跡、胸形遺跡、富士見遺跡、原畠遺跡、寺下前遺跡-縄文時代以降編」千葉県教育振興財团調査報告第774集
- 文45 2019 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書15-柏市小山台遺跡B区-縄文時代以降編」千葉県教育振興財团調査報告第775集
- 文46 1982 「常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書I - 館林、水戸、花前Ⅱ-1-」財团法人千葉県文化財センター
- 文47 1984 「常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書II - 花前Ⅰ、中山新田Ⅱ、中山新田Ⅲ-」財团法人千葉県文化財センター
- 文48 1985 「常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書III - 花前Ⅱ-1、花前Ⅱ-2、矢船-」財团法人千葉県文化財センター
- 文49 1986 「常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書IV - 元割、聖人塚、中山新田Ⅰ-」財团法人千葉県文化財センター
- 文50 1973 「北柏遺跡- 発掘調査概報-」北柏遺跡発掘調査団 旧北柏遺跡C地区
- 文51 1974 「柏市瀧井遺跡」財团法人千葉県都市公社
- 文52 1980 「柏市埋蔵文化財調査報告書」柏市教育委員会
- 文53 1980 「千葉県柏市尾井戸遺跡」尾井戸遺跡調査団
- 文54 1981 「殿内遺跡発掘調査報告書」(財)柏市都市開発公社 殿内遺跡調査団
- 文55 1983 「松ヶ崎(Ⅱ)遺跡発掘調査報告書」松ヶ崎(Ⅱ)遺跡発掘調査会 山武考古学研究所

- 文56 1986 「柏市埋蔵文化財調査報告書12」柏市教育委員会
- 文57 1988 「昭和62年度市内遺跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文58 1989 「昭和63年度市内遺跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文59 1990 「平成元年度市内遺跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文60 1990 「平成2年度市内遺跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文61 1990 「柏市埋蔵文化財調査報告書16-田中小道跡-」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文62 1992 「平成3年度市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文63 1992 「柏市埋蔵文化財調査報告書20」柏市教育委員会
- 文64 1992 「柏市埋蔵文化財調査報告書22 岐塚遺跡 寺前遺跡」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文65 1995 「柏市埋蔵文化財調査報告書29 呼塚遺跡」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文66 1996 「柏市埋蔵文化財調査報告書31」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文67 1997 「平成7年度市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文68 1997 「柏市埋蔵文化財調査報告書33 水沢遺跡(Ⅱ)」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文69 1998 「平成8年度市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文70 1999 「平成9年度市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文71 2000 「平成10年度市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文72 2001 「柏市埋蔵文化財調査報告書44」柏市教育委員会
- 文73 2002 「平成12年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文74 2002 「柏市埋蔵文化財調査報告書48 寺前遺跡」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文75 2003 「平成13年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文76 2003 「柏市埋蔵文化財調査報告書50 呼塚遺跡」柏市教育委員会
- 文77 2005 「平成15年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文78 2006 「平成16年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文79 2006 「柏市埋蔵文化財調査報告書54」柏市教育委員会
- 文80 2007 「平成17年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文81 2007 「柏市埋蔵文化財調査報告書61 寺前遺跡第9次調査」柏市教育委員会 加藤建設株式会社
- 文82 2008 「平成18年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文83 2008 「柏市埋蔵文化財調査報告書62 平成20年度柏市呼塚遺跡8次調査報告書」柏市教育委員会 有限会社勾玉工房Mogi
- 文84 2008 「柏市埋蔵文化財調査報告書63 平成20年度柏市呼塚遺跡第10次調査報告書」有限会社勾玉工房Mogi
- 文85 2009 「平成19年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文86 2010 「原遺跡(第1次・2次)」柏市埋蔵文化財調査報告書67
- 文87 2011 「平成21年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文88 2011 「柏市埋蔵文化財調査報告書68」柏市教育委員会
- 文89 2012 「平成23年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文90 2012 「柏市埋蔵文化財調査報告書71 柏市呼塚遺跡(第15次)」株式会社地域文化財研究所
- 文91 2013 「柏市埋蔵文化財調査報告書75 原塙遺跡(第26次)」柏市教育委員会 有限会社勾玉工房Mogi
- 文92 2013 「原遺跡(第3~6次)」柏市埋蔵文化財調査報告書74
- 文93 2014 「平成24年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文94 2014 「柏市埋蔵文化財調査報告書79 千葉県柏市呼塚遺跡(第17次)」株式会社地域文化財研究所
- 文95 2015 「平成25年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文96 2016 「平成26年度柏市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文97 2016 「柏市埋蔵文化財調査報告書82」柏市教育委員会
- 文98 2016 「柏市埋蔵文化財調査報告書83 千葉県柏市呼塚遺跡(第22次)」有限会社勾玉工房Mogi
- その他参考文献
- 2005 「千葉県の歴史 通史編 古代2」千葉県
- 1964 「柏市根戸中馬場住居址調査報告書」柏市教育委員会
- 1972 「中馬場・妻小原調査報告書」日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団
- 1976 「中馬場遺跡 第三次調査報告書」中馬場遺跡第三次調査団
- 1999 「柏市埋蔵文化財調査報告書38 中馬場遺跡(第4次)」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会

第2表 周辺の遺跡概要一覧表

卷行	通鑑名	目	經	傳	後生	古	傳	◎ 月 · 平定	◎ 月 · 平定	漢書	文·經
55	寺南道跡							○中興紀事：「自建安以來，中原動亂，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
56	延壽							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
57	三萬山遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
58	延平遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
59	朱雀汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
60	毛幹汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
61	赤坂汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
62	赤野汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
63	赤野汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
64	赤野汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
65	赤野汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
66	赤野汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
67	赤野汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
68	赤野汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
69	赤野汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			
70	赤野汗海遺跡							○中興紀事：「自建安以來，州郡割據，兵革互興，天下之民，十亡其八九。」			

第2章 調査の成果

第1節 遺跡の概要(第9~11・13図、第3~6表)

屋敷内遺跡は地金堀に沿って南北に細長く、地金堀に面する東側は標高12m~13mの低地で、西に向かって標高が上がり、最大で17mほどである。東側の低地部分では現地表面から0.6m~1.1mの深さで湧水があり、遺構・遺物は全く検出されていない。

検出された遺構は、旧石器時代の石器集中地点が第1次調査地点で1地点、第12次調査地点で1地点、第13次調査地点で3地点、第14次調査地点で4地点、第16次調査地点で1地点、第17次調査地点で2地点、第18次調査地点で1地点、第21次調査地点で1地点、第23次調査地点で2地点、第24次調査地点で1地点、第26次調査地点で3地点、第27次調査地点で1地点、第28次調査地点で1地点、第29次調査地点で1地点、第30次調査地点で1地点、第31次調査地点で1地点、第32次調査地点で9地点、第36次調査地点で1地点の合計35地点が検出された。これらの石器集中地点は、Ⅸ層からⅢ層上部までの複数の文化層に所属している。

縄文時代は第3・13・16・21・22・26・32・33次調査地点の8か所の調査地点から竪穴住居跡8軒・竪穴状遺構1基・陥穴4基・土坑11基・ピット群1か所・遺物集中地点3か所が検出された。時期は前期黒浜式期を主体としているが、遺構の分布状況はきわめて希薄である。

古墳時代は第32次調査地点の1か所の調査地点から中期の竪穴住居跡1軒・土坑(?)1基・遺物集中地点1か所・溝1条が検出された。

中・近世は15か所の調査地点から掘立柱建物跡5棟・柱穴列2基・地下式坑4基・井戸20基・火葬遺構7基・土坑90基・ピット1基・溝43条が検出された。遺構の分布状況は、南側の22・23FFと22・23GGグリッドの範囲と北側の15BBグリッドの範囲の2か所にほとんどどの遺構が集中し、そのほかの調査地点では溝が検出されているだけである。溝の数については、隣接する調査地点ごとに同一の溝を重複して数えていくことから、実際はこれよりも少ない数になる。

時代ごとの遺構の存在する地点を見ると、旧石器時代は調査区南北端の標高17m付近、ローム層の堆積状態が比較的良好な位置に集中し、縄文時代前期は標高14m前後の最も低地に近い位置、古墳時代中期は標高16m~17mの遺跡の中では最も高い位置、中・近世は標高14m~16mの縄文時代と古墳時代の中間の位置にあり、時代ごとに利用する土地の標高が微妙に変化していることが分かる。

第3表 竪穴住居跡・竪穴状遺構一覧表

遺構番号	位 置	主軸方向	主軸	幅	床面積	却・カマド	竪穴	壁凹溝	単位：主軸・幅m 床面積m ²		時 期	備 考
									却・カマド	竪穴		
(13)SI-001	23GG-77・78	N-75° W	290	250	550	無	無	無	無	無	縄文時代前期	黒浜式期
(16)SI-001	20GG-97・98, 21GG-07・09	N.0° W	<300>	4.40	-	西壁際	無	無	無	無	縄文時代前期	黒浜式期
(16)SI-002	21GG-17・18・27・28	N-67° W	<500>	450	-	無	無	無	無	無	縄文時代前期	黒浜式期
(16)SI-003	21GG-47・48・57・58	N-85° W	4.11	5.01	16.96	西壁際	無	無	無	無	縄文時代前期	黒浜式期
(16)SI-004	21GG-67・77	N-62° E	<300>	<2.40>	-	無	無	無	無	無	縄文時代前期	黒浜式期
(21)SI-001	27GG-97・98, 28GG-07・09	N.0° W	<430>	<310>	-	中央付近	無	無	無	無	縄文時代前期	黒浜式期
(26)SI-001	12CC-66・67・76・77	N-32° W	4.04	2.92	11.51	北西壁寄り	無	無	無	無	縄文時代前期	黒浜式期
(26)SI-002	12CC-73・74・83・84	N-38° W	3.98	3.04	7.56	北西壁際	無	無	無	無	縄文時代前期	黒浜式期
(32)SI-001	11X-12・13・22・23	N-32° W	5.34	5.36	25.65	北西壁寄り	東角	無	無	無	古墳時代中期	
(33)SX001	11AA-87・89・97・99	-	<900>	<170>	-	無	無	無	無	無	縄文時代前期~	竪穴状遺構

第4表 捩立柱建物跡・柱穴列一覧表

時期：中世～後、近世Ⅰ＝16世紀～17世紀、近世Ⅱ＝17世紀～19世紀

遺構番号	位置	軸方向 (走行方向)	規格 (軸×幅)	軸長 (m)	要行長 (m)	柱間寸法 (m)	柱穴規格 (m)	柱穴深さ (m)	時期	備考
(1)SB-001	24FF-06-09	N-50°-W	3×1	3.40	1.52	柱間 0.9～1.3 間隔 1.5	0.35×0.35～ 0.5×0.4	0.2～0.8	近世Ⅱ	北東角の柱穴未検出
(1)SB-002	23FF-77-78-87-88	N-49°-E	3×1	4.50	3.23	柱間 1.18～1.67 間隔 2.9～3.23	1.2×0.8	0.23～0.65	近世Ⅱ	(1)SD-004・SB-003と重複
(1)SB-003	23FF-78-88-98、24FF-08	N-7°-W	4×-	8.07	-	柱間 1.95～2.12 間隔 -	0.4×0.4	0.3～0.5	近世Ⅲ	複列
(15)SB-004	22FF-59-69-79、23GG-50-51-60-61	N-84°-E	3×1	6.44	4.56	柱間 1.48～2.6 間隔 4.16～4.56	0.8×0.8	0.5～0.8	近世Ⅰ	(15)SB-002・SB-003と重複
(15)SB-005	22FF-59-69-79、23GG-50-51-60-61-70-71	N-86°-E	2×1	5.02	4.60	柱間 2.2～2.82 間隔 4.3～4.6	1.0×1.0～ 1.2×1.2	0.5～0.8	近世Ⅰ	(15)SB-001・SB-003と重複
(15)SB-003	23GG-51-60-61-70	N-64°-E	1×1	4.58	3.16	柱間 1.06～1.58 間隔 3.12～3.16	0.4×0.4～ 0.5×0.5	0.5～0.6	近世Ⅲ	(15)SB-001・SB-002と重複
(15)SB-004	23GG-52-62-72-72-82	N-3°-W	3×-	10.04	-	柱間 2.2～4.28 間隔 -	0.7×0.7～ 1.0×1.0	0.22～0.5	近世Ⅰ	複列

第5表 地下式坑・井戸・火葬遺構・土坑一覧表 時期：中世～後、近世Ⅰ＝16世紀～17世紀、近世Ⅱ＝17世紀～19世紀

遺構番号	種類	位置	長(±)軸方向	計測値:m			時期	備考
				長軸	短軸	深さ		
(1)SK-001	井戸	23FF-92	N-42°-W	1.54	1.48	<2.30>	近世Ⅱ	第1区 (1)SD-003と重複
(1)SK-002	土坑	23FF-83	N-2°-E	1.60	1.18	0.41	近世	第1区
(1)SK-003	井戸	24FF-22	N-84°-E	1.40	1.34	<1.70>	近世	第1区
(1)SK-004	井戸	24FF-34	N-30°-W	1.10	0.92	1.22	近世	第1区
(1)SK-005	井戸	23FF-52	N-66°-E	1.82	1.74	<1.64>	中世	第1区
(1)SK-006								矢番
(1)SK-007	地下式坑	23FF-55	N-70°-E	2.80	2.20	1.28	中世	第1区 (1)SD-001より古
(1)SK-008	土坑	23FF-72	N-8°-W	2.93	1.42	0.24	近世	第1区
(1)SK-009A	土坑	23FF-75	N-7°-W	2.66	2.25	0.56	中世	第1区 (1)SK-009Bより新
(1)SK-009B	土坑	23FF-74	N-6°-W	1.20	<0.36>	0.39	中世	第1区 (1)SK-009Aより古
(1)SK-009C	土坑	23FF-74	N-9°-E	1.16	1.04	0.27	近世	第1区 (1)SK-009Aと重複
(1)SK-010	土坑	23FF-84	N-16°-W	1.36	1.32	0.23	近世	第1区
(1)SK-011	土坑	24FF-35	N-3°-E	2.20	1.20	0.32	近世	第1区 (1)SK-011と重複
(1)SK-012	土坑	24FF-36	N-80°-W	2.25	1.24	0.32	近世	第1区 (1)SK-011と重複
(1)SK-013	土坑	23FF-73	N-12°-W	1.24	1.40	0.32	近世	第1区
(1)SK-014	土坑	23FF-63	N-16°-W	2.53	0.90	0.38	近世	第1区
(1)SK-015	火葬遺構	23FF-73	N-48°-W	1.80	0.80	0.36	近世Ⅱ	第1区
(1)SK-016	火葬遺構	23FF-69	-	<0.70>	<0.30>	0.16	近世Ⅱ	第1区 南側複数
(1)SK-017	火葬遺構	23FF-69	N-93°-E	<1.70>	<0.80>	0.25	近世Ⅱ	第1区 北側複数
(1)SK-018	土坑	23FF-87	N-92°-E	1.54	1.04	0.22	近世	第1区
(1)SK-019	土坑	23FF-97	N-27°-W	1.58	1.47	0.28	近世	第1区
(1)SK-020	土坑	24FF-27	N-81°-E	<1.70>	1.50	0.64	近世Ⅱ	第1区 (1)SD-004より古
(1)SK-021	火葬遺構	23FF-99	N-3°-E	0.98	0.54	0.11	近世Ⅱ	第1区
(1)SK-022	土坑	24FF-28	N-28°-E	0.72	0.62	0.35	近世Ⅱ	第1区 粘土貼り
(1)SK-023	土坑	23GG-80	N-28°-W	<1.30>	<0.88>	0.44	近世	第1区 東側調査区域 (1)SK-024より新
(1)SK-024	土坑	23GG-90	N-75°-E	<1.12>	<1.12>	0.52	近世	第1区 東側調査区域 (1)SK-023より古
(1)SK-025	土坑	23FF-67	N-1°-W	1.12	0.90	0.55	近世	第1区
(1)SK-026	土坑	23GG-80	N-30°-W	1.21	0.90	0.30	近世	第1区
(1)SK-027	土坑	23GG-89	N-18°-W	1.43	<0.92>	0.20	近世	第1区 東側調査区域 底面に墨書きのビット
(1)SK-028	土坑	23FF-79	N-8°-E	<1.26>	<0.86>	0.32	近世	第1区 東側調査区域
(1)P-1	ピット	23FF-23	N-60°-E	<0.56>	0.44	0.68	近世	第1区
(3)SK-029	土坑	24EE-83	-	0.85	0.85	0.35	調査前期	黒浜式期
(8)SK-001	土坑	22FF-84	N-65°-E	1.88	1.60	0.37	近世	第2区
(8)SK-002	土坑	22FF-65	N-83°-E	1.78	0.92	0.53	近世	第2区
(14)SK-001	土坑	23FF-29	N-10°-W	1.34	0.94	0.11	近世	第2区
(14)SK-002	土坑	23FF-19	N-12°-W	1.45	1.10	0.30	近世	第2区
(14)SK-003	土坑	23GG-74	N-9°-W	2.62	1.70	0.63	中世	第2区 (14)SD-003と重複
(14)SK-004	地下式坑	23FF-38	N-72°-E	2.73	1.95	0.66	中世	第2区 (14)SD-010より古

道標番号	種類	位置	長(E)軸方向	計測値 : m			時期	備考
				長軸	短軸	深さ		
(14)SK-005	土坑	23FF-29	N-3° -W	1.60	1.10	0.16	近世	第Ⅱ区 (14)SK-006と重複
(14)SK-006	土坑	23FF-29	N-5° -W	1.06	0.84	0.36	近世	第Ⅱ区 (14)SK-005-SD-001と重複
(14)SK-007	土坑	23FF-09	N-7° -E	1.23	0.92	0.29	近世	第Ⅱ区 粘土貼り (14)SD-003と重複
(14)SK-008	土坑	23FF-39	N-7° -E	<1.28>	1.46	0.33	近世	第Ⅱ区 (14)SD-001と重複
(14)SK-009	土坑	22GG-94	-	<1.80>	<1.60>	<0.75>	近世	第Ⅲ区 (14)SD-007と重複
(14)SK-010	井戸	23GG-03	N-47° -W	1.84	1.56	1.43	近世 I	第Ⅲ区 (14)SD-001と重複
(14)SK-011	土坑	22FF-99	N-13° -W	0.98	0.90	0.03	近世	第Ⅱ区 粘土貼り
(14)SK-012	土坑	22FF-99	N-72° -W	2.30	1.45	0.40	近世	第Ⅱ区 粘土貼り (14)SD-001と重複
(14)SK-013	井戸	22FF-16	N-17° -W	<0.90>	<0.70>	<1.70>	近世 II	第Ⅱ区 (14)SD-009より新
(14)SK-014	土坑	22FF-89	N-10° -W	<1.18>	1.10	0.42	近世	第Ⅱ区 粘土貼り (14)SD-001と重複
(14)SK-015	井戸	23GG-81	N-80° -W	2.18	2.00	<0.20>	近世	第Ⅰ区
(14)SK-016	井戸	22GG-92	N-5° -W	1.06	0.92	0.90	近世 II	第Ⅲ区
(14)SK-017	土坑	23GG-14	N-38° -W	<2.70>	<1.70>	0.48	近世	第Ⅲ区 (14)SD-013より新
(14)SK-018	土坑	23GG-33	N-37° -W	0.92	0.76	1.16	近世	第Ⅲ区 (14)SD-013と重複
(14)SK-019	土坑	23GG-32	N-5° -W	<1.20>	<0.80>	<1.34>	近世	第Ⅲ区 西側調査区域 (14)SD-013と重複
(14)SK-020	土坑	23GG-23	N-35° -E	1.06	0.98	<1.28>	近世	第Ⅲ区 (14)SD-013と重複
(15)SK-001	土坑	22FF-69	N-90° -W	3.32	2.65	0.23	近世 II	第Ⅱ区 (15)SD-001より新
(15)SK-002	土坑	22FF-79	N-3° -E	3.90	3.00	0.17	近世 II	第Ⅱ区 (15)SD-001より新
(15)SK-003	土坑	22FF-68	N-9° -E	1.80	<1.03>	0.36	近世 II	第Ⅱ区 西側調査区域
(15)SK-004	井戸	22GG-95	N-20° -W	1.52	1.10	<0.56>	中世	第Ⅲ区
(15)SK-005	土坑	22FF-78	N-6° -E	<1.36>	0.54	0.20	中世	第Ⅱ区 南側調査区域
(15)SK-006	土坑	23GG-96	N-79° -W	1.55	1.22	0.47	中世	第Ⅲ区
(15)SK-007	土坑	22GG-96	N-7° -W	<2.87>	0.94	0.28	近世	第Ⅲ区 (15)SD-002-SD-004より新
(15)SK-008	土坑	23GG-22	N-68° -E	<3.60>	2.80	0.67	近世	第Ⅲ区 (15)SK-009-SK-013より新
(15)SK-009	土坑	23GG-22	-	<1.40>	<0.68>	0.40	近世 II	第Ⅲ区 東側調査区域 (15)SK-008より古
(15)SK-010							矢番	
(15)SK-011							矢番	
(15)SK-012							矢番	
(15)SK-013	土坑	23GG-31	N-11° -W	<1.78>	1.40	0.22	中世	第Ⅲ区 SK-008・SD-003より古
(15)SK-014	土坑	22GG-85	N-85° -E	<2.80>	0.54	0.18	近世	第Ⅲ区 (15)SD-004-SD-005と重複
(15)SK-015	土坑	23GG-22	N-10° -E	3.30	1.40	0.30	近世	第Ⅲ区
(15)SK-016	地下式坑	23GG-50	N-4° -E	2.80	2.30	0.63	中世	第Ⅱ区
(15)SK-017	土坑	22GG-46	N-7° -E	<1.80>	1.70	<0.50>	近世	第Ⅲ区 北側調査区域 (15)SD-006と重複
(15)SK-018	土坑	22GG-57	N-60° -W	1.08	0.96	<0.50>	近世	第Ⅲ区
(15)SK-019	土坑	22GG-56	N-87° -E	<1.27>	1.50	<0.60>	近世	第Ⅲ区 西側調査区域 (14)SD-005と同一
(15)SK-020	土坑	22GG-56	N-84° -E	2.10	1.37	<0.62>	中世	第Ⅲ区
(15)SK-021	土坑	22GG-57	N-7° -W	<2.40>	1.72	0.28	近世 II	第Ⅲ区 (15)SK-022と重複
(15)SK-022	土坑	22GG-57	N-87° -E	1.92	1.10	0.43	近世 I	第Ⅲ区 (15)SK-021と重複
(15)SK-023	土坑	22GG-76	N-14° -E	<1.16>	1.60	0.50	近世	第Ⅲ区 南側調査区域
(15)SK-024	井戸	23GG-30	-	2.00	<1.90>	<1.54>	近世 II	第Ⅲ区
(15)SE-002	井戸	23GG-97	N-1° -W	0.97	0.75	<0.36>	近世	第Ⅲ区
(15)SE-003	井戸	23GG-32	N-73° -W	1.38	1.24	<1.45>	近世	第Ⅲ区
(15)SE-004	井戸	23GG-02	N-6° -W	1.90	1.60	<0.70>	近世 I	第Ⅲ区
(16)SK-001	土坑	19FF-98	-	1.20	1.20	0.39	調査	
(16)SK-002	土坑	20GG-87	-	1.30	1.30	0.38	調査	
(16)SK-003	土坑	20GG-86	-	2.36	1.66	0.92	調査前段	黑浜式期
(16)SK-004	土坑	21GG-37	-	1.90	1.25	0.84	調査	
(16)SK-005	土坑	21GG-47	-	2.66	1.00	0.56	調査	
(16)SK-006	土坑	21GG-27	-	0.70	0.40	0.31	調査前段	黑浜式期
(16)SK-007	土坑	21GG-56	-	2.12	1.04	-	調査	
(16)SK-008	土坑	21GG-57	-	1.26	1.00	-	調査	
(16)SK-009	土坑	21GG-57	-	0.72	0.66	-	調査	

遺構番号	種類	位置	長(矢)軸方向	計測値:m			時期	備考
				長軸	短軸	深さ		
(19)SK-001	舟印	22GG-14	N-3°-E	3.26	2.40	<1.35>	近世I	第Ⅲ区 (19)SK-011と重複
(19)SK-002	地下式坑	22GG-42	N-1°-W	2.98	2.46	0.72	中世	第Ⅲ区
(19)SK-003	土坑	22GG-33	N-82°-E	1.65	1.14	0.20	近世	第Ⅲ区 (19)SK-018と重複
(19)SK-004	土坑	22GG-25	N-72°-E	1.92	1.32	0.69	近世	第Ⅲ区 (19)SK-029と重複
(19)SK-005	土坑	22GG-22	N-14°-W	1.83	1.55	0.49	近世	第Ⅲ区
(19)SK-006	火葬遺構	22GG-36	N-58°-W	3.06	1.31	0.18	近世II	第Ⅲ区 (19)SK-007-SK-027と重複
(19)SK-007	土坑	22GG-25	N-6°-W	1.55	1.34	0.81	近世II	第Ⅲ区 (19)SK-027より新
(19)SK-008	土坑	22GG-24	N-1°-W	1.88	1.00	0.49	近世	第Ⅲ区 (19)SK-009より古
(19)SK-009	土坑	22GG-24	N-17°-W	2.02	1.14	0.31	近世	第Ⅲ区 (19)SK-008より新
(19)SK-010	土坑	22GG-24	N-28°-E	1.50	1.30	0.30	近世	第Ⅲ区
(19)SK-011	土坑	22GG-04	N-71°-E	1.80	1.46	0.42	近世	第Ⅲ区
(19)SK-012	土坑	22GG-14	N-13°-W	1.46	0.86	0.29	近世	第Ⅲ区
(19)SK-013	土坑	22GG-12	N-36°-W	<1.20>	0.96	0.24	近世	第Ⅲ区 (19)SK-030と重複
(19)SK-014	土坑	22GG-32	N-13°-W	1.68	1.08	0.19	近世	第Ⅲ区
(19)SK-015	土坑	22GG-32	N-33°-W	1.44	1.42	0.43	近世	第Ⅲ区 (19)SK-016-SK-001と重複
(19)SK-016	土坑	22GG-32	N-7°-W	<0.80>	<1.28>	0.48	近世	第Ⅲ区 (19)SK-015-SK-017と重複
(19)SK-017	土坑	22GG-32	N-14°-W	2.00	1.31	0.83	近世I	第Ⅲ区 (19)SK-016-SK-003と重複
(19)SK-018	土坑	22GG-33	N-15°-W	<2.30>	1.30	0.25	中世	第Ⅲ区 (19)SK-023-SK-028と重複
(19)SK-019	土坑	22GG-13	N-2°-E	<1.58>	1.12	0.28	近世II	第Ⅲ区 南側擾乱
(19)SK-020	土坑	22GG-13	N-1°-W	<0.90>	0.98	0.29	近世II	第Ⅲ区 南側擾乱
(19)SK-021	土坑	22GG-13	N-6°-W	<0.80>	1.16	0.21	中世	第Ⅲ区 北側擾乱 (19)SK-001より古
(19)SK-022	土坑	22GG-23	N-85°-W	1.77	1.04	0.44	近世	第Ⅲ区 (19)SK-023-SK-028と重複
(19)SK-023	土坑	22GG-23	N-89°-W	1.60	1.20	0.38	近世I	第Ⅲ区 (19)SK-018-SK-022-SK-028と重複
(19)SK-024	土坑	22GG-34	N-79°-E	1.30	—	0.40	近世II	第Ⅲ区 南側擾乱 (19)SK-029と重複
(19)SK-025	舟印	22GG-03	N-83°-E	3.07	2.58	<1.90>	中世	第Ⅲ区
(19)SK-026	火葬遺構	22GG-15	N-74°-E	2.68	1.12	0.22	近世II	第Ⅲ区
(19)SK-027	土坑	22GG-25	N-1°-E	<2.70>	1.84	0.40	近世II	第Ⅲ区 北側擾乱 火葬遺構か (19)SK-007より古
(19)SK-028	土坑	22GG-23	N-7°-E	<0.90>	<0.70>	0.23	近世	第Ⅲ区 (19)SK-018-SK-022-SK-023と重複
(19)SK-029	土坑	22GG-35	N-88°-E	2.92	<1.50>	0.42	近世	第Ⅲ区 (19)SK-004-SK-007-SK-024と重複
(19)SK-030	土坑	22GG-12	N-79°-E	1.62	0.94	0.31	近世	第Ⅲ区 (19)SK-013と重複
(19)SE-001	舟印	22GG-22	N-35°-W	<1.30>	1.30	<1.58>	中世	第Ⅲ区 (19)SK-015と重複
(19)SE-002	舟印	22GG-42	N-35°-W	1.56	1.50	<0.88>	近世I	第Ⅲ区
(19)SE-003	舟印	22GG-33	N-79°-E	1.23	—	<0.98>	近世	第Ⅲ区 (19)SK-017と重複
(21)SK-001	縄穴	27HH-91	N-59°-E	2.90	1.92	2.59	縄文前期	黒浜式期
(25)SK-001	土坑	15BB-11	N-15°-W	3.48	1.80	0.78	近世	南側深2-005 (25)SD-002と重複
(25)SK-002	土坑	15BB-73	N-68°-E	5.06	3.76	0.92	近世II	(25)SD-002-SD-003より新
(25)SK-003	舟印	15BB-84	N-8°-W	0.87	0.82	<0.88>	近世	
(25)SK-004	土坑	15BB-86	N-72°-E	1.60	1.14	<0.45>	近世	
(25)SK-005	土坑	15BB-63	N-46°-W	2.70	1.05	<1.05>	近世	
(25)SK-006	舟印	15BB-44	N-77°-W	2.04	1.78	<0.86>	近世II	
(25)SK-007	土坑	14BB-92	N-22°-W	2.30	2.10	1.32	近世	
(25)SK-008	土坑	16BB-22	N-21°-W	2.57	2.25	1.26	近世	底面に長辺11、短辺9.8、深さ0.2~0.3の掘り込み (25)SD-001と重複
(26)SK-001	縄穴	12CC-65	N-37°-W	2.20	1.50	<0.80>	縄文前期	黒浜式期
(26)SK-002	土坑	12CC-57	N-63°-W	1.23	1.14	0.23	近世	北東側に幅0.56、深さ0.18の掘り込み
(27)SK-001	火葬遺構	16W-46	N-75°-E	2.74	1.38	0.20	近世II	(27)SD-001より新 (27)SK-002と重複
(27)SK-002	土坑	16W-45	N-87°-W	—	0.77	0.25	近世	(27)SK-001と重複
(27)SK-003	土坑	16W-66	N-26°-W	4.11	1.86	0.45	近世	(27)SD-001と重複
(27)SK-004	土坑	16W-56	N-19°-W	1.30	0.84	0.52	近世	(27)SD-001と重複
(32)SK-001							矢番	
(32)SK-002	土坑	10Y-31	—	1.62	1.50	0.55	縄文	
(32)SK-003	卯跡	10Y-53	N-53°-E	0.60	0.60	—	古墳時代	
(32)SK-004	縄穴	10X-67	N-68°-W	1.68	1.00	1.86	縄文前期	黒浜式期
(33)SK-002	縄穴	11AAA-98	N-73°-W	2.48	0.58	0.50	縄文早期~	

第6表 満一覧表

道機番号	位置	走行方向	計測値:m				時期	備考
			距離	幅	深さ	高さ		
(1)SD-001	23FF-47 ~ 23FF-71	N-71°-E	<285>	3.40 ~ 4.50	0.22 ~ 0.24	近世 II	第Ⅰ区 漢2条が復活 曲輪近世 I 北側近世 II	
(1)SD-002	23FF-82 ~ 23FF-96	N-60°-E	<168>	0.10 ~ 0.19	0.05 ~ 0.12	近世 II	第Ⅰ区 東端で南北90°屈曲	
(1)SD-003	23FF-96 ~ 24FF-02	N-5°-W	<86>	0.19 ~ 0.18	0.03 ~ 0.12	近世	第Ⅰ区 「S」字に航行 (1)SK-001と重複	
(1)SD-004	23FF-57 ~ 24FF-37	N-7°-W	<342>	0.30 ~ 0.50	0.10 ~ 0.16	近世 II	第Ⅰ区 北端で東西87°屈曲 (1)SK-020より新	
(1)SD-005	24FF-29	N-7°-W	<41>	0.30 ~ 0.45	0.06 ~ 0.11	近世 II	第Ⅰ区	
(3)SD-001	23EE-75 ~ 23EE-78	N-89°-E	<80>	1.10 ~ 1.60	-	近世 II		
(6)SD-003	22FF-33 ~ 22EE-57	N-72°-E	<245>	1.28 ~ 1.68	0.31 ~ 0.39	近世 II	第Ⅱ区 (14)SD-011と同一	
(8)SD-001	22FF-53 ~ 23FF-06	N-2°-W	<240>	1.30 ~ 1.90	0.56 ~ 0.66	近世 I	第Ⅱ区 南端で東西114°屈曲 (14)SD-009と同一	
(8)SD-002	23FF-06 ~ 23GG-46	N-9°-E	<155>	1.00 ~ 1.35	0.19 ~ 0.30	近世 II	第Ⅱ区 (8)SD-001と接続	
(11)SD-001	25GG-33 ~ 25GG-37	N-45°-W	<21>	0.90 ~ 1.26	0.38 ~ 0.46	近世		
(14)SD-001	22FF-89 ~ 23GG-30	N-7°-W	<226>	1.20 ~ 2.13	0.06 ~ 0.21	近世 II	第Ⅱ区 2回振り直し (15)SD-001と同一	
(14)SD-002	23GG-00	N-102°-E	<20>	<0.84>	0.15	近世 II	第Ⅱ区 (14)SD-001と接続	
(14)SD-003	22GG-64 ~ 22GG-74	N-19°-W	<76>	1.20 ~ 2.34	0.10	近世 I	第Ⅱ区	
(14)SD-004	23GG-10	N-72°-E	<13>	0.54	0.11	近世	第Ⅱ区	
(14)SD-005	22GG-54 ~ 22GG-64	N-79°-E	<23>	1.58	0.56	近世 I	第Ⅱ区 土地か	
(14)SD-006	22FF-89 ~ 22GG-80	N-77°-E	<21>	2.00	0.40	近世	第Ⅱ区	
(14)SD-007	22GG-80 ~ 22GG-93	N-87°-W	<18>	1.36	0.60	中世	第Ⅱ区 土地か	
(14)SD-008	22GG-94	N-88°-E	<34>	2.08	0.86	中世	第Ⅱ区 土地か	
(14)SD-009	22FF-17 ~ 22FF-55	N-2°-W	<240>	1.80 ~ 2.30	0.70 ~ 0.81	近世 I	第Ⅱ区 北端で東西61°屈曲 (14)SK-013より古	
(14)SD-010	23FF-38 ~ 23FF-39	N-76°-E	<70>	0.68	0.14	近世	第Ⅱ区 (1)SD-001と同一 (14)SK-004より新	
(14)SD-011	22FF-26 ~ 22FF-36	N-79°-E	<125>	1.25 ~ 1.80	0.38 ~ 0.48	近世	第Ⅱ区 (6)SD-003と同一	
(14)SD-012	22FF-55	N-78°-W	<26>	0.84	0.25 ~ 0.49	近世	第Ⅱ区 土地か (14)SD-009と接続	
(16)SD-013	23GG-32 ~ 23GG-14	N-49°-E	<132>	1.60 ~ 2.12	0.60 ~ 0.82	近世 I	第Ⅲ区 (15)SD-003と同一	
(15)SD-001	22FF-49 ~ 22FF-79	N-7°-E	<133>	1.50 ~ 3.80	0.14 ~ 0.60	近世 II	第Ⅳ区 (14)SD-001と同一	
(15)SD-002	22GG-95 ~ 22GG-98	N-99°-E	<207>	1.50 ~ 2.70	0.16 ~ 0.98	近世 I	第Ⅳ区 東端は北に90°曲面状に屈曲	
(15)SD-003	23GG-32 ~ 23GG-40	N-69°-E	<92>	0.60 ~ 1.50	0.35 ~ 0.72	近世 I	第Ⅳ区 (14)SD-013と同一	
(15)SD-004	22GG-88 ~ 22GG-96	N-6°-W	<35>	0.75	0.09 ~ 0.11	近世	第Ⅳ区 (15)SK-007より古	
(15)SD-005	22GG-85 ~ 22GG-95	N-26°-W	<43>	0.26 ~ 0.52	0.17 ~ 0.19	近世	第Ⅳ区	
(15)SD-006	22GG-46	N-85°-E	<16>	1.60	0.13	近世	第Ⅳ区 土地か	
(17)SD-001	17DD-96 ~ 17EE-43	N-57°-E	<373>	1.40 ~ 1.80	0.23 ~ 0.41	近世 I		
(19)SD-001	22GG-04 ~ 22GG-10	N-73°-E	<136>	0.30 ~ 0.80	0.19 ~ 0.42	近世 II	第Ⅳ区 (19)SK-021より新	
(25)SD-001	15BB-50 ~ 16BB-22	N-26°-W	<287>	1.10 ~ 2.10	0.31 ~ 0.52	近世 II		
(25)SD-002	14BB-91 ~ 16BB-14	N-16°-W	<506>	0.20 ~ 1.60	0.16 ~ 0.29	近世 II	(25)SK-001と重複 (25)SK-002より古	
(25)SD-004	15BB-33 ~ 16BB-05	N-24°-W	<366>	0.40 ~ 1.80	0.11 ~ 0.37	近世 II	北端で東西90°屈曲 (25)SK-002より古	
(26)SD-001	12CC-55 ~ 12CC-76	N-11°-W	<62>	1.22 ~ 1.42	0.17 ~ 0.25	近世		
(27)SD-001	16W-05 ~ 17W-39	N-14°-W	<550>	1.80 ~ 2.20	0.70 ~ 0.89	近世 II	(27)SK-001より古 (27)SK-003-SK-004と重複	
(31)SD-001	14Z-46 ~ 15AA-41	N-25°-W	<430>	3.24	1.00	近世 II	野馬町 東端規造	
(31)SD-002	14Z-54 ~ 15AA-40	N-38°-W	<440>	0.56 ~ 1.20	0.18 ~ 0.36	近世 II		
(31)SD-003	13X-48 ~ 13Y-71	N-47°-W	<160>	0.70 ~ 0.80	0.36 ~ 0.50	近世 II		
(32)SD-001	16Y-02 ~ 19Y-54	N-23°-W	<225>	0.80	0.40 ~ 0.50	古墳時代		
(33)SD-001	11A-85 ~ 12A-07	N-49°-W	<109>	0.76 ~ 1.22	0.70 ~ 0.90	近世		
(34)SD-001	18CC-54 ~ 18CC-75	N-32°-W	<116>	1.40 ~ 1.60	0.40	近世 II		
(34)SD-002	18CC-55 ~ 18CC-67	N-32°-W	<116>	1.40 ~ 1.80	0.37	近世 II		
(34)SD-003	15Y-12 ~ 15Y-22	N-65°-E	<37>	0.50 ~ 1.30	0.16	近世		



第9図 上層遺構分布(1)



第10図 上層遺構分布(2)



大割遺跡 第11図 屋敷内遺跡下層全測図

第2節 旧石器時代

屋敷内遺跡の所在する台地は、「弁天池」「こんぶくろ池」から流出する「地金堀」が北西方向から東側に迂回しながら流下する地点に位置する。この台地は北西部を最高地点として「地金堀」に向かい、なだらかに傾斜する地形である。

地金堀の流路の形成は更新世(洪積世)後期に遡り、第12図のボーリング調査成果によると、水成層最上部の砂質土層(Ds1)が東西300m程の幅で浸食されており、広大な流路を有していたことが分かる。水量は豊富であるが流域幅が広いため、緩やかに流下していたと推測され、このため当該期の景観はラグーン状の地形であったものと考えられる。

本遺跡対岸に位置する地金堀と利根川に挟まれた台地は、現在の県道に沿うように馬の背状に伸びる地形であり、本遺跡の所在する台地と比較して標高が高く、この砂質土層の上面レベルを比較しても2m程の高低差がある。このことは上部の凝灰質粘性土(Lc)の標高についても同様であり、更新世(洪積世)末期の風成層が形成される段階、そのなかでも早い時期に水面上に現れた台地といえる。これに対し本遺跡の所在する台地は、前述した台地よりも水面上に現れる時期が遅れ、関東ローム層直下の凝灰岩質粘土層が低位となり、結果として緩斜面部の下位では表土面から0.5m程掘削すると湧水が見られる。

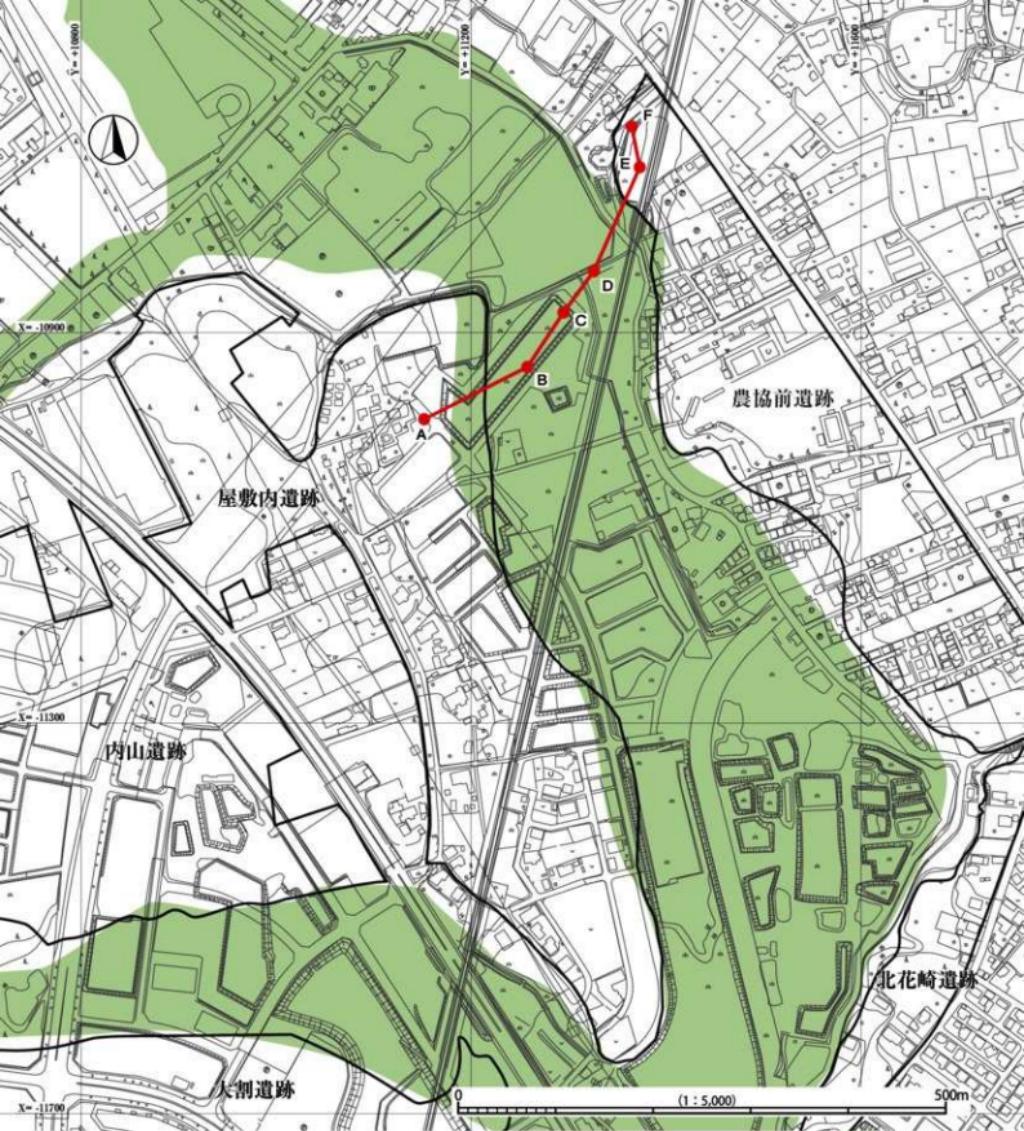
本遺跡の範囲内では、北西部の針葉樹林帯が最も標高が高く、17m～18mである。第13図の東西方向の土層断面では、10X-50 グリッド付近の立川ローム層下位に粘土層の影響が認められるが、ローム層の堆積は比較的良好であるといえる。この地点では第1ブロック～第9ブロックが検出されており、平面分布上では密集した様相が見られる。この地点から南西に向かい野馬手・野馬堀が延伸するが、概してこの付近の標高が高く、台地東側に位置する地金堀の流域に向かいながらに傾斜する。標高16mの等高線に沿ってブロックが単発的に所在するが、23・24FF グリッド付近の舌状に突出した台地の付け根付近、及び舌状台地の突端部にそれぞれブロックの集中箇所が認められる。

第1ブロック(第14～18図、第7表、図版4・40・41)

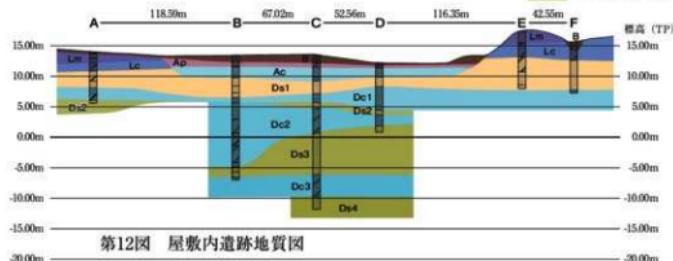
地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部、標高16m～17m付近に所在する。10X・10Y グリッドにかけて石器の集中が認められ、分布範囲は北東～南西方向に長軸15m・短軸9mと広い。後述する第2・第3ブロックと分布範囲が一部重複する。

礫群を伴い、礫は10X-39 グリッドに集中箇所が認められるが、そのほかはブロックの範囲内に散漫に分布する。剥片石器は特に集中箇所は認められず、散漫な分布状況である。

石器の出土標高は15.2m～16.1mであり、立川ローム層Ⅲ層からの出土である。剥片石器は計38点出土し、定型的な石器は黒曜石製のナイフ形石器1点のみである。そのほか削片・調整痕の認められる剥片が混在する。器種別では剥片が28点と点数比では73.68%を占め、重量比についても80.53%を占める。使用石材は明るい茶色の硬質な頁岩が18点で、点数比47.36%・重量比で52.62%を占める。次は黒曜石の15点であり、点数比39.47%・重量比19.15%となる。重量比では2点出土しているホルンフェルス製の石器が24.58%と黒曜石製の石器を上回る。礫群を構成する礫の石材は、頁岩・砂岩・チャート・ホルンフェルス・流紋岩・片麻岩・ハンレイ岩・ひん岩であり、このうち流紋岩は、礫の状態での出土が17点、礫片が21点で、点数比51.35%・重量比50.70%と半数を占める。



地層層序表		
	地層名	記号
現世	表土・盛土・埋土	B
完新世	沖積層	
	腐植土層	Ap
	粘性土層	Ac
第 四 紀	関東ローム層	Lm
	凝灰質結核土	Lc
	洪積第1層	Ds1
	粘性土層	Dc1
	洪積第2層	Ds2
	粘性土層	Dc2
	洪積第3層	Ds3
	粘性土層	Dc3
	洪積第4層	Ds4



第12図 屋敷内遺跡地質図

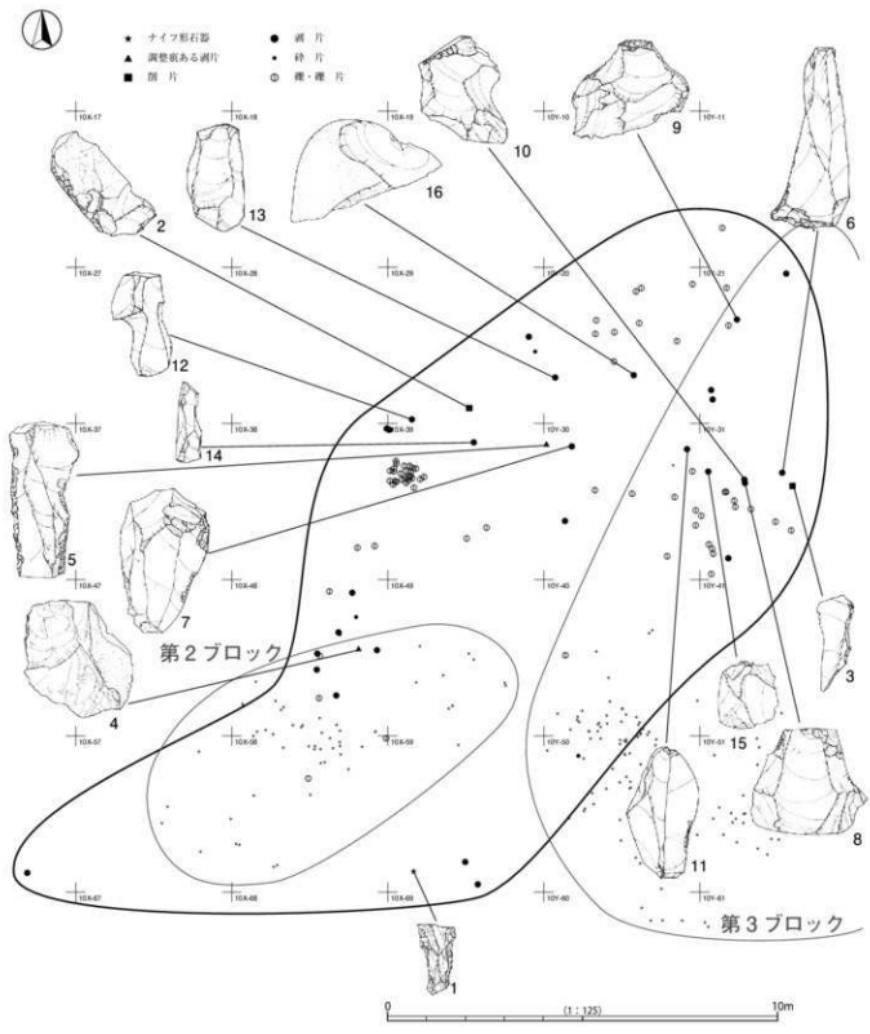


第13図 屋敷内遺跡土層柱状図

は沖積層範囲

(1 : 5,000)

500m

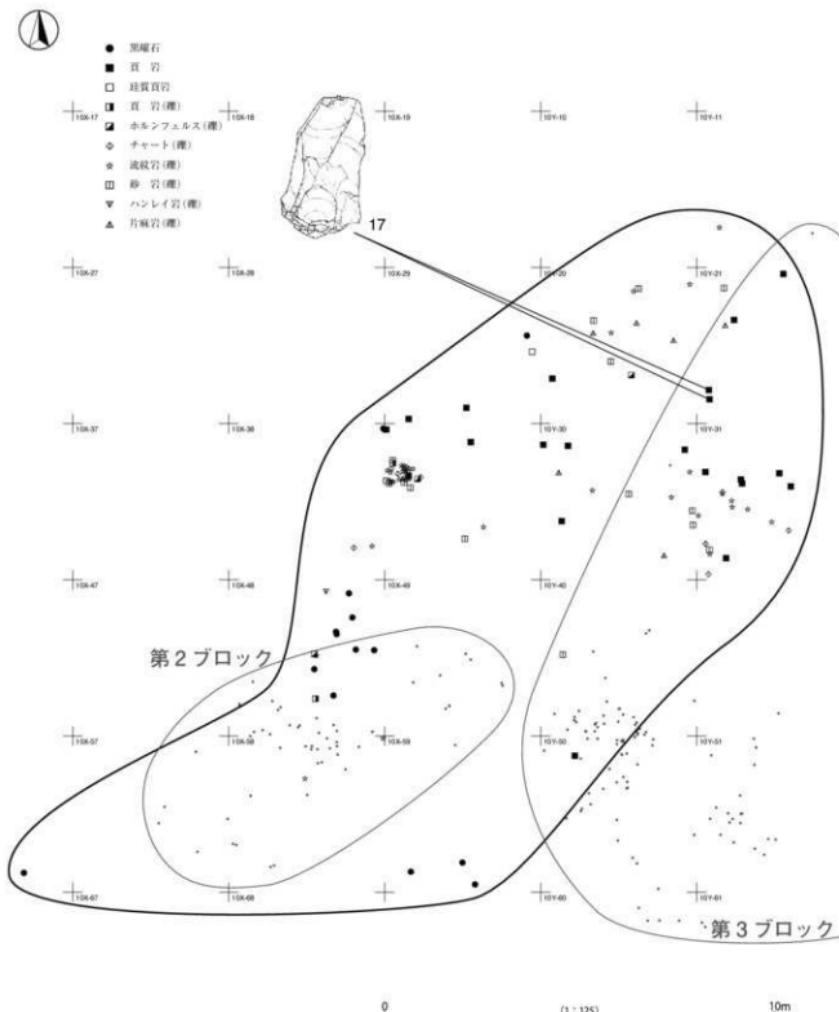


第14図 第1ブロック器種別分布図

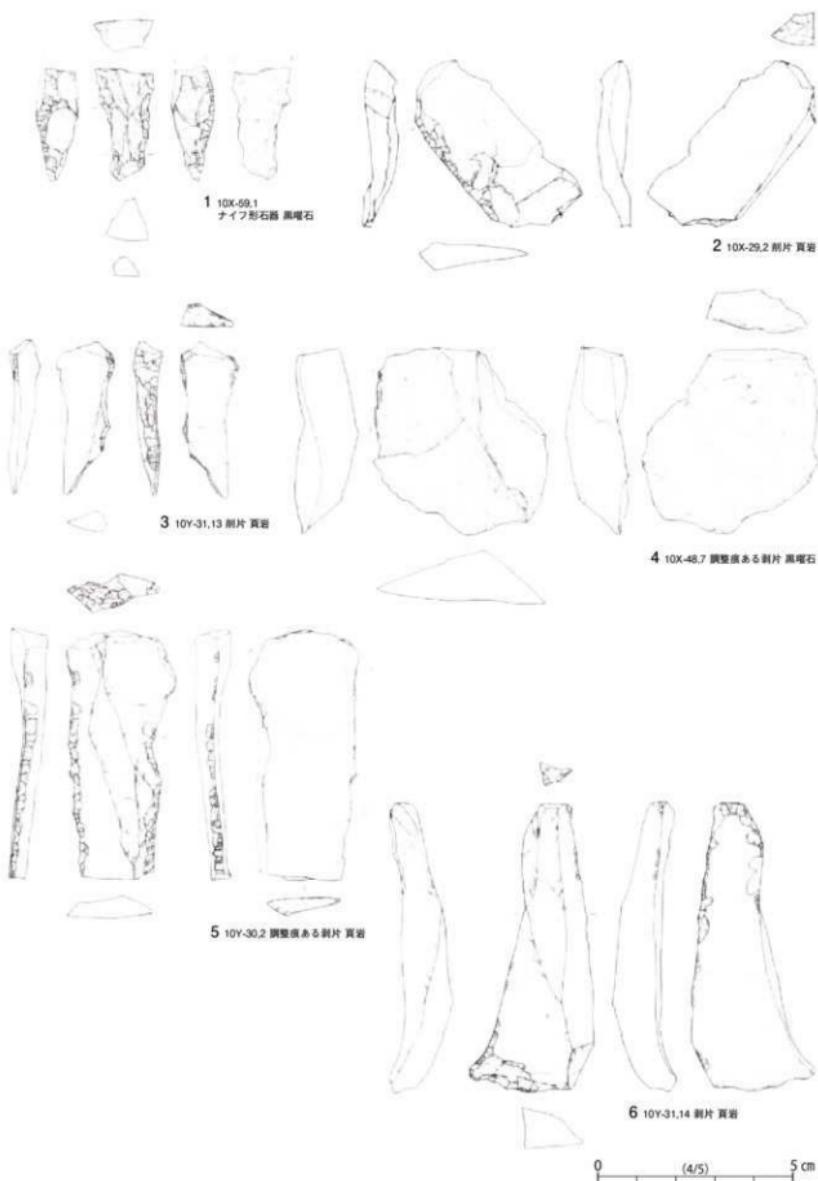
出土遺物

1は黒曜石製のナイフ形石器である。先端部が欠損している。部厚な横長剥片を素材とし、素材剥片の打面部及び末端部に対し腹面からの急角度の調整を施し製品としている。

2・3は頁岩製の削片である。2は大型で背面には微細な調整が密に認められる。腹面の右側縁には



第15図 第1ブロック石材別分布図



第16図 第1ブロック出土遺物(1)

素材剥片の無調整部位が認められ、素材剥片の背面に調整を加えた後、作出されたものと考えられる。3の左側面には素材剥片への調整痕が認められるが、2のように片面加工であるか否かは判断できない。

4・5は調整痕の認められる剥片である。4は黒曜石製の大型の不定形剥片であり、打面を広く設定して作出される。調整部位は局所的であり、打面付近の片側縁に微細な調整痕が認められる。5は頁岩製の縦長剥片の両側縁に対し調整が施される。調整は腹面側から背面側に施され、無調整の側縁には微細な剥落痕も認められる。

6～15は頁岩製の剥片である。概して大型の剥片であるが、同ブロック内での頁岩製石器の剥片剥離作業の形跡は不明瞭であり、あるいは大型剥片の持ち込みにより形成されたブロックの可能性も否定できない。

16はホルンフェルス製の不定形剥片である。扁平蝶から作出された剥片であり、背面には素材礫の標面が大きく残る。また、この剥片が作出された打面も礫面である。

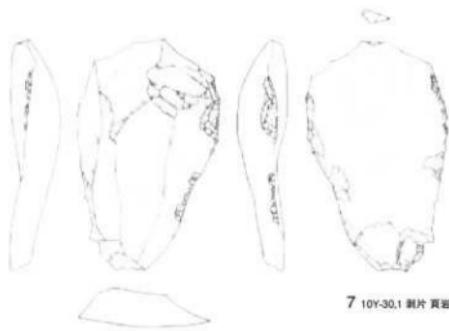
17は頁岩製の接合資料である。剥片剥離の際に打留から二方向に打撃が分かれ、剥落したもののが接合例である。縦長剥片であり、剥片末端部に最大厚を有する形状である。

第2ブロック(第19～24図、第8表、図版4・42～44)

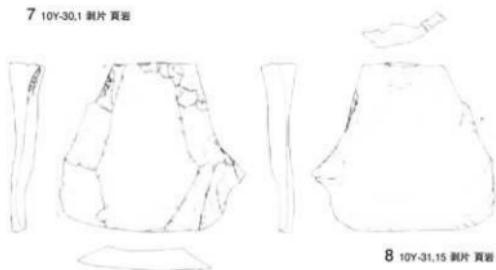
地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部、標高16m～17m付近に所在する。分布範囲は長軸10m・短軸4.5mの楕円形である。第1ブロックと平面分布が一部重複するが、第1ブロックの石器出土標高とは明確な差があり、第1ブロックの石器出土標高の15.2m～16.1mに対し、第2ブロック

第7表 第1ブロック石器組成表

石器	ナイフ		断片	調節痕 ある剥片	剥片	碎片	礫	離片	合計	組成比
	1	2								
黒曜石	1		1	10	3				15	39.47%
	3.70g		25.30g	24.40g	0.90g				54.30g	19.15%
頁岩	2	1	14	1					18	47.36%
	11.00g	12.70g	124.90g	0.60g					149.20g	52.62%
珪質頁岩			2	1					3	79.1%
			9.30g	1.00g					10.30g	3.65%
ホルンフェルス		2							2	5.26%
			69.70g						69.70g	24.58%
合計	1	2	2	28	5				38	100.00%
	3.70g	11.00g	38.00g	228.30g	2.50g				283.50g	100.00%
組成比	2.65%	5.26%	5.26%	73.68%	13.15%				100.00%	
	1.30%	3.88%	13.40%	80.53%	0.89%				100.00%	
頁岩					3				3	4.06%
					192.80g				192.80g	4.19%
砂岩					4	11	15		20.27%	
					338.10g	538.00g	876.10g		1996.0g	
チャート					5	4	9		12.16%	
					512.10g	203.90g	716.00g		1558.0g	
ホルンフェルス					1	1	1		1.35%	
					66.50g				66.50g	1.48%
流紋岩					17	21	38		51.35%	
					1,160.10g	1,170.30g	2,330.40g		5,670.80g	
片麻岩					6	6	6		8.11%	
					99.90g	99.90g	217.90g		515.70g	
ハンレイ岩					1	1	1		1.35%	
					122.90g				122.90g	2.67%
ひん岩					1	1	1		1.35%	
					191.10g	191.10g	4.15g		386.35g	
合計					31	43	74		100.00%	
					2,392.50g	2,203.20g	4,595.70g		9,191.40g	
組成比					41.89%	58.11%	100.00%		100.00%	
					52.06%	47.94%	100.00%		100.00%	



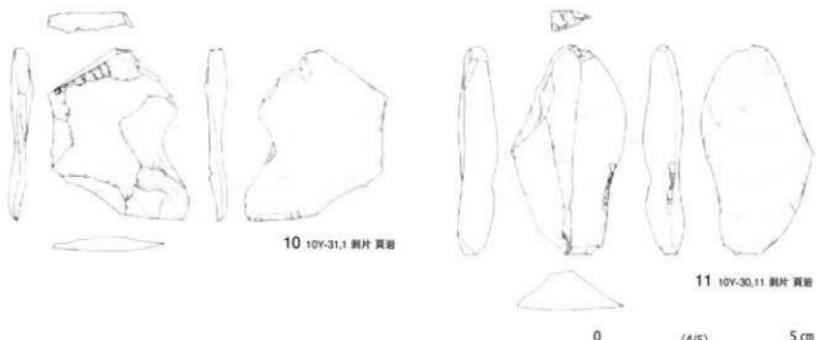
7 10Y-30.1 剥片 真岩



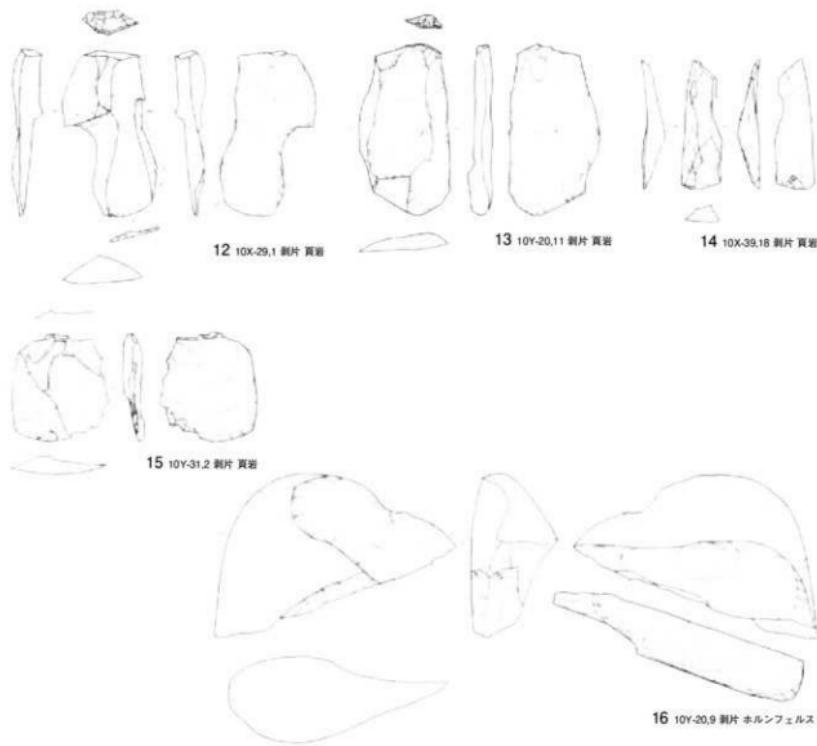
8 10Y-31.15 剥片 真岩



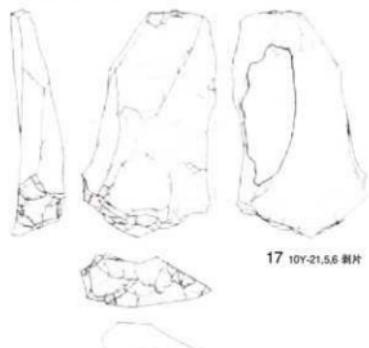
9 10Y-21.3 剥片 真岩



第17図 第1ブロック出土遺物(2)

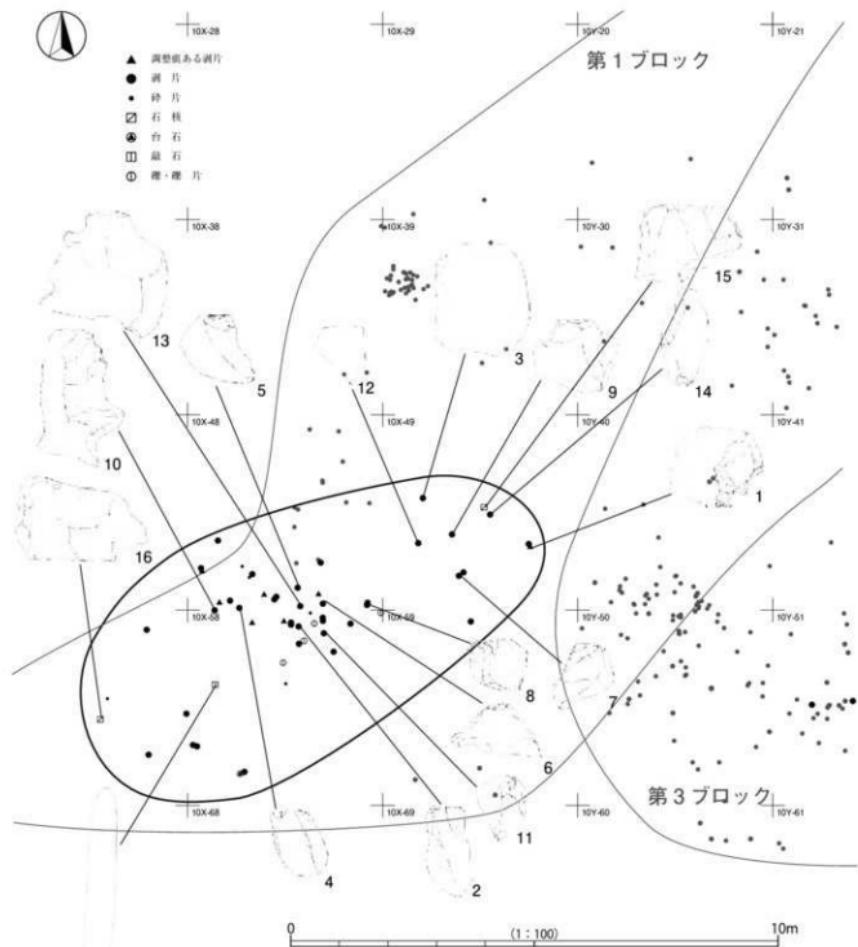


17 灰岩 接合資料



0 (4/5) 5 cm

第18図 第1ブロック出土遺物(3)



第19図 第2ブロック器種別分布図

クのそれは148m～15.1mである。出土層位は立川ローム層Ⅳ層である。

定型的な石器は認められず、石器組成は調整痕の認められる剥片のほかは、剥片・碎片・石核で構成される。

使用される石材は重量比25%の頁岩、21%の珪質頁岩を主体とするが、珪質頁岩製の調整痕の認められる剥片は出土していない。点数的には14%の玉髓が重量比では25%と頁岩製の石器とはほぼ同等の数値を示す。

出土遺物

1は玉髓製の調整痕の認められる剥片である。背面には原縫面が大きく遺存しており、右側縁方向からの剥片剥離の痕跡も認められる。調整は末端部に対し腹面からの調整及び左側縁から腹面向かって施される。

2～14は剥片である。2～4は頁岩製、5～8は珪質頁岩製、9～12は玉髓製、13は黒色安山岩製、14はチャート製である。概して縦長剥片であるが、6の横長剥片、8・9や11～13の不定形剥片が混在する。背面構成も、腹面の剥離の方向に一致する個体(4・5・7・9・14)、多方向からの剥離(6・8・11・12)、直角に振れている剥離が認められる個体(10・13)と多様である。

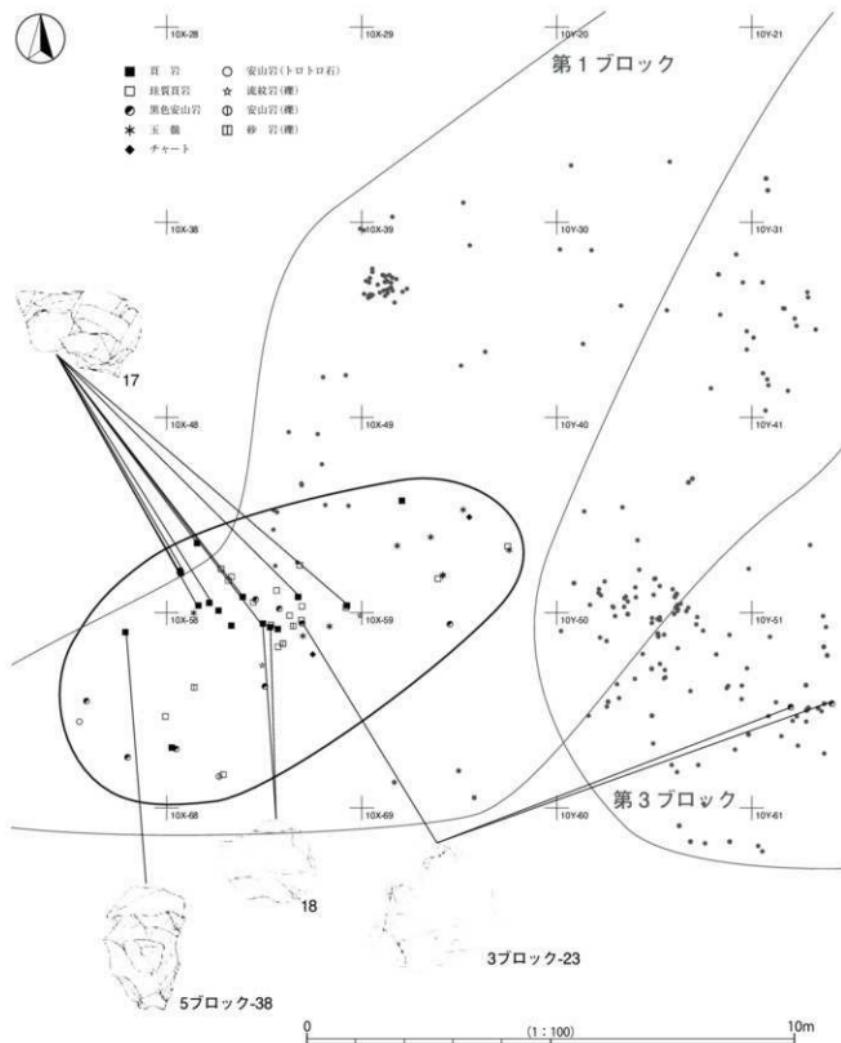
15は玉髓製、16は安山岩(トロトロ石)製の石核である。両者とも大型剥片に対し剥片剥離を行ったものと考えられ、15の正面、16の裏面に素材剥片の主要剥離面が認められる。石器素材剥片を目的とした剥離は基本的に単面に対し行われ、上下両端からの剥片剥離を基本とするが、15は右側面方向、16は左側面方向からの剥片剥離の痕跡が認められる。

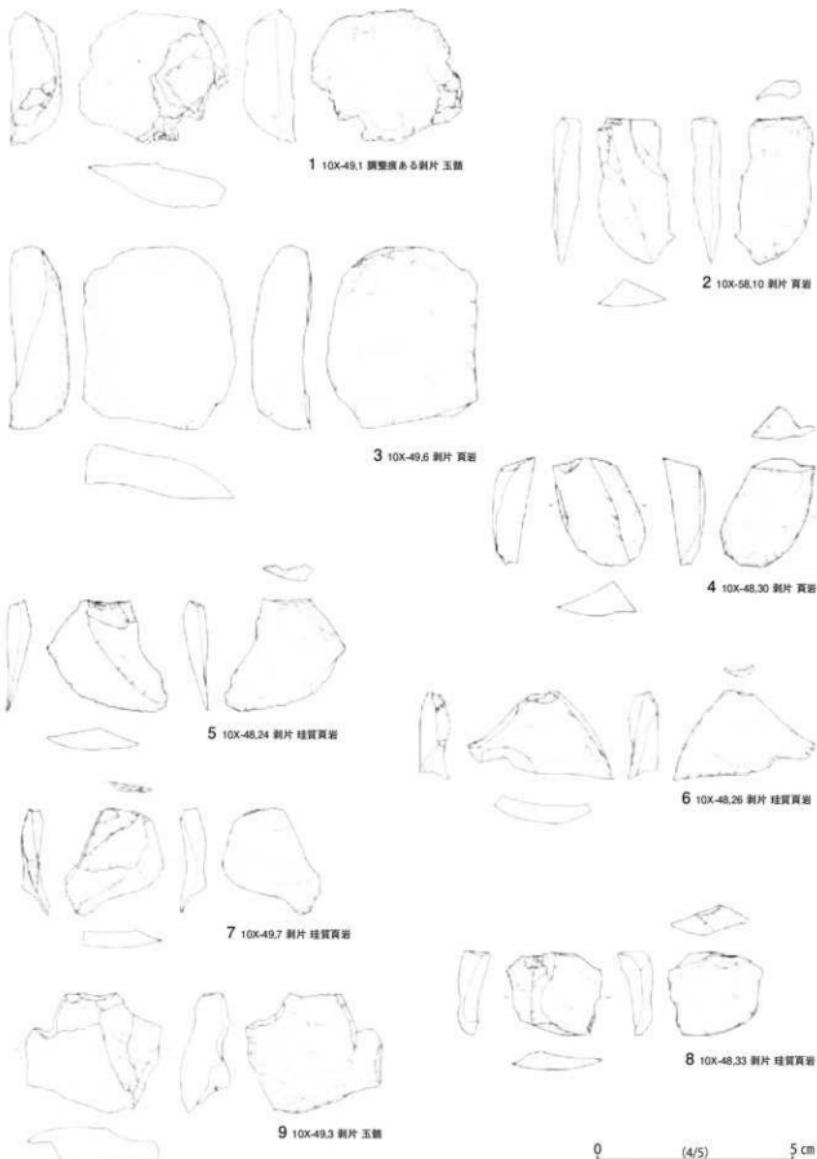
17は頁岩製の接合資料である。調整痕の認められる剥片・剥片の合計9点で構成される。円縫を素材とし、原縫面を除去するように17-1～17-4が作出され、作出された剥離面を打面とし17-5～17-9の剥片を連続的に作出している。

第2表 第2ブロック石器組成表

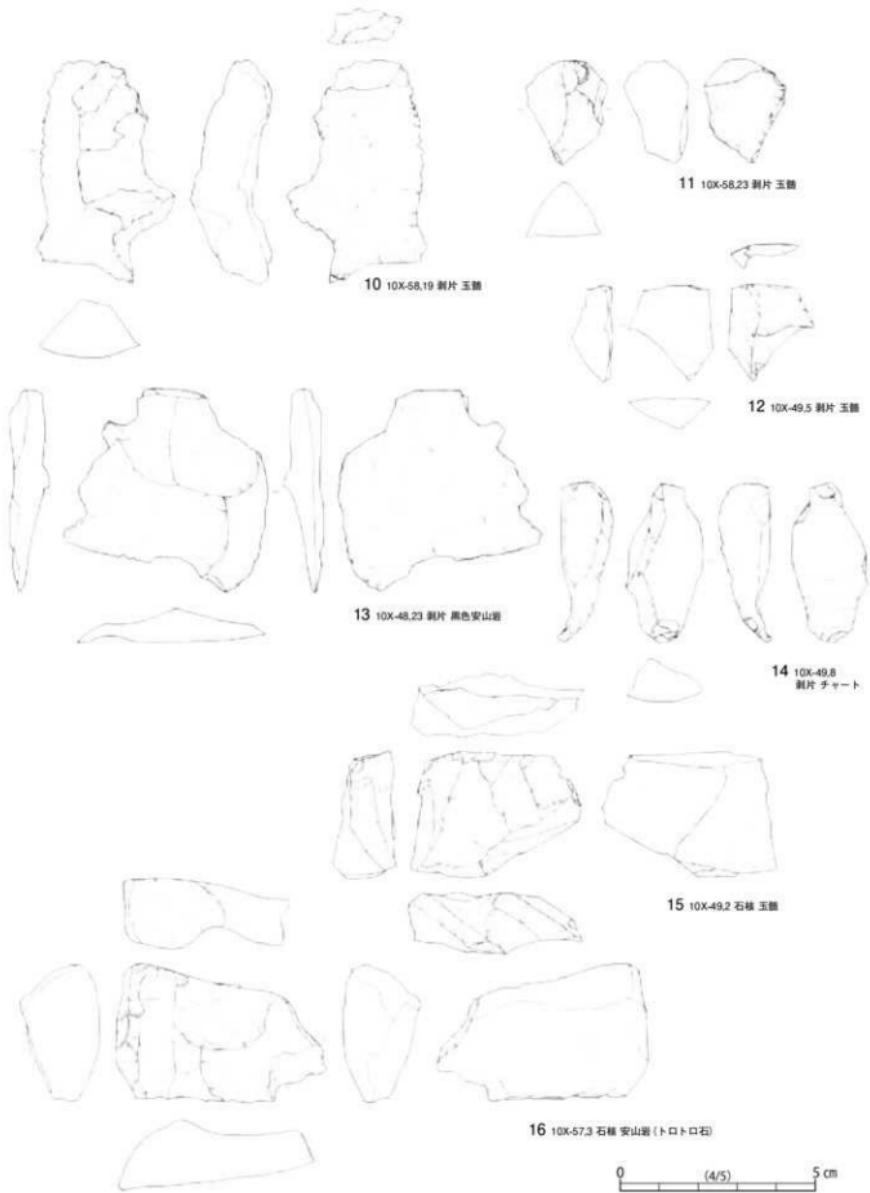
	調整痕 ある剥片	剥片	碎片	石核	戴石	台石	櫛	羅片	合計	組成比		
頁岩	6	10							16	29.6%		
	38.00g	61.50g							99.50g	25.2%		
玉髓(メノウ)	1	6		1					8	14.8%		
	18.20g	58.60g		22.10g					98.90g	25.05%		
珪質頁岩		13	4						17	31.4%		
		82.90g	2.40g						85.30g	21.6%		
黒色安山岩		6	2						8	14.8%		
		60.90g	0.50g						61.40g	15.5%		
安山岩(トロトロ石)				1					1	1.86%		
				30.70g					30.70g	7.78%		
チャート		3							3	5.55%		
		13.70g							13.70g	3.47%		
流紋岩		1							1	1.86%		
		4.90g							4.90g	1.25%		
合計	7	39	6	2					54	100.00%		
	56.20g	282.50g	2.90g	52.80g					394.40g	100.00%		
組成比	12.96%	72.22%	11.11%	3.71%					100.00%			
	14.25%	71.63%	0.74%	13.38%					100.00%			
砂岩					1			2	3	50.00%		
					19.30g			125.20g	19.30g	3.26%		
安山岩						1			1	16.66%		
						388.70g			388.70g	65.58%		
流紋岩							1	1	2	33.34%		
							89.40g	70.70g	184.70g	31.16%		
合計							19.30g	388.70g	11.00g	173.70g	592.70g	100.00%
組成比							16.66%	16.66%	16.66%	50.00%	100.00%	
							3.26%	65.58%	1.86%	29.3%	100.00%	

18は頁岩製の調整剥片の接合例である。部厚な大型剥片に対し調整を施した個体で、接合した調整剥片は、打面部に対し調整を施した際に作出されたものである。大型剥片への調整は打面部のみならず、ほぼ全周に対して行われ、背面から腹面に対して行われるものを基調とするが、末端部には腹面から背面に





第21図 第2ブロック出土遺物(1)



第22図 第2ブロック出土遺物(2)

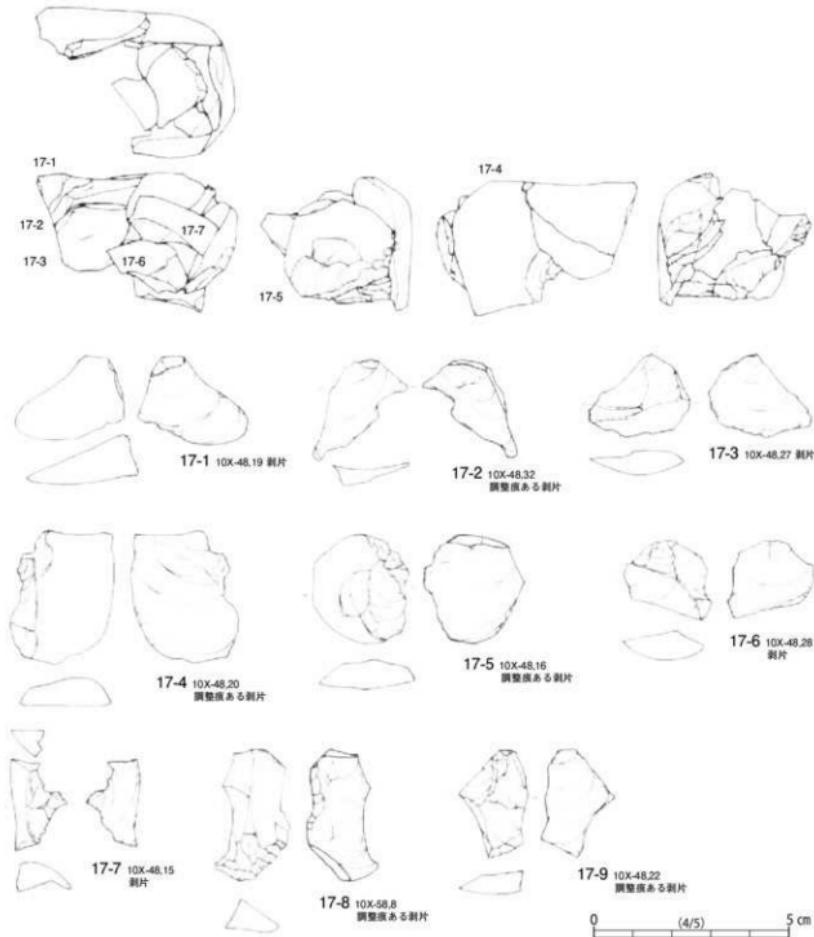
対して行われた痕跡も認められる。

19は砂岩製の敲石である。幅1.2cm程の棒状砾を活用し、片端に微細な敲打痕が認められる。

第3ブロック(第25~34図、第9表、図版4・45~50)

地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部、標高16m~17m付近に所在する。第2ブロックの東側に隣接するが、分布の重複は認められない。分布範囲は南北17m・東西11mと広域であるが、

17頁岩接合資料



第23図 第2ブロック出土遺物(3)

分布範囲南端の10Y-50 グリッド～10Y-51 グリッドにかけて集中箇所が認められる。第1ブロックと一部分布範囲が重複する。出土層位はIX層で第2ブロックとほぼ同一レベルである。

第2ブロックと同様に定型的な石器の出土ではなく、調整痕の認められる剥片・使用痕の認められる剥片以外では、剥片・碎片・石核で構成される。

使用される石材は珪質頁岩が点数比 28%・重量比 15%、頁岩が点数比 21.5%・重量比 12.4%となり、第2ブロック同様に多用される傾向が認められるが、主体となる石材は黒色安山岩であり、点数比で 37.7%、重量比で半分近くの 48.7%となる。

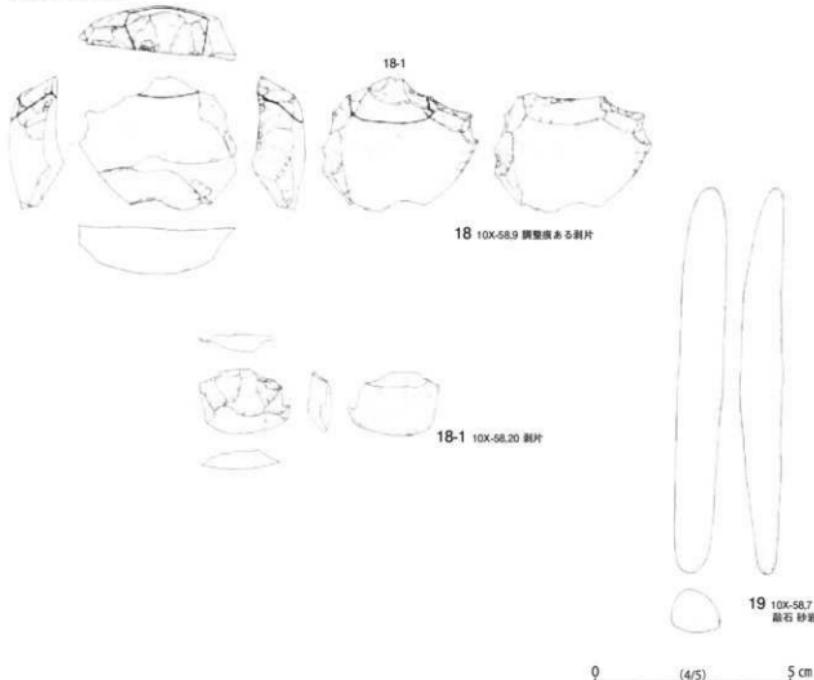
出土遺物

1は頁岩製の調整痕の認められる剥片である。打面を広く設定して作出された剥片であり、最大幅が打面直下に位置する逆三角形に近い形状である。調整は片側縁に対し背面側から行われている。

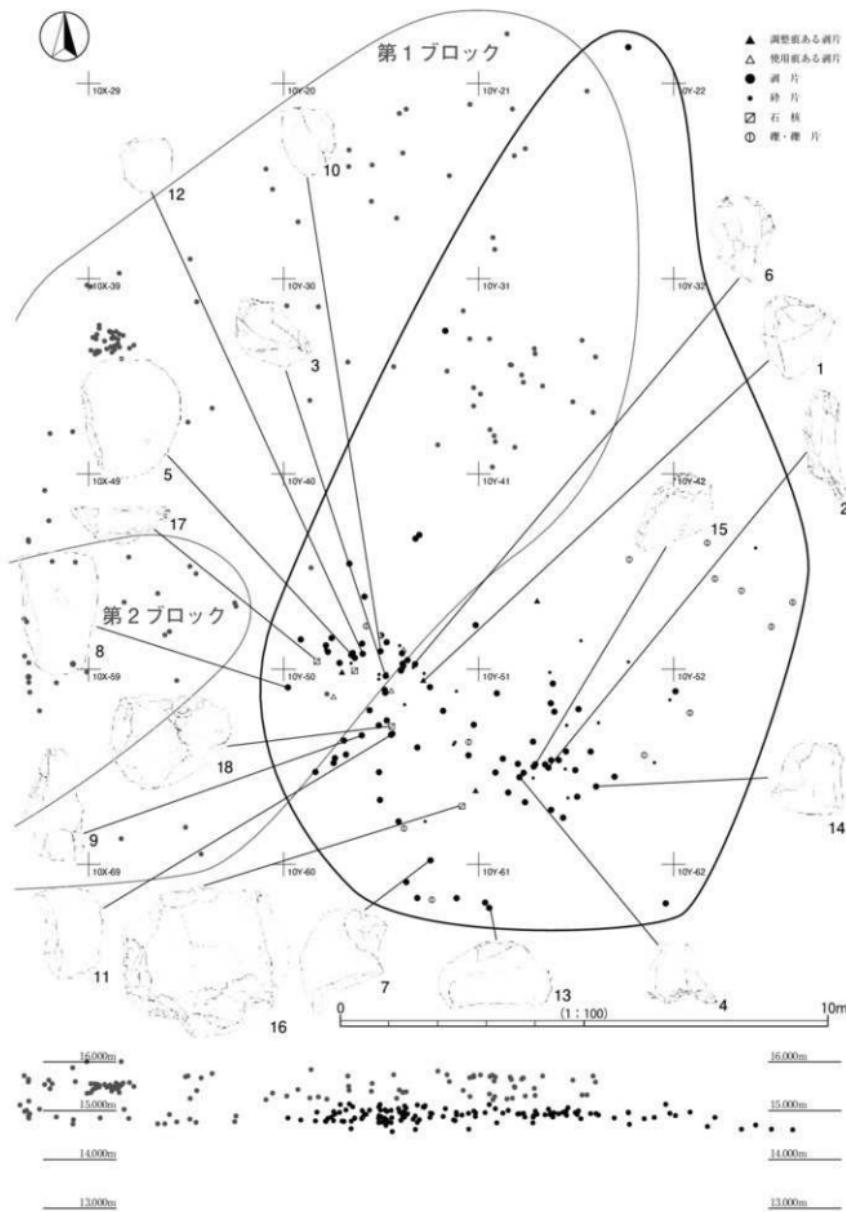
2～15は剥片である。

16～18は石核である。16は黒色安山岩製の大型石核で、残存する原礫面から転石を利用して剥片剥離を行っていることが理解できる。最終剥離面は実測図上面を打面とした剥離であるが、基本的な剥片剥離はほぼ全周から行われている。17は珪質頁岩製の小型石核である。多方向から剥片剥離を行っているが、

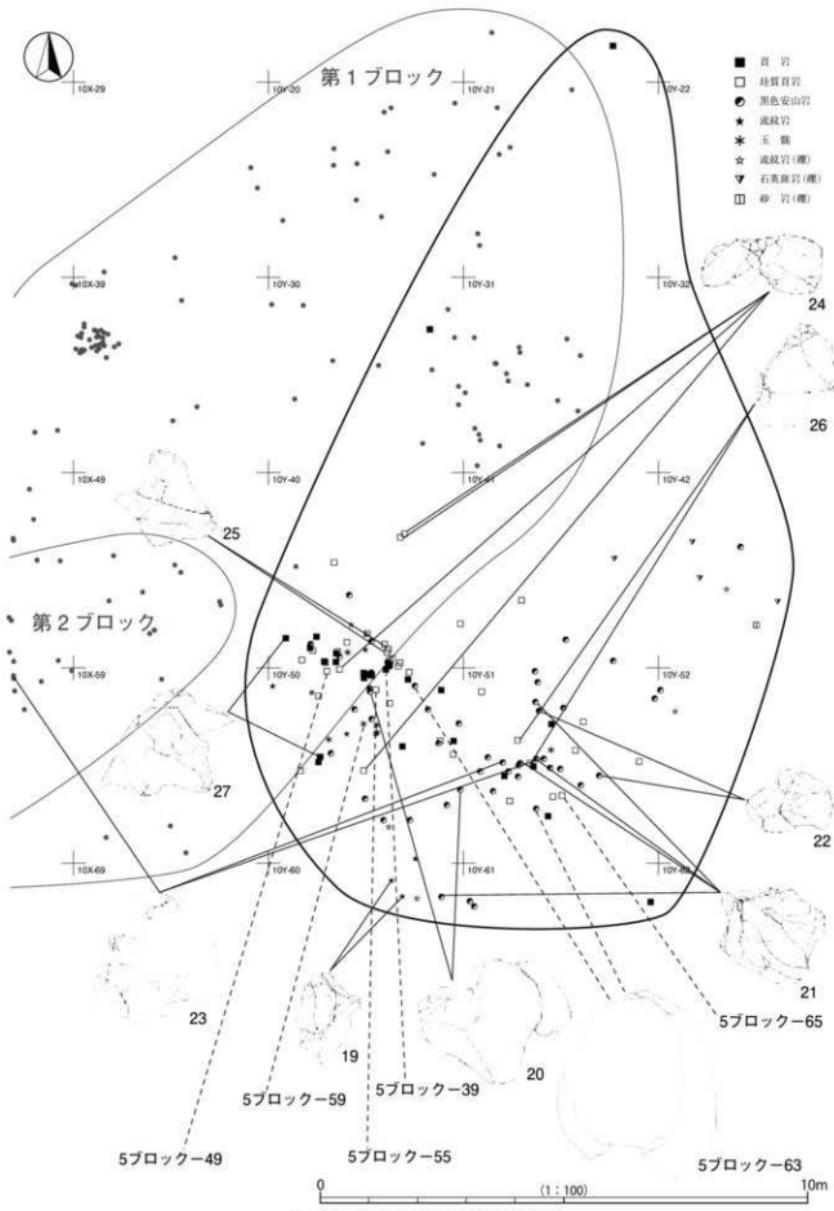
18 頁岩 接合資料

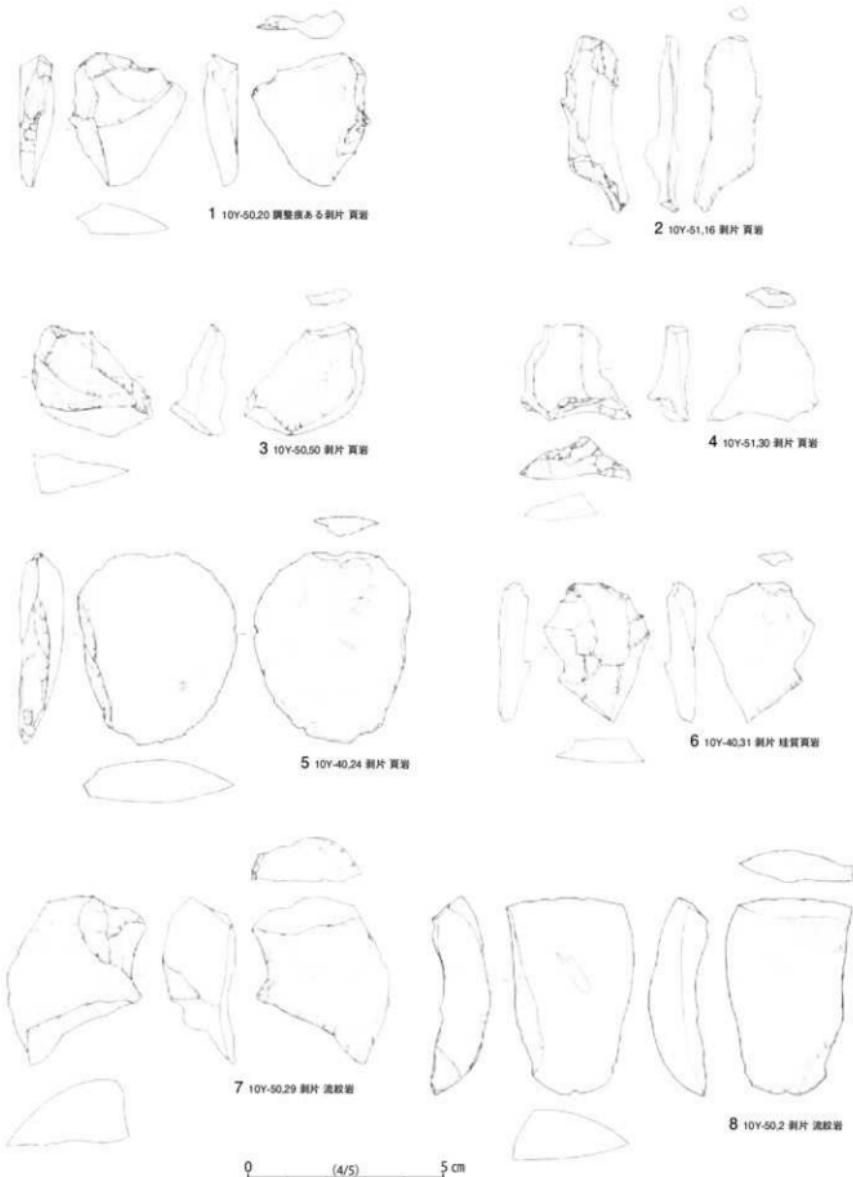


第24図 第2ブロック出土遺物(4)



第25図 第3ブロック器種別分布図



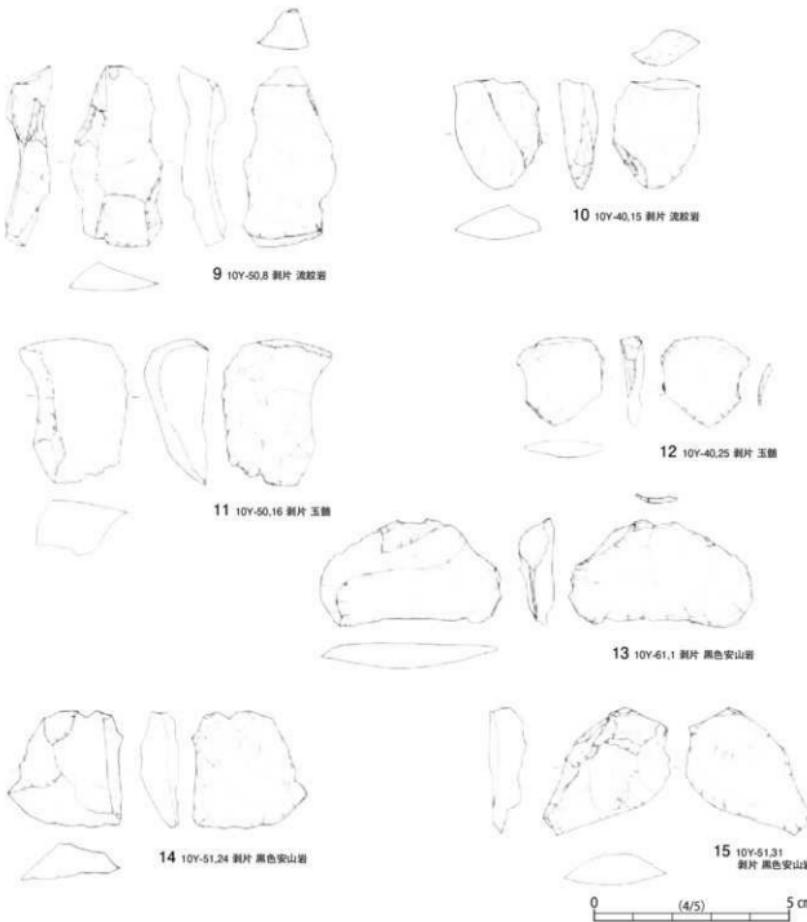


第27図 第3ブロック出土遺物(1)

石核の形状から横長剥片の作出が主体となる。18は玉髓製の石核である。円盤を素材とし、上面に見られる剥離面を打面とし剥片剥離を行っている。

19は流紋岩製の剥片2点の接合資料である。両者とも縦長剥片であるが、背面構成は多方向からの剥離で構成されている。打面を共有し、連続的に作出された剥片であるが、19-1作出後にブランクをおいて19-2が作出される。

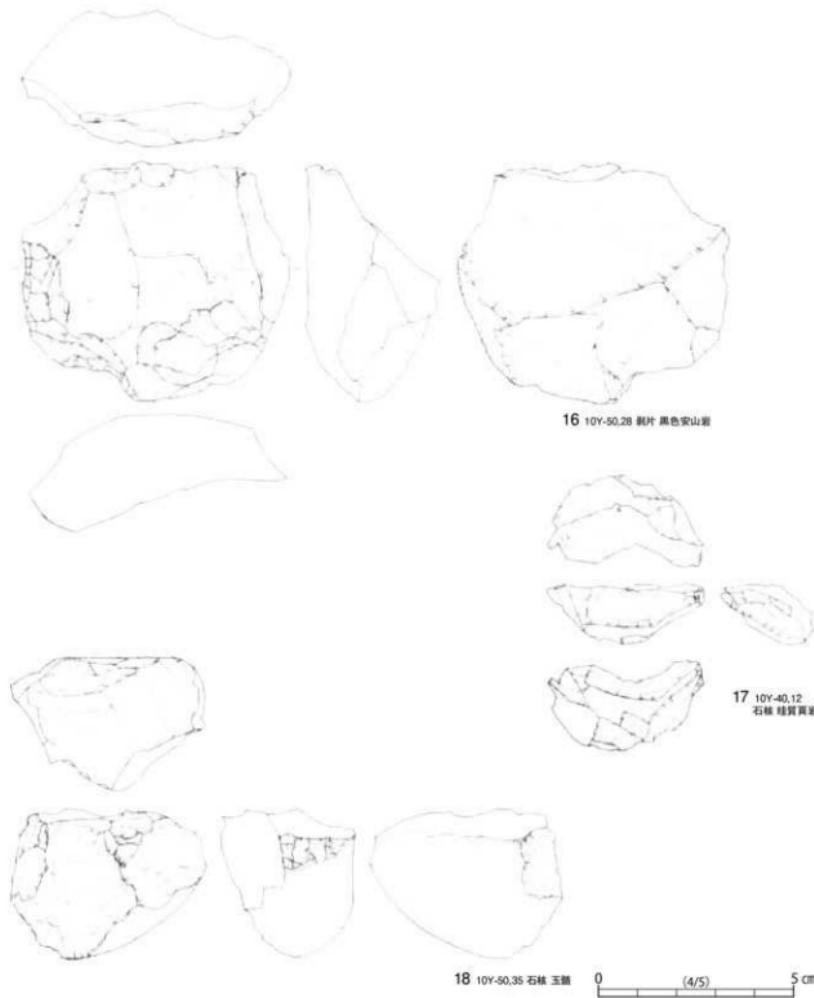
20は黒色安山岩製の剥片2点の接合資料である。20-1作出前の工程では20-1の打面と同一、もしくは同方向の打面から剥片を作出しているが、20-1作出後に打面を転移し20-2を作出している。



第28図 第3ブロック出土遺物(2)

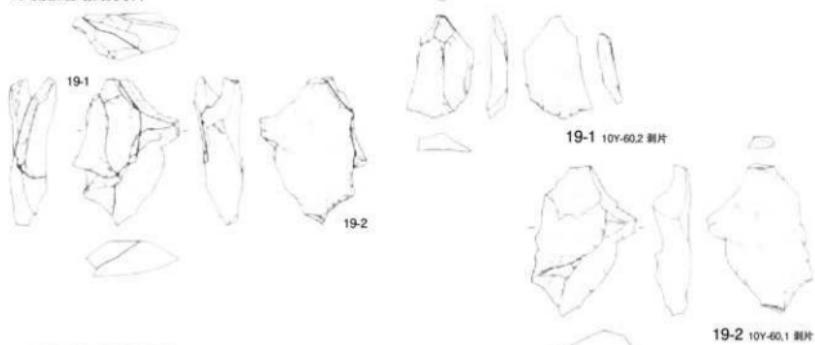
21は黒色安山岩製の剥片3点の接合資料である。剥片3点は打面を共有し、原礫面が打面となる。21-1と21-2にはブランクがあり、小型剥片が作出されている。21-2と21-3は連続して作出され、21-3は作出時に打点から2分割している。3点は同一打面から剥片剥離を行った一工程を示すが、21-3の背面には側縁方向からの剥離が見られ、この工程以前に打面転移が行われていたことが理解できる。

22は黒色安山岩製の接合資料である。不定形剥片2点が接合するが、打面の位置が異なり、打面転移

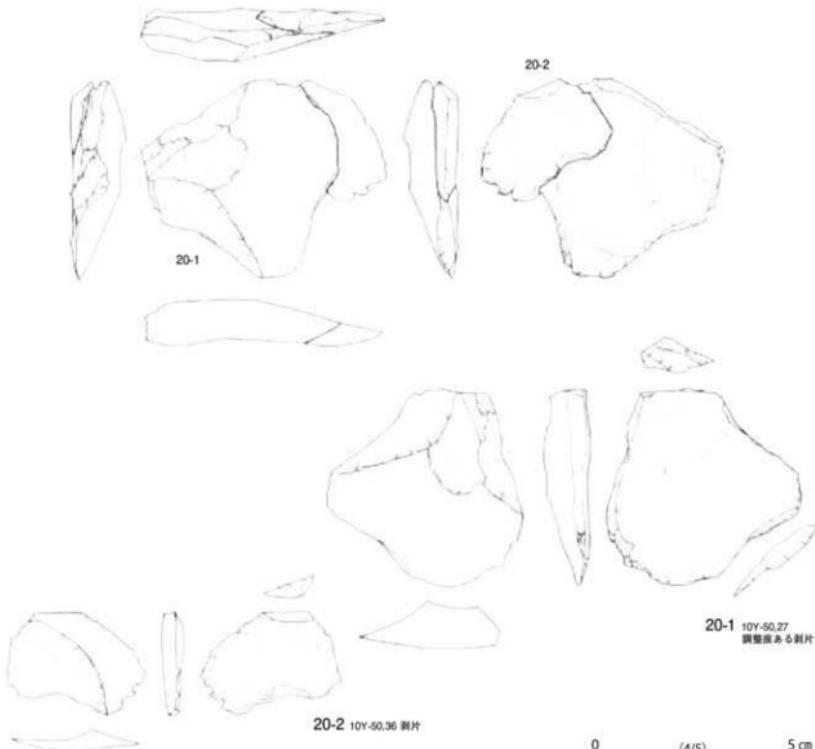


第29図 第3ブロック出土遺物(3)

19 流紋岩 接合資料

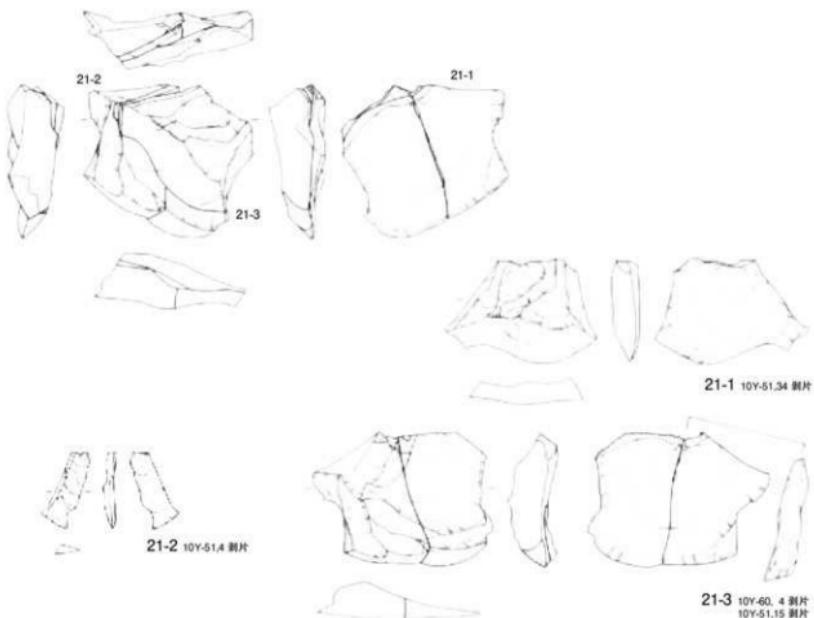


20 黑色安山岩 接合資料

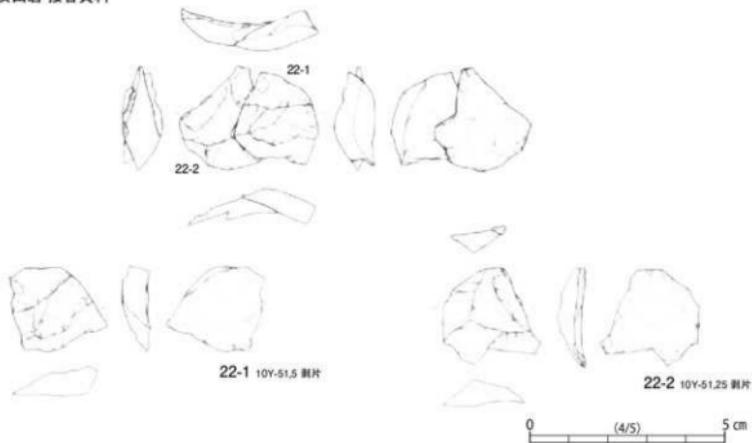


第30図 第3ブロック出土遺物(4)

21 黒色安山岩 接合資料

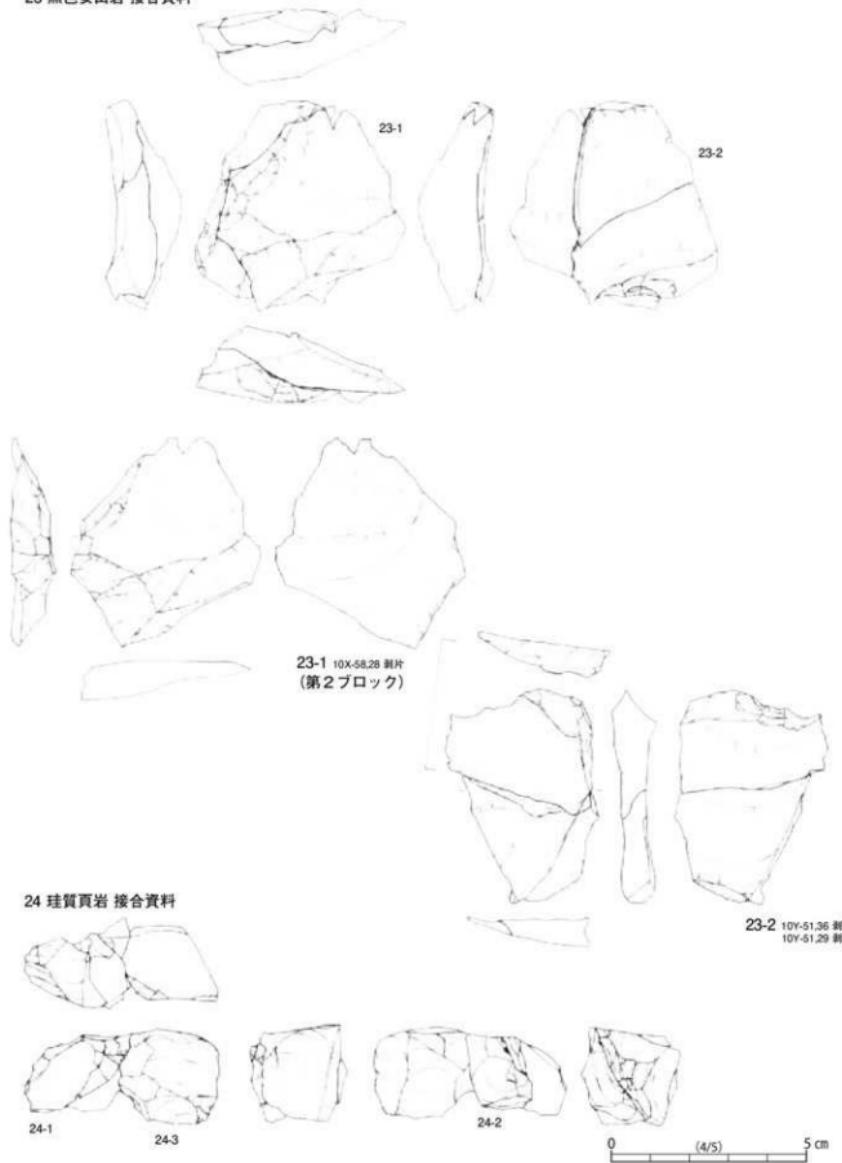


22 黒色安山岩 接合資料



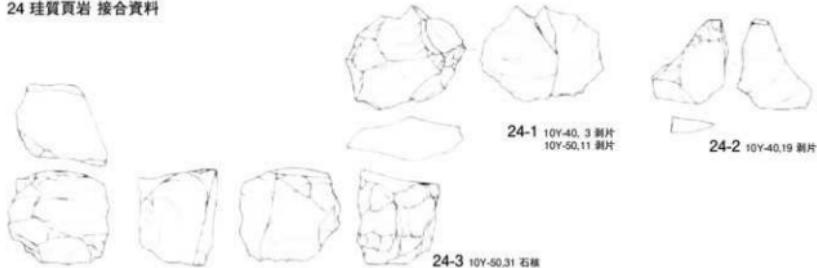
第31図 第3ブロック出土遺物(5)

23 黒色安山岩 接合資料

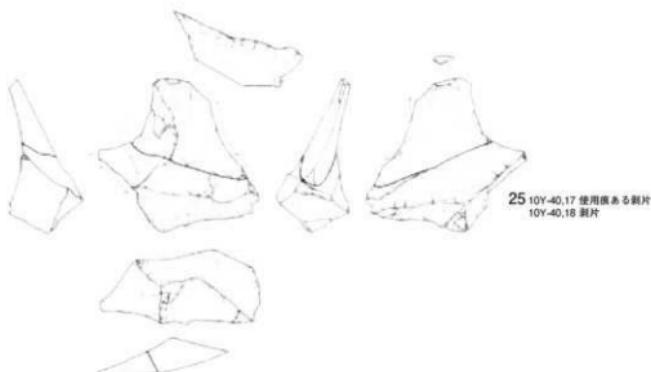


第32図 第3ブロック出土遺物(6)

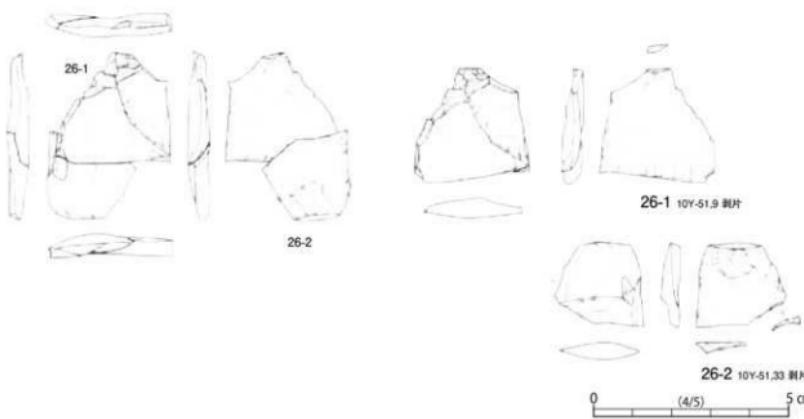
24 珪質頁岩 接合資料



25 珪質頁岩 接合資料



26 珪質頁岩 接合資料



第33図 第3ブロック出土遺物(7)

の工程を挟んだ剥片剥離が明瞭に窺える。

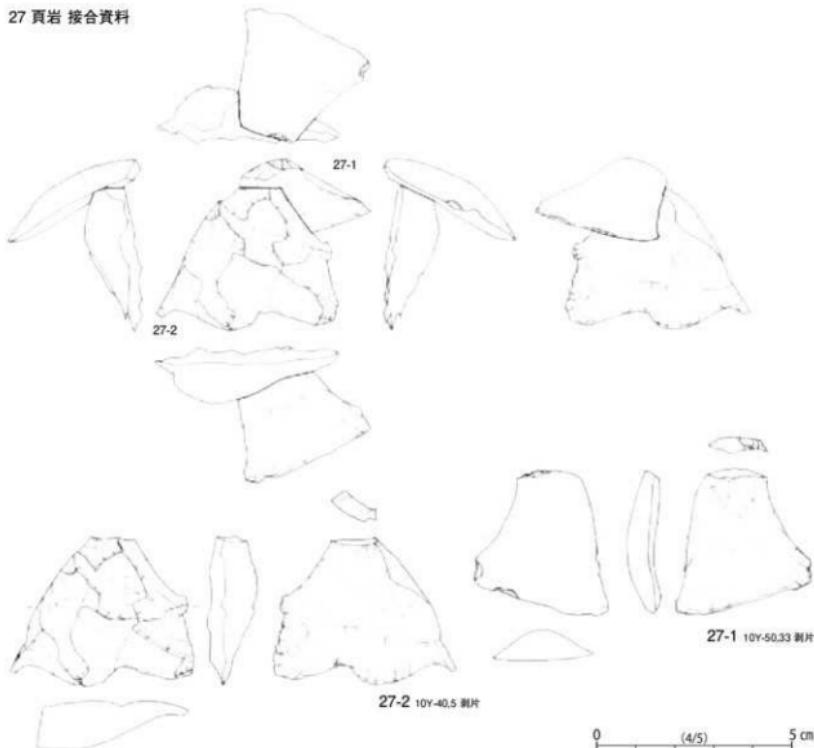
23は黒色安山岩製の剥片2点の接合資料である。打面の位置が異なる大型剥片2点であるが、23-1は第2ブロック出土であり、2点は直線距離で11mの隔たりがある。両者の背面は多方向からの剥離により構成され、打面を頻繁に転移して剥片剥離を行っていることが窺える。

24は珪質頁岩製の接合資料である。剥片2点と石核1点の接合例であり、24-1と24-2はいずれも石核の向きに対して下方からの剥片剥離により作出されている。24-3は直方体に近い形状の小型石核であり、打面を頻繁に転移して剥片剥離を行っている。

25は珪質頁岩製の部厚な剥片であり、中途より二分したものが接合している。人為的に折断された個体ではなく、前工程の剥片剥離の際に亀裂が入り、剥片の作出と同時に分割したと考えられる。

26は大型剥片を石核に転用し、剥片剥離を行っていると考えられる。剥片2点の接合資料であるが、両者の背面には大きく素材剥片の主要剥離面が見られ、26-1と26-2の打面の位置は正逆であるため、打面を頻繁に転移して求心的に剥片剥離を行っている痕跡が窺える。

27頁岩 接合資料



第34図 第3ブロック出土遺物(8)

第9表 第3ブロック石器組成表

	調整痕 ある剥片	使用痕 ある剥片	剥片	碎片	石核	礫	礫片	合計	組成比
黒色安山岩	1	37	10	1				49	37.69%
	31.00g	244.30g	7.10g	129.60g				412.00g	48.72%
頁岩	2	15	11					28	21.54%
	7.70g	95.60g	1.70g					105.00g	12.42%
珪質頁岩	1	3	20	11	2			37	28.46%
	1.90g	39.90g	52.20g	8.30g	24.60g			126.90g	15.00%
玉髓(メノウ)		6		1				7	5.39%
		31.80g		68.00g				99.80g	11.81%
流紋岩		7	1					9	6.92%
		101.80g	0.10g					101.90g	12.05%
合計	4	3	85	33	4			130	100.00%
	40.60g	39.90g	525.70g	17.20g	222.24g			845.60g	100.00%
組成比	3.07%	3.10%	65.38%	25.38%	3.07%			100.00%	
	4.80%	4.72%	62.17%	2.03%	36.28%			100.00%	
砂岩						2	2	16.66%	
						169.50g	169.50g	11.22%	
石英麻岩						3	3	25.00%	
						1.056.30g	1.056.30g	69.90%	
流紋岩					1	5	6	50.00%	
					11.00g	272.90g	283.90g	18.79%	
頁岩						1	1	8.34%	
						1.30g	1.30g	0.09%	
合計					1	11	12	100.00%	
					11.00g	1500.00g	1511.00g	100.00%	
組成比					8.31%	91.66%	100.00%		
					0.73%	99.27%	100.00%		

27は頁岩製の接合資料である。27-1作出後、27-1のネガティブ面を打面とし、27-2が作出される。27-2の背面は27-1が作出される前段階の工程の剥離で構成されており、27-2の腹面の剥離方向と一致する。27-1は打面再生を目的として得られた剥片と考えられる。

第4ブロック(第35~37図、第10表、図版4・50・51)

地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部、標高17m~17.5m付近に所在する。所属グリッドは10X-66グリッド~10X-77グリッドにかけてであり、径4mの範囲で収束する。分布範囲の南端に集中傾向が認められる。

第5ブロックの一端と分布範囲を同じくするが、第4ブロックと第5ブロックの遺物出土レベルには明確な差が認められる。出土層位はⅢ層~V層にかけてであり、平均レベルは15.7mとなる。

計26点の石器が出土し、全て黒みが強いが不純物を多く含む黒曜石製である。定型的な石器は横長剥片素材のナイフ形石器1点のみであり、ほかには調整痕の認められる剥片・片・碎片で構成される。

出土遺物

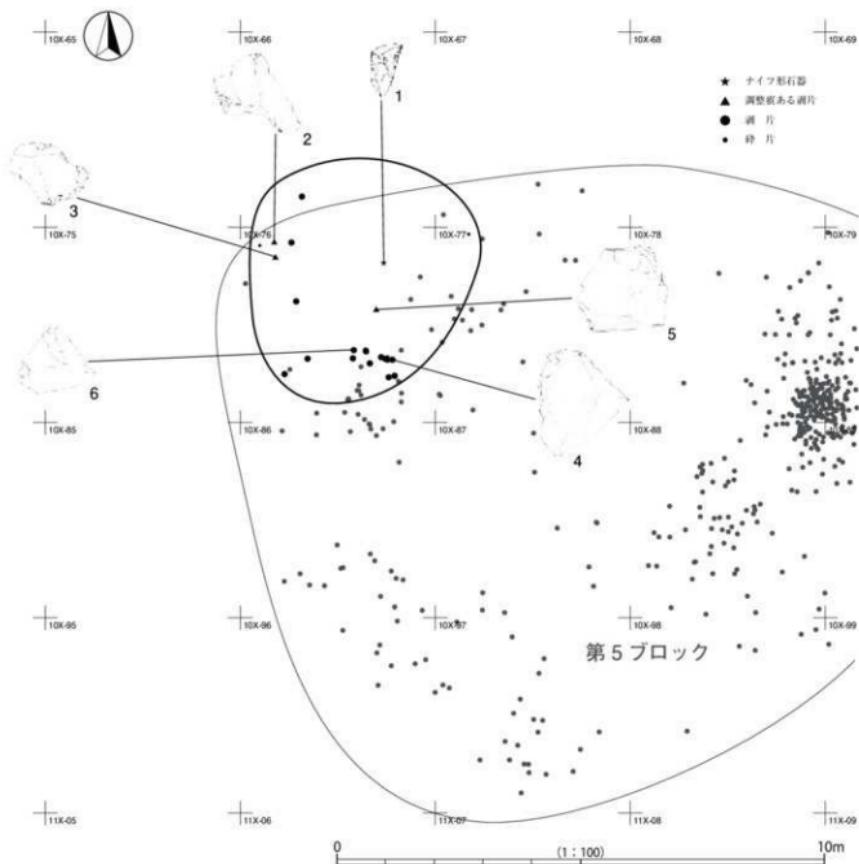
1は先端部が欠損するナイフ形石器である。横長剥片を素材とし、打面部及び末端部に背面からの急角度の調整を施し製品化している。

2・3は調整痕の認められる剥片である。両者とも不定形剥片であり、2は末端部にノッチ状の調整部位があり、両側縁及び調整部位には微細な剥落痕が認められる。3は末端部に腹面からの微細な調整痕が認められる。

4~6は剥片である。概して部厚な不定形剥片であり、背面は多方向からの剥離により構成されている。7は打点から、8は打面側と末端部側で分離した剥片の接合例である。7は横長剥片、8は縦長剥片と形状の違いはあるが、前述した剥片と同様に背面は多方向からの剥離により構成されている。

第5ブロック(第38~59図、第11表、図版4・51~69)

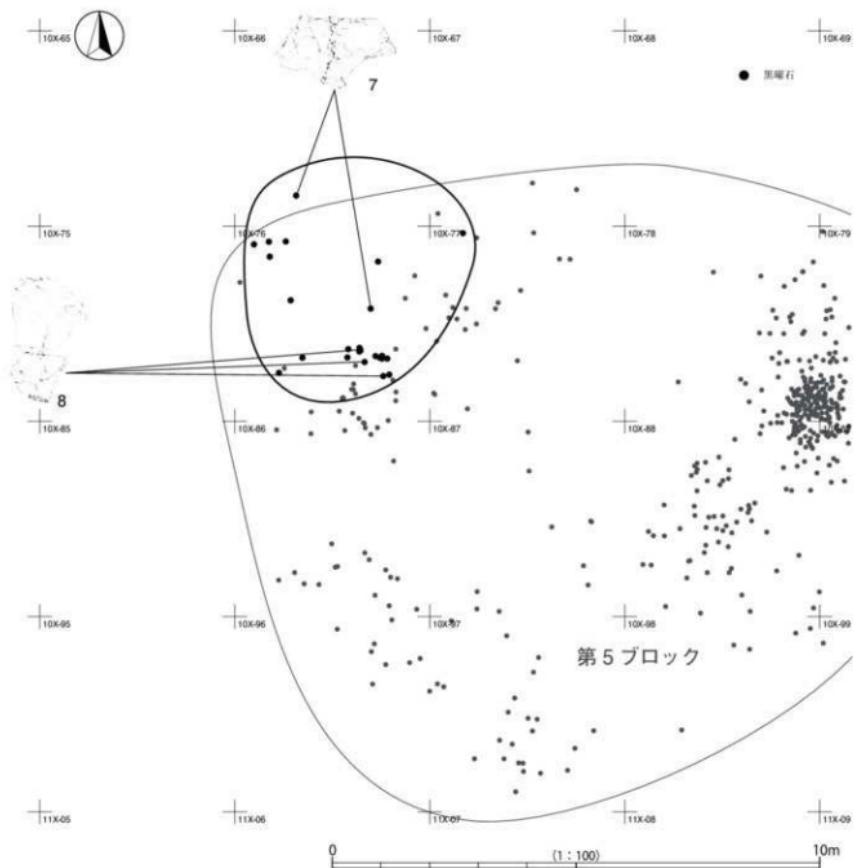
地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部、標高17m~17.5m付近に所在する。出土グリッドは10X-67グリッド~10X-99グリッドにかけてであり、東西方向14m・南北方向12mの広範囲に分布する。このうち10X-89グリッド付近に最も集中する箇所があり、ほかにも10X-88グリッド、10X-



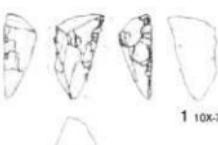
第35図 第4ブロック器種別分布図

第10表 第4ブロック石器組成表

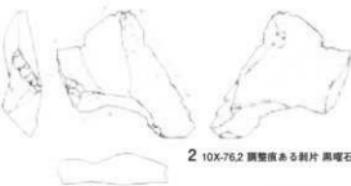
	ナイフ 刮削器 ある剥片	調整器 ある剥片	剥片	碎片	合計	組成比
黒曜石	1	3	16	6	26	100.00%
	1.60g	18.00g	76.00g	1.30g	96.90g	100.00%
合計	1	3	16	6	26	100.00%
	1.60g	18.00g	76.00g	1.30g	96.90g	100.00%
組成比	3.85%	11.54%	61.54%	23.07%	100.00%	
	1.63%	18.57%	78.43%	1.35%	100.00%	



第36図 第4ブロック石材別分布図



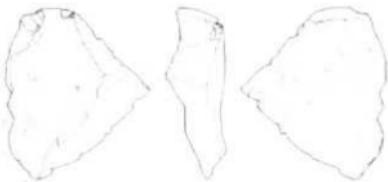
1 10X-76.6 ナイフ形石器 黒曜石



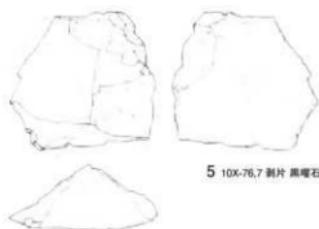
2 10X-76.2 調整痕ある剥片 黒曜石



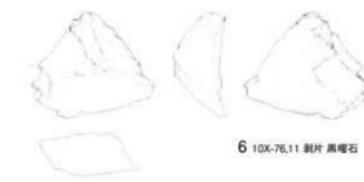
3 10X-76.3 調整痕ある剥片 黒曜石



4 10X-76.14 剥片 黒曜石

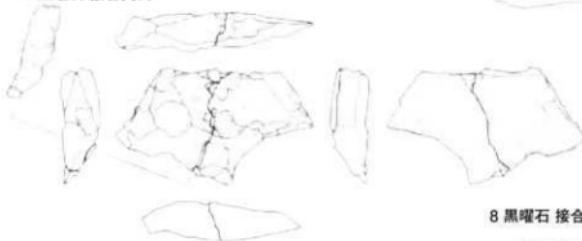


5 10X-76.7 剥片 黒曜石



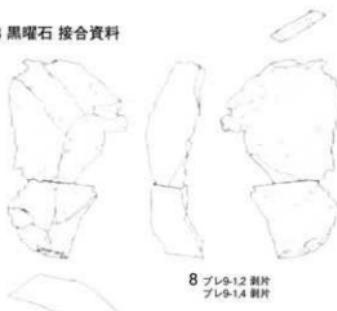
6 10X-76.11 剥片 黒曜石

7 黒曜石 接合資料



7 10X-66.1 剥片
10X-76.8 調整痕ある剥片

8 黒曜石 接合資料



8 ブレ9-12 剥片
ブレ9-14 剥片

0 (4/5) 5 cm

第37図 第4ブロック出土遺物

97 グリッド・10X-76 グリッドに集中する傾向が認められる。

出土層位は調査時の記載はX層であるが、Ⅸ層下部に属するものと考えられる。出土標高は14.7m～15.3mであり、平均レベルは14.9mとなる。

石器の出土点数は計456点を数え、ナイフ形石器・台形石器・楔形石器を定型的な石器として組成に含む。また、2点と少數であるが縫の出土も認められる。使用される石材は珪質頁岩・玉髓・頁岩が挙げられ、ほかには黒色安山岩・石英・チャート・流紋岩・黒色頁岩・ホルンフェルスが使用される。流紋岩製の台形石器が組成に加わるが、流紋岩製の石器は点数比で3%、重量比では僅かに1.01%となる。使用される割合の高い石材は頁岩であり、点数比で34.4%、重量比で28.4%と3割近くを占める。黒色安山岩製の石器は点数的には20%に満たないが、重量比では28.4%と頁岩に次ぐ割合であり、46点出土している剥片が大型であることを示している。

出土遺物

1は珪質頁岩製のナイフ形石器である。小型の縱長剥片を素材とし、素材剥片の末端部を先端部として製品としている。調整は二側縁の広い範囲に対し、腹面から密に施される。

2・3は頁岩製、4は玉髓製の調整痕の認められる剥片である。2は小型不定形剥片を素材とし調整は末端部のみに止まるが、背腹両面から行われている。3は部厚な縱長剥片を素材とし、片側縁の背面から調整が施される。4は部厚な剥片の両側縁に対し粗い調整を施す。腹面からの急角度の調整が部分的に認められる。

5～27は剥片である。形状は多様であり、縱長剥片・横長剥片・不定形剥片が混在する。5～14は大型剥片であり、5の頁岩製、6・9の珪質頁岩製、8・13の黒色安山岩製、14の流紋岩製の剥片のように、原縫面をいずれかの面に残す個体は概して大型剥片が多い。15～19は珪質頁岩製、20～24は頁岩製、25は石英製、26・27は玉髓製の小型剥片である。背面構成は多方向からの剥離により形成される個体がほとんどである。

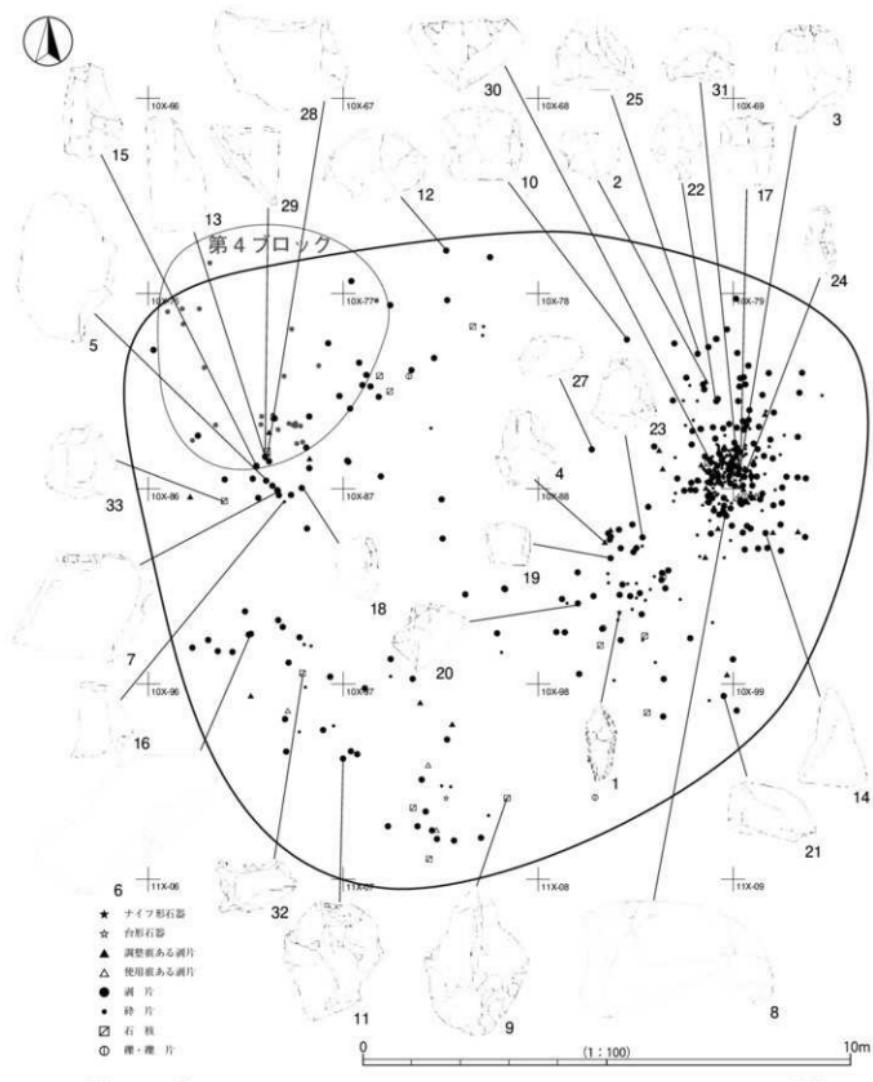
28～33は石核である。28は珪質頁岩製で片面に大きく原縫面が遺存する。大型剥片を素材とし、剥片剥離は周縁部から主要剥離面側に対し求心的に行われる。29は珪質頁岩製の部厚な剥片を素材とし、背面側に対し剥片剥離を行っている。30～32は頁岩製で、30は同一打面から連続的に剥片を作出している。31・32は多方向からの剥離が認められ、特に、32については打面を頻繁に転移して剥片剥離を行っている。33は珪質頁岩製で、表裏両面から剥片剥離を行った痕跡が認められる。

34は頁岩製の接合資料である。扁平な川原石に対し剥片剥離を行っている。尖頭部に対し打撃を加えた際に、節理により分離した資料である。

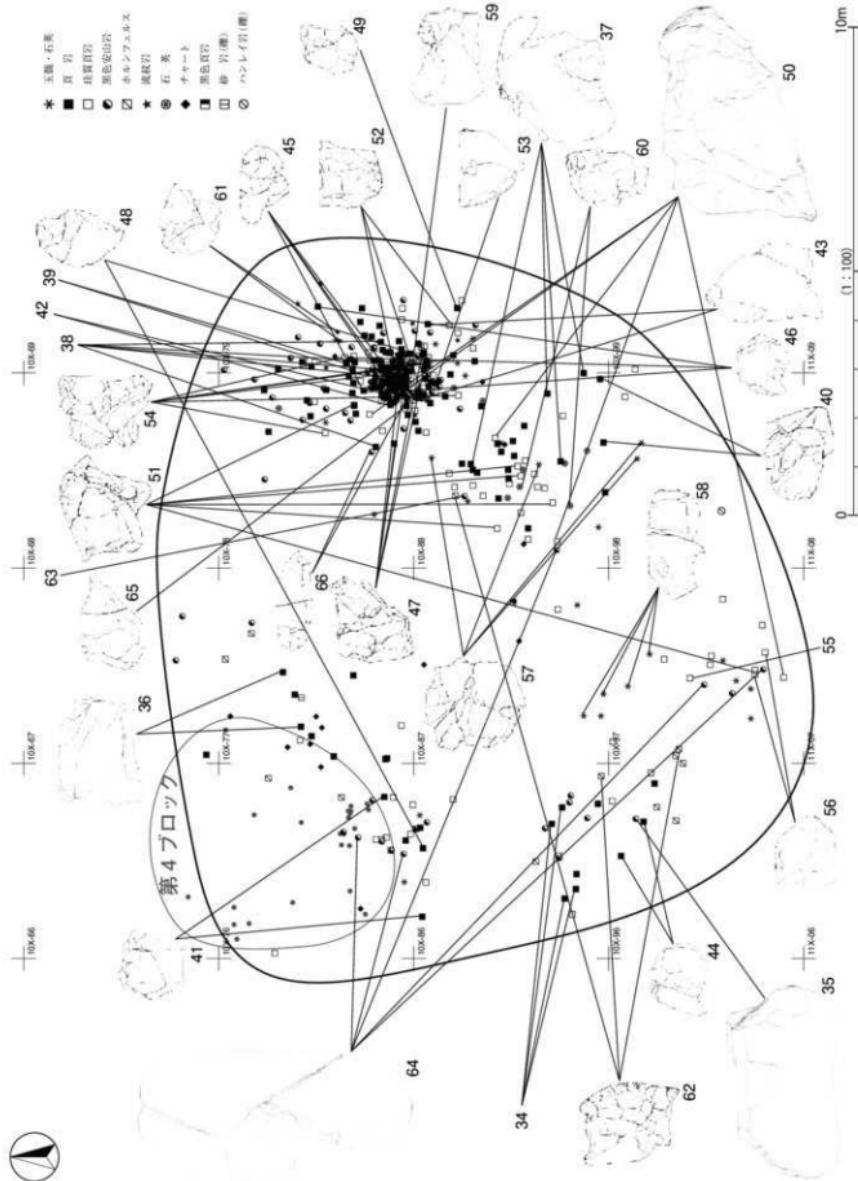
35は黒色安山岩製の接合資料である。実測図裏面に該当する平坦面を打面とし、上面図に見られる一連の剥片剥離を行っている。その後、打面を転移し35-1の剥片を作出しているが、この剥片の作出で剥片剥離を終了している。

36は頁岩製の接合資料である。大型剥片を転用し、剥片剥離は素材剥片の打面及び末端部の原縫面を打面とし行われている。

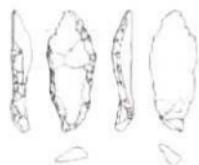
37は頁岩製の接合資料である。拳大の川原石に対し、裏面図に見られる打面作出を目的とした剥片剥離を行っている。周縁からの剥離であり、この工程で37-1が作出される。この後打面を転移し37-2・37-3の剥片を作出している。



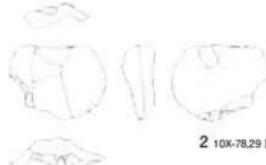
第38図 第5ブロック器種別分布図



第39図 第5ブロック石材別分布図



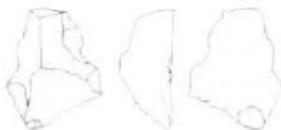
1 10X-88.60 ナイフ形石器 硅質頁岩



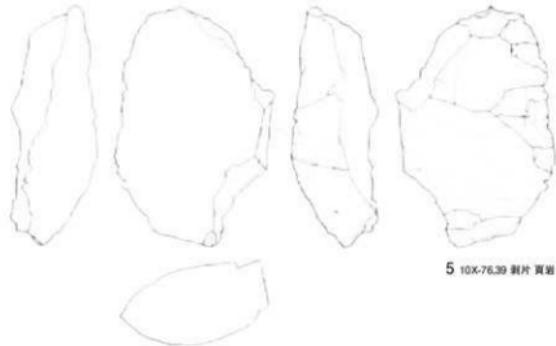
2 10X-78.29 調整痕ある剥片 真岩



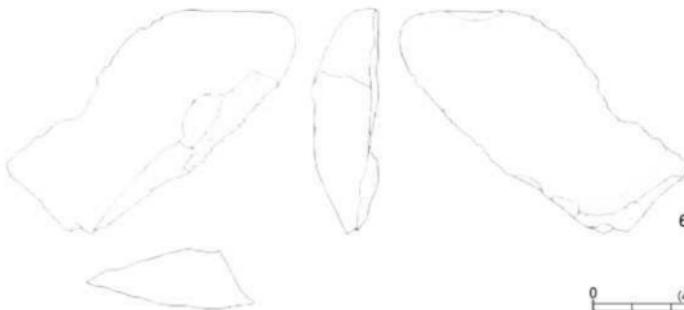
3 10X-79.39 調整痕ある剥片 真岩



4 10X-88.1 調整痕ある剥片 玉髓



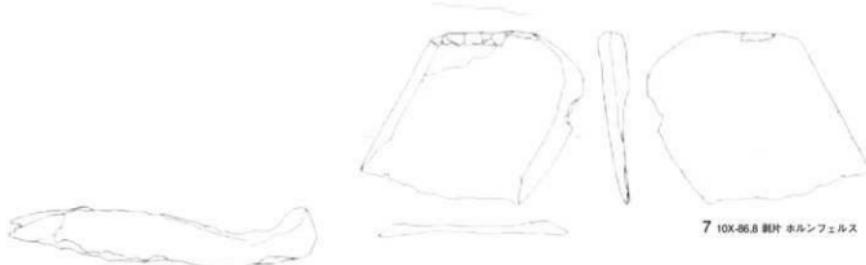
5 10X-76.39 剥片 真岩



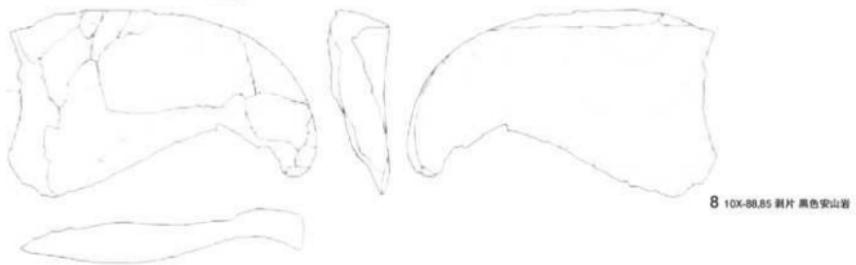
6 10X-86.20 剥片 硅質頁岩

0 (4/5) 5 cm

第40図 第5ブロック出土遺物(1)



7 10X-86.8 剥片 ホルンフェルス



8 10X-86.85 剥片 黒色安山岩



9 10X-97.14 剥片 細粒頁岩



10 10X-78.1 剥片 黒色安山岩



11 10X-97.4 剥片 ホルンフェルス



12 10X-67.2 剥片 黒色安山岩

0 (4/5) 5 cm

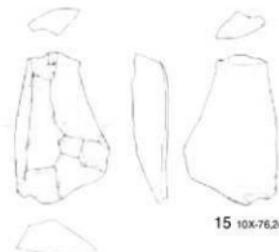
第41図 第5ブロック出土遺物(2)



13 10X-76.37 剥片 黑色安山岩



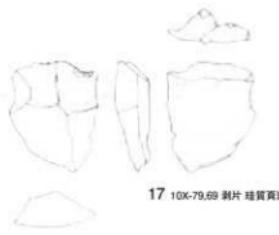
14 10X-89.6 剥片 流纹岩



15 10X-76.24a 剥片 硅質頁岩



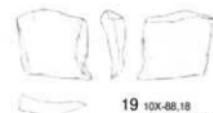
16 10X-86.1a 剥片 硅質頁岩



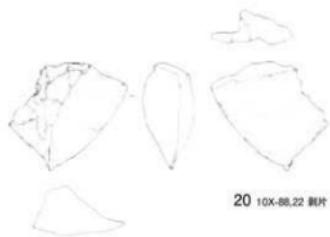
17 10X-79.69 剥片 硅質頁岩



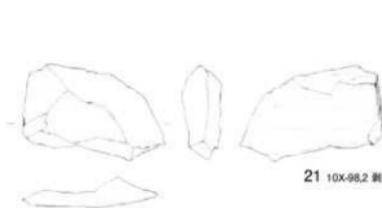
18 10X-76.30 剥片 硅質頁岩



19 10X-88.18 剥片 硅質頁岩



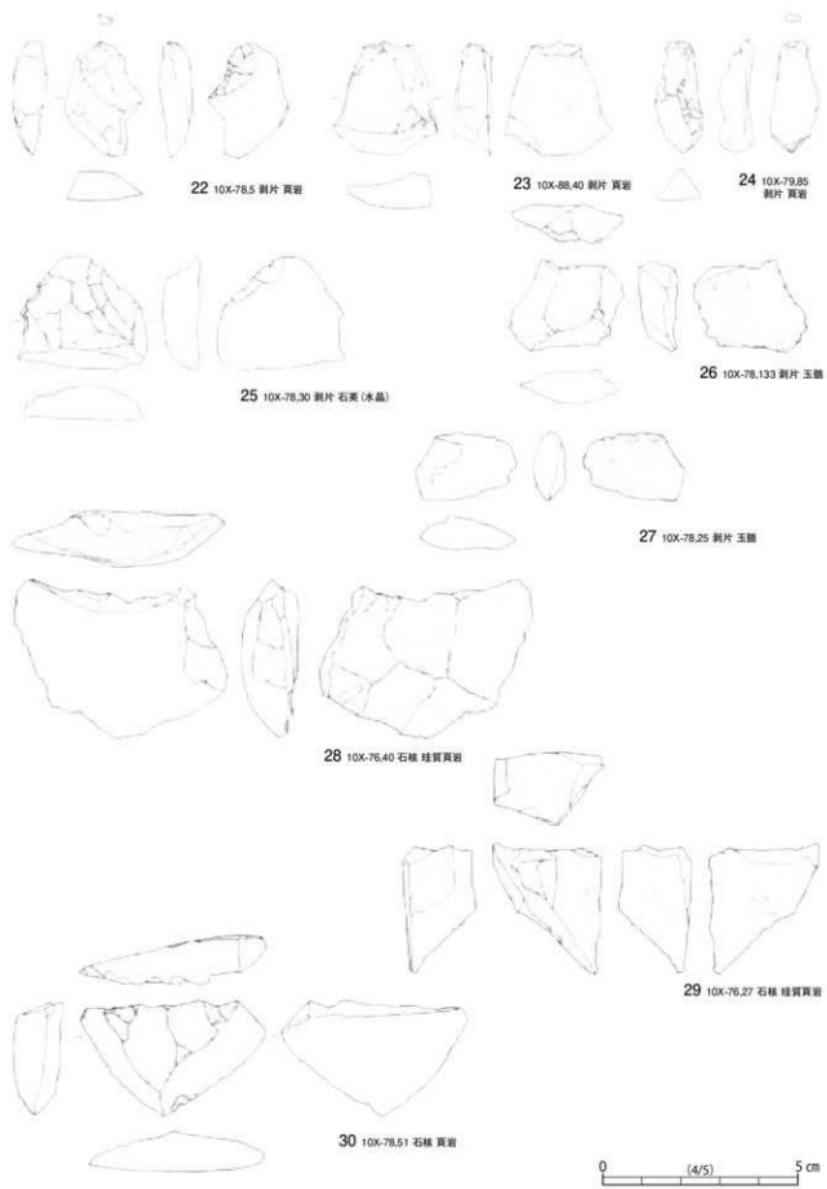
20 10X-88.22 剥片 頁岩



21 10X-98.2 剥片 頁岩



第42図 第5ブロック出土遺物(3)



第43図 第5ブロック出土遺物(4)

38は頁岩製の接合資料である。小型の川原石に対し、打面作出を目的として38-1を作出している。この剥片は第2ブロックに帰属する。38-1を作出後、ネガティブ面を打面とし剥片剥離を行い、38-3の剥片が作出されている。38-2・38-4は下方からの剥片剥離で作出されており、上下両端に打面を設定していることが理解できる。上下両端からの剥片剥離の後、これら一連の剥離面から38-4'が作出される。38-1と同方向からの打撃であり、打面再生を目的とした剥離の可能性も考えられる。

39は頁岩製の剥片3点の接合資料である。39-1・39-2・39-3の打面はそれぞれ90°程振れており、円礫の原礫面の除去を目的としたものと考えられる。

40は頁岩製の剥片2点の接合資料である。40-2の主要剥離面は原礫の節理に当たり、剥離方向の把握に難があるが、40-1の打面の位置と90°振れていると考えられ、39の資料と同様の剥片剥離であるといえる。

41は頁岩製の接合資料である。打面を共有する剥片2点の接合である。両者とも不定形剥片であるが、背面は腹面の主要剥離面と同一方向からの剥離で構成される。

42は頁岩製の接合資料である。欠損した剥片の末端部(42-1)が42-2の剥片と接合している。

43は頁岩製の接合資料である。剥片2点の接合資料であるが、両者の打面の位置は異なる。43-1作成後、打面再生を行ない43-2を作出している。

44は頁岩製の接合資料である。打面を共有する小型不定形剥片2点の接合であり、連続して作成される。

45は頁岩製の接合資料である。打面を共有し連続的に作成された小型不定形剥片4点である。

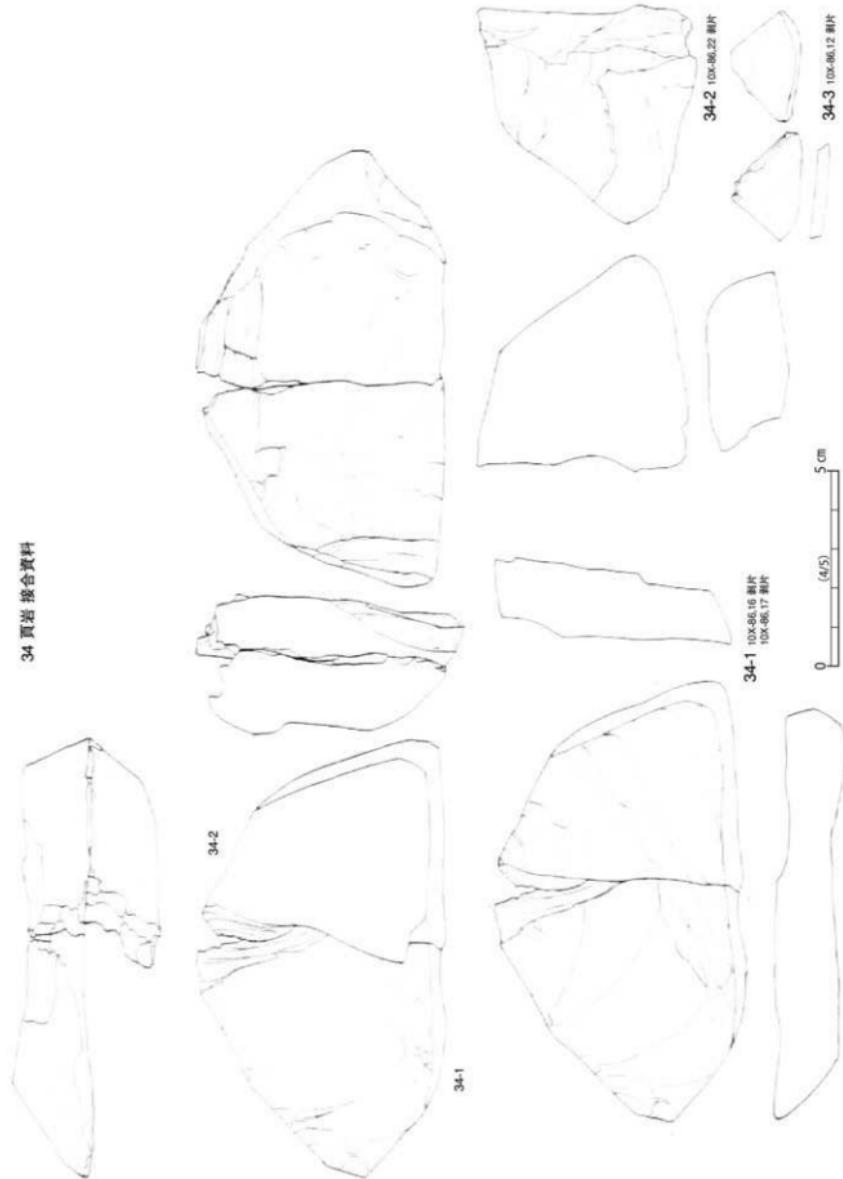
46は頁岩製の接合資料である。原礫面打面を共有した小型不定形剥片3点の接合例である。

47は頁岩製の接合資料である。同方向の打面から作成された剥片5点の接合例であるが、47-1作成後に打面再生が行われ、その後47-2～47-4の剥片を得ている。

48は頁岩製の接合資料である。剥片2点の接合であるが、48-1作成後、48-2に対し腹面側に剥片剥離の痕跡が認められる。

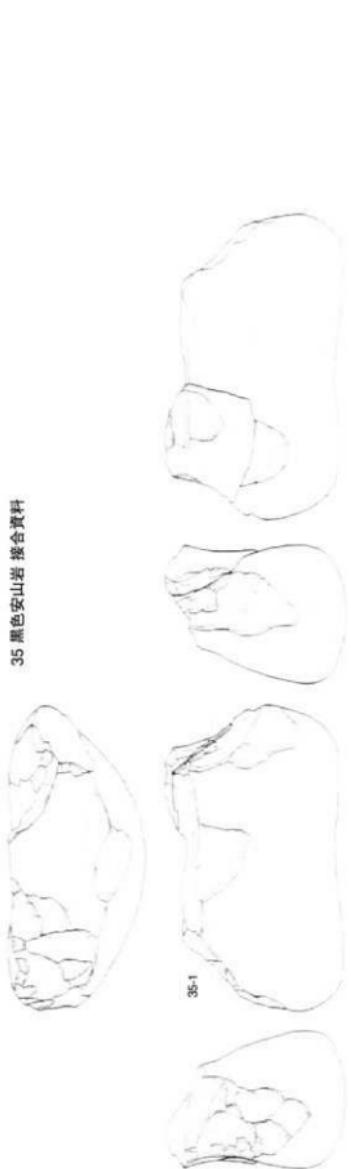


第44図 第5ブロック出土遺物(5)



第45図 第5ブロック出土遺物(6)

35 黒色安山岩 接合資料



35 10X-46.2 (左) 10X-97.9 (右)
10X-97.9 石片



35-1 10X-27.9 石片



36-1 10X-77.7 石片

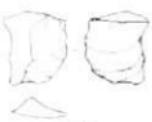
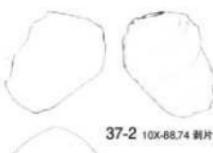
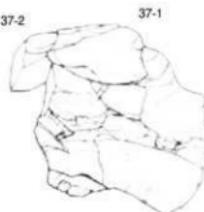
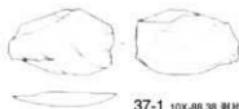


36-1

36 白質岩 接合資料

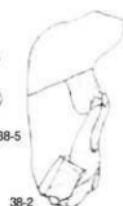
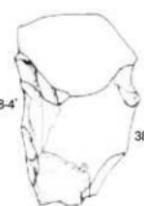
第46図 第5 ブロック出土遺物(7)

37 灰岩 接合資料



37-4 10X-88.62 石核

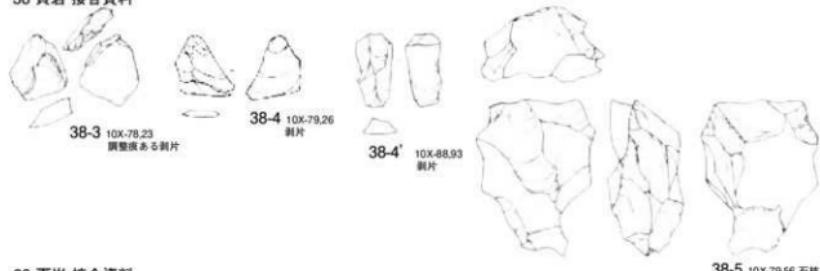
38 灰岩 接合資料



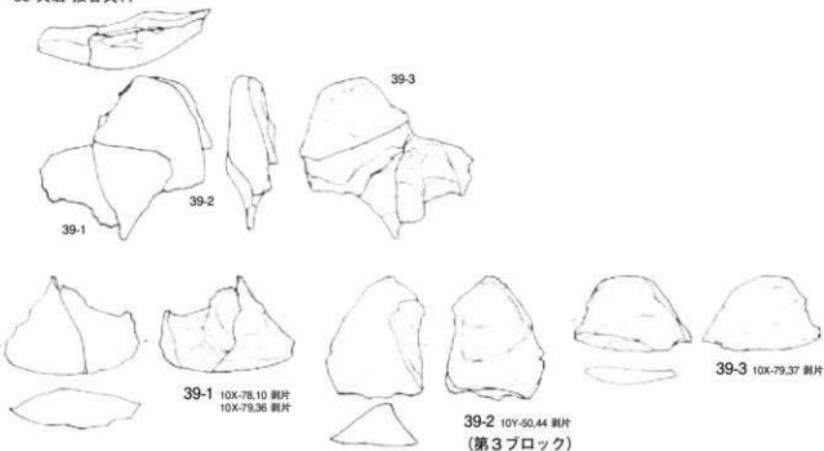
0 (4/5) 5 cm

第47図 第5ブロック出土遺物(8)

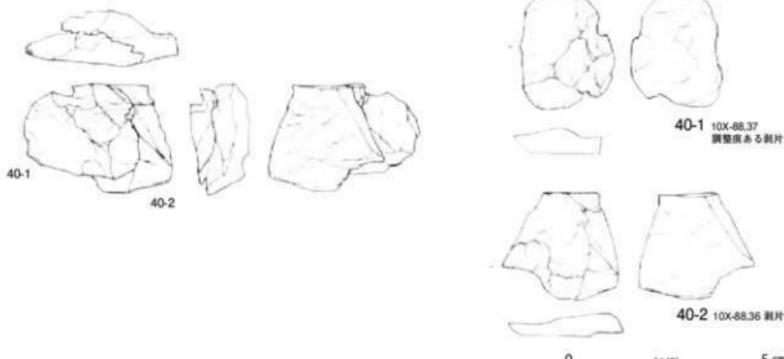
38 頁岩 接合資料



39 頁岩 接合資料



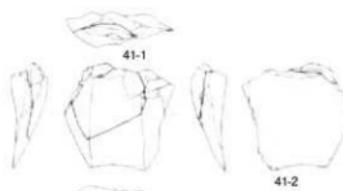
40 頁岩 接合資料



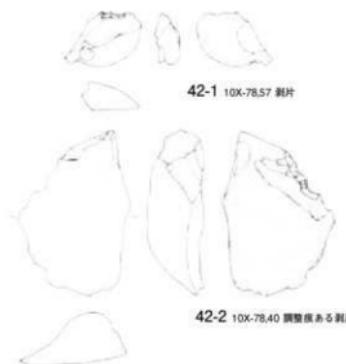
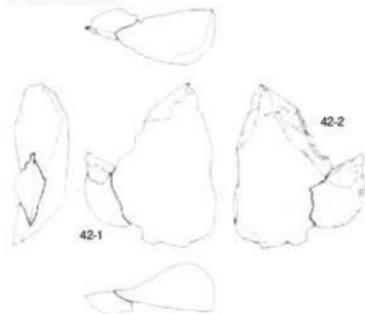
0 (4/5) 5 cm

第48図 第5ブロック出土遺物(9)

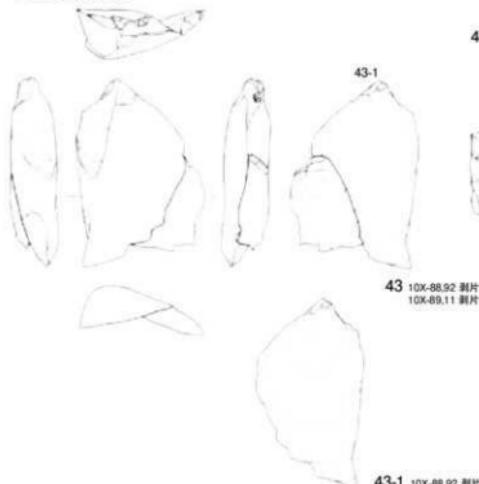
41 紙岩 接合資料



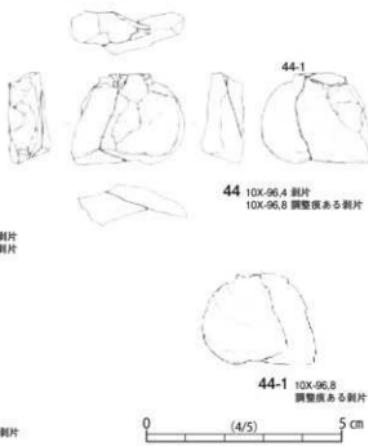
42 紙岩 接合資料



43 紙岩 接合資料

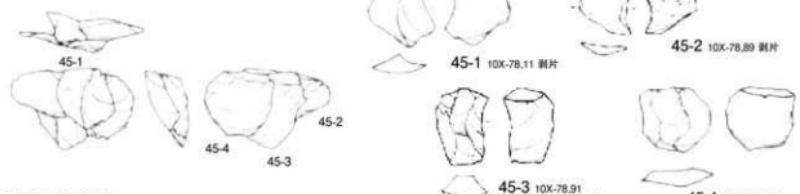


44 紙岩 接合資料

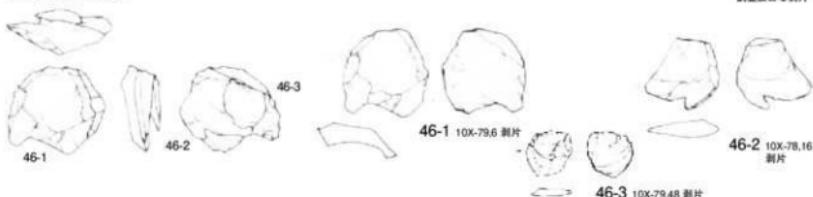


第49図 第5ブロック出土遺物(10)

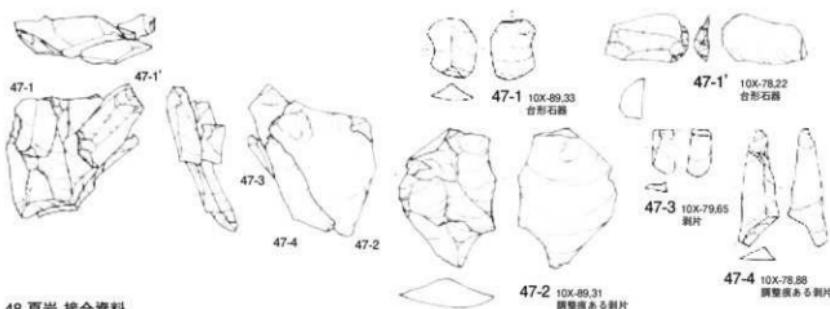
45 灰岩 接合資料



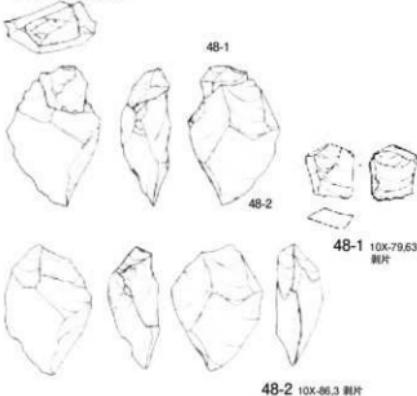
46 灰岩 接合資料



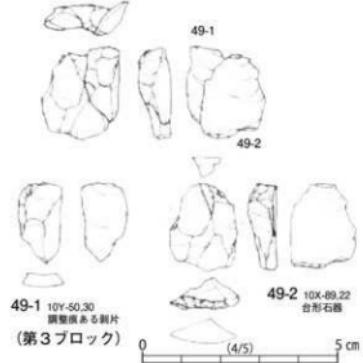
47 灰岩 接合資料



48 灰岩 接合資料



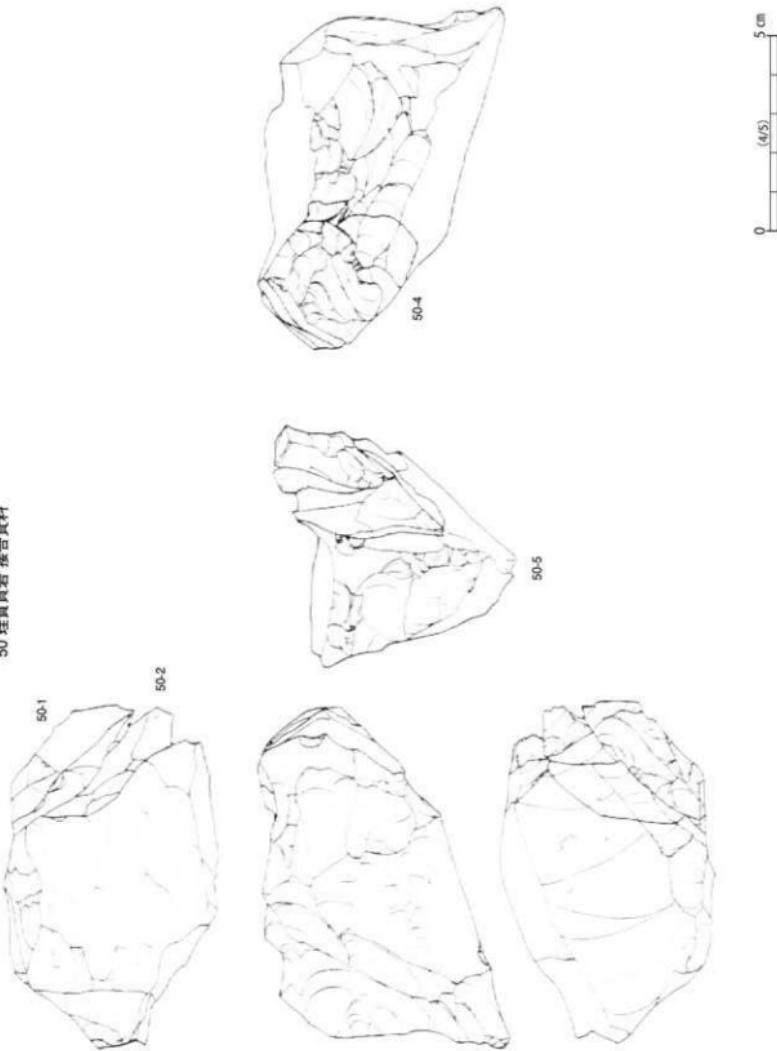
49 灰岩 接合資料



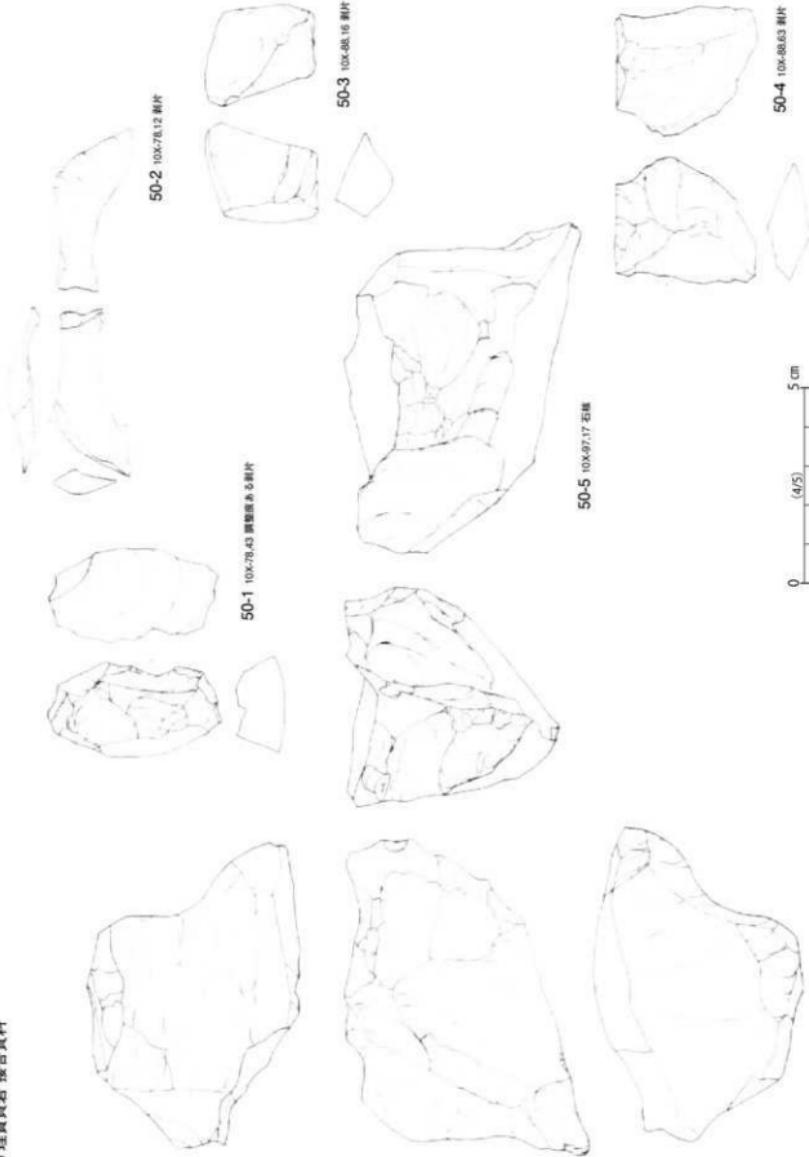
0 (4/5) 5 cm

第50図 第5ブロック出土遺物(11)

50 桂賀頁岩 接合資料

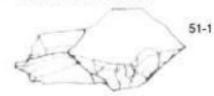


第51図 第5ブロック出土遺物(12)

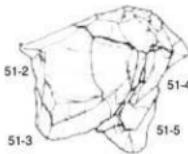


第52図 第5ブロック出土遺物(13)

51 珪質頁岩 接合資料



51-1



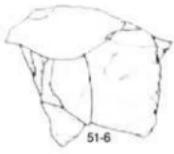
51-2

51-4

51-5



51-3



51-6



51-1 10X-88.20 削片



51-2 10X-78.44 削片



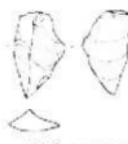
51-3 10X-97.18 使用度ある削片



51-4 10X-88.77 削片

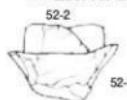


51-5 10X-88.29 削片
10X-88.76 削片



51-6 10X-88.25 削片

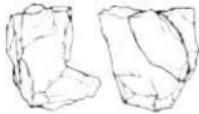
52 珪質頁岩 接合資料



52-1



52-2



52-1 10X-89.7 削片



52-2 10X-79.44 削片

53 珪質頁岩 接合資料



53-1



53-2



53-1

10X-88.7 削片

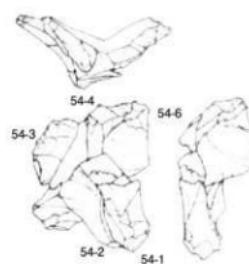


53-2 10X-88.94 削片

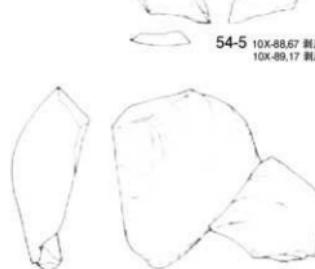
0 (4/5) 5 cm

第53図 第5ブロック出土遺物(14)

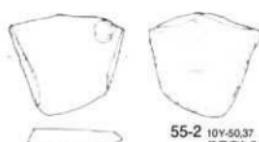
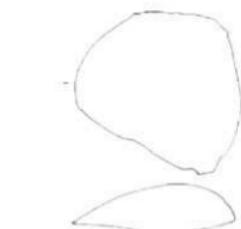
54 瓷質頁岩 接合資料



55 瓷質頁岩 接合資料

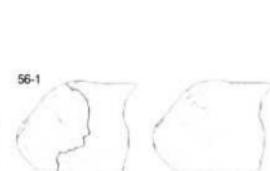


54-5 10X-88.67 削片
10X-89.17 削片

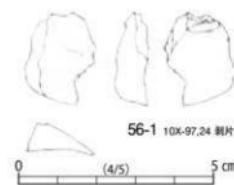


55-1 10X-97.21 使用底ある削片

56 瓷質頁岩 接合資料



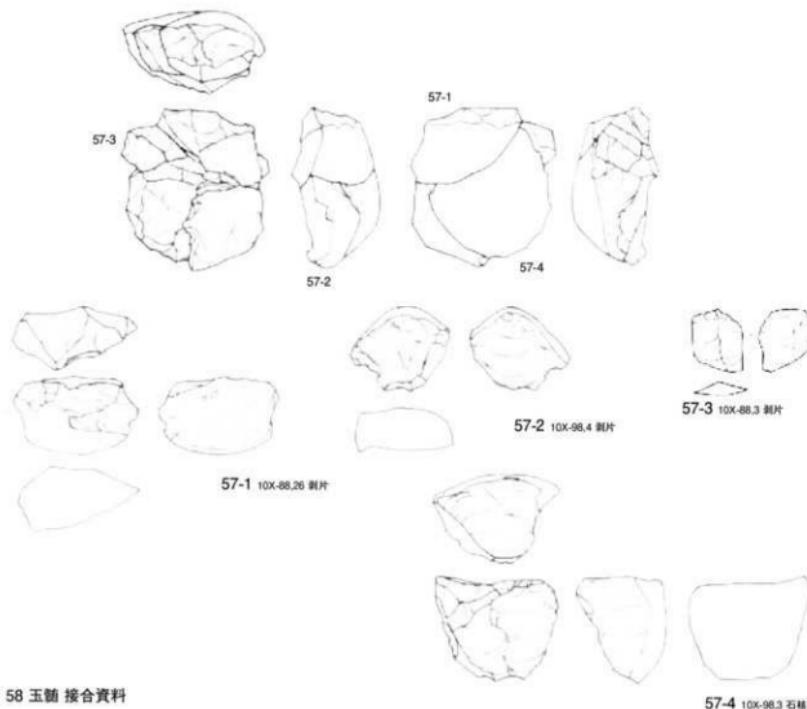
56 10X-97.24 削片
10X-97.12 削片



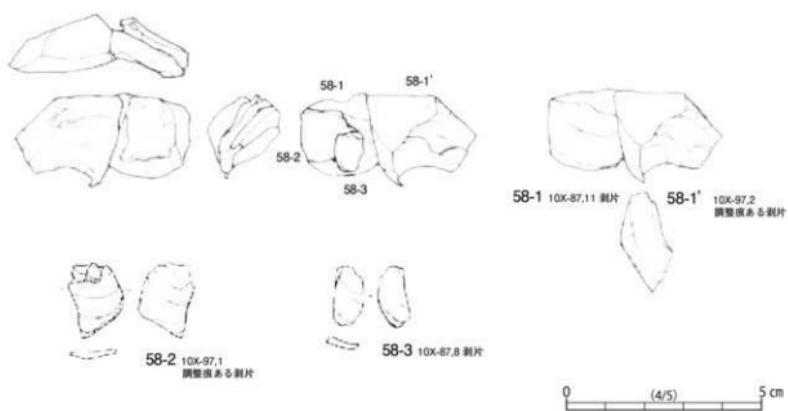
0 (4/5) 5 cm

第54図 第5ブロック出土遺物(15)

57 玉髓 接合資料



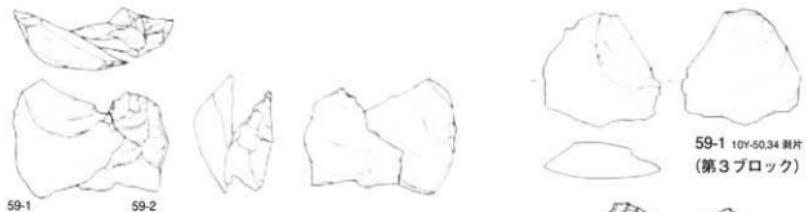
58 玉髓 接合資料



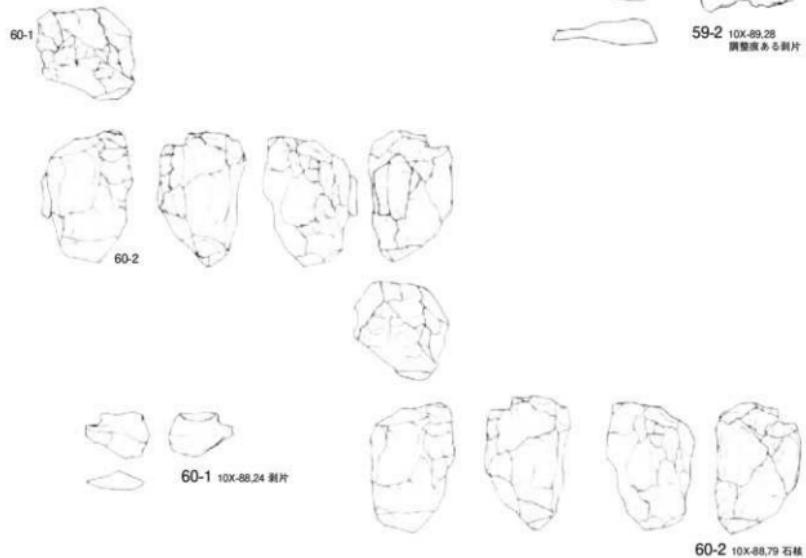
0 (4/5) 5 cm

第55図 第5ブロック出土遺物(16)

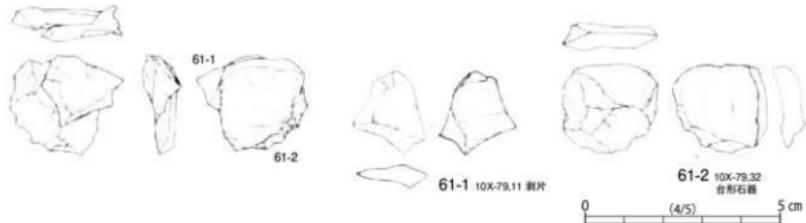
59 玉髓 接合資料



60 石英 接合資料

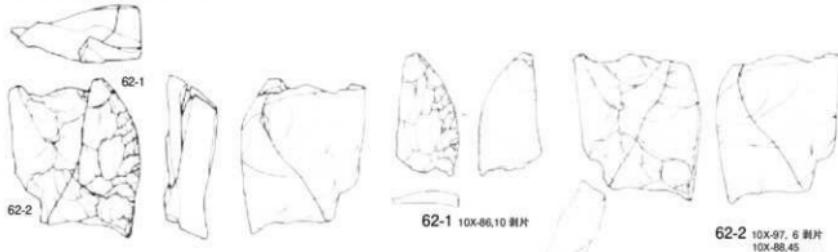


61 流紋岩 接合資料

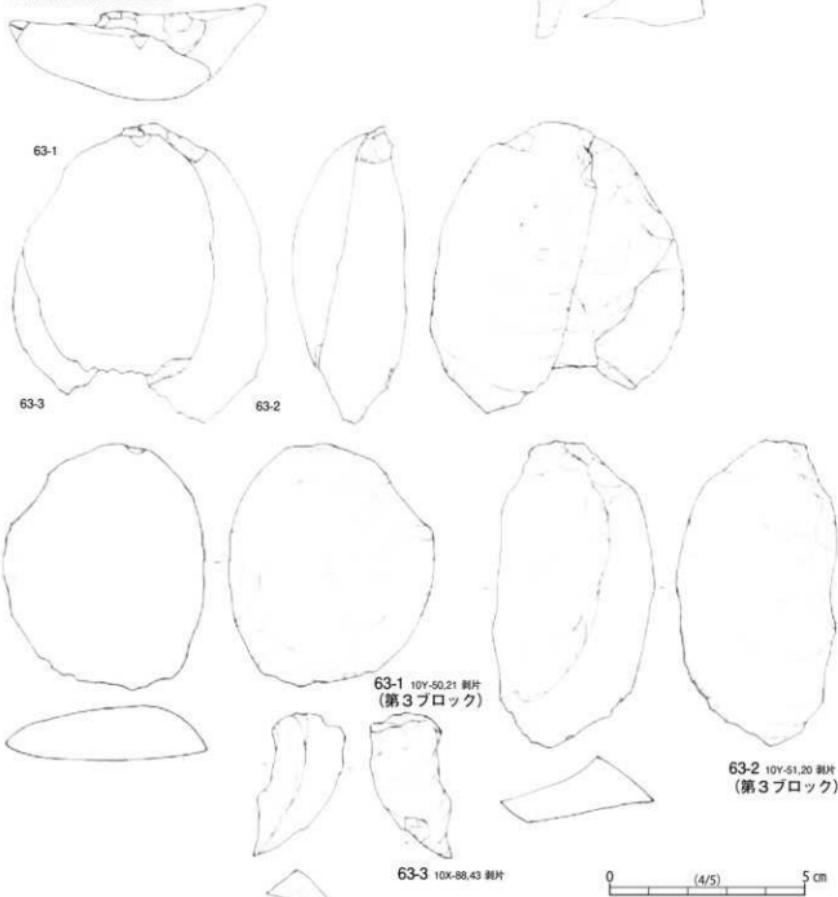


第56図 第5ブロック出土遺物(17)

62 ホルンフェルス 接合資料

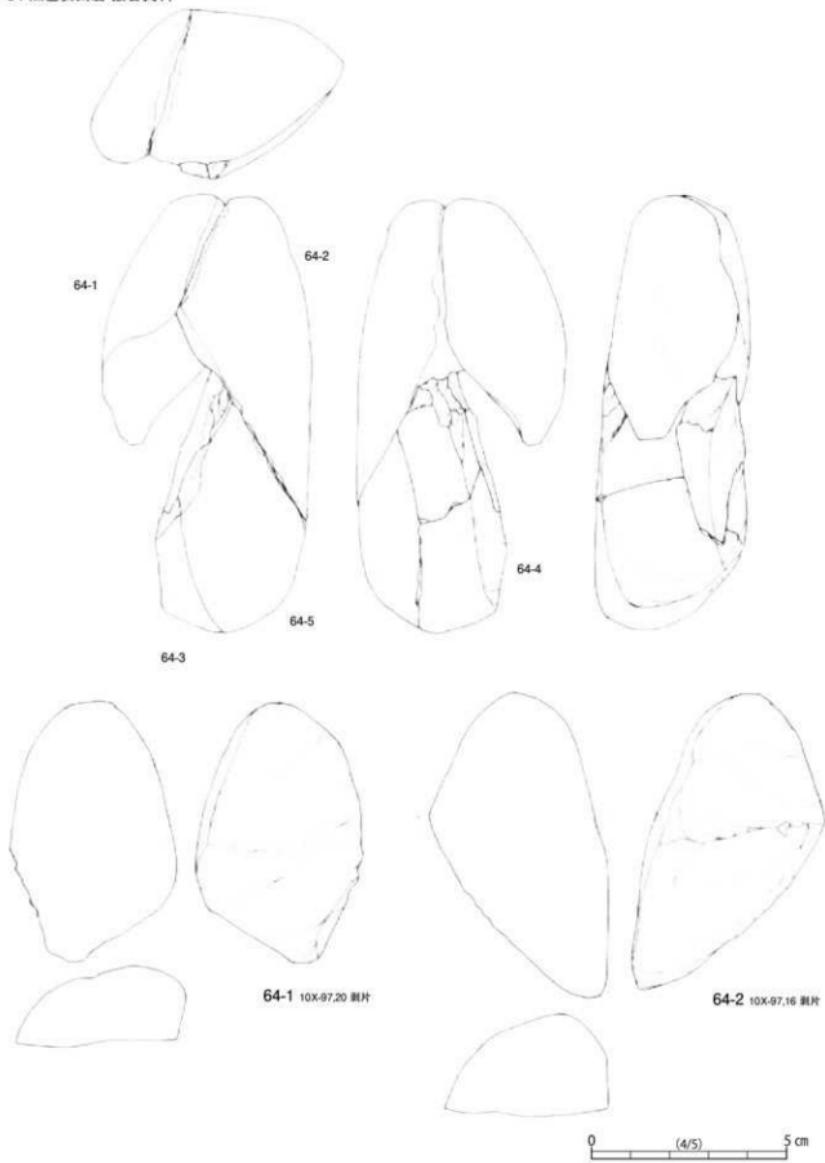


63 黒色安山岩 接合資料



第57図 第5ブロック出土遺物(18)

64 黒色安山岩 接合資料



第58図 第5ブロック出土遺物(19)

第11表 第5ブロック石器組成表

	ナイフ 磨石器	台形石器	楔形石器	調整板 ある剥片	使用板 ある剥片	剥片	碎片	石核	離	離片	合計	組成比
珪質頁岩	1 1.40g			4 20.80g	2 26.90g	2 265.70g	18.50g	259.10g			119	26.09%
玉髓(メノウ)			1 10.00g	4 19.30g		17 61.90g	12 5.40g	2 38.60g			592.40g	24.43%
頁岩		3 4.30g		12 56.80g		75 496.90g	61 9.50g	6 131.50g			36	7.89%
黒色安山岩			1 21.10g	1 6.90g	4 494.80g	9 9.40g	1 157.40g				135.20g	5.57%
石英			2 3.20g			2 10.20g	5 2.70g	1 20.00g			157	34.43%
チャート						13 96.80g	1 0.30g	1 32.90g			15	3.29%
流紋岩		1 3.80g				7 18.30g	6 2.40g				14	3.07%
黒色頁岩							1 8.40g				1	0.23%
ホルンフェルス			1 6.10g			10 61.60g	1 0.10g	1 21.70g			13	2.85%
合計	1 1.40g	4 8.10g	1 10.00g	24 127.30g	3 33.80g	246 1,514.60g	161 48.30g	16 681.20g			456	100.00%
組成比	0.23% 0.08%	0.87% 0.33%	0.23% 0.41%	5.26% 3.25%	0.64% 1.29%	33.95% 62.40%	35.31% 1.99%	3.51% 28.09%			100.00%	
ハンレイ岩									1 15.40g		1 15.40g	55.56%
砂岩										1 2.60g	1 2.60g	14.44%
合計									1 15.40g	2 2.60g	1 18.00g	100.00%
組成比									56.00% 83.56%	50.00% 14.44%	100.00% 100.00%	

49は頁岩製の接合資料である。打面を共有する小型不定形剥片2点の接合例である。

50は珪質頁岩製の接合資料である。大型の転石を原石とし、実測図正面右上方に位置する打面から50-1～50-4の剥片を作出している。50-5に見られる剥片剥離の方向は多方向であり、頻繁に打面を転移し剥片剥離を行っていることが理解できる。

51は珪質頁岩製の剥片6点の接合資料である。51-1の剥片を作出後、ネガティブ面を打面とし51-2～51-6の剥片剥離を行っている。このため51-1は打面の作成を目的とした剥片であるといえる。51-2～51-6は連続的に作出されるが、いずれも小型不定形剥片となる。

52は珪質頁岩製の接合資料である。剥片2点の接合であるが、52-1は部厚で正面には両極打面から剥片剥離を行った痕跡が明瞭に観察できる。打面を広く設定し作出しているため、末端部は石核の裏面に向かってせり出すような形状となる。この後52-2の小型不定形剥片を作出するが、この時点での石核は縦2cm程の矮小な個体となる。

53は珪質頁岩製の接合資料である。原礫面と打面を共有する小型不定形剥片2点の接合である。

54は珪質頁岩製の小型不定形剥片6点の接合資料である。各々の剥片の背面は多方向からの剥離で構成されており、接合状態を観察しても打面の位置が異なる。盤状の石核の周縁部を打面とし、求心的に剥片剥離を行っていることが明瞭である。

55は珪質頁岩製の大型剥片2点の接合資料である。両者の背面には原礫面が一様に認められ、拳大の原礫を素材としていることが窺える。打面は共有しておらず、55-1作出後、打面転移を行い55-2を作出している。

56は珪質頁岩製の接合資料である。小型不定形剥片が打面を共有して連続的に作出される。

57は玉髓製の剥片3点と石核1点の接合資料である。57-1作出後、57-2が作出されるが、打点は57-1

の打点と真逆の位置関係であり、57-1 のネガティブ面を打面として作出されるのは 57-3 である。

58 は玉髓製の剥片 3 点の接合資料である。58-1 は剥片剥離の際に二分している。58-1・58-2 は打面を共有し、連続的に作出されるが、58-3 は 58-1・58-2 作出後に打面再生を行い作出される。

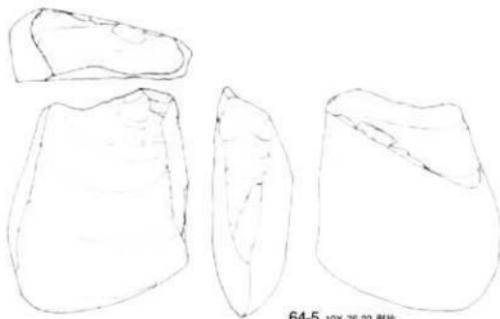
59 は玉髓製の不定形剥片 2 点の接合資料である。打面を共有するが、59-2 の背面に観察できるように、59-1 作出後数回の剥片剥離を経て 59-2 が作出される。59-1 は第 3 ブロックの分布範囲内から出土する。

60 は石英製の剥片 1 点と石核 1 点の接合資料である。60-2 の剥離面の方向は多方向からであり、打面を転移しながら剥片を作出していることが窺える。

61 は流紋岩製の小型不定形剥片 2 点の接合資料である。打面を共有し連続的に作出される。

62 はホルンフェルス製の不定形剥片 2 点の接合資料である。打面を共有し連続的に作出される。

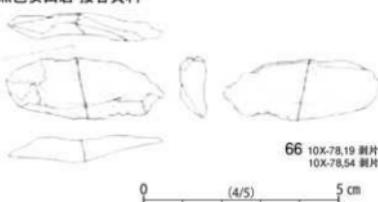
64 黒色安山岩 接合資料



65 珪質頁岩 接合資料



66 黒色安山岩 接合資料



第59図 第5ブロック出土遺物(20)

63は黒色安山岩製の接合資料である。円盤素材であり63-1・63-2は円盤の端部を打面とし連続的に作出される。63-3は63-1・63-2の作出後、打面転移を行い作出される。63-1・63-2は第3ブロックの分布範囲内で出土している。

64は黒色安山岩製の接合資料である。長さ11.2cmの川原石を原石とし、端部から打撃を加え64-1を作出している。64-2の作出は64-1のネガティブ面を打面として行われ、打面を広く設定している。素材剥片の取得を目的とした剥離ではなく、石核整形もしくは打面作成を主目的としたと考えられる。64-3～64-5の剥片は64-2のネガティブ面を打面として作出される。

65は黒色安山岩製の接合資料である。薄い作りの不定形剥片であり、剥片剥離の際に打点から二分している。

66は黒色安山岩製の接合資料である。横長剥片であり、剥片剥離の際に打点から左右に二分している。

第6ブロック(第60～71図、第12表、図版4・69～77)

地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部の標高17.5m付近に所在する。分布範囲は東西20m・南北14mと広範囲であるが、11Y-00グリッドに径2m程の集中区が見られ、そのほかは散漫な分布状況である。第7ブロックと分布範囲がほぼ重複するが、遺物の出土レベルに明瞭な差が認められる。出土標高は15m～15.8mで、平均レベルは15.2mを示す。出土層位はⅦ層～Ⅹ層にかけてある。

石器の出土点数は計195点を数え、楔形石器・調整痕の認められる剥片・使用痕の認められる剥片・剥片・碎片・石核で構成される。石材は珪質頁岩・頁岩・チャート・玉髓が多く用される傾向があり、そのほかに黒色安山岩・石英・流紋岩・ホルンフェルスが使用されるが、客体的である。礫石器ではホルンフェルス製の敲石があり、少点数ではあるがチャート・砂岩・流紋岩の礫も認められる。

出土遺物

1～4は調整痕の認められる剥片である。1は頁岩製の部厚な不定形剥片を素材とし、打面部を除去するように腹面からの急角度の調整が施される。2はチャート製であり、調整部位は末端部に限定される。背面の原礫面から腹面側に調整が施される。3は玉髓製の小型剥片を素材とし、調整部位は打面直下の右側縁のみに止まる。4は玉髓製であり、部厚な小型剥片の形状を大きく変えている。調整は打面部及び片側縁に対して施されるが、打面部の調整は面的であるのに対し、側縁の調整は急角度の調整である。

5～9は頁岩製の剥片である。5・6は大型の縦長剥片であり、5は数回の剥片剥離工程を経て作出されているのに対し、6の背面は原礫面で構成され、剥片剥離工程の初期段階に作出されたものと考えられる。7～9は不定形剥片であり、いずれの背面構成も多方向からの剥離により構成される。

10～12はチャート製の剥片である。形状は多様であり、10・12のように部厚なもの、11のように薄い作りの不定形剥片が見られる。

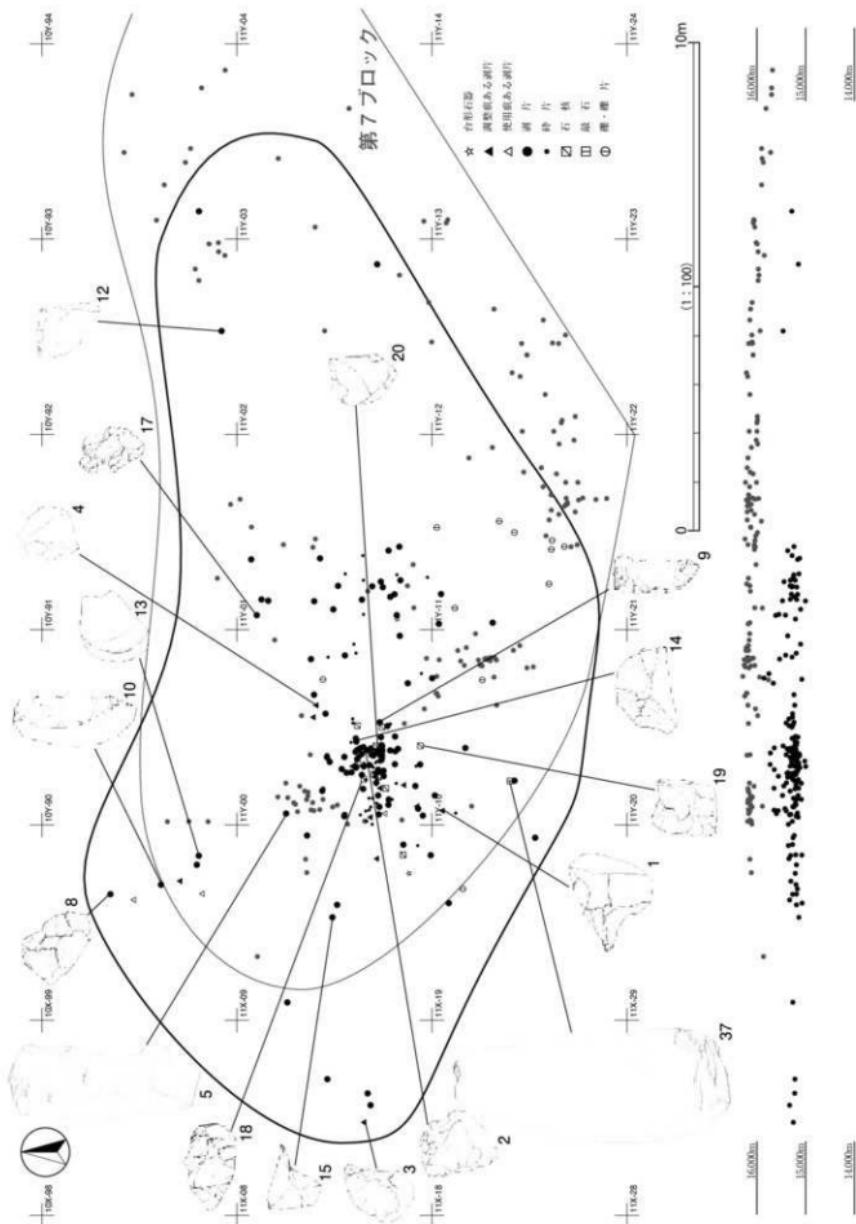
13・14は珪質頁岩製の剥片である。概して大型の不定形剥片であり、背面構成は原礫面を含む単純(13)もしくは多方向からの複雑な剥離(14)からなる。

15は玉髓製の剥片である。部厚な不定形剥片であり、背面は原礫面及び多方向からの剥離で構成される。

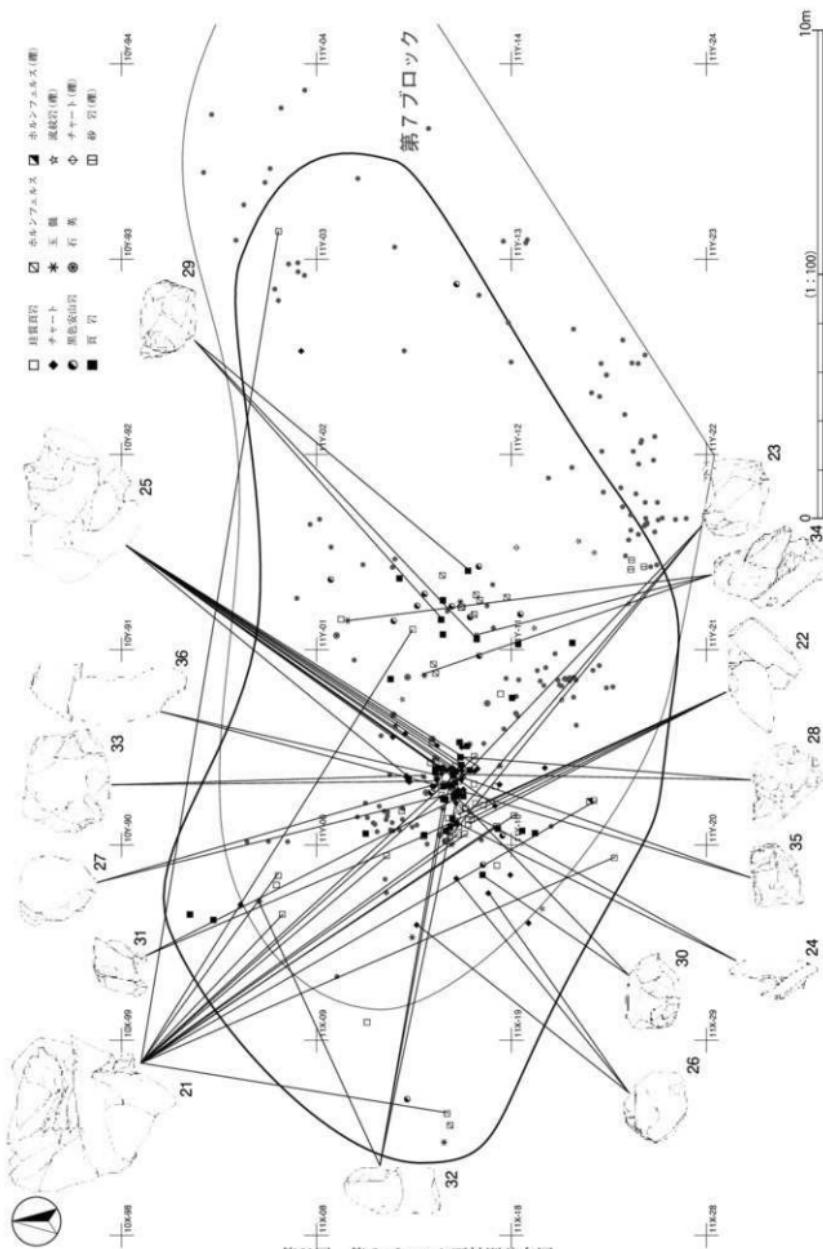
16は流紋岩製の剥片である。部厚な縦長剥片であり、原礫面を打面として作出される。

17は石英製の不定形剥片である。背面は多方向からの剥離で構成される。

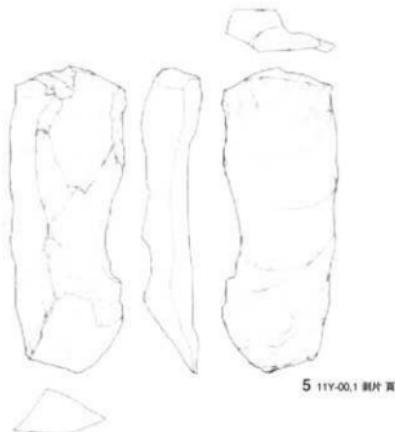
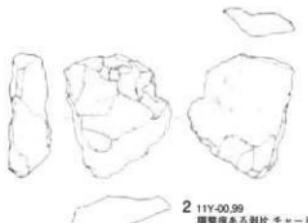
18～20は石核である。18は小型の川原石を原石とし、上下両端に打面を設定し剥片剥離を行っている。



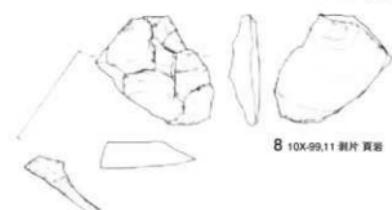
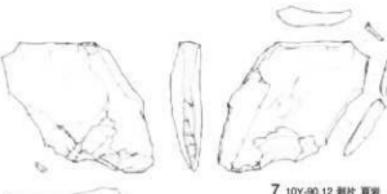
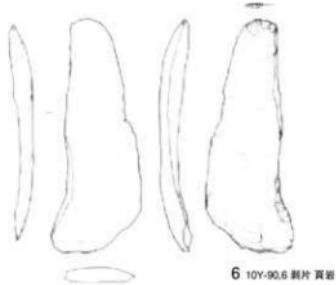
第60図 第6ブロック器種別分布図



第61図 第6ブロック石材別分布図

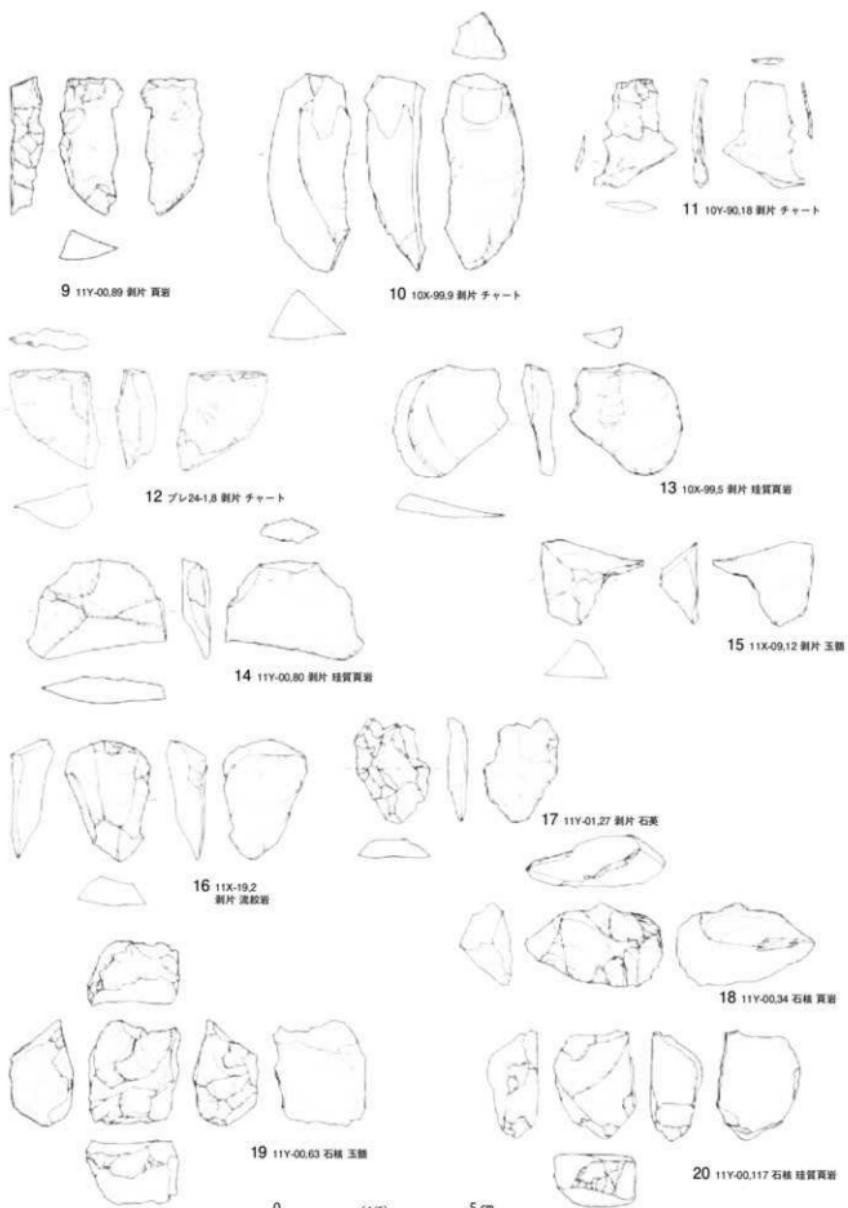


4 11Y-00.72
調整痕ある剥片
玉隕



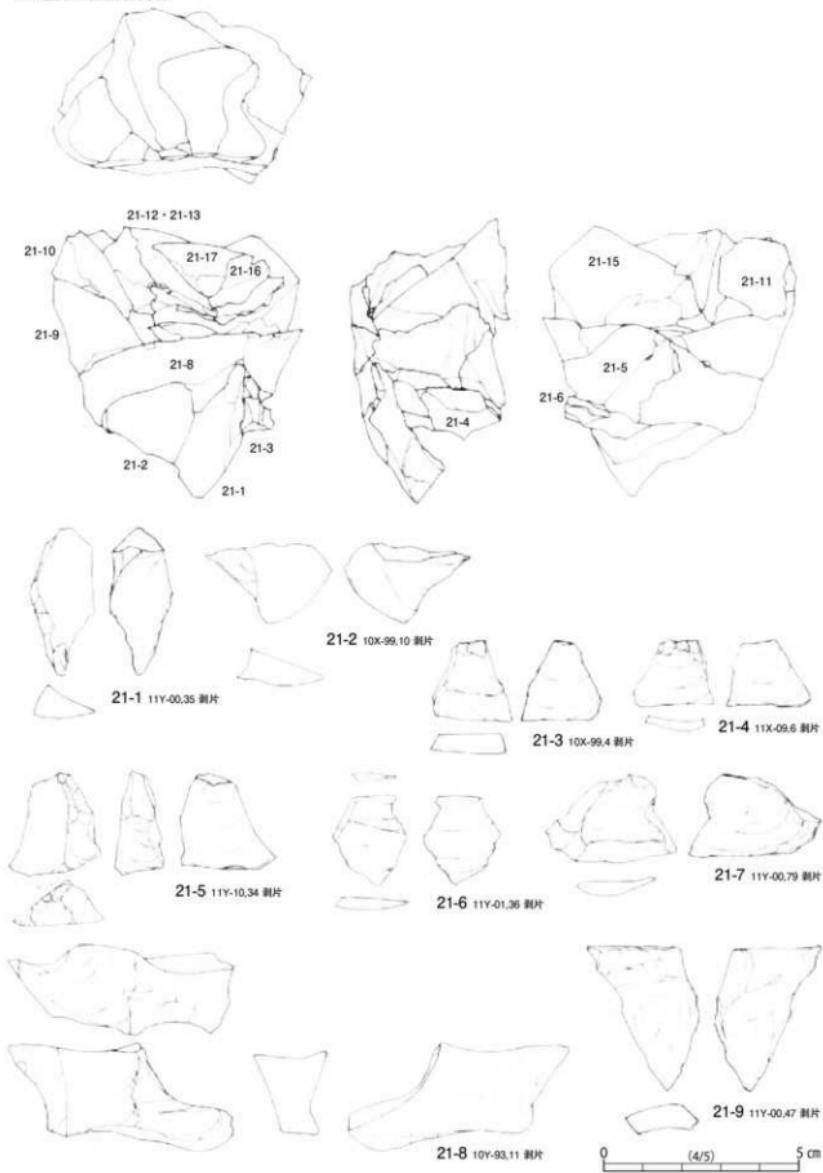
0 (4/5) 5 cm

第62図 第6ブロック出土遺物(1)



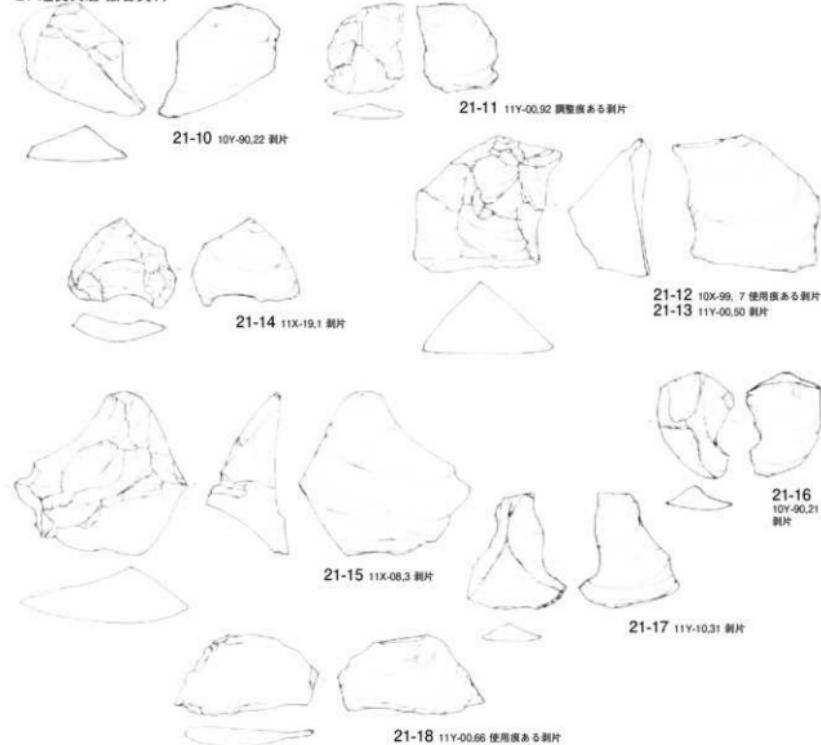
第63図 第6ブロック出土遺物(2)

21 珪質頁岩 接合資料

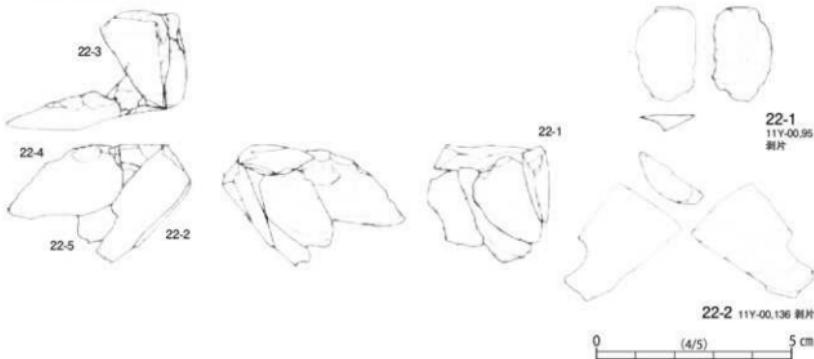


第64図 第6ブロック出土遺物(3)

21 瓦質頁岩 接合資料



22 瓦質頁岩 接合資料

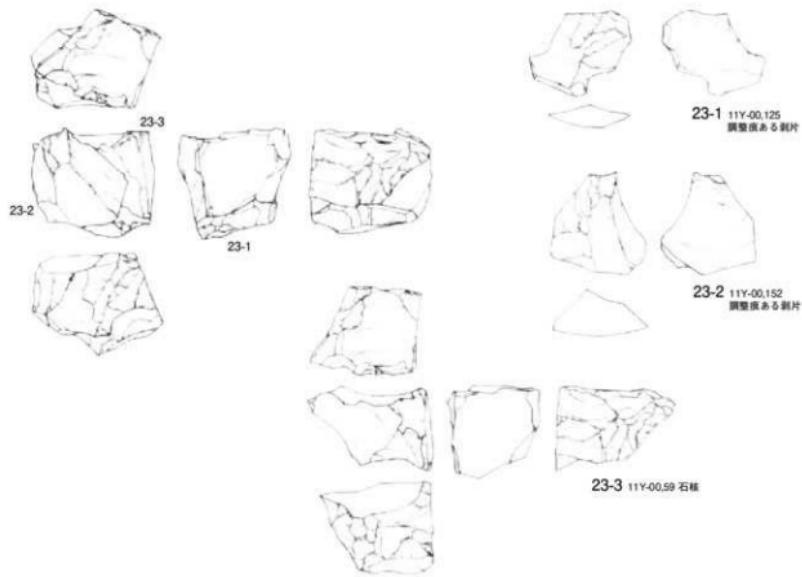


第65図 第6ブロック出土遺物(4)

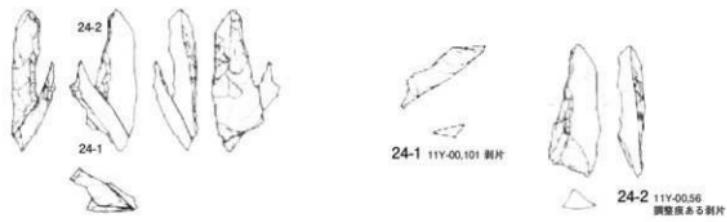
22 瓷質頁岩 接合資料



23 瓷質頁岩 接合資料



24 瓷質頁岩 接合資料

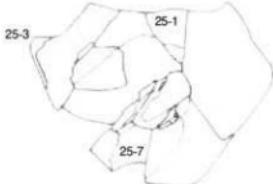
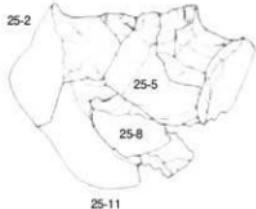


第66図 第6ブロック出土遺物(5)

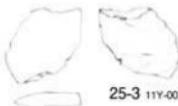
25 チャート 接合資料



25-1 11Y-00.62 剥片



25-11



25-3 11Y-00.128 剥片



25-2 11Y-00.107 剥片



25-4 11Y-00.87 剥片



25-5 11Y-00.71
調整度ある剥片



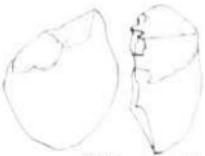
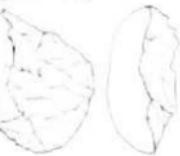
25-6 11Y-00.44 剥片



25-7 11Y-00.98 剥片



25-8 11Y-00.119 剥片



25-11 11Y-00.46 石核



25-9 11Y-00.38 剥片

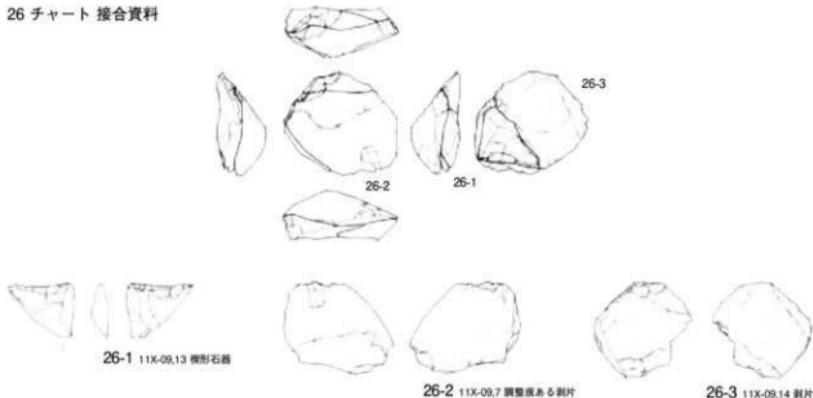


25-10 11Y-00.52 剥片

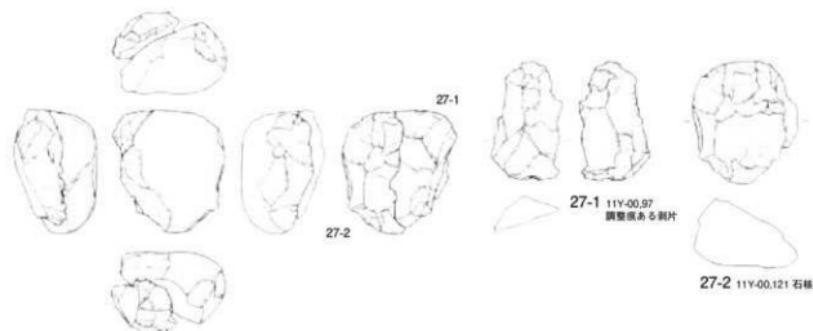
0 (4/5) 5 cm

第67図 第6ブロック出土遺物(6)

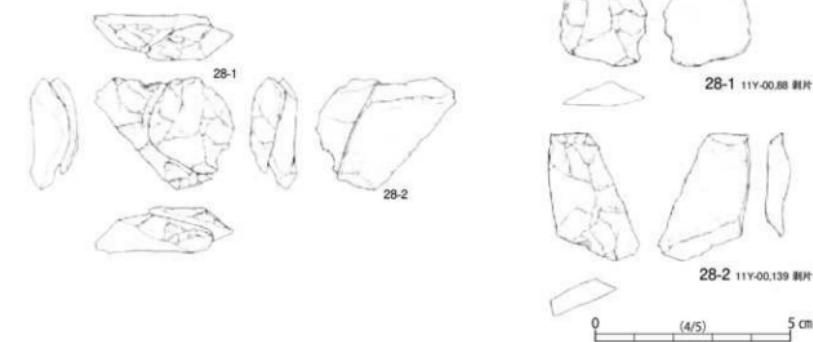
26 チャート 接合資料



27 チャート 接合資料

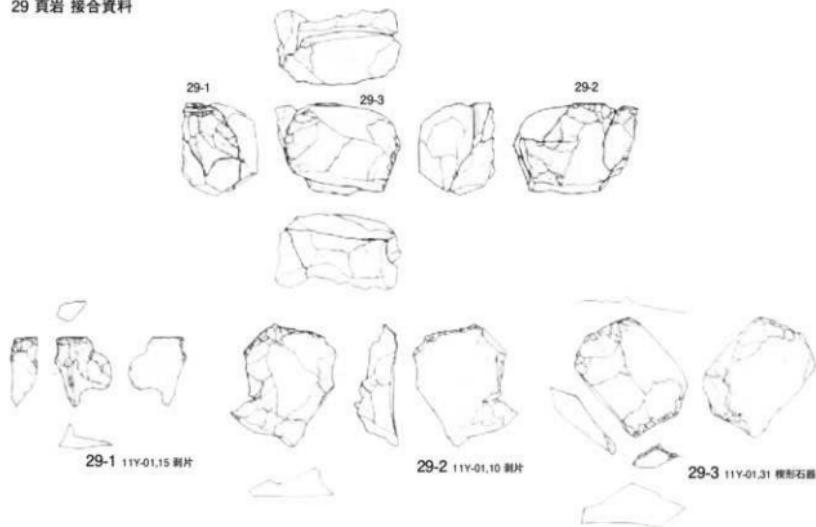


28 頁岩 接合資料

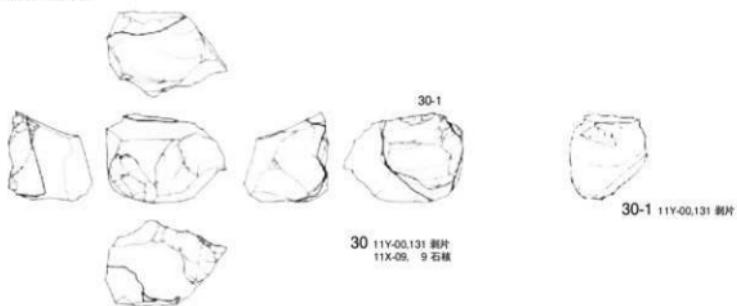


第68図 第6ブロック出土遺物(7)

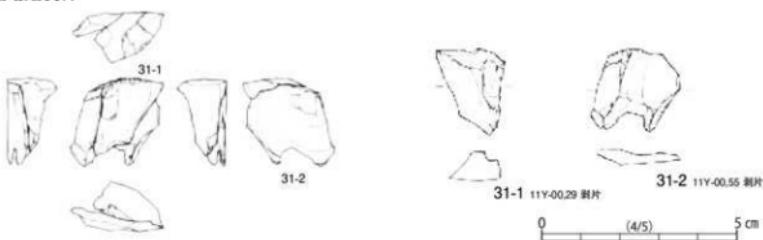
29 灰岩 接合資料



30 灰岩 接合資料



31 灰岩 接合資料

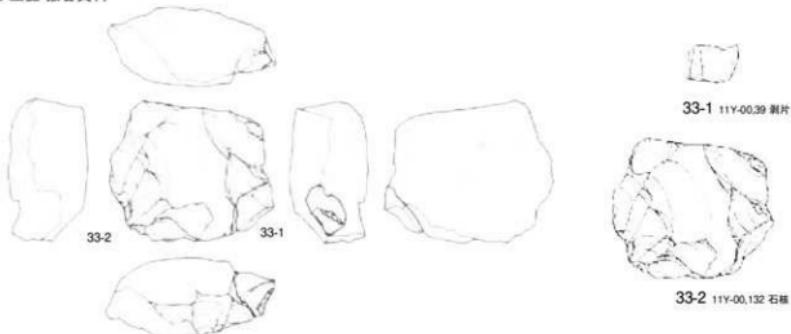


第69図 第6 ブロック出土遺物(8)

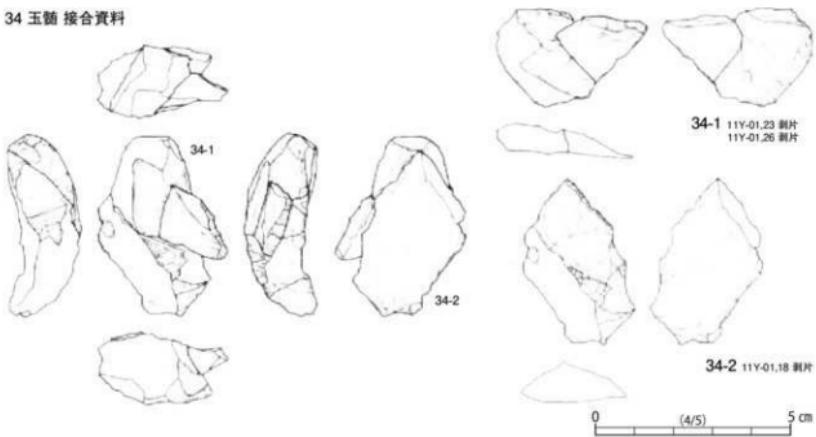
32 玉髓 接合資料



33 玉髓 接合資料

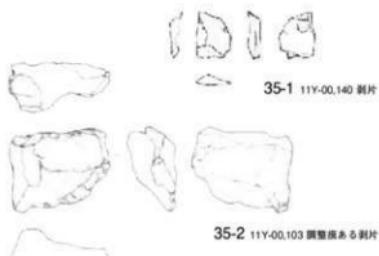
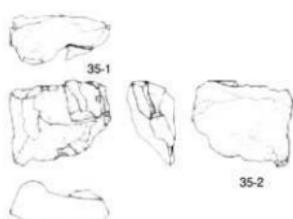


34 玉髓 接合資料

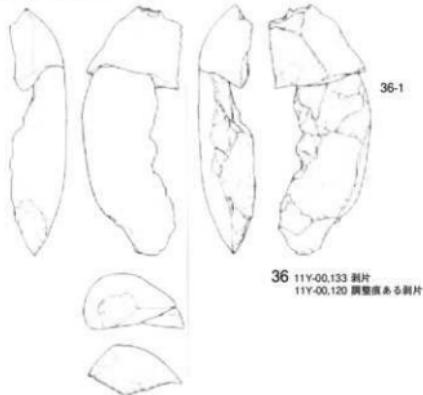


第70図 第6ブロック出土遺物(9)

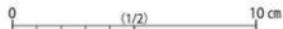
35 石英 接合資料



36 瓷質頁岩 接合資料



37 11Y-10.33 鹽石 ホルンフェルス



第71図 第6ブロック出土遺物(10)

19は玉髓製で、形状は立方体であり、裏面と左側面には原礫面が広く見られる。剥片剥離は主として上面を打面として行われた痕跡と、裏面の原礫面を打面として行われた痕跡が認められる。20は珪質頁岩製で、正面には上下両端からの剥片剥離の混成が認められる。最終剥離面は下面の原礫面を打面とした一連の剥離である。

21は珪質頁岩製の剥片18点の接合資料である。扁平な川原石を原石とし、剥片剥離は、終始、正面に当たる原礫面を打面とし行われる。作出された剥片は概して小型の不定形剥片である。

22は珪質頁岩製の小型不定形剥片5点の接合資料である。22-2～22-5の剥片は22-1作出後のネガティブ面を打面として作出されているため、22-1は打面再生剥片である可能性が高い。

23は珪質頁岩製の剥片2点と石核1点の接合資料である。23-1は石核の底面に当たり、側方からの剥離により作出される。23-2は上面に打面を転移し作出されている。

24は珪質頁岩製の接合資料である。不定形剥片と調整痕の認められる剥片の接合例である。両者の打面の位置は真逆であり、24-1は下方から、24-2は上方からの剥離により作出される。

25はチャート製の剥片10点と石核1点の接合資料である。25-1・25-2の打面は上方に位置する原礫面であり、素材剥片の作出よりも石核整形を目的とした性格が強い。25-2作出後、25-3～25-6が連続して作出される。25-7～25-10は打面を下面に転移し作出される。

26はチャート製の接合資料である。部厚な剥片の末端部から26-1・26-2の不定形剥片を連続して作出している。

27はチャート製の剥片と石核の接合資料である。小礫を素材とし剥片剥離を行っており、石核には上

第12表 第6ブロック石器組成表

	調整痕 ある剥片	使用限 かる剥片	楔形石器	剥片	碎片	石核	敲石	雜	雜片	合計	組成比
珪質頁岩	6	2		27	14	2				51	26.15%
	29.70g	16.80g		132.50g	7.70g	21.80g				210.30g	28.12%
玉髓(メノウ)	3		1	8	6	3				21	10.77%
	15.40g		7.20g	30.30g	3.60g	54.10g				110.00g	14.77%
頁岩	3	1	3	24	17	2				46	23.59%
	13.60g	3.60g	8.60g	101.80g	3.10g	20.20g				150.90g	20.16%
黒色安山岩				13	1					14	7.18%
				57.90g	0.50g					58.40g	7.80%
チャート	4		1	28	2	3				38	19.49%
	28.80g		0.70g	92.10g	0.20g	49.10g				170.00g	22.83%
石英	1			8	6					15	7.69%
	5.80g		18.70g	2.80g						27.30g	3.65%
流紋岩				1						1	0.52%
				5.10 g						5.10g	0.68%
ホルンフェルス			3	6						9	4.61%
			11.40g	3.50g						14.90g	1.99%
合計	15	3	3	112	52	10				195	100.00%
	93.30g	20.40g	16.50g	449.80g	21.40g	147.20g				748.60g	100.00%
組成比	7.69%	1.55%	1.55%	37.43%	26.66%	5.12%				100.00%	100.00%
	12.46%	2.72%	2.22%	60.08%	2.86%	19.66%				100.00%	100.00%
ホルンフェルス						1				1	8.33%
						246.10g				246.10g	22.73%
チャート						1				1	8.33%
						306.60g				306.60g	28.32%
砂岩						3				3	25.00%
						392.00g				392.00g	36.22%
流紋岩						7				7	58.34%
						137.80g				137.80g	12.73%
合計						1	1	10	12	100.00%	
						246.10g	306.60g	529.80g	1,082.50g	1,000.00g	
組成比						8.33%	8.33%	83.34%	100.00%		
						22.73%	28.32%	48.95%	100.00%		

下両端からの剥離が認められる。27-1は下端からの剥片剥離により作出され、作出後に腹面側に調整が施される。

28は頁岩製の接合資料である。両者とも不定形剥片であり、28-1作出後、打面を転移し28-2を作出している。

29は頁岩製の剥片2点と楔形石器の接合資料である。小型の円盤素材で多方向から剥片剥離を行っている。29-3の楔形石器は石核としての性格が強く、29-1・29-2の作出後、上下に微細な調整を施し製品化している。

30は頁岩製の接合資料である。小型の石核に不定形剥片が接合しており、剥片剥離工程の最終段階の資料である。石核の下面から剥片剥離を行った痕跡が認められるが、30-1の剥片の打面は、石核の上面に位置する一枚の剥離痕であり、下面から剥片剥離の後、上面の打面再生を行い、最終打面を作成していると考えられる。

31は頁岩製の小型不定形剥片2点の接合資料である。打面を共有して連続して作出される。共有する打面は原礫面である

32は玉髓製の接合資料である。部厚な剥片を石核に転用し、32-1・32-2の小型不定形剥片を作出している。この後、打削するように32-3と32-4を作出している。

33は玉髓製の接合資料である。33-2の石核は片面が礫面の盤状石核であり、縁辺を打面として求芯的に剥片剥離を行っている。33-1はこの剥片剥離の一工程で作出された小型不定形剥片である。

34は玉髓製の接合資料である。部厚な不定形剥片の接合例であり、打面を共有する。34-1は剥片剥離時に打点から左右に二分している。

35は石英製の接合資料である。両者とも小型の不定形剥片で、同一打面から連続的に作出される。

36は珪質頁岩製の接合資料である。縦長剥片の打面部を折断し、折断後、末端部付近の個体に対し調整を施している。調整は側縁から素材剥片の腹面側に行われ、素材剥片の原型を大きく変化させている。

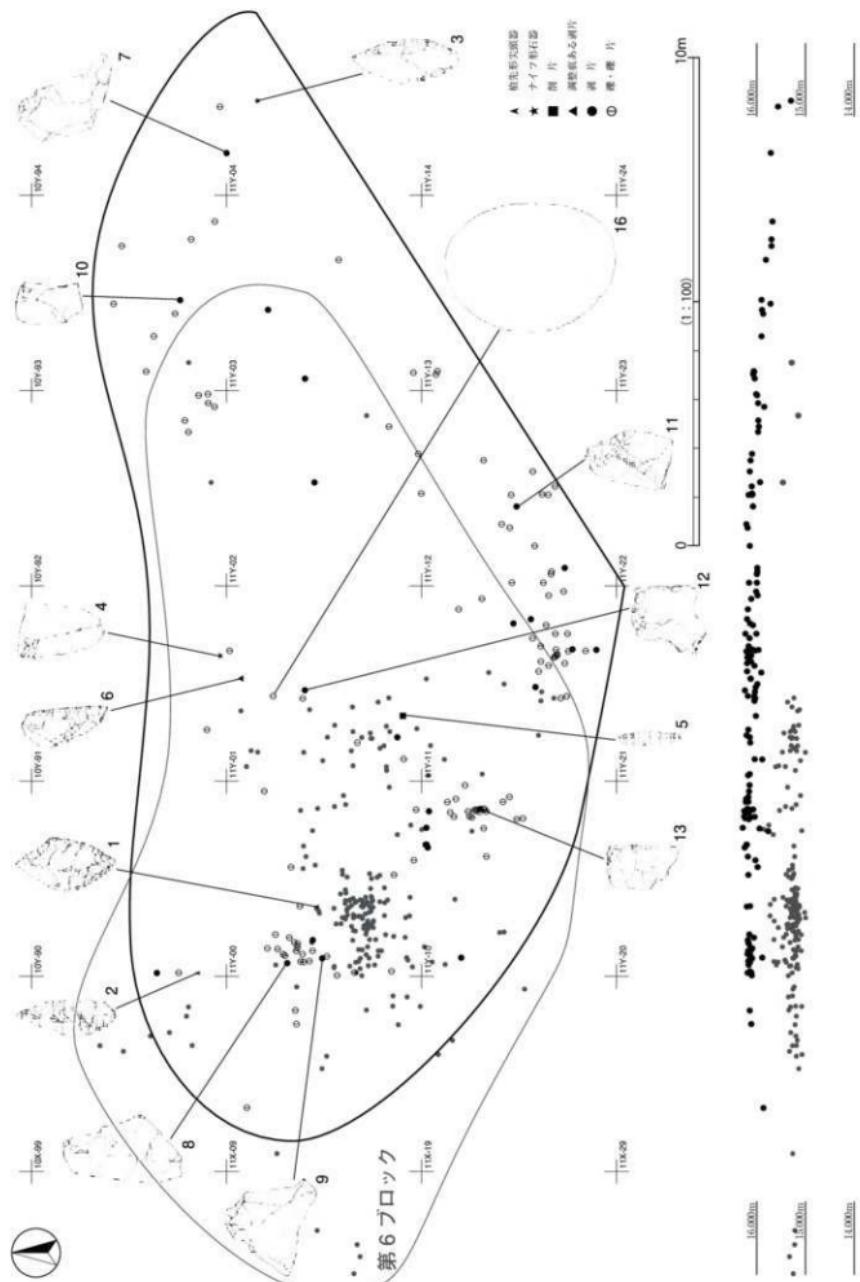
37はホルンフェルス製の敲石である。棒状礫を素材とし、上下両端に敲打による剥落痕が明瞭に認められる。

第7ブロック(第72~75図、第13表、図版4・78・79)

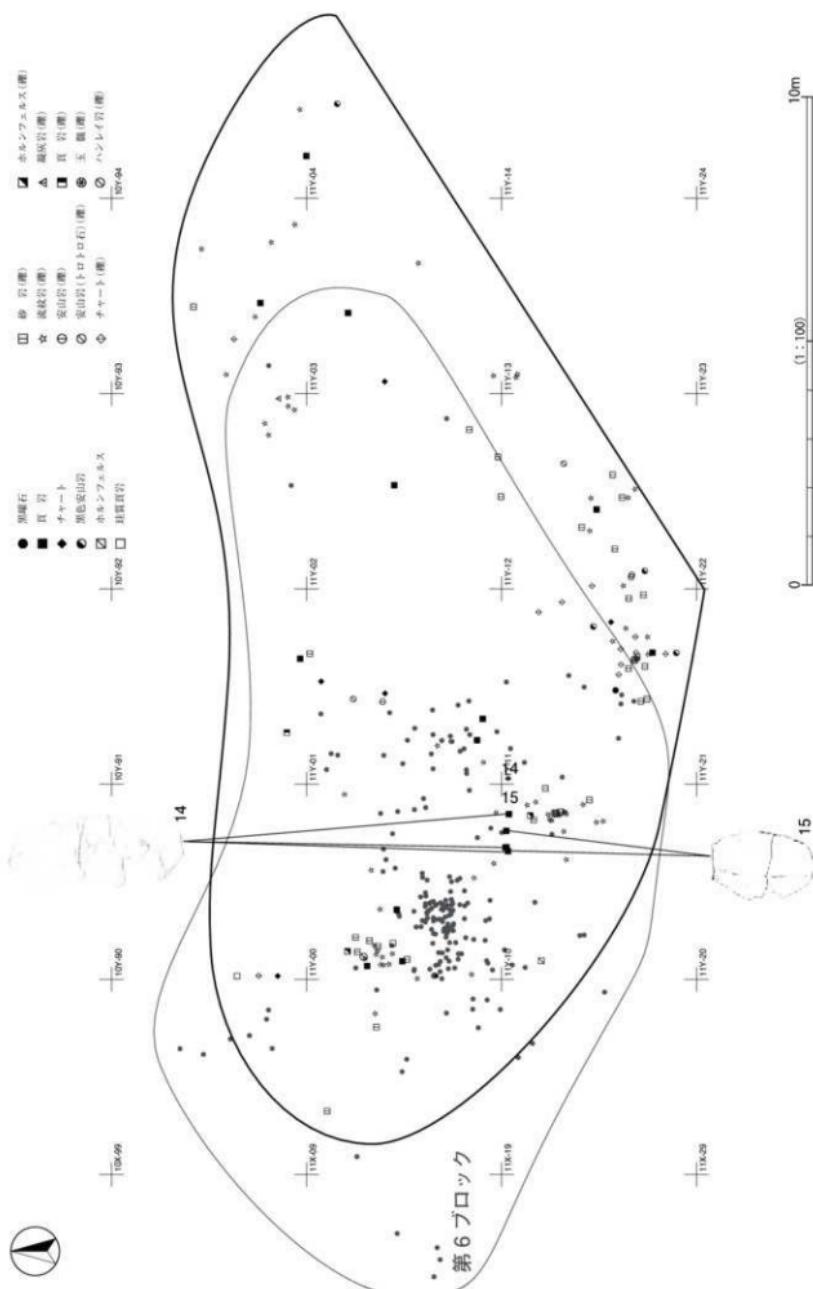
地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部の標高17.5m付近に所在する。第6ブロックとほぼ分布範囲が重なるが、第6ブロック石器群の出土標高に明瞭な差があり、両者の分割は容易である。石器出土標高の平均レベルは16.05mである。出土層位は調査時の記載ではⅢ層～Ⅳ層にかけての記載があり、Ⅲ層下部に所属すると考えられる。

東西22m・南北10mと分布域は広く、分布範囲内のIIY-00グリッド・IIY-10グリッド・IIY-11グリッドの3か所に集中区が認められる。集中区以外の箇所は散漫な分布状況である。礫群を伴い、分布範囲及び分布範囲内の集中区に一様に礫の分布が認められる。

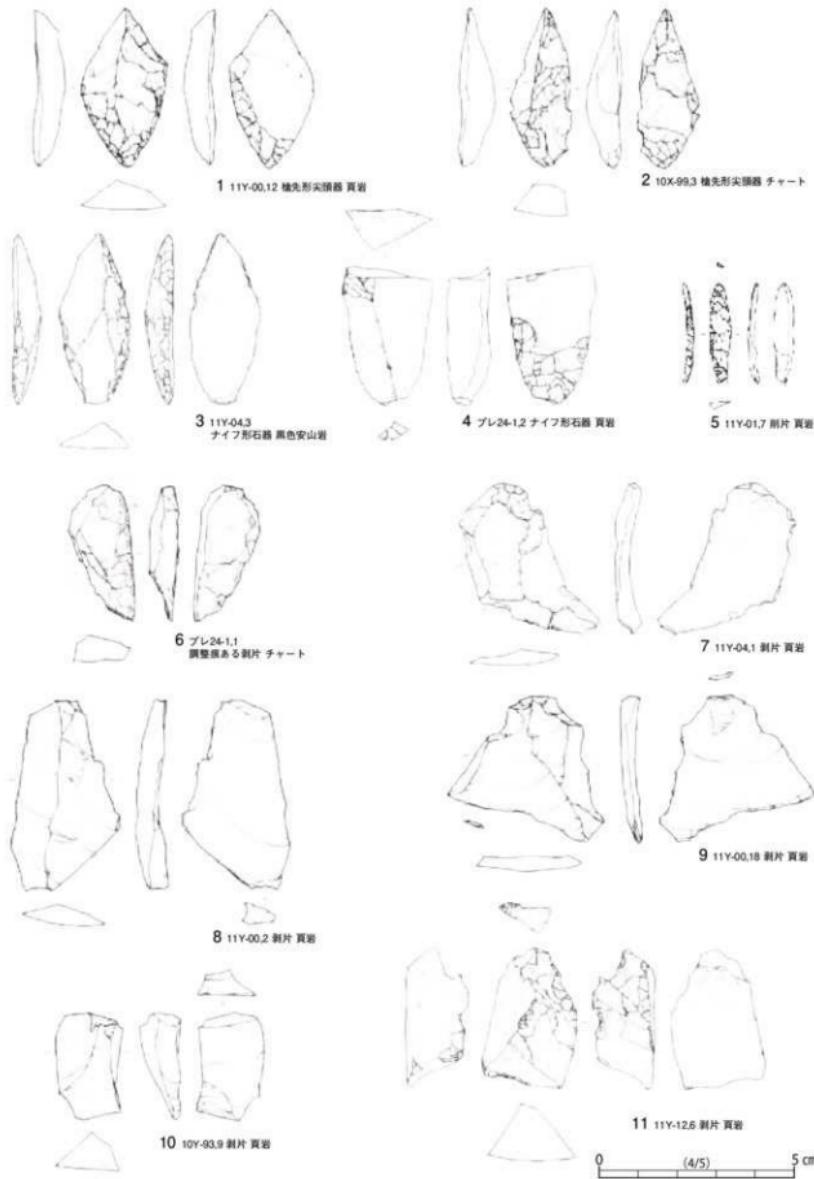
定型的な石器は槍先形尖頭器・ナイフ形石器が見られ、そのほかに槍先形尖頭器に起因する削片・調整痕の認められる剥片・使用痕の認められる剥片・剥片が石器組成に加わる。使用される石材は槍先形尖頭器の石材である頁岩が点数比・重量比ともに過半数を占める。同じく槍先形尖頭器の石材であるチャートについては、点数比で16.6%・重量比で12.8%に止まる。



第72図 第7ブロック 器種別分布図



第73図 第7ブロック石材別分布図

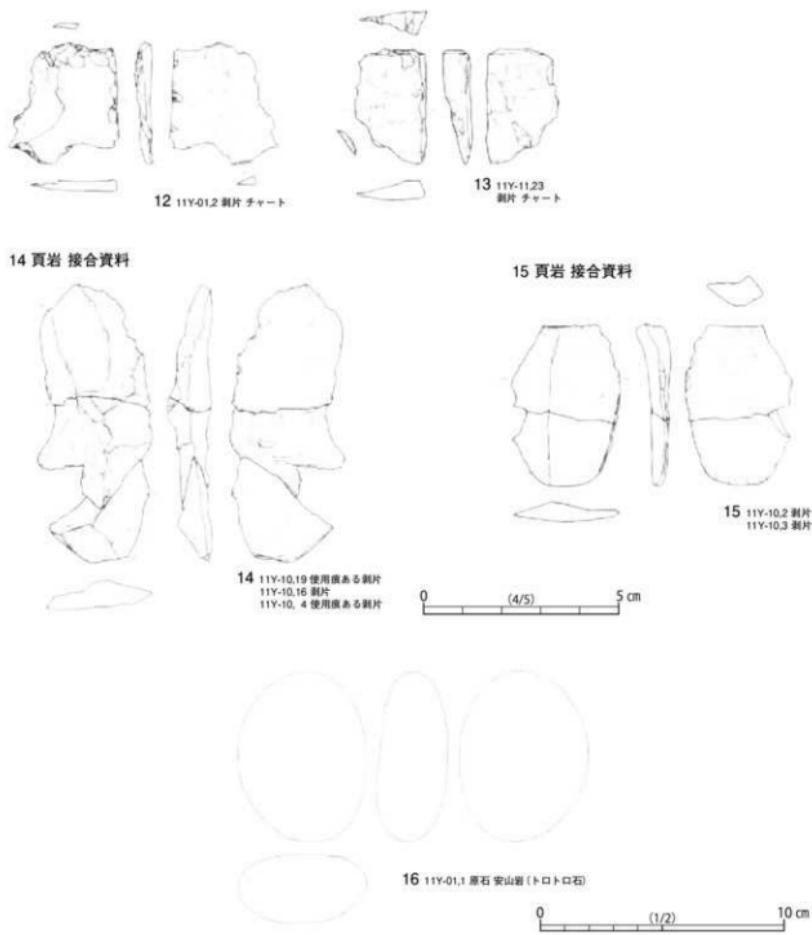


第74図 第7ブロック出土遺物(1)

出土遺物

1・2は楕状剥離を有する槍先形尖頭器である。1は頁岩製の縦長剥片を素材とし、末端部を先端部に設定し製品化している。素材剥片の背面は楕状剥離及び周縁からの調整が施されるが、腹面に対する調整は打面部及び片側縁に限定され、面的な調整が施される。最大幅がやや先端部に偏る形状である。2はチャート製でありほぼ全面に調整が施される。正面の調整は急角度の剥離により施されるが、裏面の調整は面的であり、断面形状は台形に近い。最大幅は基部側に偏る。

3・4はナイフ形石器である。3は黒色安山岩製の縦長剥片の打面側を先端部に設定し製品化している。



第75図 第7ブロック出土遺物(2)

調整は二側縁に対し素材剥片の腹面側から緩い角度で施される。このため断面形状は底面の広い三角形状である。4は頁岩製の縦長剥片の末端部を先端部に設定し製品化している。調整は素材剥片の打面、製品の基部に対し、素材剥片の腹面側に面的に施される。中途より先端部側が欠損する。

5は頁岩製の削片である。正面と左側面にプランクの調整痕が明瞭に観察できる。

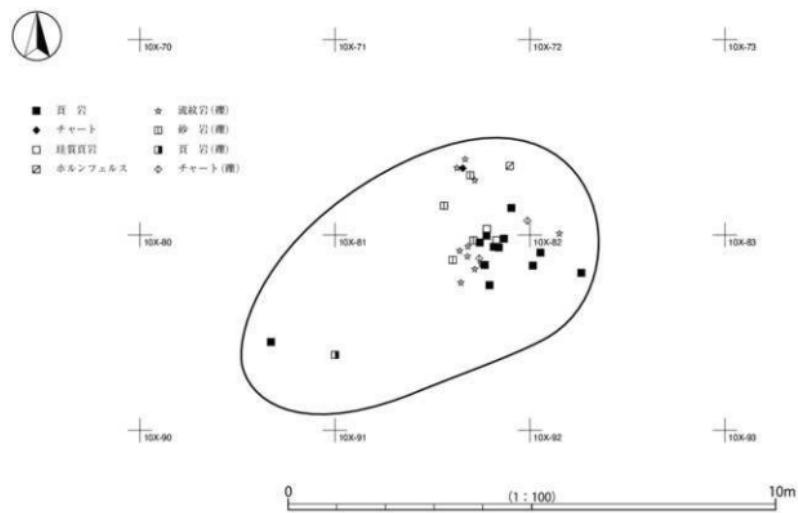
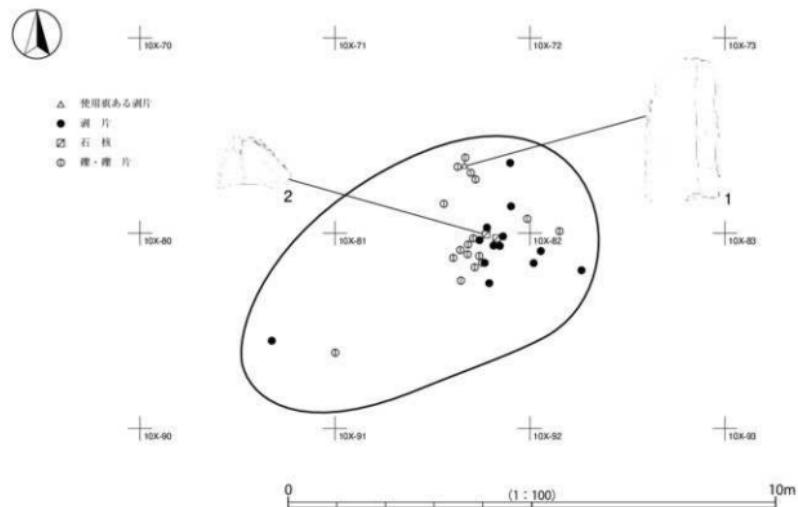
6はチャート製の調整痕の認められる剥片である。横長剥片の末端部を折断・除去し、切断面から微細な調整を施している。

7~11は頁岩製、12・13はチャート製の剥片である。頁岩製の剥片は概して縦長剥片であり、7~9については、背面を構成する剥離の方向は、各剥片の主要剥離面の方向と一致する。器厚も薄手の剥片であり、10・11の部厚な剥片とは剥片剥離工程での作出意図の相違が感じられる。12・13のチャート製の剥片については、背面構成等の共通項は認められない。節理が多く混入する石材のためか、部分的な剥落が観察される。

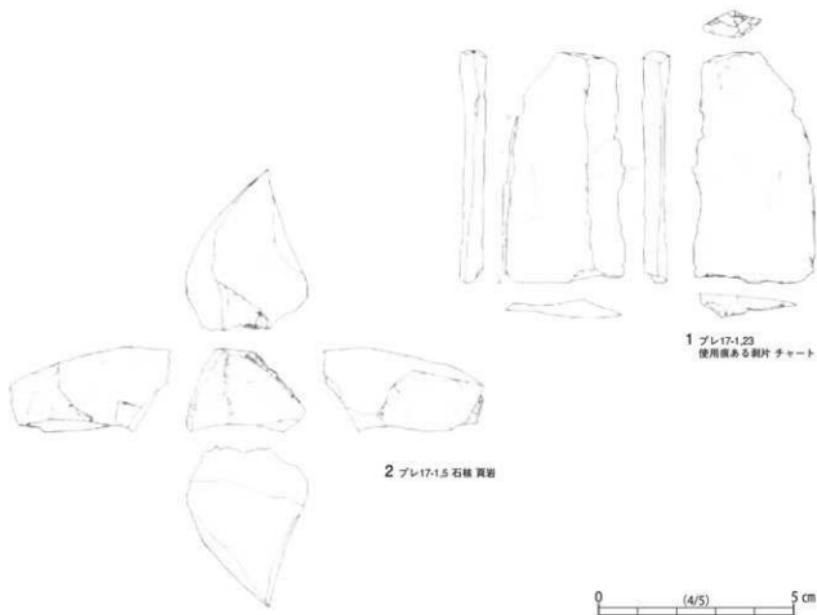
14は頁岩製の接合資料である。大型の縦長剥片を3分割し、そのうちの打面側及び末端部側の側縁に微細な剥落痕が認められる。15は同様に縦長剥片の中位から打面側、末端部側に分離している。打面直下に最大厚をもち、末端部はヒンジ・フラクチュアとなる。

第13表 第7ブロック石器組成表

	前先形 尖頭器	ナイフ 形石器	削片	調整痕 ある剥片	使用痕 ある剥片	剥片	原石	種	種片	合計	組成比
珪質頁岩						2				2	6.67%
							21.10g				21.10g 15.85%
黒色安山岩	1					3				4	13.34%
	4.80g						17.30g				22.10g 16.60%
頁岩	1	1	1			2	12			17	56.67%
	5.70g	8.60g	0.30g			10.10g	44.90g			69.60g	52.29%
黒曜石							1			1	3.33%
							2.20g				2.20g 1.65%
チャート	1		1			3				5	16.66%
	5.20g		4.00g				7.90g				17.10g 12.85%
ホルンフェルス							1			1	3.33%
							1.00g				1.00g 0.78%
合計	2	2	1	1	2	22				30	100.00%
	10.90g	13.40g	0.30g	4.00g	10.10g	94.40g				133.10g	100.00%
組成比	6.67%	6.67%	3.33%	3.33%	6.67%	73.33%					100.00%
	8.19%	10.07%	0.23%	3.00%	7.59%	70.92%					100.00%
安山岩(トロトロ石)							1			1	1.65%
							142.40g				10.60g 15.30g 39.2%
安山岩										4	3.30%
							176.80g				176.80g 176.80g 45.3%
チャート										12	9.92%
							89.90g				89.90g 89.90g 2.30%
玉髓(メノウ)										1	0.84%
							8.30g				8.30g 0.25%
頁岩										2	1.65%
							24.70g				24.70g 0.63%
砂岩										1	0.84%
							49.60g				766.00g 815.60g 20.92%
流紋岩										5	4.30%
							738.60g				1745.70g 2,484.30g 63.73%
ホルンフェルス										2	1.65%
							75.80g				75.80g 1.94%
凝灰岩										1	0.84%
							54.70g				54.70g 1.40%
ハンレイ岩										4	3.30%
							15.00g				15.00g 0.38%
合計										1	100.00%
							142.40g				842.90g 2912.80g 3898.10g 100.00%
組成比										0.84%	5.78% 93.38% 100.00%
										3.65%	21.63% 74.72% 100.00%



第76図 第8ブロック器種別・石材別分布図



第77図 第8ブロック出土遺物

16は安山岩(トロトロ石)の原石である。転石で原礫面は著しく風化している。剥片剥離の敲打痕は認められない。

第8ブロック(第76・77図、第14表、図版4・79)

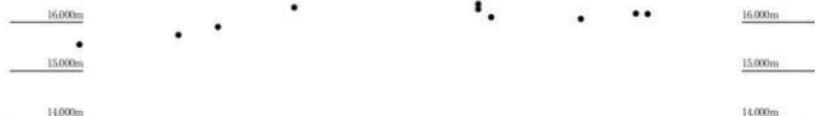
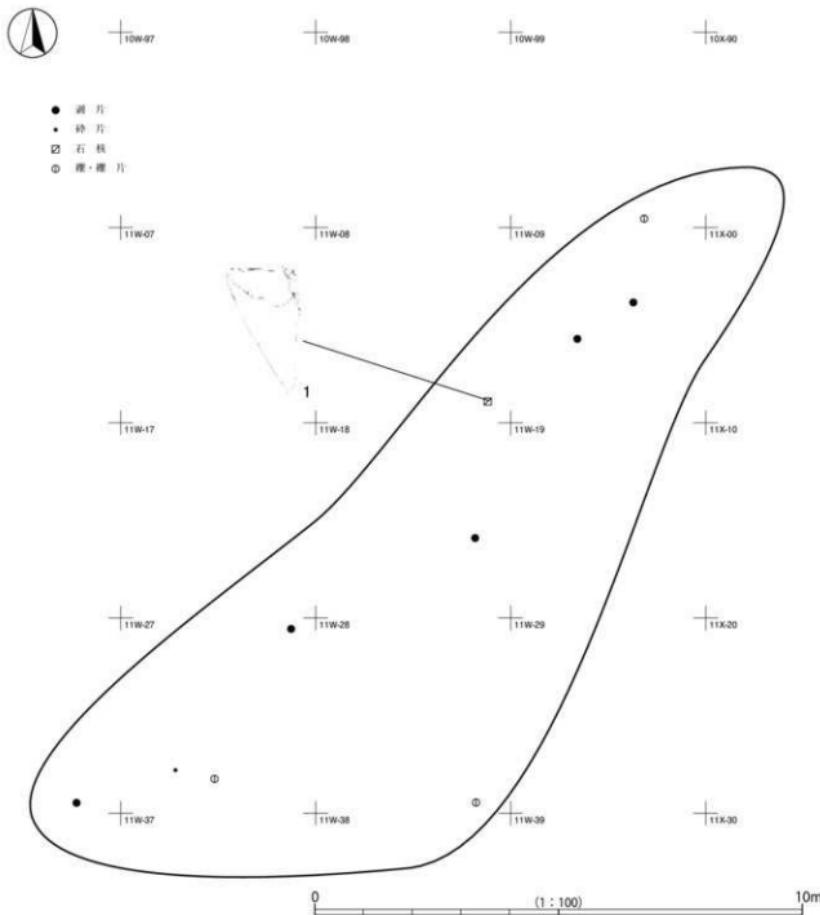
地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部の標高17m付近に所在する。前述した第1ブロック→第7ブロックの立地条件とはほぼ同一であるが、やや地金堀の上流に偏る地点に所在する。

遺物分布範囲は東西7m・南北4.2mであり、分布範囲の東側10X-71グリッド・10X-81グリッドに集中箇所が認められる。

石器の出土点数は計35点を数え、このうち18点が砾片である。砾片石器では定型的な石器は認

第14表 第8ブロック石器組成表

	使用痕 ある剥片	剥片	石核	砾片	合計	組成比
チャート	1				1	5.88%
	10.70g				10.70g	11.97%
		2	1		3	17.65%
珪質頁岩		16.60g	21.40g		38.00g	62.51%
		11	1		12	70.59%
頁岩		9.40g	24.30g		33.90g	37.92%
安山岩(トロトロ石)		1			1	5.88%
	6.80g				6.80g	7.60%
合計	1	14	2		17	100.00%
	10.70g	32.80g	45.90g		89.40g	100.00%
組成比	5.88%	82.35%	11.77%		100.00%	
	11.97%	36.69%	51.34%		100.00%	
頁岩				1	1	5.56%
				0.90g	0.90g	
砂岩				5	5	27.78%
				34.00g	34.00g	
チャート				2	2	11.11%
				49.10g	49.10g	
流紋岩				10	10	55.55%
				214.50g	214.50g	
合計				18	18	100.00%
				298.40g	298.40g	100.00%
組成比				100.00%	100.00%	
				100.00%	100.00%	



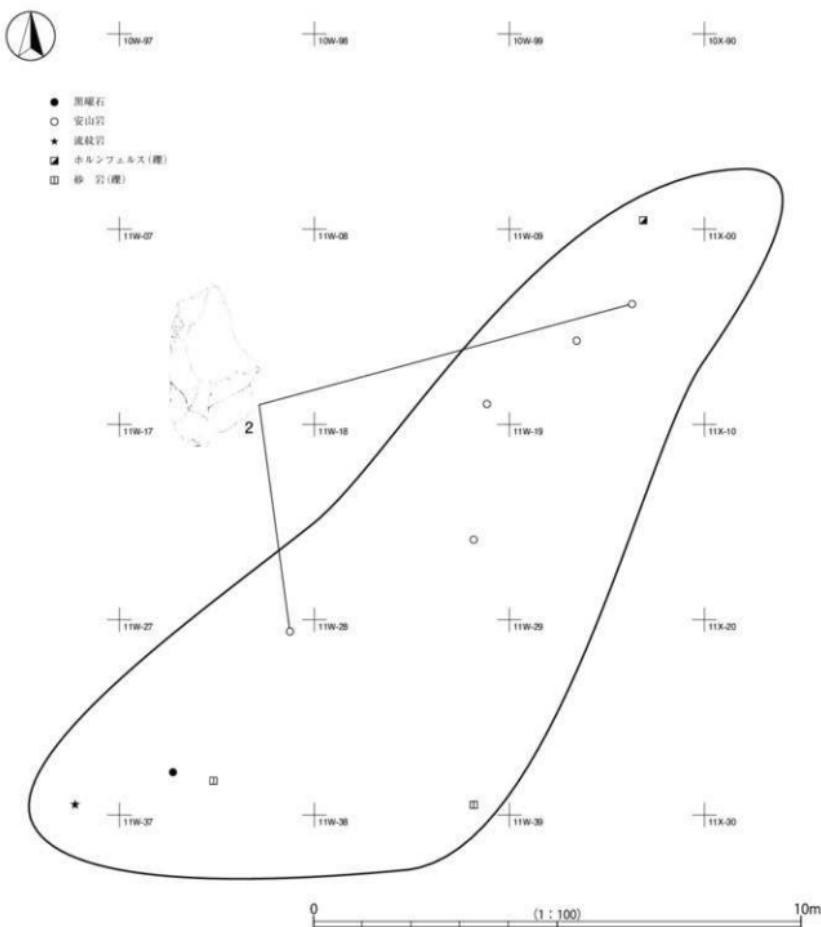
第78図 第9ブロック器種別分布図

められず、使用痕の認められる剥片のほか、剥片・石核で構成される。使用される石材は頁岩が主体であり、点数比では70.5%を占める。これに対し珪質頁岩製の石器は点数的には17.6%に止まるが、重量比では42.5%と頁岩製の石器37.9%を上回る。

出土層位はⅢ層～V層の記述があるが、Ⅲ層下部に所属すると考えられる。

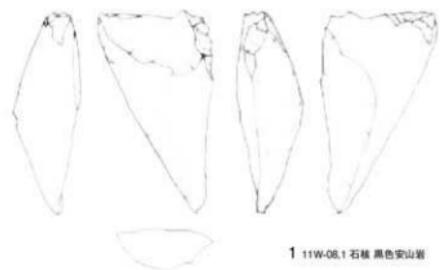
出土遺物

1はチャート製の使用痕ある剥片である。縦長剥片の片側縁に微細な剥落痕が認められる。縦長剥片であり、背面は剥片の打面側からと末端部側からの剥離により構成される。

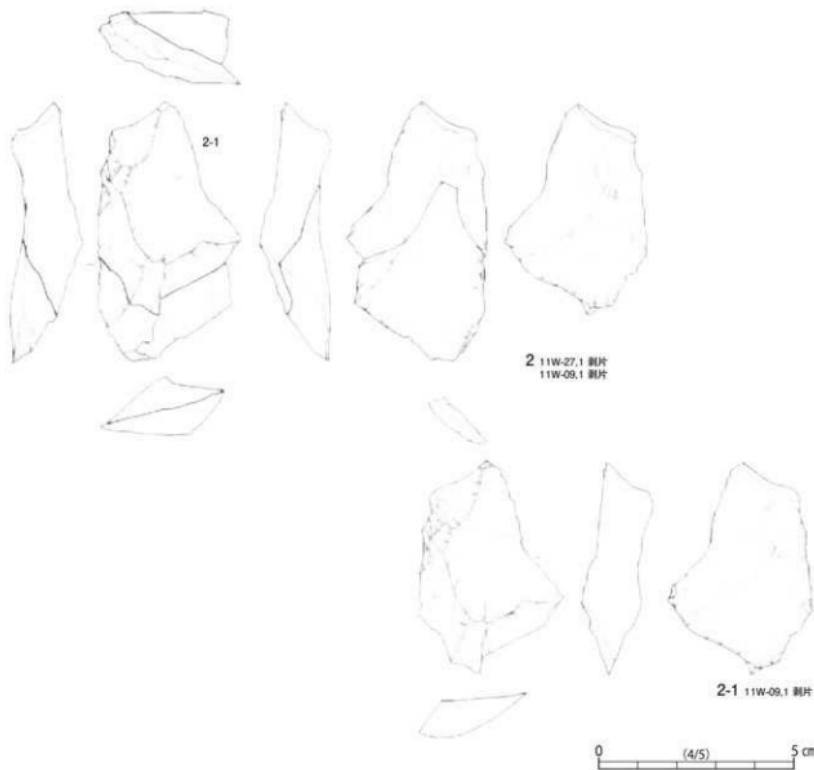


第79図 第9ブロック石材別分布図

2は頁岩製の石核である。上面及び右側面に縦面が見られ、剥片剥離は多方向から行われるが、連続性は認められない。



2 黒色安山岩 接合資料



第80図 第9ブロック出土遺物

第9ブロック(第78~80図、第15表、図版4・79・80)

地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部の標高16.5m付近に所在する。第9ブロックの西側には埋没谷が存在し、このため遺物の垂直分布は西に向かい傾斜している状況である。出土層位はⅢ層である。

分布範囲は長軸15m・短軸6mの楕円形状で、等高線に沿うように長軸が北東~南西方向に振れている。分布は極めてまばらである。

石器の出土点数は計10点を数え、蝶片3点が組成に加わる。剥片石器の組成は剥片・碎片・石核で構成され、使用される石材は黒色安山岩が主体となる。

出土遺物

1は黒色安山岩製の石核である。裏面及び左側面に原縫面が認められる。剥離構成は単純であり、荒削りを想定せるような大きな剥離が特徴的である。

2は黒色安山岩製の剥片2点の接合例である。大型の剥片であり、腹面の主要剥離面を共有していることから、剥片剥離の際に分離したものと考えられる。

第10ブロック(第81~82図、第16表、図版80)

地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部の標高16m付近に所在する。この付近の台地は地金堀に向かい緩やかに傾斜しているため、ローム層の堆積も薄い状況である。出土層位はⅢ層である。

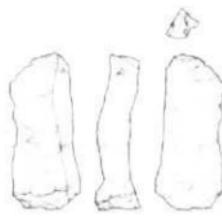
石器の出土は玉髓製・チャート製の剥片2点のみであり、定型的な石器は認められない。

第15表 第9ブロック石器組成表

	剥片	碎片	石核	蝶片	合計	組成比
黒色安山岩	4		1		5	71.42%
	49.10g		18.50g		67.60g	98.26%
黒曜石		1			1	14.29%
	0.40g				0.40g	0.58%
流紋岩		1			1	14.29%
	0.80g				0.80g	1.16%
合計	5	1	1		7	100.00%
	49.90g	0.40g	18.50g		68.80g	100.00%
組成比	71.42%	14.29%	14.29%		100.00%	
	72.53%	0.58%	26.89%		100.00%	
砂岩				2	2	66.67%
				163.10g	163.10g	61.14%
ホルンフェルス				1	1	33.33%
				91.20g	91.20g	35.86%
合計				3	3	100.00%
組成比				100.00%	100.00%	
				100.00%	100.00%	

第16表 第10ブロック石器組成表

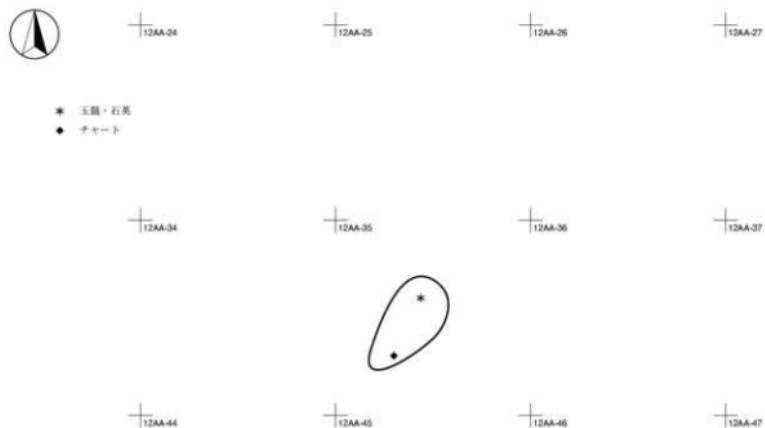
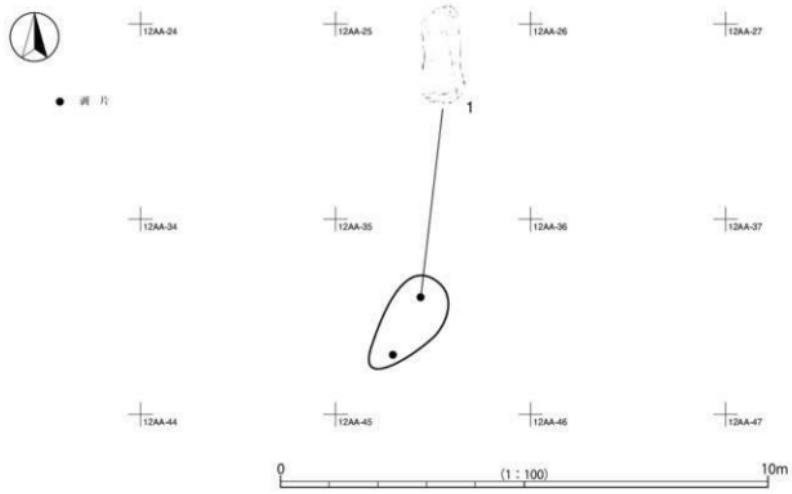
	剥片	合計	組成比
玉髓(メノウ)	1	1	50.00%
	6.05g	6.05g	84.73%
チャート	1	1	50.00%
	1.09g	1.09g	15.27%
合計	2	2	100.00%
	7.14g	7.14g	100.00%
組成比	100.00%	100.00%	
	100.00%	100.00%	



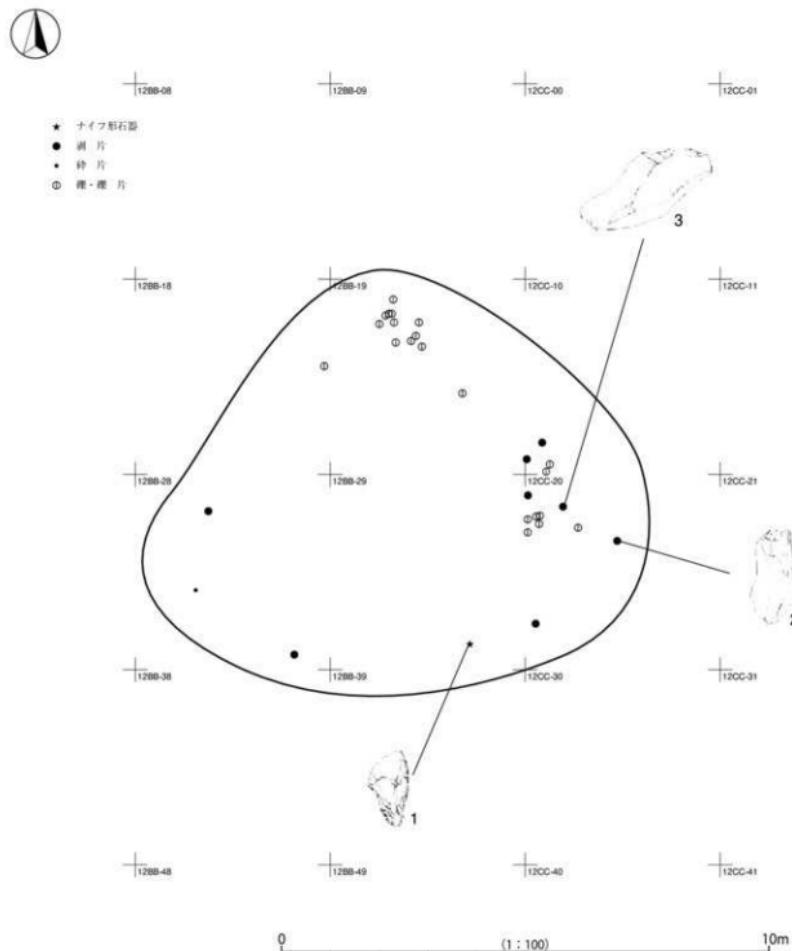
1 12AA-35.1 剥片 玉髓



第81図 第10ブロック出土遺物



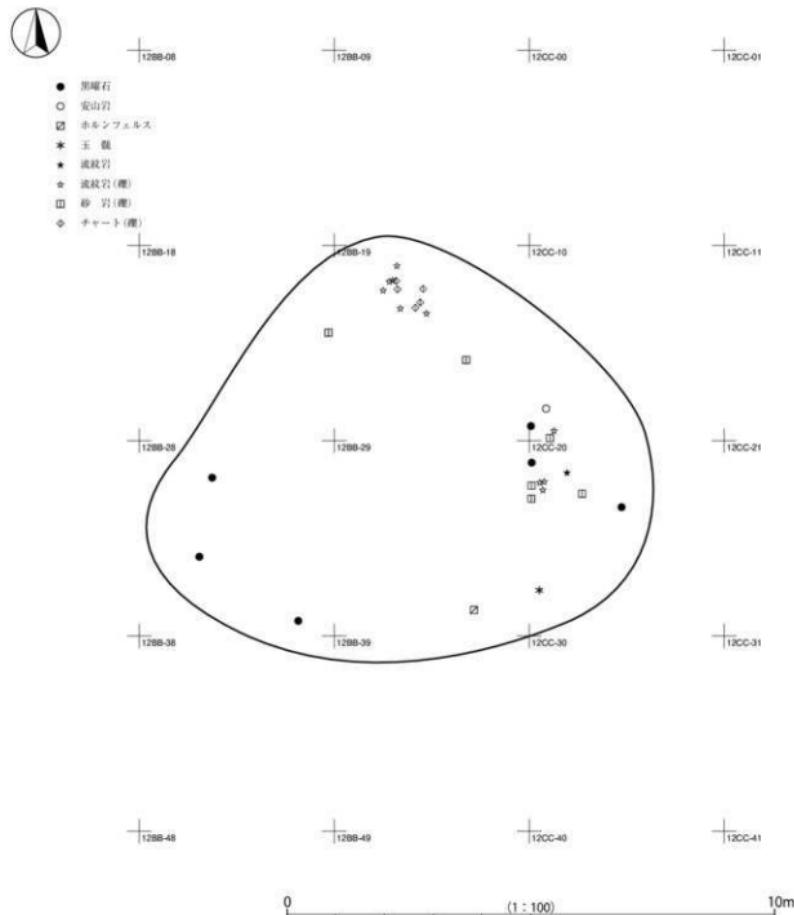
第82図 第10ブロック 器種別・石材別分布図



第83図 第11ブロッケ 器種別分布図

出土遺物

1は玉髓製の小型の縦長剥片である。背面には明瞭な稜が見られ、断面形状は正三角形に近い形状である。末端部の垂直面は石核の下面に対応する剥離面であり、剥片剥離時の石核の形状及び大きさが仮定できる。



第84図 第11ブロック石材別分布図



第85図 第11ブロック出土遺物

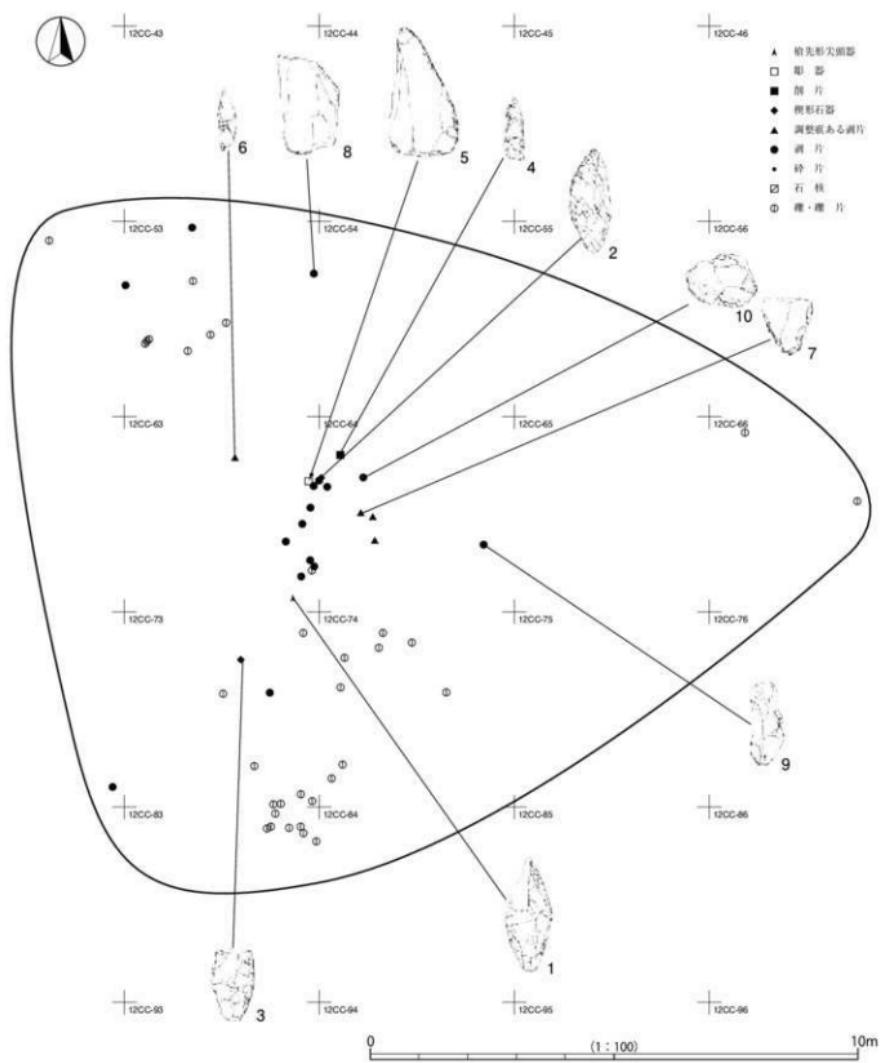
第17表 第11ブロック石器組成表

	ナイフ 形石器	剥片	碎片	雜片	合計	組成比
ホルンフェルス	1				1	10.00%
	350g				350g	95.3%
正讐(メノウ)		1			1	10.00%
		199g			199g	5.42%
黒色安山岩		1			1	10.00%
		862g			862g	23.47%
黒曜石	5	1			6	60.00%
	7.32g	0.12g			7.44g	20.26%
流紋岩		1			1	10.00%
		15.17g			15.17g	41.32%
合計	1	8	1		10	100.00%
	350g	33.1g	0.12g		36.72g	100.00%
組成比	10.00%	80.00%	10.00%		100.00%	
	9.53%	90.14%	0.33%		100.00%	
砂岩			6	6	28.57%	
			198.34g	198.34g	33.51%	
チャート			5	5	23.81%	
			30.99g	30.99g	5.24%	
流紋岩			10	10	47.62%	
			362.60g	362.60g	61.25%	
合計			21	21	100.00%	
組成比			591.93g	591.93g	100.00%	
			100.00%	100.00%	100.00%	

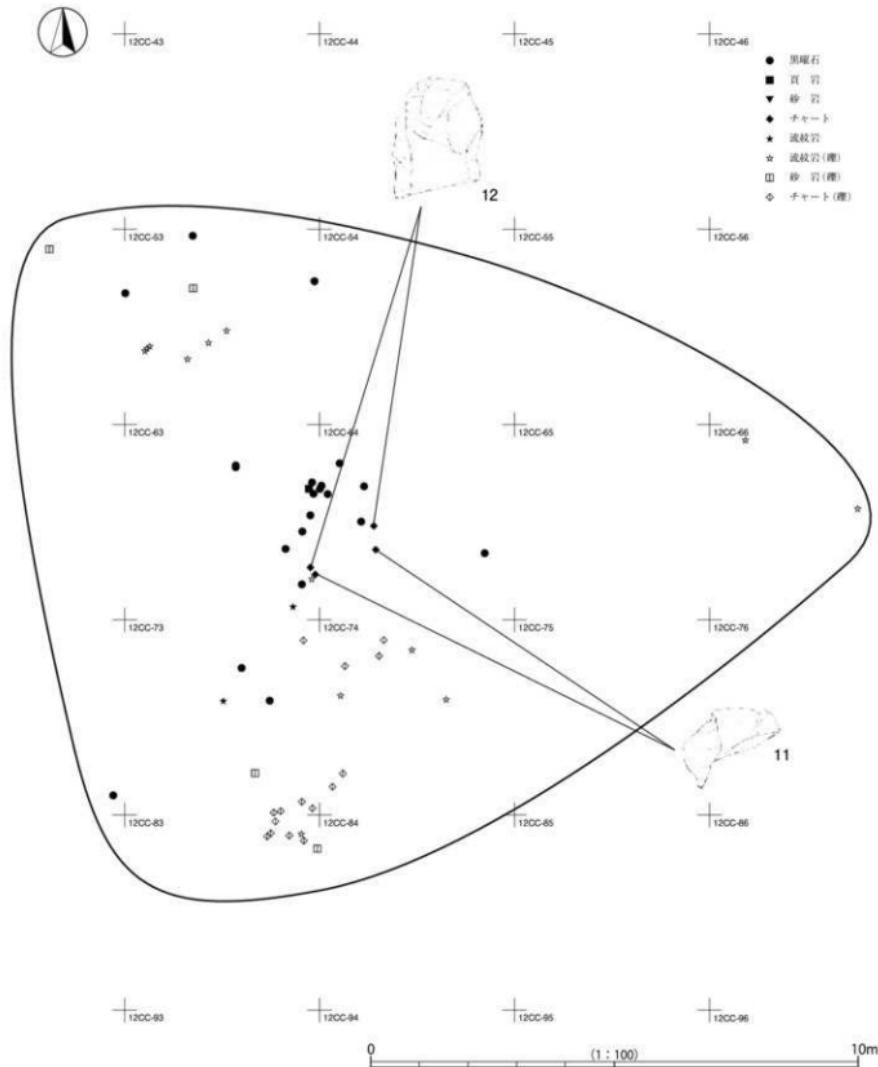
第11ブロック(第83~85図、第17表、図版4・80)

地金堀が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部の標高15m付近に所在する。この付近の台地は地金堀の氾濫原に突出する感があり、標高は低いが段丘の平坦部に該当する。このため遺物の垂直分布は水平となる。

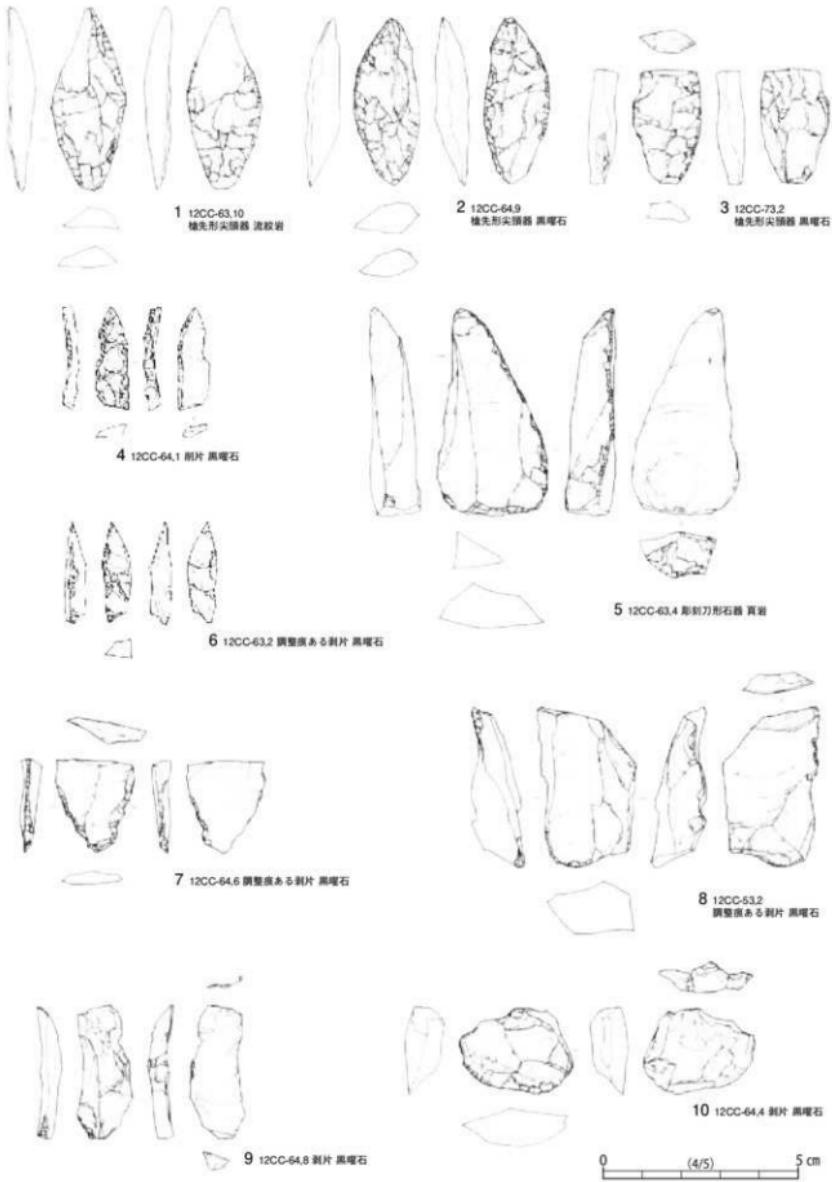
遺物の平面分布は径8mの範囲に収束し、集中区が12CC-20 グリッド及び12BB-19 グリッドに認めら



第86図 第12ブロック器種別分布図



第87図 第12ブロック石材別分布図



第88図 第12ブロック出土遺物(1)

れる。出土層位はⅢ層である。

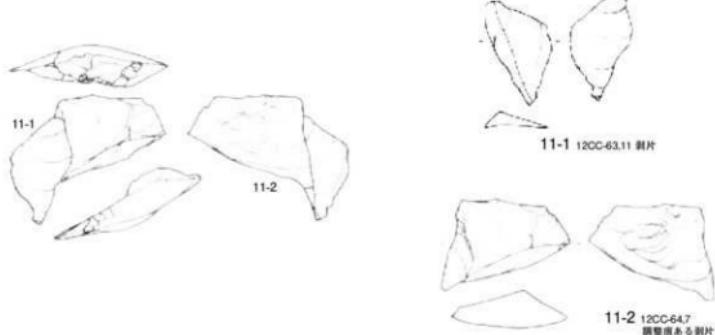
定型的な石器はホルンフェルス製のナイフ形石器1点が見られ、そのほかには剥片・碎片で構成される。砾群を伴い計31点のうち21点が流紋岩・砂岩・チャート製の砾片である。剥片石器に使用される石材は、黒曜石が主体となり点数比で60%を占める。

出土遺物

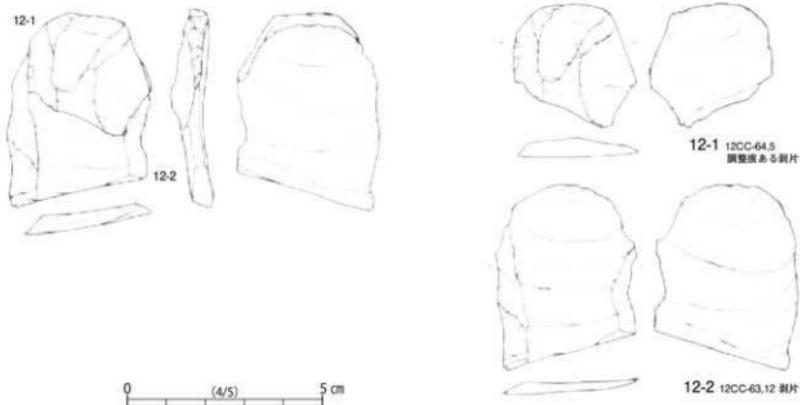
1はホルンフェルス製のナイフ形石器である。最大幅がやや先端部側に偏り、刃部がやや側方に広がる形状である。調整は二側縁に対し行われ、腹面側から急角度の調整が施される。

2は黒曜石製、3は流紋岩製の剥片である。2は背面の一部に原礫面を有する、不純物が少なく透明度の高い黒曜石製で、断面形状が台形の縱長剥片である。3は主軸の傾斜角が大きい横長剥片であり、末端

11 チャート 接合資料



12 チャート 接合資料



第89図 第12ブロック出土遺物(2)

第18表 第12ブロック石器組成表

	槍先形 尖頭器	彫刻刀 形石器	削片	調整孔 ある剥片	剥片	碎片	縫 縫片	合計	組成比
黒曜石	2 9.09g	1 181g	1 11.97g	3 15.15g	15 0.08g			22 38.10g	75.86% 41.79%
流紋岩	1 4.92g							1 4.92g	3.45% 5.40%
チャート			2 10.90g	2 9.32g				4 20.22g	13.79% 22.18%
頁岩		1 16.00g						1 16.00g	3.45% 17.55%
砂岩					1 11.92g			1 11.92g	3.45% 13.08%
合計	3 14.01g	1 16.00g	1 1.81g	5 22.87g	18 36.39g	1 0.08g		29 91.16g	100.00% 100.00%
組成比	10.34% 15.37%	3.45% 17.55%	3.45% 1.99%	17.24% 25.08%	62.07% 39.92%	3.45% 0.09%			100.00% 100.00%
砂岩							1 203.10g	3 239.96g	41.12% 36.03%
流紋岩							1 132.21g	13 332.93g	42.42% 51.68%
チャート							15 108.13g	15 108.13g	45.46% 8.89%
合計							2 335.31g	31 881.02g	33 1216.32g 100.00%
組成比							6.06%	93.94%	100.00%
							27.57%	72.43%	100.00%

部には背面～腹面にかけて原縫面が認められる。扁平縫もしくは棒状縫を素材とし剥片剥離が行われたと考えられる。

第12ブロック(第86～89図、第18表、図版4・81・82)

地金掘が北東方向から南東方向に流路を変える台地縁辺部の標高15m付近に所在する。立地は第11ブロックに近いが、東に向かいやや傾斜している。

石器の分布範囲は東西15.5m・南北12mであり、剥片石器の集中区が12CC-64グリッド付近に認められる。縫群を伴い、分布範囲の南北端に剥片石器の集中区を囲むように分布する。Ⅲ層からの出土であり、垂直分布は地形に添うように東に向かい、傾斜している。

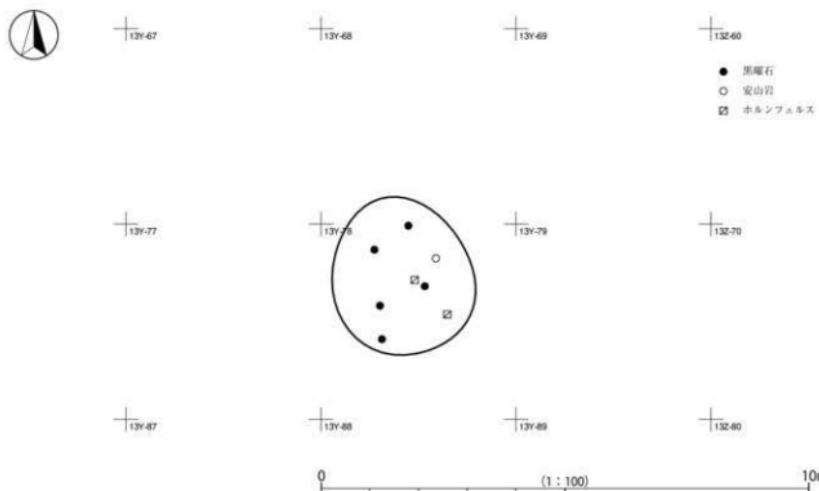
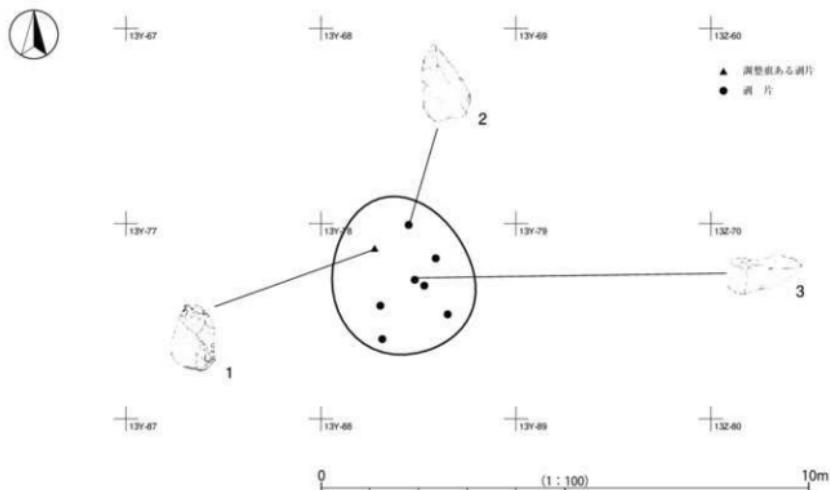
定型的な石器は棒状剥離を有する槍先形尖頭器・彫刻刀形石器が挙げられ、槍先形尖頭器由来の削片の出土も見られる。剥片石器計29点のうち剥片が大半を占めるが、石核は出土していない。使用石材は槍先形尖頭器2点を含む黒曜石が22点出土し、点数比で75.8%を占める。そのほかの石材はチャート・頁岩・砂岩・流紋岩が認められ、流紋岩製の石器は槍先形尖頭器1点のみである。縫と縫片は砂岩・流紋岩・チャートの33点が出土し、原型に近い個体が多く、総重量は1,216.33gとなる。

出土遺物

1は流紋岩製、2・3は黒曜石製の槍先形尖頭器である。3は先端部が欠損するが、各個体とも先端部から基部の中間に最大幅をもつ形状である。1・3は左側縫、2は右側縫に先端部からの棒状剥離が見られる。いずれも正面には側縫からの調整による明瞭な稜が形成されるが、裏面は同様の調整にもかかわらず稜を形成せず平坦である。

4は黒曜石製の削片である。2の黒曜石製の槍先形尖頭器と同一石材と思われるが、接合関係は認められなかった。

5は頁岩製の彫刻刀形石器である。部厚な縦長剥片の片側縫に対し調整を施し、特に、素材剥片の末端部は面的に調整され、1条のファシットが施される。



第90図 第13ブロック器種別・石材別分布図

6～8は黒曜石製の調整痕の認められる剥片である。6は調整中に分離したと考えられ、右側縁には大きく折断面が見られる。7は薄手の縦長剥片の末端部に腹面側からの微細な調整が施される。8は大型剥片の打面部を折断・除去し、調整は両側縁に対し部分的に認められる。

9・10は黒曜石製の剥片である。9は小型縦長剥片であるが、背面を構成する剥離の方向は一定ではなく、縦長剥片の作出意図は感じられない。10は部厚な横長剥片であり、9と同様、背面は多方向からの剥離により構成される。

11はチャート製の不定形剥片の分離した個体が接合したものである。人為的ではなく、剥片剥離時に分離したものと考えられる。

12はチャート製の縦長剥片2点の接合資料で、同一打面から連続して作出された剥片である。

第13ブロック(第90・91図、第19表、図版82)

遺跡範囲の北側、標高16.5mの13Y-78グリッドに所在し、分布は3mの範囲内で収束する。出土層位はⅣ層～V層にかけてである。

合計8点の石器が出土し、定型的な石器は認められず、調整痕の認められる剥片・剥片で構成される。使用される石材は黒曜石が主体となり、調整痕の認められる剥片1点はこの石材である。ほかには黒色安山岩製、ホルンフェルス製の石器が認められる。

出土遺物

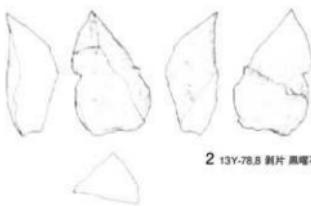
1は黒曜石製の調整痕の認められる剥片である。不純物が多く混在する石質で、部厚な不定形剥片を素材とする。調整は左側面に見られる節理面を除くほぼ全周に施され、特に、素材剥片の打面部は腹面側からの密な調整が施される。末端

第19表 第13ブロック石器組成表

	調整痕 ある剥片	剥片	合計	組成比
黒曜石	1	4	5	62.50%
	590g	11.40g	17.30g	64.31%
黒色安山岩		1	1	12.50%
		6.20g	6.20g	23.00%
ホルンフェルス		2	2	25.00%
		3.40g	3.40g	12.61%
合計	1	7	8	100.00%
	590g	21.00g	26.90g	100.00%
組成比		12.50%	87.50%	100.00%
		21.0%	78.0%	100.00%



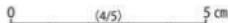
1 13Y-78.7 調整痕ある剥片 黒曜石



2 13Y-78.8 剥片 黒曜石



3 13Y-78.5 剥片 ホルンフェルス



第91図 第13ブロック出土遺物



+ 14Y-49

+ 14Z-40

+ 14Z-41

+ 14Z-42

+ 14Z-43

- ★ ナイフ形石器
- ▲ 調整孔ある断片
- 刃片
- 石核
- 離・離片

+ 14Y-59

2

+ 14Z-50

+ 14Z-51

+ 14Z-52

+ 14Z-53

+ 14Y-69

+ 14Z-60

+ 14Z-61

+ 14Z-62

+ 14Z-63

+ 14Y-79

+ 14Z-70

+ 14Z-71

+ 14Z-72

+ 14Z-73



3



5



8



1

+ 14Y-89

+ 14Z-80

+ 14Z-81

+ 14Z-82

+ 14Z-83

0

(1 : 100)

10m

17,000m

16,000m

15,000m

17,000m

16,000m

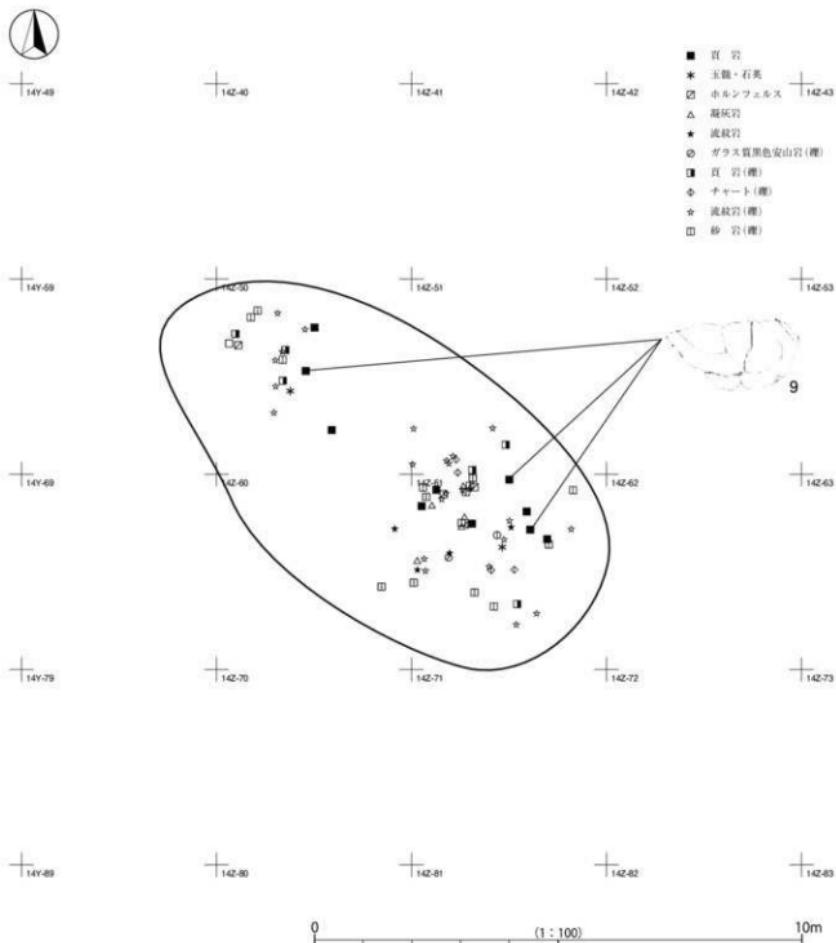
15,000m



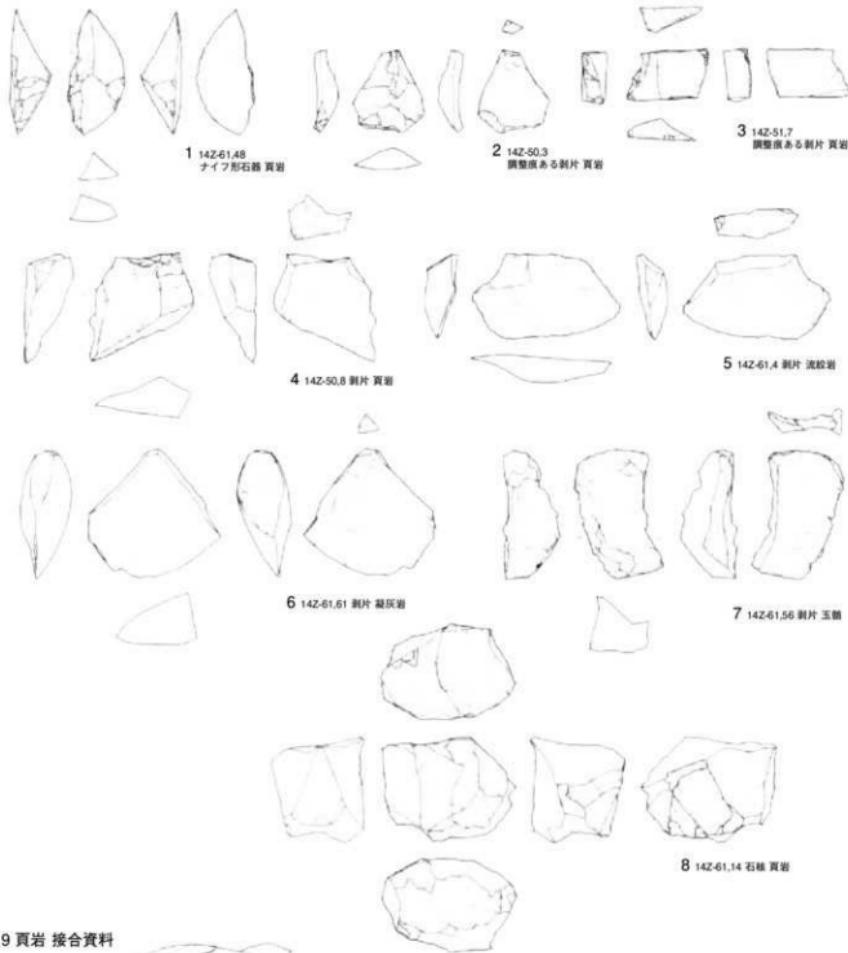
第92図 第14ブロック器種別分布図

部の縦断面は鋭利であり、この部位の調整は背腹両面からの微細な調整痕が認められる。

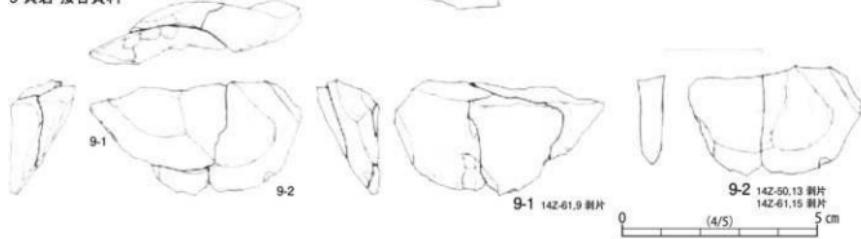
2は黒曜石製の剥片であり、石材の質感は1と同様である。部厚な不定形剥片であり、最終剥離面が不明瞭なことから、剥片剥離時に分離した剥片と考えられる。3はホルンフェルス製の剥片であり、剥片剥離時に打面側と末端部側に分離し、末端部側が遺存したものである。



第93図 第14ブロック石材別分布図



9 灰岩 接合資料



第94図 第14ブロック出土遺物

第14ブロック(第92~94図、第20表、図版4・82・83)

遺跡範囲の北側、台地の最高点から東に向かい徐々に標高が下がる地点に所在する。石器の出土層位はⅢ層である。

石器の分布範囲は北西から南東に長い楕円形状で、長軸8m・短軸5mの範囲で収束する。南東側の14Z-61グリッド及び北西側の14Z-50グリッドにそれぞれ集中が認められる。礫群を伴う。

石器組成は頁岩製のナイフ形石器1点のはか、同石材の調整痕の認められる剥片・剥片・石核で構成される。頁岩製以外の石材は凝灰岩・玉髓・ホルンフェルス・流紋岩と多種であるが、これらの石材は剥片のみである。礫群は全て破碎礫で構成され、流紋岩を主体とし、砂岩・チャート・頁岩等が使用される。

出土遺物

1は頁岩製のナイフ形石器である。部厚な横長剥片を素材とし、腹面側からの調整により打面側を広く除去している。また、局所的に素材剥片の末端部にも調整を施す。

2・3は頁岩製の調整痕の認められる剥片である。2は小型不定形剥片の末端部に背腹両面から調整を施す。3は縦長剥片の打面部及び末端部を折断・除去し、両側縁に調整が施される。

4~7は剥片である。大型剥片であるが、形状は一定ではなく、5の流紋岩製の横長剥片、7の玉髓製の縦長剥片のはかは不定形剥片である。

8は頁岩製の石核である。立方形に近い形状であり、主に上面・下面を打面として剥片剥離を行っている。

9は頁岩製の剥片2点の接合資料である。同一打面から連続的に作出された横長剥片であり、1のナイフ形石器の素材剥片を想像させる。両者ともに背面には原礫面見みられ、9-2については剥片剥離時に打点から二分している。

第15ブロック(第95~97図、第21表、図版4・83)

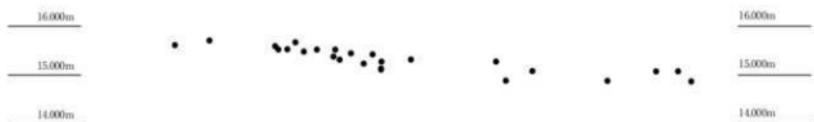
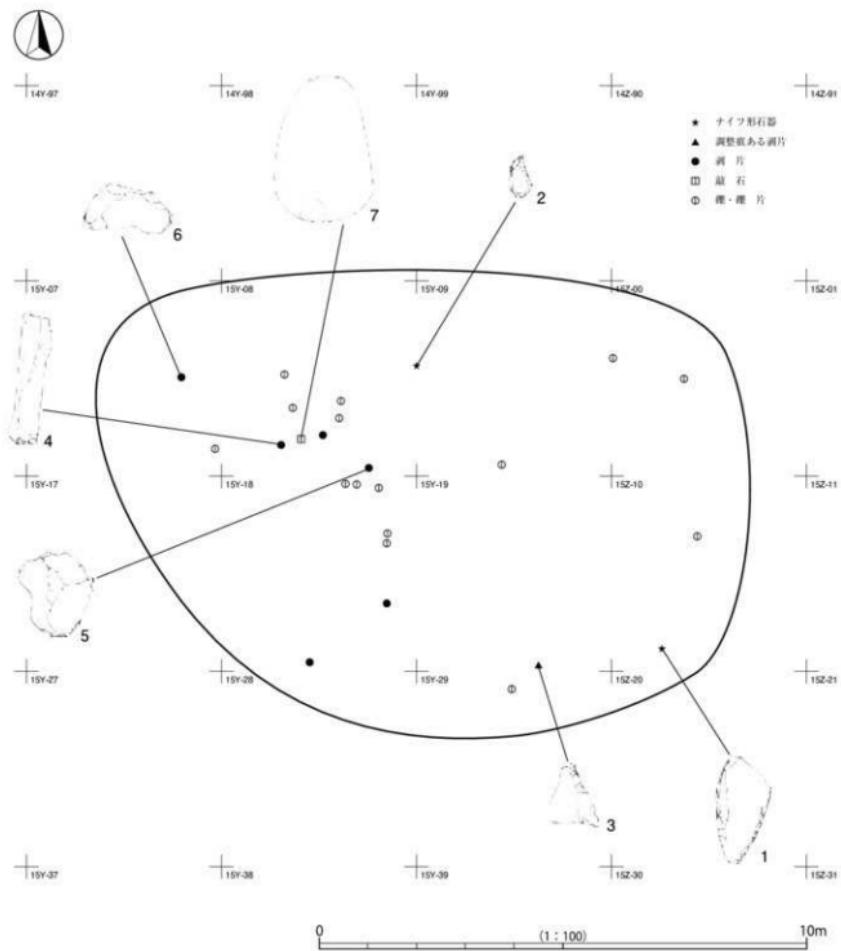
遺跡範囲の北側、台地の最高点から東に向かい徐々に標高が下がる地点に所在する。近接する第14ブロックとは同じ立地条件であるが、第15ブロックのほうがやや標高が高い位置にある。出土層位はⅢ層である。

石器の分布範囲は東西方向12m・南北方向7mであり、分布範囲の西側にやや集中する感があるが、全体的に散漫な分布状況である。

第14ブロックの石器組成と類似するが、第14ブロックでは使用されていない黒曜石製のナイフ形石器が認められる。そのほかに頁岩製のナイフ形石器・調整痕の認められる剥片・剥片で構成さ

第20表 第14ブロック石器組成表

	ナイフ形石器	調整痕 ある剥片	剥片	石核	礫片	合計	組成比
頁岩	1	2	9	1		13	46.43%
	3.57g	3.88g	39.86g	24.25g		71.56g	46.40%
凝灰岩			5			5	17.86%
			16.27g			16.27g	10.53%
玉髓(メノウ)			2			2	7.14%
			13.94g			13.94g	9.04%
ホルンフェルス			3			3	10.71%
			22.98g			22.98g	14.90%
流紋岩			5			5	17.86%
			29.47g			29.47g	19.11%
合計	1	2	24	1		28	100.00%
	3.57g	3.88g	122.53g	24.25g		154.22g	100.00%
組成比	3.57%	7.14%	85.72%	3.57%		100.00%	
	2.31%	2.52%	79.45%	13.72%		100.00%	
安山岩					1	1	2.01%
					7.43g	7.43g	1.25%
黒色安山岩					1	1	2.01%
					0.26g	0.26g	0.01%
頁岩					4	4	8.16%
					26.53g	26.53g	4.47%
砂岩					15	15	30.61%
					160.52g	160.52g	27.07%
チャート					5	5	10.20%
					11.87g	11.87g	2.00%
流紋岩					23	23	46.95%
					386.44g	386.44g	63.17%
合計					49	49	100.00%
組成比					593.05g	593.05g	100.00%
					100.00%	100.00%	
					100.00%	100.00%	

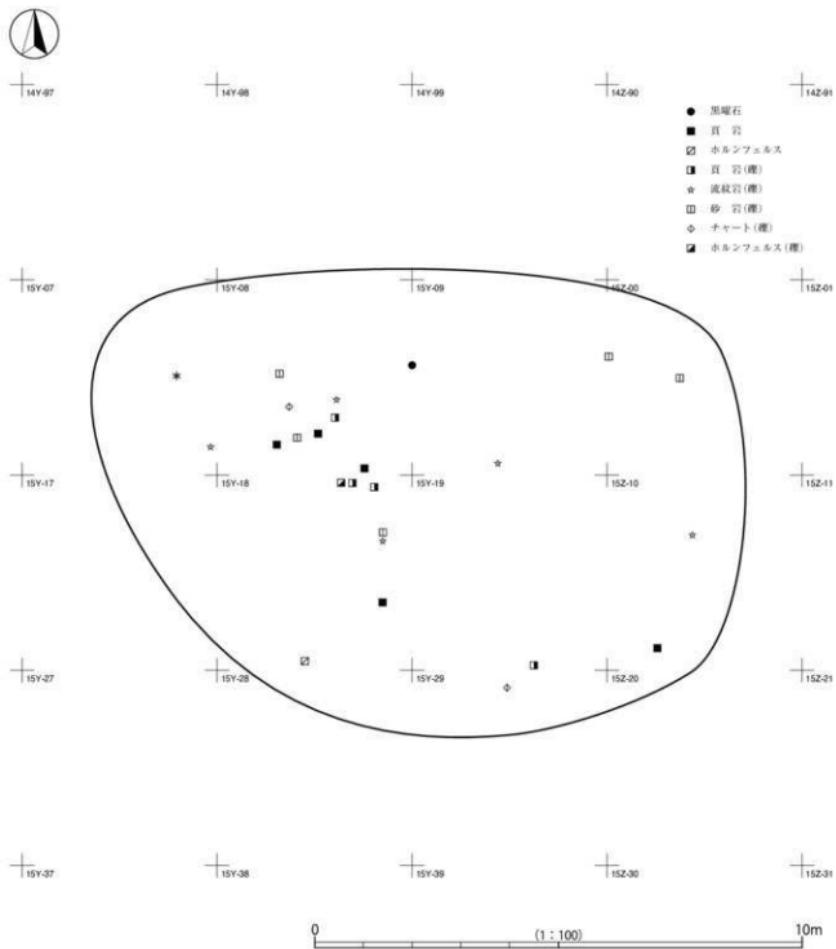


第95図 第15ブロック器種別分布図

れ、剥片石器の出土点数は計6点を数える。砾群を伴い、流紋岩・砂岩を主体とした構成であり、第14ブロックの構成と同様である。

出土遺物

1・2はナイフ形石器である。1は頁岩製の器厚の薄い縦長剥片を素材とし、素材剥片の打面を除去しながら二側縁に対し調整を施す。無調整部位は素材剥片の右側縁・打面直下であり、横に張り出る感のある刃部を形成する。2は黒曜石製の小型縦長剥片を素材とし、素材剥片の末端部を先端部として調整され

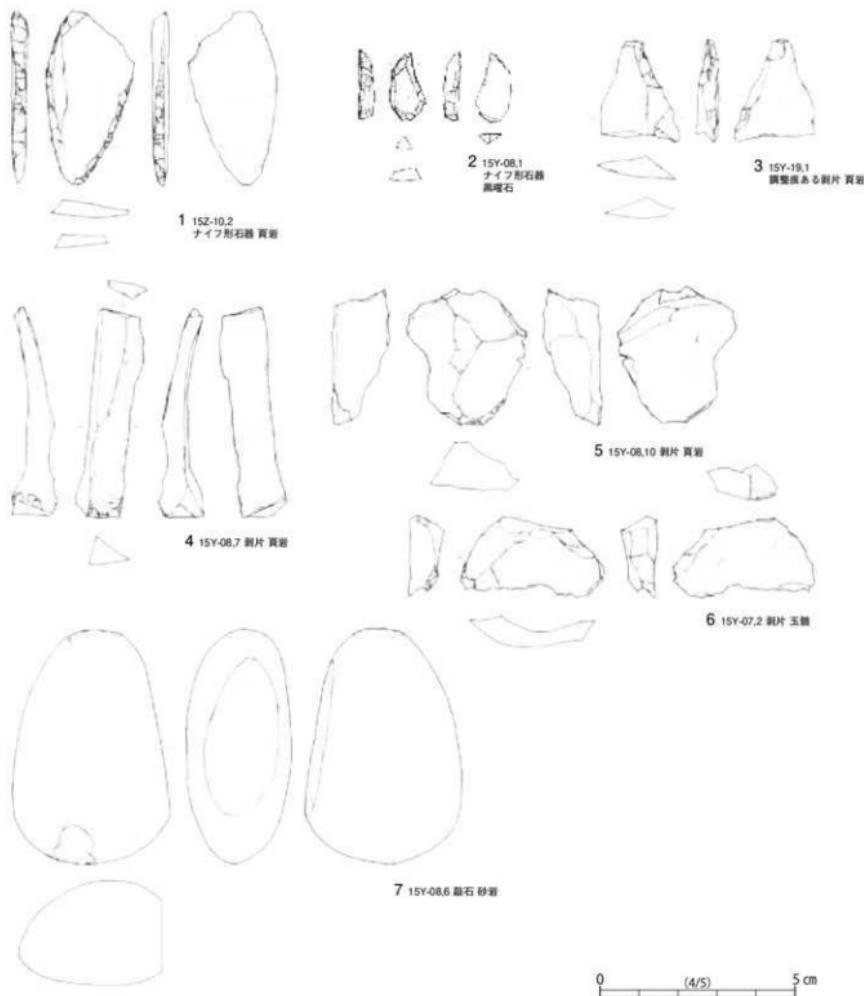


第96図 第15ブロック石材別分布図

る。調整は二側縁に対し腹面側から行われており、微細な調整痕が密に認められる。

3は頁岩製の調整痕の認められる剥片である。打面部の幅が極端に狭い形状であり、調整は片側縁の打面部直下に施される。

4～6は剥片である。4は頁岩製の石刃状剥片で、打面部が欠損する。背面は上下両方向からの剥離で構成され、上下両極に打面を有する石核から連続的に作出された剥片である。5は頁岩製の部厚な不定形



第97図 第15ブロック出土遺物

剥片であり、剥片剥離の際に打面部が欠損する。背面は原縫面及び多方向からの剥離により構成される。6は玉髓製の横長剥片である。打面を広く設定し作出されており、腹面の横断面は極端に丸みを帯びる。

7は砂岩製の敲石である。最大幅をもつ部位が下方に偏り、上下両端に敲打痕が認められる。上面は細かく潰れたような敲打痕であるが、下面は敲打による剥落痕が顕著に認められる。

第16 ブロック(第98~100図、第22表、図版5・84)

標高17.5mの台地中央部に所在し、地金堀に流入する小河川により開析された小支谷に面する。本遺跡のほかのブロックと異なる立地条件である。ブロックの西側には国道16号が位置し遺跡範囲外となる。このためブロックの東側のみの調査となった。

分布規模は長軸12mであり、北西部の17X-93グリッドに礫を主体とした集中と18X-15グリッド付近に1か所の計2か所の集中が認められる。出土層位はⅢ層である。

剥片石器は計7点出土し、石器組成は頁岩製のナイフ形石器・黒曜石製の調整痕の認められる剥片・剥片・石核で構成される。安山岩(トロトロ石)製の石器は剥片と石核のそれぞれ1点となる。礫石器は破碎礫を中心に流紋岩・チャートが認められる。流紋岩製の礫は24点であるが重量は2kgとなり、大型の破碎礫が多いことが分かる。

出土遺物

1は頁岩製のナイフ形石器である。小型縦長剥片を素材とし、素材剥片の末端部を先端部に設定し調整を施す。調整は二側縁に対し腹面側からの微細な剥離により行われている。

2は黒曜石製の使用痕の認められる剥片である。透明度が高く不純物をほとんど含まない石材で、原縫面を打面として設定し作出された剥片である。主軸が極端に傾く形状であり、使用痕は打面直下の腹面側及び末端部に近い背面側に認められる。

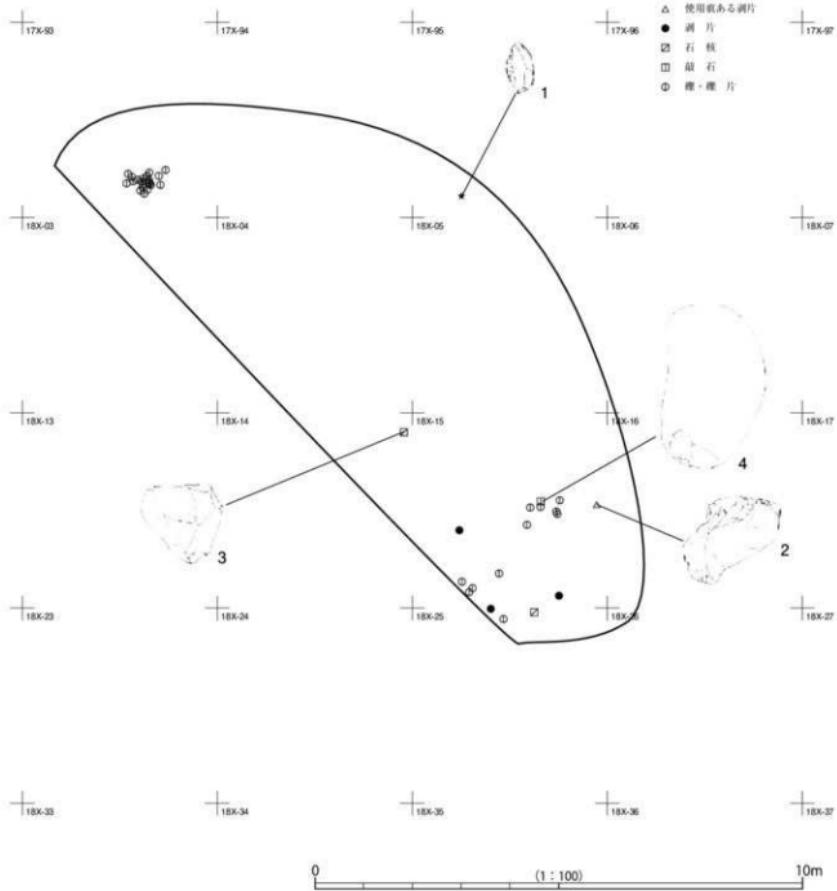
3は安山岩(トロトロ石)製の石核である。原縫面を有し、剥片剥離は多方向から行われている。

4は砂岩製の敲石である。転石を利用し、下端のみに敲打による剥落痕が認められる。

5は頁岩製の剥片・石核の接合資料である。石核の上面・裏面・左側面の広い範囲に原縫面が見られることで、扁平礫に対し剥片剥離を行っていると考えられる。剥片剥離工程の最終段階は上面の原縫面からの剥片剥離である。5-1の剥片は側面側からの打撃で作出されており、打面を転移しながらの剥片剥離工程が理解できる。

第21表 第15ブロック石器組成表

	ナイフ 形石器	調整痕 ある剥片	剥片	最 石	礫	礫 片	合 计	組成比
黒曜石	1						1	11.11%
	0.63g						0.63g	1.61%
頁岩	1	1	4				6	66.67%
	473g	224g	2160g				31.57g	80.45%
玉髓(メオウ)			1				1	11.11%
			468g				468g	11.93%
ホルンシフェルス			1				1	11.11%
			2.96g				2.96g	6.01%
合計	2	1	6				9	100.00%
	5.36g	2.29g	31.64g				39.24g	100.00%
組成比	22.22%	11.11%	66.67%				100.00%	
	13.66%	5.71%	80.63%				100.00%	
砂岩			1		4	5	33.33%	
			90.28g		251.75g	342.03g	65.55%	
流紋岩				1	5	6	33.33%	
				51.50g	99.09g	150.59g	28.90%	
頁岩					20.52g	20.52g	39.4%	
チャート					2	2	13.33%	
					7.91g	7.91g	1.52%	
ホルンシフェルス					1	1	6.67%	
					0.49g	0.49g	0.09%	
合計			1	1	14	16	100.00%	
			90.28g	51.50g	379.76g	521.05g	100.00%	
組成比			6.67%	6.67%	86.66%	100.00%		
			17.33%	9.88%	72.79%	100.00%		



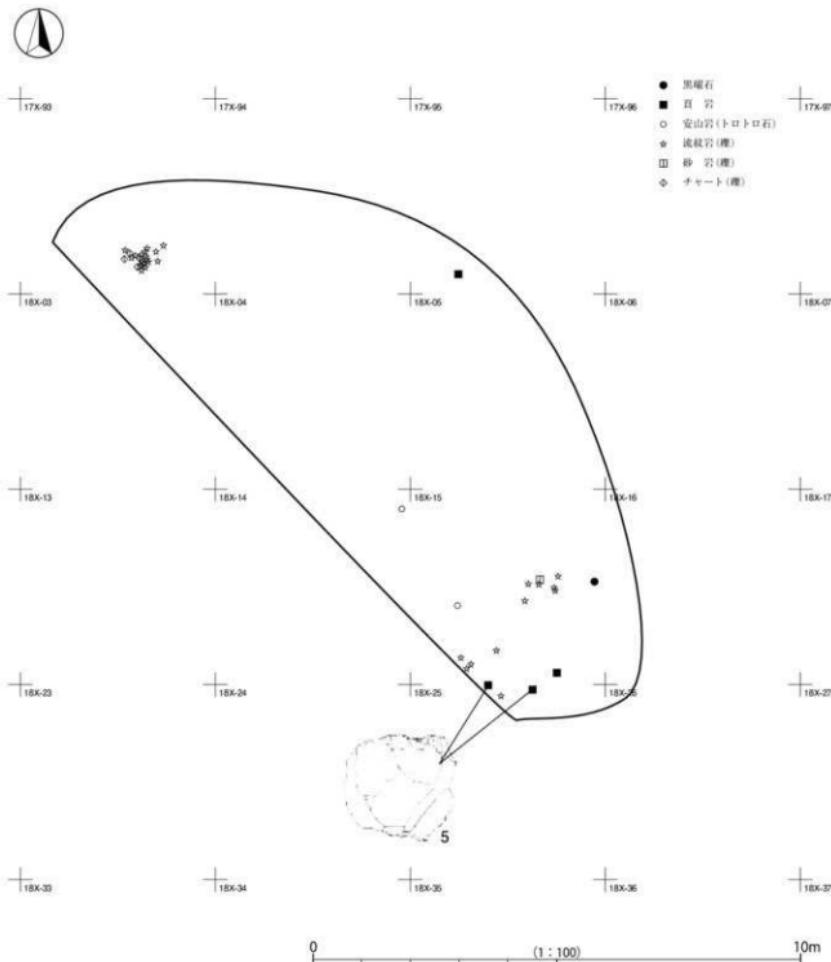
第98図 第16ブロック器種別分布図

第17ブロック(第101~104図、第23表、図版5・85・86)

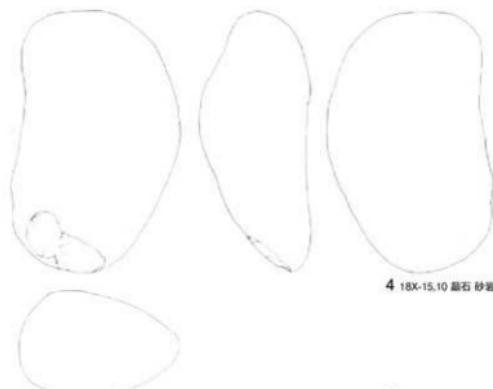
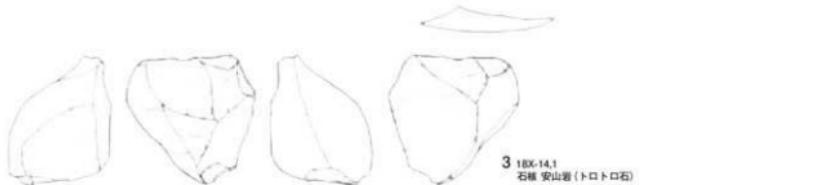
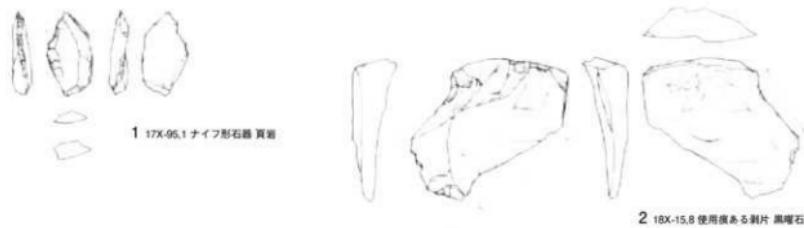
地金堀に面した台地の端部に所在する。この付近は標高15mの台地低位面に該当する。出土層位はⅢ層である。

石器の分布範囲は東西8m・南北4mの楕円形状で、剥片石器・礫石器が範囲内に満遍なく分布しており、特に、集中箇所は認められない。

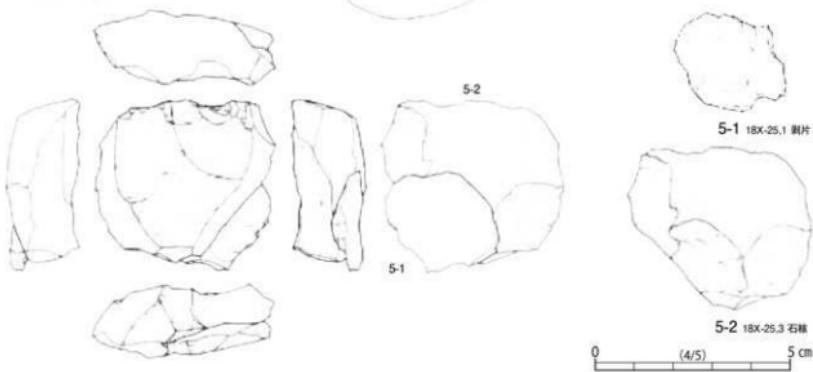
剥片石器27点・礫石器37点からなり、ナイフ形石器・調整痕の認められる剥片・剥片・碎片・石核で



第99図 第16ブロック石材別分布図



5 頁岩 接合資料



第100図 第16ブロック出土遺物

第22表 第16ブロック石器組成表

	ナイフ 形石器	使用痕 ある剥片	剥片	石核	敲石	礫	礫片	合計	組成比
頁岩	1 1.10g		2 6.69g	1 36.21g				4 44.00g	57.14% 58.91%
黒曜石		1 8.46g						1 8.46g	14.29% 11.33%
安山岩(トロトロ石)			1 0.81g	1 21.42g				2 22.23g	28.57% 29.76%
合計	1 1.10g	1 8.46g	3 7.50g	2 57.63g				7 71.69g	100.00% 100.00%
組成比	14.29% 1.47%	14.29% 11.33%	42.85% 10.04%	28.57% 77.16%				100.00% 100.00%	
砂岩				1 105.10g				1 105.10g	3.03% 3.57%
流紋岩					4 760.47g	21 1,954.12g	28 2,714.59g	84.85% 92.14%	
チャート						1 126.30g	4 126.30g	12.12% 4.29%	
合計				1 105.10g	4 760.47g	28 2,080.42g	33 2,945.99g	100.00% 100.00%	
組成比				3.03% 3.57%	12.12% 25.81%	84.85% 70.62%	100.00% 100.00%		

構成される。使用される石材はホルンフェルス・黒色安山岩が主体となり、調整痕の認められる剥片2点は黒色安山岩製である。玉髓と珪質頁岩については単体で客体的であるが、ナイフ形石器は玉髓製である。礫石器は安山岩・砂岩・流紋岩・ホルンフェルス製であり、合計重量は6kgに近い。

出土遺物

1は玉髓製のナイフ形石器である。小型綫長剥片を素材とし、素材剥片の末端部を先端部に設定し製品化している。素材剥片の打面は無調整で、ほかの部位は腹面側からの微細な調整が施される。

2・3は黒色安山岩製の調整痕の認められる剥片である。両者とも部厚な不定形剥片である。2の調整部位は片側縁で、腹面側から急角度の調整が施される。3は素材剥片の打面を除去するように腹面側から調整が施される。

4～6は剥片である。4は黒色安山岩製の部厚な不定形剥片で、剥片剥離時に打面から左右に分離したものである。5は珪質頁岩製の大型剥片であり、剥片剥離工程の初期段階に、原礫を分割するように作出されたものである。6はホルンフェルス製の大型剥片であり、背面は打面作成を目的とした剥離と原礫面で構成される。

7・8はホルンフェルス製の石核である。両者とも原礫の形状をさほど変えずに剥片剥離作業を終了している。7は扁平礫を素材とし、扁平な礫面を打面に設定して剥片剥離を行っている。8は厚みのある礫を素材とするが、剥片の作出方法は7と同様に平坦な原礫面を打面として剥片剥離を行っている。

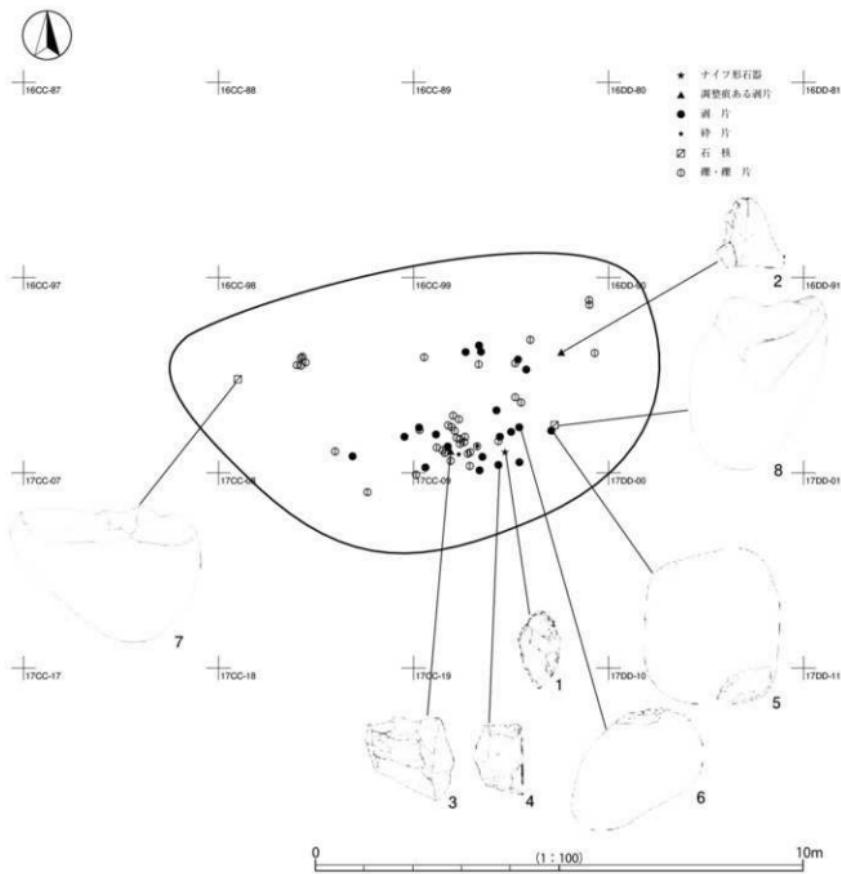
9はホルンフェルス製の剥片3点の接合資料である。9-1の作出後、ネガティブ面を打面とし9-2・9-3が作出されており、9-1については打面を作出する目的で作出された剥片と考えられる。

第18ブロック(第105～111図、第24表、図版5・87～90)

地金堀に面した台地の端部に所在する。第17ブロックと同様の標高15mの台地低位面に該当する。出土層位はⅢ層である。

石器の分布範囲は長軸8m・短軸7mであり、分布範囲の南側18DD-27グリッド付近に径3m程の集中が認められる。

槍先形尖頭器・ナイフ形石器・搔器を石器組成に含み、そのほかに調整痕の認められる剥片・剥片・碎



第101図 第17ブロック器種別分布図

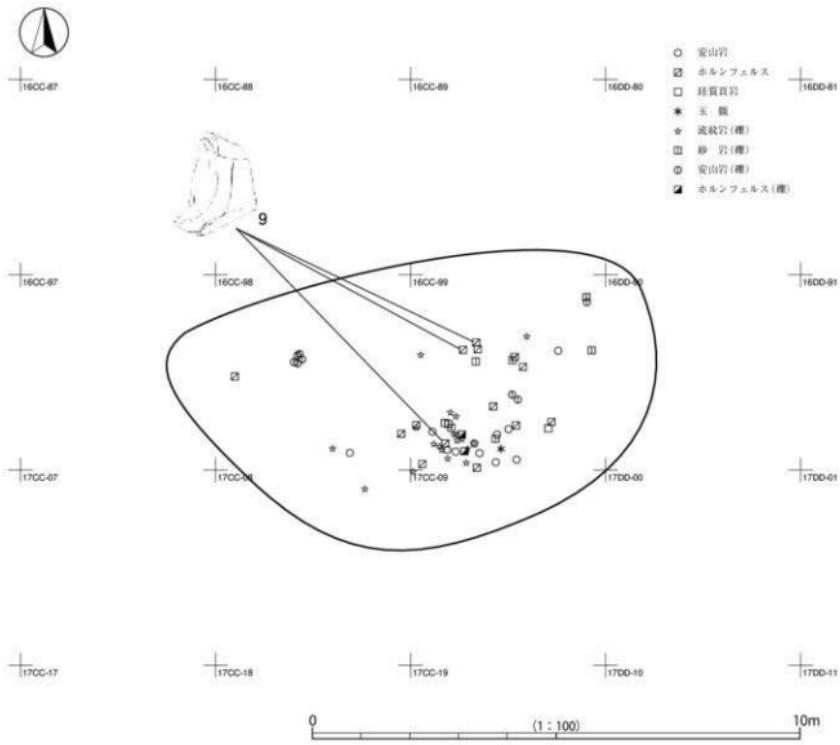
片・石核で構成される。使用される石材は黒色頁岩を主体とし、黒色安山岩・頁岩が使用されるが、定型的な石器の槍先形尖頭器については黒色安山岩・ホルンフェルスであり、ホルンフェルス製の石器は単体の出土となる。主体となる黒色頁岩は搔器3点を含み、点数比で80.3%、重量比で74.1%を占める。礫石器については砂岩を主体とし、流紋岩・黒色頁岩の破砕砾で構成される。

出土遺物

1は黒色安山岩製、2はホルンフェルス製の槍先形尖頭器である。1は正面図先端部寄りの中央部、2は正面図中央部に素材剥片の剥離面が残存し、ともに縦長剥片を素材とし、素材剥片の末端部側を先端部に設定し製品化している。表裏面ともに調整が密に施され、1はやや基部寄り、2は先端部寄りに最大幅をもつ形状である。

3は黒色頁岩製のナイフ形石器である。二等辺三角形の素材剥片の形状を保ち、剥片末端部に腹面側からの急角度の調整を施し製品化している。

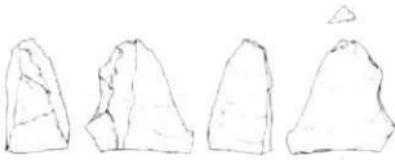
4～8は黒色頁岩製の剥片である。概して縦長剥片であるが、背面に原礫面が広く残る部厚な剥片(4～6)と、原礫面が僅かに残るかもしくは全く見られない(7・8)の両者が見られる。9は黒色安山岩製



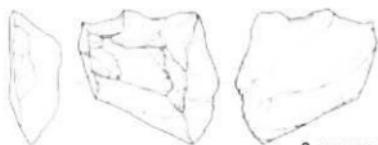
第102図 第17ブロック石材別分布図



1 16CC-99.20 ナイフ形石器 玉髓



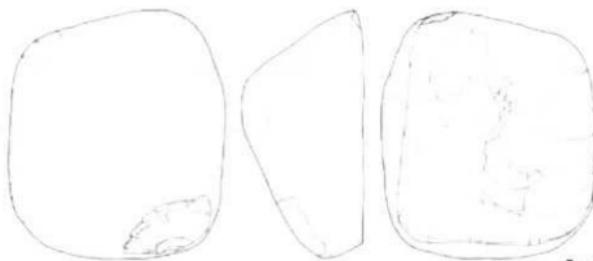
2 16CC-99.8
調整底ある剥片 黒色安山岩



3 16CC-99.42
調整底ある剥片 黒色安山岩



4 16CC-99.21
剥片 黒色安山岩

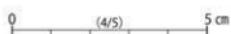


5 16CC-99.13 剥片 珪質頁岩



6 16CC-99.18 剥片 ホルンフェルス

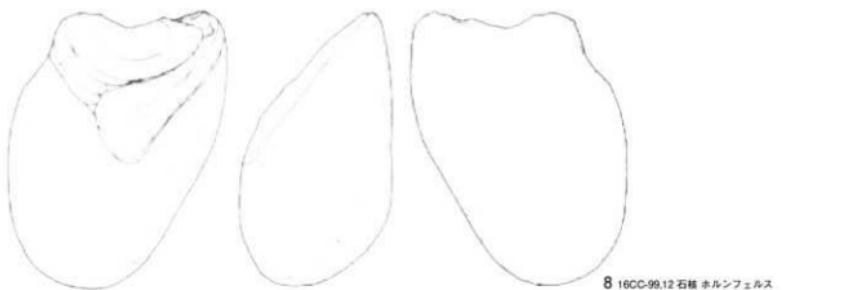
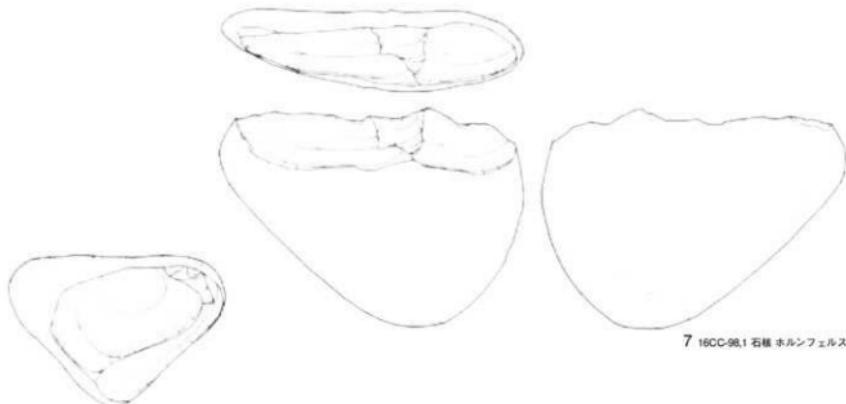
第103図 第17ブロック出土遺物(1)



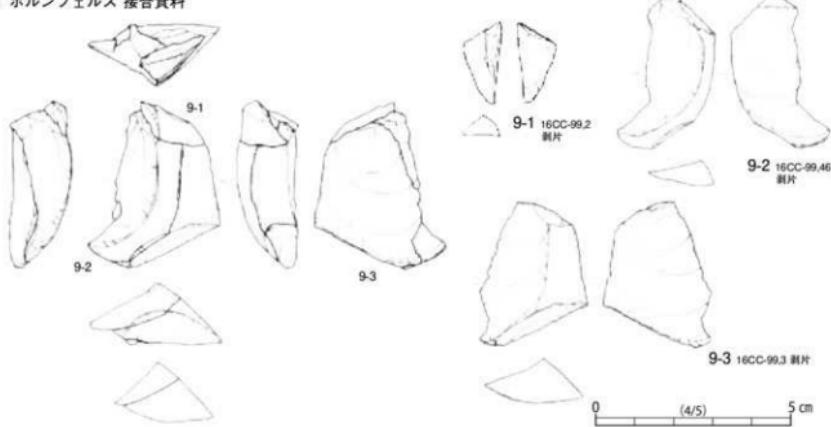
0

(4/5)

5 cm



9 ホルンフェルス 接合資料



第104図 第17ブロック出土遺物(2)

第23表 第17ブロック石器組成表

	ナイフ	調整痕 ある剥片	剥片	碎片	石核	礫	礫片	合計	組成比
玉鏡(メノウ)	1							1	3.70%
	260g							260g	0.46%
黒色安山岩		2	7	2				11	40.74%
	26.11g	20.79g	0.99g					47.89g	8.48%
ホルンフェルス			12		2			14	51.86%
			92.25g		265.63g			357.88g	63.36%
珪質頁岩				1				1	3.70%
			156.50g					156.50g	27.70%
合計	1	2	20	2	2			27	100.00%
	260g	26.11g	209.54g	0.99g	265.63g			561.87g	100.00%
組成比	3.70%	7.41%	74.07%	7.41%	7.41%			100.00%	
	0.46%	4.62%	47.72%	0.18%	47.02%			100.00%	
安山岩						3	5	8	21.60%
						1511.50g	335.24g	1846.74g	32.02%
鈍岩						1	7	8	21.64%
						78.10g	743.32g	821.42g	14.21%
流紋岩						1	18	19	51.35%
						636.80g	2,108.01g	2,754.84g	47.78%
ホルンフェルス							2	2	5.41%
							343.90g	343.90g	5.96%
合計						5	32	37	100.00%
						2,236.40g	3,530.50g	5,766.90g	100.00%
組成比						13.51%	86.49%	100.00%	
						38.78%	61.22%	100.00%	

の小型不定形剥片である。背面には原礫面が広く残る。

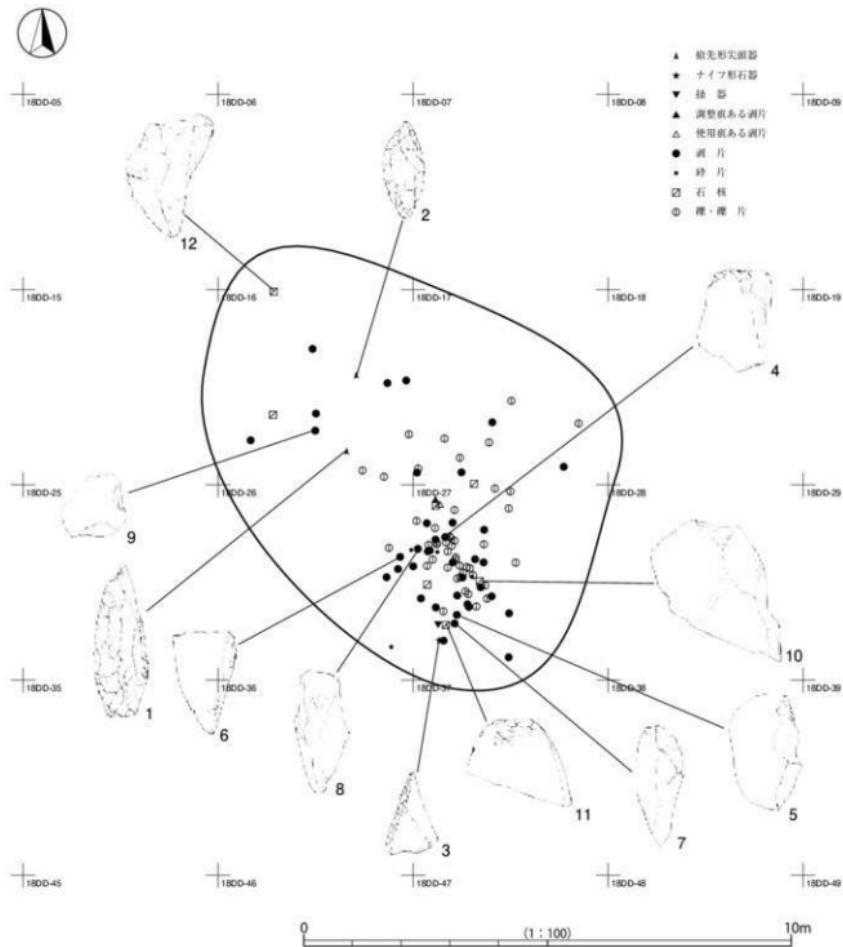
10は安山岩(トロトロ石)製の石核である。大型の転石に対し、打面を頻繁に転移しながら剥片剥離が行われている。それぞれの剥離痕は大きく、荒削のような剥片剥離である感が強い。11は黒色頁岩製の転石の端部に打撃を加え、礫を分割している。分割後、側縁方向からの剥離を加え剥片剥離を終了している。12は黒色安山岩製の縁辺部から求心的に剥片を作出している。原礫面が見られるが、1・2のように荒削の段階で止まらず、素材剥片作出の意図が明瞭に窺える。

13は黒色頁岩製の剥片3点の接合資料である。13-1を作出後、13-1のネガティブ面に打面を転移し、13-2・13-3を作出している。それぞれ小型の不定形剥片であるが、原礫の大きさ・形状に起因するものと考えられる。

14は黒色頁岩製の礫を打割し、側方から剥片を作出している。石核となる14-2の平滑面は節理面であり、打割の際にこの節理面で分離している。

15は黒色頁岩製の接合資料である。9点の接合が確認され、石核1点のほか、搔器2点・調整痕の認められる剥片1点・剥片5点である。剥片剥離工程は4工程が確認でき、15-1～15-3が正面図上方向からの剥片剥離で作出されたもの、15-4・15-5が前工程で作出された剥片類のネガティブ面から作出されたもの、打面を転移し側方からの剥片剥離を行ったもの(15-6)、再び打面を15-4・15-5の打面に転移し剥片剥離を行ったもの(15-7)の4工程である。調整痕の認められる剥片や搔器に使用される素材剥片は、大型で部厚な剥片である。特に、搔器については刃部のみの作出に止まり、素材剥片の形状を留めている。

16は黒色頁岩製の搔器と剥片の接合資料である。16-2の搔器は部厚な大型剥片を素材とし、刃部以外の調整は片側縁に対してのみ行われている。16-1は搔器に対する調整を目的としたものではなく、素材剥片取得を目的とした剥片剥離工程で作出された剥片である。



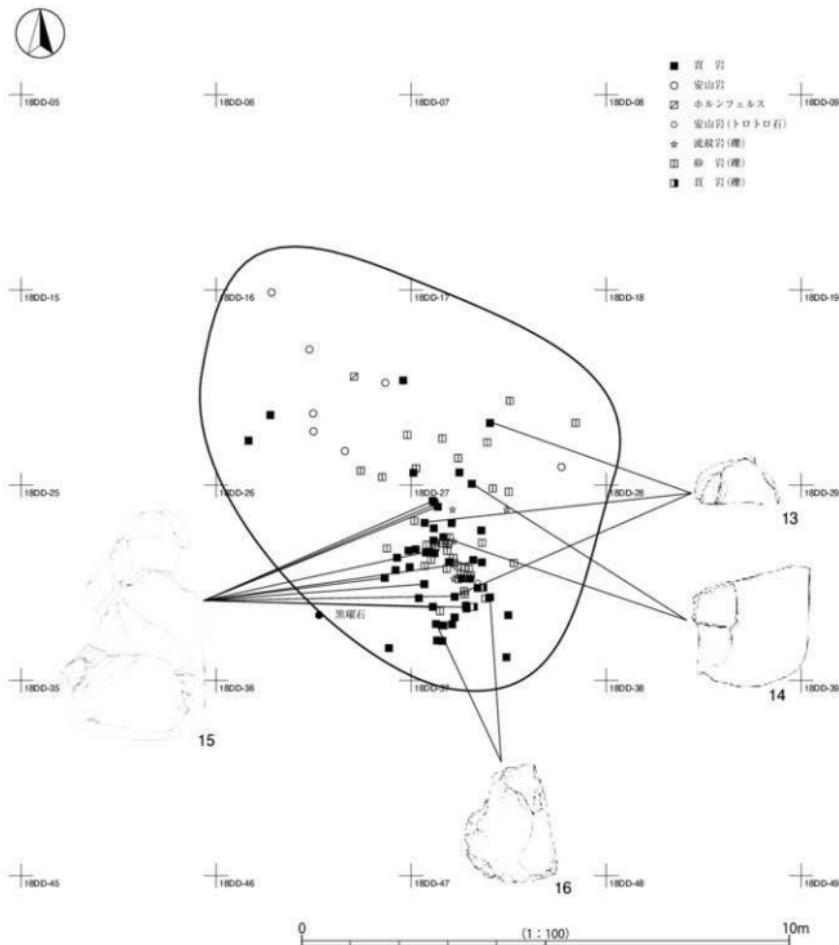
第105図 第18ブロック器種別分布図

第19ブロック(第112~115図、第25表、図版5・91・92)

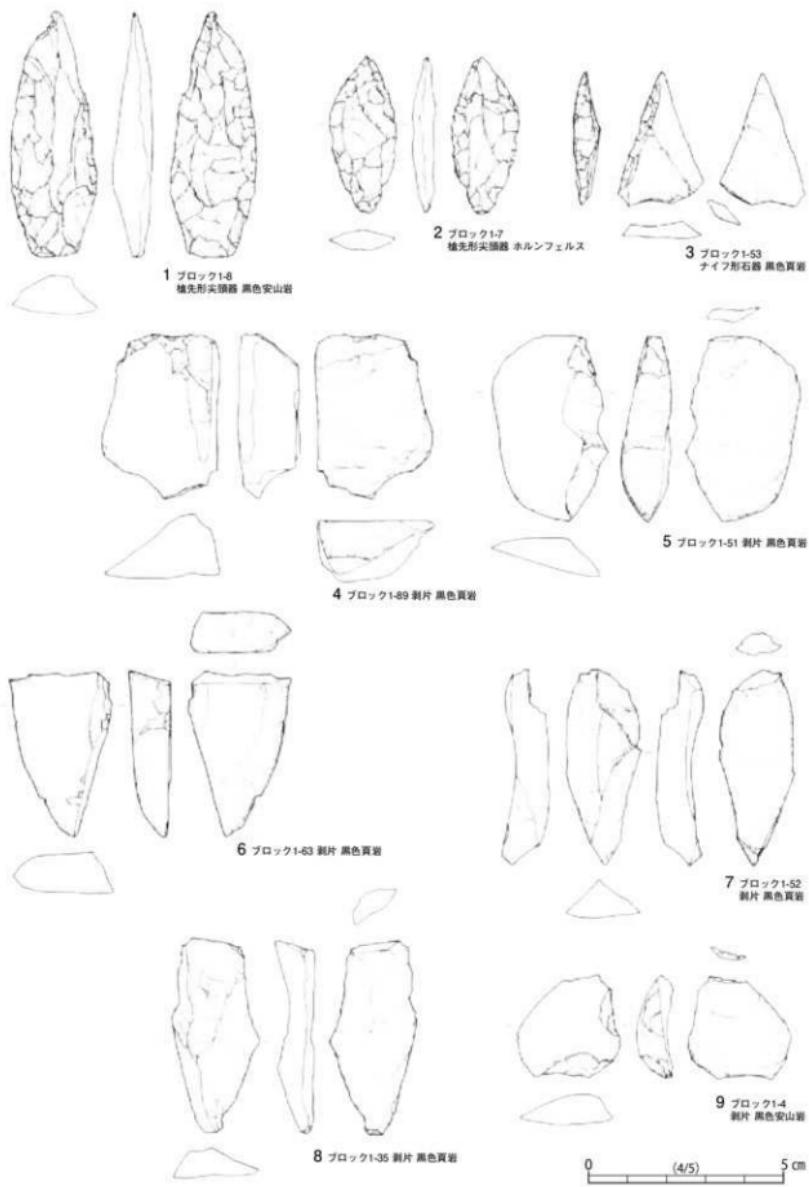
地金堀に面した台地の端部に所在する。近接する第17ブロック・第18ブロックよりも標高が高く台地低位面に移行する緩斜面部に相当する。出土層位はⅢ層である。

石器の分布範囲は長軸7m・短軸5mの楕円形状で、分布範囲中央の18DD-86グリッドに径1.5m程の2か所の集中が認められる。

定型的な石器の出土は認められず、石器組成は調整痕の認められる剥片・剥片・石核で構成される。珪質頁岩については剥片単体の出土で、客体的である。そのほかに使用される石材は黒色頁岩・黒色安山岩・



第106図 第18ブロック石材別分布図



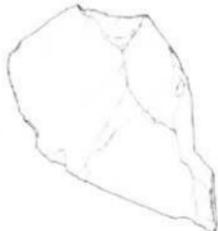
第107図 第18ブロック出土遺物(1)

チャートである。砾石器は合計 120 個体出土し、チャート製の砾 1 点のほかは全て破砕砾である。点数的にはチャートが半数を占め、そのほかに砂岩・ホルンフェルス・流紋岩が使用される。

出土遺物

1 は黒色安山岩製、2 は珪質頁岩製の剥片である。1 の大型剥片の背面は基本的に腹面の主要剥離面の方向と同一である。2 の不定形剥片は部厚な作りであり、背面の打面直下は微細な剥離痕が顕著に認められる。

3 は黒色安山岩製の石核である。小型の円砾を原石とし、上下両端に設定された打面から剥片剥離を行っている。特に、上方の打面調整は頻繁に行われており、打面は大きく歪んでいる。



10 ブロック1-44 石核 安山岩(トロトロ石)



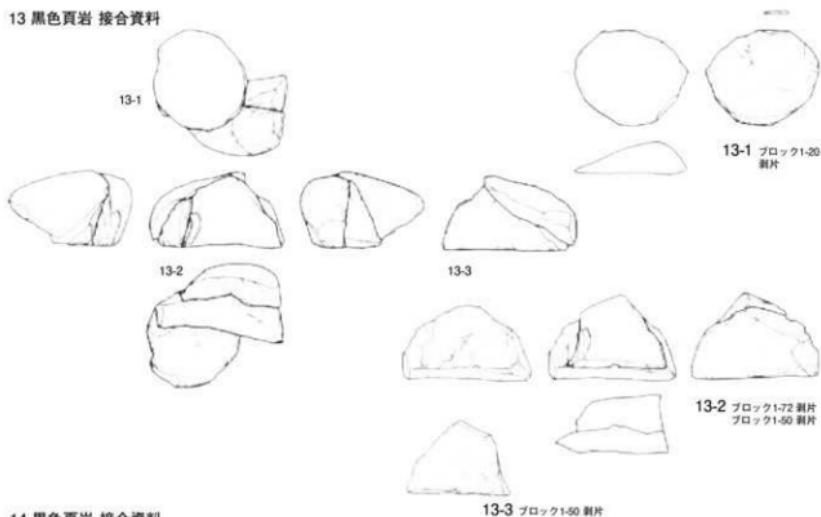
11 ブロック1-80 石核 黒色頁岩



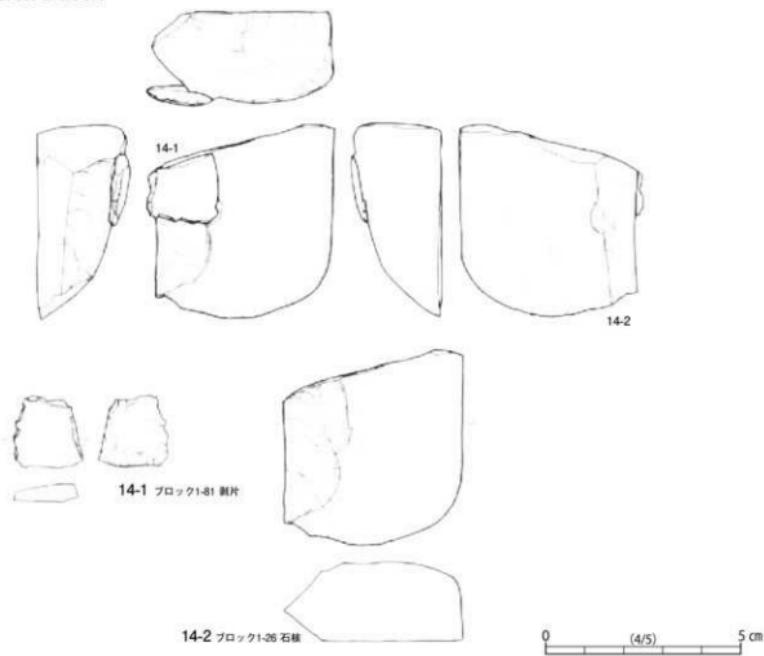
12 ブロック1-1 石核 黒色安山岩

第108図 第18ブロック出土遺物(2)

13 黒色頁岩 接合資料

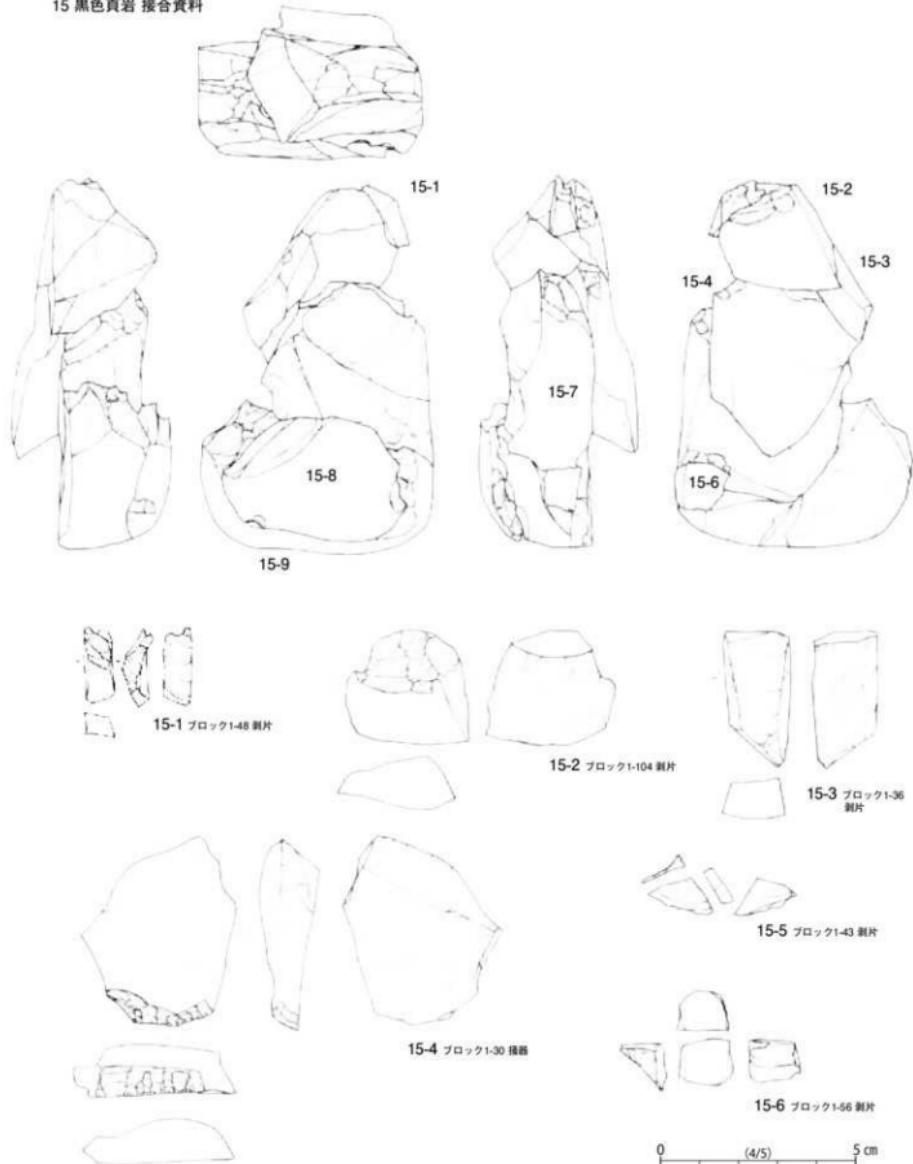


14 黒色頁岩 接合資料



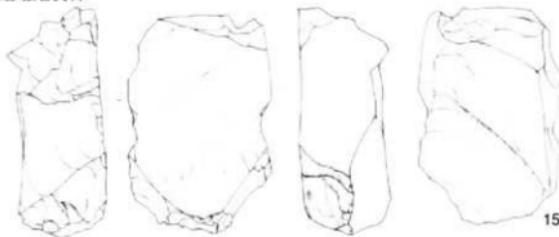
第109図 第18ブロック出土遺物(3)

15 黒色頁岩 接合資料

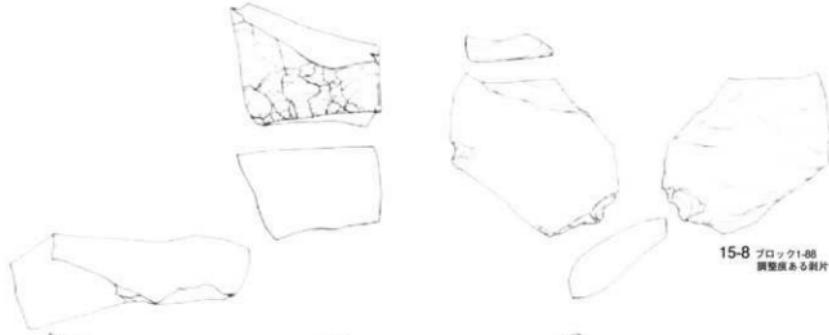


第110図 第18ブロック出土遺物(4)

15 黒色頁岩 接合資料



15-7 ブロック1-65 接着

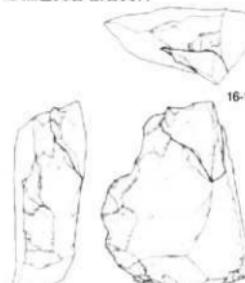


15-8 ブロック1-88
調整痕ある剥片



15-9 ブロック1-29 石核

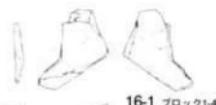
16 黒色頁岩 接合資料



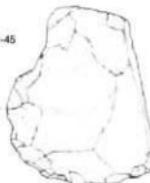
16-1



16-2



16-1 ブロック1-45
剥片



16-2 ブロック1-54 接着



第111図 第18ブロック出土遺物(5)

第24表 第18ブロック石器組成表

	槍先形 尖頭器	ナイフ 形石器	孫 器	調整痕 ある剥片	剥 片	碎 片	石 核	礫 片	合 計	組成比
ホルンフェルス	1 388g								1 388g	1.79% 0.60%
黒色頁岩		1 3.28g	3 126.92g	1 20.28g	33 169.85g	4 1.24g	3 136.47g		45 478.04g	80.35% 74.11%
黒色安山岩		1 12.50g				5 18.32g		22.58g	1 53.40g	12.50% 8.28%
頁岩						1 10.07g		25.99g		2 36.06g 5.59%
安山岩(トロトロ石)								1 73.64g		1 73.64g 11.42%
合計	2 16.38g	1 3.28g	3 126.92g	1 20.28g	39 198.24g	6 1.24g	278.68g		56 645.02g	100.00% 100.00%
組成比	35.7% 2.54%	1.79% 0.51%	5.36% 19.68%	1.79% 3.14%	69.6% 30.73%	7.14% 0.20%	107.1% 43.30%			100.00% 100.00%
砂岩								41 571.79g	41 571.79g	85.41% 72.78%
流紋岩								5 129.43g	5 129.43g	10.42% 16.47%
黒色頁岩								2 84.46g	2 84.46g	4.17% 10.75%
合計								48 785.68g	48 785.68g	100.00% 100.00%
組成比								100.00%	100.00%	100.00% 100.00%

4はチャート製の剥片2点と石核1点からなる接合資料である。三角形の礫を原石とし、実測図上方に見られる平坦な原礫面からの剥離により打面を作出している。この打面から4-1の剥片が作出されるが、その後4-2の上方から打削するように剥片を作出している。

5は黒色頁岩製の調整痕の認められる剥片と剥片の接合資料である。5-1の打面は腹面側からの調整により除去されるため不明確であるが、5-1と5-2は同一打面からの作出と考えられる。

第20ブロック(第116~120図、第26表、図版5・92・93)

地金堀に面した台地の端部に所在する。立地条件が類似する第17ブロック～第19ブロックと比較して、台地低位面のより端部に位置する。石器の出土層位は調査時の記録ではVI層とあるが、台地低位面の端部は下位の凝灰質粘土層の影響を強く受けるため、本来VI層中に含まれるATバミスの拡散が著しい。よってVI層より上部の層に所属するものと考えられる。

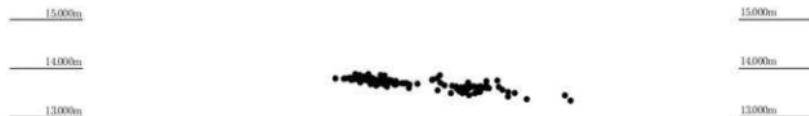
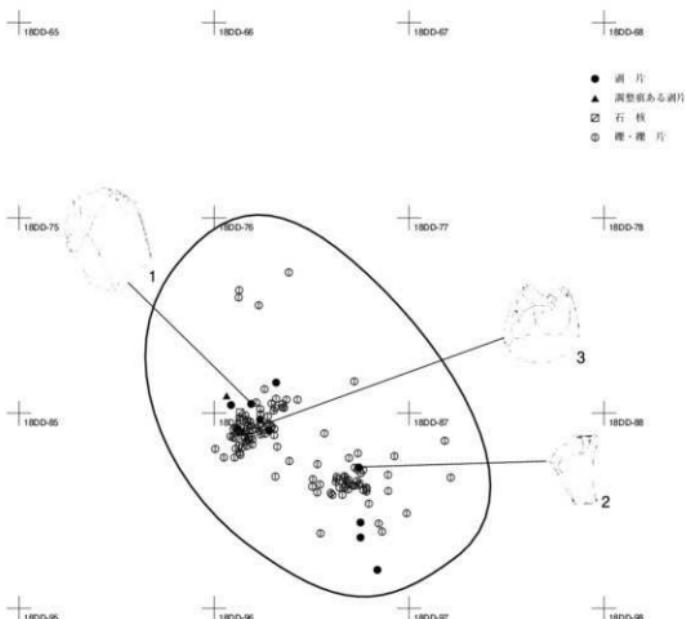
分布範囲は径8m程の円形で、分布範囲の北側20FF-08・09グリッド付近に集中区が認められる。

礫群を伴い、出土点数は剥片石器30点、礫石器37点である。剥片石器の石器組成は、搬入品と考えられる頁岩製の槍先形尖頭器1点、黒色安山岩製の搔器1点のほかは、剥片・碎片・石核で構成される。使用される石材はチャート・黒色頁岩を主体とし、黒曜石・嶺岡産珪質頁岩等が見られ、槍先形尖頭器・搔器の石材は単独である。礫石器については砂岩が主体であり、礫・破碎礫合わせて全体の67.5%を占める。チャート・流紋岩については全て破碎礫である。

出土遺物

1は頁岩製の槍先形尖頭器である。基部の一部が欠損する。表裏面ともに面的な調整が施され、先端部左側縁には先端部からの桶状剥離が見られる。平面形状は左右対称の柳葉形で、桶状剥離を有する槍先形尖頭器としての形状・大きさの点で類例の乏しい個体である。

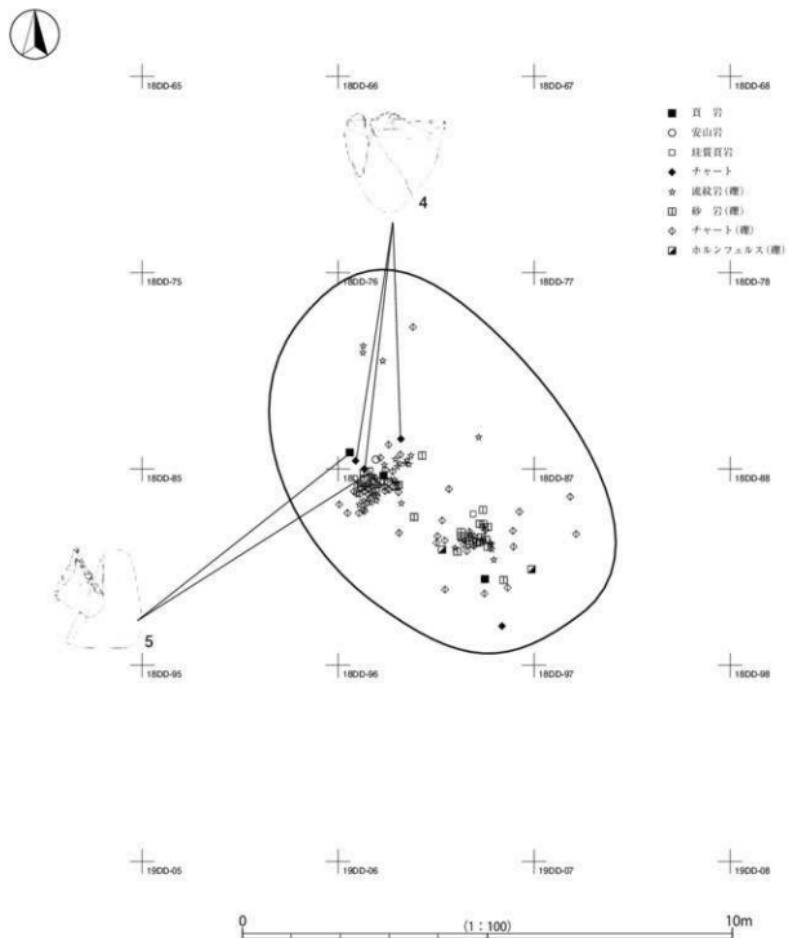
2は黒色安山岩製の搔器である。部厚な不定形剥片を素材とし、素材剥片の片側縁に対し腹面側からの急角度の調整を施し、刃部を作出している。



第112図 第19ブロック器種別分布図

3～10は剥片である。大型剥片が多く、特に、部厚な剥片は縦長剥片であり、3～5のように背面構成は原礫面で占められる個体が多い。8・9の小型剥片は不定形で、背面は多方向からの剥離で構成される。

11・12はチャート製の接合資料である。11は同一打面から連続的に作出された剥片2点の接合であり、右側面には石核の広い剥離面が共通して認められる。12は剥片3点の接合であり各々大きさに違いはあるが不定形剥片となる。11と同様に同一打面から連続して作出された剥片である。

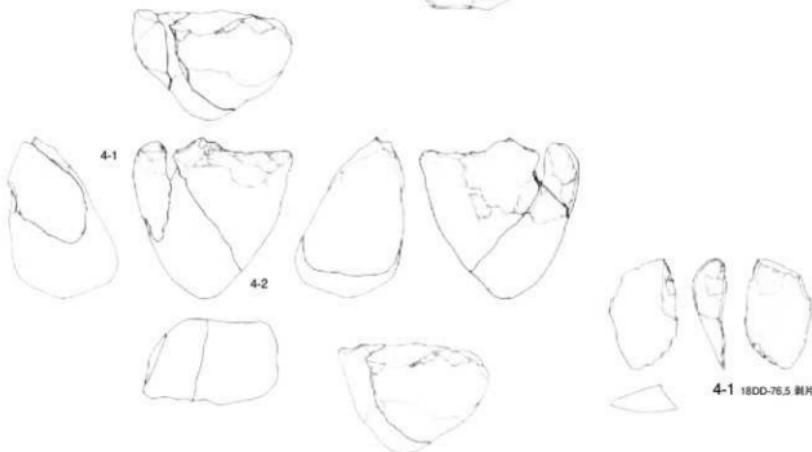


第113図 第19ブロック石材別分布図



3 18DD-86.30 石核 黑色安山岩

4 チャート 接合資料



0 (4/5) 5 cm

第114図 第19ブロック出土遺物(1)

第25表 第19ブロック石器組成表

	調整痕 ある剥片	剥片	石核	礫	礫片	合計	組成比
黒色頁岩	1 219g	2 23.98g				3 26.17g	25.00%
黒色安山岩		2 18.31g	1 29.21g			3 47.52g	25.00%
珪質頁岩		1 4.39g				1 4.39g	8.33%
チャート		4 24.72g	1 23.44g			5 48.16g	41.67%
合計	1 219g	9 71.4g	2 32.65g			12 136.24g	100.00%
組成比	8.33% 1.73%	75.00% 56.56%	16.67% 41.71%			100.00% 100.00%	
チャート			1 211.58g	61 1159.28g	62 1,570.86g	61 431.71g	
砂岩				25 667.92g	25 667.92g	25 21.03g	20.66%
ホルンフェルス				2 14.54g	2 14.54g	2 0.46g	1.65%
流紋岩				31 1,113.89g	31 1,113.89g	31 35.08g	25.62%
合計			1 211.58g	119 2,963.77g	120 3,167.21g	120 100.00%	
組成比			0.83% 6.66%	99.17% 93.34%	100.00% 100.00%		

出土遺物

1は黒曜石製の調整痕の認められる剥片である。部厚な不定形剥片を素材とし、調整部位は打面を除くほぼ全周であり、急角度の微細な調整痕が認められる。また、腹面には周縁部からの面的な調整が施される。

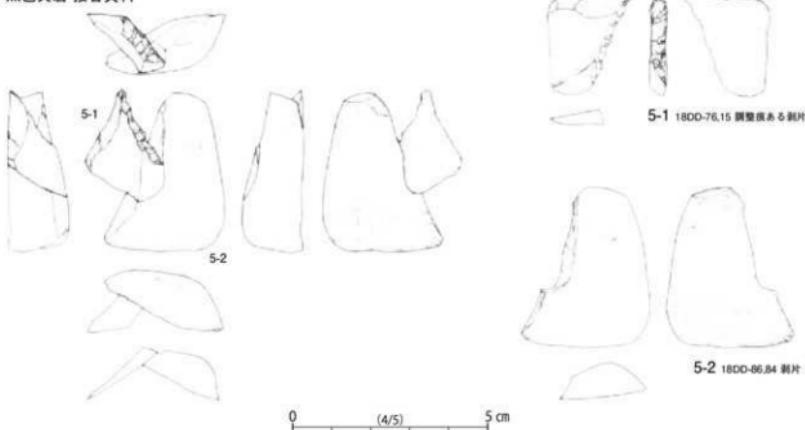
第21 ブロック(第121・122図、第27表、図版5・94)

東西を地金堀とその支流により開析された台地突出部の中間、標高14.5mに所在する。石器の出土層位はIV層～VI層にかけてである。

分布範囲は長軸5m・短軸3mの楕円形状で、分布範囲の北側23GG-62グリッドに集中区が認められる。集中区から4mの距離を置く南端から出土するのは砾である。

剥片石器は10点出土し、全て黒曜石製である。定型的な石器は認められず、調整痕のある剥片・剥片・碎片で構成される。砾石器については砂岩製の破片のみである。

5 黒色頁岩 接合資料

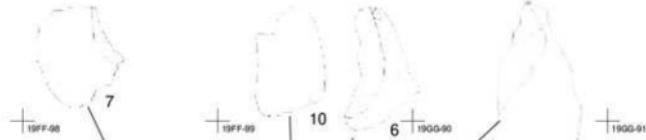


第115図 第19ブロック出土遺物(2)



19FF-07

- ▲ 始先形尖頭器
- ▼ 矛器
- 滑片
- 砧片
- 石核
- 理・理・片



20FF-07

3

20FF-17

20FF-08

20FF-18

20FF-27

20FF-28



8

20FF-37

20FF-38

20FF-39

0

(1 : 100)

10m



14000m

14000m

13000m

13000m

12000m

12000m

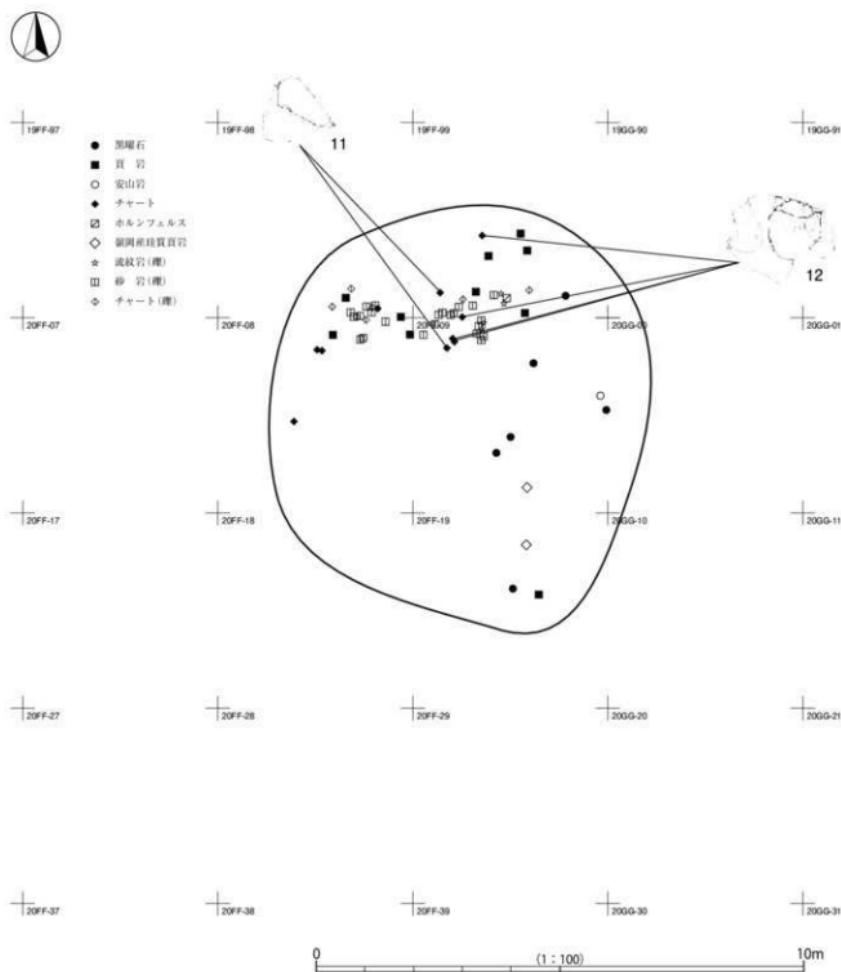
第116図 第20ブロック器種別分布図

第22ブロック(第123・124図、第28表、図版94)

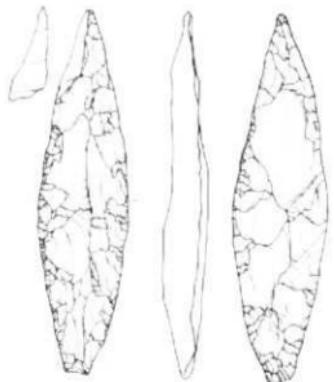
東西を地金堀とその支流により開拓された台地突出部の中間、標高14.5mに所在する。出土層位はⅡ層～Ⅲ層にかけてである。

23FF-48 グリッド～23FF-59 グリッドにかけて石器が直線上に並び、南北両端で5mの距離を置く。

黒曜石製の細石刃3点のはか黒曜石製・黒色安山岩製の剥片で構成される。



第117図 第20ブロック石材別分布図



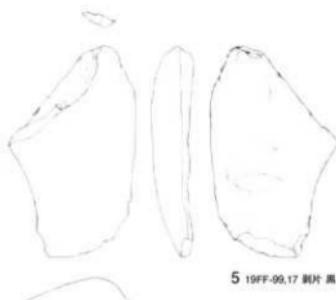
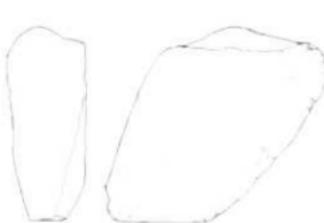
1 20FF-19.4 横先形尖頭器 黑岩



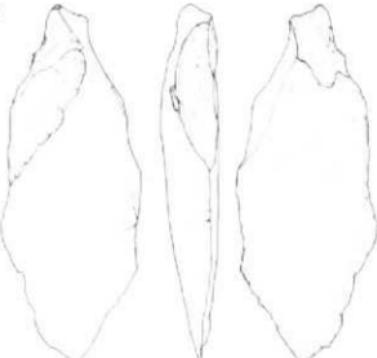
2 20FF-09.12 剥片 安山岩



3 20FF-08.5 剥片 黑色頁岩



5 19FF-09.17 剥片 黑色頁岩



4 19FF-09.6 剥片 ホルンフェルス

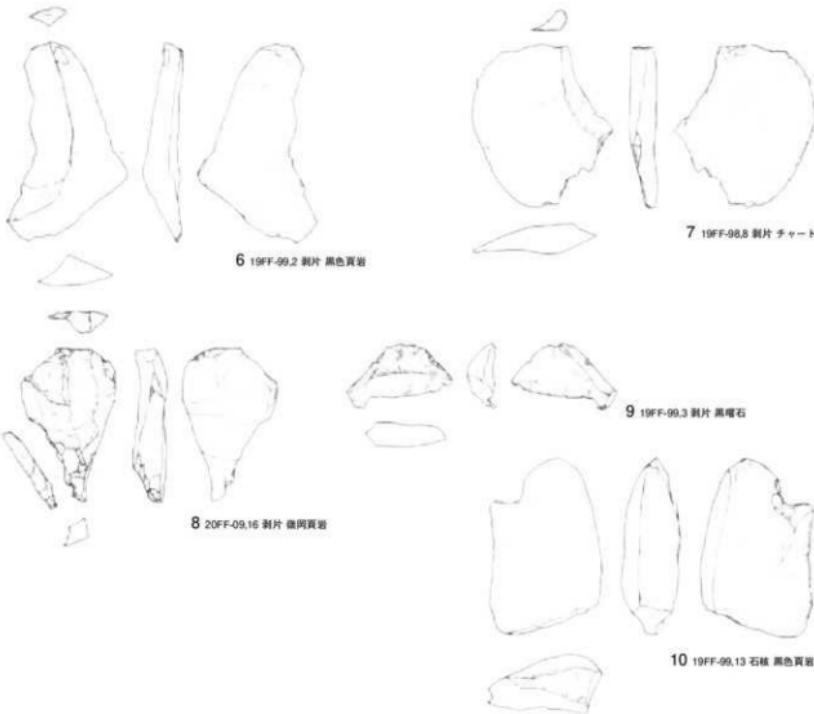


第118図 第20ブロック出土遺物(1)

出土遺物

1～3は黒曜石製の細石刃である。長さ・幅に個体差はあるものの、背面を構成する剥離の方向は腹面の剥離の方向と一致している。單一打面を有する細石刃核の存在が考えられる。

4は黒色安山岩製の剥片である。打面が矮小であり、やや末端部側に最大幅及び最大厚みをもつ形状で



11 チャート 接合資料

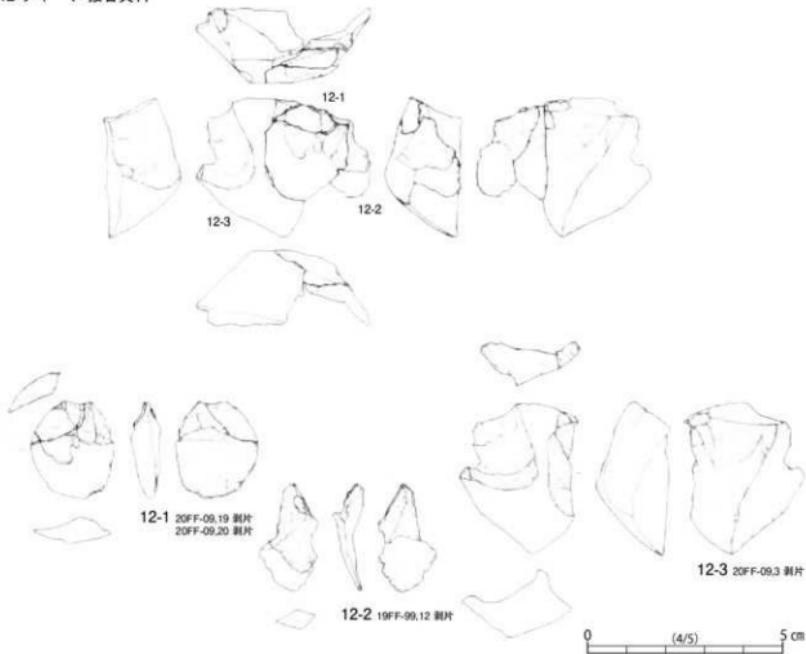


第119図 第20ブロック出土遺物(2)

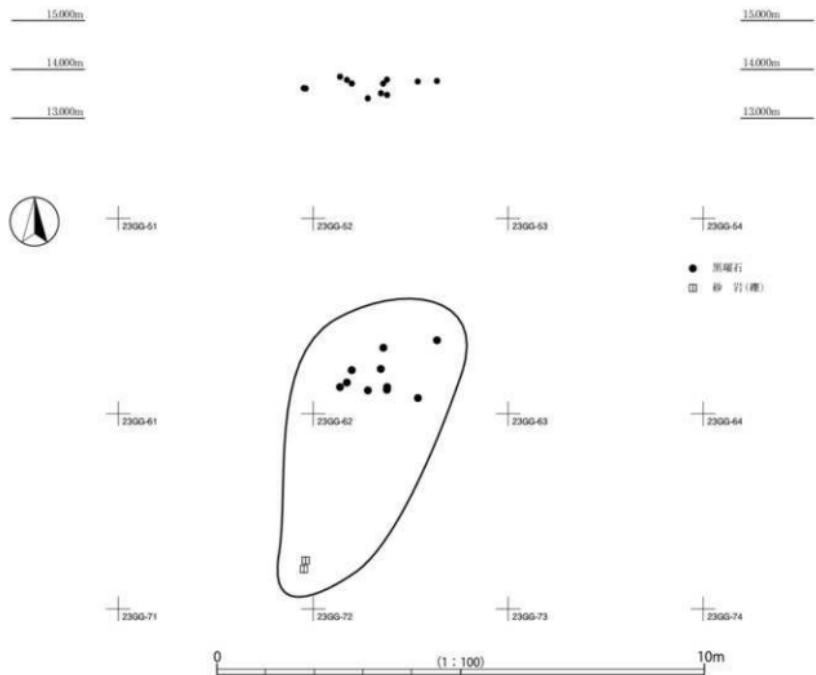
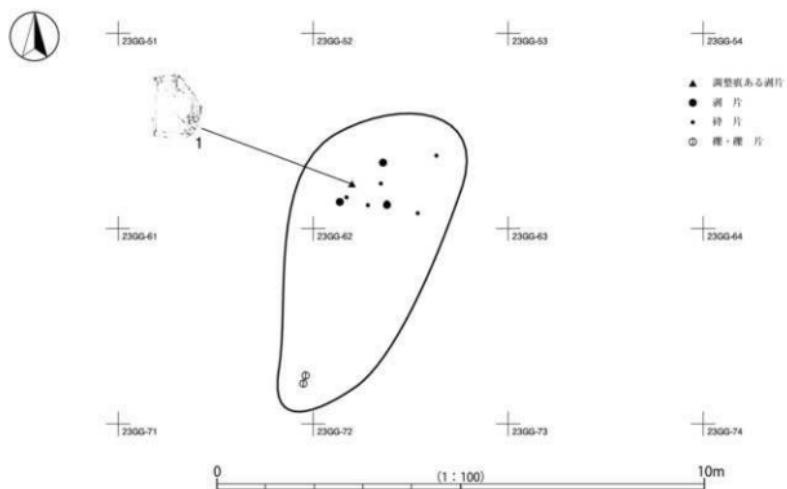
第26表 第20ブロック石器組成表

	槍先形 尖頭器	器 種	剥 片	碎 片	石 核	雜 物	離 片	合 計	組成比
頁岩	1							1	3.33%
	19.98g							19.98g	79.1%
黒曜石		6						6	20.00%
		7.05g						7.05g	2.79%
黒色頁岩		8		1				9	30.00%
		96.70g		19.58g				116.28g	46.04%
黒色安山岩	1							1	3.33%
	10.70g							10.70g	4.21%
チャート		9	1					10	33.33%
		43.95g	0.10g					44.05g	17.44%
銀鋼鉛珪質頁岩		2						2	6.67%
		12.37g						12.37g	4.89%
ホルンフェルス		1						1	3.33%
		42.16g						42.16g	16.69%
合計	1	1	26	1	1			30	100.00%
	19.98g	10.70g	202.23g	0.10g	19.58g			252.59g	100.00%
組成比	3.33%	3.33%	86.68%	3.33%	3.33%				100.00%
	7.91%	4.24%	80.96%	0.04%	7.73%				100.00%
砂岩						2	21	25	67.57%
						922.70g	1,943.20g	2,865.90g	77.03%
チャート							7	7	18.92%
						251.22g	251.22g	6.75%	
流紋岩							5	5	13.51%
						603.31g	603.31g	16.22	
合計						2	35	37	100.00%
						922.70g	2,797.73g	3,720.43g	100.00%
組成比						5.41%	94.59%	100.00%	
						24.80%	75.20%	100.00%	

12 チャート 接合資料



第120図 第20ブロック出土遺物(3)



第121図 第21ブロック 器種別・石材別分布図

ある。5の黒曜石製の剥片は部厚な小型剥片であるが、背面は多方向からの剥離で構成されている。細石核の石核整形に関する剥片と考えられる。

第23ブロック(第125~129図、第29表、図版5・94~96)

東西を地金堀とその支流により開析された台地突出部の中間、標高15m付近に所在する。各個体の出土レベルに大きな差が見られ、調査時の記載では出土層位はⅦ層~Ⅹ層となる。

石器の出土範囲は径6mで収束し、分布範囲の南端23GG-39グリッド~23HH-40グリッドにかけての範囲に集中する感がある。

定型的な石器はナイフ形石器が挙げられ、黒曜石製の5点・黒色頁岩製の1点が組成に加わる。黒色頁岩製の石器はこのナイフ形石器1点のみで、そのほかは全て黒曜石製の石器である。

出土遺物

1~3はナイフ形石器である。1は黒色頁岩製の大型縦長剥片を素材とし、先端部付近は片側縁、中位~基部にかけては両側縁に調整が施される。先端部付近の調整は素材剥片の腹面側から施されるのに対し、基部付近の調整は両側縁とも素材剥片の背面側から施される。背面を構成する剥離の方向は全て腹面の剥離の方向と一致し、同一方向に設定された打面から連続的に作出された剥片であることが理解できる。2・3は黒曜石製で、ともに縦長剥片を素材としたものである。2の調整部位は二側縁に対してではあるが、先端部と基部に特に集中している。3は基部のみ残存するが、両側縁に対し背面側から調整が施される。

4・5は黒曜石製の剥片である。4は大型の不定形剥片で、側縁部~末端部にかけては鋭利である。5は小型の不定形剥片で、背面は腹面と同一方向の剥離と左側縁方向からの剥離で構成される。

6・7は黒曜石製の石核である。大型の部厚な剥片を石核に転用したものであり、実測図正面に下方からの打撃により作出された剥離が認められる。石核としての剥片剥離は、素材の末端部に相当する平坦面から行われ、正面右側縁及び裏面の剥離が該当する。9は円錐形に近い形状であり、下方から及び側面側からの剥離も認められるが、主たる剥片剥離は上面の調整された打面から連続的に行われている。

8は黒曜石製のナイフ形石器で、製作途中に中間から二分したものである。縦長剥片を素材とし、素材剥片の末端部側を先端部に設定し製品化している。正面図右側面の折面付近は、二分した先端側と基部側で明瞭な段差が認められ、側縁部の調整途中で二分したものと考えられる。

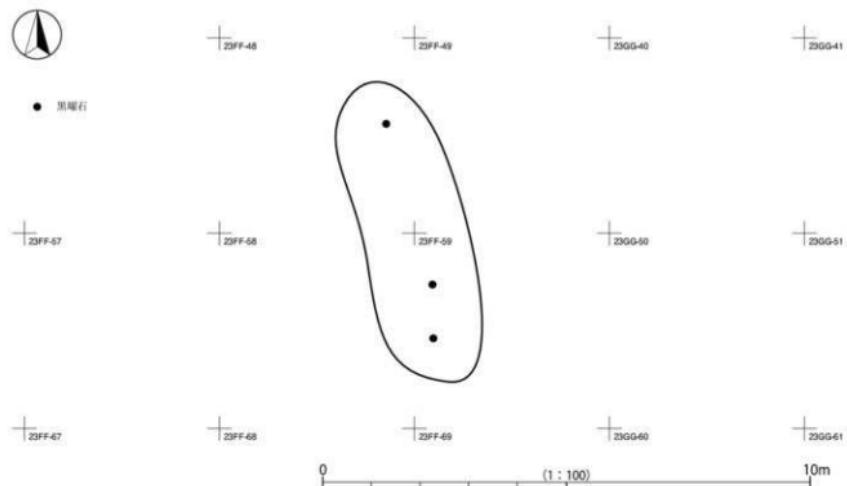
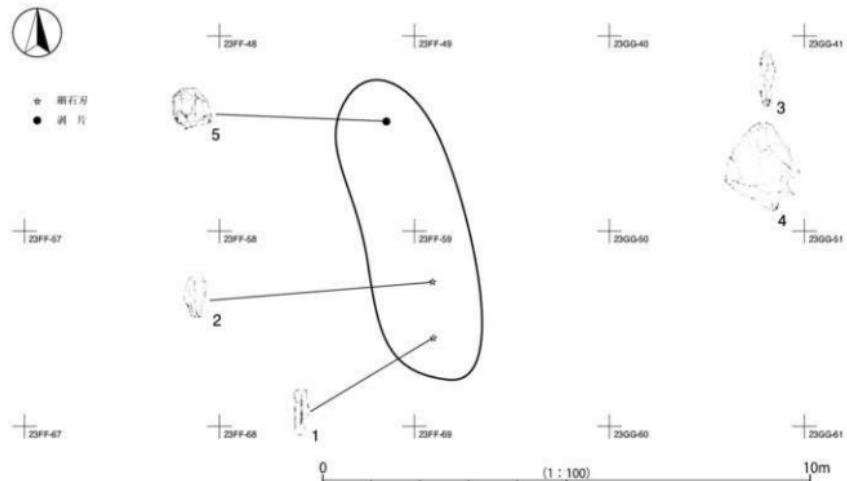
第27表 第21ブロック石器組成表

	調整痕 ある剥片	剥片	碎片	難片	合計	組成比
黒曜石	1	3	6		10	100.00%
	793g	3.57g	1.09g		12.69g	100.00%
合計	1	3	6		10	100.00%
	793g	3.57g	1.19g		12.69g	100.00%
組成比	10.00%	30.00%	60.00%		100.00%	
	62.49%	28.13%	9.38%		100.00%	
砂岩				2	2	100.00%
				192.88g	192.88	100.00%
合計				2	2	100.00%
				192.88g	192.88	100.00%
組成比				100.00%	100.00%	
				100.00%	100.00%	



0 (4/5) 5 cm

第122図 第21ブロック出土遺物



第123図 第22ブロック器種別・石材別分布図

第22表 第22ブロック石器組成表

	礫石刃	剥片	合計	組成比
黒曜石	3	1	4	80.00%
	0.71g	1.92g	2.63g	26.86%
黒色安山岩		1	1	20.00%
		7.16g	7.16g	73.14%
合計	3	2	5	100.00%
組成比	60.00%	40.00%	100.00%	
	72.5%	92.75%	100.00%	

9は黒曜石製の剥片の欠損した末端部が接合したものである。

10は黒曜石製のナイフ形石器と調整痕の認められる剥片の接合資料である。ともに縦長剥片であり、10は作出後にナイフ形石器として調整が施される。調整途中に二分したと考えられる。10-1は小型の剥片であるが、片側縁に腹面側からの調整が施されており、ナイフ形石器の作出を目的としたものと考えられる。両者は同一方向に位置する打面から作出された剥片であるが、10の作出後、打面再生を経て10-1が作出される。

第24ブロック(第130・131図、第30表、図版5・96)

東西を地金堀とその支流により開析された台地突出部の中間、標高14.5m付近に所在する。

黒曜石製の剥片4点・チャート製の剥片1点の合計5点で構成されるブロックで、分布範囲は長軸5m・短軸3mの楕円形状である。調査時の記載では出土層位はⅦ層～Ⅸ層となる。

出土遺物

1・2は黒曜石製の剥片である。小型の縦長剥片で、背面は原縫面及び腹面の主要剥離面と同方向からの剥離で構成される。右側面は腹面側に湾曲し、特に、2の末端部付近は著しく湾曲している。小型の石核から作出された剥片と考えられる。

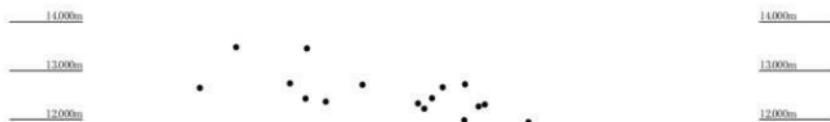
第25ブロック(第132～137図、第31表、図版6・96～99)

東西を地金堀とその支流により開析された台地突出部の中間、標高14m付近に所在する。出土層位はⅢ層である。

23GG-86グリッド～24GG-07グリッドにかけて分布し、分布範囲は東西8m・南北9mで、特に、



第124図 第22ブロック出土遺物



第125図 第23ブロック 器種別分布図

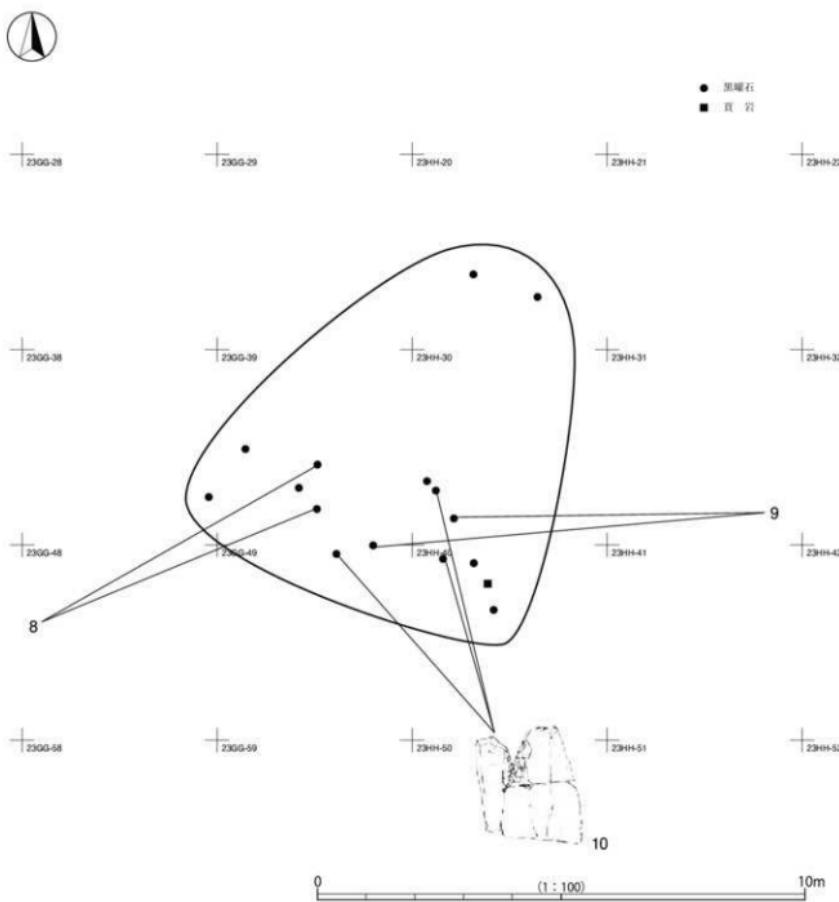
23GG-97 グリッドに集中する感がある。

出土した石器は剥片石器 30 点・礫石器 1 点であり、剥片石器は玉髓製の彫刻刀形石器のほか、剥片・石核である。使用される石材は頁岩を主体とし、黒色安山岩・安山岩(トロトロ石)・ホルンフェルス等であり、彫刻刀形石器の玉髓・チャートは単体の出土である。

出土遺物

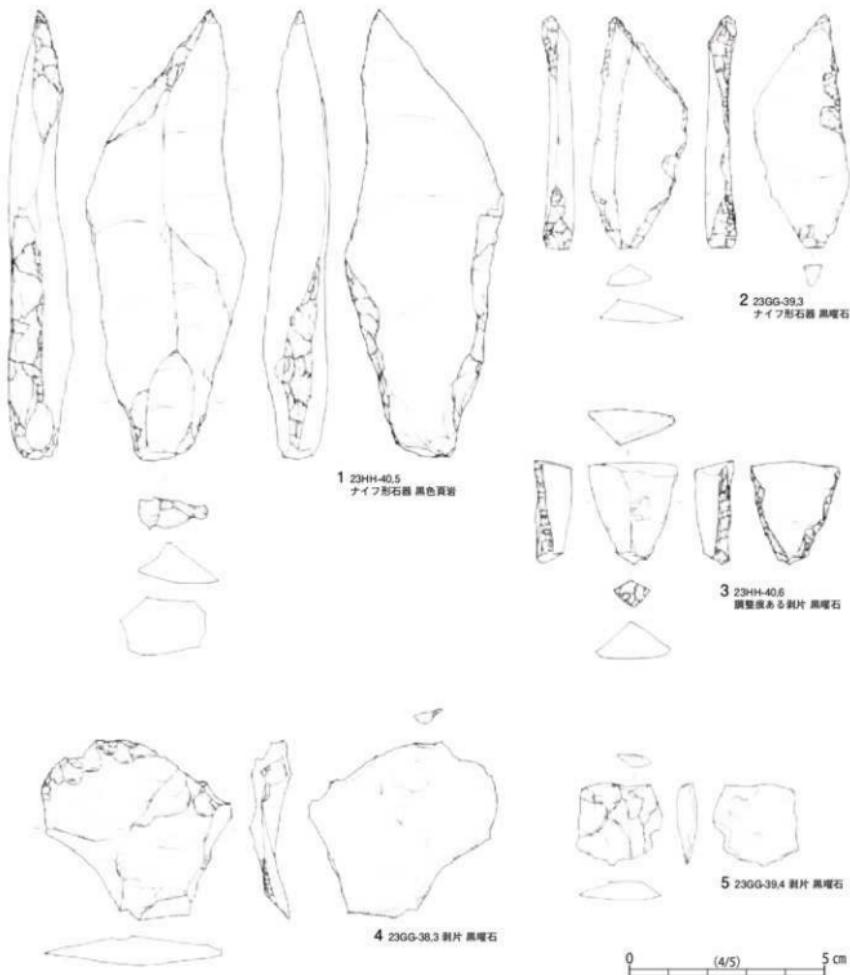
1 は玉髓製の彫刻刀形石器である。小型綫長剥片を素材とし、打面側を背面側からの剥離で除去し、平坦な面を作出している。この平坦面から左側縁に対し、3 条の剥離を施し彫刻面を作出している。

2 ~ 9 は剥片である。2 ~ 5 の頁岩製の剥片は、大きさ・形状ともに多様である。素材剥片作出のため

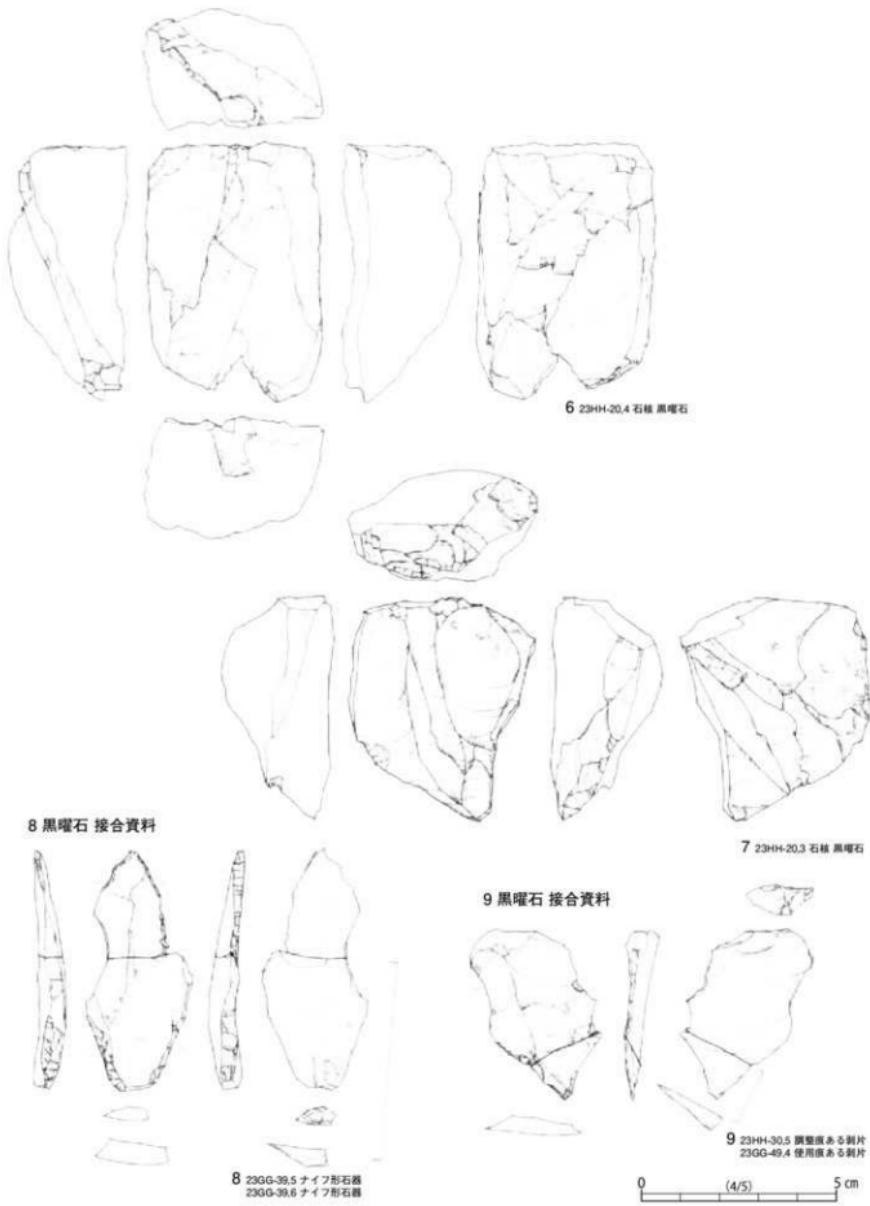


第126図 第23ブロック石材別分布図

の剥離によるものは2・4・5であり、背面は多方向からの剥離により構成される。3の大型の横長剥片の背面には、原礫面及び末端部側からの剥離が見られる。部厚な剥片であることから、石核整形を目的として作出された剥片と考えられる。6・7はホルンフェルス製の縦長剥片であり、背面を構成する剥離の方向は、腹面の剥離の方向と一致する。8はチャート製の縦長剥片で、末端部付近に最大幅を有する形状である。背面を構成する剥離の方向は、概ね腹面の剥離の方向と一致するが、一部末端部付近の剥離は側



第127図 第23ブロック出土遺物(1)



第128図 第23ブロック出土遺物(2)

第29表 第23ブロック石器組成表

	ナイフ 形石器	調査 ある剥片	使用度 ある剥片	剥片	碎片	石核	合計	組成比
黒曜石	5	2	2	3	1	2	15	93.73%
	26.26g	11.22g	8.14g	19.95g	0.26g	152.69g	218.32g	77.04%
黒色頁岩	1						1	6.25%
	65.12g						65.12g	22.96%
合計	6	2	2	3	1	2	16	100.00%
組成比	32.22%	3.95%	2.87%	7.03%	0.10%	53.83%	100.00%	

縁方向からの剥離となる。9は黒色安山岩製の不定形剥片である。背面は多方向からの剥離により構成される。

10はホルンフェルス製の石核である。扁平礫を素材とし、剥片剥離は裏面上部及び下面の一部から行われている。

11は頁岩製の接合資料である。同一打面から連続して作出された剥片であり、打面を広く設定して打撃を加えている。円礫素材の石核に対し、密な調整で打面を調整し剥片剥離を行っている。

12は黒色安山岩製の接合資料である。小型の礫を素材とし、一端に作出された打面から12-1の剥片を得ている。12-2は12-1と同方向からの剥離によるが、打面の高さが一致しないため、12-1作出後に打面再生を行っていると考えられる。12-2作出後にネガティブ面から小型剥片を作出しており、12-3の石核正面図に最終剥離面に該当する剥離面が見られる。

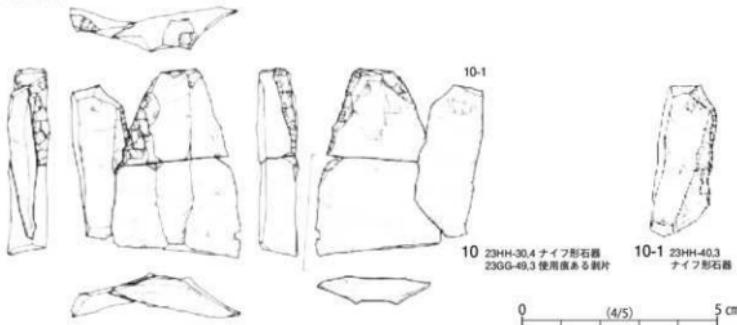
13は安山岩(トロトロ石)製の接合資料である。剥片と石核の接合であり、円礫の一端に打面を作出し、13-1の剥片を得ている。この後、正面図に見られる原礫面に打面を転移し剥片剥離を行っている。

第26ブロック(第138~141図、第32表、図版6・99・100)

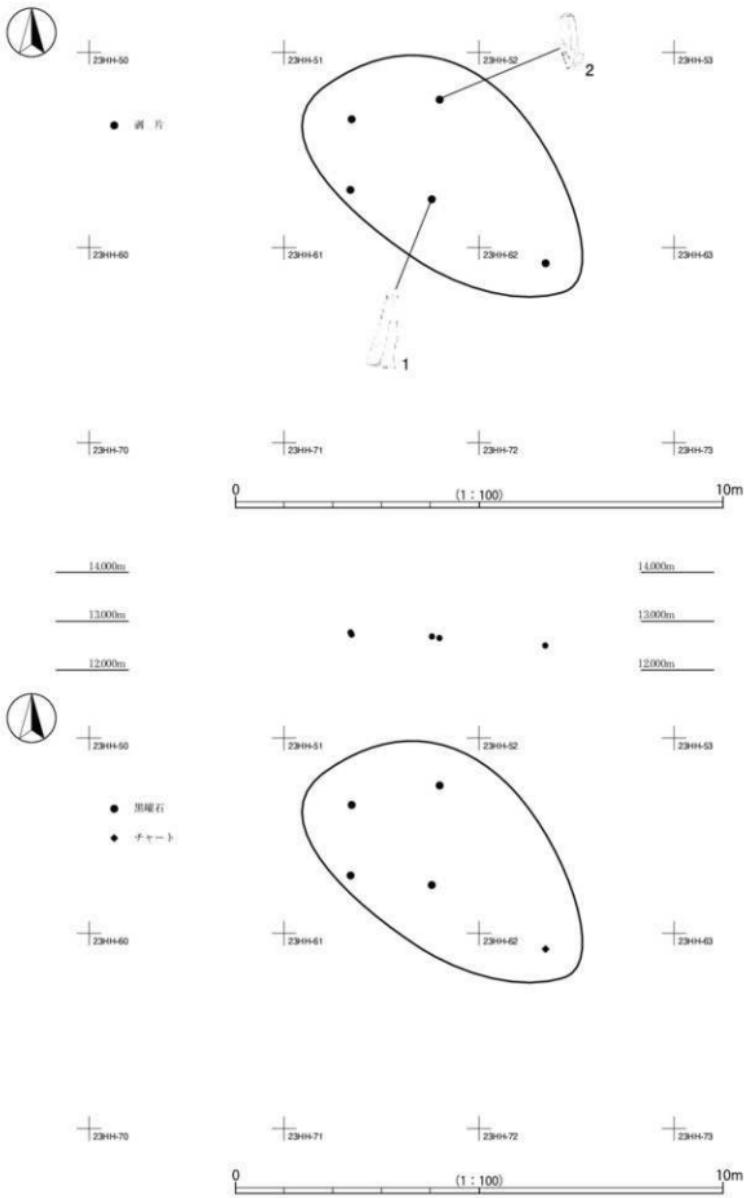
東西を地金堀とその支流により開析された台地突出部の中間、標高14m付近に所在する。調査時の出土層位の記述はIX層であるが、下位に位置する凝灰質粘土層の影響で分層が極めて困難な地点であり、IX層の上部に属するブロックと考えられる。

石器の分布範囲は広く、東西12m・南北8mに及ぶ。礫群を伴うが、剥片石器の分布は分布範囲の北側に偏る。

10 黒曜石 接合資料



第129図 第23ブロック出土遺物(3)



第130図 第24ブロック器種別・石材別分布図

第30表 第24ブロック石器組成表

	剥片	合計	組成比
黒曜石	4	4	80.00%
	291g	291g	77.81%
チャート	1	1	20.00%
	0.83g	0.83g	22.19%
合計	5	5	100.00%
	374g	374g	100.00%
組成比	100.00%	100.00%	
	100.00%	100.00%	



第131図 第24ブロック出土遺物

定型的な石器はナイフ形石器が挙げられ、黒曜石製・頁岩製の計2点が出土する。そのほかに楔形石器・調整痕の認められる剥片・剥片・石核の合計25点で構成される。石材は黒色安山岩を主体とし、黒曜石・頁岩が、礫石器については破碎礫を主体とし、チャート・砂岩・流紋岩等が認められる。

出土遺物

1・2はナイフ形石器である。1は頁岩製の小型横長剥片を素材とし、調整は素材剥片の末端部と打面の一部に施される。2は黒曜石製の小型不定形剥片を素材とし、1と同様に素材剥片の末端部と打面部に調整を施す。

3～8は剥片である。3～6は黒色安山岩製で、3は不定形剥片、4は縦長剥片、5・6は横長剥片と形状は多様である。7は黒曜石製、8は頁岩製の小型不定形剥片である。

9は黒色安山岩製の石核である。部厚な大型剥片を転用し、剥片剥離は片側縁に対し、腹面の主要剥離面を打面として行われる。

10は黒色安山岩製の剥片3点の接合資料である。3点は連続して作出されているが、右側縁からの剥離で10-1を作出後、打面を転移し10-2・10-3を上方から作出している。

11は黒色安山岩製の折断された剥片の接合例である。小型不定形剥片の打面部を折断し、切断面及び末端部に微細な剥離を施し、楔形石器を作成している。

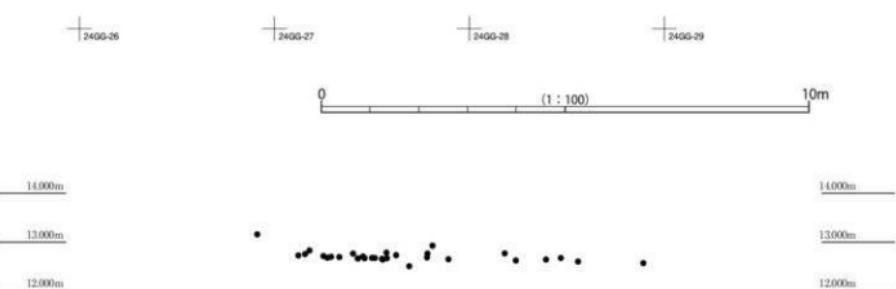
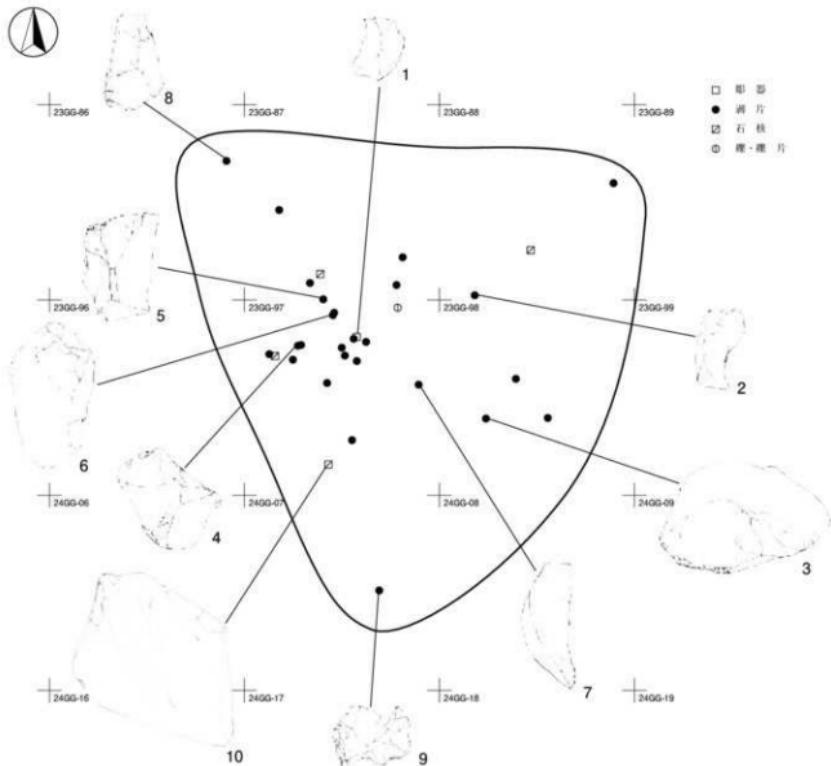
第27ブロック(第142～151図、第33表、図版6・101～107)

東西を地金堀とその支流により開析された台地突出部の中間、標高17m付近に所在する。第28ブロックと石器の分布範囲が重複するが、第27ブロックの平均出土標高は15.8mであるのに対し、第28ブロックの平均出土標高は15.6mと第27ブロックのほうが上層に位置している。出土層位はⅢ層である。

石器の分布範囲は広く、東西14m・南北14mである。集中区は分布範囲の南に偏り、特に、24FF-62グリッド～24FF-63グリッドにかけて密に集中する。

搔器を含む石器組成であり、黒曜石製の搔器2点が出土している。そのほかに調整痕の認められる剥片・使用痕の認められる剥片・剥片・碎片・石核が認められる。石器に使用される石材は黒曜石が主体となり、総点数292点のうち254点と87%を占める。次に出土点数の多いチャートについては38点であり、12.3%に止まる。そのほかに石英・黒色安山岩が使用されるが客体的である。また、少数であるが砂岩・流紋岩の破碎礫が南側集中区から出土している。

第27ブロックで消費された黒曜石は、透明度が低い色調で、細かい不純物を含む石材であり、可視的

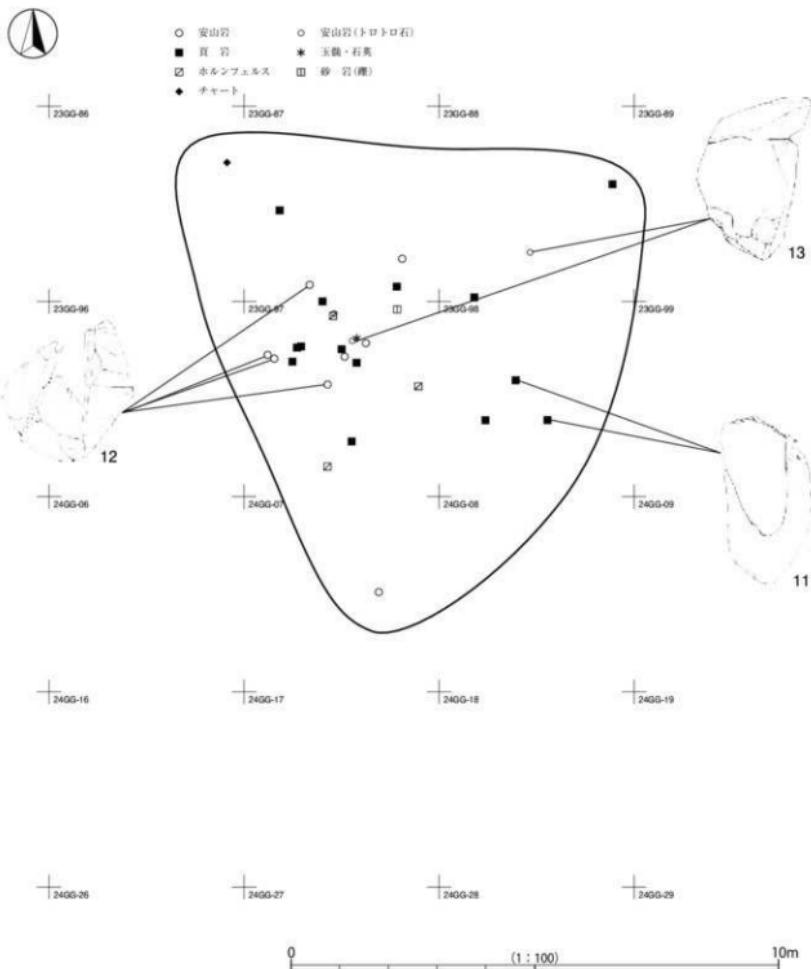


第132図 第25ブロック 器種別分布図

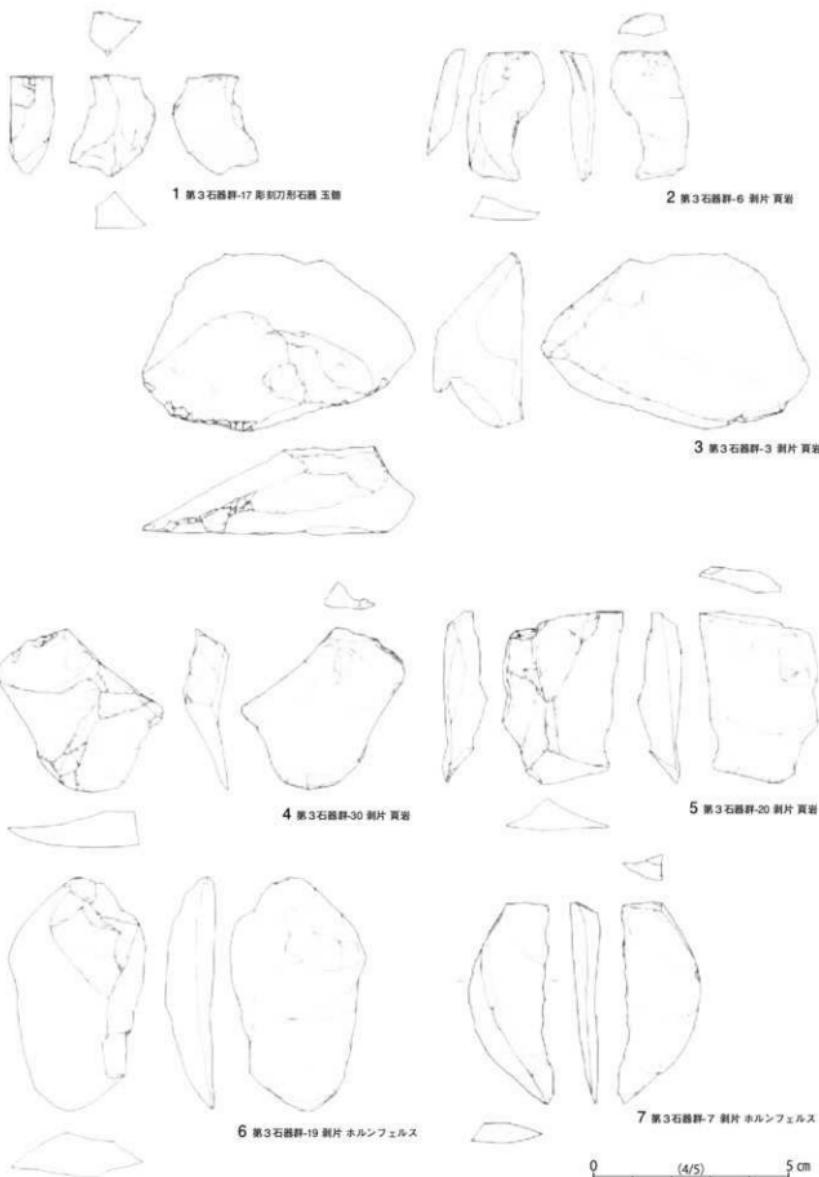
な観察であるが、高原山産の黒曜石と考えられる。

出土遺物

1～7は調整痕の認められる剥片である。剥片の形状・大きさ・調整部位は多様である。1はチャート製で、末端部に搔器の刃部調整に類似する急角度の調整を施す。右側面には微細な調整を施す。これら一連の調整は全て腹面側から行われている。2は黒曜石製で、調整部位は1と同様である。剥片末端部に対する急角度の調整は1と比較して粗い。3～5は小型の不定形剥片の側縁部に調整を施す。調整部位は限



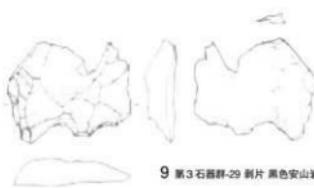
第133図 第25ブロック石材別分布図



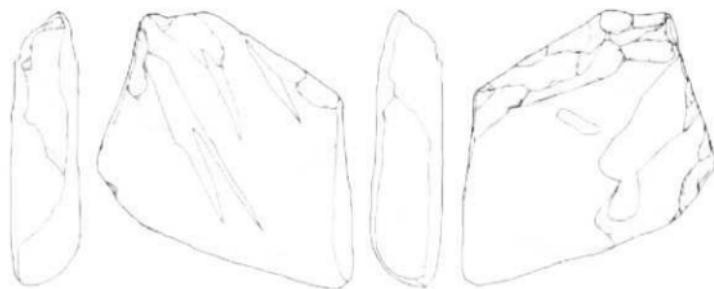
第134図 第25ブロック出土遺物(1)



8 第3石器群-23 剣片 チャート

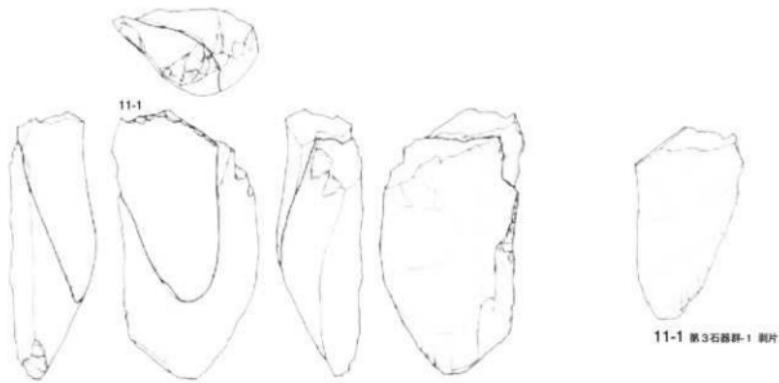


9 第3石器群-29 剣片 黒色安山岩



10 第3石器群-12 石核 ホルンフェルス

11 貝岩 接合資料

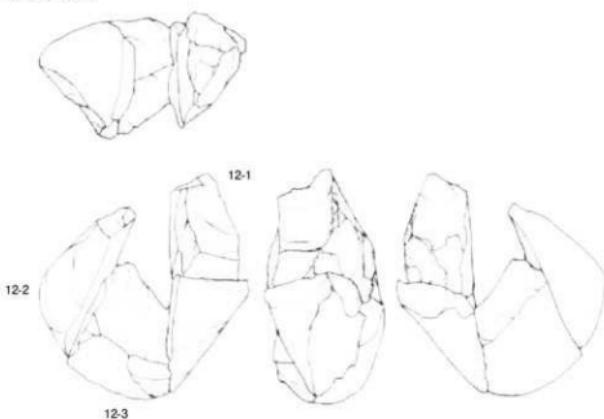


11 第3石器群-1 剣片
第3石器群-2 剑片

0 (4/5) 5 cm

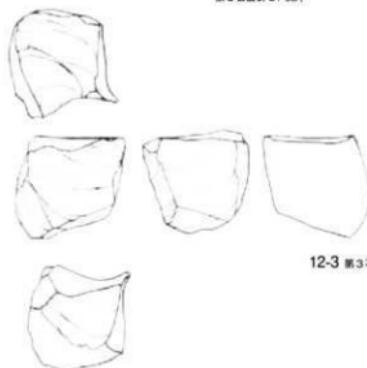
第135図 第25ブロック出土遺物(2)

12 黑色安山岩 接合資料



12-1 第3石器群-13 削片
第3石器群-21 削片

12-2 第3石器群-26 削片



12-3 第3石器群-28 石核

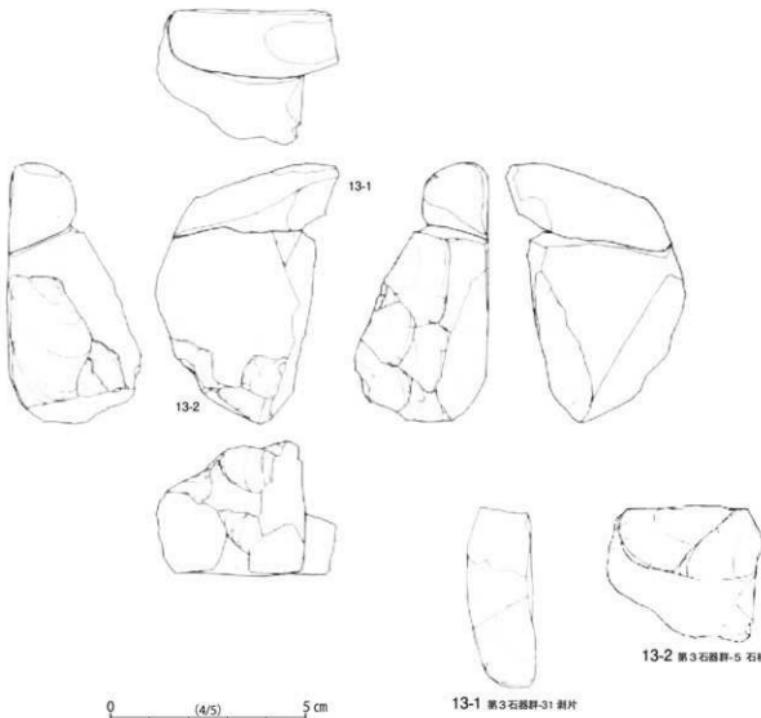


第136図 第25ブロック出土遺物(3)

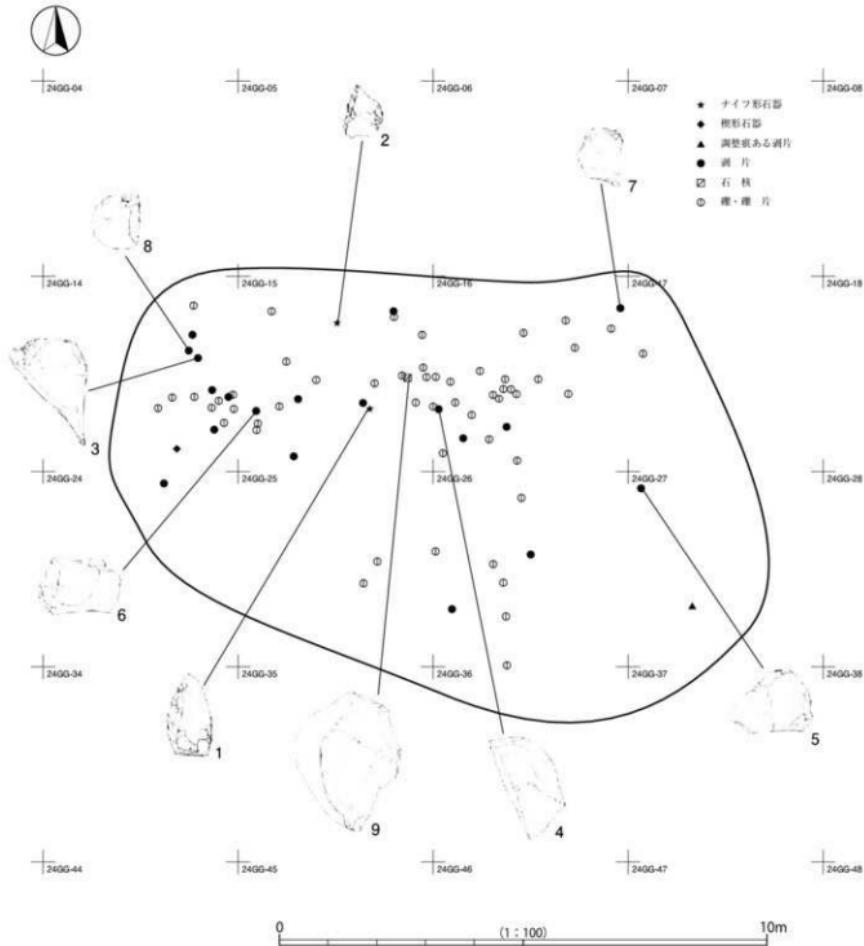
第31表 第25ブロック石器組成表

	刮削刀 形石器	剥片	石核	雜片	合計	組成比
黒色安山岩		7	1		8	26.67%
		54.34g	25.13g		79.47g	16.40%
安山岩(トロトロ石)		2	1		3	10.00%
		18.99g	32.21g		101.20g	20.89%
玉髓(メノウ)		1			1	3.33%
		5.27g			5.27g	1.10%
頁岩		14			14	46.67%
		153.49g			153.49g	31.68%
チャート		1			1	3.33%
		8.96g			8.96g	1.85%
ホルンフェルス		2	1		3	10.00%
		30.29g	105.75g		136.04g	28.08%
合計		26	3		30	100.00%
		52.7g	266.07g	213.09g	484.43g	100.00%
組成比		3.33%	86.67%	10.00%		100.00%
		1.10%	54.92%	33.98%		100.00%
砂岩				1	1	100.00%
				0.98g	0.98g	100.00%
合計				1	1	100.00%
組成比				0.98g	0.98g	100.00%
				100.00%	100.00%	
				100.00%	100.00%	

13 安山岩(トロトロ石) 接合資料



第137図 第25ブロック出土遺物(4)

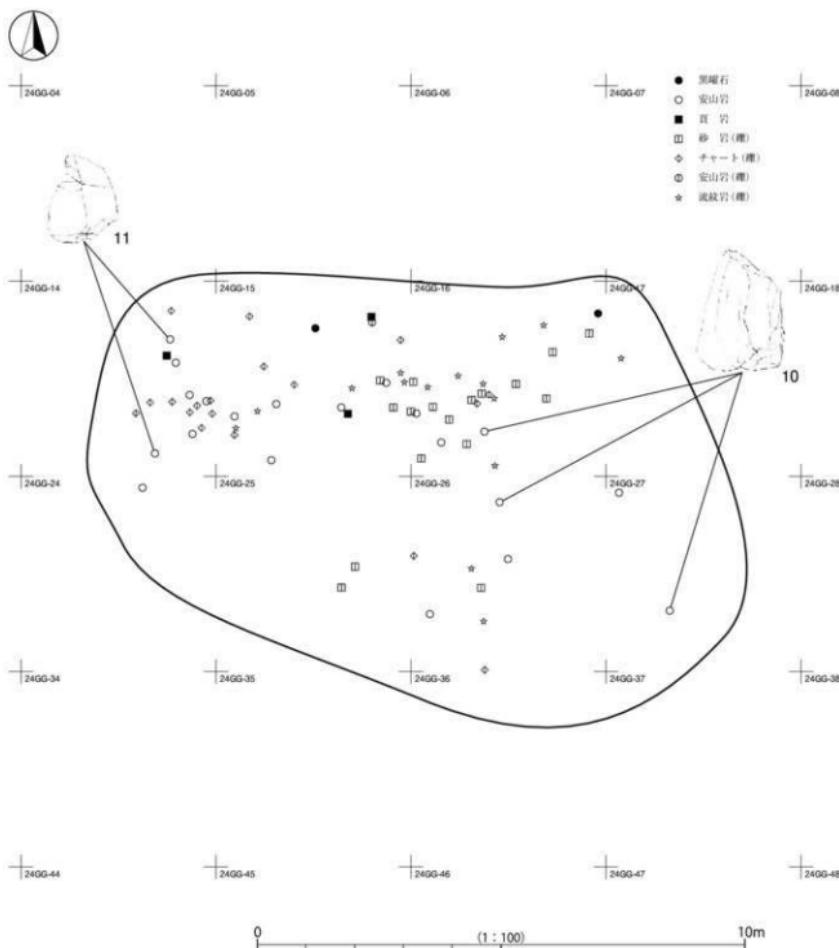


第138図 第26ブロック器種別分布図

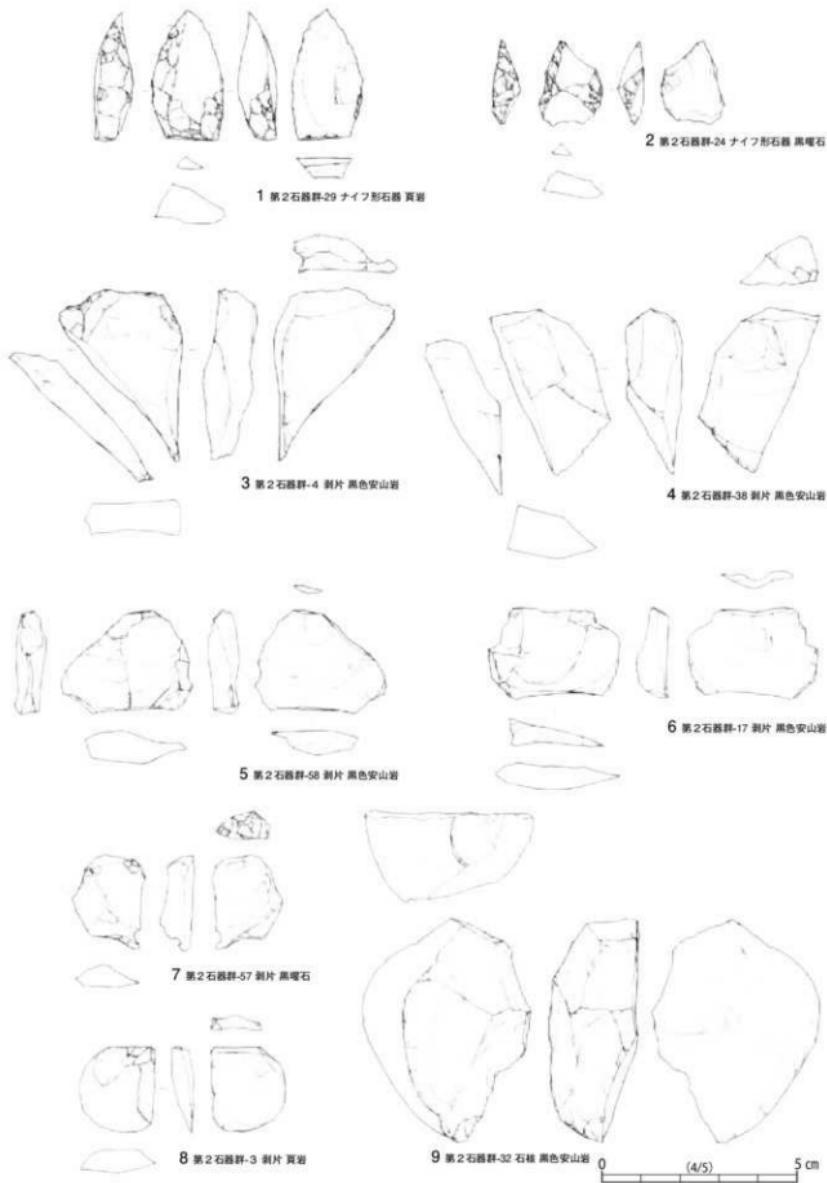
定的で、3・4は右側縁の一部、5は左側縁の一部である。6・7は黒曜石製で、素材剥片を折断し腹面側から調整を施したものである。

8～15は剥片である。8～13は黒曜石製で、大きさは多様であり企画感のない不定形剥片である。14・15はチャート製で両者とも不定形剥片である。

16～18は石核である。16は黒曜石製の部厚な大型剥片から剥片剥離を行った剥片利用石核である。裏面には無調整の素材剥片の主要剥離面が残り、剥片剥離は主要剥離面を打面とし、周縁部に対して行われ

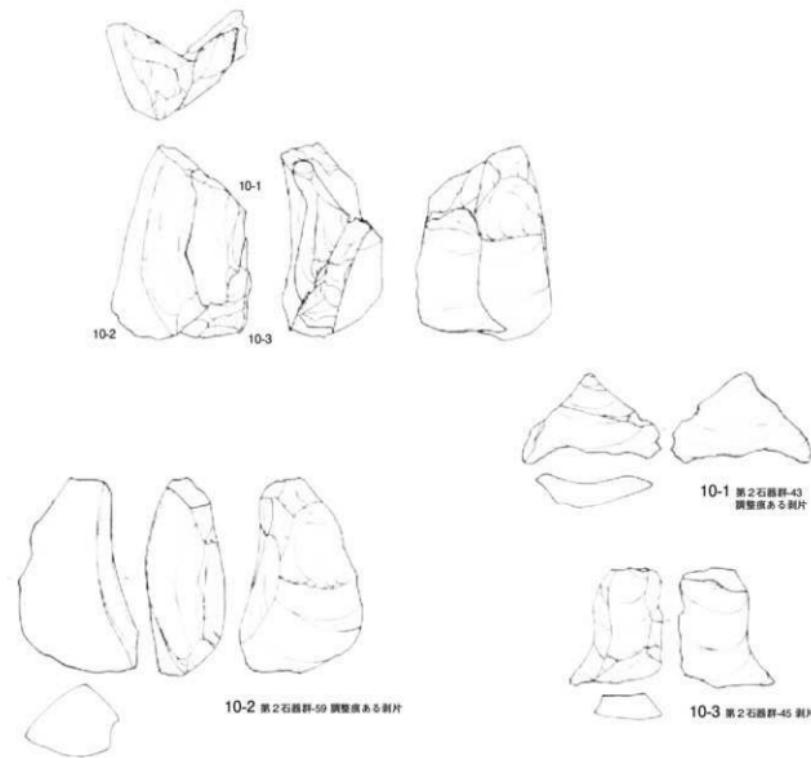


第139図 第26ブロック石材別分布図



第140図 第26ブロック出土遺物(1)

10 黒色安山岩 接合資料



11 黒色安山岩 接合資料



第141図 第26ブロック出土遺物(2)

第32表 第26ブロック石器組成表

	ナイフ 懸石器	楔形石器	調節板 ある剥片	剥片	石核	離	離片	合計	組成比
黒曜石	1			1				2	8.00%
	1K3g			308g				491g	27.5%
真岩	1			2				3	12.00%
	5.31g			3.14g				8.45g	47.3%
黒色安山岩	1	2	16	1				20	80.00%
	6.01g	31.99g	69.28g	57.88g				165.16g	92.52%
合計	2	1	2	19	1			25	100.00%
	7.14g	6.01g	31.99g	75.50g	57.88g			178.52g	100.00%
組成比	8.00%	4.00%	8.00%	76.00%	4.00%			100.00%	
	39.9%	3.38%	17.92%	42.29%	3.24%			100.00%	
チャート						17	17	31.48%	
						277.04g	277.04g	20.53%	
安山岩					1		1	1.85%	
					115.21g		115.21g	8.54%	
砂岩						17	17	31.48%	
						461.45g	461.45g	34.19%	
石英斑岩					1		1	1.85%	
					94.53g		94.53g	7.00%	
流紋岩					1	17	18	33.34%	
					178.54g	222.86g	401.40g	297.4%	
合計					2	51	54	100.00%	
					388.26g	961.35g	1349.63g	100.00%	
組成比					5.56%	94.44%	100.00%		
					28.77%	71.23%	100.00%		

ている。17は黒曜石製で立方体に近い形状である。各面には多方向からの剥離が見られ、頻繁に打面を転移し剥片剥離を行っているものと考えられる。18はチャート製で、剥片剥離は右側面の原礫面を除く全ての面に認められ。剥離の方向も一定しないことから、頻繁に打面を転移している事が窺える。

19は黒曜石製の剥片4点からなる接合資料である。19-1～19-3は同一打面から連続的に作出された剥片である。19-3の作出後、打面を180°転移し19-4の大型剥片を作出している。

20は黒曜石製の接合資料である。20-1・20-2は20-3の一枚剥離の打面から作出された小型不定形剥片である。20-3には同様の剥片剥離の痕跡が明瞭に認められる。

21は黒曜石製の接合資料である。21-3の石核は大型剥片を石核に転用したものと考えられる。21-1・21-2は微細な剥片であり、剥片剥離の際に同時に割れしたものと考えられる。

22は黒曜石製の接合資料である。剥片5点と石核1点の接合であり、22-1と22-2は打面を共有する。22-2作出後、22-2のネガティブ面を打面とし22-3の一連の剥片剥離が行われる。

23は黒曜石製剥片2点の接合資料である。23-1・23-2は打面を共有し、打面を広く設定し連続的に作出される。高さのない扁平な石核に対して剥片剥離を行っていると考えられる。

24は黒曜石製の接合資料である。同一打面から連続的に作出された小型不定形剥片2点の接合例である。

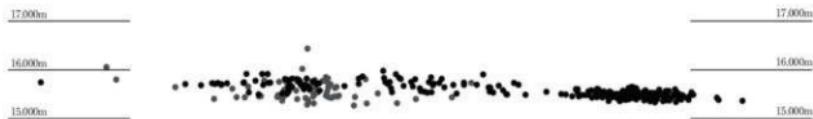
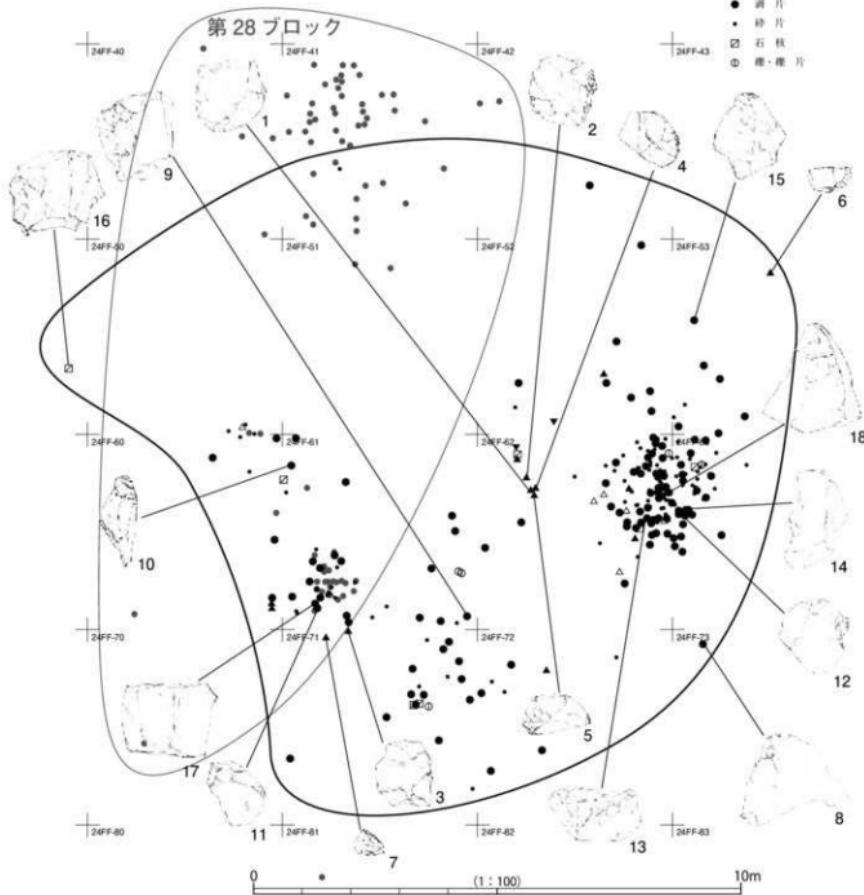
25は黒曜石製の接合資料である。剥片4点と石核1点の接合例である。25-1を実測図正面に位置する原礫面打面から作出した後、25-2はこの打面を調整する目的で側縁方向から作出している。25-3は25-2作出後の打面からではなく、下方からの剥片剥離で得られた剥片である。25-4は更に打面を転移し、25-2のネガティブ面を打面とし作出されている。

26は黒曜石製の接合資料である。色調が赤茶色の黒曜石であるが、不純物を多く含む。扁平礫を素材とし、剥片剥離は素材礫の周縁から求心的に行われており、26-1の剥片もこの一連の剥片剥離で作出されたものである。

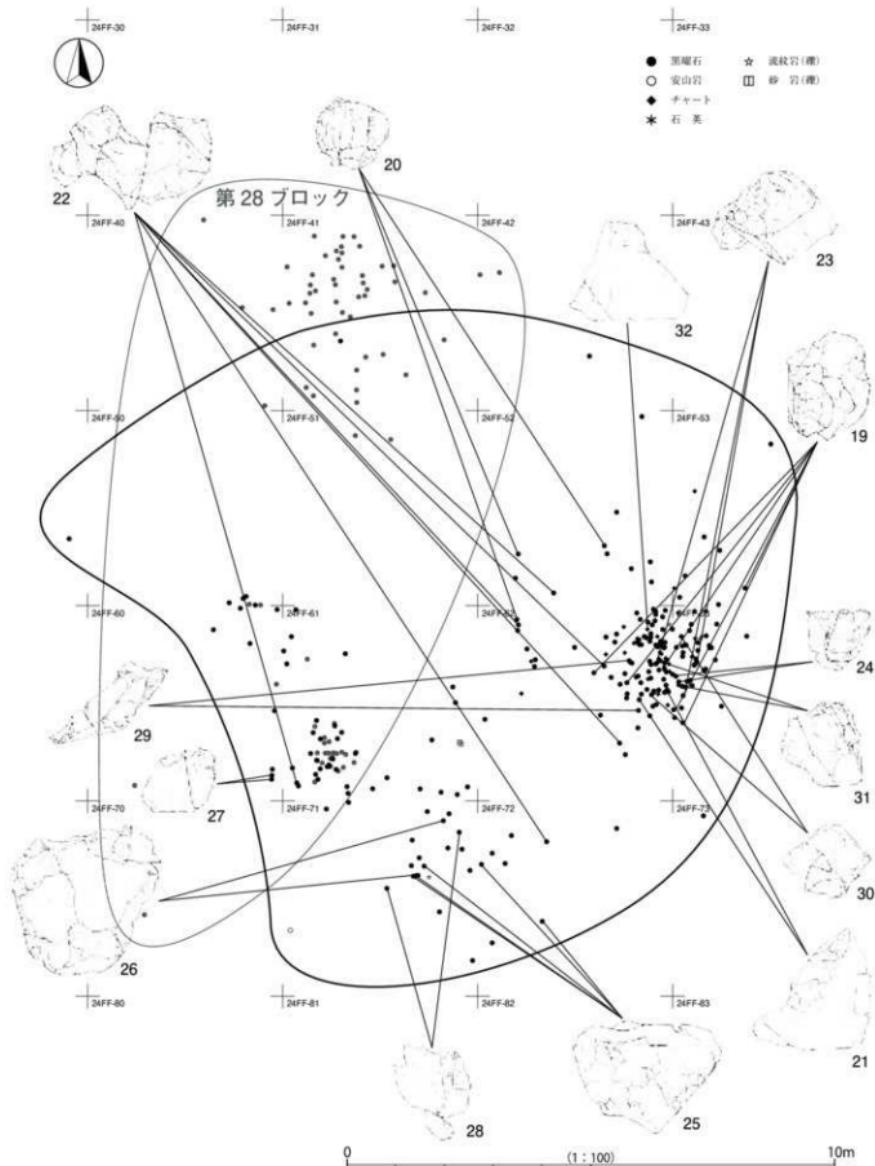
27は黒曜石製の接合資料である。不定形剥片であり、剥片剥離の際に打面から二分している。



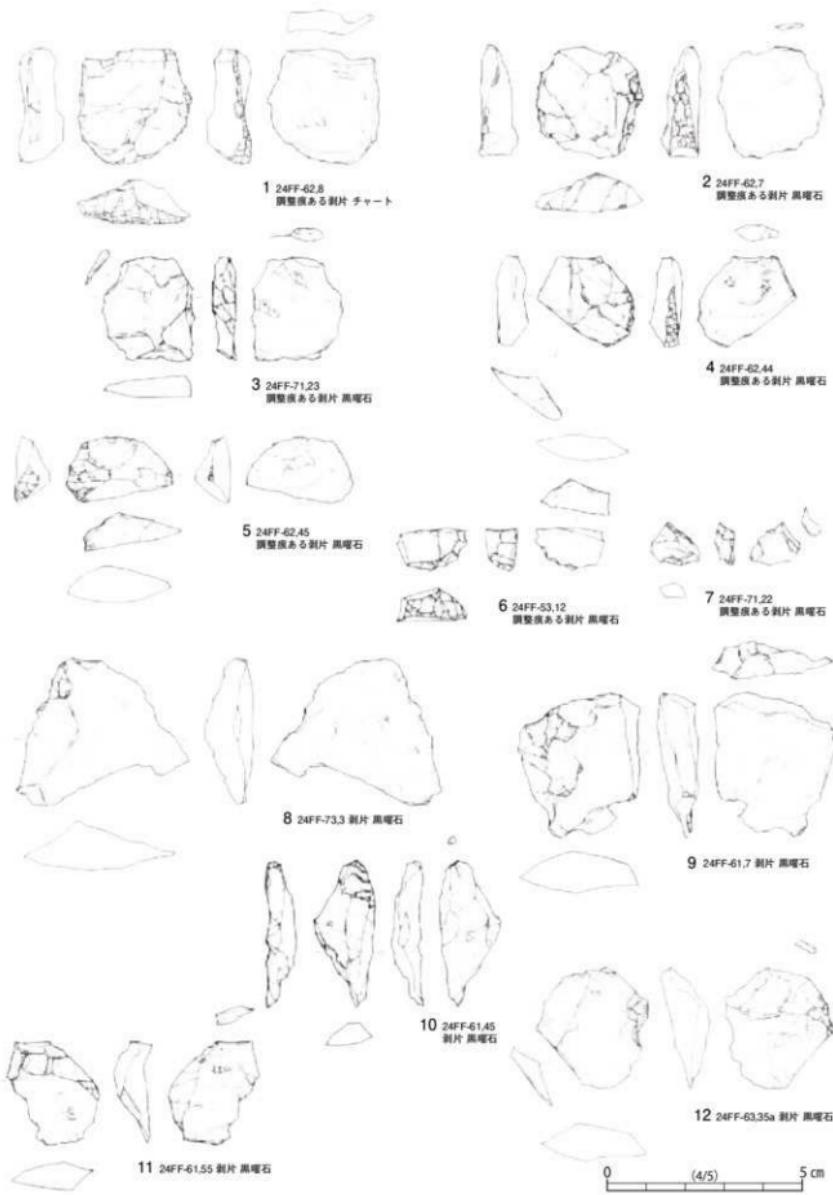
- ▼ 振 磬
- ▲ 調整痕ある調片
- △ 使用痕ある調片
- 調 片
- 砕 片
- 石 核
- ◎ 離・擦 片



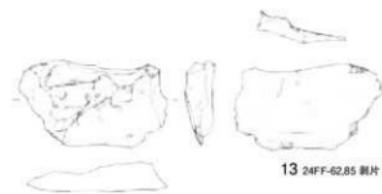
第142図 第27ブロック器種別分布図



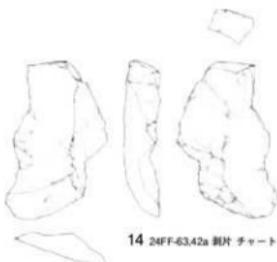
第143図 第27ブロック石材別分布図



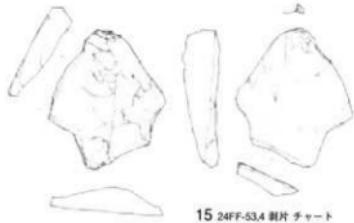
第144図 第27ブロック出土遺物(1)



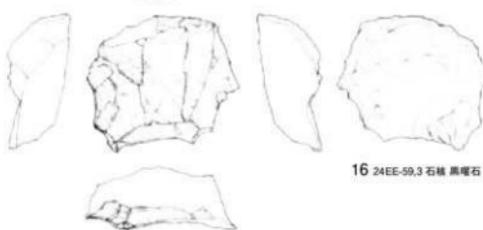
13 24FF-62.85 剥片 黒曜石



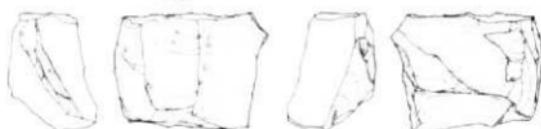
14 24FF-63.42a 剥片 チャート



15 24FF-53.4 剥片 チャート



16 24EE-59.3 石核 黒曜石



17 24FF-61.41 石核 黒曜石



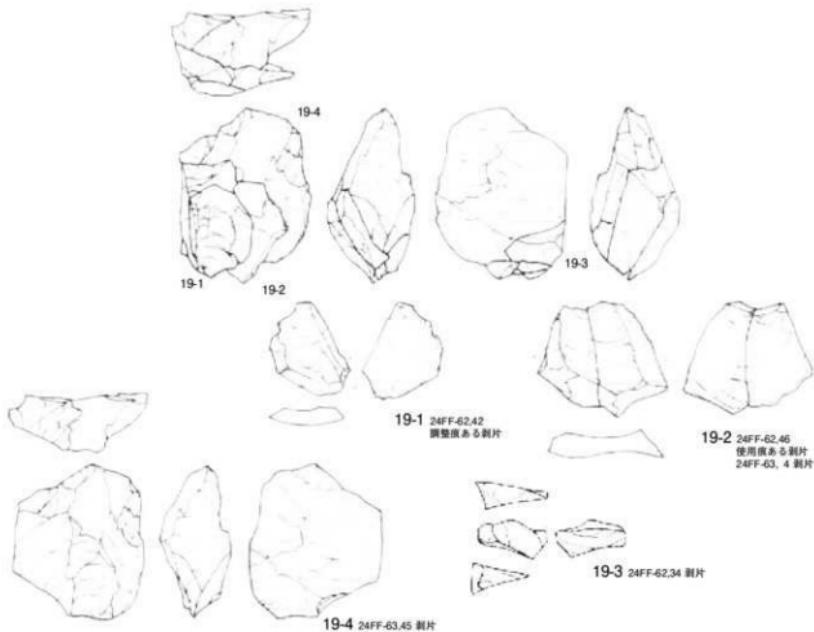
18 24FF-62.33 石核 チャート



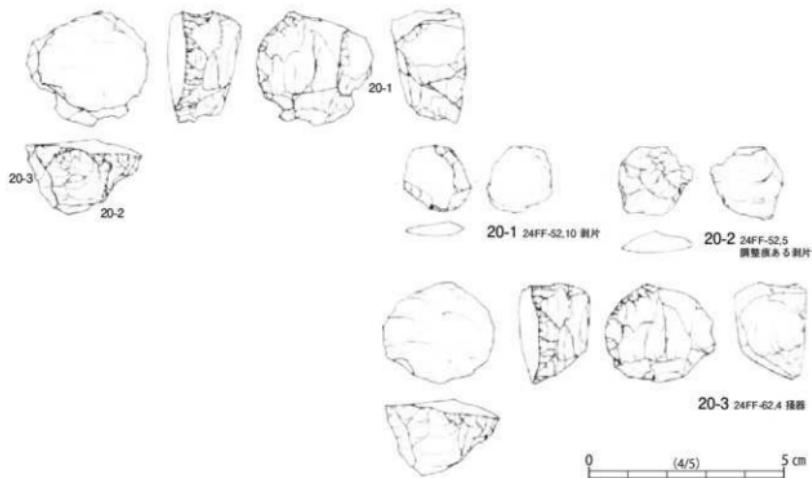
0 (4/5) 5 cm

第145図 第27ブロック出土遺物(2)

19 黒曜石 接合資料

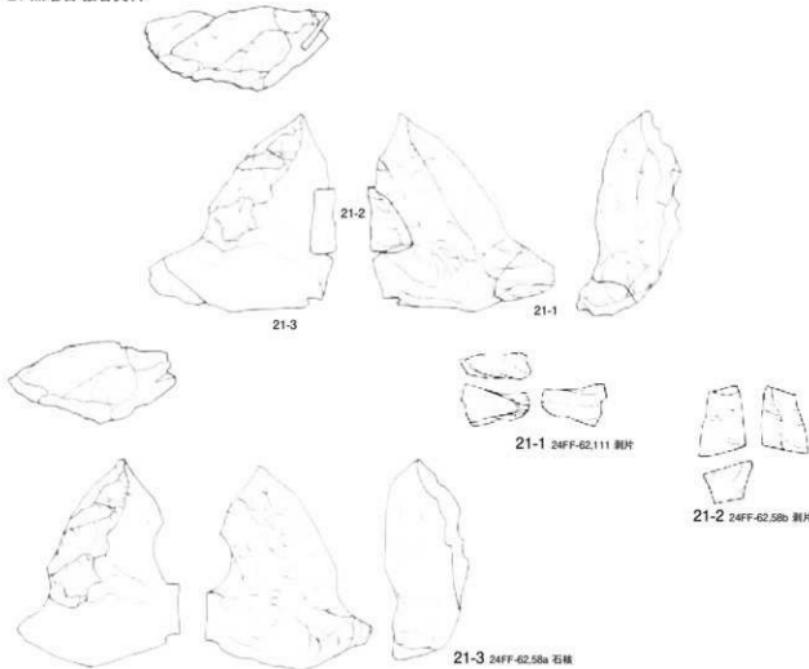


20 黒曜石 接合資料

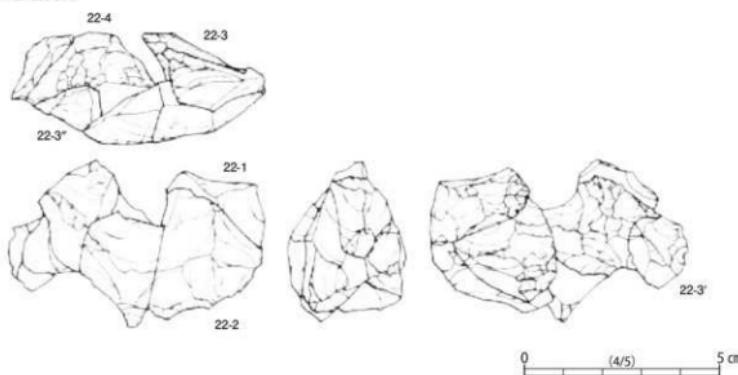


第146図 第27ブロック出土遺物(3)

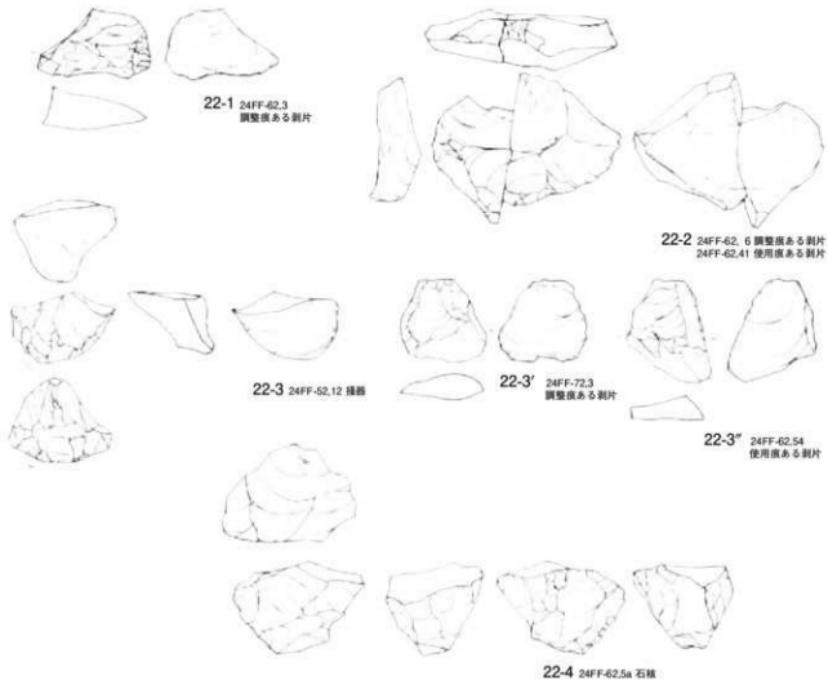
21 黒曜石 接合資料



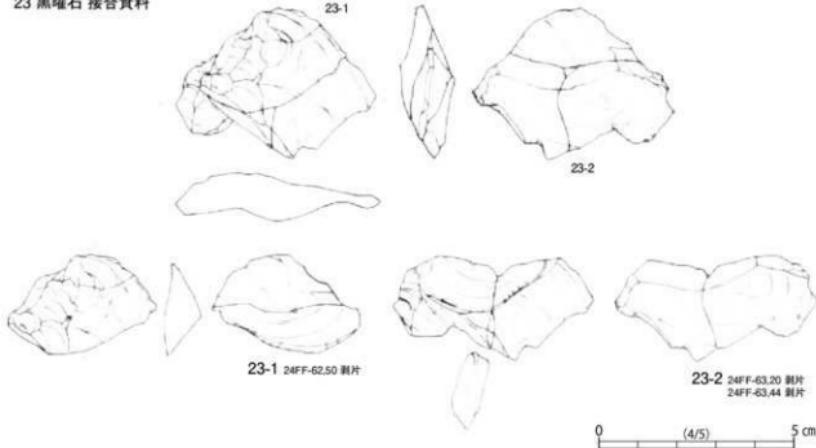
22 黒曜石 接合資料



第147図 第27ブロック出土遺物(4)



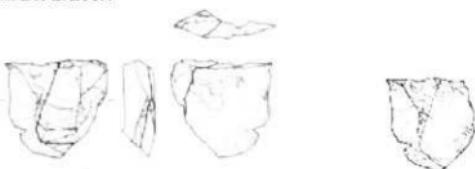
23 黒曜石 接合資料



0 (4/5) 5 cm

第148図 第27ブロック出土遺物(5)

24 黑曜石 接合資料

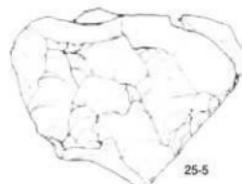


25 黑曜石 接合資料

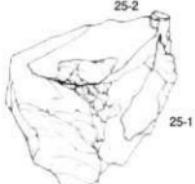


24 24FF-62.79 削片
24FF-63.24 削片

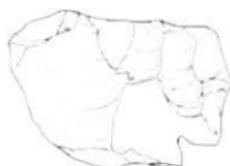
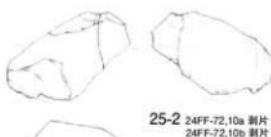
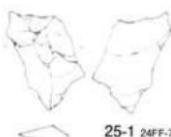
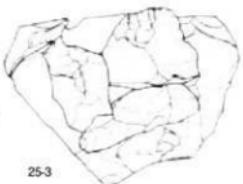
24-1 24FF-63.24 削片



25-2

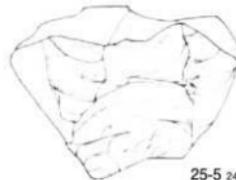
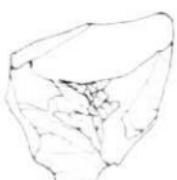


25-4



25-3 24FF-71.12 削片

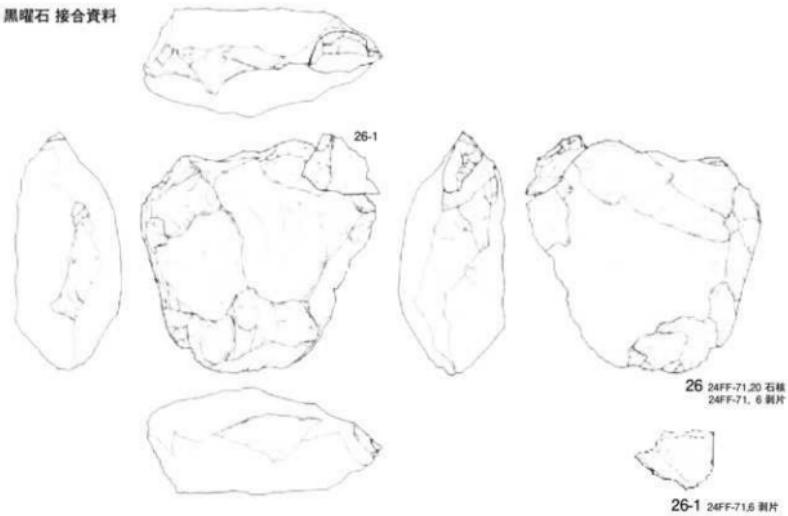
25-4 24FF-71.10 削片



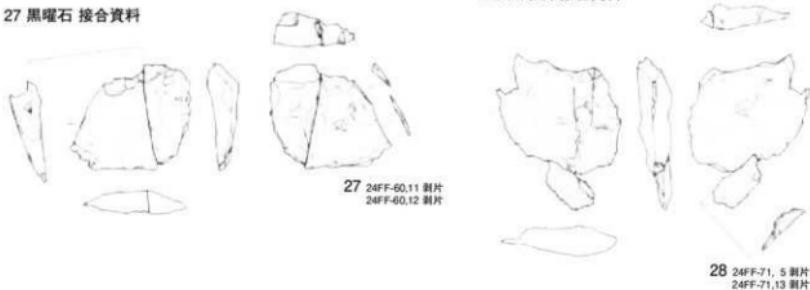
0 (4/5) 5 cm

第149図 第27ブロック出土遺物(6)

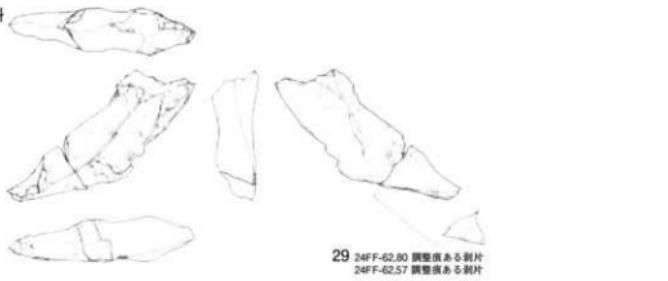
26 黒曜石 接合資料



27 黒曜石 接合資料



29 黒曜石 接合資料



第150図 第27ブロック出土遺物(7)

28は黒曜石製の接合資料である。欠損した不定形剥片の末端部が接合したものである。人為的な折断ではなく、前段階の剥片剥離で亀裂が生じ、この剥片が作出された際に分割したものである。

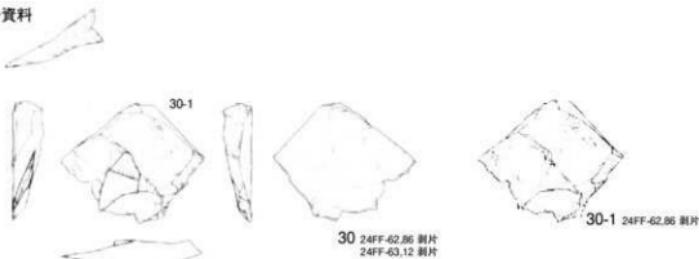
29は黒曜石製の接合資料である。部厚な剥片で長軸が大きく傾いている。欠損した末端部が接合したものである。

30は黒曜石製の接合資料である。連続して作出された不定形剥片2点の接合例であるが、先に作出された剥片は末端部のみ遺存する。正面左上に位置する打面から連続的に作出している。

31はチャート製の接合資料である。部厚な剥片を石核に転用し、素材剥片の腹面側に対し剥片剥離を行っている。

32はチャート製の接合資料である。打面直下に最大厚をもち、末端部に最大幅を有する個体である。

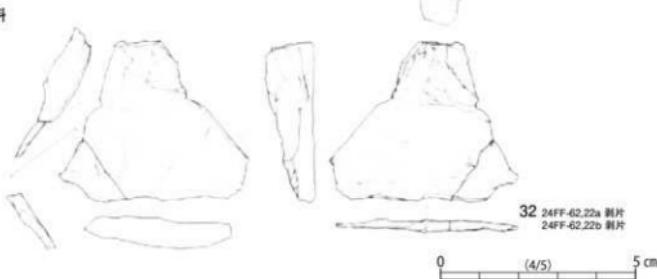
30 黒曜石 接合資料



31 チャート 接合資料



32 チャート 接合資料



第151図 第27ブロック出土遺物(8)

第33表 第27ブロック石器組成表

	種類	調整痕 ある剥片	使用痕 ある剥片	剥片	碎片	石核	離片	合計	組成比
黒曜石	2 17.55g	13 4.71g	3 13.80g	115 270.06g	113 27.57g	6 262.25g		254 595.97g	86.98% 78.99%
石英					1			1	0.35%
黑色安山岩				1 6.33g	0.95 g			0.95g 6.33g	0.13% 0.84%
チャート		1 8.25g		15 69.89g	18 15.95g	2 37.11g		36 151.17g	12.32% 20.04%
合計	2 17.55g	14 12.96g	3 13.80g	313 346.28g	132 44.47g	8 319.36g		754.12g 754.12g	100.00% 100.00%
組成比	0.70% 2.33%	4.79% 1.72%	1.71% 1.83%	44.86% 45.90%	45.20% 5.89%	2.74% 42.33%		100.00% 100.00%	
砂岩						2 43.33g	2 43.33g	40.00% 32.55%	
流紋岩						3 89.78g	3 89.78g	60.00% 67.45%	
合計						5 133.11g	5 133.11g	100.00% 100.00%	
組成比						100.00%	100.00%	100.00%	

片側縁が欠損したものが接合している。

第28ブロック(第152~157図、第34表、図版6・107~111)

東西を地金堀とその支流により開析された台地突出部の中間、標高17m付近に所在する。前述したように第27ブロックと石器の出土範囲が重複する。出土層位はⅢ層である。

石器の分布範囲は南北に長く、長軸14m・短軸8mである。集中区は分布範囲の北端24FF-41ブロックに見られる。また、24FF-61グリッドにも径1m程の小規模な集中区が認められる。

黒曜石製の石器が97.7%を占め、ナイフ形石器3点が石器組成に含まれる。そのほかに黑色安山岩製の剥片、安山岩の原礫の周縁に対し剥片剥離を行った石核が出土するが、単体の出土であり極めて客観的である。

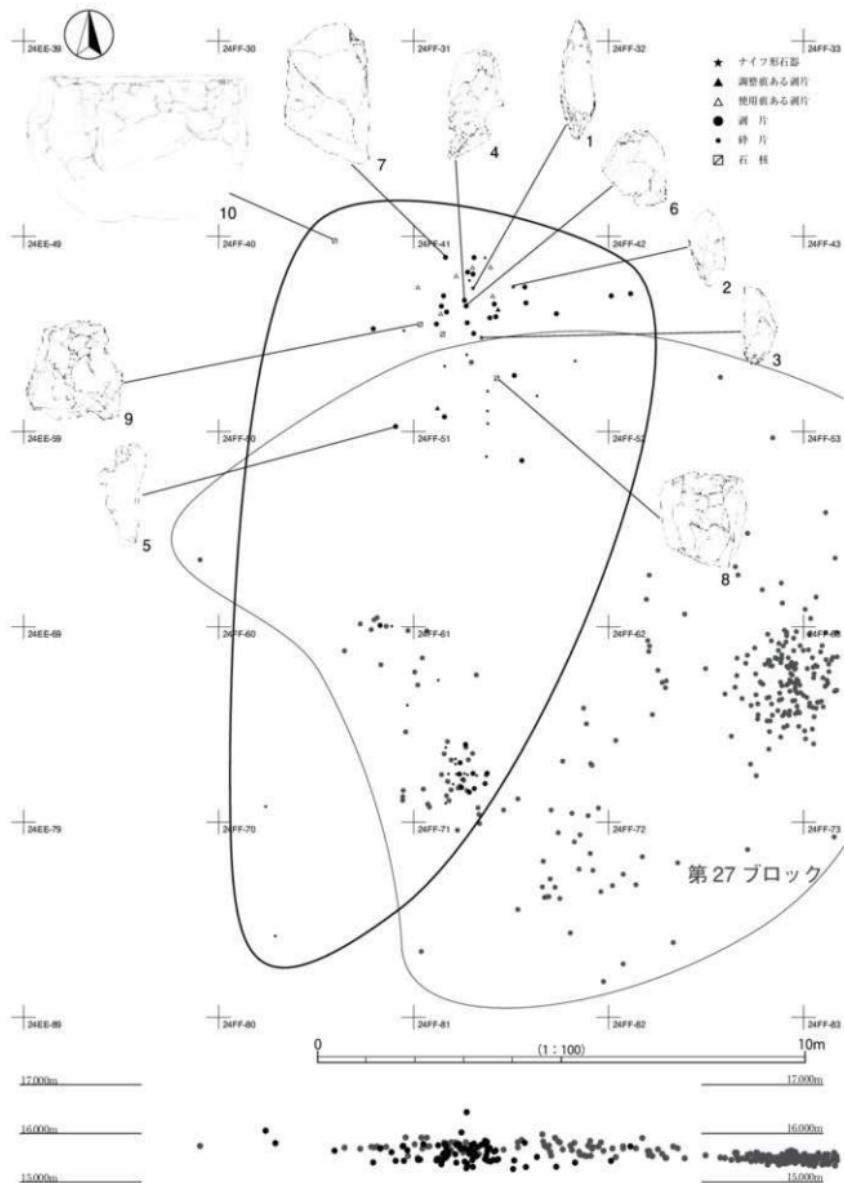
第28ブロックで消費される黒曜石は、透明度の高い信州系の石材であり、この点からも第27ブロックとの差異が指摘される。

出土遺物

1~3はナイフ形石器である。いずれも黒曜石製の縦長剥片素材である。1は素材剥片の打面側を先端部とし、左側縁の全縁及び右側縁の先端部と基部に腹面側からの調整を施す。基部の腹面側には平面的な微細な調整痕が認められる。2は素材剥片の末端部側を先端部とし、二側縁に対し腹面側からの調整を施す。1と同様に基部の腹面側に平面的な調整痕が認められる。3は素材剥片の末端部側を先端部として製品化される。調整は基部付近に集中するが、右側面に見られる原礫面を活用し、先端部直下の部分的な調整にとどめている。

4~7は剥片である。いずれも黒曜石製で、縦長剥片である。7は大型の部厚な剥片で、原礫面が背面の打面部直下及び末端部付近に見られる。背面には原礫面の他側縁方向からの剥離が見られる。4~6の背面には原礫面もしくは複雑な剥離面が認められる。剥片剥離によるものではなく、節理もしくは岩石の生成過程における痕跡と考えられる。

8~10は石核である。8は黒曜石製の立方体に近い形状である。上下両端に打面を有し、正面図に見られるように上下両端から剥片剥離を行っている。また、上下両端のみならず右側面の剥離面を打面とし、



第152図 第28ブロック 器種別分布図



+ 24EE-39

+ 24FF-30

+ 24FF-31

+ 24FF-32

+ 24FF-33

- 黒曜石
- 安山岩

14

15

24FF-40

+ 24FF-41

+ 24FF-42

24FF-43

11

+ 24EE-59

13

+ 24FF-51

+ 24FF-52

+ 24FF-53

+ 24EE-69

+ 24FF-60

+ 24FF-61

+ 24FF-62

+ 24FF-63



12

+ 24EE-79

+ 24FF-70

+ 24FF-71

+ 24FF-72

+ 24FF-73

第27ブロック

+ 24EE-89

+ 24FF-80

+ 24FF-81

+ 24FF-82

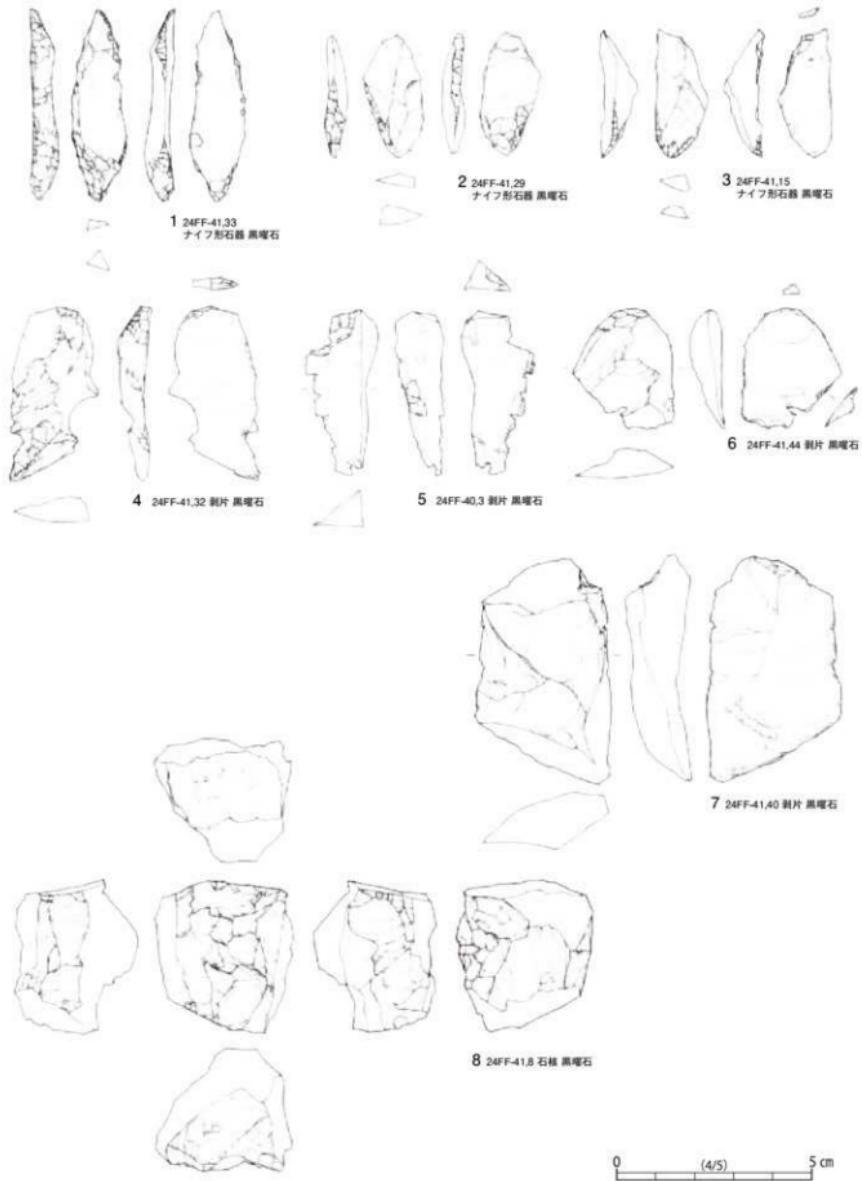
+ 24FF-83

0

(1 : 100)

10m

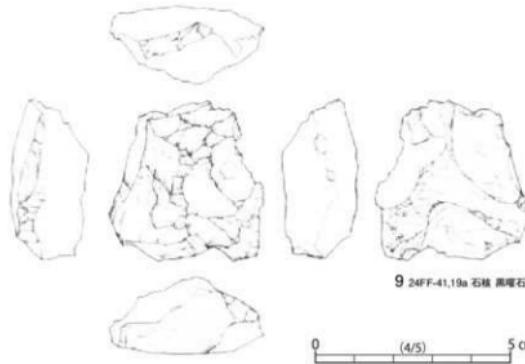
第153図 第28ブロック石材別分布図



第154図 第28ブロック出土遺物(1)

剥片剥離を行った痕跡が裏面図の横位の剥離から理解できる。9は黒曜石製で球形の不純物、気泡が多く混入する。正面図には右側縁方向からの剥離、裏面には上下両端からの剥離が認められる。10は安山岩製の一面が平滑な砾に対して剥片剥離を行っている。平坦な砾面を打面とし、ほぼ全周に剥片剥離の痕跡が認められる。

11は黒曜石製の接合資料である。大型で部厚な縦長剥片を石核に転用し、剥片剥離を行っている。末端部付近を折断後(11-1)折断面付近から横方向に11-2~11-4を作出している。11-5は素材である大型剥片作出時に打面直下から分離したと考えられる。また、11-4が作出された後、11-1の折断面から剥片を作出



9 24FF-41.19a 石核 黒曜石

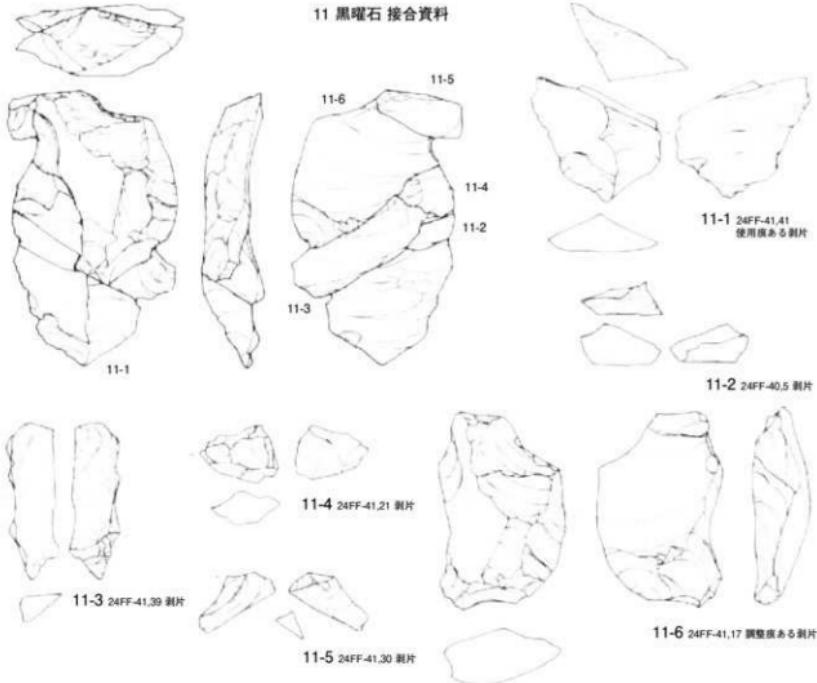
0 (4/5) 5 cm



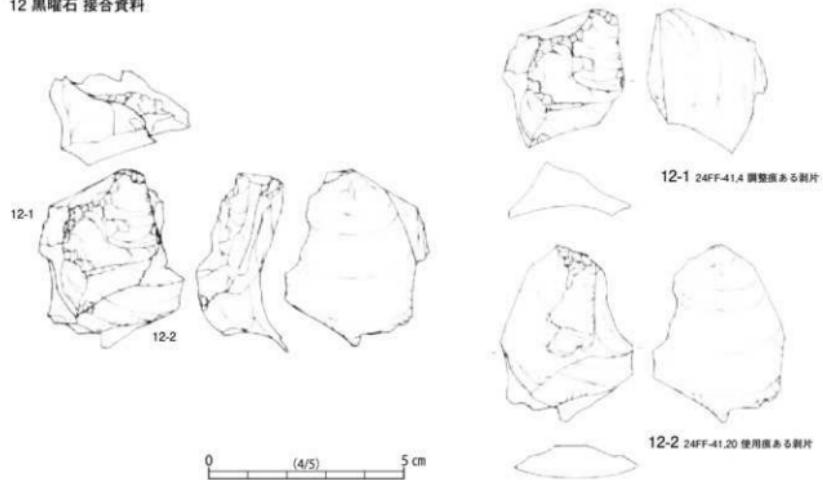
10 24FF-40.6 石核 安山岩

第155図 第28ブロック出土遺物(2)

11 黒曜石 接合資料



12 黒曜石 接合資料

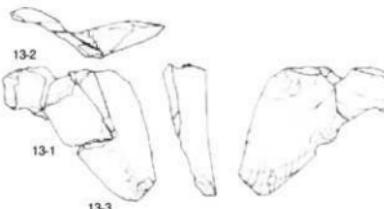


第156図 第28ブロック出土遺物(3)

第34表 第28ブロック石器組成表

	ナイフ 形石器	調査紙 ある剥片	使用痕 ある剥片	剥片	碎片	石核	合計	組成比
黒曜石	3	3	7	36	36	2	87	97.76%
	9.08g	31.46g	48.05g	92.14g	19.07g	69.09g	271.89g	28.89%
黒色安山岩				1			1	1.12%
				3.03g			3.03g	0.33%
安山岩						1	1	1.12%
						666.10g	666.10g	70.78%
合計	3	3	7	37	36	3	89	100.00%
組成比	3.37%	3.37%	7.87%	41.57%	40.45%	3.37%	100.00%	
	0.96%	3.66%	5.11%	10.11%	2.03%	78.13%	100.00%	

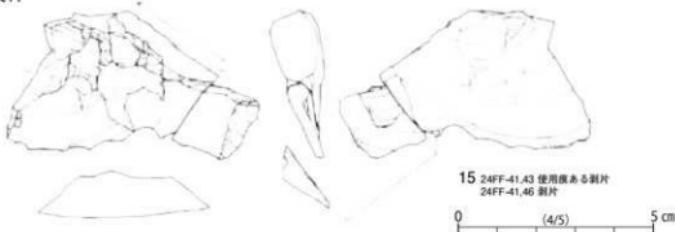
13 黒曜石 接合資料



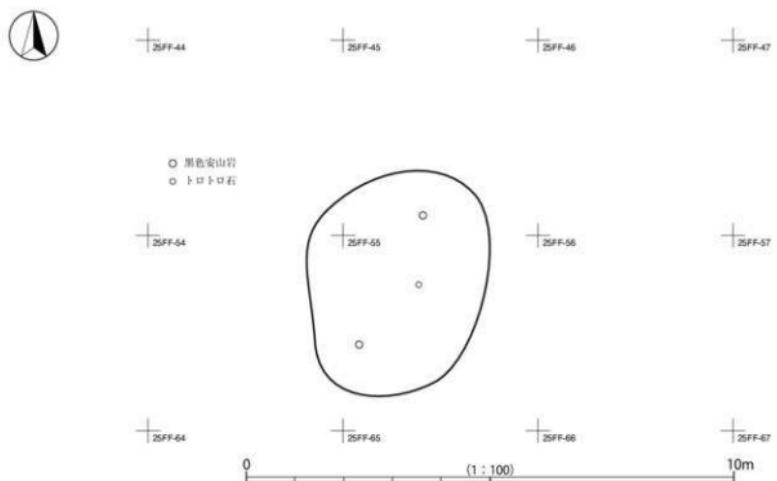
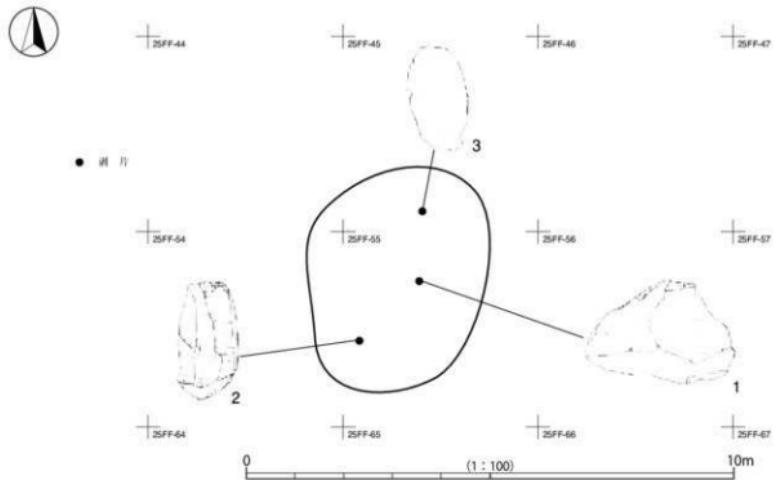
14 黒曜石 接合資料



15 黒曜石 接合資料



第157図 第28ブロック出土遺物(4)



第158図 第29ブロック 器種別・石材別分布図

第35表 第29ブロック石器組成表

	剥片	合計	組成比
安山岩(トロトロ石)	1	1	33.3%
	20.53g	20.53g	74.1%
黒色安山岩	2	2	66.6%
	15.48g	7.17g	25.8%
合計	3	3	100.0%
	27.70g	27.70g	100.0%
組成比	100.0%	100.0%	
	100.0%	100.0%	

していることが、11-6の裏面下方に残る剥離から理解できる。

12は黒曜石製の剥片2点の接合資料である。12-1の剥離方向は、12-2を基準として側縁方向であり、12-2の打面の位置から90°ほど振れている。打面転移を行いながらの剥片剥離工程が窺える。

13は黒曜石製の剥片3点の接合資料である。同一打面から連続して作出された剥片である。

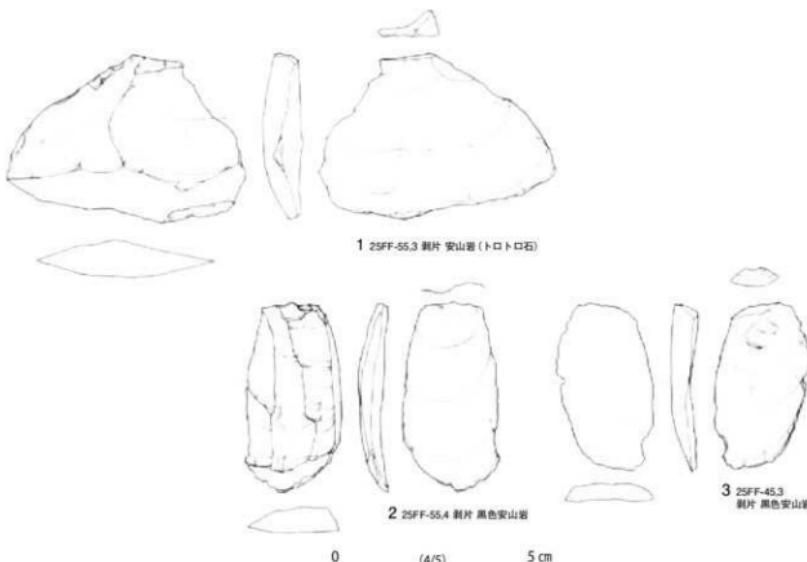
14は黒曜石製の縦長剥片の主要部分と末端部の一部が接合している。剥片剥離の際に分離したものと考えられる。

15は黒曜石製の横長剥片の片端が接合したものである。人為的な折断ではなく剥片剥離の際に分離したものと考えられる。

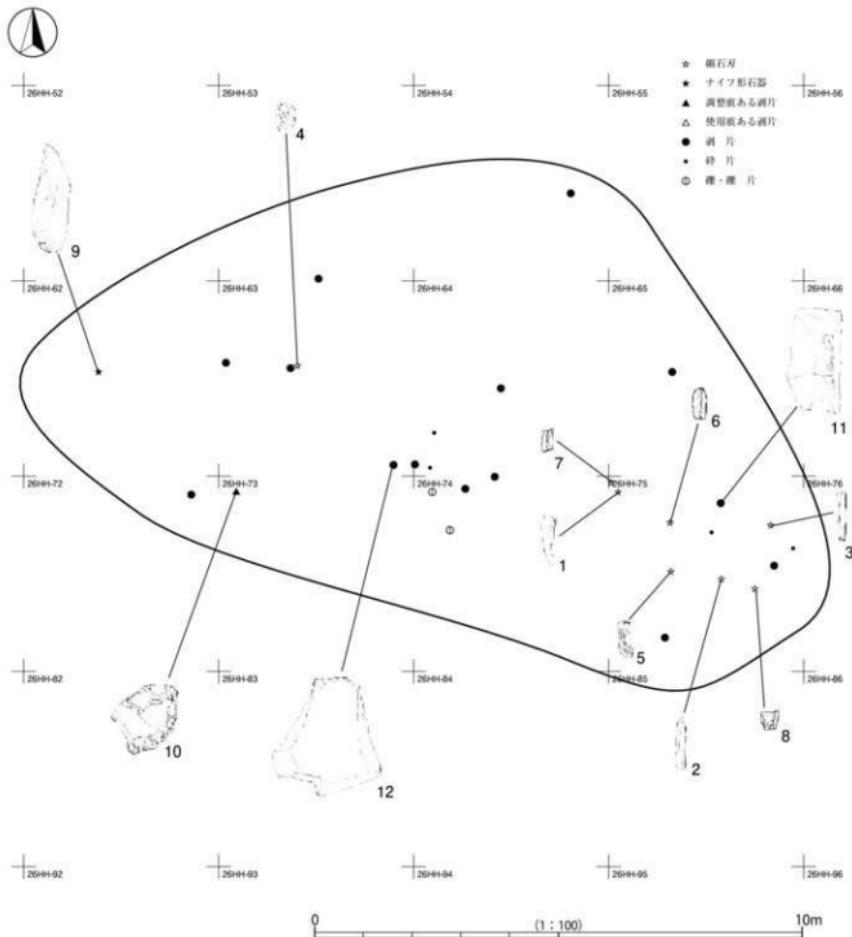
第29ブロック(第158・159図、第35表、図版6・111)

東西を地金堀とその支流により開析された台地突出部の中間、標高17m付近に所在する。第27ブロック・第28ブロックと立地条件はほぼ同じであるが、より台地の先端部に近い地点となる。石器の出土層位はⅢ層である。

出土した石器は黒色安山岩製の剥片2点・安山岩(トロトロ石)製の剥片1点の計3点であり、3mの距離を置き直線的に分布する。



第159図 第29ブロック出土遺物

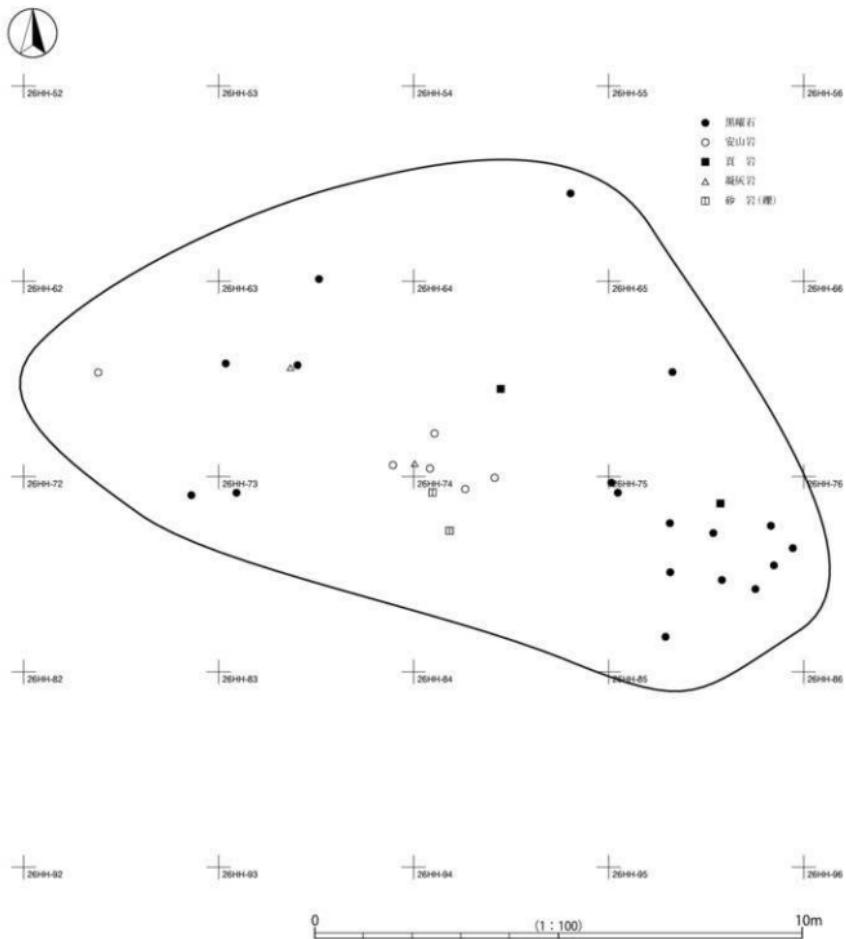


第160図 第30ブロック器種別分布図

出土遺物

1は安山岩(トロトロ石)製の横長剥片である。末端部付近に最大幅をもち、矮小な打面から急激に幅を増す形状である。背面の末端部付近に原礫面が大きく見られる。2・3は黒色安山岩製の縦長剥片である。両者とも薄い作りであり、腹面は大きく内湾する。2の背面は同方向からの剥離と末端部付近の原礫面で構成される。3の背面は全面原礫面で構成される。

第30 ブロック(第160~162図、第36表、図版6・111・112)

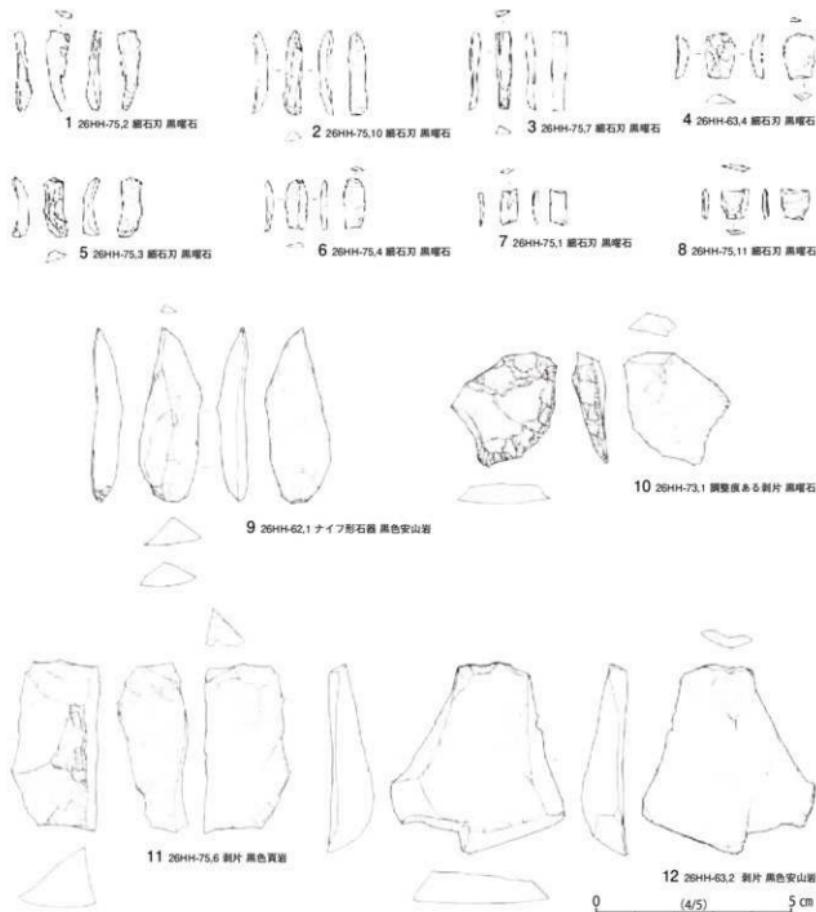


第161図 第30ブロック石材別分布図

東西を地金堀とその支流により開析された台地突出部の中間、標高145m付近に所在する。前述した第27ブロック～第29ブロックから更に台地先端部に近く、一段下がった段丘に該当する地点である。出土層位はⅢ層である。

石器の分布範囲は東西方向に長く、長軸14m・短軸9mである。分布範囲の南東に当たる26HH-74グリッド及び26HH-75グリッドに2か所の集中区が認められる。

出土した石器は合計29点を数え、石器組成は細石刃・ナイフ形石器・調整痕の認められる剥片・剥片・碎片で構成される。細石刃はいずれも黒曜石製であり、1点出土する調整痕の認められる剥片も同石材で



第162図 第30ブロック出土遺物

第36表 第30ブロック石器組成表

	細石刃	ナイフ 形石器	調整痕 ある剥片	剥片	碎片	縫片	合計	組成比
黒曜石	8 1.38g	1 4.57g	1 5.22g	7 1.44g	3 12.61g	19 16.66%	19 12.61g	65.51%
黒色安山岩		1 4.48g		3 38.75g	2 0.48g		6 43.71g	20.69%
凝灰岩				2 2.88g			2 2.88g	6.90%
黒色頁岩				2 16.50g			2 16.50g	6.90%
合計	8 1.38g	1 4.48g	1 4.57g	63.35g 63.35g	192g 0.48g		29 75.70g	100.00%
組成比	27.59% 1.82%	3.45% 5.92%	3.45% 6.04%	48.27% 83.68%	17.21% 2.54%		100.00% 100.00%	100.00%
砂岩					2 78.61g	2 78.61g	2 78.61g	100.00% 100.00%
合計						2 78.61g	2 78.61g	100.00% 100.00%
組成比						100.00%	100.00%	100.00%

ある。黒曜石製の石器は計 19 点出土しており、点数比で 65.5% を占める。ナイフ形石器の石材は黒色安山岩であり、剥片・碎片を合わせ 6 点の 20.7% にとどまる。そのほかの石材は凝灰岩・黒色頁岩であるが客体的である。

出土遺物

1 ~ 8 は黒曜石製の細石刃である。いずれも横幅が 5 mm 程の小型の細石刃で、1 ~ 3 のように長さ 25 mm 内外の細石刃核から作出されたものである。5 については打面～末端部まで 15 mm 程であり、小型の細石刃核の存在も想定される。

9 は黒色安山岩製のナイフ形石器である。縱長剥片を素材とし、素材剥片の末端部を先端部に設定し調整を施す。調整部位は極めて限定的で、基部に該当する打面直下の両側縁及び末端部の片側縁に微細な調整痕が認められる。

10 は黒曜石製の調整痕の認められる剥片である。斜軸の小型不定形剥片を素材とし、調整部位は片側縁の打面直下～末端部にかけてあり、腹面側からの調整が密に施される。

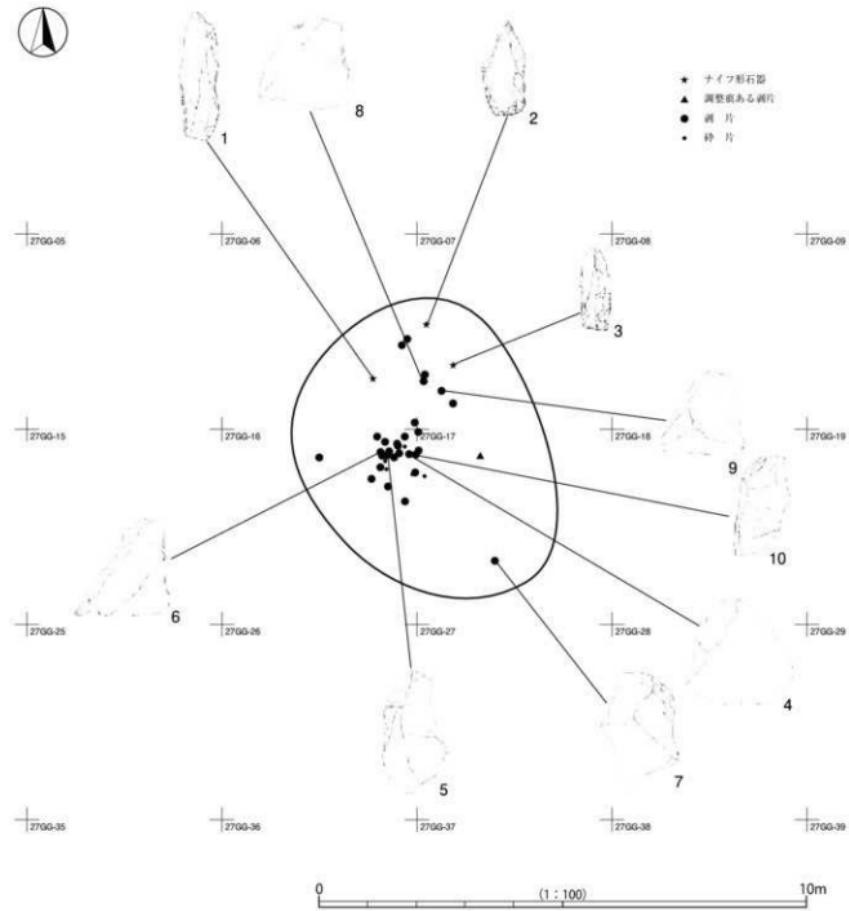
11 は黒色頁岩製、12 は黒色安山岩製の剥片である。11 は断面形状が正三角形に近い部厚な縦長剥片であり、背面には右側面に見られる一枚の剥離を打面とし剥片剥離を行った痕跡が明瞭に残る。12 は末端部付近に最大幅をもつ形状であり、背面の末端部及び片側縁に原縫面が認められる。

第31ブロック(第163~167図、第37表、図版6・112~114)

東西を地金堀とその支流により開拓された台地突出部の中間、標高 15 m 付近に所在する。第30ブロックと同様に、一段下がった段丘に該当する地点であるが、標高は僅かに高い。石器の出土層位はIV 層～V 層にかけてである。

石器の分布範囲は南北方向に長い楕円形状であるが、分布範囲の北側集中区は径 4 m である。

石器組成は定型的な石器としてナイフ形石器が挙げられ、そのほかは剥片・碎片で構成され、合計 41 点を数える。石材は多種であり、黒色安山岩を主体とし、ホルンフェルス・頁岩・安山岩(トロトロ石)・流紋岩が使用される。ナイフ形石器はホルンフェルス以外の石材で製作されるが、頁岩・安山岩(トロトロ石)・流紋岩製のナイフ形石器は単体での出土である。



16.000m

16.000m

15.000m

15.000m

14.000m

14.000m

第163図 第31ブロック 器種別分布図

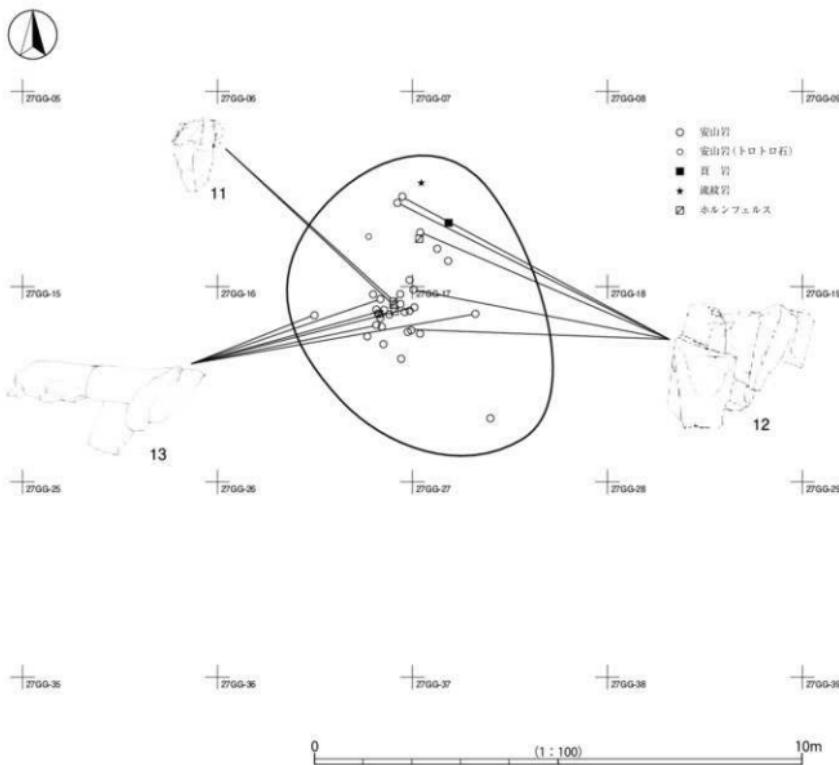
出土遺物

1～3はナイフ形石器である。1は安山岩(トロトロ石)製の縦長剥片を素材とし二側縁に対し、調整を施す。左側縁基部付近の調整は微細で密な調整であるが、右側縁の調整は粗い調整で形状を整えている。2は流紋岩製の縦長剥片を素材とし、調整は二側縁に対し行われている。3は頁岩製の縦長剥片を素材とし、二側縁に対し調整を施す。先端部は丸みを帯びる。

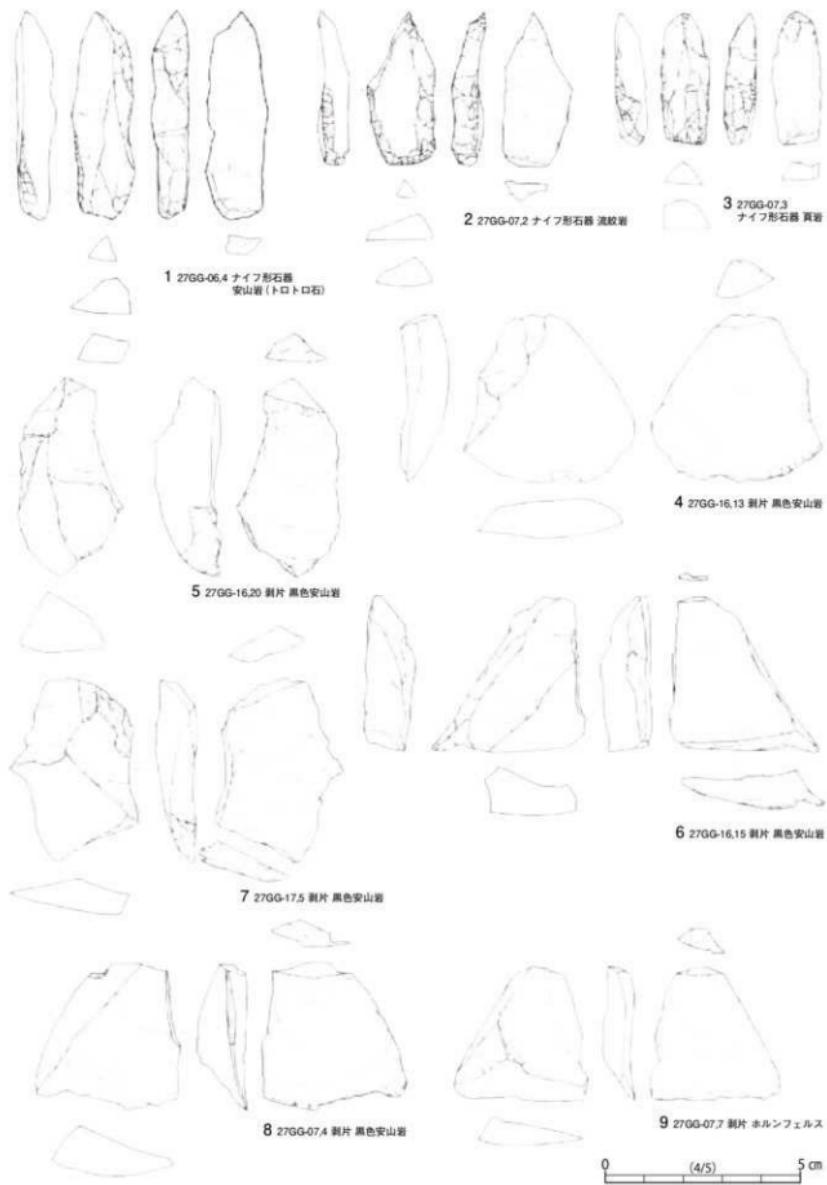
4～10は剥片である。4～8・10は黒色安山岩製の剥片であり、概して大型で部厚な剥片である。全ての個体の背面に原蹠面が見られ、そのほかの剥離の方向は腹面の主要剥離面の方向と同一である。9はホルンフェルス製で末端部に最大幅をもつ形状である。背面構成は黒色安山岩製の剥片と同一であり、異なる石材でも剥片剥離技術の共通性が窺える。

11はホルンフェルス製の接合資料である。小型剥片2点の接合であり、同一打面から連続して作出された剥片の接合例である。

12は黒色安山岩製の接合資料である。剥片5点の接合例であるが、12-1～12-3まで同一打面からの作出

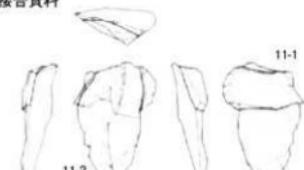


第164図 第31ブロック石材別分布図

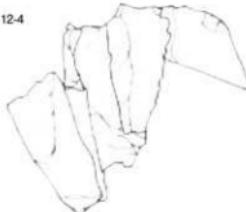
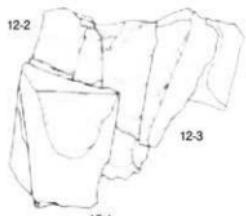
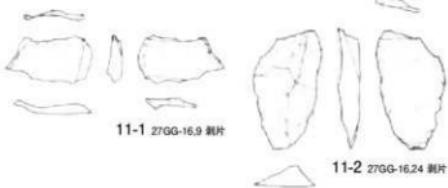


第165図 第31ブロック出土遺物(1)

11 ホルンフェルス 接合資料



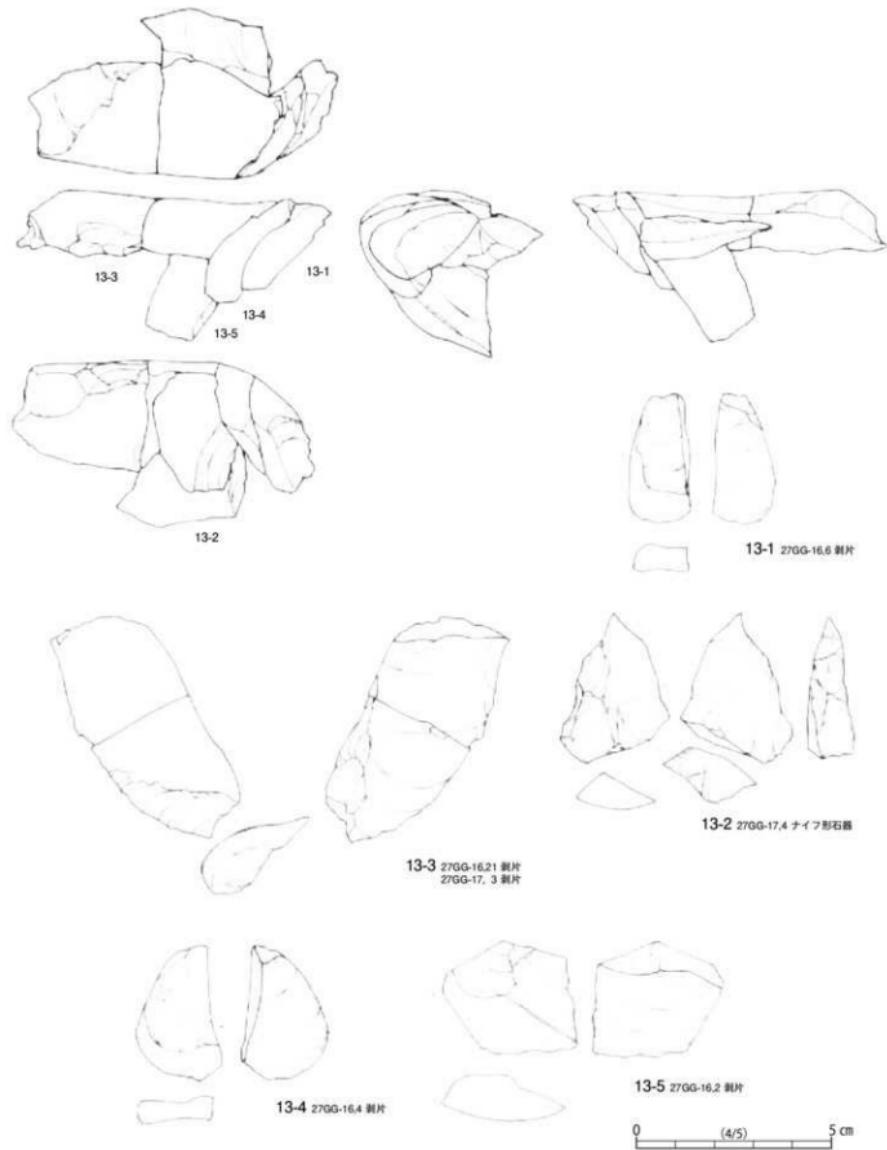
12 黒色安山岩 接合資料



0 (4/5) 5 cm

第166図 第31ブロック出土遺物(2)

13 黑色安山岩 接合資料



第167図 第31ブロック出土遺物(3)

第37表 第31ブロック石器組成表

	ナイフ 形石器	剥片	礫片	合計	組成比
頁岩	1			1	2.4%
	393g			393g	1.1%
安山岩(トロトロ石)	1			1	2.4%
	8.16g			8.16g	2.6%
流紋岩	1			1	2.4%
	4.76g			4.76g	1.5%
黒色安山岩	1	27	5	33	80.4%
	9.01g	272.89g	3.55g	283.45g	86.7%
ホルンフェルス		5		5	12.2%
		26.72g		26.72g	8.1%
合計	4	32	5	41	100.0%
組成比	9.76%	78.04%	12.20%	100.00%	
	7.86%	91.06%	1.08%	100.00%	

であり、その後、12-4を横方向から作出する。12-4の作出は打面再生を目的としていると考えられるが、意図した結果にはならず、前工程での打面の一部が残存している。再度打面を転移し12-5を作出している。

13は黒色安山岩製の接合資料である。13-1の作出後、ネガティブ面を打面として13-2・13-3を、さらに、13-4を13-1と同様に作出後、13-4のネガティブ面を打面として13-5の剥片を得ている。13-1と13-4は打面再生剥片としての性格が強く、打面再生と剥片の作出を繰り返し行っていることが理解できる。

第32ブロック(第168~170図、第38表、図版6・115)

東西を地金堀とその支流により開析された台地突出部の先端部、標高16.5m付近に所在する。この地点から40m程南には地金堀とその支流の合流地点が存在する。第32ブロック～第35ブロックの4ブロックが22m四方の範囲内で検出されている。

石器は剥片石器3点・礫石器3点の合計6点で構成され、剥片石器では黒曜石製の剥片・安山岩(トロトロ石)製の石核・黒色安山岩製の石核が出土する。礫は全て砂岩製の破砕礫である。石器の出土層位はⅢ層である。

出土遺物

1は安山岩(トロトロ石)製の石核である。直方体に近い形状で、表面及び両側面に見られる剥離の方向は、上面方向に位置する打面から剥片剥離を行っていたことが理解できる。下面にも平坦な剥離の一面があるが、この方向からの剥片剥離の痕跡は見られない。2は黒色安山岩製の石核である。正面を除くほかの面には原礫面が認められ、ほとんどの剥片剥離は上面に位置する原礫面を打面に設定し剥片剥離を行っている。

第33ブロック(第171~184図、第39表、図版6・115~127)

地金堀と支流の合流地点に近い台地突出部の先端部、標高16.5m付近に所在する。

石器の分布範囲は南北方向にやや長い楕円形状で、長軸6m・短軸4mである。後述する第35ブロックから、本ブロックで剥片剥離作業を行った剥片が出土しており、所属層位・器種・石材の組成に共通点が多く認められるため、同時期に形成されたブロックと考えられる。石器の出土層位はⅢ層である。

石器は剥片石器117点・礫石器2点の合計119点出土し、ナイフ形石器・角錐状石器が認められる。頁岩製の石器が点数比・重量比の両方で主体となり、黒色安山岩・ホルンフェルスがこれに準じる。頁岩についてはナイフ形石器・角錐状石器のみならず、調整痕の認められる剥片・使用痕の認められる剥片が計6点出土しており、石器組成の観点からも主体的といえる。安山岩(トロトロ石)・チャートについては、点数比で2.5%・重量比で2.6%以下であり、客観的である。



第168図 第32ブロック 器種別分布図

出土遺物

1～3はナイフ形石器である。1は頁岩製の縦長剥片の末端部を先端部に設定し、片側縁のみに腹面側からの調整を施し製品化している。無調整の側縁は一面原礫面となる。先端部が欠損する。2は頁岩製の部厚な剥片を素材とする。裏面の平坦面は原礫面で占められ、一部原礫面が表面に回り込む。調整は片側縁に対し裏面の原礫面から急角度の剥離により行われ、対となる側縁は基部の一部のみ調整が施される。3は先端部のみ遺存するが、ホルンフェルス製の縦長剥片を素材としていると考えられる。調整は現状で



第169図 第32ブロック石材別分布図

第38表 第32ブロック石器組成表

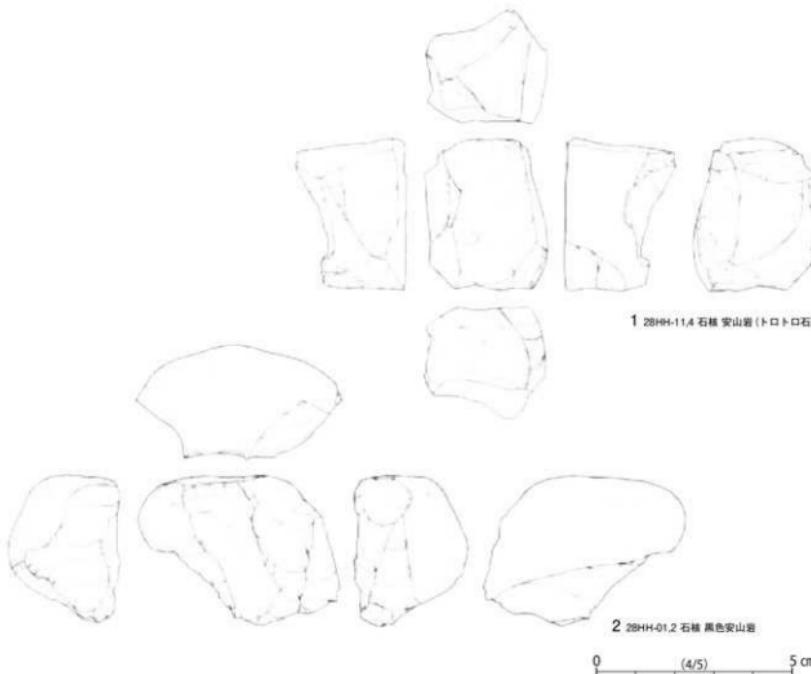
	剥片	石核	標片	合計	組成比
黒曜石	1 1.46g			1 1.46g	33.33% 33.33%
安山岩(トロトロ石)		1 43.08g		1 43.08g	33.34% 42.05%
黒色安山岩		1 57.90g		1 57.90g	56.52% 56.52%
合計	1 1.46g 100.98g	2 102.44g		3 102.44g	100.00% 100.00%
組成比	33.33% 14.3%	66.67% 98.57%			100.00% 100.00%
砂岩			3 108.78g 108.80g	3 108.78g 108.80g	100.00% 100.00%
合計			3 108.80g	3 108.80g	100.00% 100.00%
組成比					100.00% 100.00%

は片側縁のみ確認される。1・2と比較すると大型の個体となる。

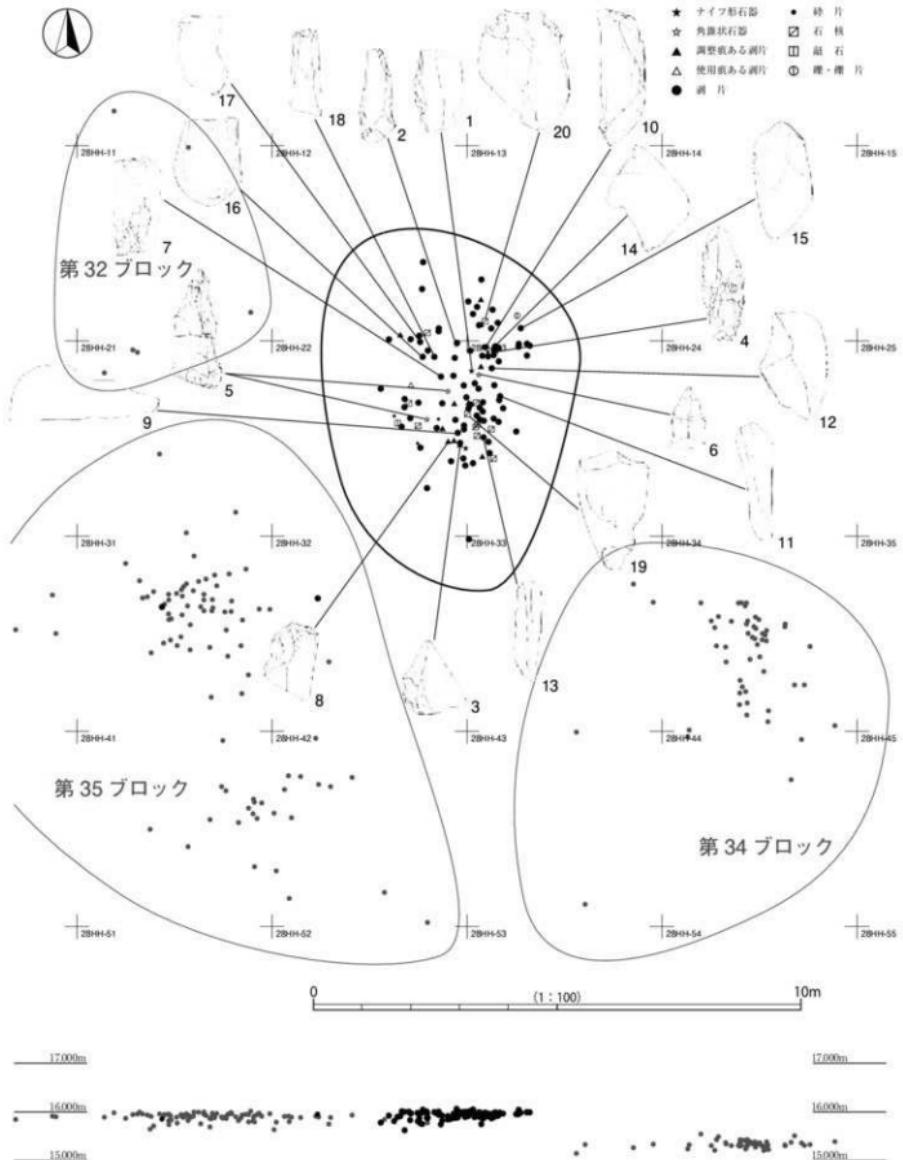
4～6は角錐状石器である。4は頁岩製の横長剥片を素材とし、素材剥片のはば全周に対し調整を施す。素材は横に大きく広がり、腹面の主要剥離面は左右対称となる。翼状剥片に酷似するが、背面はほぼ全面に調整が施されるため背面構成は不明である。5は黒色安山岩製の縦長剥片を素材とし、素材剥片の打面は無調整である。調整は先端部付近が両側縁、基部にかけては片側縁に対し行われ、腹面側から急角度の調整が施される。6は頁岩製の縦長剥片を素材とし、先端部のみの遺存である。調整は鋭く尖る先端部は素材剥片の末端部そのままであり、基部にかけて腹面側からの急角度の調整が施される。

7・8は調整痕の認められる剥片である。7は頁岩製の部厚な剥片の末端部に腹面側からの急角度の調整が施される。

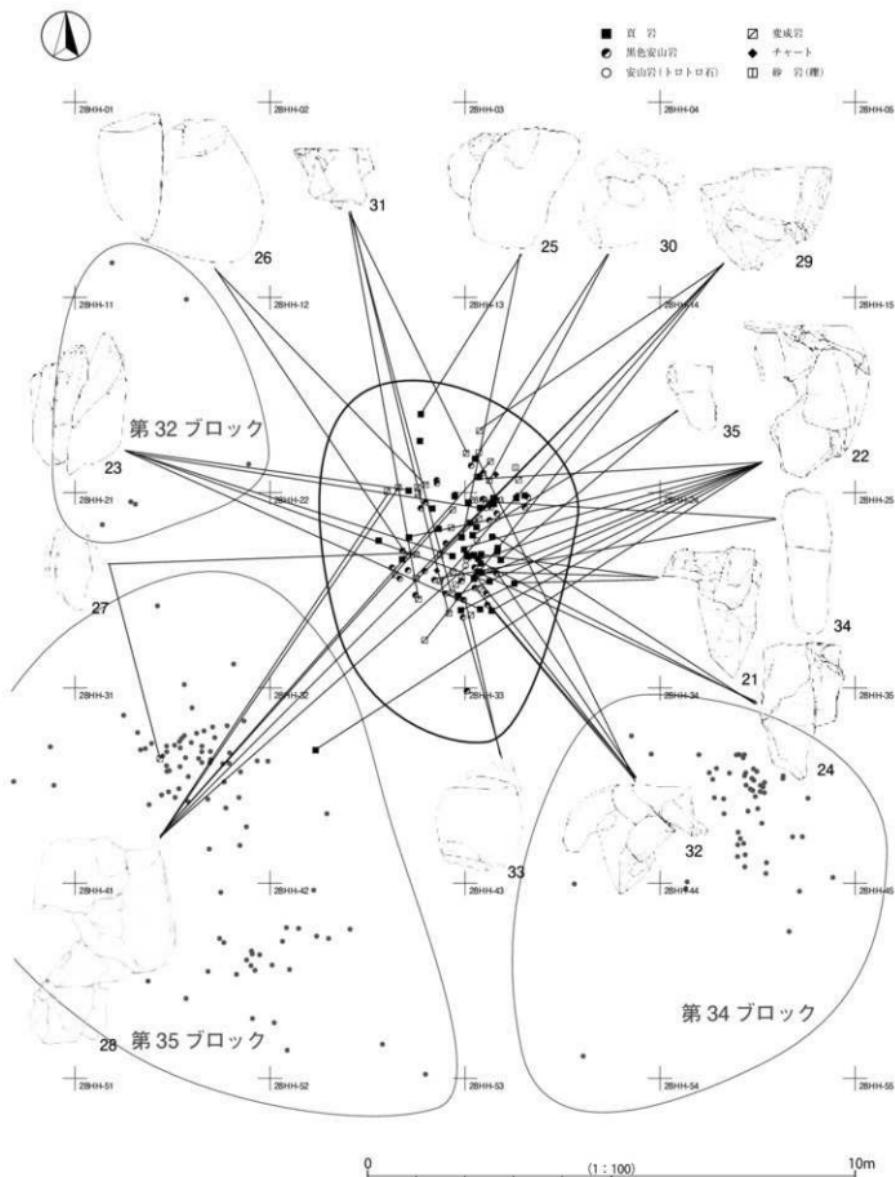
9～18は剥片である。9・13・15・17はホルンフェルス製、10・12・16は黒色安山岩製、11・14・18



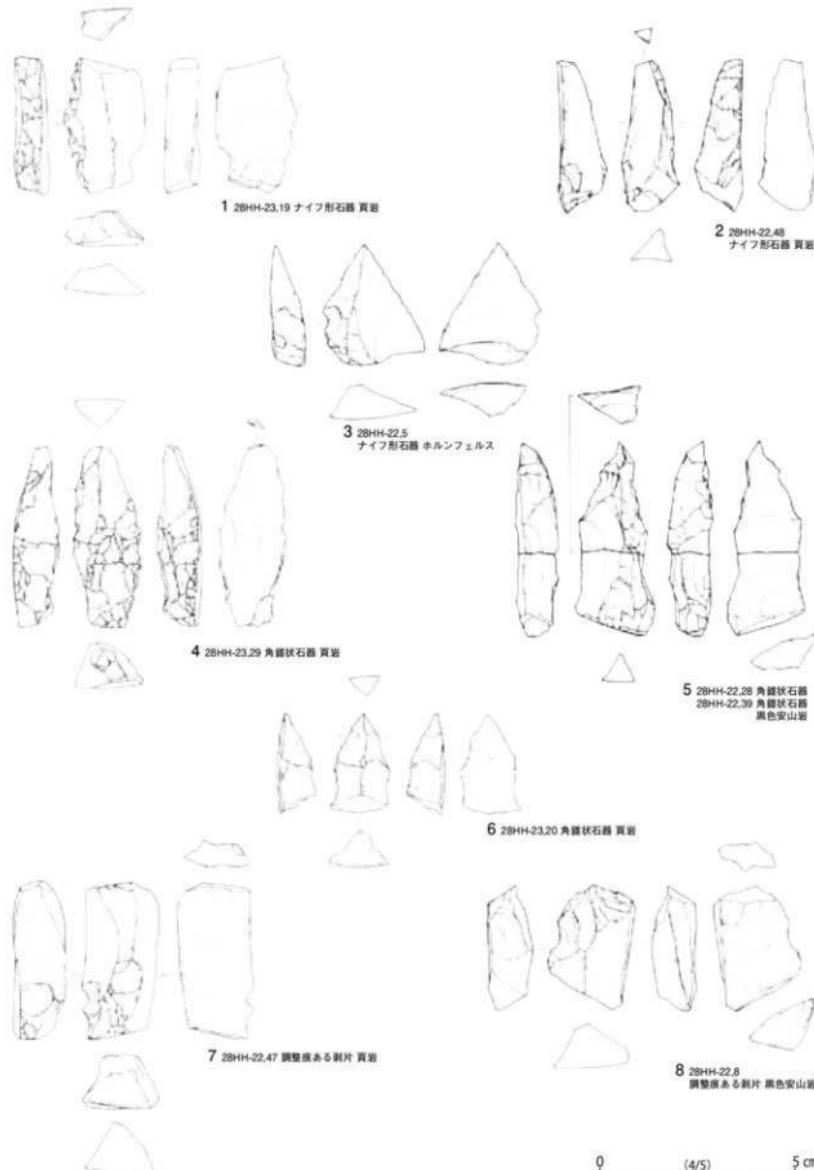
第170図 第32ブロック出土遺物



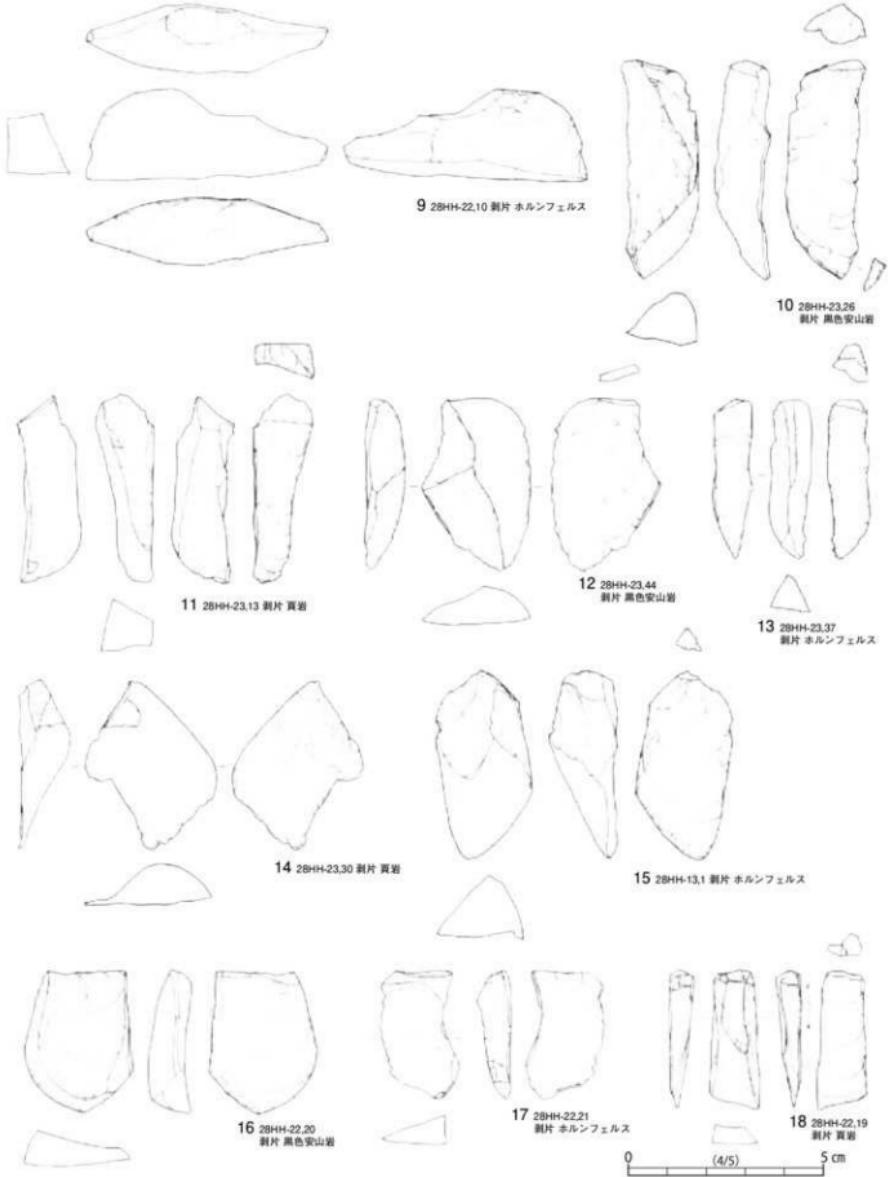
第171図 第33ブロック器種別分布図



第172図 第33ブロック石材別分布図



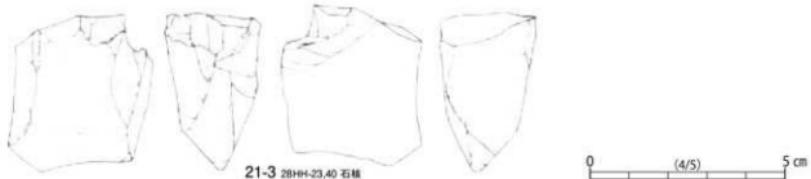
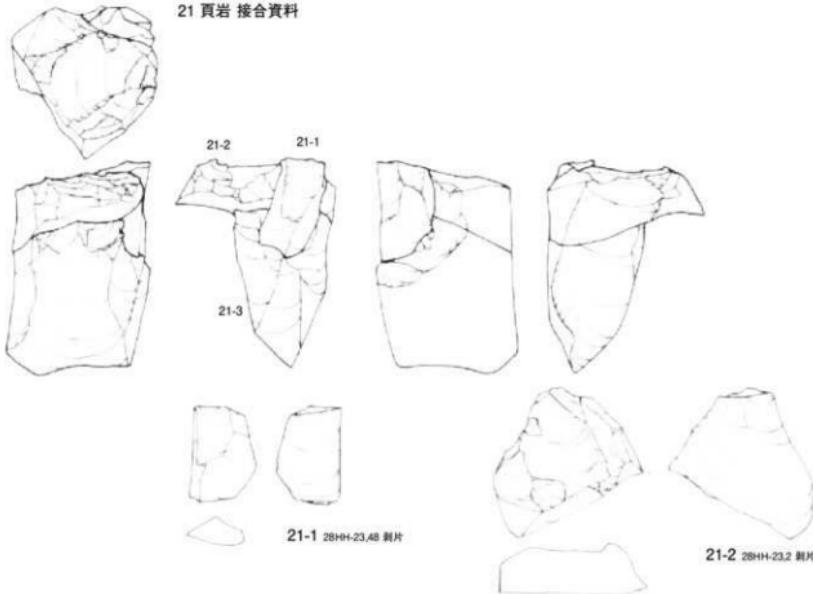
第173図 第33ブロック出土遺物(1)



第174図 第33ブロック出土遺物(2)



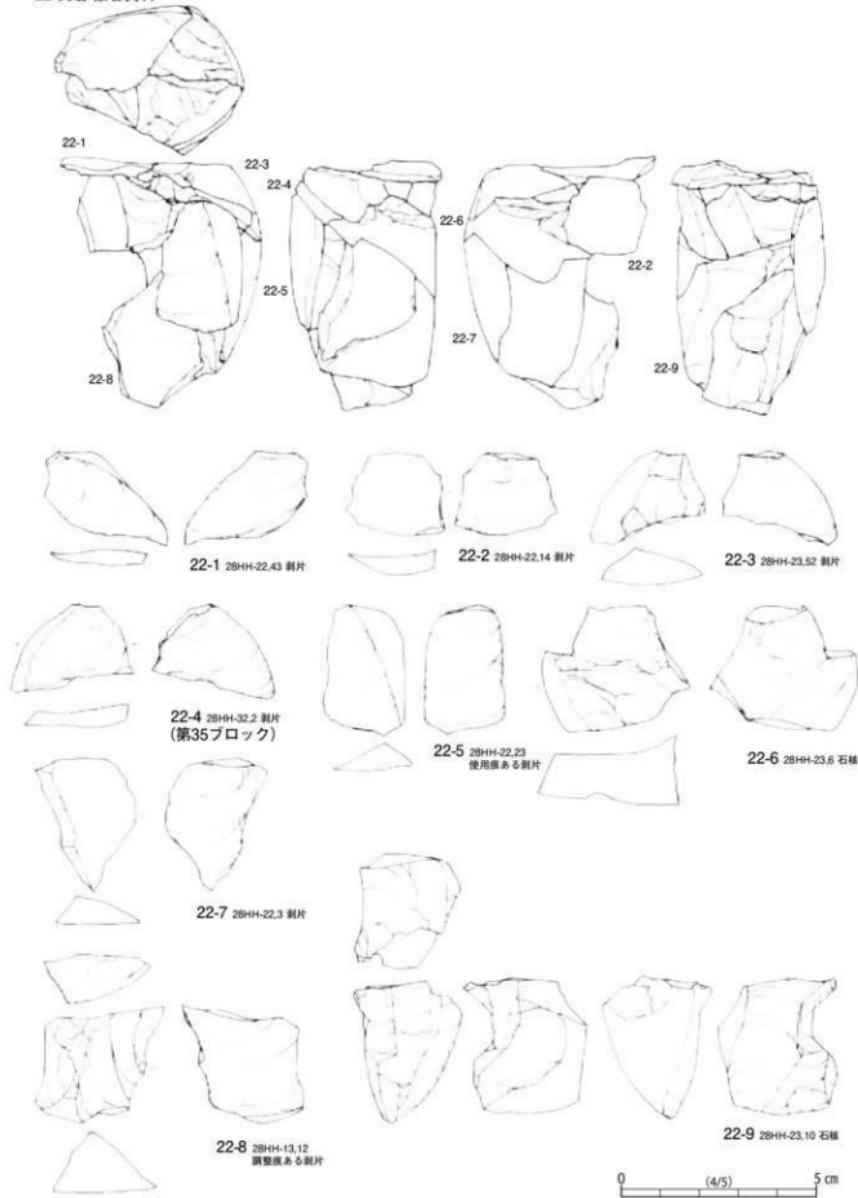
21 頁岩 接合資料



0 (4/5) 5 cm

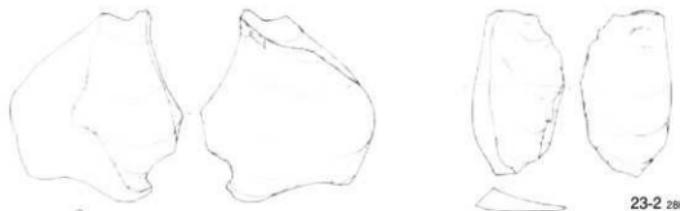
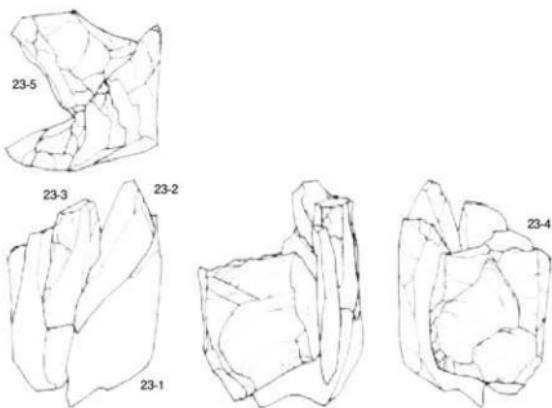
第175図 第33ブロック出土遺物(3)

22頁岩 接合資料



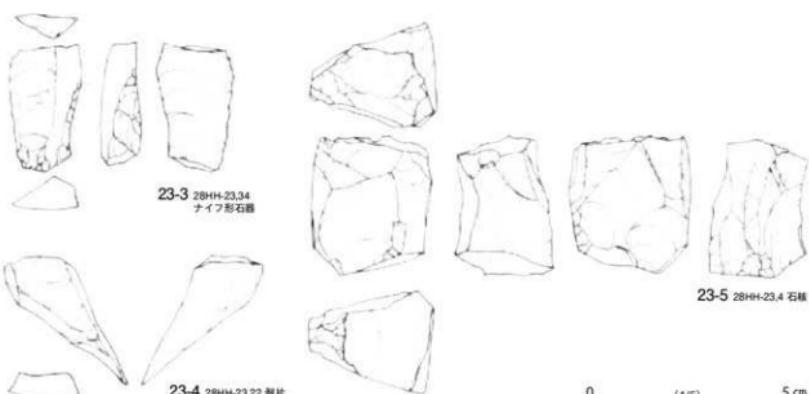
第176図 第33ブロック出土遺物(4)

23 頁岩 接合資料



23-1 28HH-22.38 調整痕ある剥片

23-2 28HH-22.22 剥片

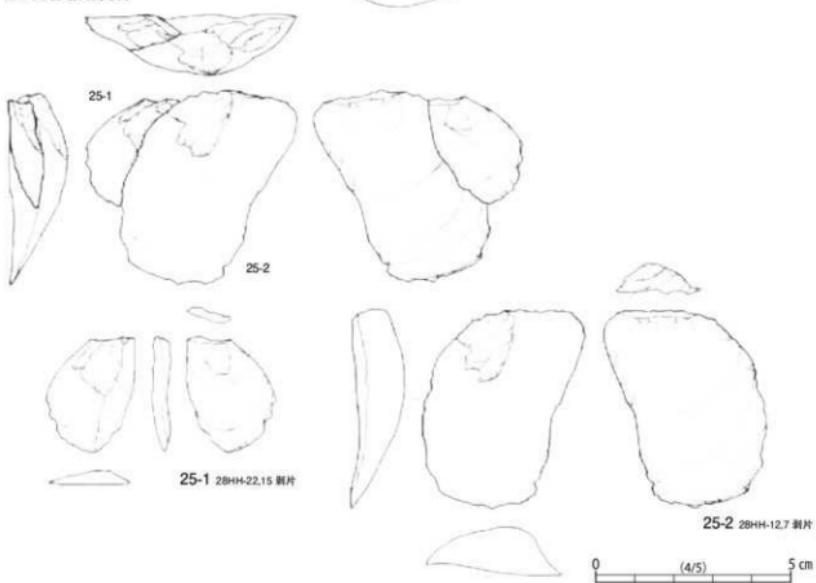


第177図 第33ブロック出土遺物(5)

24 紙岩 接合資料



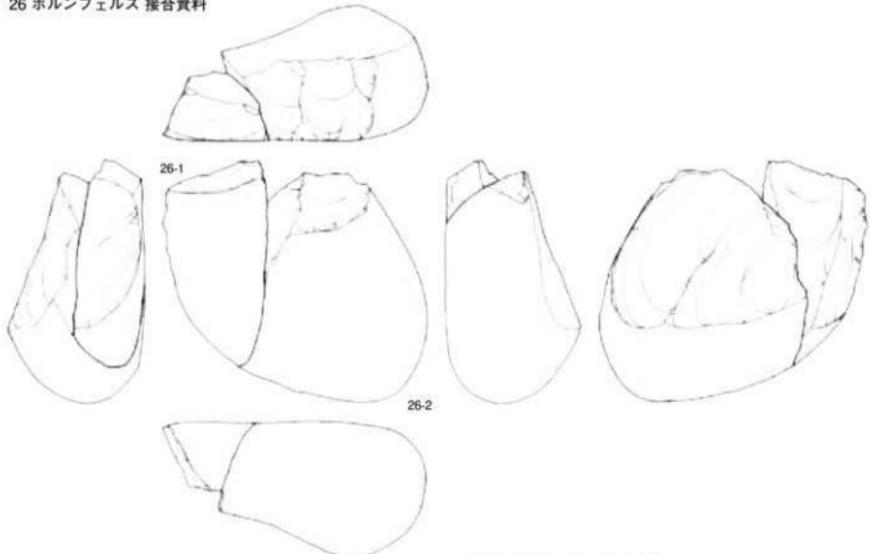
25 紙岩 接合資料



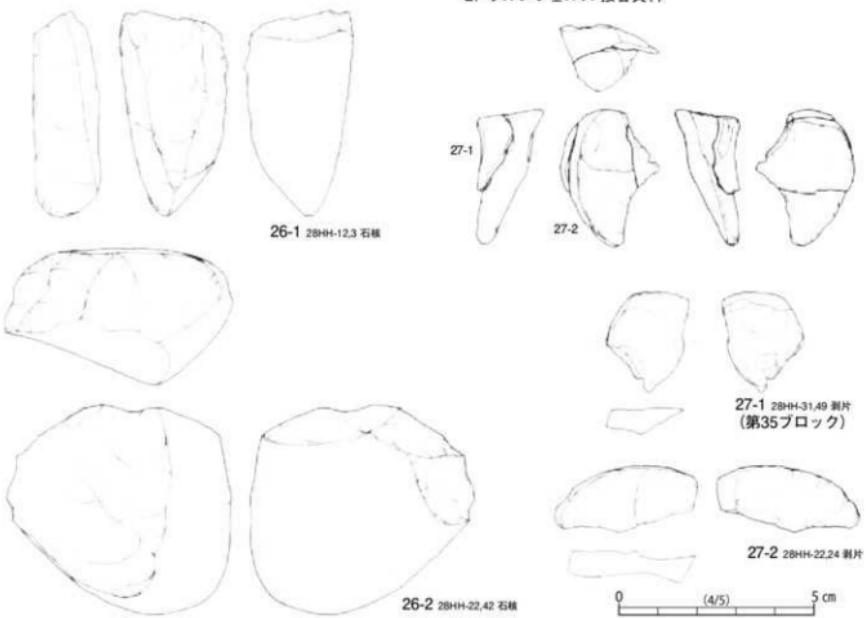
0 (4/5) 5 cm

第178図 第33ブロック出土遺物(6)

26 ホルンフェルス 接合資料

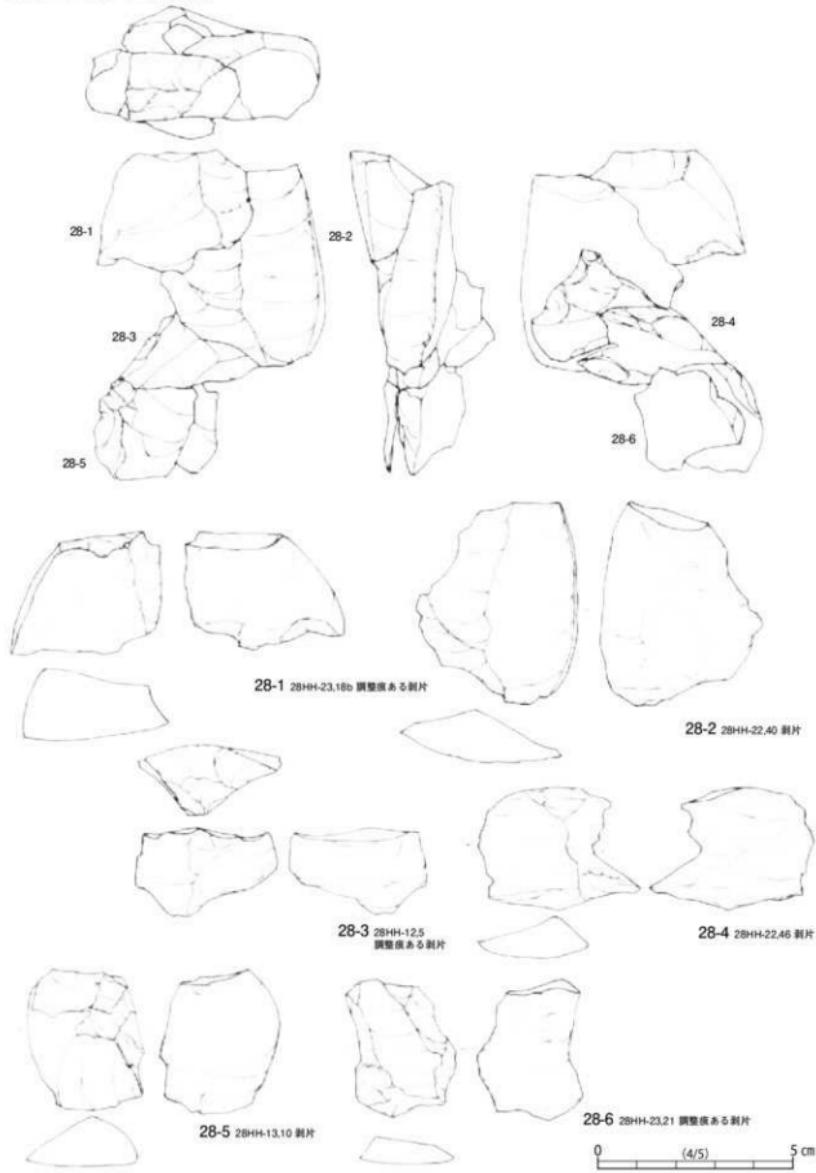


27 ホルンフェルス 接合資料



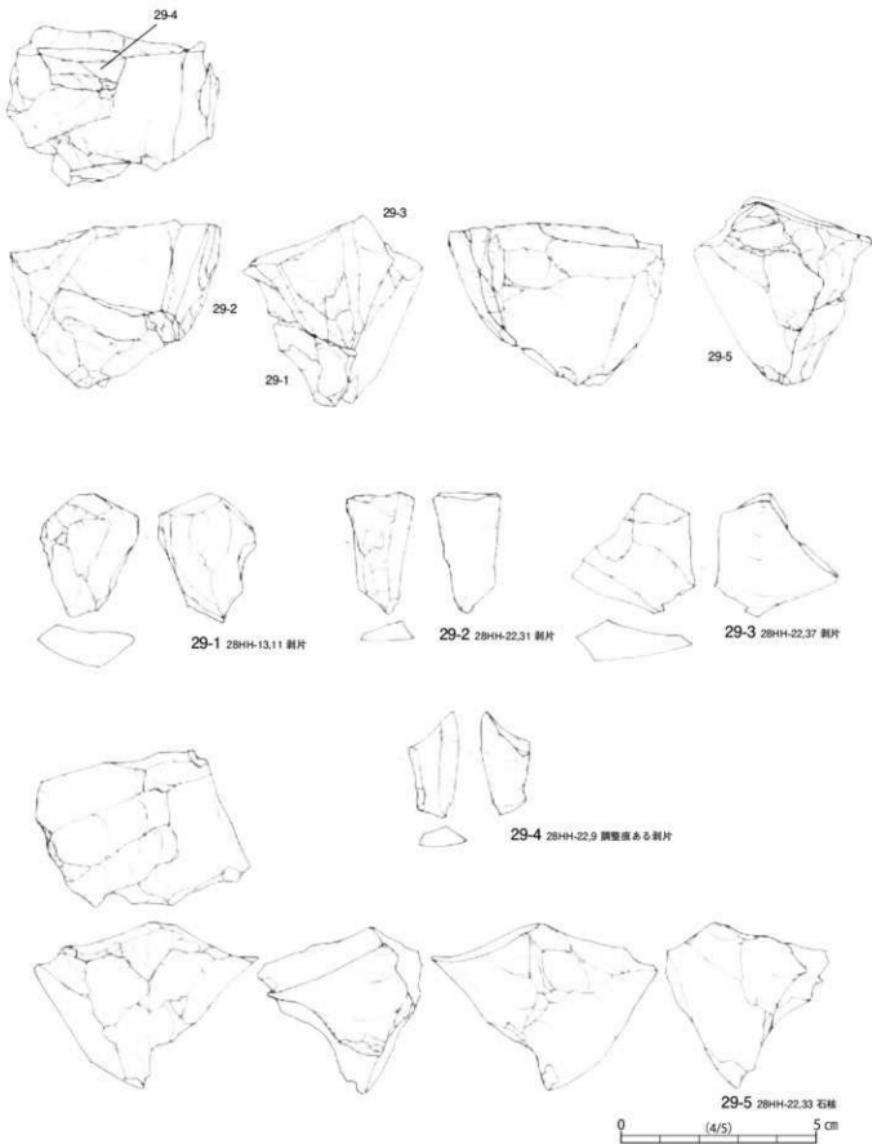
第179図 第33ブロック出土遺物(7)

28 ホルンフェルス 接合資料



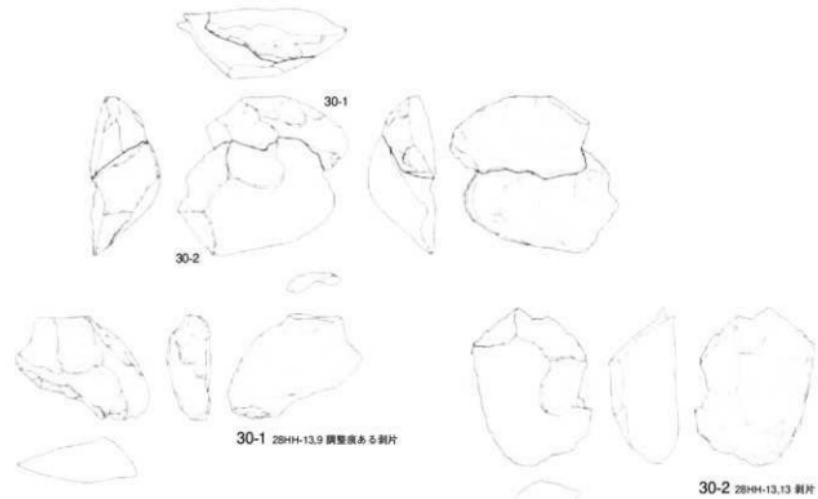
第180図 第33ブロック出土遺物(8)

29 ホルンフェルス 接合資料

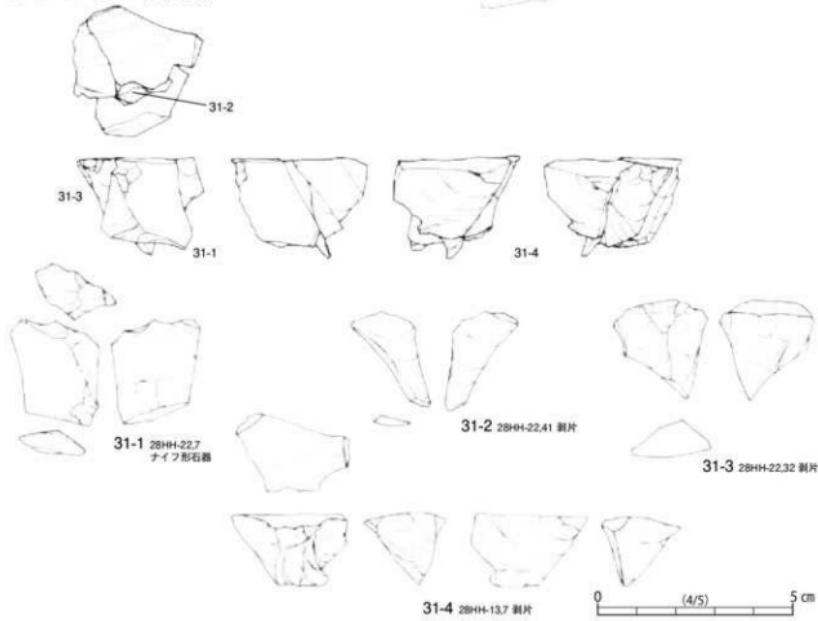


第181図 第33ブロック出土遺物(9)

30 ホルンフェルス 接合資料

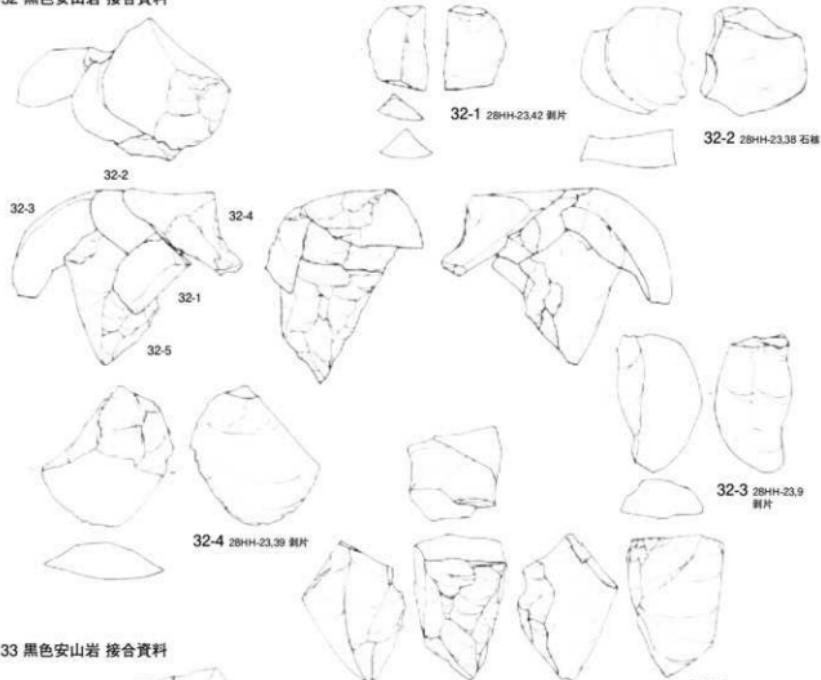


31 ホルンフェルス 接合資料

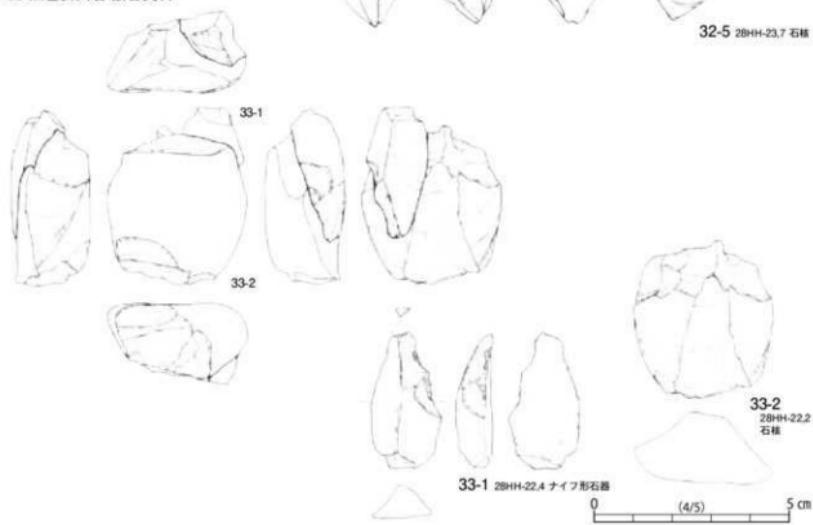


第182図 第33ブロック出土遺物(10)

32 黒色安山岩 接合資料



33 黒色安山岩 接合資料



第183図 第33ブロック出土遺物(11)

第39表 第33ブロック石器組成表

	ナイフ 形石器	角葉状 石器	調整直 ある剥片	使用直 ある剥片	剥片	碎片	石核	敲石	離片	合計	組成比
頁岩	3 17.55g	2 10.74g	5 67.79g	1 4.32g	28 140.55g	4 110.08g	4 110.08g	4 110.08g	4 110.08g	43 351.03g	36.76% 31.62%
黒色安山岩	1 4.85g	2 9.52g	1 8.07g		25 134.50g	2 1.59g	4 100.40g		4 258.93g	35 233.32%	29.91%
安山岩(トロトロ石)					2		1			3	2.56%
ホルンフェルス		2 11.53g	3 54.05g		22 168.23g	1 0.65g	3 232.06g		3 466.92g	33 429.06%	28.21%
チャート					2 3.57g	1 0.33g	1			3 3.9g	2.56%
合計	6 33.93g	4 20.26g	11 129.91g	1 4.32g	79 449.76g	4 2.7g	12 469.45g		117 1110.30g	117 100.00%	100.00%
組成比	5.13% 3.06%	3.42% 1.82%	9.40% 11.70%	0.83% 0.39%	67.52% 40.51%	3.42% 0.24%	10.26% 42.28%				100.00%
ホルンフェルス							1 0.95g	1 0.95g	1 0.95g	1 250.00g	50.00% 99.62%
頁岩								1 0.95g	1 0.95g	1 0.95g	50.00% 100.00%
合計								1 0.95g	1 0.95g	1 0.95g	50.00% 100.00%
組成比								99.62% 0.38%	99.62% 0.38%	99.62% 0.38%	100.00%

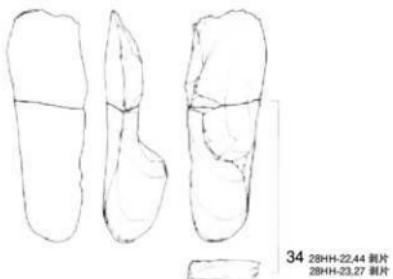
は頁岩製である。9は部厚な横長剥片であり、背面は原縫面で占められる。末端部には一面の剥離が見られ、石核整形を目的として作出された剥片と考えられる。10~18は概して縱長剥片であり、背面に原縫面を有する個体が多く認められる。13・18の背面は腹面の主要剥離面と同方向からの剥離で構成される。

19・20は石核である。19は安山岩(トロトロ石)製であり、器表面の剥離の方向は上方、側面側・下方からである。基本的な剥片剥離は上下両端から行われていると考えられ、上面に見られる剥離は打面再生の痕跡である可能性が高い。20は黒色安山岩製で、表面は上方からの剥離で占められる。上面及び裏面に見られる剥離は打面再生の痕跡であろう。

21は頁岩製の接合資料である。剥片2点と石核1点の接合例であり、終始、打面の位置を上面に設定して剥片剥離を行っている。21-1を作出後、打面再生を目的とし21-2を作出している。21-2を作出後、21-2のネガティブ面を打面とし剥片剥離を行っている。

22は頁岩製の接合資料である。21の接合資料と同様の剥片剥離工程であり、一方向からの剥片剥離が打面再生を介して行われている。21-1は打面再生剥片であり、この後上方からの剥離で作出された剥片

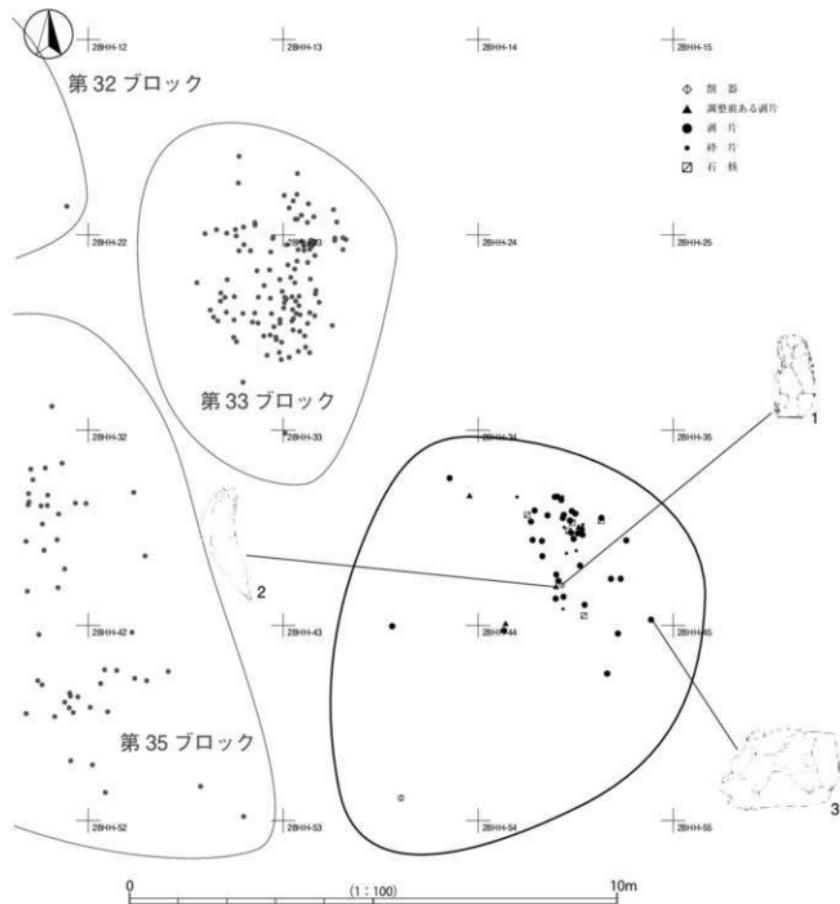
34 黒色安山岩 接合資料



35 頁岩 接合資料



第184図 第33ブロック出土遺物(12)

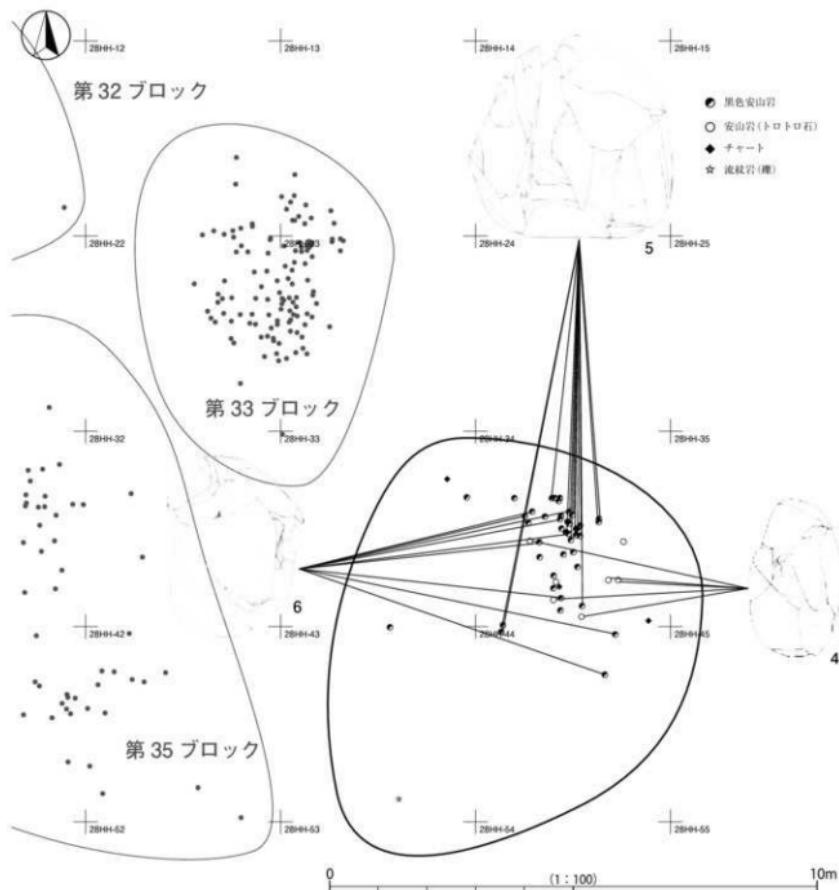


第185図 第34ブロック器種別分布図

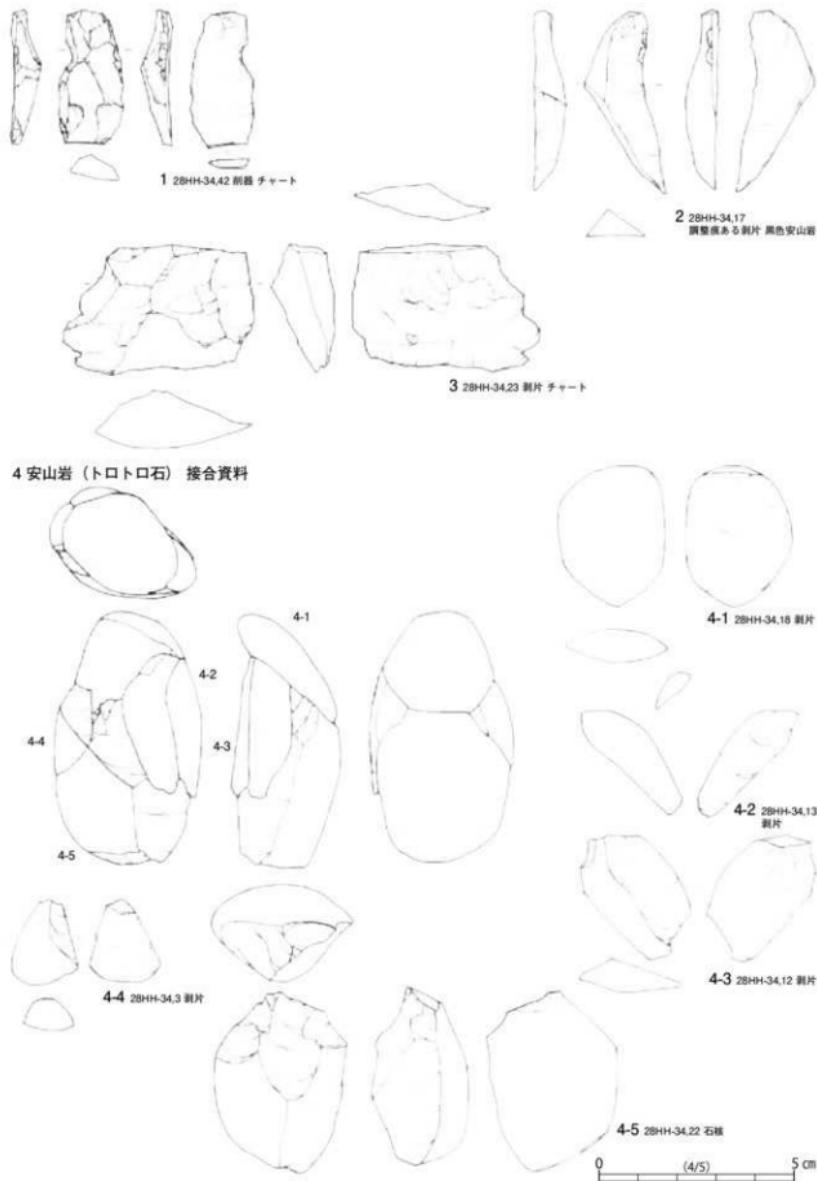
は22-2である。次の工程で22-3・22-4により打面を再生し、22-5を作出。さらに打面再生を行い(22-6)22-7を作出している。頻繁に打面再生を行い、剥片を作出していることが看取できる資料である。

23は頁岩製の接合資料である。剥片4点と石核1点の接合である。23-1から23-4まで上方に位置する打面から連続的に作出しており、21・22のように打面再生は行われていない。しかし、23-5には下方からの剥離が認められ、上下の打面の高さも変化していることから、打面再生及びある段階から下方に打面位置を転移していることが理解できる。

24は頁岩製の接合資料である。同一打面から連続的に作出された縦長剥片2点の接合例である。

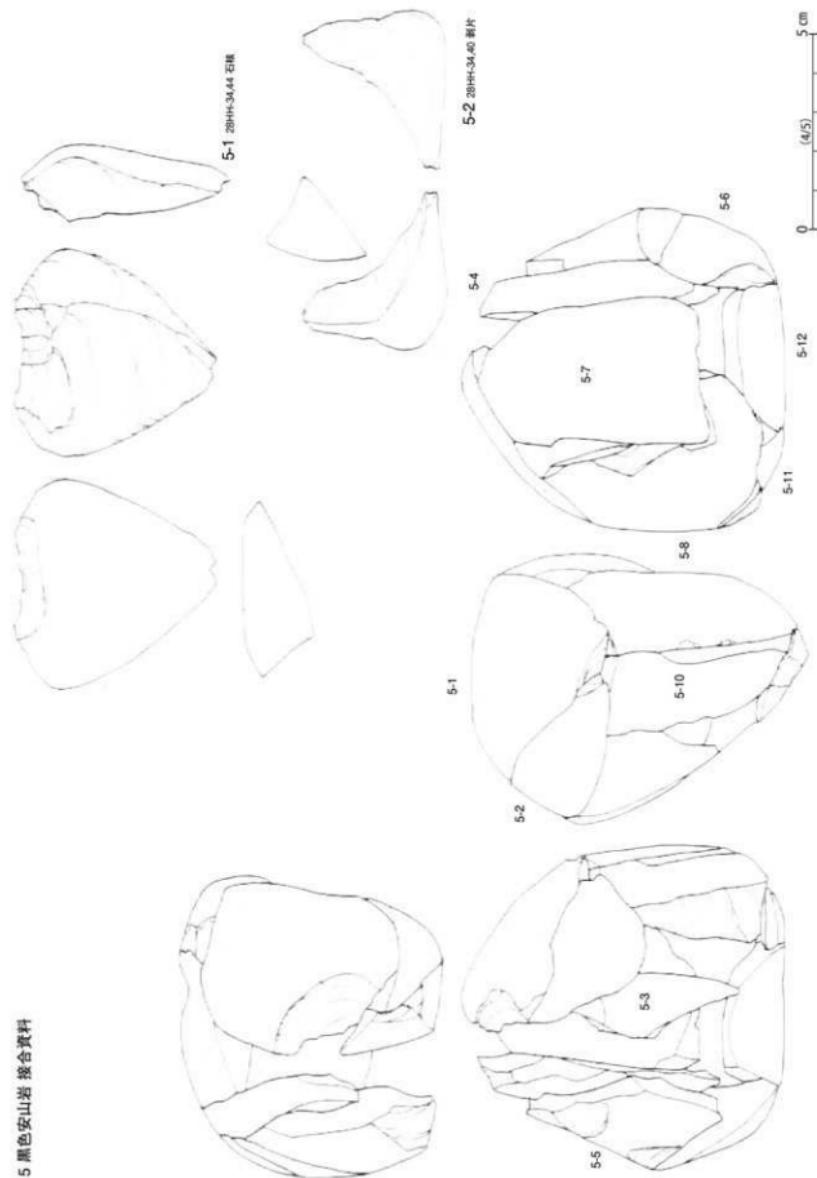


第186図 第34ブロック石材別分布図



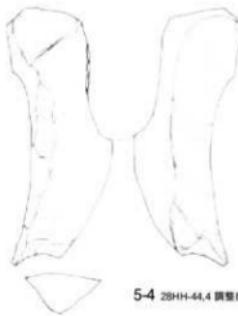
第187図 第34ブロック出土遺物(1)

5 黑色安山岩 接合資料



第188図 第34ブロック出土遺物(2)

5 黒色安山岩 接合資料



5-3 28HH-44.3 削片

5-4 28HH-44.4 調整度ある削片



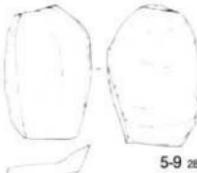
5-5 28HH-34.38 石核
28HH-34.36 削片

5-6 28HH-34.21 削片

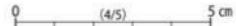


5-7 28HH-34.46 削片

5-8 28HH-34.39 調整度ある削片



5-9 28HH-34.10 削片



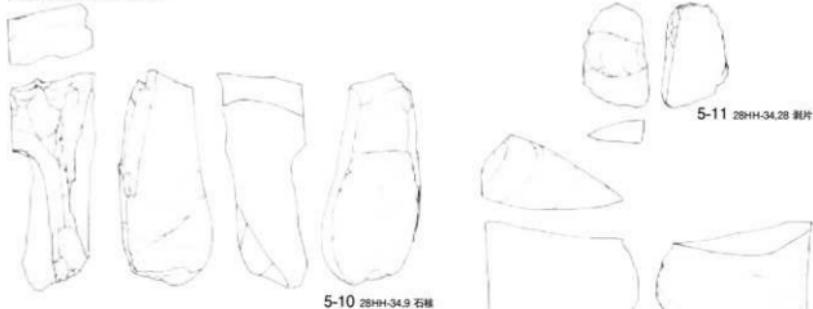
0

(4/5)

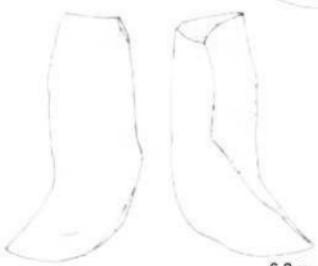
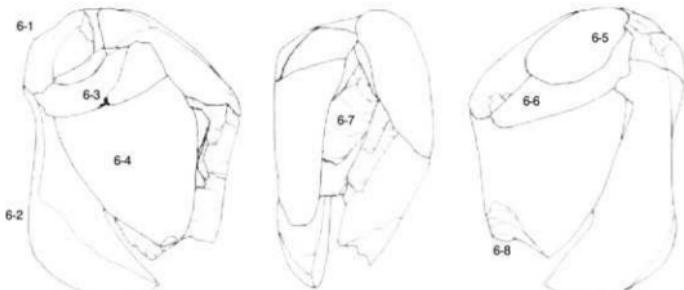
5 cm

第189図 第34ブロック出土遺物(3)

5 黑色安山岩 接合資料



6 黑色安山岩 接合資料



第190図 第34ブロック出土遺物(4)

25は頁岩製の接合資料である。剥片2点の背面には原礫面が見られ、剥片剥離工程初期段階の打面作出もしくは石核整形を目的として作出された剥片と考えられる。

26はホルンフェルス製の接合資料である。円礫素材であり、打面を広く設定し打削するように26-1を作出している。

27はホルンフェルス製の接合資料である。連続して作出された不定形剥片2点の接合例であり、一部に原礫面を共有する。

28はホルンフェルス製の接合資料である。剥片6点の接合である。28-1・28-2を作出後、打面を下方に転移し28-3・28-4の剥片を得ている。この後、さらに打面転移を行い28-5・28-6を得ている。

29はホルンフェルス製の接合資料である。29-1の作出は実測図裏面を打面とし、正面に向かって行われる。29-2・29-3は実測図上面を打面とし作出される。29-4は打面を実測図左側面に転移し、上面に対し剥片剥離を行い得られた剥片である。

30はホルンフェルス製の接合資料である。背面に原礫面を有する剥片2点の接合であり、打面を共有する。また、背面には打面方向からの剥離が認められ、剥片剥離工程の中程に、石核整形もしくは打面再生を目的として作出された剥片と考えられる。

31はホルンフェルス製の接合資料である。31-1～31-3は打面を共有し、31-1作出後、ブランクをおき31-2・31-3を連続して作出している。

32は黒色安山岩製の接合資料である。32-1～32-3の剥片を作出後、打面再生を行っている(32-4)。32-5の石核は32-4以後にも打面再生が行われており、打面の方向を変えずに剥片剥離を行っていることが理解できる。

33は黒色安山岩製の接合資料である。ナイフ形石器1点と石核1点の接合例である。33-1のナイフ形石器の素材剥片を作出後、打面再生を行っていることが理解できる。33-2の石核には上下両端に打面再生の痕跡が認められ、下方の打面再生は33-1作出工程の前段階に行われているものと考えられる。

34は黒色安山岩製の接合資料である。部厚な縦長剥片を石核に転用し、側面から剥片剥離を行った際に、打面から分割したものである。

35は頁岩製の接合資料である。中途から二分した剥片の接合資料である。平面は大きく原礫面が残る。

第34 ブロック(第185～191図、第40表、図版6・127～131)

地金堀と支流の合流地点に近い台地突出部の先端部、標高16.5m付近に所在する。

第33ブロックと第35ブロックに隣接するが、両者と石器の出土レベルに明瞭な標高差があり、第33ブロック・第35ブロックが15.9mであるのに対し、第34ブロックは15.3mで0.6mの差が認められる。調査時の記述ではIV層出土である。

石器の分布範囲は28HH-34グリッドの集中区を北限とし、南西方向に長軸7mの梢円形状である。集中区は径3mでまとまり、分布範囲内に点在するような分布状況である。

石器は剥片石器52点・礫石器1点の合計53点出土し、削器・調整痕の認められる剥片・剥片・碎片・石核で構成される。使用される石材は黒色安山岩が点数比80.7%・重量比85.1%を占め、主体的な石材といえる。削器はチャート製で、同石材の石器は剥片のみである。安山岩(トロトロ石)については剥片・石核である。

第40表 第34ブロック石器組成表

	刮 削 器 ある 剥片	剥 片	碎 片	石 核	雜	合 計	組成比
チャート	1 4.13g	2 22.66g				3 26.79g	5.77%
黒色安山岩		4 85.68g	27 245.70g	7 1.26g	4 169.72g	42 502.36g	4.51% 80.77% 85.16%
安山岩(トロトロ石)			6 21.94g		1 38.84g	7 60.78g	13.46% 10.30%
合計	3 4.13g	35 85.68g	35 290.30g	7 1.26g	5 208.56g	52 589.93g	100.00% 100.00%
組成比	19.2% 0.70%	7.69% 14.52%	67.31% 49.22%	13.46% 0.21%	9.62% 35.35%		100.00% 100.00%
流紋岩						1 382.00g	100.00%
合計						1 382.00g	100.00%
組成比						100.00%	100.00%
						100.00%	100.00%

6 黒色安山岩 接合資料

6-3 28HH-34.7 剥片
28HH-34.30 剥片6-4 28HH-33.2
調整痕ある剥片

6-5 28HH-34.29 剥片

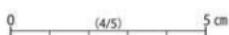
6-6 28HH-34.5 剥片
28HH-44.2 剥片

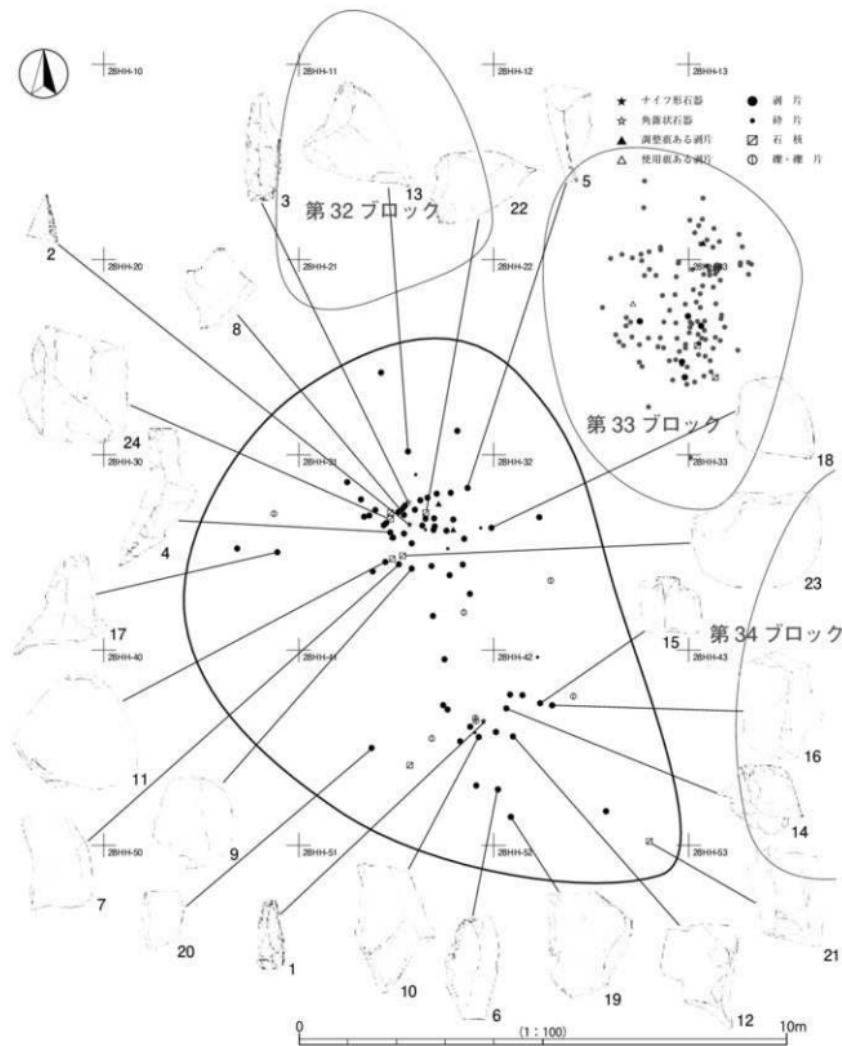
6-7 28HH-34.19 剥片



6-8 28HH-34.24 石核

第191図 第34ブロック出土遺物(5)



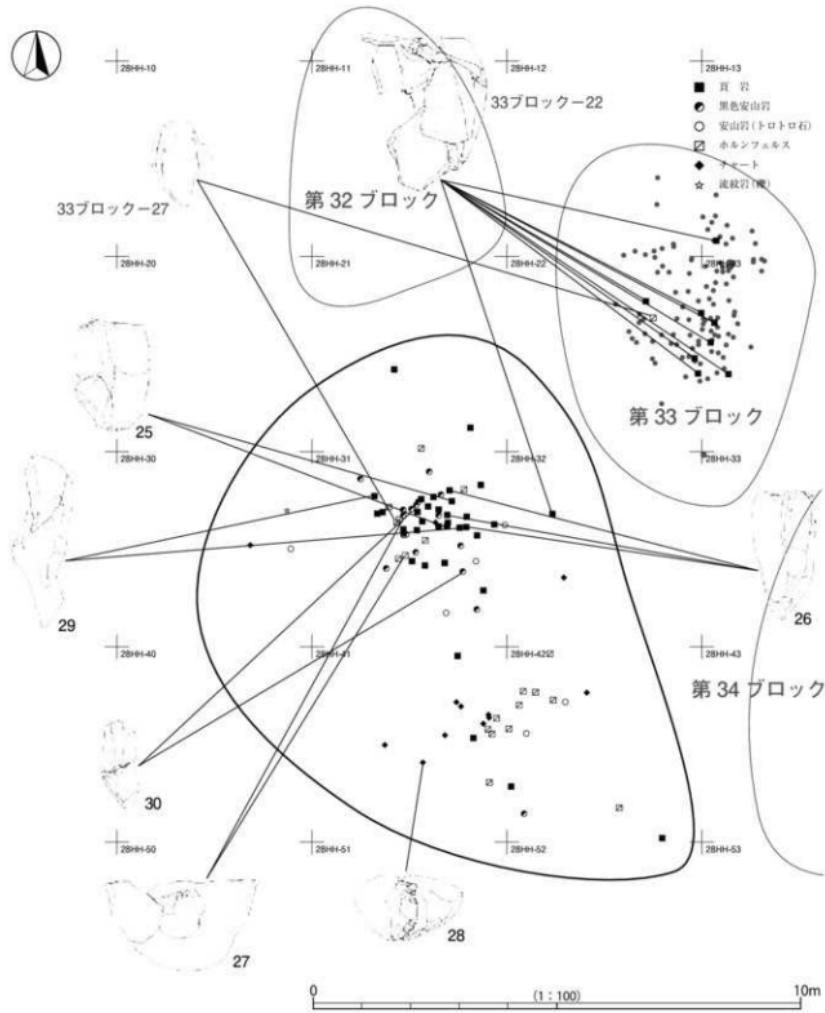


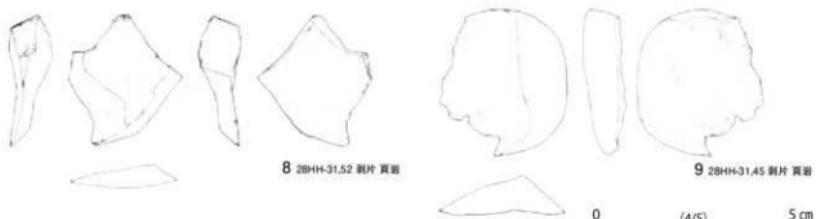
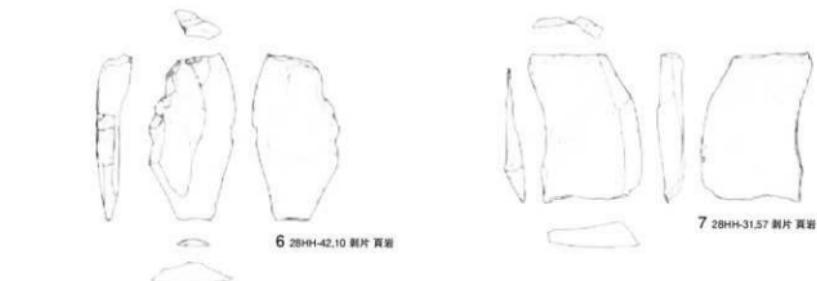
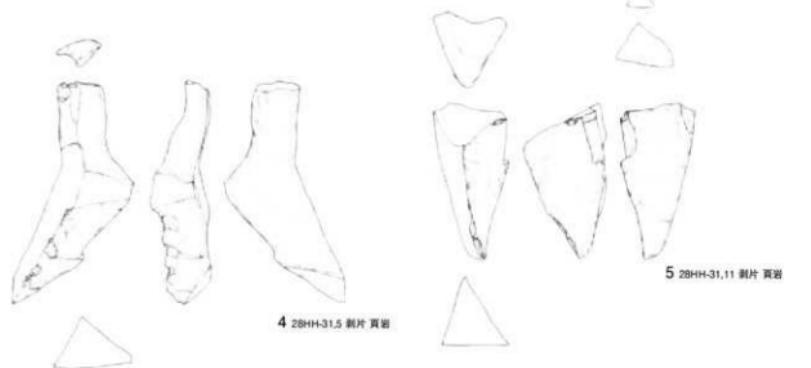
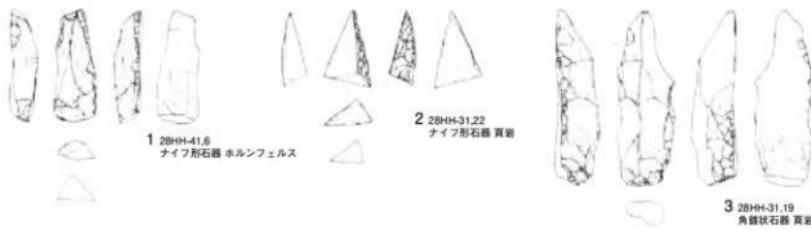
第192図 第35ブロック 器種別分布図

出土遺物

1はチャート製の削器である。縦長剥片の打面部直下の両側縁及び左側縁の末端部付近に腹面側からの調整が施される。左側縁打面部直下の調整はノッチ状となる。

2は黒色安山岩製の調整痕の認められる剥片である。縦長剥片の右側縁・打面直下に腹面側からの微細





0 (4/5) 5 cm

第194図 第35ブロック出土遺物(1)

な調整痕が認められる。

3はチャート製の剥片である。原縫面を打面とし作出された部厚な横長剥片である。背面を構成する剥離の方向は、腹面側の剥離の方向とほぼ一致する。

4は安山岩(トロトロ石)製の接合資料である。梢円形状の転石に対し剥片剥離を行っている。剥片剥離は4-1の作出に始まり、後の剥片が4-1のネガティブ面を打面として作出されていることから、打面作出を目的としたものであるといえる。4-1作出後、4-2～4-4までの剥片を連続的に作出している。4-5には打面を転移した剥片剥離の痕跡は認められず、終始、単一の打面を活用している。

5は黒色安山岩製の接合資料である。大型の転石を素材とし、剥片剥離を行っている。5-1+5-2の剥片を作出後、剥片剥離はネガティブ面を打面として行われるが、5-8を作出後、5-8のネガティブ面を打面とし、5-11・5-12を作出している。

6は黒色安山岩製の接合資料である。6-1は剥片剥離工程の初期に、打面の作成を意図して作出された剥片である。6-1のネガティブ面を打面とし、6-2～6-4の剥片を作出し、この後6-2のネガティブ面に打面を転移し、6-5・6-6を作出する。更に、打面を転移し6-7を作出するが、この打面は6-6のネガティブ面となる。頻繁に打面を転移した剥片剥離工程が窺えるが、6-8の石核左側面には、更に打面転移を行い、剥片を作出した痕跡が明瞭に認められる。

第35 ブロック(第192～200図、第41表、図版6・131～137)

地金掘と支流の合流地点に近い台地突出部の先端部、標高16.5m付近に所在する。前述した第33ブロックと同じ文化層に属すると考えられる。出土層位はⅢ層である。

28HH-31グリッドに径4m、28HH-41グリッド～28HH-42グリッドにかけての長軸4m・短軸3mの2か所の集中区をもち、全体の石器分布範囲は長軸10m・短軸7mの梢円形状である。

定型的な石器は頁岩製・ホルンフェルス製のナイフ形石器・頁岩製の角錐状石器が認められ、そのほかに調整痕ある剥片・剥片・碎片を石器組成に含む。使用される石材は点数比44.3%を占める頁岩が主体となり、ホルンフェルス・黒色安山岩がこれに準ずる。点数的には頁岩が主体であるが、重量比ではホルンフェルスが36.4%と頁岩の27.4%を上回る。そのほかに安山岩(トロトロ石)・チャートが使用石材に含まれるが、第33ブロック同様に点数比・重量比ともに客観的である。

出土遺物

1・2はナイフ形石器である。1はホルンフェルス製の部厚な縦長剥片を素材とし、素材剥片の打面は無調整である。調整は両側縁に対し、腹面側からの急角度の剥離で行われる。2は頁岩製の横長剥片を素材とし、調整は腹面側から密に行われる。先端部のみ遺存する。

3は角錐状石器である。頁岩製の縦長剥片を素材とし、調整は腹面側からの急角度の剥離で施される。素材剥片の背面に見られる原縫面はほぼ無調整である。

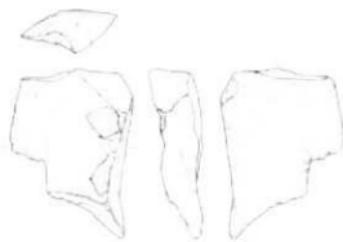
4～20は剥片である。4～9は頁岩製、10・11・13～15はホルンフェルス製、12・16～18は安山岩(トロトロ石)製、19は黒色安山岩製、20はチャート製である。頁岩製の剥片は概して縦長剥片であり、4・5のように中央部に明瞭な稜を有する個体も見られるが、器厚も薄い作りである。これに対しほかの石材の剥片は大型の不定形剥片が多く認められる。背面構成も頁岩製の剥片は同一方向からのものが多いが、そのほかの石材の剥片は、多方向からの剥離で構成されるものが多い。



10 28HH-41.2 剥片 ホルンフェルス



11 28HH-31.8 剥片 ホルンフェルス



12 28HH-42.9 剥片 安山岩(トロトロ石)



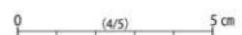
13 28HH-21.5 剥片 ホルンフェルス



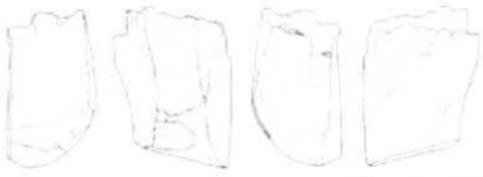
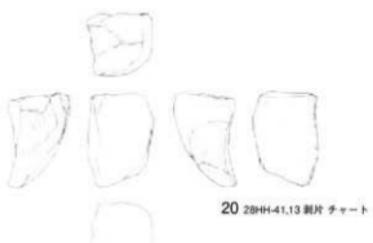
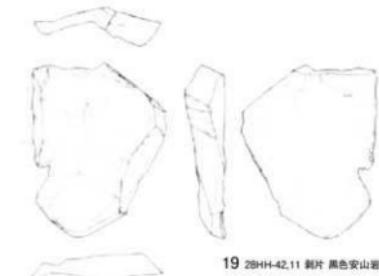
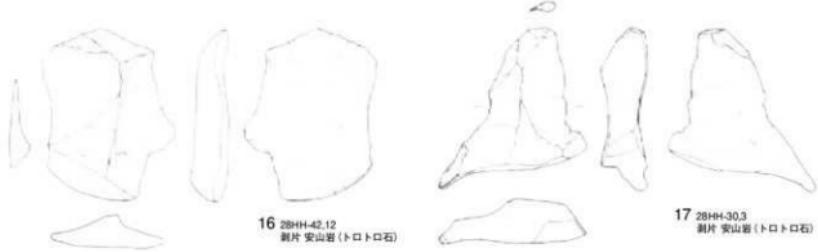
14 28HH-42.8 剥片 ホルンフェルス



15 28HH-42.5 剥片 ホルンフェルス

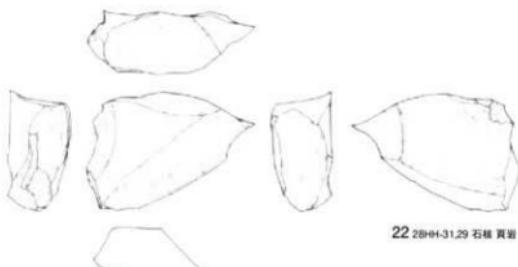


第195図 第35ブロック出土遺物(2)

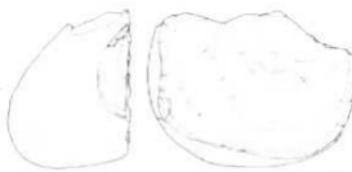


0 (4/5) 5 cm

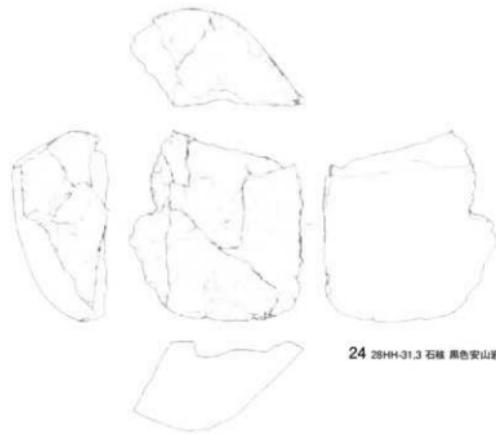
第196図 第35ブロック出土遺物(3)



22 28HH-31.29 石核 貝岩



23 28HH-31.6 石核 安山岩

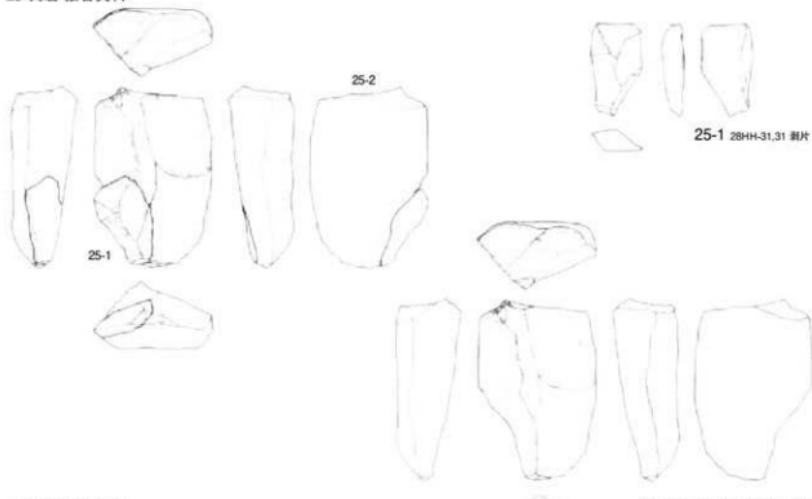


24 28HH-31.3 石核 黑色安山岩

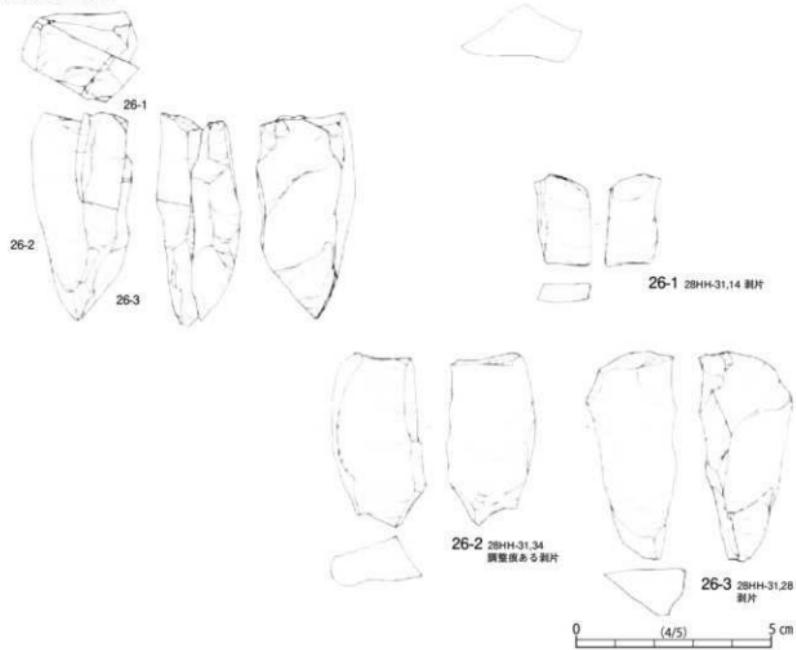


第197図 第35ブロック出土遺物(4)

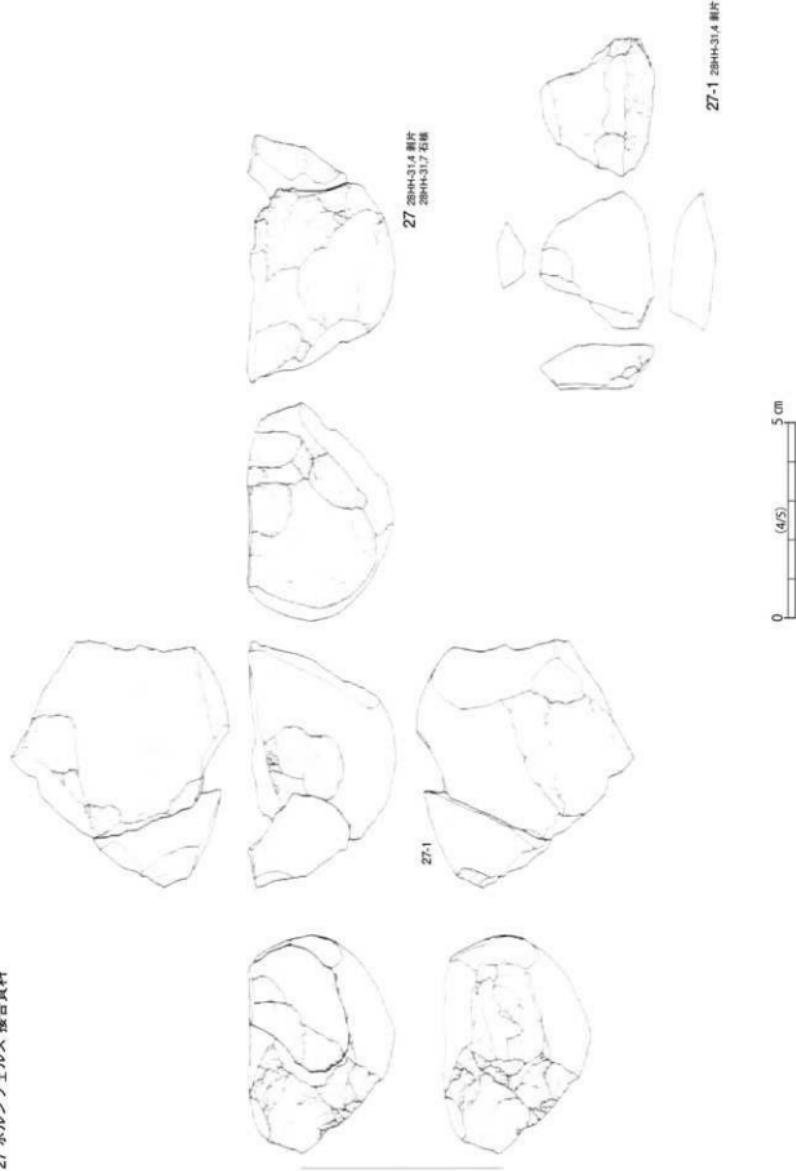
25 頁岩 接合資料



26 頁岩 接合資料

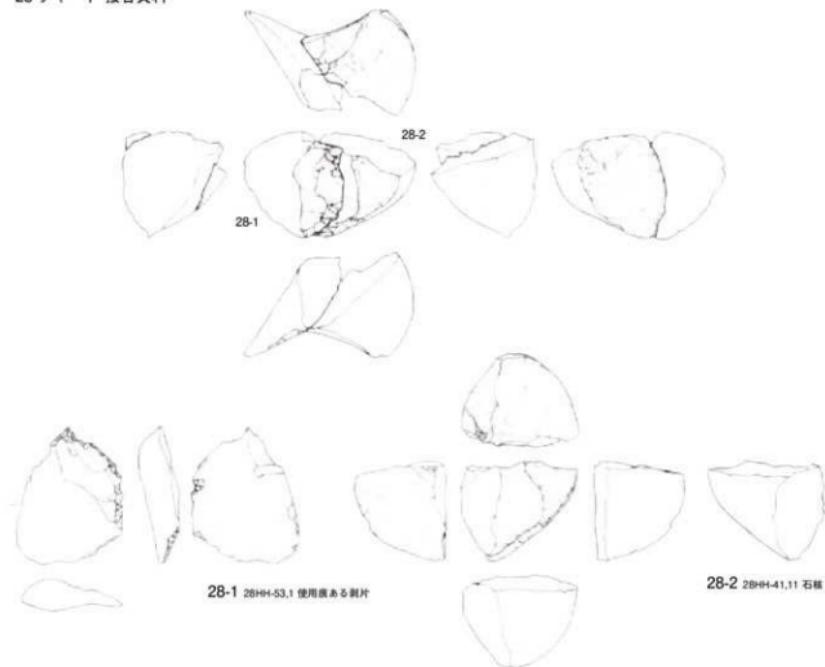


第198図 第35ブロック出土遺物(5)



第199図 第35ブロック出土遺物(6)

28 チャート 接合資料

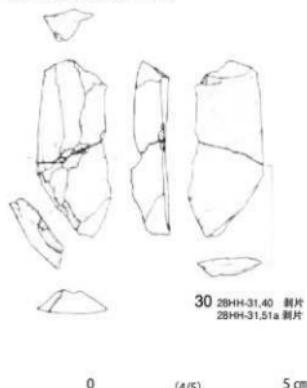


29 頁岩 接合資料



第200図 第35ブロック出土遺物(7)

30 黒色安山岩 接合資料



第41表 第35ブロック石器組成表

	ナイフ 形石器	角葉状 形器	調査用 ある剥片	剥片	碎片	石核	離片	合計	組成比
頁岩	1	1	27	2	2	2		35	44.30%
	0.78g	7.02g	31.74g	119.82g	0.98g	50.16g		213.50g	27.44%
ホルンフェルス	1			15	2	1		19	24.05%
	2.46g			167.77g	0.79g	112.32g		283.34g	36.42%
黒色安山岩				10	4	2		16	20.25%
				47.51g	3.24g	74.87g		125.62g	16.14%
安山岩(トロトロ石)						1		1	1.27%
						82.82g		82.82g	10.64%
チャート				6	1	1		8	10.13%
				56.21g	0.20g	16.31g		72.75g	9.36%
合計	2	1	2	58	9	7		79	100.00%
	324g	7.02g	34.74g	391.34g	5.21g	336.45g		778.03g	100.00%
組成比	25.3%	1.27%	2.53%	72.42%	11.39%	8.86%		100.00%	
	0.42%	0.90%	4.46%	50.30%	0.67%	43.25%		100.00%	
チャート						5	5	83.33%	
						15.92g	15.92g	95.90%	
流紋岩						1	1	16.67%	
						0.68g	0.68g	4.10%	
合計						6	6	100.00%	
						16.60g	16.60g	100.00%	
組成比						100.00%	100.00%		
						100.00%	100.00%		

21～24は石核である。21は頁岩製で、実測図裏面は節理状の剥離面が見られる。正面及び左右の側面には上方からの剥離が残る。22は頁岩製の小型石核で、剥片剥離の方向は多方向からである。頻繁に打面転移を行っていたと考えられる。23は黒色安山岩製の円礫を原石とし、原礫を分割後、に平坦面を打面とし連続的に剥片剥離を行っている。24は黒色安山岩製で上下に設定された打面から剥片剥離を行っている。

25は頁岩製の剥片1点と石核との接合資料である。25-1は中途より欠損し、末端部側のみ石核に接合するが、石核に残る剥離痕から欠損部を復元すると、縦長剥片として作出された剥片であることが理解できる。

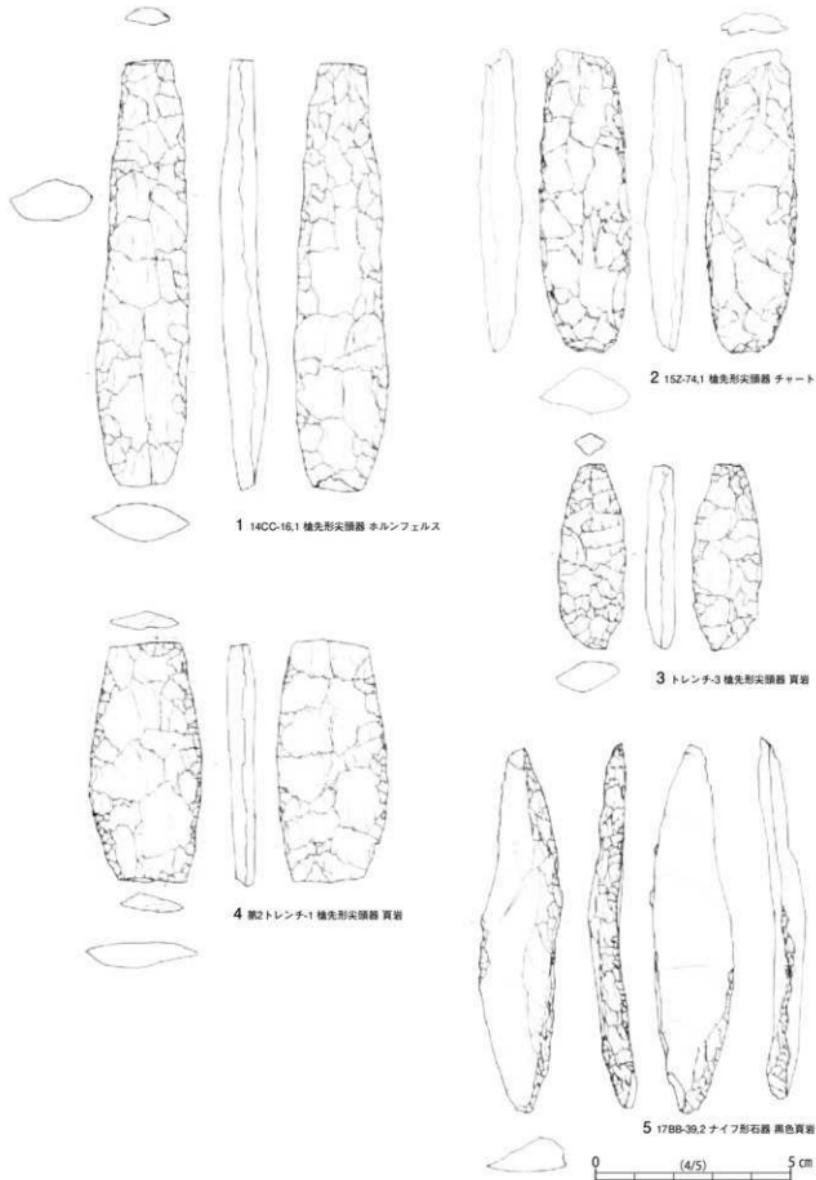
26は頁岩製の剥片2点と石核との接合資料である。26-1と26-2は同一打面からの作出であり、25の接合資料と同様に、連続的に縦長剥片を作出していることが理解できる。

27はホルンフェルス製の接合資料である。大型の礫素材であり、剥片1点と石核が接合する。剥片の打面と石核の最終打面には高低差があり、27-1の剥片を作出した後に打面再生を行い、更に剥片剥離を行っている。

28はチャート製の剥片1点と石核の接合資料である。小型礫の一部に打面を作出し、連続的に剥片を作出しており、剥片と石核の両者に原礫面が見られることから、原礫は5cm程の大きさであることが窺える。28-2の石核は、28-1作出後のネガティブ面を打面として剥片剥離を行っている。

29は頁岩製の接合資料である。同一打面から連続して作出された剥片2点の接合例で、中央部には明晰な稜が見られる。外側の剥片は打面を広く設定し作出しており、石核整形を目的とした剥片と考えられる。

30は黒色安山岩製の接合資料である。縦長剥片が中途より二分したものが接合している。人為的な折断によるものではなく、剥片剥離の際に二分したものである。

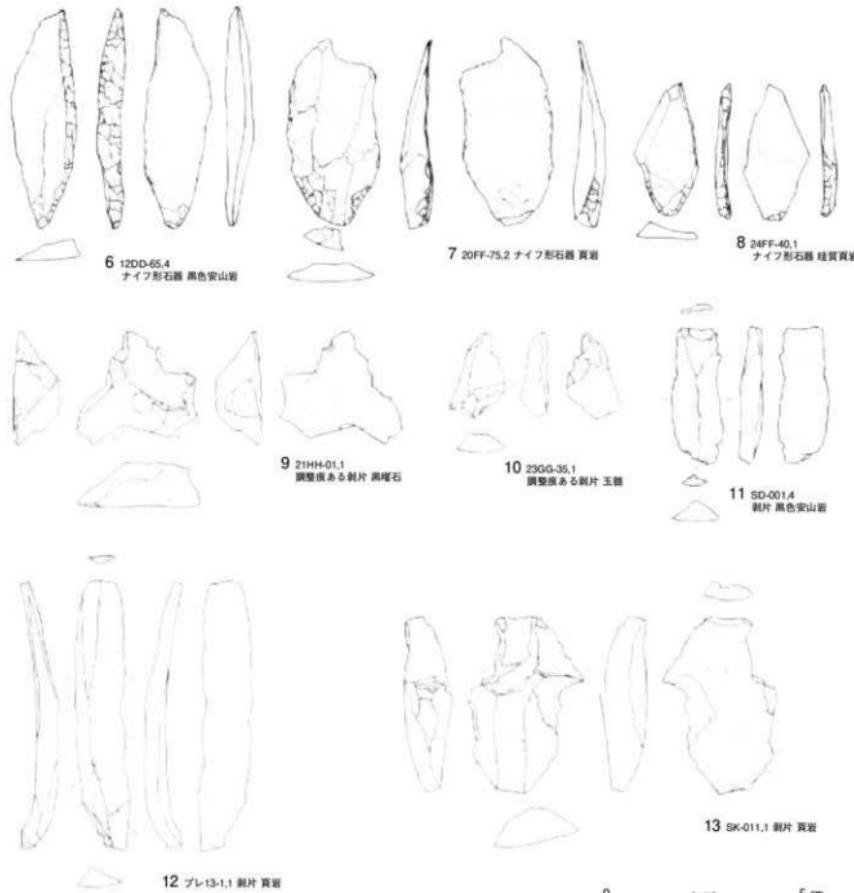


第201図 単独出土遺物(1)

単独出土遺物(第201~203図、第42表、図版137~139)

本遺跡の調査では、当該時期の石器が単独で数多く出土した。前述したブロックに属する可能性のある石器も見受けられるが、帰属させる根拠に欠けるため、それらを含め単独出土遺物として扱った。

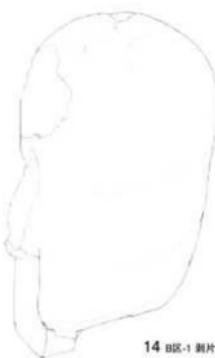
1~4は槍先形尖頭器である。1はホルンフェルス製で先端部及び基部が欠損する。裏面の中心部に素材剥片の剥離が見られ、大型の縦長剥片を素材としていることが窺える。各部位の断面形状はレンズ形である。2はチャート製で、先端部が欠損する。全面に調整が施され、最大厚はやや基部側に偏る。3は頁岩製で、先端部及び基部の一部が欠損する。両面ともに調整による剥離で占められ、横断面はやや部厚な感がある。4は頁岩製の木葉形尖頭器である。先端部及び基部が欠損する。調整は両面にわたり、断面形



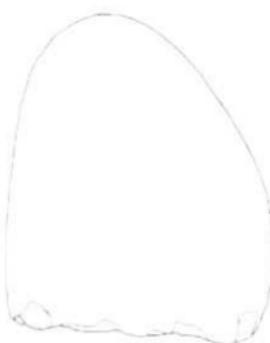
第202図 単独出土遺物(2)

状は薄いレンズ状である。

5～8はナイフ形石器である。5は黒色頁岩製で大型の縦長剥片を素材とし、両側縁に調整が施される。左側縁の調整は先端部～基部まで腹面側から施されるが、右側縁基部の調整は背面側から施される。腹面と背面の剥離の方向が真逆であることから、上下両端に打面を有する両極石核から作出された剥片を素材



14 B区-1 剥片 黒色安山岩



15 A-1.3 錐石 紗岩



第203図 単独出土遺物(3)

としていることが窺える。6は黒色安山岩製の縦長剥片を素材とし、調整は片側縁のみにとどまる。概して腹面側からの調整が施されるが、先端部付近は背面側から、基部には背面から腹面側への調整が認められる。7は頁岩製の縦長剥片を素材とし、素材剥片の打面側を基部として製品化される。調整は両側縁の基部付近にとどまり、腹面からの微細な調整が施される。8は珪質頁岩製の小型のナイフ形石器である。二側縁加工であり、素材剥片の打面は調整により除去される。

9・10は調整痕の認められる剥片である。9は透明度の高い黒曜石製で、部厚な不定形剥片の腹面側から荒い調整が施される。10は玉髓製の小型不定形剥片の打面を除去するような調整が施される。

11~14は剥片である。11は黒色安山岩、12・13は頁岩、14は黒色安山岩製で、いずれも縦長剥片である。12の背面を構成する剥離の方向は、腹面の剥離方向と同一であるため、同一方向にある打面から連続的に作出された剥片といえる。14の背面は原縫面で占められ、原縫を分割するように作出される。部厚な縦長剥片を素材とし、剥片末端部を先端部に設定し製品化している。先端部～基部にかけて丸みを帯び、基部が欠損するが、中央よりやや基部側に最大幅をもつ形状である。背腹両面に調整が見られ、先端部～左側縁に対して楕状剥離が認められる。

16は砂岩製の敲石である。扁平錐を素材とし、実測図中の下面図に見られる敲打による剥落痕の方向から、端部活用の垂直方向の使用ではなく、片面を利用した打撃であることが理解できる。

第42表 旧石器時代石器属性表

登録番号	分類	目	部番号	グレード	遺物名	出所	種	石材	資料番号	直管番号	単位:長・幅・厚(mm)				重量(g)	備考
											大	中	小	厚		
32	1	0100012	105.29	1	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.20	4.5	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	2	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.10	4.1	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	3	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	4.0	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	4	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	3.9	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	5	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	3.8	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	6	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	3.7	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	7	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	3.6	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	8	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	3.5	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	9	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	3.4	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	10	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	3.3	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	11	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	3.2	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	12	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	3.1	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	13	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	3.0	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	14	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	2.9	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	15	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	2.8	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	16	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	2.7	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	17	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	2.6	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	18	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	2.5	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	19	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	2.4	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	20	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	2.3	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	21	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	2.2	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	22	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	2.1	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	23	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	2.0	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	24	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	1.9	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	25	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	1.8	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	26	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	1.7	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	27	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	1.6	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	28	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	1.5	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	29	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	1.4	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	30	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	1.3	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	31	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	1.2	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	32	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	1.1	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	33	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	1.0	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	34	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	0.9	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	35	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	0.8	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	36	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	0.7	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	37	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	0.6	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	38	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	0.5	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	39	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	0.4	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	40	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	0.3	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	41	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	0.2	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	42	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	0.1	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	43	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	0.0	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	44	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-0.1	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	45	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-0.2	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	46	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-0.3	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	47	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-0.4	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	48	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-0.5	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	49	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-0.6	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	50	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-0.7	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	51	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-0.8	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	52	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-0.9	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	53	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-1.0	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	54	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-1.1	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	55	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-1.2	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	56	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-1.3	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	57	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-1.4	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	58	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-1.5	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	59	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-1.6	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	60	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-1.7	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	61	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-1.8	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	62	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-1.9	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	63	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-2.0	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	64	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-2.1	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	65	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-2.2	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	66	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-2.3	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	67	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-2.4	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	68	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-2.5	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	69	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-2.6	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	70	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-2.7	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	71	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-2.8	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	72	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-2.9	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	73	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-3.0	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	74	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-3.1	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	75	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-3.2	105.149	105.042	13.42		
32	1	0100012	105.29	76	縦片	日吉	縦片	日吉	105.29	7.00	-3.3	105.149	105.042	13.42		

品番	規格番号	アリヤー	表面仕様	種類	素材	母材番号	合計巻数	大巻数	前大巻	次大巻	余巻	%	N	产地		
02	5	005.75	14	鋼板	熱間圧延		26.00	20.00	8.00	0.00	10001.000	00000.002	13.26			
02	5	005.75	15	鋼板	冷間圧延	硬さ	5-D-0078	18.00	11.20	9.00	1.7	00001.073	00000.416	15.25		
02	5	005.75	16	鋼板	冷間圧延	軟	5-D-0072	22.00	13.10	8.00	3.00	0.00	10001.072	00000.232	13.27	
02	5	005.75	17	鋼板	冷間圧延	軟	5-D-0073	22.00	13.10	8.00	3.00	0.00	10001.073	00000.232	13.27	
02	5	005.75	18	鋼板	冷間圧延	軟	5-D-0074	22.00	13.10	8.00	3.00	0.00	10001.074	00000.232	13.27	
02	5	005.75	19	鋼板	熱間圧延	軟		17.00	10.80	5.00	1.2	00001.740	00001.000	0.53		
02	5	005.75	20	鋼板	冷間圧延	軟	5-D-0040	15.00	12.00	11.50	2.00	0.00	10001.269	00002.214	12.26	
02	5	005.75	21	鋼板	冷間圧延	柔軟		17.00	13.00	2.00	0.0	00001.754	00001.000	15.07		
02	5	005.75	22	鋼板	柔軟	柔		10.00	12.00	3.10	0.2	00001.699	00000.640	14.00		
02	5	005.75	23	鋼板	熱間圧延	柔軟		21.70	11.00	1.7%	0.0	00001.519	00000.643	13.04		
02	5	005.75	24	鋼板	熱間圧延	柔軟		27.00	23.00	0.70	0.0	00001.419	00000.321	15.20		
02	5	005.75	25	鋼板	熱間圧延	柔軟		2.00	2.00	2.00	0.0	00001.250	00000.264	14.00		
02	5	005.75	26	鋼板	柔軟	柔	5-D-0039	12.00	10.00	9.50	0.50	0.00	10001.760	00001.760	12.00	
02	5	005.75	27	鋼板	柔軟	柔	5-D-0039	12.00	10.00	9.50	0.50	0.00	10001.760	00001.760	12.00	
02	5	005.75	28	鋼板	柔軟	柔	5-D-0076	16.00	8.00	8.00	2.00	0.0	00001.629	00002.413	14.03	
02	5	005.75	29	鋼板	柔軟	柔	5-D-0076	17.00	10.00	8.00	1.00	0.00	10001.728	00001.500	15.00	
02	5	005.75	30	鋼板	柔軟	柔	5-D-0076	17.00	10.00	8.00	1.00	0.00	10001.728	00001.500	15.00	
02	5	005.75	31	鋼板	柔軟	柔	5-D-0076	25.00	21.00	6.00	2.00	0.00	10001.100	00000.054	15.00	
02	5	005.75	33	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	21.10	22.70	7.20	0.0	00001.363	00000.404	15.18		
02	5	005.75	34	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	24.00	12.00	7.80	0.0	00001.363	00000.404	15.18		
02	5	005.75	35	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	26.00	12.00	7.80	0.0	00001.363	00000.404	15.18		
02	5	005.75	36	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	27.00	12.00	7.80	0.0	00001.363	00000.404	15.18		
02	5	005.75	37	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	19.00	20.50	3.00	0.0	00001.213	00000.213	15.05		
02	5	005.75	38	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	8.00	5.00	3.00	0.0	00001.130	00000.213	14.99		
02	5	005.75	39	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	21.00	22.00	6.00	0.0	00001.613	00000.116	13.22		
02	5	005.75	40	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	14.70	15.00	6.00	0.0	00001.620	00000.263	15.20		
02	5	005.75	41	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	22.30	12.00	4.70	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	42	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	21.00	12.00	2.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	43	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	19.00	12.00	2.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	44	鋼板	柔軟	柔	5-D-0042	22.00	22.00	2.70	0.0	00001.995	00000.125	15.07		
02	5	005.75	45	鋼板	柔軟	柔	5-D-0042	12.00	8.00	2.10	0.0	00001.429	00000.123	13.34		
02	5	005.75	46	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	18.00	6.00	0.0	00001.703	00000.098	13.17		
02	5	005.75	47	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	17.00	12.00	2.70	0.0	00001.264	00000.063	13.16		
02	5	005.75	48	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	12.00	12.00	0.90	0.0	00001.704	00000.077	13.07		
02	5	005.75	49	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	26.70	22.00	1.10	0.0	00001.277	00000.081	14.49		
02	5	005.75	50	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	31.00	21.00	3.00	0.0	00001.777	00000.216	15.07		
02	5	005.75	51	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	0.90	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	52	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	30.00	20.00	0.70	0.0	00001.104	00000.190	15.00		
02	5	005.75	53	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	18.00	0.90	0.0	00001.754	00000.180	13.15		
02	5	005.75	54	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	12.00	0.0	1.80	0.0	00001.494	00000.113	13.09		
02	5	005.75	55	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	11.00	13.00	2.30	0.0	00001.809	00000.043	15.13		
02	5	005.75	56	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	19.00	18.00	1.00	0.0	00001.627	00000.090	15.05		
02	5	005.75	57	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	12.00	12.00	2.00	0.0	00001.969	00000.128	15.00		
02	5	005.75	58	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	59	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	7.00	10.00	0.90	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	60	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	0.90	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	61	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	11.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	62	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	63	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	64	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	65	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	66	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	67	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	68	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	69	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	70	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	71	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	72	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	73	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	74	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	75	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	76	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	77	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	78	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	79	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	80	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	81	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	82	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	83	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	84	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	85	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	86	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	87	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	88	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	89	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	90	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	91	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	92	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	93	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	94	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.75	95	鋼板	柔軟	柔	5-D-0043	10.00	12.00	1.00	0.0	00001.800	00000.077	14.00		
02	5	005.														

品目名	アーティスト	音符番号	音符番号	属性	楽器	石材	母音番号	貝合番号	最大太さ	最大幅	最大厚	重 量	X	Y	Z	備考	
32	6	111/00	37	静音	絃質直音	鉛			17.70	19.00	5.10	0.3	109001170	109001523	13.20		
32	6	111/00	50	静音	絃質直音	鉛			16.20	17.20	2.00	0.1	109002160	109001410	13.27		
32	6	111/00	60	静音	絃質直音	鉛			17.00	17.20	7.50	0.9	109002160	109012120	13.21		
32	6	0@00109	111/00	62	Gメロ	木			27.00	25.00	10.00	0.2	109002160	109001523	13.20		
32	6	111/00	63	静音	絃質直音	鉛			27.00	25.00	10.00	0.2	109002160	109001523	13.20		
32	6	111/00	64	静音	絃質直音	鉛			27.00	25.00	10.00	0.2	109002160	109001523	13.20		
32	6	111/00	65	静音	絃質直音	鉛			13.20	16.50	10.10	0.2	109001710	109003320	13.40		
32	6	111/00	67	静音	絃質直音	鉛			20.50	11.80	5.10	0.2	109002160	109012020	13.72		
32	6	111/00	68	静音	絃質直音	鉛			15.30	15.50	2.30	0.7	109002770	109003000	15.83		
32	6	111/00	69	静音	チャート	ホ-4	6@-0017					2.0	109001119	109012750	03.33		
32	6	111/00	70	静音	絃質直音	白木(木)			21.00	16.20	0.90	0.8	109001570	109021600	13.53		
32	6	111/00	72	静音	絃質直音	木			20.00	23.00	11.00	0.8	109001620	109012132	13.20		
32	6	111/00	73	静音	絃質直音	木			19.00	17.00	12.00	0.8	109001620	109012132	13.20		
32	6	111/00	74	静音	絃質直音	木			20.00	16.00	4.00	0.2	109001614	109001910	03.25		
32	6	111/00	75	静音	絃質直音	木			18.00	16.30	1.10	0.1	109001607	109012020	13.80		
32	6	111/00	76	静音	絃質直音	白木(木)			13.00	13.50	4.80	0.7	109002740	109021775	13.40		
32	6	111/00	77	静音	絃質直音	木			8.00	7.50	3.00	0.2	109001600	109000373	15.33		
32	6	111/00	80	静音	絃質直音	木			25.30	15.60	7.50	1.8	109001410	109017100	13.28		
32	6	111/00	81	+	静音	チャート	ホ-4	6@-0017	6@-0017	16.80	2.00	0.5	109001810	109001620	03.45		
32	6	111/00	81	5	静音	絃質直音	木		6@-0017	22.00	12.00	0.30	0.3	109001810	109001620	03.45	
32	6	111/00	82	静音	絃質直音	木			18.00	18.00	0.80	0.2	109001810	109001620	03.45		
32	6	111/00	83	静音	絃質直音	木			12.00	11.50	0.10	0.1	109001810	109001620	03.45		
32	6	111/00	84	静音	絃質直音	木			18.20	18.00	1.30	0.2	109001800	109013012	13.21		
32	6	111/00	85	静音	絃質直音	木			11.30	12.20	2.20	0.2	109001330	109021600	15.24		
32	6	0@00109	111/00	89	静音	絃音	ホ-4		20.30	17.00	8.30	2.7	109001930	109021000	13.53		
32	6	111/00	90	静音	絃質直音	木			11.00	9.00	3.30	0.3	109001111	109001600	13.15		
32	6	111/00	91	静音	絃質直音	木			6@-0017	22.00	10.00	2.00	0.3	109001240	109012100	13.57	
32	6	111/00	91	5	静音	絃質直音	木		6@-0017	22.00	12.00	0.30	0.3	109001240	109012100	13.57	
32	6	111/00	92	静音	絃質直音	木			18.00	18.00	0.80	0.2	109001240	109012100	13.57		
32	6	111/00	93	静音	絃質直音	木			12.00	11.50	0.10	0.1	109001240	109012100	13.57		
32	6	111/00	94	静音	絃質直音	木			12.00	11.50	0.10	0.1	109001240	109012100	13.57		
32	6	111/00	95	静音	絃質直音	木			18.00	18.00	1.30	0.2	109001240	109012100	13.57		
32	6	111/00	96	静音	絃質直音	木			11.30	12.20	2.20	0.2	109001330	109021600	15.24		
32	6	111/00	97	静音	絃質直音	木			10.00	10.00	0.80	0.2	109001330	109021600	15.24		
32	6	111/00	98	静音	絃質直音	木			12.00	11.00	0.80	0.2	109001330	109021600	15.24		
32	6	111/00	99	静音	絃質直音	木			12.00	11.00	0.80	0.2	109001330	109021600	15.24		
32	6	111/00	100	静音	絃質直音	木			12.00	11.00	0.80	0.2	109001330	109021600	15.24		
32	6	111/00	101	静音	絃質直音	木			12.00	11.00	0.80	0.2	109001330	109021600	15.24		
32	6	111/00	102	静音	絃質直音	木			12.00	11.00	0.80	0.2	109001330	109021600	15.24		
32	6	111/00	103	静音	絃質直音	木			12.00	11.00	0.80	0.2	109001330	109021600	15.24		
32	6	111/00	104	静音	絃音	ホ-4	6@-0017					0.2	109002640	109012221	13.03		
32	6	111/00	105	静音	絃音	鉛			11.30	15.00	7.20	0.9	109001130	109014010	13.32		
32	6	111/00	106	a	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	106	b	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	107	c	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	108	d	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	109	e	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	110	f	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	111	g	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	112	h	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	113	i	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	114	j	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	115	k	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	116	l	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	117	m	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	118	n	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	119	o	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	120	p	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	121	q	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	122	r	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	123	s	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	124	t	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	125	u	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	126	v	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	127	w	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	128	x	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	129	y	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	130	z	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	131	aa	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	132	bb	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	133	cc	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	134	dd	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	135	ee	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	136	ff	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	137	gg	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	138	hh	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	139	ii	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	140	jj	静音	絃音	ホ-4	6@-0017		12.00	6.00	2.00	0.2	109001400	109012370	03.10	
32	6	111/00	141														

品目 No.	アーティスト 名	機種 番号	音質 番号	性別	年 齢	石 材	片音 番号	片合 番号	曲大 曲	曲大 幅	曲大 厚	重 量	X	Y	Z	備 考			
																規 格	規 格	規 格	
30	19	18010-06	15	織田	チート	1801織1			1101	110212360			11084603				11791	映像	
30	19	18010-06	16	織田	波紋岩	1801織2			1102	110212309			11087780				11792	映像	
30	19	18010-06	17	織田	チート	1801織3			1103	110212348			11084780				11793	映像	
30	19	18010-06	18	織田	チート	1801織4			1104	110212365			11086023				11794	映像	
30	19	18010-06	19	織田	チート	1801織5			1105	110212365			11086023				11795	映像	
30	19	18010-06	20	織田	チート	1801織6			1106	110212365			11086023				11796	映像	
30	19	18010-06	21	織田	波日	1801織7			1107	110212406			11086023				11797	映像	
30	19	18010-06	22	織田	波日	1801織8			1108	110212406			11086023				11798	映像	
30	19	18010-06	23	織田	チート	1801織9			1109	110212416			11086023				11799	映像	
30	19	18010-06	24	織田	チート	1801織10			1110	110212416			11086023				11800	映像	
30	19	18010-06	25	織田	波日	1801織11			1111	110212406			11086023				11801	映像	
30	19	18010-06	26	織田	波日	1801織12			1112	110212406			11086023				11802	映像	
30	19	18010-06	27	織田	チート	1801織13			1113	110212406			11086023				11803	映像	
30	19	18010-06	28	織田	波日	1801織14			1114	110212406			11086023				11804	映像	
30	19	18010-06	29	織田	チート	1801織15			1115	110212406			11086023				11805	映像	
30	19	18010-06	30	石川	熱帯安山岩	1801石1			2010	201012003			20106027				11770	映像	
30	19	18010-06	31	織田	チート	1801織16			2011	201212453			21106027				11806	映像	
30	19	18010-06	32	織田	波紋岩	1801織17			2012	201212258			21106140				11807	映像	
30	19	18010-06	33	織田	チート	1801織18			2013	201212300			21106022				11808	映像	
30	19	18010-06	34	織田	チート	1801織19			2014	201212300			21106022				11809	映像	
30	19	18010-06	35	織田	波紋岩	1801織20			2015	201212300			21106241				11810	映像	
30	19	18010-06	36	織田	波日	1801織21			2016	201212300			21106241				11811	映像	
30	19	18010-06	37	織田	波日	1801織22			2017	201212300			21106241				11812	映像	
30	19	18010-06	38	織田	チート	1801織23			2018	201212300			21106241				11813	映像	
30	19	18010-06	39	織田	波紋岩	1801織24			2019	201212305			21105256				11814	映像	
30	19	18010-06	40	織田	チート	1801織25			2020	201212305			21105256				11815	映像	
30	19	18010-06	41	織田	波日	1801織26			2021	201212305			21105462				11816	映像	
30	19	18010-06	42	織田	チート	1801織27			2022	201212305			21105462				11817	映像	
30	19	18010-06	43	織田	波日	1801織28			2023	201212305			21105669				11818	映像	
30	19	18010-06	44	織田	チート	1801織29			2024	201212305			21105669				11819	映像	
30	19	18010-06	45	織田	チート	1801織30			2025	201212305			21105871				11820	映像	
30	19	18010-06	46	織田	波日	1801織31			2026	201212305			21105871				11821	映像	
30	19	18010-06	47	織田	チート	1801織32			2027	201212305			21105871				11822	映像	
30	19	18010-06	48	織田	チート	1801織33			2028	201212315			21106264				11823	映像	
30	19	18010-06	49	織田	波日	1801織34			2029	201212315			21106264				11824	映像	
30	19	18010-06	50	織田	波紋岩	1801織35			2030	201212315			21106264				11825	映像	
30	19	18010-06	51	織田	チート	1801織36			2031	201212315			21106264				11826	映像	
30	19	18010-06	52	織田	チート	1801織37			2032	201212315			21106264				11827	映像	
30	19	18010-06	53	織田	波日	1801織38			2033	201212315			21106264				11828	映像	
30	19	18010-06	54	織田	波日	1801織39			2034	201212315			21106264				11829	映像	
30	19	18010-06	55	織田	チート	1801織40			2035	201212315			21106264				11830	映像	
30	19	18010-06	56	織田	チート	1801織41			2036	201212315			21106264				11831	映像	
30	19	18010-06	57	織田	波紋岩	1801織42			2037	201212315			21106264				11832	映像	
30	19	18010-06	58	織田	チート	1801織43			2038	201212315			21106264				11833	映像	
30	19	18010-06	59	織田	波日	1801織44			2039	201212315			21106264				11834	映像	
30	19	18010-06	60	織田	波紋岩	1801織45			2040	201212315			21106264				11835	映像	
30	19	18010-06	61	織田	波紋岩	1801織46			2041	201212315			21106264				11836	映像	
30	19	18010-06	62	織田	波紋岩	1801織47			2042	201212315			21106264				11837	映像	
30	19	18010-06	63	織田	チート	1801織48			2043	201212315			21106264				11838	映像	
30	19	18010-06	64	織田	チート	1801織49			2044	201212315			21106264				11839	映像	
30	19	18010-06	65	織田	波日	1801織50			2045	201212315			21106264				11840	映像	
30	19	18010-06	66	織田	チート	1801織51			2046	201212315			21106264				11841	映像	
30	19	18010-06	67	織田	波日	1801織52			2047	201212315			21106264				11842	映像	
30	19	18010-06	68	織田	チート	1801織53			2048	201212315			21106264				11843	映像	
30	19	18010-06	69	織田	波日	1801織54			2049	201212315			21106264				11844	映像	
30	19	18010-06	70	織田	チート	1801織55			2050	201212315			21106264				11845	映像	
30	19	18010-06	71	織田	波日	1801織56			2051	201212315			21106264				11846	映像	
30	19	18010-06	72	織田	チート	1801織57			2052	201212315			21106264				11847	映像	
30	19	18010-06	73	織田	波日	1801織58			2053	201212315			21106264				11848	映像	
30	19	18010-06	74	織田	チート	1801織59			2054	201212315			21106264				11849	映像	
30	19	18010-06	75	織田	波日	1801織60			2055	201212315			21106264				11850	映像	
30	19	18010-06	76	織田	チート	1801織61			2056	201212315			21106264				11851	映像	
30	19	18010-06	77	織田	波日	1801織62			2057	201212315			21106264				11852	映像	
30	19	18010-06	78	織田	チート	1801織63			2058	201212315			21106264				11853	映像	
30	19	18010-06	79	織田	波日	1801織64			2059	201212315			21106264				11854	映像	
30	19	18010-06	80	織田	チート	1801織65			2060	201212315			21106264				11855	映像	
30	19	18010-06	81	織田	波日	1801織66			2061	201212315			21106264				11856	映像	
30	19	18010-06	82	織田	チート	1801織67			2062	201212315			21106264				11857	映像	
30	19	18010-06	83	織田	波日	1801織68			2063	201212315			21106264				11858	映像	
30	19	18010-06	84	織田	チート	1801織69			2064	201212315			21106264				11859	映像	
30	19	18010-06	85	織田	波日	1801織70			2065	201212315			21106264				11860	映像	
30	19	18010-06	86	織田	チート	1801織71			2066	201212315			21106264				11861	映像	
30	19	18010-06	87	織田	波日	1801織72			2067	201212315			21106264				11862	映像	
30	19	18010-06	88	織田	チート	1801織73			2068	201212315			21106264				11863	映像	
30	19	18010-06	89	織田	波日	1801織74			2069	201212315			21106264				11864	映像	
30	19	18010-06	90	織田	チート	1801織75													

品番	アーティスト名	歌詞番号	音符番号	性別	年齢	曲名	曲目番号	音符番号	最大太	最大幅	最大厚	面積	X	Y	Z	備考			
30	19	18030-66	110	難	成田君				0.5	112346.0		1106.397		13494					
30	19	18030-67	1	難					255	122120.0		1106.753		13494					
30	19	18030-67	2	難					119	122132.0		1106.802		13494					
14	20	18070-66	2	難					120	122120.0		1107.000		13497					
14	20	18070-67	3	難					167	122047.0		1107.207		13497					
14	20	18070-67	4	難					266	122030.0		1107.400		13497					
14	20	18070-67	5	難					137	122038.0		1107.429		13498					
14	20	18070-67	6	難					255	121999.0		1107.459		13497					
14	20	18070-67	7	難					260	121984.0		1107.477		13492					
14	20	01110007	8	難					61.30	3679	7.80	97	112084.0	112725.25	13494				
14	20	18070-68	9	難					2670	26.30	7.80	100	112099.0	112727.75	13497				
14	20	18070-68	10	難					100	112099.0		112728.0		13497					
14	20	18070-68	11	難					175	112094.0		1107.295		13497					
14	20	18070-68	12	難					961	112098.0		1107.352		13492					
14	20	18070-68	13	難					25.2	122077.0		112750.0		13494					
14	20	18070-68	14	難					11.30	31.90	3.20	94	112093.0	112748.0	13490				
14	20	18070-68	15	難					201	6.00		112086.0	112731.0	13490					
14	20	01110006	18070-69	2	難				51.10	26.40	9.00	85	112028.0	112730.0	13490				
14	20	01110008	18070-69	3	難				23.30	26.40	11.20	9.7	112034.0	112731.0	13488				
14	20	01110009	18070-69	4	難				30.40	26.40	7.60	2.2	112034.0	112731.0	13479				
14	20	18070-69	5	難					25.10	11.00	3.20	104	112093.0	112731.0	13479				
14	20	18070-69	6	難					25.20	10.80	16.60	122	112090.0	112732.0	13479				
14	20	18070-69	7	難					25.20	10.80	16.60	122	112090.0	112732.0	13479				
14	20	18070-69	8	難					25.20	10.80	16.60	122	112090.0	112732.0	13479				
14	20	18070-69	9	難					25.20	10.80	16.60	122	112090.0	112732.0	13479				
14	20	01110011	18070-69	11	難				201	41.12	28.10	16.20	100	22	112093.0	112736.0	13490		
14	20	01110012	18070-69	12	難				200	41.12	27.50	15.15	700	12	112093.0	112736.0	13490		
14	20	01110009	18070-69	13	難				20.10	37.80	18.00	100	11.60	11.60	11.60	13479			
14	20	18070-69	14	難					201	41.12		28.10	16.20	100	287	112093.0	112736.0	13490	
14	20	18070-69	15	難					201	41.12		28.10	16.20	100	367.8	112093.0	112736.0	13490	
14	20	18070-69	16	難					201	41.12		28.10	16.20	100	69	112093.0	112731.0	13494	
14	20	01110013	18070-69	17	難				14.90	33.00	11.00	172	112090.0	112736.0	13450				
14	20	18070-69	18	難					201	41.7			62.5	112093.0	112736.0	13460			
14	20	18070-69	19	難					201	41.7			196	112094.0	112736.0	13460			
14	20	18070-69	20	難					201	41.7			62.5	112093.0	112736.0	13460			
14	20	18070-69	21	難					11.00	35.00	8.00	100	11.00	11.00	11.00	13461			
14	20	18070-69	22	難					23.40	21.00	6.20	50	112022.0	112732.0	13469				
14	20	18070-69	23	難					12.40	3.60	2.00	93	112067.0	112712.0	13460				
14	20	18070-69	24	難					35.50	22.00	6.30	14	112064.0	112743.0	13460				
14	20	01110014	18070-69	25	難				69.00	56.00	20.00	564	112036.0	112743.0	13460				
14	20	18070-69	26	難					201	41.3			296.3	112034.0	112743.0	13460			
14	20	18070-69	27	難					201	41.3			92.8	112034.0	112743.0	13460			
14	20	18070-69	28	難					201	41.3			75.2	112034.0	112743.0	13460			
14	20	18070-69	29	難					201	41.3			80.3	112034.0	112743.0	13460			
14	20	18070-69	30	難					201	41.3			43	112067.0	112743.0	13465			
14	20	18070-69	31	難					22.00	21.30	7.20	27	112063.0	112750.0	13460				
14	20	18070-69	32	難					201	41.3			31.6	112034.0	112743.0	13460			
14	20	18070-69	33	難					201	41.3			11.0	112060.0	112743.0	13460			
14	20	01110012	18070-69	34	難				201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	35	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	01110011	18070-69	36	難				201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	37	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	38	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	39	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	40	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	01110012	18070-69	41	難				201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	42	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	43	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	44	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	45	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	46	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	47	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	48	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	49	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	50	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	51	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	52	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	53	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	54	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	55	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	56	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	57	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	58	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	59	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	60	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	61	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	62	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	63	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	64	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	65	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	66	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	67	難					201	41.12	28.20	30.30	19.00	13.4	112064.0	112743.0	13460		
14	20	18070-69	68	難			</td												

ブリード	登録番号	グリル名	登録者名	地図	施設名	品種	品種名	母馬番号	仔馬番号	性別	誕生日	初冠名	次冠名	父馬名	母馬名	出走回数	勝ち回数	逃げ回数	差し回数	人気	馬番	着順	着地
14	23	W12601H-2	20200-20	3	白鷹	岩手山	高齢	牡	3675	07/07	7:40	0.5	11/06/14	11/21/20	11985								
14	23	W12601H-6	20200-20	4	白鷹	岩手山	高齢	母	6500	05/30	30:30	0.75	11/09/03	11/23/21	11943								
14	23	W12601H-3	20200-20	2	白鷹	岩手山	高齢	母	11200	11/06	21:10	0.7	11/09/06	11/23/20	12329								
14	23	W12601H-5	20200-20	5	白鷹	岩手山	高齢	母	20000	05/30	30:30	0.75	11/09/04	11/23/20	12407								
14	23	W12601H-9	20200-20	6	白鷹	岩手山	高齢	母	230-00	05/30	30:30	0.75	11/09/01	11/23/04	12179								
14	23	W12601H-10	20200-20	7	白鷹	岩手山	高齢	母	200-00	05/30	30:30	0.75	11/09/31	11/23/01	12396								
14	23	W12601H-4	20200-20	4	白鷹	岩手山	高齢	母	3720	06/20	11:50	0.7	11/09/30	11/23/27	12723								
14	23	W12601H-8	20200-20	8	白鷹	岩手山	高齢	母	11300	06/20	19:50	0.5	11/09/26	11/23/51	12206								
14	23	W12601H-12	20200-20	6	白鷹	岩手山	高齢	母	2620	07/01	22:00	0.6	11/09/29	11/23/67	12306								
14	23	W12601H-2	1	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	牡	25,00	06/10	0:50	0.5	11/09/07	11/23/27	12655								
14	23	W12601H-3	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	1300	06/10	0:50	0.6	11/09/17	11/23/36	12777								
14	23	W12601H-4	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/04	11/23/01	12249								
14	23	W12601H-5	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/04	11/23/01	12051								
14	23	W12601H-6	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/04	11/23/01	12079								
14	23	W12601H-7	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/04	11/23/01	12381								
14	23	W12601H-8	1	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	牡	200-00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12640								
14	23	W12601H-9	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	250-00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12641								
14	23	W12601H-10	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12642								
14	23	W12601H-11	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12670								
14	23	W12601H-12	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12778								
14	23	W12601H-13	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12779								
14	23	W12601H-14	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12780								
14	23	W12601H-15	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12781								
14	23	W12601H-16	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12782								
14	23	W12601H-17	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12783								
14	23	W12601H-18	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12784								
14	23	W12601H-19	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12785								
14	23	W12601H-20	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12786								
14	23	W12601H-21	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12787								
14	23	W12601H-22	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12788								
14	23	W12601H-23	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12789								
14	23	W12601H-24	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12790								
14	23	W12601H-25	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12791								
14	23	W12601H-26	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12792								
14	23	W12601H-27	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12793								
14	23	W12601H-28	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12794								
14	23	W12601H-29	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12795								
14	23	W12601H-30	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12796								
14	23	W12601H-31	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12797								
14	23	W12601H-32	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12798								
14	23	W12601H-33	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12799								
14	23	W12601H-34	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12800								
14	23	W12601H-35	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12801								
14	23	W12601H-36	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12802								
14	23	W12601H-37	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12803								
14	23	W12601H-38	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12804								
14	23	W12601H-39	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12805								
14	23	W12601H-40	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12806								
14	23	W12601H-41	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12807								
14	23	W12601H-42	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12808								
14	23	W12601H-43	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12809								
14	23	W12601H-44	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12810								
14	23	W12601H-45	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12811								
14	23	W12601H-46	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12812								
14	23	W12601H-47	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12813								
14	23	W12601H-48	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12814								
14	23	W12601H-49	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12815								
14	23	W12601H-50	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12816								
14	23	W12601H-51	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12817								
14	23	W12601H-52	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12818								
14	23	W12601H-53	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12819								
14	23	W12601H-54	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12820								
14	23	W12601H-55	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12821								
14	23	W12601H-56	2	ブリード	白鷹	岩手山	高齢	母	11,00	06/10	0:50	0.5	11/09/27	11/23/26	12822								

ブロック番号	ブロック名	岩相	地質	層	層番	層番号	層厚	底面高	頂面高	高さ	X	Y	Z	地	
13	2ブロック	40	砂岩	礁岩带							11430.169	11305.47	11005	礁	
13	2ブロック	30	礁岩	チャート		2Dブロック1		860	11203.221	11035.59		12507		礁	
13	2ブロック	31	礁岩	礁岩带		2Dブロック2		113	11193.99	11036.719		11079		礁	
13	2ブロック	32	礁岩	礁岩带		2Dブロック3		212	11193.99	11036.719		11079		礁	
13	2ブロック	32	礁岩	礁岩带		2Dブロック4		66	11193.115	11036.69		11064		礁	
13	2ブロック	33	礁岩	砂岩				60	11193.005	11036.69		11065		礁	
13	2ブロック	34	礁岩	砂岩				18	11193.00	11036.779		11065		礁	
13	2ブロック	35	礁岩	砂岩		2Dブロック5		95	11193.49	11036.779		11065		礁	
13	2ブロック	36	礁岩	砂岩				12	11193.075	11036.64		11128		礁	
13	2ブロック	37	礁岩	砂岩				10	11193.075	11036.64		11128		礁	
13	2ブロック	37	礁岩	砂岩				23.10	2029.80	18.60	31	11193.65	11037.836	11316	
13	2ブロック	38	礁岩	礁石帶				26.20	2133.0	7.90	60	11193.102	11036.364	12093	
13	2ブロック	39	礁岩	礁石帶				26.00	2031.80	19.80	27	11193.102	11036.364	12093	
13	2ブロック	40	礁岩	礁石帶				21.00	2139.0	5.90	57	11193.095	11036.095	12076	
13	2ブロック	41	礁岩	礁石帶				17	11193.095	11036.095		12076			
13	2ブロック	42	礁岩	砂岩				62	11193.275	11035.437		11243		礁	
13	2ブロック	43	礁岩	礁石帶				29	11193.075	11036.09		12076		礁	
13	2ブロック	44	礁岩	チャート		2Dブロック12		11	11193.975	11035.512		11243		礁	
13	2ブロック	45	礁岩	礁石帶				21.00	2131.30	7.40	53	11193.025	11036.394	12075	
13	2ブロック	46	礁岩	礁石帶				13	11193.025	11036.394		12075			
13	2ブロック	47	礁岩	チャート		2Dブロック12		11	11193.025	11036.394		12075			
13	2ブロック	48	礁岩	砂岩				77	11193.095	11036.370		12075		礁	
13	2ブロック	49	礁岩	礁石帶				18	11193.075	11036.30		12049		礁	
13	2ブロック	50	礁岩	礁石帶				32	11193.075	11036.711		12054		礁	
13	2ブロック	51	礁岩	礁石帶				17.63	11243.02	11139.04		12124		礁	
13	2ブロック	52	礁岩	砂岩				29	11193.075	11036.09		12076		礁	
13	2ブロック	53	礁岩	砂岩				29	11193.075	11036.779		11085		礁	
13	2ブロック	54	礁岩	砂岩				18	11193.05	11036.779		11085		礁	
13	2ブロック	55	礁岩	砂岩				55	11193.49	11036.779		11086		礁	
13	2ブロック	56	礁岩	砂岩				12	11193.075	11036.64		11128		礁	
13	2ブロック	57	礁岩	砂岩				10	11193.075	11036.64		11128		礁	
13	2ブロック	57	礁岩	砂岩				23.10	2029.80	18.60	31	11193.65	11037.836	11316	
13	2ブロック	58	礁岩	礁石帶				26.20	2133.0	7.90	60	11193.102	11036.364	12093	
13	2ブロック	59	礁岩	礁石帶				26.00	2031.80	19.80	27	11193.102	11036.364	12093	
13	2ブロック	60	礁岩	礁石帶				21.00	2139.0	5.90	57	11193.095	11036.095	12076	
13	2ブロック	61	礁岩	砂岩				17	11193.095	11036.095		12076			
13	2ブロック	62	礁岩	砂岩				62	11193.275	11035.437		11243		礁	
13	2ブロック	63	礁岩	礁石帶				29	11193.075	11036.09		12076		礁	
13	2ブロック	64	礁岩	チャート		2Dブロック12		11	11193.975	11035.512		11243		礁	
13	2ブロック	65	礁岩	礁石帶				21.00	2131.30	7.40	53	11193.025	11036.394	12075	
13	2ブロック	66	礁岩	礁石帶				13	11193.025	11036.394		12075			
13	2ブロック	67	礁岩	砂岩				77	11193.095	11036.370		12075		礁	
13	2ブロック	68	礁岩	砂岩				18	11193.075	11036.30		12049		礁	
13	2ブロック	69	礁岩	礁石帶				32	11193.075	11036.711		12054		礁	
13	2ブロック	70	礁岩	礁石帶				17.63	11243.02	11139.04		12124		礁	
13	2ブロック	71	礁岩	礁石帶				29	11193.075	11036.09		12076		礁	
13	2ブロック	72	礁岩	砂岩				29	11193.075	11036.779		11085		礁	
13	2ブロック	73	礁岩	礁石帶				18	11193.05	11036.779		11085		礁	
13	2ブロック	74	礁岩	砂岩				62	11193.275	11035.437		11243		礁	
13	2ブロック	75	礁岩	チャート				53	11193.49	11036.779		11086		礁	
13	2ブロック	76	礁岩	砂岩				27	11193.075	11036.09		12076		礁	
13	2ブロック	77	礁岩	チャート		2Dブロック1		29	11193.075	11036.09		12076		礁	
13	2ブロック	78	礁岩	砂岩				19.70	2131.30	7.40	60	11193.135	11036.320	12093	
13	2ブロック	79	礁岩	礁石帶				66	11193.364	11036.415		12090		礁	
13	2ブロック	80	礁岩	砂岩				18	11193.364	11036.415		12090		礁	
13	2ブロック	81	礁岩	礁石帶				27	11193.364	11036.415		12090		礁	
13	2ブロック	82	礁岩	礁石帶				22.00	2130.00	11.00	62	11193.125	11035.803	12151	
13	2ブロック	83	礁岩	礁石帶				27.20	2030.70	7.00	58	11193.025	11035.803	12075	
13	2ブロック	84	礁岩	礁石帶				5.00	11193.00	9.00	62	11193.190	11035.900	12150	
13	2ブロック	85	礁岩	礁石帶				30.00	2130.00	11.00	66	11193.083	11036.083	12150	
13	2ブロック	86	礁岩	礁石帶				25.00	2130.00	11.00	62	11193.125	11035.803	12151	
13	2ブロック	87	礁岩	礁石帶				27.20	2030.70	7.00	58	11193.025	11035.803	12075	
13	2ブロック	88	礁岩	礁石帶				5.00	11193.00	9.00	62	11193.190	11035.900	12150	
13	2ブロック	89	礁岩	礁石帶				30.00	2130.00	11.00	66	11193.083	11036.083	12150	
13	2ブロック	90	礁岩	礁石帶				25.00	2130.00	11.00	62	11193.125	11035.803	12151	
13	2ブロック	91	礁岩	礁石帶				27.20	2030.70	7.00	58	11193.025	11035.803	12075	
13	2ブロック	92	礁岩	礁石帶				5.00	11193.00	9.00	62	11193.190	11035.900	12150	
13	2ブロック	93	礁岩	礁石帶				30.00	2130.00	11.00	66	11193.083	11036.083	12150	
13	2ブロック	94	礁岩	礁石帶				25.00	2130.00	11.00	62	11193.125	11035.803	12151	
13	2ブロック	95	礁岩	礁石帶				27.20	2030.70	7.00	58	11193.025	11035.803	12075	
13	2ブロック	96	礁岩	礁石帶				5.00	11193.00	9.00	62	11193.190	11035.900	12150	
13	2ブロック	97	礁岩	礁石帶				30.00	2130.00	11.00	66	11193.083	11036.083	12150	
13	2ブロック	98	礁岩	礁石帶				25.00	2130.00	11.00	62	11193.125	11035.803	12151	
13	2ブロック	99	礁岩	礁石帶				27.20	2030.70	7.00	58	11193.025	11035.803	12075	
13	2ブロック	100	礁岩	礁石帶				5.00	11193.00	9.00	62	11193.190	11035.900	12150	
13	2ブロック	101	礁岩	礁石帶				30.00	2130.00	11.00	66	11193.083	11036.083	12150	
13	2ブロック	102	礁岩	礁石帶				25.00	2130.00	11.00	62	11193.125	11035.803	12151	
13	2ブロック	103	礁岩	礁石帶				27.20	2030.70	7.00	58	11193.025	11035.803	12075	
13	2ブロック	104	礁岩	礁石帶				5.00	11193.00	9.00	62	11193.190	11035.900	12150	
13	2ブロック	105	礁岩	礁石帶				30.00	2130.00	11.00	66	11193.083	11036.083	12150	
13	2ブロック	106	礁岩	礁石帶				25.00	2130.00	11.00	62	11193.125	11035.803	12151	
13	2ブロック	107	礁岩	礁石帶				27.20	2030.70	7.00	58	11193.025	11035.803	12075	
13	2ブロック	108	礁岩	礁石帶				5.00	11193.00	9.00	62	11193.190	11035.900	12150	
13	2ブロック	109	礁岩	礁石帶				30.00	2130.00	11.00	66	11193.083	11036.083	12150	
13	2ブロック	110	礁岩	礁石帶				25.00	2130.00	11.00	62	11193.125	11035.803	12151	
13	2ブロック	111	礁岩	礁石帶				27.20	2030.70	7.00	58	11193.025	11035.803	12075	
13	2ブロック	112	礁岩	礁石帶				5.00	11193.00	9.00	62	11193.190	11035.900	12150	
13	2ブロック	113	礁岩	礁石帶				30.00	2130.00	11.00	66	11193.083	11036.083	12150	
13	2ブロック	114	礁岩	礁石帶				25.00	2130.00	11.00	62	11193.125	11035.803	12151	
13	2ブロック	115	礁岩	礁石帶				27.20	2030.70	7.00	58	11193.025	11035.803	12075	
13	2ブロック	116	礁岩	礁石帶				5.00	11193.00	9.00	62	11193.190	11035.900	12150	
13	2ブロック	117	礁岩	礁石帶				30.00	2130.00	11.00	66	11193.083	11036.083	12150	
13	2ブロック	118	礁岩	礁石帶				25.00	2130.00	11.00	62	11193.125	11035.803	12151	
13	2ブロック	119	礁岩	礁石帶				27.20	2030.70	7.00	58	11193.025	11035.803	12075	
13	2ブロック	120	礁岩	礁石帶				5.00	11193.00	9.00	62	11193.190	11035.900	12150	
13	2ブロック	121	礁岩	礁石帶				30.00	2130.00	11.00	66	11193.083	11036.083	12150	
13	2ブロック	122	礁岩	礁石帶				25.00	2130.00	11					

測量点番号	アリーナ番号	測量番号	地性	垂尺	石材	母岩番号	母岩名	最高大さ	最大幅	最大厚	面積	X	Y	Z	備考	
14	27	249741	30	砂質	黒曜石	(高樹) A		8.00	6.30	2.00	0.1	11447166	112944006	15.649		
14	27	249741	37	澱石	黒曜石	(高樹) A		17.70	12.30	5.90	1.6	11447301	112944776	15.710		
14	27	249741	38	澱石	黒曜石	(高樹) A		15.00	22.20	6.70	2.5	11447403	112944675	15.592		
14	27	249741	41	砂質	黒曜石	(高樹) A		10.00	10.00	1.00	0.1	11447404	112944676	15.593		
14	27	249741	42	砂質	黒曜石	(高樹) A		15.20	15.10	2.00	1.2	11447405	112944677	15.578		
14	27	249741	44	砂質	黒曜石	(高樹) A		8.70	6.00	2.00	0.1	11447406	112944678	15.563		
14	27	249741	45	澱石	黒曜石	(高樹) A		17.00	13.50	6.00	2.2	11447407	112944779	15.720		
14	27	249741	47	砂質	黒曜石	(高樹) A		10.00	14.00	0.80	1.0	11447408	112944802	15.642		
14	27	249741	53	砂質	黒曜石	(高樹) A		12.00	6.50	1.50	0.2	11447353	112944699	15.720		
14	27	249741	54	砂質	黒曜石	(高樹) A		3.00	3.00	3.00	0.1	11447473	112944792	15.796		
14	27	249741	55	砂質	黒曜石	(高樹) A		20.00	20.00	2.00	0.1	11447474	112944793	15.797		
14	27	249741	57	砂質	黒曜石	(高樹) A		6.00	11.00	3.00	0.2	11447409	112944812	15.627		
14	27	249741	58	n	砂質	黒曜石	(高樹) A	7.30	11.10	5.00	0.2	11447408	112944803	15.718		
14	27	249741	60	砂質	黒曜石	(高樹) A		11.00	14.20	3.70	0.6	11447262	112944769	15.570		
14	27	249741	61	砂質	黒曜石	(高樹) A		13.70	7.00	2.00	0.2	11447409	112944804	15.668		
14	27	249742	3	澱石	黒曜石	黒曜石	27145222	17.00	29.00	0.80	0.3					
14	27	249742	4	砂質	黒曜石	(高樹) B	27145223	28.10	25.30	15.00	1.0	11444323	112944003	15.795		
14	27	249742	5	n	石質	黒曜石	27145223	23.50	33.00	21.30	1.5	11444322	112944002	15.690		
14	27	249742	6	n	砂質	黒曜石	27145223	22.00	22.00	2.00	0.2	11444321	112944001	15.590		
14	27	249742	7	n	砂質	黒曜石	27145223	3.00	1.50	0.50	0.1	11444322	112944003	15.695		
14	27	249742	8	澱石	黒曜石	黒曜石	27145223	32.00	20.20	9.00	2.2	11444308	112944823	15.620		
14	27	249742	9	砂質	黒曜石	黒曜石	27145223	14.00	9.00	0.80	0.6	11444343	112944603	15.598		
14	27	249742	10	澱石	黒曜石	黒曜石	27145223	25.00	18.00	0.80	0.2	11444366	112944804	15.595		
14	27	249742	11	n	砂質	黒曜石	27145223	9.00	18.00	2.00	0.2	11444367	112944805	15.566		
14	27	249742	12	澱石	黒曜石	黒曜石	27145223	13.00	7.00	0.80	0.2	11444375	112944761	15.515		
14	27	249742	13	n	砂質	黒曜石	27145223	9.00	3.00	4.00	0.1	11444306	112944338	15.522		
14	27	249742	14	澱石	黒曜石	黒曜石	27145213	33.00	12.70	6.20	0.5	11444116	112944302	15.528		
14	27	249742	15	澱石	黒曜石	黒曜石	27145213	20.70	12.00	7.00	1.5	11444235	112944796	15.520		
14	27	249742	16	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	14.00	16.20	3.40	0.5	11444076	112944606	15.495		
14	27	249742	18	n	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	21.00	0.50	1.00	0.2	11444068	112944531	15.545	
14	27	249742	19	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	5.00	11.50	2.80	0.1	11444068	112944532	15.541		
14	27	249742	20	澱石	黒曜石	黒曜石	27145213	30.00	18.00	0.80	2.2	11444045	112944797	15.549		
14	27	249742	21	n	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	25.20	8.20	2.10	0.2	11444309	112944630	15.540	
14	27	249742	22	n	澱石	黒曜石	27145213	80.40	40.00	13.00	1.7	11444345	112944689	15.560		
14	27	249742	23	n	澱石	黒曜石	27145213	35.00	37.00	3.60	0.7	11444352	112944681	15.560		
14	27	249742	24	n	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	20.00	12.50	3.00	0.2	11444354	112944517	15.570	
14	27	249742	25	n	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	10.00	16.70	2.00	0.2	11444363	112944503	15.577	
14	27	249742	26	n	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	4.00	5.00	4.20	0.1	11444368	112944521	15.573	
14	27	249742	27	n	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	10.00	9.00	4.00	0.1	11444370	112944517	15.569	
14	27	249742	28	n	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	23.00	11.00	8.00	1.0	11444377	112944398	15.522	
14	27	249742	29	n	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	11.00	8.20	3.00	0.2	11444378	112944752	15.662	
14	27	249742	30	n	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	7.00	5.00	2.20	0.1	11444373	112944283	15.557	
14	27	249742	31	n	砂質	黒曜石	黒曜石	27145213	9.00	20.00	0.80	0.2	11444365	112944797	15.549	
14	27	249742	34	n	砂質	黒曜石	27145213	6.00	10.10	29.00	0.5	11444364	112944823	15.548		
14	27	249742	35	n	澱石	黒曜石	27145213	9.00	20.00	0.80	0.2	11444368	112944828	15.573		
14	27	249742	36	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	17.00	7.70	0.7	11444369	112944840	15.582		
14	27	249742	37	n	砂質	黒曜石	27145213	8.00	17.00	7.00	0.7	11444371	112944841	15.579		
14	27	249742	38	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	20.00	0.80	0.2	11444372	112944842	15.579		
14	27	249742	39	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444373	112944843	15.579		
14	27	249742	40	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444374	112944844	15.579		
14	27	249742	41	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444375	112944845	15.579		
14	27	249742	42	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444376	112944846	15.579		
14	27	249742	43	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444377	112944847	15.579		
14	27	249742	44	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444378	112944848	15.579		
14	27	249742	45	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444379	112944849	15.579		
14	27	249742	46	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444380	112944850	15.579		
14	27	249742	47	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444381	112944851	15.579		
14	27	249742	48	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444382	112944852	15.579		
14	27	249742	49	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444383	112944853	15.579		
14	27	249742	50	n	砂質	黒曜石	27145213	10.00	18.00	0.80	0.2	11444384	112944854	15.579		
14	27	249742	51	n	砂質	黒曜石	27145213	23.00	19.00	4.10	1.0	11444398	112944859	15.569		
14	27	249742	52	n	砂質	黒曜石	27145213	26.30	27.00	12.20	0.4	11444327	112944147	15.379		
14	27	249742	53	n	砂質	黒曜石	27145213	25.00	26.00	0.30	0.1	11444319	112944362	15.362		
14	27	249742	54	n	砂質	黒曜石	27145213	27.00	27.00	8.00	0.2	11444323	112944160	15.362		
14	27	249742	55	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444319	112944394	15.394		
14	27	249742	56	n	砂質	黒曜石	27145213	13.00	13.00	1.10	0.2	11444350	112944253	15.399		
14	27	249742	57	n	砂質	黒曜石	27145213	25.00	27.00	10.00	0.4	11444360	112944287	15.400		
14	27	249742	58	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444361	112944288	15.400		
14	27	249742	59	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444362	112944289	15.400		
14	27	249742	60	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444363	112944290	15.400		
14	27	249742	61	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444364	112944291	15.400		
14	27	249742	62	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444365	112944292	15.400		
14	27	249742	63	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444366	112944293	15.400		
14	27	249742	64	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444367	112944294	15.400		
14	27	249742	65	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444368	112944295	15.400		
14	27	249742	66	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444369	112944296	15.400		
14	27	249742	67	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444370	112944297	15.400		
14	27	249742	68	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444371	112944298	15.400		
14	27	249742	69	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444372	112944299	15.400		
14	27	249742	70	n	砂質	黒曜石	27145213	20.00	20.00	0.80	0.2	11444373	11			

品番	アリーナ番号	アリーナ番号	施設名	性別	年齢	石材	付番	料番	料合番号	最大太さ	最大幅	最大厚	重 量	X	Y	Z	備考
12	27	249742	72	静岡	黒曜石	高耐				9.00	9.00	1.00	0.2	111444095	11251300		15.307
12	27	249742	73	静岡	黒曜石	高耐				5.10	6.00	2.00	0.15	111444170	11251271		15.525
12	27	249742	74	a 静岡	黒曜石	高耐				11.30	27.00	7.20	0.1	111444796	11251732		15.400
12	27	249742	75	b 静岡	黒曜石	高耐				12.00	22.00	10.00	0.15	111444500	11251423		15.400
12	27	249742	76	c 静岡	黒曜石	高耐				7.20	7.00	2.00	0.12	111444795	11251735		15.400
12	27	249742	77	d 静岡	黒曜石	高耐				10.00	8.00	2.00	0.12	111444796	11251736		15.700
12	27	249742	78	e 静岡	黒曜石	高耐				8.00	6.70	1.80	0.11	111444307	11251470		15.350
12	27	249742	79	f 静岡	黒曜石	高耐				3.00	3.00	0.90	0.15	111443207	11251470		15.350
12	27	111444214	249742	80	静岡	黒曜石	高耐			27.00	20.00	11.50	2.00	111444412	11251466		15.300
12	27	111444229	249742	81	静岡	黒曜石	高耐			27.00	20.00	11.50	2.00	111444413	11251466		15.300
12	27	249742	82	静岡	黒曜石	高耐				12.00	12.00	2.00	0.12	111444400	11251292		15.573
12	27	249742	83	静岡	黒曜石	高耐				20.00	11.90	8.10	0.12	111445406	11251253		15.567
12	27	249742	84	静岡	黒曜石	高耐				27.00	20.00	8.00	0.16	111445403	11251360		15.537
12	27	111444303	249742	85	静岡	黒曜石	高耐			22.50	18.20	7.90	0.14	111445748	11251472		15.549
12	27	111444304	249742	86	静岡	黒曜石	高耐			27.00	20.00	8.00	0.16	111445403	11251360		15.577
12	27	249742	87	静岡	チャート	高耐				10.00	20.00	6.00	0.16	111445411	11251794		15.375
12	27	249742	88	静岡	チャート	高耐				10.00	20.00	7.20	0.16	111445412	11251794		15.375
12	27	249742	89	静岡	チャート	高耐				10.00	20.00	7.20	0.16	111445413	11251794		15.375
12	27	249742	90	静岡	チャート	高耐				11.00	20.00	7.20	0.16	111445414	11251794		15.375
12	27	249742	91	静岡	チャート	高耐				4.00	2.70	1.40	0.16	111445277	11251501		15.005
12	27	249742	92	静岡	チャート	高耐				15.00	9.00	7.00	0.16	111445174	11251317		15.000
12	27	249742	93	静岡	チャート	高耐				15.00	9.00	7.00	0.16	111445175	11251318		15.500
12	27	249742	94	静岡	チャート	高耐				10.00	17.50	5.10	0.16	111445434	11251493		15.391
12	27	249742	95	静岡	チャート	高耐				20.00	10.00	5.30	0.16	111445407	11251792		15.320
12	27	249742	96	静岡	チャート	高耐				7.00	12.00	6.00	0.16	111445408	11251792		15.320
12	27	111444311	249742	97	静岡	チャート	高耐			15.00	11.70	5.00	0.16	111445154	11251493		15.300
12	27	249742	98	静岡	チャート	高耐				15.00	22.50	5.00	0.16	111445400	11251715		15.337
12	27	249742	99	静岡	チャート	高耐				5.00	6.00	2.10	0.16	111445190	11251460		15.366
12	27	249742	100	静岡	チャート	高耐				3.00	6.50	1.70	0.16	111445153	11251427		15.517
12	27	249742	101	静岡	チャート	高耐				6.00	6.00	2.00	0.16	111445160	11251316		15.300
12	27	249742	102	静岡	チャート	高耐				6.00	6.00	1.80	0.16	111445093	11251319		15.300
12	27	249742	103	静岡	チャート	高耐				22.00	11.80	6.30	0.16	111445224	11251330		15.300
12	27	249742	104	静岡	チャート	高耐				7.00	12.00	6.00	0.16	111445424	11251427		15.375
12	27	249742	105	静岡	チャート	高耐				6.00	6.00	2.00	0.16	111445165	11251400		15.367
12	27	249742	106	静岡	チャート	高耐				11.00	13.00	1.20	0.16	111445237	11251742		15.370
12	27	249742	107	静岡	チャート	高耐				3.00	3.00	2.00	0.16	111445105	11251800		15.334
12	27	249742	108	静岡	チャート	高耐				4.00	9.00	2.00	0.16	111445259	11251827		15.340
12	27	249742	109	静岡	チャート	高耐				7.00	10.10	4.00	0.16	111445320	11251300		15.365
12	27	111444314	249742	110	静岡	チャート	高耐			8.00	12.00	4.00	0.16	111445116	11251300		15.300
12	27	111444315	249742	111	静岡	チャート	高耐			16.70	17.70	2.00	0.16	111445094	11251302		15.302
12	27	249742	112	静岡	チャート	高耐				10.00	10.00	4.00	0.16	111445117	11251302		15.302
12	27	249742	113	静岡	チャート	高耐				6.00	6.00	2.00	0.16	111445162	11251300		15.300
12	27	249742	114	静岡	チャート	高耐				6.00	6.00	2.00	0.16	111445156	11251300		15.300
12	27	249742	115	静岡	チャート	高耐				11.00	18.00	7.00	0.16	111445095	11251300		15.300
12	27	249742	116	静岡	チャート	高耐				11.00	18.00	7.00	0.16	111445096	11251300		15.300
12	27	249742	117	静岡	チャート	高耐				12.00	18.00	6.00	0.16	111445117	11251282		15.344
12	27	249742	118	静岡	チャート	高耐				11.00	22.00	3.00	0.16	111445147	11251445		15.430
12	27	249742	119	静岡	チャート	高耐				14.70	14.00	4.00	0.16	111445155	11251300		15.300
12	27	249742	120	静岡	チャート	高耐				14.70	14.00	2.00	0.16	111445028	11251302		15.301
12	27	249742	121	静岡	チャート	高耐				10.00	10.00	4.00	0.16	111445118	11251302		15.302
12	27	249742	122	静岡	チャート	高耐				7.00	10.00	4.00	0.16	111445120	11251302		15.302
12	27	249742	123	静岡	チャート	高耐				7.00	10.00	4.00	0.16	111445121	11251302		15.302
12	27	249742	124	静岡	チャート	高耐				7.00	10.00	4.00	0.16	111445122	11251302		15.302
12	27	249742	125	静岡	チャート	高耐				7.00	10.00	4.00	0.16	111445123	11251302		15.302
12	27	249742	126	静岡	チャート	高耐				7.00	10.00	4.00	0.16	111445124	11251302		15.302
12	27	249742	127	静岡	チャート	高耐				7.00	10.00	4.00	0.16	111445125	11251302		15.302
12	27	249742	128	静岡	チャート	高耐				7.00	10.00	4.00	0.16	111445126	11251302		15.302
12	27	249742	129	静岡	チャート	高耐				7.00	10.00	4.00	0.16	111445127	11251302		15.302
12	27	249742	130	静岡	チャート	高耐				7.00	10.00	4.00	0.16	111445128	11251302		15.302
12	27	111444308	249742	131	静岡	チャート	高耐			12.00	10.00	4.00	0.16	111445129	11251302		15.302
12	27	249742	132	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445130	11251302		15.302
12	27	249742	133	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445131	11251302		15.302
12	27	249742	134	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445132	11251302		15.302
12	27	249742	135	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445133	11251302		15.302
12	27	249742	136	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445134	11251302		15.302
12	27	249742	137	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445135	11251302		15.302
12	27	249742	138	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445136	11251302		15.302
12	27	249742	139	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445137	11251302		15.302
12	27	249742	140	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445138	11251302		15.302
12	27	249742	141	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445139	11251302		15.302
12	27	249742	142	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445140	11251302		15.302
12	27	249742	143	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445141	11251302		15.302
12	27	249742	144	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445142	11251302		15.302
12	27	249742	145	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445143	11251302		15.302
12	27	249742	146	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445144	11251302		15.302
12	27	249742	147	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445145	11251302		15.302
12	27	249742	148	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445146	11251302		15.302
12	27	249742	149	静岡	チャート	高耐				12.00	10.00	4.00	0.16	111445147	11251302		15.302
12	27	249742	150	静岡	チャート												

地名	アプロード番号	地図番号	アリット	高野	地名	番号	石材	母岩番号	見合番号	最大太さ	最大幅	最大厚	重量	%	Y	Z	備考		
14	28	014270105	43	御岳佐古山	黒曜石	124745	241	241	241	36.30	11.00	11.00	11,036,693	11,210,206	15,530				
14	28	014270106	44	御岳	黒曜石	124746	242	242	242	37.00	11.00	8.00	530	11,037,423	11,210,692	15,302			
14	28	014270107	45	御岳	黒曜石	124747	243	243	243	22.20	23.80	11.00	340	11,038,777	11,210,521	15,278			
14	28	014270108	46	御岳	黒曜石	124748	244	244	244	36.00	11.00	8.00	430	11,039,423	11,210,692	15,298			
14	28	014270109	47	御岳	黒曜石	124749	245	245	245	36.30	12.00	8.00	430	11,040,667	11,210,206	15,578			
14	28	014270110	48	御岳	黒曜石	124750	246	246	246	22.00	22.00	8.00	410	11,047,250	11,210,692	15,340			
14	28	014270111	49	御岳	黒曜石	124751	247	247	247	22.00	22.00	10.00	780	11,047,176	11,210,449	15,790			
14	28	014270112	50	御岳	黒曜石	124752	248	248	248	18.00	22.50	10.00	780	11,047,176	11,210,449	15,790			
14	28	014270113	51	御岳	黒曜石	124753	249	249	249	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270114	52	御岳	黒曜石	124754	250	250	250	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270115	53	御岳	黒曜石	124755	251	251	251	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270116	54	御岳	黒曜石	124756	252	252	252	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270117	55	御岳	黒曜石	124757	253	253	253	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270118	56	御岳	黒曜石	124758	254	254	254	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270119	57	御岳	黒曜石	124759	255	255	255	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270120	58	御岳	黒曜石	124760	256	256	256	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270121	59	御岳	黒曜石	124761	257	257	257	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270122	60	御岳	黒曜石	124762	258	258	258	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270123	61	御岳	黒曜石	124763	259	259	259	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270124	62	御岳	黒曜石	124764	260	260	260	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270125	63	御岳	黒曜石	124765	261	261	261	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270126	64	御岳	黒曜石	124766	262	262	262	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270127	65	御岳	黒曜石	124767	263	263	263	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270128	66	御岳	黒曜石	124768	264	264	264	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270129	67	御岳	黒曜石	124769	265	265	265	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270130	68	御岳	黒曜石	124770	266	266	266	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270131	69	御岳	黒曜石	124771	267	267	267	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270132	70	御岳	黒曜石	124772	268	268	268	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270133	71	御岳	黒曜石	124773	269	269	269	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270134	72	御岳	黒曜石	124774	270	270	270	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270135	73	御岳	黒曜石	124775	271	271	271	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270136	74	御岳	黒曜石	124776	272	272	272	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270137	75	御岳	黒曜石	124777	273	273	273	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270138	76	御岳	黒曜石	124778	274	274	274	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270139	77	御岳	黒曜石	124779	275	275	275	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270140	78	御岳	黒曜石	124780	276	276	276	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270141	79	御岳	黒曜石	124781	277	277	277	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270142	80	御岳	黒曜石	124782	278	278	278	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270143	81	御岳	黒曜石	124783	279	279	279	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270144	82	御岳	黒曜石	124784	280	280	280	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270145	83	御岳	黒曜石	124785	281	281	281	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270146	84	御岳	黒曜石	124786	282	282	282	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270147	85	御岳	黒曜石	124787	283	283	283	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270148	86	御岳	黒曜石	124788	284	284	284	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270149	87	御岳	黒曜石	124789	285	285	285	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270150	88	御岳	黒曜石	124790	286	286	286	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270151	89	御岳	黒曜石	124791	287	287	287	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270152	90	御岳	黒曜石	124792	288	288	288	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270153	91	御岳	黒曜石	124793	289	289	289	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270154	92	御岳	黒曜石	124794	290	290	290	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270155	93	御岳	黒曜石	124795	291	291	291	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270156	94	御岳	黒曜石	124796	292	292	292	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270157	95	御岳	黒曜石	124797	293	293	293	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270158	96	御岳	黒曜石	124798	294	294	294	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270159	97	御岳	黒曜石	124799	295	295	295	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270160	98	御岳	黒曜石	124800	296	296	296	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270161	99	御岳	黒曜石	124801	297	297	297	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270162	100	御岳	黒曜石	124802	298	298	298	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270163	101	御岳	黒曜石	124803	299	299	299	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270164	102	御岳	黒曜石	124804	300	300	300	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270165	103	御岳	黒曜石	124805	301	301	301	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270166	104	御岳	黒曜石	124806	302	302	302	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270167	105	御岳	黒曜石	124807	303	303	303	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270168	106	御岳	黒曜石	124808	304	304	304	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270169	107	御岳	黒曜石	124809	305	305	305	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270170	108	御岳	黒曜石	124810	306	306	306	18.00	8.00	8.00	630	11,043,966	11,210,521	15,690			
14	28	014270171	109	御岳	黒曜石</td														

品番	アーティスト名	機種番号	アーティスト名	音質	種類	石材	母石番号	販合号	最大丸	最大幅	最大厚	重 量	X	Z	場 所
24	31	27G-16	12	潤井	黒安東山	黒安1			26.30	26.00	0.70	3.3	11344160	11307192	14.602
24	31	010404-A	27G-16	13	潤井	黒安東山	黒安1		62.50	44.10	12.70	21.7	11344348	11307469	14.779
24	31	27G-16	14	潤井	黒安東山	黒安2			22.30	23.80	7.90	4.1	11344579	11307764	14.847
24	31	010406-B	27G-16	15	潤井	黒安東山	黒安2		20.00	20.00	12.00	10.00	11344429	11307800	14.998
24	31	27G-16	16	潤井	黒安東山	黒安2			24.00	24.00	6.10	3.6	11344405	11307957	15.145
24	31	27G-16	17	潤井	黒安東山	黒安2			26.30	14.50	6.20	2.0	11344365	11307956	15.300
24	31	010409-B	27G-16	18	潤井	黒安東山	黒安1		61.50	23.00	10.10	8.2	11344393	11307953	15.379
24	31	27G-16	19	潤井	黒安東山	黒安2			30.00	23.90	9.00	6.0	11344520	11307979	15.814
24	31	010408-B	27G-16	20	潤井	黒安東山	黒安2		31.30	26.70	17.50	19.5	11344346	11307981	15.870
24	31	0107013-2	27G-16	21	潤井	黒安東山	黒安2	31B-BE17	22.00	26.50	13.20	15.0	11344313	11307925	15.799
24	31	27G-16	22	潤井	黒安東山	黒安1			24.00	7.80	5.00	0.8	11344404	11307937	15.846
24	31	27G-16	23	潤井	黒安東山	黒安1			26.00	26.50	6.00	4.0	11344380	11307945	15.897
24	31	01040911-E	27G-16	24	潤井	モルタル	モルタル	31B-BE17	20.00	26.50	6.10	2.7	11344363	11307913	15.719
24	31	27G-16	25	潤井	モルタル	モルタル			20.20	8.20	5.00	1.1	11344329	11307924	15.857
24	31	27G-16	26	潤井	黒安東山	黒安2			24.00	28.40	8.00	4.9	11344359	11308030	15.780
24	31	27G-16	27	潤井	黒安東山	黒安2			30.50	14.00	6.00	0.6	11344368	11308040	15.842
24	31	01040913-2	27G-17	2	潤井	黒安東山	黒安2	31B-BE17	35.80	17.60	6.30	5.3	11344409	11308030	15.780
24	31	0107013-2	27G-17	3	潤井	黒安東山	黒安2	31B-BE17	36.30	36.30	6.00	17.9	11344476	11308037	15.839
24	31	0107013-2	27G-17	4	潤井	モルタル	モルタル	31B-BE17	28.20	28.20	11.60	9.0	11344402	11308030	15.802
24	31	010408-B	27G-17	5	潤井	モルタル	モルタル		30.00	10.00	10.00	1.0	11344380	11308030	15.836
24	31	27G-17	6	潤井	モルタル	モルタル			12.00	12.00	5.70	0.6	11344364	11308046	15.713
24	31	020002	27G-18	2	潤井	モルタル	モルタル		36.70	55.20	30.00	5.9	11342625	11307799	15.984
24	31	27G-18	3	潤井	モルタル	モルタル			39.20	28.00	32.00	9.1	11340470	11307829	15.955
24	31	27G-18	4	潤井	モルタル	モルタル			27.00	36.80	6.30	1.3	11347448	11307962	16.000
24	31	27G-19	5	潤井	モルタル	モルタル			20.3	11348116	11307943	15.949			
24	31	27G-19	6	潤井	モルタル	モルタル			74.3	11349225	11307926	15.957			
24	31	27G-19	7	潤井	モルタル	モルタル			14.5	11349406	11307946	15.982			
24	31	27G-19	8	潤井	モルタル	モルタル			48.00	22.80	11.70	2.0	11349426	11307947	15.975
24	31	0179020-1	27G-19	9	潤井	モルタル	モルタル		31.00	36.00	17.00	1.0	11347096	11308185	15.978
24	31	27G-19	10	潤井	モルタル	モルタル			25.00	25.50	5.50	1.1	11347089	11308182	15.979
24	31	27G-19	11	潤井	モルタル	モルタル			31.00	26.20	18.30	11.8	11347059	11308263	15.953
24	31	27G-19	12	潤井	モルタル	モルタル			11.30	16.30	3.20	0.5	11340592	11307979	15.754
24	31	0174082-2	27G-19	13	潤井	モルタル	モルタル	31B-BE17	49.50	37.00	13.50	21.2	11346456	11310001	15.992
24	31	27G-19	14	潤井	モルタル	モルタル			31.20	17.20	5.20	0.9	11346719	11310110	15.943
24	31	0127003-1	27G-19	15	潤井	モルタル	モルタル		20.00	32.20	17.60	17.2	11346739	11310099	15.985
24	31	27G-19	16	潤井	モルタル	モルタル			20.00	17.70	5.70	0.5	11346705	11310098	15.975
24	31	27G-19	17	潤井	モルタル	モルタル			51.20	27.60	21.00	3.0	11346735	11310272	15.906
24	31	27G-19	18	潤井	モルタル	モルタル			30.00	23.10	5.70	1.0	11346759	11310247	15.996
24	31	27G-19	19	潤井	モルタル	モルタル			20.00	19.10	6.00	1.3	11346730	11310212	16.000
24	31	0174020-4	27G-19	20	潤井	モルタル	モルタル	31B-BE17	18.70	26.50	21.20	7.8	11346725	11310082	16.000
24	31	27G-19	21	潤井	モルタル	モルタル			10.00	10.00	5.00	0.3	11346646	11310069	15.998
24	31	27G-19	22	潤井	モルタル	モルタル			26.30	24.30	8.00	4.9	11346646	11310064	15.997
24	31	27G-19	23	潤井	モルタル	モルタル			26.30	26.00	11.10	8.7	11346722	11310296	15.900
24	31	27G-19	24	潤井	モルタル	モルタル			30.00	30.00	12.00	12.0	11346723	11310295	15.901
24	31	27G-19	25	潤井	モルタル	モルタル			13.00	13.00	6.00	0.7	11346695	11310295	15.901
24	31	27G-19	26	潤井	モルタル	モルタル			31.00	24.00	8.00	7.0	11346765	11310295	15.901
24	31	27G-19	27	潤井	モルタル	モルタル			31.00	22.00	11.50	11.5	11346702	11310002	15.914
24	31	27G-19	28	潤井	モルタル	モルタル			30.00	23.10	5.70	1.0	11346718	11310285	15.986
24	31	27G-19	29	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	30	潤井	モルタル	モルタル			30.00	23.10	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	31	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	32	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	33	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	34	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	35	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	36	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	37	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	38	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	39	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	40	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	41	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	42	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	43	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	44	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	45	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	46	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	47	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	48	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	49	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	50	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	51	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	52	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	53	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	54	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	55	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	56	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	57	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	58	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	59	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	60	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	61	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	62	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19	63	潤井	モルタル	モルタル			31.00	18.00	5.70	1.0	11346736	11310247	15.990
24	31	27G-19</													

ブロード	サブ	機器番号	アリバト	登録番号	登録地	地図	名前	登録番号	登録地	大面積	細面積	最大面積	面積	北	東	南	西	場所
21	33	W174802	3	2	横須賀	横須賀	横須賀	310-02	横須賀	36.50	30.30	11.00	17.2	11090.65	11120.00	11156		
21	33	W174802	3	3	横須賀	横須賀	横須賀	310-03	横須賀	27.00	20.30	1.00	0.6	11090.55	11120.50	11162		
21	33	W174802	3	4	横須賀	横須賀	横須賀	310-04	横須賀	20.70	24.50	1.00	0.6	11090.58	11120.50	11140		
21	33	W174802	3	5	横須賀	横須賀	横須賀	310-05	横須賀	24.00	20.00	1.00	0.6	11090.55	11120.50	11140		
21	33	W174802	3	6	横須賀	横須賀	横須賀	310-06	横須賀	20.00	28.00	12.00	0.6	11090.65	11120.77	11149		
21	33	W174802	3	7	横須賀	横須賀	横須賀	310-07	横須賀	36.00	21.00	15.00	2.1	11090.90	11120.80	11162		
21	33	W174802	3	8	横須賀	横須賀	横須賀	310-08	横須賀	13.00	20.00	8.00	2.2	11090.85	11120.80	11162		
21	33	W174802	3	9	横須賀	横須賀	横須賀	310-09	横須賀	36.00	30.00	16.70	0.6	11090.95	11120.80	11162		
21	33	W174802	3	10	横須賀	横須賀	横須賀	310-10	横須賀	21.00	31.50	28.00	2.1	11090.55	11120.54	11189		
21	33	W174802	3	11	横須賀	横須賀	横須賀	310-11	横須賀	18.00	22.00	9.00	0.6	11090.60	11120.17	11162		
21	33	W174802	3	12	横須賀	横須賀	横須賀	310-12	横須賀	15.00	20.50	4.50	3.1	11090.65	11120.77	11162		
21	33	W174802	3	13	横須賀	横須賀	横須賀	310-13	横須賀	46.00	23.00	13.00	0.6	11090.65	11120.80	11162		
21	33	W174802	3	14	横須賀	横須賀	横須賀	310-14	横須賀	20.00	20.00	10.00	0.6	11090.55	11120.54	11189		
21	33	W174802	3	15	横須賀	横須賀	横須賀	310-15	横須賀	27.00	15.00	6.00	1.6	11090.65	11120.70	11162		
21	33	W174802	3	16	横須賀	横須賀	横須賀	310-16	横須賀	36.00	13.00	5.00	0.7	11090.52	11120.26	11160		
21	33	W174802	3	17	横須賀	横須賀	横須賀	310-17	横須賀	21.00	31.00	8.00	1.6	11090.65	11120.80	11162		
21	33	W174802	3	18	横須賀	横須賀	横須賀	310-18	横須賀	12.00	20.00	13.00	0.6	11090.55	11120.00	11189		
21	33	W174802	3	19	横須賀	横須賀	横須賀	310-19	横須賀	60.00	20.00	22.70	3.6	11090.55	11120.54	11189		
21	33	W174802	3	20	横須賀	横須賀	横須賀	310-20	横須賀	25.00	20.00	10.00	0.6	11090.65	11120.80	11162		
21	33	W174802	3	21	横須賀	横須賀	横須賀	310-21	横須賀	11.00	20.00	7.00	2.1	11090.75	11120.75	11162		
21	33	W174802	3	22	横須賀	横須賀	横須賀	310-22	横須賀	24.00	20.00	7.00	2.1	11090.75	11120.75	11162		
21	33	W174802	3	23	横須賀	横須賀	横須賀	310-23	横須賀	22.00	25.00	22.00	2.2	11090.67	11120.49	11162		
21	33	W174802	3	24	横須賀	横須賀	横須賀	310-24	横須賀	20.00	22.00	9.00	1.6	11090.42	11120.26	11162		
21	33	W174802	3	25	横須賀	横須賀	横須賀	310-25	横須賀	18.00	20.00	5.00	1.6	11090.42	11120.26	11162		
21	33	W174802	3	26	横須賀	横須賀	横須賀	310-26	横須賀	50.00	20.00	14.10	4.2	11090.15	11120.77	11162		
21	33	W174802	3	27	横須賀	横須賀	横須賀	310-27	横須賀	35.00	20.00	16.10	4.6	11090.20	11120.30	11162		
21	33	W174802	3	28	横須賀	横須賀	横須賀	310-28	横須賀	20.00	20.00	4.00	1.0	11090.65	11120.80	11162		
21	33	W174802	3	29	横須賀	横須賀	横須賀	310-29	横須賀	20.00	20.00	4.00	1.0	11090.65	11120.80	11162		
21	33	W174802	3	30	横須賀	横須賀	横須賀	310-30	横須賀	12.00	20.00	13.00	0.6	11090.10	11120.75	11162		
21	33	W174802	3	31	横須賀	横須賀	横須賀	310-31	横須賀	30.00	20.00	4.00	1.0	11090.60	11120.80	11162		
21	33	W174802	3	32	横須賀	横須賀	横須賀	310-32	横須賀	25.00	20.00	6.00	1.6	11090.65	11120.80	11162		
21	33	W174802	3	33	横須賀	横須賀	横須賀	310-33	横須賀	21.00	20.00	5.00	1.6	11090.30	11120.27	11162		
21	33	W174802	3	34	横須賀	横須賀	横須賀	310-34	横須賀	30.00	18.00	10.00	0.4	11090.07	11120.31	11162		
21	33	W174802	3	35	横須賀	横須賀	横須賀	310-35	横須賀	27.00	20.00	10.70	0.6	11090.21	11120.66	11162		
21	33	W174802	3	36	横須賀	横須賀	横須賀	310-36	横須賀	20.00	20.00	10.20	0.6	11090.05	11120.28	11162		
21	33	W174802	3	37	横須賀	横須賀	横須賀	310-37	横須賀	20.00	20.00	10.00	0.6	11090.10	11120.35	11162		
21	33	W174802	3	38	横須賀	横須賀	横須賀	310-38	横須賀	10.00	20.00	10.00	0.6	11090.15	11120.40	11162		
21	33	W174802	3	39	横須賀	横須賀	横須賀	310-39	横須賀	10.00	20.00	10.00	0.6	11090.15	11120.40	11162		
21	33	W174802	3	40	横須賀	横須賀	横須賀	310-40	横須賀	10.00	20.00	10.00	0.6	11090.15	11120.40	11162		
21	33	W174802	3	41	横須賀	横須賀	横須賀	310-41	横須賀	12.00	20.00	7.00	2.1	11090.91	11120.15	11162		
21	33	W174802	3	42	横須賀	横須賀	横須賀	310-42	横須賀	20.00	18.00	6.00	1.6	11090.00	11120.26	11162		
21	33	W174802	3	43	横須賀	横須賀	横須賀	310-43	横須賀	27.00	20.00	10.70	0.6	11090.21	11120.66	11162		
21	33	W174802	3	44	横須賀	横須賀	横須賀	310-44	横須賀	20.00	20.00	10.20	0.6	11090.10	11120.35	11162		
21	33	W174802	3	45	横須賀	横須賀	横須賀	310-45	横須賀	20.00	20.00	10.00	0.6	11090.15	11120.40	11162		
21	33	W174802	3	46	横須賀	横須賀	横須賀	310-46	横須賀	20.00	20.00	10.00	0.6	11090.25	11120.54	11162		
21	33	W174802	3	47	横須賀	横須賀	横須賀	310-47	横須賀	11.00	20.00	6.00	1.6	11090.25	11120.62	11162		
21	33	W174802	3	48	横須賀	横須賀	横須賀	310-48	横須賀	35.00	20.00	0.20	0.6	11090.25	11120.62	11162		
21	33	W174802	3	49	横須賀	横須賀	横須賀	310-49	横須賀	21.00	20.00	7.00	2.1	11090.67	11120.27	11162		
21	33	W174802	3	50	横須賀	横須賀	横須賀	310-50	横須賀	12.00	20.00	6.00	1.6	11090.25	11120.32	11162		
21	33	W174802	3	51	横須賀	横須賀	横須賀	310-51	横須賀	12.00	18.00	7.00	2.1	11090.91	11120.15	11162		
21	33	W174802	3	52	横須賀	横須賀	横須賀	310-52	横須賀	21.00	20.00	6.00	1.6	11090.36	11120.26	11162		
21	33	W174802	3	53	横須賀	横須賀	横須賀	310-53	横須賀	14.00	20.00	5.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	54	横須賀	横須賀	横須賀	310-54	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	55	横須賀	横須賀	横須賀	310-55	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	56	横須賀	横須賀	横須賀	310-56	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	57	横須賀	横須賀	横須賀	310-57	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	58	横須賀	横須賀	横須賀	310-58	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	59	横須賀	横須賀	横須賀	310-59	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	60	横須賀	横須賀	横須賀	310-60	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	61	横須賀	横須賀	横須賀	310-61	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	62	横須賀	横須賀	横須賀	310-62	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	63	横須賀	横須賀	横須賀	310-63	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	64	横須賀	横須賀	横須賀	310-64	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	65	横須賀	横須賀	横須賀	310-65	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	66	横須賀	横須賀	横須賀	310-66	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	67	横須賀	横須賀	横須賀	310-67	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	68	横須賀	横須賀	横須賀	310-68	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	69	横須賀	横須賀	横須賀	310-69	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3	70	横須賀	横須賀	横須賀	310-70	横須賀	12.00	20.00	4.00	1.6	11090.00	11120.00	11162		
21	33	W174802	3</															

調査点番号	プロジェクト番号	碑文番号	アリット	遺物番号	性別	年 齢	石 材	付番号	見合番号	縦大根	縦大幅	横大根	横幅	X	Y	Z	地 点
25 平面約1		SD-002	2	b	縄文	直絹岩											縄文
25 平面約1		SD-002	2	c	縄文	直絹岩											縄文
19 平面約1		SD-004	1		石核	黑曜石											
19 平面約1		SD-004	1		石核	直絹岩											
13 平面約1	第204図4	SD-011	1		石核	直絹岩				61.20	26.41	12.20	1.0				
32 平面約1		SD-061	10		縄文	直絹岩											縄文
32 平面約1		SD-061	65		縄文	チャート											縄文
3 平面約1		SD-115	1	c	縄文	直絹岩											
13 平面約1		SD-115	2		縄文	チャート											
27 平面約1	第204図4	SD-115	1		軽石灰岩質	直絹岩	1			61.20	26.69	8.20	1.0				
17 平面約1		SD-115	1		直絹岩	直絹岩	1										
17 平面約1		SD-115	1		直絹岩	直絹岩	1			61.20	27.80	8.10	1.0				
17 平面約1		SD-115	1		直絹岩	直絹岩	1			61.20	27.80	8.10	1.0				
22 平面約1		SD-121	1		縄文	直絹岩	C(軽石灰岩質)	60.10	15.80	8.30	0.5	10001300	80001070	15.80			
22 平面約1		SD-121	1		縄文	直絹岩											
32 平面約1		SD-151	1		縄文	直絹岩											
32 平面約1		SD-151	2		縄文	砂岩											
32 平面約1		SD-151	1	a	縄文	直絹岩											
13 平面約1		SD-009	1		縄文	直絹岩				61.20	26.52	8.30	2.0				

第3節 縄文時代

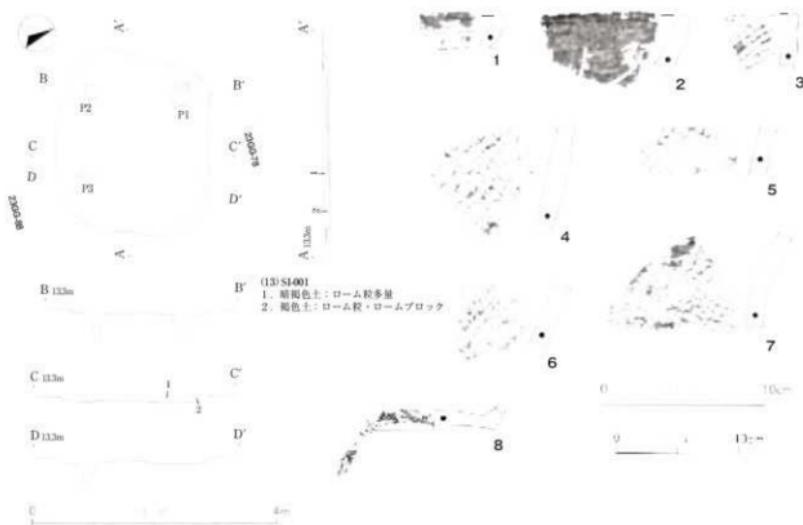
縄文時代の遺構は第3・13・16・21・22・26・32・33次調査地点から検出された。第3次調査地点は遺跡南部に当たる23EE~25EEグリッドの範囲にあり、現道を挟んで南北2地点に分かれている。遺構は土坑が1基のみ検出された。第13次調査地点は遺跡南東部に当たる23GG・23HH・24GG・24HHグリッドの範囲にあり、遺構は竪穴住居跡が1軒のみ検出された。第16次調査地点は遺跡の中央部から南部に当たる19FF~21FF・19GG~21GG・20HH・21HHグリッドの範囲にあり、遺構は21GG-27グリッドを中心とした東西約10m・南北約35mの区域から、竪穴住居跡4軒と土坑9基が検出された。第21次調査地点は遺跡南端部に当たる27GG・28GG・27HH~29HHグリッドの範囲にあり、遺構は竪穴住居跡1軒と陥穴1基が検出された。第22次調査地点は遺跡北東部に当たる12CC~15CC・12DD~15DD・12EE~14EEグリッドの範囲にあり、第29次調査地点を挟んで2か所に分かれている。遺構はピット群1基のほかに遺物が比較的集中して出土する地点が3か所(集中地点A~C)検出された。第26次調査地点は遺跡の北東端部に当たる10BB~10EE・11AA~11EE・12BB~12EEグリッドの範囲にある。北側と東側は遺跡範囲外である。南側で第22次調査地点、西側で第3次調査地点を取り囲むように隣接する。遺構は竪穴住居跡2軒と陥穴1基が検出された。なお、発掘調査時において12BB-19・28・29、12CC-10・20グリッド石器集中地点をA区、(26)SD-001を含まない西側をB区、その東側をC区としている。第32次調査地点は遺跡の北西端部に当たる10W・11W・10X~12X・9Y~12Y・10Zグリッドの範囲にあり、遺構は陥穴1基と土坑1基が検出された。第33次調査地点は遺跡の北端部に当たる10BB~10DD・11AA~11DD・12AA・12BBグリッドの範囲にあり、遺構は竪穴状遺構1基と陥穴1基が検出された。

1 竪穴住居跡・竪穴状遺構

竪穴住居跡・竪穴状遺構は第13・16・21・26・33次調査地点から検出されたが、第16次調査地点が4軒、第26次調査地点が2軒、そのほかは単独であり、集落を構成するには極めて希薄な状況である。

(13) SI-001(第204図、図版7・140)

23GG-77・78グリッドに所在する。近隣には縄文時代の遺構は存在せず、最も近い第16次調査地点の遺構群からも約80m離れている。平面形は不整形で、規模は主軸長2.90m・幅2.50mである。確認面からの深さは0.12mであるが、本遺構は下層本調査時にⅢ層上部まで重機掘削を行っている最中に検出された



第204図 (13) SI-001

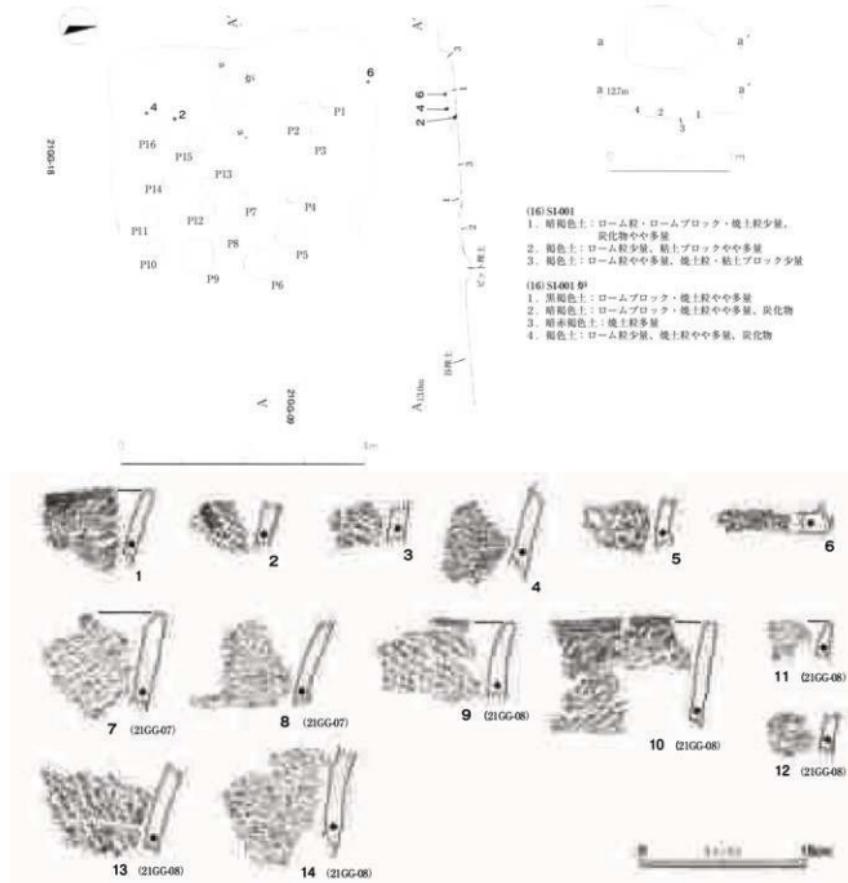
もので、埋土の上部は削平されていることから、実際にはもっと深かったと思われる。主軸方向はN-75°Wである。床面はほぼ平坦であるが、部分的に微妙な凹凸が見られる。硬化面は検出されなかった。炉は検出されなかった。ピットが3基検出されているが、P2とP3は床面から深さ50cmほど(標高12.6m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。P1の深さは42cmである。いずれも配置や深さから柱穴と考えられる。

出土遺物は全て前期黒浜式に属するものである。1～3は深鉢口縁部破片である。1は半截竹管による押引文が2列横位に配されるが、外面は剥落がやや目立つ。2は口唇が角頭状に整形される。半截竹管で弧状の沈線が薄く描かれる。3はLR単節繩文が施される。内面は剥落がやや目立つ。4～7は深鉢胴部破片である。4～6は外面にLR単節繩文が施される。4は端部結節が認められる。7は条の間隔がかなり開いており附加条繩文と思われるが、軸繩の圧痕は見られない。8は深鉢底部である。ほぼ100%遺存しており底径は11.8cm、現存器高は22cmである。胴部はほとんど遺存していないため判断が難しいが、繩文が施文されているものと思われる。いわゆる上げ底で、底面は丁寧なミガキ調整が施されるが、内面はやや剥落が目立つ。

本遺構の時期は出土遺物から黒浜式期と判断される。

(16) SI-001 (第205図、図版7・140)

20GG-97-98、21GG-07-08グリッドに所在する。平面形は隅丸方形になると考えられるが、東側は谷により壁が失われている。規模は現存主軸長約3.8m・幅4.4m・確認面からの深さ0.28mである。主軸方向はほぼ真西である。床面は東側に向かって下り傾斜している。土層断面図中の2層は粘土ブロックを多く



第205図 (16) SI-001

含んでおり、貼床の可能性がある。硬化面は検出されなかった。炉は西壁際に作られている。長軸長75cm・短軸長52cm・床面からの深さ9cmである。埋土に焼土粒・炭化物を多く含むが、炉床面はあまり熱を受けていない。ピットは全部で16基検出されている。深さはP1が10cm、P2が5cm、P3が21cm、P4が36cm、P5が18cm、P6が15cm、P7が21cm、P8が12cm、P9が23cm、P10が8cm、P11が11cm、P12が15cm、P13が22cm、P14が30cm、P15が11cm、P16が9cmである。この中では深さ30cmを超えるP4・P14と規模の大きいP6・P9が柱穴の可能性が強く、20cmを超えるP3・P7・P13も柱穴の可能性があると思われる。一方で西壁際には深いピットがなく、どのような構造になるのか不明である。

出土遺物は全て前期黒浜式に属するものである。1～6は埋土内から出土したものである。1は深鉢口縁部破片である。LR単節縄文が施されるが、器面には凹凸が多く、施文が不十分で分かりにくい。2～5は深鉢胴部破片である。2はLR単節縄文が縦方向に施された上に隆起線が貼り付けられる。3はL無節縄文が縦方向に施される。4はRL単節縄文が施されるが、内面は熱による摩耗が特に顕著である。5はかなり分かりにくいがR無節縄文と思われる。6は深鉢底部破片である。胎土は4に類似し、同一個体の可能性もある。7～14は本遺構が所在するグリッド出土であるが、本遺構に伴うものと考えて掲載した。7・8は21GG-07グリッド出土である。7は深鉢口縁部破片で、口唇は角頭状に整形されているが遺存度は低い。LR単節縄文が施されるが、内面は荒れている。8は深鉢胴部破片である。分かりにくいか、条が縦になるように斜行施文されたLR単節縄文で、端部が結節されていると思われる。9～14は21GG-08グリッド出土で、9～11は深鉢口縁部破片、12～14は深鉢胴部破片である。9はRL単節縄文が施され、0段多条の可能性がある。10は口唇が角頭状に整形される。L無節縄文で端部が結節されている。内面は丁寧なミガキ調整であるが、部分的に剥落している。11は無文で、内外面とも丁寧なミガキ調整である。12は半截竹管の端部が単独で半円状に押圧されるか、あるいは対向させて円状に押圧されるものである。内外面ともやや荒れている。13はR無節縄文が施される。内面は剥落がやや顕著である。14は押圧が弱くはっきり見えないが、RL単節縄文と思われる。

本遺構の時期は出土遺物から黒浜式期と判断される。

(16) SI-002(第206図、図版8・9・140)

21GG-17-18-27-28グリッドに所在する。平面形は隅丸方形になると考えられるが、東側は谷により壁が失われている。規模は現存主軸長約5m・幅4.5m・確認面からの深さ0.28mである。主軸方向はN-67°-Wである。床面は東側に向かって下り傾斜している。土層断面図中の2層はロームブロックを多く含んでおり、貼床の可能性がある。硬化面は検出されなかった。炉は検出されなかった。ピットは全部で13基検出されている。深さはP1が37cm、P2が13cm、P3が12cm、P4が11cm、P5が12cm、P6が24cm、P7が14cm、P8が14cm、P9が11cm、P10が12cm、P11が37cm、P12が12cm、P13が13cmである。P1・P6・P11が20cmを超えて比較的深く、柱穴と考えられる。

出土遺物は全て前期黒浜式に属するものである。1は深鉢の口縁部から胴部にかけて、北東壁付近からつぶれた状況で出土した。復元口径は32.1cm、現存器高は28.4cmである。比較的小さな底部から器壁がやや強く外傾するように立ち上がり、胴部中央で少し上方に直し、再度強く外傾して口縁部に達する。口唇は尖頭状に整形され、指頭押圧によるキザミが施される。口縁下3cmほどは無文帶で横方向のケズリ状調整がなされ、その下側は多段の結節をもつRL単節縄文が底部付近まで施される。焼成は良好で、内面は丁寧なミガキ調整が施される。2・3は深鉢口縁部破片である。いずれも半截竹管による押引文が横位に施されるが、3は篠竹のような中空の素材であるに対し、2は中身が詰まった素材で、ヘラ状工具に近い。また、2は施文前の器面調整がかなり粗くケズリ痕跡が顕著に残り、竹管による施文との区別がしにくい。3は口唇部が角頭状に整形される。4・5は深鉢胴部破片である。4は半截竹管による横位の押引文が配され、上側は無文である。下側は軸縄が不鮮明であるがRL+L附加条縄文と思われる。半截竹管は3に類似しており、同一個体の可能性もある。5も4と同様の文様構成をとるが、スヌが付着しており、上側は器面の剥落が顕著である。下側はRL+L附加条縄文である。

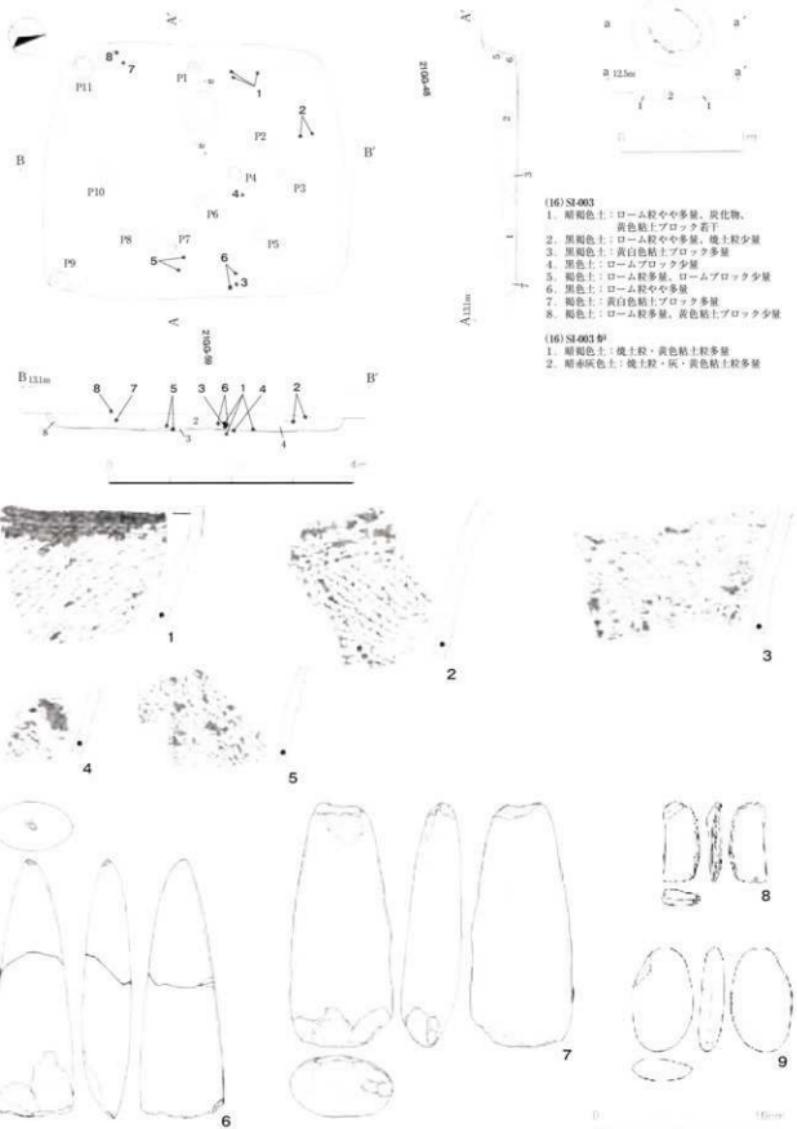
本遺構の時期は出土遺物から黒浜式期と判断される。



第206回 (16) SI-002

(16) SI-003(第207図、図版8・140)

21GG-47-48・57・58グリッドに所在する。(16)SK-005・008土坑に隣接する。平面形は隅丸台形である。規模は主軸長4.11m・幅5.01mである。本遺構も斜面に構築されており、標高が高い西壁は特に残りが良く、確認面からの深さは0.61mである。主軸方向はN-85°-Wである。床面はほぼ平坦である。硬化面は検出されなかった。炉は西壁から検出されている。長軸長65cm・短軸長55cm・床面からの深さ8cmである。焼土粒が多量に残されており、使用頻度は高かったと推測される。ピットは全部で11基検出されている。深さはP1が12cm、P2が13cm、P3が21cm、P4が6cm、P5が9cm、P6が8cm、P7が7cm、P8が17cm、P9が15cm、P10が23cm、P11が28cmである。P3・P10・P11が20cmを超えて比較的の深く、柱穴と考えられる。また、P9はやや浅いが、P11とともに壁隅にあることから壁柱穴と考えられる。



第207図 (16) SI-003

遺物は土器と石器が出土しており、土器は全て前期黒浜式に属するものである。1は深鉢口縁部破片である。小波状で口唇が角頭状に整形される。口縁に沿って半截竹管による押引文が配されるが、引きの痕跡はほとんど残されず列点状に施されている。胸部側はLR単節繩文が施される。外面には部分的にススの付着が見られる。2～5は深鉢胸部破片である。2は口縁部直下で、口縁に沿って半截竹管による押引文が3段配され(上段の部分で欠損する)、下側はRL単節繩文が施される。3は下半部に棒状工具による縦位の沈線が配される。外面にススの付着が見られるほか、内外面とも器面は荒れて剥落している。4は上部にヘラ状工具による沈線が横位に配され、その下側に同じ工具で波状の沈線が配される。5は上側に半截竹管によるコンパス文が縦位に配され、下側はRL単節繩文が施される。

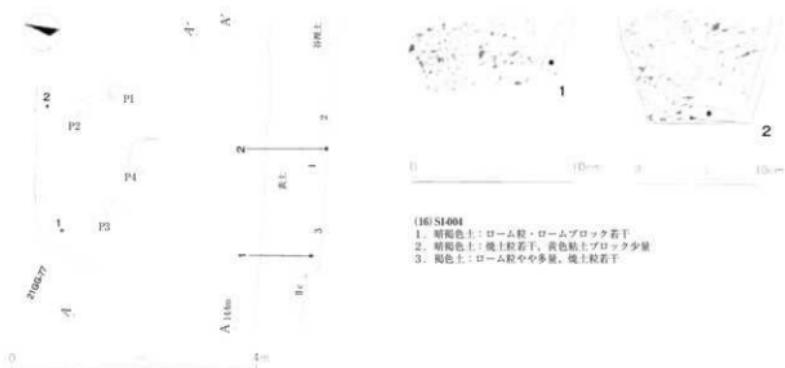
石器は8点出土しており、4点図示した。いずれも遺構埋土中からの出土である。6～8は緑泥片岩製の磨製石斧である。6・7は乳棒状磨製石斧である。6は体部中央部分から折損した状況で出土した。刃部には刃こぼれが顕著に認められるが、この部分以外に目立った損傷はなく、ほぼ完形である。器表面は丁寧に研磨が施されている。7も刃部に刃こぼれが顕著に認められる。器表面は、一部に研磨が不十分な部分があり凹凸がある。特に側縁部には製作の際の加工痕が明瞭に認められる。8は扁平な形で刃部と側縁部にかけての一部のみが遺存するものである。欠損部分が大きく不明瞭であるが、定角式磨製石斧の可能性が高い。側縁部には使用痕が認められる。

9は砂岩製の敲石である。小形の扁平礫を用いており、側縁部に敲打痕、平坦な部分の一部に摩耗が認められる。図示したもの以外に、凝灰岩製の石核1点、緑泥片岩製の磨製石斧片1点、砂岩製の磨石2点が出土している。

本遺構の時期は出土遺物から黒浜式期と判断される。

(16) SI-004(第208図、図版9・141)

21GG-67-77グリッドに所在する。平面形は隅丸方形か隅丸台形と推測されるが、南側は調査地点境で調査することができず、北東側は谷により壁が失われているため全体像は把握できない。規模は現存主軸長約3m・現存幅約2.4mである。確認面からの深さは0.24mであるが、土層断面の観察から少なくとも約



第208図 (16) SI-004

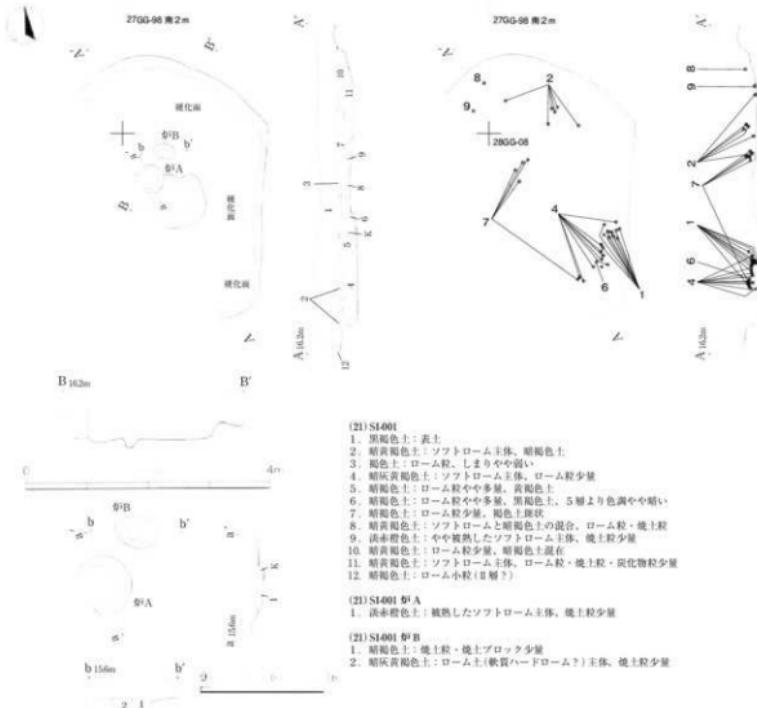
0.5mはあると思われる。主軸方向はN-62°-Eである。床面はほぼ平坦であるが、東側は谷により検出されず、硬化面も検出されなかった。炉は検出されなかった。ピットは全部で4基検出されているが、P4は浅い皿状の窪みで、床面のしまりが弱い部分を掘り過ぎている可能性がある。深さはP1が32cm、P2が32cm、P3が48cm、P4が5cmである。P1-P3は柱穴と考えられる。

出土遺物は全て前期黒浜式に属するものである。1は深鉢胴部破片である。口縁部側にはR撲糸文が施されるが、方向はランダムで統一性がない。底部側にはLR単節繩文が施される。2は深鉢底部である。90%程度遺存し底径は8.2cm、現存高は9cmである。口縁部はLR+RR附加条繩文が施される。底部は同じ附加条繩文のほかにLR単節繩文も使用されていると思われるが、施文方向もかなり無秩序である。内面は熱による摩耗が顕著で、ススの付着も見られる。

本遺構の時期は出土遺物から里浜式期と判断される。

(21) SI-001 (第209・210図、図版9・10・141)

27GG-97-98、28GG-07-08グリッドに所在する。東側11mに(21)SK-001がある。最も近い竪穴住居跡は(13)



第209図 (21) SI-001(1)

SI-001で、北に約180m離れている。南西側は調査地点境で調査できなかった。形状は西壁が未調査のため不明であるが、東壁が直線状であるのに対し北壁と南壁は弧状となっている。規模は現存主軸長約4.3m・現存幅3.1mである。確認面からの深さは0.24mであるが、土層断面の観察から本来の掘り込みは少なくとも約0.4mはあると思われる。主軸方向はほぼ真北である。床面はほぼ平坦であるが、中央部がやや盛り上がっている。壁に沿って3か所の硬化面が検出されたが、硬化の度合いは弱い。炉は中央付近から2基検出された。中央寄りの大きい方を炉A、北寄りの小さい方を炉Bとする。炉Aは南西側が一部調査できなかったが、長軸長48cm・短軸長42cm・床面からの深さ6cmである。炉Bは長軸長36cm・短軸長25cm・床面からの深さ13cmである。いずれも炉床面はあまり熱を受けておらず、使用頻度はあまり高くなかったと推測されるが、炉Bには焼土ブロックがやや多く堆積していた。ピットは検出されなかった。

出土遺物は器形復元できる深鉢が2点出土し、全て前期黒浜式に属するものである。1は深鉢の口縁部から胴部にかけて、東壁付近からまとめて出土した。推定口径は23.8cm、現存器高は27.9cmである。底部から器壁が広がるように立ち上がり、胴部中央で屈曲して直立するように口縁に達する。底部付近に



第210図 (21) SI-001(2)

はススの付着が見られる。外面全体にLR単節縄文が施される(一見無節縄文に見えるが、条が深く押圧されており節があまり粒立っていないためである)。2は深鉢胴部で、北壁付近から出土した。現存器高は11.9cmである。縄文は横位に段状に施され、口縁側から順にRL+R附加条縄文、LR単節縄文、無文帯、RL単節縄文がそれぞれ約3cm幅で配される。3は本遺構が所在するグリッドから出土したもので、本遺構に伴うものと考えて掲載した。28GG-08グリッドから出土した深鉢底部である。遺存度は約25%で推定底径8.4cm・現存器高2.5cmである。附加条が縦位になるようLR+RR附加条縄文が斜め方向に回転施文される。4・5は深鉢口縁部破片である。4は南東隅から出土し、図示したもののほか接合しない多くの破片がある。口径は1と同程度若しくはより大きいと推測されるが、図の下端部はかなり強く屈曲しており、底径は小さいと思われる。文様は上から順に異原体のL無節縄文とR無節縄文を交互に施して段状に配し、全体として羽状縄文となるよう構成されている。外面には微量ではあるがススの付着が見られる。5は貝殻腹縫文が施される。6～8は深鉢胴部破片である。6は異原体による羽状縄文で、上側のLR単節縄文が先に施され、後から下側のRL単節縄文が施される。7は炉A直上から出土した。L無節縄文が施され、施文部の端に粘土が寄せられている状況が観察される。8はR無節縄文が施される。

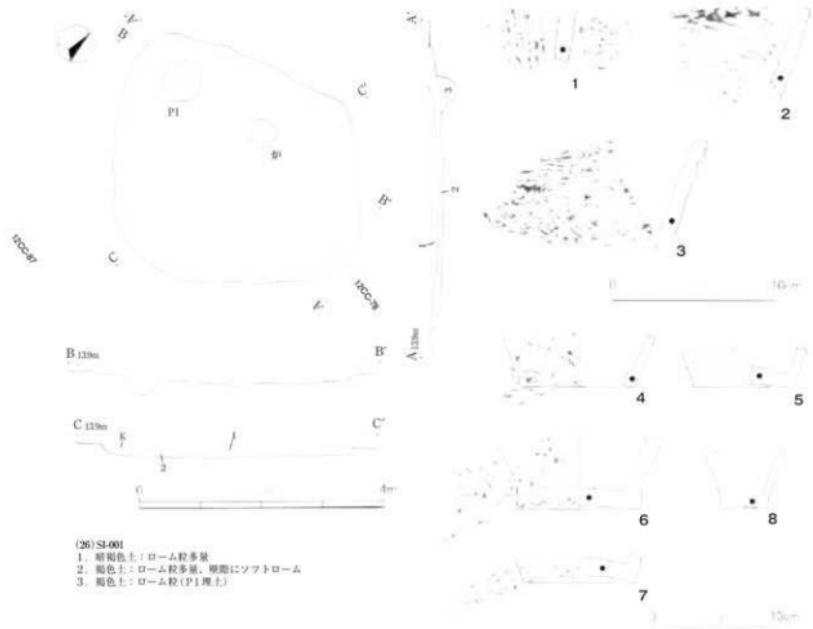
石器は、図示した1点のみの出土である。9は砂岩製の敲石で、床面直上より出土した。扁平礫を利用しておらず、側縁部に敲打痕、平坦な部分には摩耗が認められる。被熱のため、全体的に脆くなっている。

本遺構の時期は出土遺物から黒浜式期と判断される。

(26) SI-001(第211図、図版10・141)

12CC-66-67・76-77グリッドに所在する。12CC-75グリッドを中心とした東西約20m・南北約10mの範囲から竪穴住居跡2軒、陥穴1基が検出された。第16次調査地点の竪穴住居跡群とは南南東へ約360m離れている。平面形は隅丸台形である。規模は主軸長の長辺側4.04m・短辺側2.92m・幅4.03m・確認面からの深さ0.23mである。主軸方向はN-52°-Wである。床面は浅い皿状である。硬化面は検出されなかった。炉は北西壁寄りから検出されている。長軸長50cm・短軸長40cm・床面からの深さ5cmである。焼土の量は少なく、使用頻度は低かったと考えられる。ピットは西壁際から1基のみ検出されている。ピットの規模は長軸長66cm・短軸長60cm・床面からの深さ34cmである。形状や規模から柱穴とは考えにくいが、柱を抜いた際に押し広げられた可能性もある。

出土遺物は土器とミニチュア土器が出土した。1は早期条痕文土器の深鉢胴部破片である。外面に貝殻条痕文が施される。内面は板状工具によると思われる調整が施されるが、剥落がやや顕著である。2以下は前期黒浜式で、2・3は深鉢口縁部破片、4～7は深鉢底部である。2は口唇が角頭状に整形され、外面にR無節縄文が施される。内面はやや荒れている。3は波状口縁でやや強く外傾し、口唇が角頭状に整形される。内外面とも板状工具によるケズリ状調整が施される。外面には半截竹管による押引沈線が2条、口縁に沿うように配されるが、押圧部分の間隔は1cm～1.5cm程度とやや広く間延びした印象である。同様の沈線と刺突が左側から右側に向かって下がるように配され、全体として波状口縁を中心とした菱形を構成していると思われる。4は外周の遺存度約25%で、推定底径9cm・現存器高4.6cmである。外面にRL単節縄文が施される。5は外周の遺存度約50%で、底径8cm・現存器高3.5cmである。外面にLR単節縄文が施される。内面にはススが付着する。6は(26)SI-002から出土した小破片1点と接合している。外周の遺存度約75%で、底径9.4cm・現存器高5.2cmである。外面は棒状工具による沈線が縦位に配されるが、器面の剥落が顕著で分かりにくく。7は中心部が欠損するが外周は100%遺存し、底径9.2cm・現存器高2.7cm



第211図 (26) SI-001

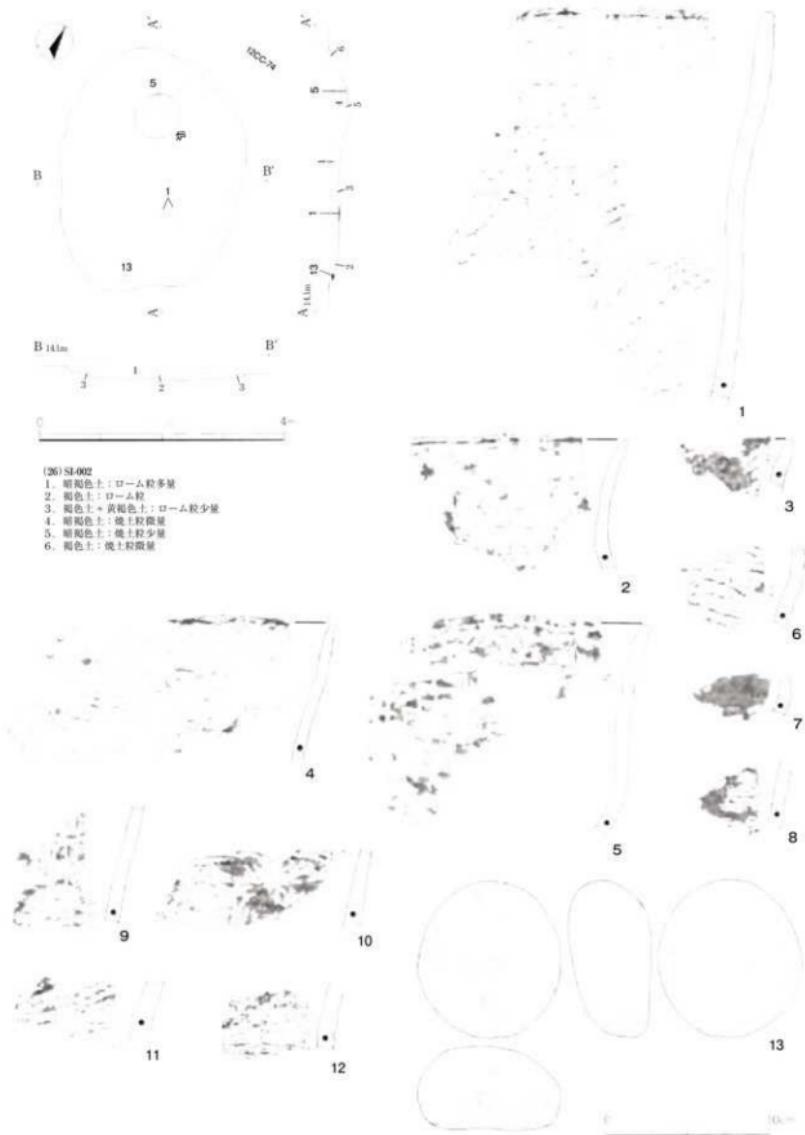
である。外面にLR単節縄文が施される。8はミニチュア土器で、底部は100%、口縁部も約50%遺存する。口径6.1cm・底径3.8cm・器高4.7cmである。内外面とも指頭整形される。

本遺構の時期は早期条痕文土器も出土しているが、主体となるのは前期黒浜式であり、当該時期と判断される。

(26) SI-002(第212図、図版11・141・142)

12CC-73・74・83・84グリッドに所在する。平面形は不整円形である。規模は主軸長3.98m・幅3.04m・確認面からの深さ0.34mである。主軸方向はN-38°-Wである。床面はほぼ平坦であるが、硬化面は検出されなかった。炉は北西壁際から検出されている。直径75cmのほぼ正円形で、床面からの深さ12cmである。埋土の焼土は少量であるが、炉床部はやや顯著に熱を受けており、使用頻度は高かったと推測される。ピットは検出されなかった。

出土遺物は土器と敲石で、土器は全て前期黒浜式に属するものである。1～5は深鉢口縁部破片である。1は口唇が内削ぎ気味の角頭状に整形される。外面はLR単節縄文が多段に配される。器面があまり乾燥していない段階で施文されており、施文単位の上下境や端部は寄せられた粘土が微隆起線状になる。2は胴部中央で屈曲して内傾した器壁が、口縁に向かって開くように外傾する。口縁直下はLR単節縄文が横



第212図 (26) SI-002

方向に回転施文されるが、その下側は条が縦位になるよう斜め方向に施文される。3はLR単節縄文が施される。4は口唇が角頭状に整形される。口緑縄から底部側に向かってCLR+RR附加条縄文と、横方向に回転施文したR燃糸文が交互に配されるように見えるが、必ずしも段構成をとるわけではなく、かなり無秩序である。5は接合しない同一個体を図上で器形復元したものである。口唇は角頭状に整形される。棒状工具による沈線が縦位に配されるが、間隔はかなり広くまばらな印象である。6~12は深鉢胴部破片である。6はR燃糸文が横方向に施される。7は屈曲しており半截竹管による押引文が施されるが、引きの部分はあまり痕跡を残さず刺突列に見える。外面は全体にススが付着する。8は角棒状の工具による押引文で、左上がりと左下がりの斜行する押引文が右側の器面外で接するように配される。9と10は同一個体である。結節をもつLR単節縄文を地文とし、棒状工具による縦位沈線がまばらに配される。11はL燃糸

(33) SX-001
 1. 前期地上: 赤褐色の葉上・葉縁部・土壌ブロック。草茎多い。
 2. 地上部: 紫色ブロック多量。草茎少。葉の先端より少し下: 下半は3層の粒子(一部はブロック状)多量。3層へは漸移的に変化、不整合ではない。
 3. 明帯: 紫色ブロックと草茎が混在する褐色の地色。
 4. 深部: 紫色ブロックと4層の底層。4層の頂点は凸凹

文が横方向に施される。12は(26)SI-001の3と同一個体である。

石器は2点出土し、1点図示した。13は花崗岩製の磨石で、床面直上より出土した。こぶし大の円碟を利用しており、全体的に摩耗している。敲打痕、1か所に凹みが認められる。被熱のため、器面の一部に荒れが認められる。図示したもの以外に、安山岩製の石皿片が1点出土している。

本遺構の時期は出土遺物から黒浜式期と判断される。

(33) SX-001(第213図、図版11・12)

IIAA-87~89・97~99グリッドに所在する。第26次調査地点の竪穴住居跡群とは南東へ約60m離れている。(33)SX-002(陥穴)が内部から検出されており、新旧関係は陥穴が古く本遺構が新しい。本遺構は北側へ下り傾斜する緩斜面に構築されており、壁は標高が高い南側に半円状に検出された。平面形・規模は明確にできなかった。一見すると、平面形は楕円形で全体の1/3~1/2程度が遺存しているように思えるが、埋土は3つの層が水平堆積しており、壁が流されたような痕跡は認められない。黒色土中に壁の立ち上がりが認められる可能性を考えてトレーニングを延長したが、湧水のため図の範囲までしか調査できず、壁も確認できなかった。規模は現存東西長約9m・現存南北約3.7m・確認面からの深さ0.21mで、本遺跡の縄文時代の竪穴住居跡の中では最も大規模である。主軸方向は不明である。床面はほぼ平坦であるが、北に向かって緩やかに下っている。硬化面は検出されなかった。炉・ピットは検出されなかった。

遺物は出土していない。

本遺構の時期は遺物の出土がなかったこと、ほかに類似する遺構が存在しないことから、細別時期は不明である。

2 陥穴

第21・26・32・33次調査地点からそれぞれ1基ずつ検出された。

(21) SK-001(第214図、図版12・142)

27HH-91・28HH-01グリッドに所在する。確認面での平面形は不整円形であるが、底面の形状は隅丸方形である。規模は長軸長2.90m・短軸長1.92m・確認面からの深さ2.59mである。なお、断面実測図は途中までしか記録していない。破線は実測時の下端ラインであり、底面の線は平面図とレベルから推定復元した。主軸方向はN-50°-Eである。

図示した遺物は確認面付近の標高から出土している。1は早期条痕文土器の深鉢胴部破片である。内外面に貝殻条痕文が施される。2~8は前期黒浜式で、2~4は深鉢口縁部破片、5~8は深鉢胴部破片である。2は口唇が外削ぎ状に整形され、外面にRL+L附加条縄文が施される。3は波状口縁で、口唇が外削ぎ状に整形され、外面にRL+L附加条縄文が施される。4は口唇は角頭状に整形され、外面は地文縄文に棒状工具による沈線が縦位あるいは斜位に配される。拓影図では5本の縦位沈線の左脇に左下がりの、右側に右下がりの斜位沈線が配されているように見えるが、意図的に何らかのモチーフを描こうとしたかどうかは不明である。また、地文縄文も辛うじて存在が認識できる程度で詳細は不明である。5・6はRL単節縄文が施される。7はRL+L附加条縄文が施される。8は外面がケズリ状に調整され、細い棒状工具で斜格子状の文様が描かれるが、線の間隔が広く不均等で粗雑な印象である。9は中期阿玉台式の深鉢胴部破片である。胎土に雲母片のほか、白色砂粒を多量に含む。断面三角形の隆起線が弧状に貼り付けられ、頂部に等間隔の指頭押圧が施される。隆起線に沿って棒状工具による結節沈線が配され、図下側で横位の平行結節沈線へつながる。

本遺構の時期は、前期黒浜式を中心に早期条痕文土器から中期阿玉台式まで出土し、また、埋土は自然堆積と考えられるため時期決定の決め手とするのは難しい面があるが、最も遺物量が多かった黒浜式に属



第214図 (21) SK-001

する可能性が高いと考える。

(26) SK-001(第215図、図版38・142)

12CC-65・66グリッドに所在する。近世の溝(26)SD-001と重複している。平面形は不整円形である。規模は長軸長2.2m・短軸長1.5mである。確認面から深さ0.8m(標高約13m)で湧水があり、それ以下は調査できなかったが、発掘調査時の所見では、そこから更に約0.6mで底面になる。主軸方向はN-37°-Wである。

出土遺物は全て前期黒浜式に属するものである。1は深鉢口縁部から胴部にかけての破片である。推定口径20cm・現存器高28.8cmで復元したが、全体に歪みがひどく破片同士の接点も少ないことから、実際の器形は異なる可能性もある。同一原体のLR単節縄文を縦方向と横方向に回転施文させて羽状縄文を構成することを意図していると思われるが、施文法はかなり無秩序で一見よく分からぬ状況である。また、器表面の摩耗も顕著でかなり剥落している。2は深鉢底部である。外周の遺存度は約25%で、推定底径9cm・現存器高2.7cmである。はっきりしないが端部を結節したLR単節縄文が施されていると思われる。4は同一個体の可能性もある。3は深鉢口縁部破片である。口唇は角頭状に整形されるが、整形されない部分もある。結節をもつLR単節縄文が施される。4は深鉢胴部破片である。端部を結節したLR単節縄文が施される。

本遺構の時期は出土遺物から黒浜式期と判断される。

(32) SK-004(第215図、図版12)

10X-67グリッドに所在する。下層確認調査時に検出されたため、上端の一部が削平されている。平面形は長梢円形になると思われる。規模は長軸長1.68m・短軸長1m・確認面からの深さ1.86mである。主軸方向はN-68°-Wである。

遺物は出土していない。

本遺構の時期は、遺物が出土していないが形状としては黒浜式と考えられる(21)SK-001や(26)SK-001と類似しており、両者と同じく黒浜式に属すると推測される。

(33) SX-002(第215図、図版13)

11AA-98グリッドに所在する。(33)SX-001(堅穴状遺構)と重複し本遺構の方が古い。平面形は極端に偏平な長梢円形である。規模は長軸長2.48m・短軸長0.58m・確認面((33)SX-001床面)からの深さ0.5mである。陥穴としては浅いが、(33)SX-001に大部分が削平されたためと考えられる。主軸方向はN-73°-Wである。

遺物は出土していない。

本遺構の詳細な時期は不明であるが、早期以降と思われる。

3 その他の土坑

第3・16・32次調査地点から総数11基検出され、第16次調査地点からは9基が検出されている。また、ここでは上記のほかに第22次調査地点のピット群1基についても記述する。

(3) SK-029(第217図、図版13・142)

24EE-83グリッドに所在する。確認面での平面形はほぼ正円形であるが、底面の形状は不整形で、断面形は丸底である。規模は径85cm・確認面からの深さ35cmである。ごく小規模な貝ブロックが検出されており、サンプリングされていないため詳細な計測をしていないが、発掘調査時の所見では貝種はほとんどがカキで、殻長4cm~6cmと小形である。



第215図 (26) SK-001・(32) SK-004・(33) SX-002

出土遺物は全て前期黒浜式に属するものである。1は深鉢口縁部破片で、器形復元はできないが口径30cm程度の大形品と思われる。図示したもの以外に接合しない同一個体の破片が多数存在する。口唇上は鈍い角頭状に整形される。原体はLR単節繩文に見えるが、節がやや細長く、0段多条の可能性もある。2は深鉢胴部破片である。L無節繩文が施される。3は深鉢底部である。外周の遺存度は約30%で、推定底径7.3cm・現存器高1.8cmである。

本遺構の時期は出土遺物から黒浜式期と判断される。

(16) SK-001(第216図、図版13)

19FF-98・20FF-08グリッドに所在する。本調査地点の竪穴住居跡群とは南東へ約50m離れている。平面形はほぼ正円形である。規模は径120cm・確認面からの深さ39cmである。底面全体に炭化物が敷き詰められたような状況で、埋土中にも多量の炭化物が含まれていた。

遺物は出土していない。

本遺構の時期は不明である。

(16) SK-002(第216図、図版13)

20GG-87・88グリッドに所在する。西側2mに(16)SK-003、南側約4mに(16)SI-001がある。平面形はほぼ正円形で、底面は東側が一段低くピット状で、西側はテラス状になっている。規模は径130cmで、確認面からの深さはピット状の部分が38cm、テラス状の部分が33cmである。

遺物は出土していない。

本遺構の時期は不明である。

(16) SK-003(第216図、図版13・142)

20GG-86・87グリッドに所在する。東側2mに(16)SK-002、南東側約3mに(16)SI-001がある。平面形は不整円形である。断面形は擂鉢状で、底面にピット状の穴が掘られている。東側は一段低く掘り込まれており、発掘調査時の所見では木根痕として図化されていないが、写真観察では底面は平坦でピット状の穴が2基掘られていることなどから、人為的な遺構である可能性が強い。規模は長軸長2.36m・短軸長1.66mである。確認面からの深さは中心部が45cm、隣接するピット状の穴が50cm、東側の深い土坑が92cmである。

図示できる出土遺物は1点のみである。1は黒浜式の深鉢口縁部破片である。波状口縁で口唇は角頭状に整形され、L無節繩文が施される。

本遺構の時期は出土遺物から黒浜式期と判断される。

(16) SK-004(第216図、図版13)

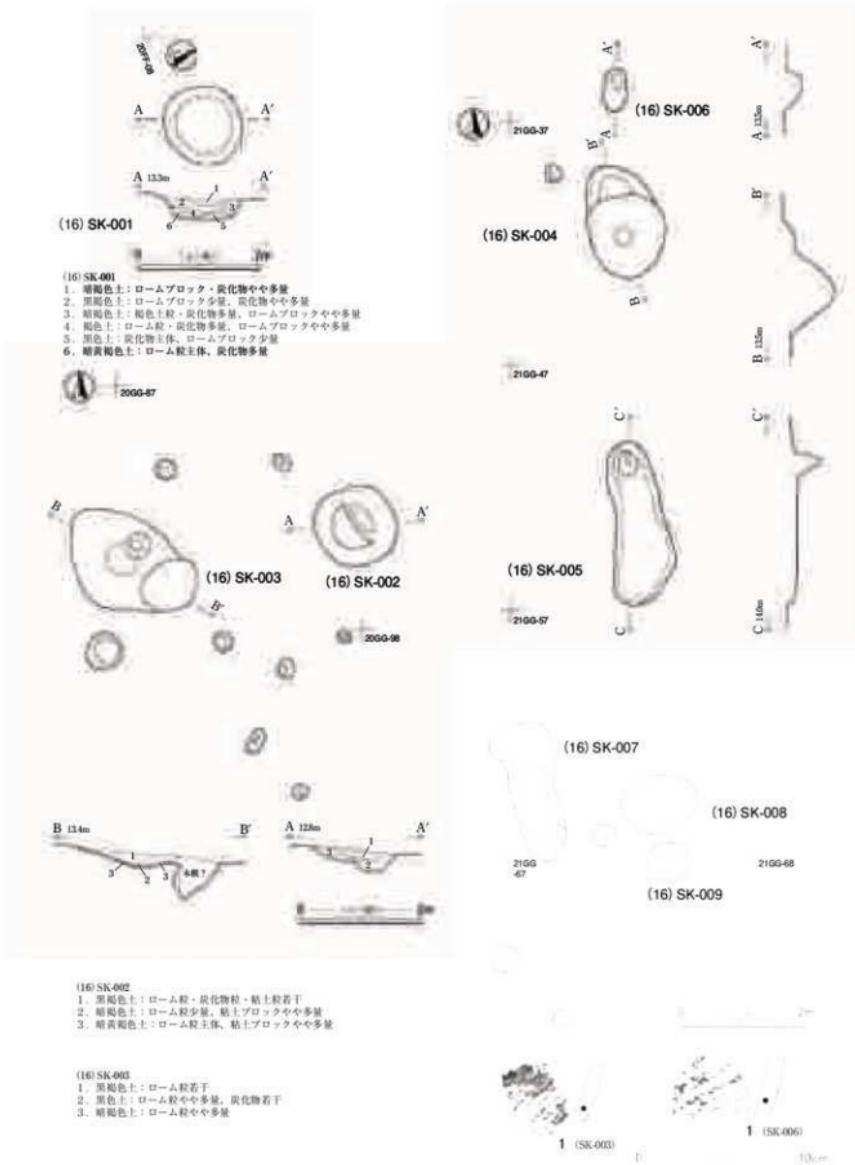
21GG-37グリッドに所在する。北側約1mに(16)SK-006、南東側約4mに(16)SI-003がある。平面形は長楕円形であるが、楕円形の擂鉢状の土坑と浅い半円形の土坑がつながった形状となっている。規模は長軸長1.9m・短軸長1.25mで、確認面からの深さは擂鉢状の部分が0.84m、浅い部分が0.22mである。

遺物は出土していない。

本遺構の時期は不明である。

(16) SK-005(第216図、図版13)

21GG-47グリッドに所在する。東側約1mで(16)SI-003に隣接する。平面形は不整円形である。断面形は全体に浅い皿状であるが、北端部にピット状の穴がある。規模は長軸長2.66m・短軸長1mである。確



第216図 (16) SK-001~009

認面からの深さは皿状の部分が12cm、ピット状の穴が56cmである。

遺物は出土していない。

本遺構の時期は不明である。

(16) SK-006(第216図、図版142)

21GG-27グリッドに所在する。北側約2mに(16)SI-002、南側約1mに(16)SK-004がある。平面形は長楕円形である。規模は長軸長70cm・短軸長40cm・確認面からの深さ31cmである。断面形は擂鉢状で、底面は狭い。

出土遺物は図示した1点のみである。1は黒浜式深鉢脛部破片である。一見するとLR単節縄文のように思えるが、太い節が規則正しく現れており、同じ方向の撚りを結束した可能性もある。棒状工具による沈線が条と重なるように引かれている。

本遺構の時期は出土遺物から黒浜式期と判断される。

(16) SK-007(第216図)

21GG-56・57・67グリッドに所在する。東側約50cmに(16)SK-008が隣接し、更に東側3mに(16)SI-003がある。平面形は不整円形である。規模は長軸長2.12m・短軸長1.04mである。深さについては記録がないため不明である。

遺物は出土していない。

本遺構の時期は不明である。

(16) SK-008(第216図)

21GG-57グリッドに所在する。北東側約1mに(16)SI-003が隣接する。平面形は楕円形である。規模は長軸長1.26m・短軸長1mである。深さについては記録がないため不明である。

遺物は出土していない。

本遺構の時期は不明である。

(16) SK-009(第216図)

21GG-57・67グリッドに所在する。北側約10cmに(16)SK-008が隣接する。平面形は楕円形である。規模は長軸長72cm・短軸長66cmである。深さについては記録がないため不明である。

遺物は出土していない。

本遺構の時期は不明である。

(32) SK-002(第217図、図版14)

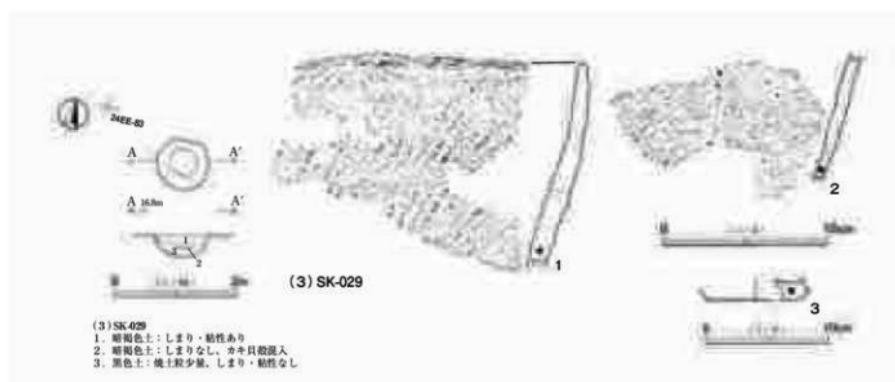
10Y-31・32・41グリッドに所在する。確認面での平面形は正円に近い楕円形で、底面での形状もやや凹凸があるが正円に近い楕円形である。壁はほぼ直立する。規模は長軸長1.62m・短軸長1.5mである。確認面からの深さは55cmであるが、土層断面の観察から少なくとも約60cmあると思われる。

遺物は出土していない。

本遺構の時期は不明である。

(22) ピット群(第217図、図版14)

14CC-27・37・38グリッドに所在する。本遺構以外には遺構は検出されていないが、縄文時代前期中葉と中期前半の遺物がやや集中する「集中地点A」と重複している。8基のピットから構成される。平面形はP2とP5が楕円形である以外は、いずれもほぼ正円形である。計測値については図中表で示した。



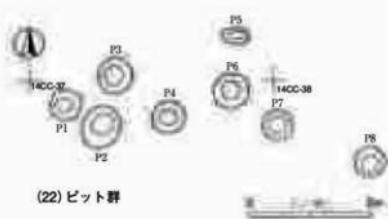
(3) SK-029

1. 布面色土: しまり・粘性あり
2. 布面色土: しまりなし、カキ目状混入
3. 黒色土: 焼土粒少量、しまり・粘性なし

(32) SK-002 (丸数字は2トレンチ土層の記号)

1. 布面色土: 表面的に細かいテフラ由来とすると思われる明るい色の土をブロック状
2. 布面色土: テフラに相当、部分的に焼成粒子が混在
3. 布面色土: 新規テフラに相当、部分的に焼成粒子が混在
4. 布面色土: ソフトロームと燒成色土との混合
5. 布面色土: トレンチ底部と2層との混合
6. 黒褐色土: 跡状の焼成色土ブロック
7. 黒褐色土: 2層に近いが焼成色土ブロック多く、色調明るい
8. 布面色土: ローム状、黒色土(2・3層由来と思われる)

(22) ピット群



第43表 (22) ピット群計測表

番号	形狀	長軸	短軸	深さ
P 1	円形	0.30	0.30	0.12
P 2	椭円形	0.72	0.62	0.15
P 3	円形	0.58	0.58	0.12
P 4	円形	0.52	0.52	0.07
P 5	椭円形	0.43	0.28	0.07
P 6	円形	0.58	0.58	0.08
P 7	円形	0.50	0.50	0.07
P 8	円形	0.50	0.50	0.08

第217図 (3) SK-029・(32) SK-002・(22) ピット群
遺物は塵が少量出土したのみである。

本遺構の時期は、時期の分かる遺物が出土しなかったが、中期を中心とした土器が包含された層を調査した後に検出されたことから、中期以前と判断される。

4 遺構外出土遺物

第22次調査地点出土土器(第9・218図、図版14・143)

第22次調査地点は8基のピットから構成されるピット群が検出されているが、ピット群を含む調査地点

西側からは縄文時代の遺物がややまとまって出土した。包含層として扱うほど多量の遺物が出土したわけではないが、本遺跡の縄文時代の様相を示すものとして独立して扱うこととする。「集中地点A」は13CC-06~18・26~28・36・37グリッドの位置にあり、東西南北とも約12m四方の範囲である。「集中地点B」は12DD-63~65・73~75・83~85・93~95、13DD-03~05グリッドの位置にあり、東西約12m・南北約20mの範囲である。「集中地点C」は14CC-26~28・36~38・46~49・57グリッドの位置にあり、東西南北とも約12m四方の範囲である。

1~16は「集中地点A」から出土したもので、一部関山式を含むが大多数は黒浜式である。3は2段のループをもつRL単節縄文が施されるが、摩耗が顕著で分かりにくい。関山式と考えられる。1・2・4~16は黒浜式で、1・2は深鉢口縁部破片、4~16は胴部破片である。1は口唇が尖頭状に整形され、R無節縄文が施される。2は小波状で、LR単節縄文が施される。4~9はLR単節縄文が施されるが、4を除いて器面があまり乾燥していない段階で施文したと思われ、条が深く節が判別しにくい。10はR無節縄文が施される。11はRL単節縄文が施される。12~14はLR+RR附加条縄文が施される。軸縄の痕跡が全く観察されないため撫糸文に見えるが、2本一組で規則正しく施文されているため附加条縄文と判断した。15は角棒状工具による押引文4条が平行に施文される。16は丸棒状工具による縦位の沈線がまばらに配される。内面にはススが多量に付着する。

17~27・31・32は「集中地点B」から出土したもので、前期黒浜式と中期阿玉台式に大きく分けられる。17~20・31は黒浜式である。17は深鉢口縁部破片で、平口縁であるが国示した部分は小突起となっている。LR+rr附加条縄文が施される。18~20は深鉢胴部破片である。18はLR単節縄文が施される。19は2条一組のR撫糸が等間隔に回転施文されており、恐らくLR+rr附加条縄文と思われる。20はRL単節縄文で、施文方向は縦に近い斜めである。31は深鉢胴部で、現存器高は6.0cmである。上下で文様が異なっており、上側はLR+rr附加条縄文、下側はLR単節縄文が施される。

21~27・32は阿玉台式である。21は深鉢胴部破片で、胎土に石英・長石を多量に含む。円形竹管による刺突列を口唇上に配し、同じ工具で口縁直下に2条の弧状刺突列が配される。向かって左側には突起が付けられていた痕跡が残る。22~24は同一個体の深鉢で、胎土に雲母片・長石の混入はあまり認められないが、砂粒を多量に混入する。22・23は口縁部破片で、口唇上に丸棒状工具による結節沈線が施され、口縁直下に結節沈線による楕円区画が配される。区画内部には上向きと下向きの短い結節沈線が交互に配される。23はつまみ状の突起が貼り付けられ、区画の端部となっている。24は区画の直下に当たると考えられる胴部破片で、区画に接するように弧状の断面三角形隆起線が垂下される。隆起線の左側にはキザミが施される。25は深鉢口縁部破片で、胎土にはあまり雲母片・長石の混入は認められないが、全体に粒子は粗い。折返し口縁となっており、その下側には輪積痕が残り指頭整形痕が等間隔に並ぶ。26は浅鉢と思われる胴部破片で、胎土に石英・長石を含む。底部から器壁が大きく開き、強く屈曲して内湾する。屈曲部より上側は輪積痕が残り、指頭整形痕が等間隔に並ぶ一方で、下側は丁寧に調整されている。27は浅鉢口縁部破片で、胎土に雲母片を多量に含む。口縁部は肥厚し、口唇は外削ぎ状に整形される。外面に輪積痕が残り、指頭整形が行われる。32は深鉢底部で、胎土にあまり雲母片・長石の混入は認められないが、砂粒を多量に混入する。外周の遺存度は約25%で推定底径13.2cm・現存器高1.9cmである。底面はアンペラ圧痕された後ナデ消されているが、周縁部に痕跡が残されている。

28・29は「集中地点C」から出土したものである。ここから出土した遺物は石器及び礫が多数であり、土



第218図 第22次調査地点出土土器

器はごく少量であった。28は深鉢の把手で、下面是深鉢口縁部との接合面に当たる。口縁から立ち上がった板状粘土が90°捻られて耳状になり、外周に粘土を環状に継ぎ足して大形化している。外面側下端部にはヘラ状工具による横位の瓜形文が施され、深鉢本体の口縁部文様の一部をなしていると思われる。施文技法から五領ヶ台式～阿玉台Ia式と考えられる。29は深鉢胴部破片で、胎土は粒子が細かく堅緻である。LRL複節縄文が縱方向に施される。五領ヶ台式と考えられる。

集中地点以外から出土した遺物はごく少ない。30は13DD-52グリッドから出土したもので、紐状の粘土がつまみ上げられて突起となっている。阿玉台式の口縁部ないしは、深鉢胴部に貼り付けられていたものと思われる。

その他の調査地点出土縄文土器(第219～221図、図版143～145)

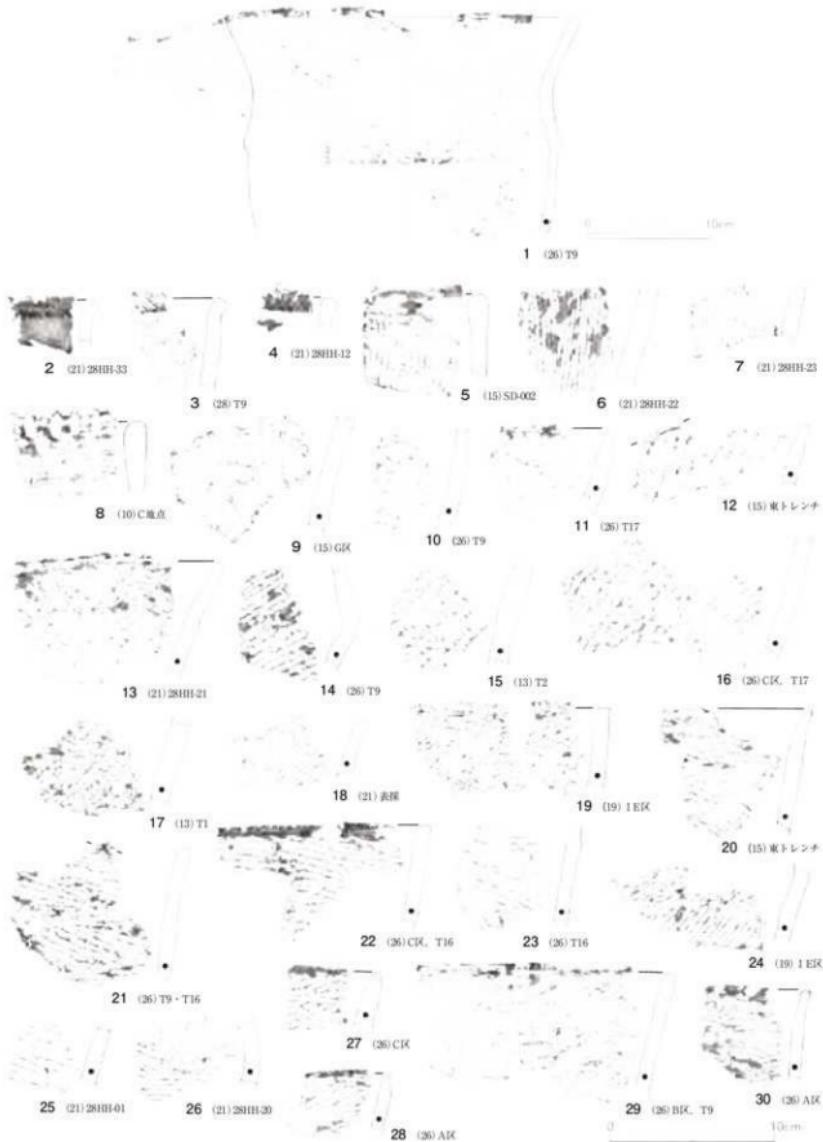
その他の調査地点から出土した土器はまとめて扱うこととする。出土傾向としては、前期の遺物は遺構が検出された第1・26次調査地点を中心として、調査した区域のはば全城から出土しているのに対し、中期の遺物は出土範囲がかなり限定され、第6・21・22次調査地点でまとまった出土が見られるほかはごく少ない。それ以外の時期の遺物は全体に極めて少なく、図示したものがほとんど全てである。

2～7は撚糸文土器で、2～5は深鉢口縁部、6・7は深鉢胴部である。2は口唇がやや強く外反し、R無節縄文が横方向に回転施文される。胴部側は遺存している範囲では無文である。3は2より口唇部の外反が緩やかだが、口縁直下に指頭あるいは板状工具による押圧が連続して加えられている。口唇はR無節縄文を横方向に、連続押圧の部分は縱方向に、その下の胴部側は条が縱になるように、斜め方向に回転施文される。4は3と同様に外反する口唇直下に押圧が加えられるが、摩耗が顕著で施文具は不明である。文様は観察されないが、無文なのか摩耗により剥落しているのか判断できない。以上は井草II式と判断される。5は貼り合わせるように口唇部を肥厚させている。幅の狭いRL単節縄文を条が縱になるように、斜め方向に回転施文される。6はL撚糸文が密に施される。7は分かりにくいかR撚糸文と思われる。

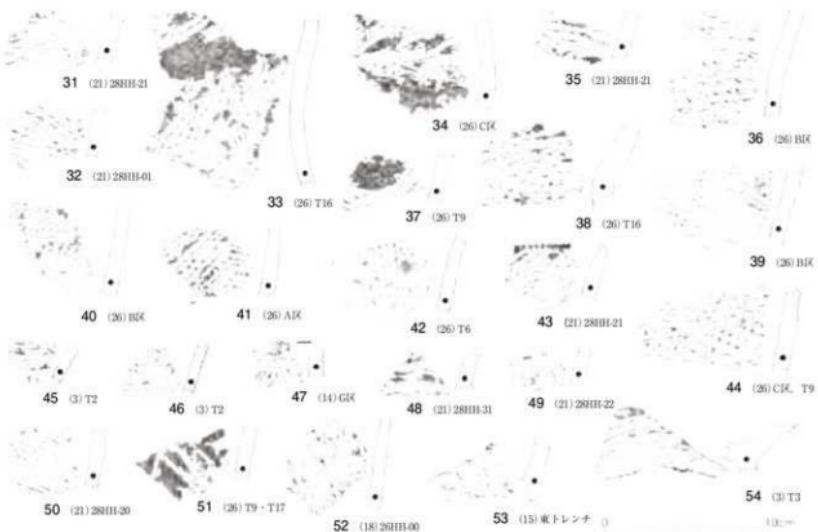
8は沈線文土器で、深鉢口縁部である。口唇を肥厚させ、丸棒状工具によるキザミがやや間をおいて加えられる。外面は半截竹管と思われる工具で横位及び縱位の沈線が描かれるが、どのようなモチーフであるかはつきりしない。田戸下層式と判断される。

9は条痕文土器で、深鉢胴部である。やや強く外傾する。器面はナデ調整のみで貝殻条痕は施されない。

1・10～54は前期前葉～中葉にかけての繊維土器で、大部分が黒浜式土器である。器種は54を除いて深鉢である。10は3段以上のループが付いたRL単節縄文が施される。関山式と考えられる。1・11～18は黒浜式の主に単節縄文を地文とするもので、1と13以外は全てLRである。1は器形復元できるもので、推定口径29.2cm・現存器高18cmである。器壁が胴部中央で屈曲して若干内傾した後、口縁部に向かって再び開く形状となるが、屈曲部を肥厚させ輪積痕を強調している。RL単節縄文が施される。12は波状口縁である。13の文様は2段構成で、下段は通常のLR単節縄文である。上段は条が開いておりRL+L附加条縄文である可能性が強いが、軸縄の押圧が見られないため詳細は不明である。19～25は黒浜式の主に無節縄文を地文とするもので、19と24はL、それ以外はRである。19・21は口唇が角頭状に整形され条のような圧痕が認められるが、摩耗しているため棒状工具によるキザミか縄文であるか判断できない。26～43は黒浜式の附加条縄文若しくは撚糸文を地文とするものである。26はRL+LとLR+Rの2種の原体が使用されて羽状縄文が構成される。27はRL+Lと思われるが、附加条はかなり撚りが弱く、また、器面があまり乾燥していないうちに施文されたと思われ、乱雑な印象である。外面にススが付着する。29・33・34は同一



第219図 その他の調査地点出土縄文土器(1)



第220図 その他の調査地点出土縄文土器(2)

個体と思われるもので、原体の撚りがあまり強くないためか条がそろっておらず、かなり無秩序な様相である。2本一組のR撚糸とL撚糸が併用され、直前段合撚の可能性があるが、軸縄の痕跡が見られないため詳細は不明である。30は口唇が角頭状に整形され、太い棒状工具でかなり間隔を開けてキザミが配される。2本一組のL撚糸回転施文が観察されるが、斜行施文で等間隔であることから、附加条縄文で軸縄が押圧されなかつたものと推測される。31はRL+ll、32はRL+lで、附加条が細く秩序だった施文である。36は多段の結節をもつRL単節縄文が配される。37は2本一組のL撚糸が施され、図の上端部には棒状工具による沈線が横位に配される。38はR+lが地文と思われるが、後から撚糸がかなり無造作に押圧されている(回転施文か側面圧痕が不明である)。29などと同様の直前段合撚の可能性がある。39はRL+L 単節縄文で、附加条の末端が規則正しく揃っているのが観察される。40はLR+rで、細い糸で一端を縛っているように見える。28・41は直前段合撚で、LRL+LLである。42は向かって右側にRL単節縄文、左側にR撚糸文が施されるが、羽状縄文を意識したものは明らかではない。微量のスヌが付着する。43~53は黒浜式の半截竹管あるいは棒状工具による、沈線ないしは押引文が施されるものである。44はRL単節縄文を地文とし、幅の狭いヘラ状の工具による押引文が2列配される。45・46は同一個体で、半截竹管による押引文が横位多段に配される。全体に引いた痕跡をほとんど残さず刺突列のような施文法であるが、45の口縁直下の段のみ長く引き延ばされて平行沈線的な効果をもたらしている。47は半截竹管による沈線が口縁直下に横位に配され、その下側は沈線が鋸歯状に施文される。48~52は胴部破片である。48~50は施文具に半截竹管を使用し、51・52は半截竹管と棒状工具を併用している。53は底部破片である。半截竹管による縦位の沈線が施される。54は台付浅鉢である。無文であるが、丁寧なミガキ調整がなされている。外面に微量のス



第221図 その他の調査地点出土縄文土器(3)

スが付着する。

55~80・83~87・92は中期前葉五領ヶ台式~阿玉台式で、55~60・64・65・71・73・77・87・92は深鉢口縁部、61~63・66~70・72・74~76・78~86は深鉢胴部、73は浅鉢口縁部破片である。これらの資料は一部を除いて胎土は粗く小礫を多量に含む。胎土中の雲母片の量については個体差があり、ほとんど含まないものもある。55は浅いキャリバー形で、口縁に沿って結節沈線が2条巡らされ、胴部の屈曲部に沿っても結節沈線が巡らされる。屈曲部付近は指頭整形が行われる。56はやや強く内湾するようになり、口唇外側に隆起線を貼り付けて肥厚させる。左側はせり上がりており突起が付いていた痕跡が残る。半截竹管による結節沈線が棒状に配され、内側には一部波状になる結節沈線が施される。57は口唇を上面と内面両側とも平坦になるよう整形され、口縁に沿って隆起線が貼り付けられる。隆起線は棒状になり口縁部文様帯を構成し、内側に半截竹管による結節沈線を巡らし、同じ工具による斜行結節沈線が充填される。58は胎土が比較的細かく、雲母片などあまり含まない。口唇は上・内面両側とも平坦になるよう整形され、口縁に沿って隆起線が貼り付けられ、つまみ上げるように鰐状の突起が貼り付けられる。隆起線に沿って半截竹管による結節沈線が巡らされる。59は小波状であり、胎土に雲母片をほとんど含まない。ベン先状工具で口縁に沿って幅広の角押文が巡らされ、下側は波状沈線が配される。以上の55~58は阿玉台I a~I b、59は阿玉台式Ⅲ式に比定される。60は口唇が角頭状に整形され、丸棒状工具による結節沈線が配される。口縁部に沿って同じ工具による結節沈線が2条配され、下側の結節沈線に沿って隆起線が貼り付けられる。61は深鉢の頸部と考えられるもので、強く屈曲して口縁に向かって大きく開く。横位の結節沈線が約1.5cm間隔で水平に巡らされ、間のうち上側には3本一組の鋸齒状押引文が充填され、下側は無文帶となっている。62は胎土にはほとんど雲母片を含まない。竹管を使用して2本一組の横位及び波状の結節沈線が巡らされ、隙間に円形刺突が配される。以上の3点は中部地方猪沢式の影響を受けた土器と考えられる。63は断面三角形の隆起線が横位及び縦位に貼り付けられ、横位の隆起線に沿って貝殻腹縁を用いたと思われる爪形の刺突列が配される。更にそれらに沿って半截竹管による沈線で円文が描かれる。阿玉台Ⅱ式に比定される。64は口唇が上面だけでなく内側も平坦になるよう整形される。LR単節繩文を地文とし、2本一組の沈線が口縁部文様帯の上下に配される。更に弧状の沈線が2本、口縁部に接するよう配され、接点に棒状工具による上下方向の斜めの刺突が交互に配される。65は波状口縁で口唇を肥厚させ内削ぎ状に整形する。口縁に沿って3本一組の沈線が配され、下側はRL単節繩文が施される。66・68はRL単節繩文を地文とし、それぞれ鋸齒状沈線、斜行沈線が配される。67・70は隆起線が「V」字状に貼り付けられ、両脇に沈線が配される。70の上部には三角形の陰刻も認められる。67は地文にRL単節繩文が施される。69は結節をもつLR単節繩文が縦方向に施されて地文となり、2本一組の結節沈線が三角形に配される。ちょうど結節が三角形の中央部に配置されている。71は無文の口縁部で、口縁直下で強く外反し、外側に肥厚させて折返し口縁としている。器面には指頭整形痕が認められる。72は輪積痕と指頭整形痕をよく残す。73は口縁部が屈曲して強く外反する。口唇は角頭状に整形され、内側に稜が形成される。文様は施されないが外面は指頭整形痕を残し、微量のススが付着する。

74~76は、いずれも深鉢胴部破片である。74は2本一組の沈線の脇にヘラ状工具による押引文が配される。反対側は欠損しているが同様な押引文が配されている可能性が強く、いわゆるキャタピラ文になるとと思われる。75は断面蒲鉾形の隆起線が縦位に貼り付けられ、片側に爪形文が施される。76はやや膨らみをもつ形状で、上下を2本一組の沈線で区画し、間に同じく2本一組の波状沈線を配する。波底部に「V」字

状の沈線が付け加えられる。やや変則的であるが「V」字状の沈線は三叉文が変形したものと思われ、モチーフとしては勝坂式に見られるものである。

77は深鉢口縁部である。口唇外側に隆起線が貼り付けられ、下側はナゾリによって区画される。同じナゾリは下端部にも認められる。地文はL無節繩文で、施文後上側に沈線が配されている。78~80・83~86は深鉢胴部破片である。78・79は口縁部文様帶直下と思われる破片で、横位の隆起線が貼り付けられるか沈線が巡らされるものである。85・86はRL単節繩文を地文として微隆起線が貼り付けられるもので、85の隆起線は細く、86のそれはやや太い。64~80・83~87は五領ヶ台式と考えられる。92は器形復元ができる深鉢で、推定口径25.9cm・現存器高7.6cmである。胎土には小蝶や砂粒を極めて多量に含む。浅いキャリバー形で、口唇は屈曲するように外反させ、外削ぎ状に整形される。口縁に沿って貝殻腹縁を用いたと思われる爪形の刺突列が配される。拓影図では白抜きにしたが、中央部には突起が付いていた痕跡が残る。阿玉台I b式に比定される。なお、出土地点は(32)SX-004となっているが、これは発掘調査時に明確な掘り込みなどは検出されなかったものの遺物が集中して出土したため、何らかの遺構が存在する可能性があるとして付けられた番号である。ただし、実際に見つかったのはこの個体だけで、意図的に遺物を集積あるいは投棄したような痕跡は認められず、この土器自身も遺存度が低く埋設されていたような状況も想定していくため、遺構とするのは無理があると判断して欠番とした。81は口唇が欠損するもののキャリバー形の口縁部で、隆起線による棹状区画の内側に隆起線に沿って沈線を巡らせ、内部をRL単節繩文の縱位施文で充填する。棹状区画の外側にも繩文が施文されるが、沈線は省略されている。造作はかなり雑で、器面も摩耗しており全体に不明瞭である。82はRL単節繩文を縱方向に回転施文した後、縱位沈線を配して間の繩文を磨り消す。81・82は加曾利E式である。93~95は器形復元ができる深鉢胴部である。93は現存器高8.2cmである。RL単節繩文を縱方向に回転施文し、3本一組の縱位沈線を配して沈線間の繩文を磨り消す。沈線の施文法はあまり丁寧ではなく、間隔もまちまちで繩文帯の幅も不揃いである。94は現存器高4.1cmである。やや強く外傾し、櫛羽状工具による斜位の条線により器面が充填される。95は現存器高8.1cmである。器壁は直立に近く、上側に縱位沈線とLR単節繩文が施される。96は深鉢底部である。推定底径10.8cm・現存器高4.2cmである。やや強く外傾し、斜位の太沈線が複数垂下している。97は無文の深鉢底部で、推定底径8.2cm・現存器高4.8cmである。文様がないが形状や構造などから加曾利E式の可能性がある。

88・89は後期前葉の堀之内式である。87は無文の深鉢口縁部破片である。口唇が角頭状に整形され、尖頭状工具によるキザミが配される。88・89は深鉢で同一個体である。器厚は薄いが焼成は良好で堅緻である。口縁に沿って半截竹管による沈線が横位に配され、下側に縱位の沈線が垂下され、更に3本一組の鋸歯状沈線が縱位沈線の間に配される。図示できなかったが、接合しない同一個体の破片では、縱位沈線は4本以上が一組になっている。

90は後期末～晩期初頭安行式の深鉢胴部破片である。器壁は強く外傾し、丸棒状工具による条線が底部側から口縁部側に向かって施される。粗製深鉢の底部付近である。

91は土器片錐である。長さ4.3cm・幅3.5cm・最大厚1.1cm・重さ22.2gである。左端にLR単節繩文が施されているのが認められる。素材は加曾利E式土器であろうと推測される。

石器(第222・223図、第44表、図版146・147)

ここでは遺構外又は繩文時代より新しい時代の遺構内から出土した石器について述べる。出土総数45点で、内訳は石鎚10点・石匙1点・打製石斧3点・磨製石斧3点・磨石8点・敲石1点・石皿12点・石核2

点・剥片4点・調整剥片1点である。このうち25点を図示した。

前述のとおり第22次調査地点の「集中地点C」(グリッド名で14CC-26~28・36~38・46~49・57)とされた部分から石器がまとめて出土した。出土点数は10点で、内訳は磨石1点・石皿9点である。図示したのは3点(19・22・25)で、それ以外のものは全て小片で図示できなかった。この「集中地点C」以外は、各地点の出土状況に有意な差は見られない。

また遺構出土の石器も含め、出土した石器の属性表をまとめた(第44表)。

1~10は石鎚である。内訳は有茎石鎚1点・平基無茎石鎚1点・凹基無茎石鎚8点である。1はチャート製の有茎石鎚である。茎の部分が欠損する。青灰色を基調とし節理が複雑に混入する石質である。2は黒色ガラス質安山岩製の平基無茎石鎚である。3~10は凹基無茎石鎚である。3・4は小型のもので、石材は3が黒曜石、4がチャートで、青灰色を基調とし節理が複雑に混入する石質である。3は細長い器形で、鎌先が正面図左側に傾く。4は正三角形に近い形である。5~10は長さ2cm~3cm程の平均的な大きさのものである。5はトロトロ石製で、剥離も確認しにくい状態まで風化しており、器面も脆い。6~9はチャート製で、青灰色を基調とし節理が複雑に混入する石質である。6・7は完形、8は片基部を欠損、9は片基部の先端部が欠損している。いずれも細かな押圧剥離で調整されているが、6・8に比べ、7は基部の抉りが浅く、9は基部の抉りが深い。10は黒曜石製で、鎌先が欠損する。

11はチャート製の石匙である。錐型の石匙と考えられる。青灰色を基調とし節理が複雑に混入する石質である。小型のものであるが、抉りが施され、刃部には使用に伴うつぶれが認められる。

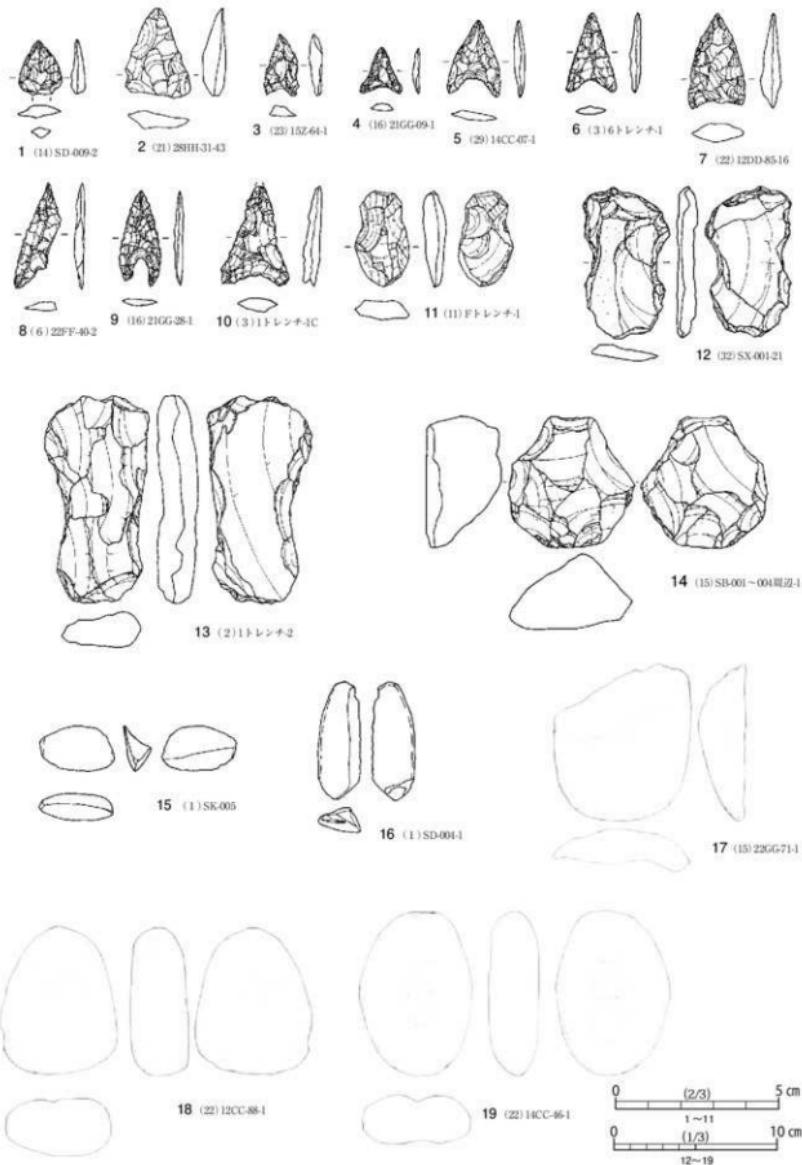
12~14は打製石斧で、いずれも分銅型である。12・13はホルンフェルス製である。12は扁平礫を素材として打撃を加え製作しており、表面、裏面に礫面が遺存している。13には礫面は認められず、剥片素材と考えられる。12・13ともに両側縁と刃部に加工が施されている。14は粗粒玄武岩製である。約半分が欠損する。厚さが4.6cmもあり、扁平な礫や剥片を利用したのではなく、厚みのある棒状礫を素材としている。抉りを入れる部分はかなり大きく剥離がなされている。

15~17は磨製石斧である。いずれも刃部に刃こぼれが認められる。15は粗粒玄武岩製で刃部のみ遺存するものである。16は蛇紋岩製で、側縁部と刃部がわずかに遺存するものである。遺存する部分から定角式磨製石斧と考えられる。17は変成岩製で、刃部と両側縁の一部が遺存する。また裏面は刃部の部分から大きく剥落している。やや大型のもので、刃部の周辺のみ丁寧な研磨が施される。

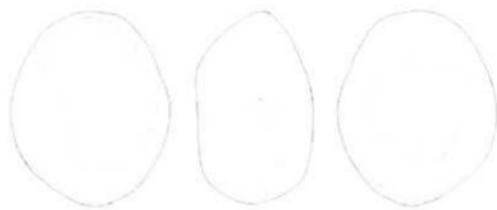
18~20は安山岩製の磨石である。18・19はやや扁平な礫を素材としている。ほぼ全面が摩耗し、側縁部に敲打痕、中央部分に凹みが認められる。被熱のため、器面がやや荒れている。20はこぶし大の礫を素材として、平坦な部分に摩耗、側縁部に敲打痕が認められる。被熱は確認できない。

21は砂岩製の敲石である。先端部分に敲打痕、正面図上部と右側縁には剥落が認められる。

22~25は石皿である。いずれも被熱のため、器面が荒れているとともに、大きく欠損するものばかりで、本来の形状をうかがい知れるものはない。22は絹雲母片岩製で、側縁部の大部分が剥落し、剥落を免れた部分は摩耗している。正面に1か所、裏面に2か所の凹みが認められる。23は片麻岩製で、2か所に凹みが認められる。凹みの周辺は摩耗している。裏面は一面に炭化物が付着している。24・25は安山岩製である。24は正面に5か所、側縁部に2か所の凹みと凹みの周辺に摩耗が認められる。25は5個の破片に分かれて出土したもののが接合したものである。正面には摩耗、裏面には2か所の凹みが認められる。裏面からの凹みは正面にまで貫通している。



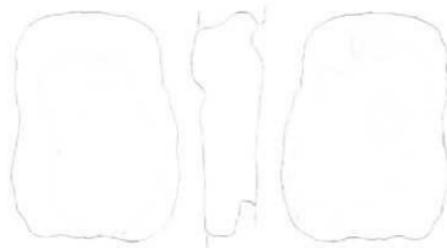
第222図 その他の縄文時代石器(1)



20 (15) SB-001~004周辺



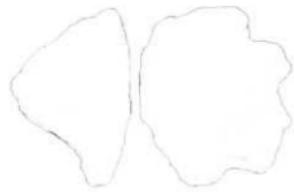
21 (21) 28BB-11-2a



22 (22) 14CC-26-2



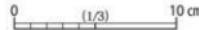
23 (14) SD-013-2a



24 (25) 15BB-2a



25 (22) 14CC-27-2



第223図 その他の縄文時代石器(2)

第44表 縄文時代石器属性表

単位：長・幅・厚(㎜) 重量(g)

件名番号	出土地點	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
第20706-6	(16)SI-003	磨製石斧	縞状片岩	137.9	50.8	30.7	360.0	敲打痕あり
第20706-7	(16)SI-003	磨製石斧	縞状片岩	149.2	63.4	37.6	540.0	敲打痕あり
第20706-8	(16)SI-003	磨製石斧	縞状片岩	49.4	22.7	9.8	36.5	敲打痕あり
第20706-9	(16)SI-003	磨石	砂岩	63.8	37.1	15.4	48.8	敲打痕あり
第21006-9	(21)SI-001	磨石	砂岩	76.7	57.5	21.4	87.2	敲打痕あり
第21206-13	(25)SI-002	磨石	花崗岩	96.7	88.6	51.8	925.0	被熱
第22206-1	(14)SD-009	石器	チャート	16.1	13.0	4.0	0.7	有茎
第22206-2	(21)280H31	石器	黒色ガラス質安山岩	27.2	19.3	7.0	2.9	平底無茎
第22206-3	(23)15Z-64	石器	黑曜石	19.1	19.8	4.1	0.2	円底無茎
第22206-4	(16)21GG-09	石器	チャート	13.9	13.1	2.0	0.3	円底無茎
第22206-5	(29)14CC-07	石器	トロトロ石	23.8	16.4	3.4	0.7	円底無茎
第22206-6	(3)6レレンチ	石器	チャート	24.4	15.1	3.9	0.9	円底無茎
第22206-7	(22)12DD-85	石器	チャート	28.6	26.8	5.7	2.2	円底無茎
第22206-8	(6)22FF-49	石器	チャート	32.3	14.0	3.3	0.9	円底無茎、片茎部欠損
第22206-9	(16)21GG-28	石器	チャート	29.1	12.3	2.9	0.9	円底無茎
第22206-10	(2)1レレンチ	石器	黑曜石	30.3	21.0	6.0	1.9	円底無茎
第22206-11	(1)1Fトレンチ	石器	チャート	28.9	16.6	6.7	3.6	
第22206-12	(32)SX-001	打製石斧	ホルンフェルス	91.9	52.9	13.1	72.5	分銅型
第22206-13	(2)1トレンチ	打製石斧	ホルンフェルス	126.2	64.1	15.0	238.9	分銅型
第22206-14	(15)SB-001～004	打製石斧	粗粒玄武岩	79.9	77.0	46.1	247.0	分銅型
第22206-15	(1)SK-005	磨製石斧	粗粒玄武岩	27.6	45.2	16.3	15.5	
第22206-16	(1)SD-004	磨製石斧	蛇紋岩	72.3	25.2	14.5	38.4	
第22206-17	(15)23GG-71	磨製石斧	安山岩	96.9	83.8	29.1	362.2	
第22206-18	(22)12C-88	磨石	安山岩	89.3	70.8	35.5	340.6	敲打痕あり。被熱
第22206-19	(22)14CC-46	磨石	安山岩	88.9	68.4	29.4	323.8	敲打痕あり。被熱
第22206-20	(15)SB-001～004	磨石	安山岩	118.5	98.7	71.8	1134.0	
第22306-21	(2)12BH11-2	石器	砂岩	80.1	39.6	28.8	314.7	
第22306-22	(22)14CC-26	石器	縞状片岩	190.2	103.6	46.1	890.7	被熱のため表面剥落激しい
第22306-23	(14)SD-013	石器	片麻岩	117.2	96.6	66.3	975.0	被熱、炭化物付着
第22306-24	(25)15HB-2	石器	安山岩	109.5	93.3	73.9	415.0	被熱
第22306-25	(22)14CC-27	石器	安山岩	127.5	9.0	34.7	404.8	
以下非銅製								
(16)SI-003	石核	凝灰岩		42.9	31.7	21.8	36.4	
(16)SI-003	磨製石斧	縞状片岩		27.8	34.5	5.3	5.8	
(16)SI-003	磨石	砂岩		40.7	23.4	4.94	43.0	被熱、大部分欠損
(16)SI-003	磨石	砂岩		54.0	22.6	45.0	46.8	
(26)SI-002	石核	安山岩		41.8	35.7	69.7	112.3	
(15)SD-002	磨石	砂岩		53.9	68.2	33.4	163.1	
(15)22FF-59	磨石	安山岩		31.1	41.8	29.6	35.9	大部分欠損
(15)23GG-01	磨石	安山岩		73.7	51.7	35.8	192.2	被熱
(32)SX-001	磨石	安山岩		53.3	40.3	25.1	68.3	
(32)SX-001	磨石	安山岩		38.9	52.1	26.3	89.3	
(22)14CC-27	石器	安山岩		45.1	38.8	56.3	116.8	被熱、大部分欠損
(22)14CC-27	石器	安山岩		42.2	49.2	58.2	37.4	被熱、大部分欠損
(22)14CC-27	石器	安山岩		70.7	42.6	62.6	116.9	
(22)14CC-37	石器	安山岩		62.8	70.2	45.5	210.6	被熱、大部分欠損。2孔穿孔
(22)14CC-37	石器	安山岩		56.5	48.6	53.9	180.7	被熱、大部分欠損
(22)14CC-37	石器	安山岩		58.9	41.2	58.2	124.0	
(22)14CC-38	石器	安山岩		62.3	58.6	66.7	194.5	被熱、大部分欠損。6小衝孔
(32)10Y-44	石器	安山岩		58.6	45.7	24.6	40.0	被熱、大部分欠損
(1)C-1K	石核	チャート		26.7	29.9	22.6	18.1	
(17)トレンチ	石核	黒色安山岩		60.1	50.1	26.7	77.7	風化著しく、欠損部分多い
(1)1レレンチ	調片	黑曜石		23.9	33.8	3.3	2.8	
(1)2トレンチ	調片	黑曜石		19.2	22.9	5.8	1.6	
(1)2トレンチ	調片	チャート		17.4	15.6	6.9	1.7	
(32)23トレンチ	調片	泥岩		28.0	45.8	15.2	21.9	
(32)SX-001	調整調片	頁岩		11.9	16.5	2.0	0.1	旧石器か?

第4節 古墳時代

古墳時代の遺構は第32次調査地点でのみ検出された。第32次調査地点は遺跡北西端部に当たる10W・11W・10X～12X・9Y～12Y・10Zの範囲にある。遺構は古墳時代中期の竪穴住居跡1軒と土坑1基、遺物集中地点1か所、溝1条が検出され、竪穴住居跡を除く3遺構は隣接して存在している(第225図)。

1 竪穴住居跡

(32) SI-001(第224図、第3・45表、図版15・147)

11X-03・12-14・23・24グリッドに所在する。ほかの遺構との重複はない。平面形は正方形で、主軸方向はN-32°-Wである。規模は主軸長5.34m・幅5.36mで、床面積は25.77m²である。確認面からの深さは16cm～30cmで、東側が浅い。床面は平坦であるが、硬化面はない。壁溝はない。炉は北西側壁に寄った位置にある。形状は楕円形で、掘り込みは極めて浅い。規模は長軸長80cm・短軸長72cmである。底部周辺も被熱した状況はほとんど見られない。主柱穴はない。貯蔵穴は東角にあり、平面形は長辺80cm・短辺66cmの楕円形で、深さは50cmである。埋土は黒褐色土が主体で、床面や壁近くにはローム粒を主体とする土層が見られる。

出土した遺物は少量で、出土位置は、図示したもの以外も含めて、全て東半分に偏っている。

1は土師器高杯である。口径が大きく、口縁部は直線的に立ち上がる。杯部外面下端に稜が作り出される。脚部は欠損するが、円柱状になると思われる。杯部内外面ともにヘラナデ調整が施される。器表面は被熱しやや荒れている。2は土師器壺である。頸部は強く「く」の字形に屈曲する。外面はヘラナデ調整が施され、屈曲部にはヘラの当たり痕が残る。内面は頸部がヘラナデの後ナデ調整、胴部は指頭による押えが施される。3～5は土師器鉢である。3は完形で出土しているが、口縁部から底部にかけてひび割れが見られる。口径が器高よりも大きく、最大径は口縁部にある。体部は内湾して立ち上がり、頸部内面に稜を作り出し、口縁部は外反する。底部は小さく窪む平底である。体部内外面はヘラナデ調整が施される。口縁部内外面はナデ調整が施されるが、内外面とも屈曲部分にヘラナデ痕が残る。器表面は被熱し、内外面ともにやや荒れている。4は比較的大きな突出する平底の底部で、口縁部は内湾気味に立ち上がる。体部内面は、器表面の剥落が見られるが、丁寧なヘラ磨き調整が施される。体部外面はヘラナデ、口縁部内外面はナデ調整が施される。5は最大径が口縁部にある。3に似た器形と思われるが、口縁部は直線的に立ち上がる。体部外面はヘラナデ、体部内面と口縁部内外面はナデ調整が施される。体部内面に輪積痕が見られる。器表面は被熱し、内外面ともに荒れている。

2 土坑

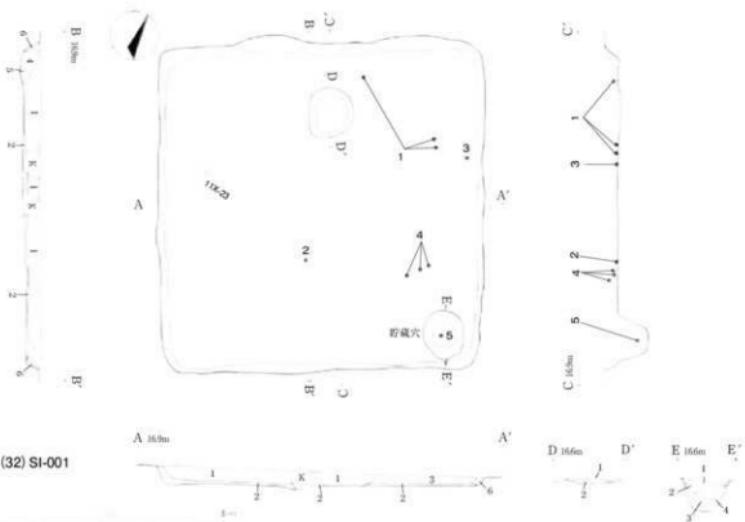
(32) SK-003(第224図、第5表、図版16)

10Y-53グリッドに所在する。やや丸みを帯びた方形で、長軸方向はN-53°-Eである。規模は長軸長60cm・幅60cmである。掘り込みは浅く、確認面からの深さは8cm前後である。埋土中には焼土粒や焼土の小ブロックを含んでいるが、底部には被熱した状況があまり見られない。遺物は出土していないが、遺物集中地点(SX-001)が隣接していることなどから、古墳時代の竪穴住居に伴う炉と思われる。

3 遺物集中地点

(32) SX-001(第225図、第45表、図版16・147)

10Y-12・13・22・23・32グリッドに所在する。遺物の広がりは、(32)SD-001と一部重複している。地形的には西から東に傾斜していることから、遺物の出土状況も傾斜に沿った傾向を示している。平面的に



(32) SI-001

1. 黒褐色土 (7.5YR2/2): 2~3cmのブロック状の暗褐色土深入し、一部被土粒
2. 褐色土 (10YR4/6): ローム粒・1~2cmのブロック主体
3. 暗褐色土 (10Y3C/4): 1層に混入するが、黒色土粒が少ない
4. 黑色土 (10YR2/1): 3cm前後の黒色土ブロック主体
5. 褐色土 (10YR4/4): 2層と4層の混合土
6. 黄褐色土 (2.5YR5/6): ローム粒主体、黒色土粒若干

(32) SI-001 2nd

1. 黒褐色土 (10YR2/1): 黒色土と暗褐色土の混合土、ブロック状のソフトローム
2. 褐色土 (5YR4/8): 硬土層

(32) SI-001 穴検穴

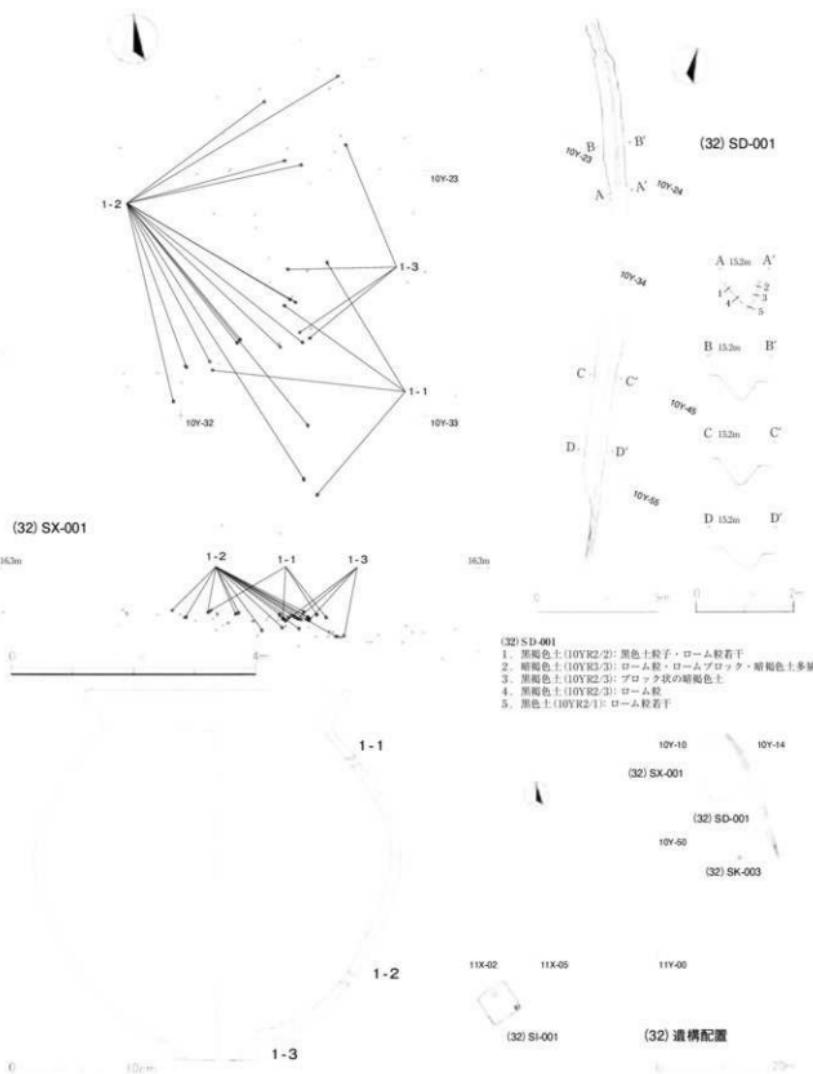
1. 黑褐色土 (10YR2/1): 黑色土主体、暗褐色土・黄褐色土
2. 暗褐色土 (10Y3C/4): ローム粒多量、ブロック状の黑色土少量
3. 暗褐色土 (10YR4/4): ローム粒多量
4. 褐色土 (10YR4/6): ローム粒多量



(32) SK-003

1. 暗褐色土 (10YR3/4): 後土粒・硬土粒ブロック多量、黑色土粒・暗褐色土粒
2. 暗褐色土 (10YR3/3): 硬土粒、黑色土粒若干

第224図 (32) SI-001・SK-003



第225図 (32) SX-001・SD-001・遺構配置

は、特に集中している場所ではなく、広く散らばっている。

出土遺物は土師器壺がほぼ100%を占め、そのうちの多くは、図示したものと同一個体と思われる破片である。

1は土師器壺である。口縁部(1-1)・胴部(1-2)・底部(1-3)の3つの部位は接合しないが、色調や胎土などから同一個体と判断し、復元して図示した。最大径は胴部中位にある。底部は大きく突出する平底で、胴部はほぼ球形である。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。口縁部内面は筋状痕を残す強いヘラナデ、口縁部外面はナデ調整が施される。胴部外面はヘラナデ調整が施される。胴部外面の一部にスス状の付着物が見られる。

4 溝

(32) SD-001(第225図、第6表、図版16)

10Y-02・12・13・23・34・44・54グリッドに所在する。現状では直線的であるが、確認面での標高14.8m～14.9mの地形に沿って掘られている。規模は現存総延長22.5m・最大幅0.8m・確認面からの深さ0.4m～0.5mである。走行方向はN-23°-Wである。溝の北西側は調査地点境まで続いている。南東側は溝の端部になるものと思われる。両端ともに、確認トレチによる確認面が深かったために、幅がほかに比べて狭くなっている。断面形は「V」字形で、壁は直線的である。

出土遺物はわずか3点で、いずれも土師器壺胴部破片で、図示できるものはない。色調・胎土などの特徴から(32)SX-001の土師器壺に類似している。

第45表 第32次調査地点土器観察表

遺構	辨別番号	種類	器種	法 葉(cm)	進 度	胎 土	色 調	焼 成	技 法	備 考
SI-001	第224H-1	土師器	高杯	口径 (18.6) 底径 -	杯部55%	白色砂粒・赤褐色 コリヤ粒	内面 褐色(5YR6/8) 外面 褐色(7.5YR7/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 -	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ	内外面被熱
	第224H-2	土師器	盤	口径 -	振部30%	砂粒	内面 明黄褐色(10YR7/6) 外面 褐色(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデヘラナデ 底外面 ヘラナデ	内面 ヘラナデ 外面 ナデヘラナデ 底外面 ヘラナデ	胴部内面削面による押え
	第224H-3	土師器	盤	口径 10.8 底径 2.7	100%	砂粒・本陶色 -	内面 褐色(7.5YR6/6) 外面 褐色(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ 底外面 ヘラナデ	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ 底外面 ヘラナデ	内外面被熱
	第224H-4	土師器	盤	口径 9.5 底径 4.8	70%	微細砂粒	内面 明赤褐色(25YR5/8) 外面 褐色(7.5YR6/8) 焼成 良好	ナデ ヘラナデ ナデ ヘラナデ 底外面 ヘラナデ	ナデ ヘラナデ ナデ ヘラナデ 底外面 ヘラナデ	体部内面の一部剥落
	第224H-5	土師器	盤	口径 (9.6) 底径 -	口縁～底 部20%	白色砂粒・石英粒	内面 明褐色(7.5YR6/8) 外面 褐色(7.5YR6/8) 焼成 良好	ナデ 外面 ナデ ヘラナデ 底外面 -	ナデ 外面 ナデ ヘラナデ 底外面 ヘラナデ	内面の一部縮痕
SX-001	第225H-1	土師器	盤	口径 (21.3) 底径 (6.5) 高さ (30.1)	25%	微細砂粒多量	内面 褐色(7.5YR7/4) 外面 褐色(7.5Y7/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 ヘラナデ	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ ナデ 底外面 ヘラナデ	胴部外面の一部スス付着

第5節 中世から近世

第1～34次調査地点までの調査対象面積の合計は102.269.2m²であり、中世から近世の遺構としては、掘立柱建物跡5棟・柱穴列2基・地下式坑4基・井戸20基・火葬遺構7基・土坑90基・ピット1基・溝43条である。東側の手賀沼水系である地金堀に隣接する調査地点は湧水点が高く、北側の調査地点では標高約13.0m、南側では標高12.0m前後で湧水があり、確認作業が困難な範囲があった。また、本調査においても、深い遺構は湧水のため底面まで精査することができなかった。

遺構は、出土遺物の有無などにより遺構時期を明確にすることができないものが多く、調査地点ごとに説明することにした。土坑に関しては、遺物の出土している土坑や特徴のある土坑について個別に説明し、それ以外の土坑とピットの(1)PIは第5表に記載したとおりである。

また、遺構が特に集中する地点は、遺跡の南側に当たる第1・8・14・15・19次調査地点であり、いずれも隣接する調査地点である。これらの調査地点からは掘立柱建物跡5棟・柱穴列2基・地下式坑4基・井戸18基・火葬遺構6基・土坑80基・ピット1基・溝28条が検出され、溝を除く90%～100%の遺構が集中している。これらの遺構は、関連した一連の遺構群と考えられることから、これらの地点を便宜的に第I～III区の3つの区画に分けて、区画ごとに遺構の内容を説明することにした(第226図)。

遺物については、「10 出土遺物」の項にまとめ、陶磁器・土器は中世と近世に区分して器種ごとに、そのほかの遺物は種別ごとに説明することにした。

1 第I区(第227図、図版17)

第I区は第1次調査地点全域と第14次調査地点の一部の遺構を含む範囲とした。

この範囲には掘立柱建物跡2棟・柱穴列1基・地下式坑1基・井戸5基・火葬遺構4基・土坑20基・ピット1基・溝5条がある。掘立柱建物跡2棟と柱穴列1基は、発掘調査終了後に図面上で復元したものである。(1)PI以外にも小ピットが見られるが、詳細は不明である。遺構は北側を中心として分布しており、南にいくほど少なくなっている。今回報告する中では第11次調査地点の(1)SD-001を除いて、(1)SK-004が最も南に存在する遺構である。

第1次調査地点の遺構外の一括で取り上げた遺物としては、(1)SD-001関連遺物のほかに第256図の羽釜(鉄1)・リング状鉄製品(鉄6)、図示できなかったが中世の貿易陶磁器の青磁香炉、近世の瀬戸・美濃系陶器の天目茶碗の小破片などが出土している。天目茶碗は(1)SK-020と(2)T2の出土遺物と接合している。

掘立柱建物跡

(1)SB-001(第228図、第4表、図版19)

第I区南東側の24FF-08・09グリッドに所在する。北東側1.0mに(1)SK-021がある。北側角の柱穴は検出されなかつたが、3間×1間の掘立柱建物になると思われる。規模は、南側の桁行芯々距離が西から順に1.2m・0.9m・1.3m、北側の桁行が西から順に0.95m・1.12mである。東側の梁行が1.52mである。南側の桁行方向はN-59°-Wである。西側にある(1)SD-004の走行方向や隣接する(1)SK-021の火葬遺構の長軸方向とは異なっている。柱穴の規模は、東角の柱穴が長径50cm・短径40cmでほかに比べてやや大きく、そのほかの柱穴が35cm前後である。確認面からの深さは20cm～80cmで、大きな差異がある。埋土の状況は不明である。



第226図 第1・8・14・15・19次調査地点中世～近世遺構配置



第1区遺構配置

Fig. 227 第1区遺構配置

遺物は出土していない。

(1)SB-002(第228図、第4表、図版19)

第I区中央やや北側の23FF-77・78・87・88グリッドに所在する。北西角の柱穴が(1)SD-004と、南側桁行の柱穴の一つが(1)SB-003と重複するが、新旧関係は不明である。柱穴の数や大きさなどが不揃いであるが、3間×1間の掘立柱建物になると思われる。規模は、南側の桁行芯々距離が東から順に1.65m・1.18m・1.67m、北側の桁行が東から順に2.8m・1.3mである。東側の梁行きが2.9m、西側の梁行きが3.23mである。南側の桁行方向はN-49°-Eである。(1)SB-001と同様に(1)SD-004などとは長軸方向が異なる。柱穴の規模は、北角の柱穴が長径1.2m・短径0.8mではほかに比べて大きく、そのほかの柱穴がおおむね長径0.6m・短径0.4mである。確認面からの深さは23cm~65cmで、径と同様に大きな差異がある。埋土の状況は不明である。

遺物は出土していない。

柱穴列

(1)SB-003(第228図、第4表、図版19)

第I区中央やや東側の23FF-78・88・98、24FF-08グリッドに所在する。5つの柱穴がほぼ南北に並んでいる。規模は、柱穴の芯々距離が北側から順に2.0m・2.0m・1.95m・2.12mで、ほぼ等間隔である。走行方向はN-7°-Wで、(1)SB-001・002とは異なるが、(1)SD-004とは一致している。柱穴の規模はいずれも径40cm前後で、確認面からの深さは南北両端が30cm~35cm、そのほかはいずれも50cmである。埋土の状況は不明である。

遺物は出土していない。

地下式坑

(1)SK-007(第229・253図、第5・49表、図版20・160)

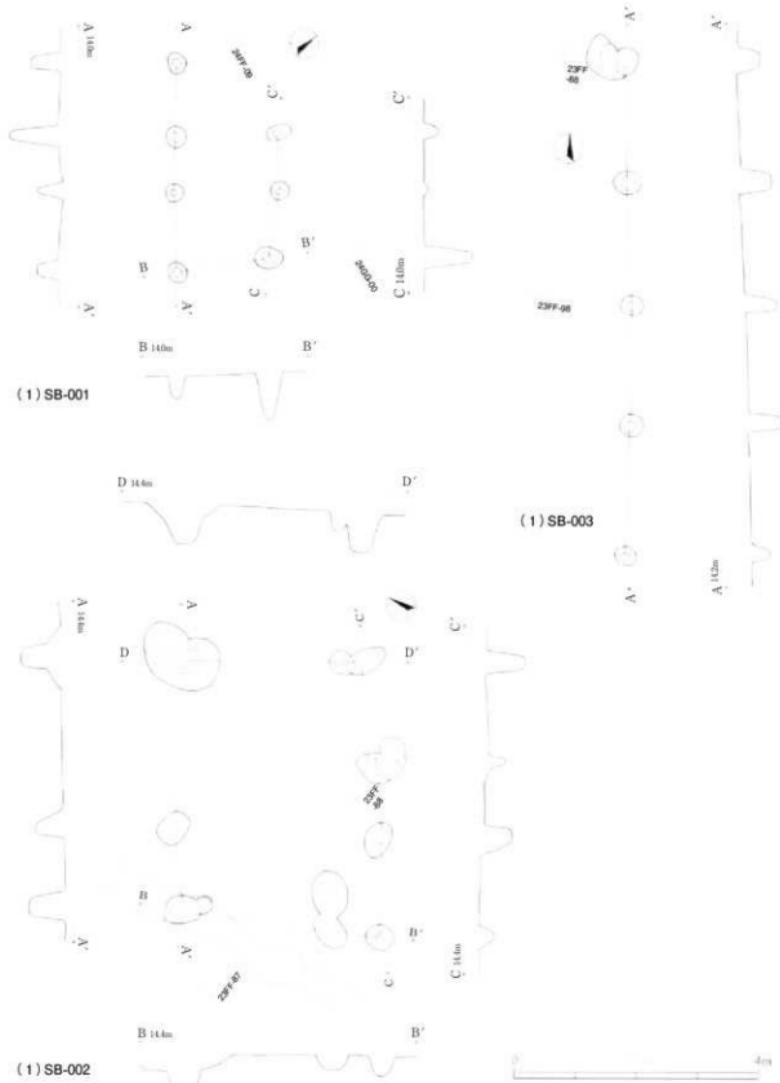
第I区北端の23FF-54・55・65グリッドに所在する。主室は(1)SD-001と完全に重複する。主室の平面形は長方形であるが、南西角は明瞭ではなく、曲線的である。規模は長軸長2.8m・短軸長2.2m・確認面からの深さ128mである。底面の規模は長軸長2.32m・短軸長1.76mである。長軸方向はN-70°-Eである。出入口は南東側長辺に作られ、長さ1.48m・幅1.4mで、主室底面からの高さは0.92mである。長短軸交点から見た方向はN-160°-Eである。埋土の観察では下半部にロームブロックやローム粒を主体とした土層が厚く堆積している。これらの土層は天井部が崩れて堆積したものと考えられることから、本遺構の後に(1)SD-001が作られたと思われる。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして砥石(石32)が出土しているほかに、図示できなかったが近世陶器の灰釉折縁鉢破片が(1)SD-001の出土遺物と接合している。

井戸

(1)SK-001(第229・258図、第5・51表、図版18・162)

第I区西端中央の23FF-82・92グリッドに所在する。南側で(1)SD-003と重複するが、新旧関係等は不明である。平面形は不整な円形で、規模は長軸長1.54m・短軸長1.48mである。長軸方向はN-42°-Wである。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ約1.0mから下は直径1.2mの円筒形になる。調査は確認面から深さ2.3mまでしかできなかったが、発掘調査時の所見では、そこから更に0.85mほどで底面になる。埋土の状況は、6層から上の土層が比較的水平に堆積していることから、人為的に埋められたと思われる。



第228圖 第I區掘立柱建物跡・柱穴列

遺物は遺構一括で取り上げたものとして寛永通寶(銭6)が出土している。

(1) SK-003(第229図、第5表、図版18・20)

第I区西端やや南側の24FF-12・22グリッドに所在する。北側4.0mに(1)SD-003がある。西側はすぐに調査地点境で、隣接地は未調査である。平面形はほぼ円形で、規模は長軸長1.4m・短軸長1.34mである。長軸方向はN-84°-Eである。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ約1.2mから下は直径0.7mの円筒形になる。調査は確認面から深さ1.7mまでしかできず、底面までの深さは不明である。埋土の状況は、7層はハーフロームブロックと暗灰褐色土の混合土であることなどから、人為的に埋め戻されたと思われるが、それより上の土層は自然堆積と思われる。

遺物は図示できなかったが、近世陶器の小破片が出土している。

(1) SK-004(第229図、第5表、図版18)

第I区南端やや西側の24FF-34・35グリッドに所在する。東側2.0mに(1)SK-011がある。平面形はほぼ円形で、規模は長軸長1.1m・短軸長0.92m・確認面からの深さ1.22mである。長軸方向はN-30°-Wである。断面形は円筒状で、底面は平坦である。発掘調査時の所見では井戸としているが、深さが浅いことから、実際に井戸として機能していたか疑問が残る。埋土の状況は、暗褐色土がほぼ水平に堆積していることから、人為的に埋め戻されたと思われる。

遺物は出土していない。

(1) SK-005(第229・248図、第5・46表、図版20・148)

第I区北西端の23FF-52グリッドに所在する。南東側25mに(1)SD-001がある。平面形はほぼ円形で、規模は長軸長1.82m・短軸長1.74mである。長軸方向はN-66°-Eである。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ約1.0mから下は直径1mの円筒状になる。調査は確認面から深さ1.64mまでしかできなかったが、発掘調査時の所見では、そこから更に1.0mほどで底面になる。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は遺構一括で取り上げた遺物として中世の常滑窯製品の片口鉢(中世26)が出土している。

(14) SK-015(第229図、第5表、図版20)

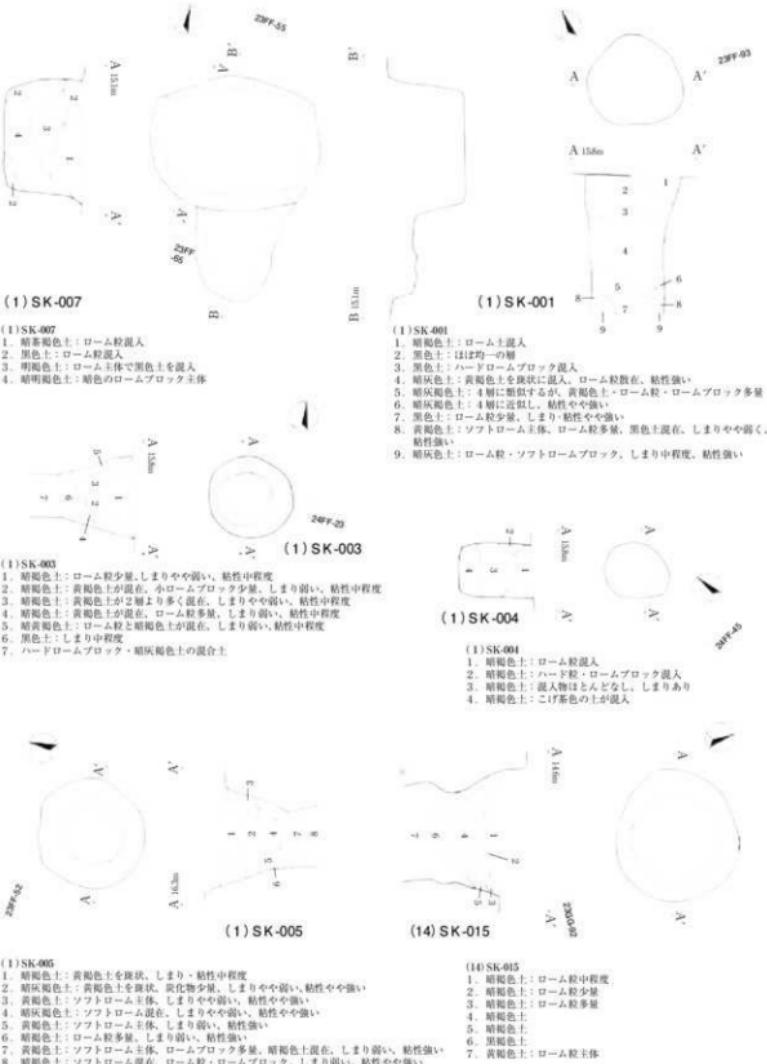
第I区東端中央の23GG-81・82グリッドに所在する。西側5.0mに(1)SK-026がある。平面形はほぼ円形で、規模は長軸長2.18m・短軸長2.0mである。長軸方向はN-86°-Wである。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ約1.0mから下は直径1.6mの円筒状になる。確認面から深さ2.02m(標高12.18m)で湧水があり、それ以下は調査できなかったが、発掘調査時の所見では、そこから更に1.0mほどで底面になる。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は出土していない。

火葬遺構

(1) SK-015(第230図、第5表、図版20)

第I区北西側の23FF-73・74・83・84グリッドに所在する。南東側で(1)SD-002と重複する。新旧関係は、土層断面の観察により本遺構の方が古いと思われる。平面形は、二つの楕円形の土坑が12cmの間隔で近接しているようであるが、底面は地山をくり貫いてつながっている。全体の規模は長軸長1.80mで、長軸方向はN-48°-Wである。北西側土坑の規模は長軸長1.0m・短軸長0.8m・確認面からの深さ0.36mである。南東側土坑の規模は長軸長1.0m・短軸長0.68m・確認面からの深さ0.2mで、長軸方向はN-30°-Eである。南東側土坑の底面には、幅30cmの細長い溝が掘られ、北西側土坑の底面と同じ深さでつながっている。く



第229図 第I区地下式坑・井戸

り貫かれた部分と南東側土坑の埋土中から焼土や炭片、骨粉が出土している。

遺物は出土していない。

(1) SK-016(第230図、第5表)

第I区北東側の23FF-69グリッドに所在する。南側に(1)SK-017が隣接する。平面形は楕円形と思われるが、南側半分は擾乱により破壊されている。規模は現存長軸長70cm・短軸長30cm・確認面からの深さ16cmである。埋土はほぼ全てが焼土層である。

遺物は出土していない。

(1) SK-017(第230図、第5表)

第I区北東側の23FF-69グリッドに所在する。北側に(1)SK-016が隣接する。平面形は長楕円形と思われるが、北側と南側の一部は擾乱を受けている。規模は現存長軸長1.74m・短軸長0.8m・確認面からの深さ0.25mである。長軸方向はN-93°-Eである。東側に焼土の堆積が見られる。

遺物は出土していない。

(1) SK-021(第230図、第5表)

第I区東側のほぼ中央の23FF-99グリッドに所在する。北東側2mに(1)SK-024がある。南側に小ビットがいくつか見られるが、本遺構との関係は不明である。重複する遺構はない。平面形は楕円形である。規模は長軸長98cm・短軸長54cm・確認面からの深さ11cmである。長軸方向はN-3°-Eである。中央部に焼土と骨粉が見られる。

遺物は出土していない。

土坑

(1) SK-008(第230図、第5表、図版20)

第I区西端やや北側の23FF-72・82グリッドに所在する。(1)SD-001と(1)SD-002の中間にある。平面形は不整な楕円形で、底面は凹凸が見られ、いくつかの土坑が複合したものとも考えられる。規模は長軸長2.93m・短軸長1.42m・確認面からの深さ0.24mである。長軸方向はN-8°-Wである。

遺物は図示できなかったが、近世磁器と砥石の小破片が出土している。

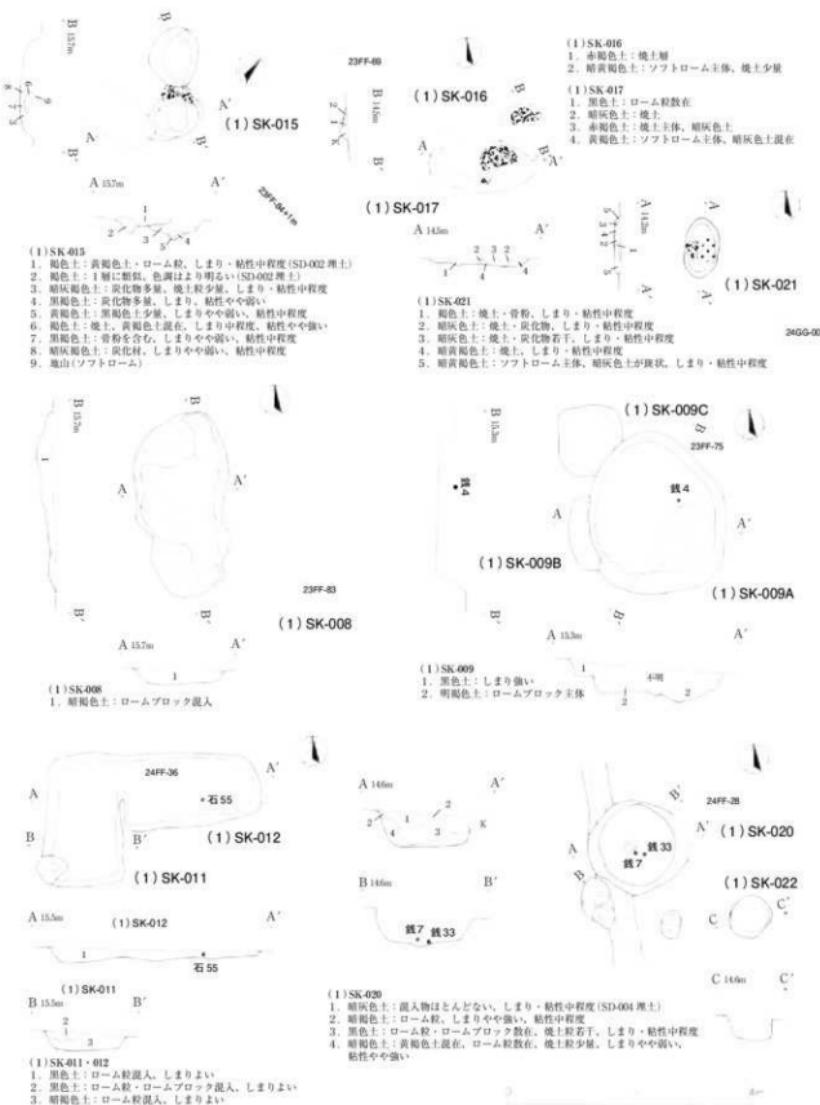
(1) SK-009A～C(第230・258図、第5・51表、図版20・162)

第I区北西側の23FF-64・65・74・75グリッドに所在する。南側1.0mに(1)SD-006がある。周囲に小ビットがいくつか見られるが、本遺構との関係は不明である。新旧関係は、009Aと009Bは土層断面により009Aの方が新しいが、009Aと009Cは不明である。009Aは、平面形が不整の円形である。規模は長軸長2.66m・短軸長2.25m・確認面からの深さ0.56mである。長軸方向はN-7°-Wである。底面には凹凸が見られる。009Bは、平面形が方形と思われる。規模は長軸長1.2m・現存短軸長0.36m・確認面からの深さ0.39mである。長軸方向はN-6°-Wである。009Cは、平面形が方形である。規模は長軸長1.16m・短軸長1.04m・確認面からの深さ0.27mで、長軸方向はほぼ真北を向く。

遺物は009Aの確認面に近い高さから元祐通寶(銭4)が出土している。

(1) SK-011(第230図、第5表、図版18)

第I区南端はほぼ中央の24FF-25・35グリッドに所在する。北側の東辺が(1)SK-012につながるが、新旧関係などは不明である。平面形は長方形である。規模は長軸長2.2m・短軸長1.2m・確認面からの深さ0.32mである。長軸方向はN-3°-Eである。底面は平坦である。



第230図 第I区火葬遺構・土坑

遺物は出土していない。

(1) SK-012(第230・254図、第5・49表、図版18・160)

第1区南端ほぼ中央の24FF-25・26・35・36グリッドに所在する。西側の短辺が(1)SK-011とほぼ直角につながっている。平面形は長方形である。規模は長軸長2.25m・短軸長1.24m・確認面からの深さ0.12mである。長軸方向はN-85°-Wである。底面は平坦である。

遺物は砾石(石55)が出土している。

(1) SK-020(第230・258・259図、第5・47・51表、図版19・152・162・163)

第1区南側ほぼ中央の24FF-27グリッドに所在する。西側で(1)SD-004と重複し、断面観察により本遺構の方が古い。平面形は円形に近い楕円形であるが、東側は搅乱を受け、一部破壊されている。規模は現存長軸長1.7m・短軸長1.5m・確認面からの深さ0.64mである。長軸方向はN-81°-Eである。底面のはば中央部に径20cm・深さ8.0cmの小ピットがある。

遺物は底面付近から寛永通寶(銭7・33)が出土している。遺構一括で取り上げた遺物として近世の瀬戸・美濃系陶器の灰釉丸皿(近世39)が出土し、(1)SD-005の出土遺物と接合している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器の天目茶碗小破片が出土し、(1)23FF-60と(2)T2の出土遺物と接合している。

(1) SK-022(第230図、第5・47表、図版19・153・154)

第1区南側ほぼ中央の24FF-28グリッドに所在する。北西側1.0mに(1)SK-020がある。平面形は円形に近い楕円形である。規模は長軸長72cm・短軸長62cm・確認面からの深さ35cmである。長軸方向はN-28°-Eである。底面には粘土が貼り付けられている。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして近世の瀬戸・美濃系陶器の灰釉折縁鉢(近世47)と鋸軸筒形香炉(近世57)が出土している。鋸軸筒形香炉は(1)SD-001と(19)ⅠW区、(19)Ⅱ区の出土遺物と接合している。

溝

(1) SD-001(第227・247・248・256・258図、第6・46・47・50・51表、図版20・148・150・154・161・162)

第1区北端の23FF-47~71グリッドに所在する。(1)SK-007と重複し、本遺構の方が新しい。西側は調査地点境まで続いているが、隣接地は未調査地区である。北側は第8・14次調査地点である。規模は現存総延長28.5m・幅3.4m~4.5m・確認面からの深さ0.22m~0.24mである。走行方向はN-71°-Eである。底面は中央部が浅く、南北の壁際が深くなっていることや出土遺物・関連遺物の時期幅などから、時期差のある南北2条の溝が重複していると思われる。北側の溝は、走行方向や溝の形状から、第Ⅱ区(14)SD-010につながると思われる。内部に小ピットや縁辺部に土坑状の掘り込みが見られるが、本遺構との関係は不明である。

遺物は北側の溝の底面付近から鉄釘(鉄11)が出土している。遺構一括で取り上げた遺物として近世の肥前系波佐見産磁器の染付丸碗(近世7)、瀬戸・美濃系陶器の灰釉筒形香炉(近世55)、鋸軸筒形香炉(近世57)と寛永通寶(銭10)が出土している。鋸軸筒形香炉(近世57)は(1)SK-022と(19)ⅠW区、(19)Ⅱ区の出土遺物と接合している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器の見込み釉剥ぎの灰釉皿破片が出土している。また、本遺構に関連するグリッド一括で取り上げた遺物として、いずれも中世の瀬戸・美濃窯製品の深皿(中世11)が23FF-54グリッドから、志野丸皿(中世18)と瓶子(中世22)が23FF-56グリッドから出土している。更に、23FF-05グリッドから棒状鉄製品(鉄13)、23FF-55グリッドから寛永通寶(銭11)が出土している。

(1) SD-002(第227図、第6表、図版18)

第I区西側の23FF-74・75・82～85・95グリッドに所在する。(1)SK-015と重複し、本遺構の方が新しい。西側は調査地点境まで続いているが、隣接地は未調査地区である。(1)SK-015周辺で掘り込みが一部不明確になるが、23FF-85グリッドの起点付近で南へ直角に屈曲し、溝の端部となる。規模は現存総延長16.8m・幅0.1m～0.19m・確認面からの深さ0.05m～0.13mである。走行方向はN-80°-Eで、東端で南～90°(N-10°-W)屈曲する。西端の北側に大きく張り出した部分があるが、土層断面や平面形などから、すぐ北側にある(1)SK-008と同様にいくつかの土坑が複合したものと思われる。

遺物は出土していない。

(1) SD-003(第227図、第6表、図版18)

第I区西端の23FF-92、24FF-02グリッドに所在する。現状で南北に細長く「S」字状に蛇行し、南西側は調査地点境まで続いているが、隣接地は未調査地区である。北東側は溝の端部となる。北側で(1)SK-001と一部重複するが、新旧関係は不明である。底面の標高は(1)SK-001に向かって低くなっている。規模は現存総延長8.6m・幅0.1m～0.18m・確認面からの深さ0.03m～0.12mである。走行方向は中央部でN-5°-W、北側で東～52°(N-46°-E)屈曲し、南側で西～70°(N-65°-E)屈曲して調査地点境まで続いている。

遺物は出土していない。

(1) SD-004(第227図、第6表、図版19)

第I区中央の23FF-56・57・66・67・77・87・97、24FF-07・17・27・37グリッドの位置にあり、ほぼ南北に走る。南側で(1)SK-020と重複し、本遺構の方が新しい。溝の北側と南側には小ビットが掘られている。溝の東側には北から(1)SK-025、(1)SK-018、(1)SK-019などの土坑のほかに小ビットが多く見られるが、溝の西側には遺構があまり見られず、(1)SK-009などの土坑とは7.0mほどの距離がある。規模は現存総延長34.2m・幅0.3m～0.5m・確認面からの深さ0.1m～0.16mである。走行方向はN-7°-Wであるが、北端で東～87°(N-80°-E)屈曲して、長さ2.4mほどで溝の端部となる。南側は調査地点境まで続いているが、隣接地の第7・11・12次調査地点では検出されていない。

遺物は近代陶器破片が少量出土しただけである。

(1) SD-005(第227図、第6・47表、図版19・152)

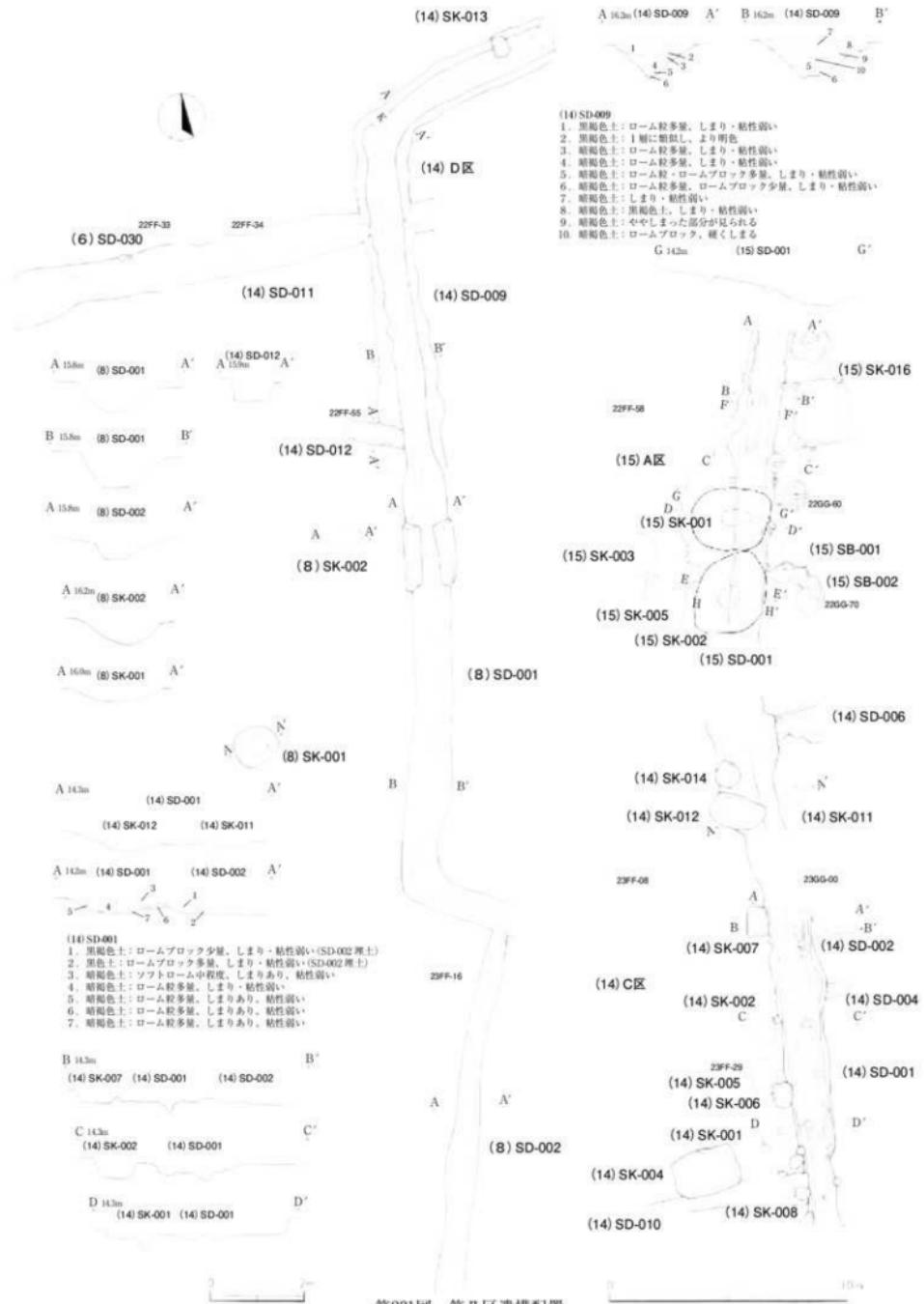
第I区南端やや東側の24FF-29・30グリッドに所在する。西側6.0mに(1)SD-004がある。規模は現存総延長4.1m・幅0.3m～0.45m・確認面からの深さ0.06m～0.11mである。走行方向はN-7°-Wで、(1)SD-004の南北方向と同一である。北側は溝の端部となり、南側は調査地点境まで続いているが、隣接する第7・11次調査地点では検出されていない。

遺物は遺構一括で取り上げた遺物として近世の瀬戸・美濃系陶器の灰釉丸皿(近世39)が出土し、(1)SK-020の出土遺物と接合している。

2 第II区(第231図)

第II区は第I区の北側で第6次調査地点の一部と第8次調査地点、第14次調査地点のC区((14)C区)とD区((14)D区)、第15次調査地点のA区((15)A区)を含む範囲とした。発掘調査時に22GGピット群とした遺構は、第II区にも一部含まれるが、第III区の中で説明することとした。

この範囲には地下式坑2基・井戸1基・土坑15基・溝12条がある。遺構は東側を中心として分布し、第III区の遺構と密接に関わるものと思われる。南北に走る溝(14)SD-009・(8)SD-001・(8)SD-002を東側



第231図 第II区遺構配置

の境として、北側の溝(6)SD-030・(14)SD-011と南側の溝(1)SD-001に囲まれた範囲は遺構が希薄で、井戸と土坑がわずかに存在するだけである。

第8次調査地点については、遺構外の主な遺物としては第253回の砥石(石31)のほかに、図示できなかつたが近世の瀬戸・美濃系陶器の柿釉灯明皿や在地産擂鉢などの破片が出土しているが、全体的に出土遺物は極めて少ない。また、西側に隣接する第10次調査地点では、遺構は検出されず、内耳土器の破片が少量出土しているだけである。

第14次調査地点の遺構のうち(14)SK-007・SK-011・SK-012・SK-014の4基の土坑は、規模や長軸方向などが異なるが、いずれも底面に粘土が貼り付けられている。なお、(14)C区は、排土を地区内で処理する必要があったことなどから、(14)SK-011と(14)SD-002の間や(14)SD-010と(14)SK-008の間などは調査することができなかった。

地下式坑

(14) SK-004(第232図、第5表、図版23)

第II区南東側(14)C区の23FF-28・29・38・39グリッドに所在する。南側で(14)SD-010と重複する。主室の平面形は長方形で、角ははっきりしている。規模は長軸長2.73m・短軸長1.95m・確認面からの深さ0.66mである。底面の規模は長軸長2.28m・短軸長1.6mである。長軸方向はN-72°-Eである。出入口は検出されなかつたが、北側長辺や東寄りの位置に階段状の掘り込みを検出した。規模は幅60cm・奥行き18cmで、主室底面との比高は25cmである。長軸交点から見た方向はN-16°-Wである。埋土の状況は、1層～3層の暗褐色土や黒褐色土を中心とした土層と、5層以下のローム粒を多量に含んだ黄褐色土などを主体とした土層によって二分することができる。5層以下は天井部の崩壊土と考えられることから、本遺構の後に(14)SD-010が作られたと思われる。

遺物は出土していない。

(15) SK-016(第232図、第5表、図版21)

第II区北東側(15)A区の22FF-49・59、22GG-40・50グリッドに所在する。西側1.0mに(15)SD-001が隣接する。(15)SB-001(発掘調査時の22GGピット群)の北側にあり、小ピットの一部と重複する。主室の平面形は長方形で、角は比較的はっきりしている。規模は長軸長2.8m・短軸長2.3m・確認面からの深さ0.63mである。底面の規模は長軸長2.47m・短軸長1.38mである。長軸方向はN-4°-Eで、(15)SB-001の梁行方向とはほぼ同じである。出入口は検出されなかつたが、形状や規模から地下式坑と判断した。

遺物は出土していない。

井戸

(14) SK-013(第232図、第5・47表、図版23・157)

第II区北側(14)D区の22FF-16・17グリッドに所在する。(14)SD-009と完全に重複するが、新旧関係は不明である。平面形は現状では楕円形であるが、(14)SD-009と重複し本来の形状を留めていないと思われる。規模は現存長軸長90cm・短軸長70cmである。長軸方向はN-17°-Wである。断面形は朝顔形に開く形状と思われ、深さ約40cmから下は直径60cmの円筒状になる。調査は確認面から深さ1.6mまでしかできず、底面までの深さは不明である。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして近世の在地産カワラケ小皿・皿(近世82～84)が出土している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器の灯明受皿と在地産内耳土器の破片が出土している。

土坑

(15) SK-003(第232・256図、第5・47・50表、図版21・151・161)

第II区北東側(15)A区の22FF-68グリッドに所在する。南側約50cmに(15)SK-005が隣接し、西側は調査地点境である。平面形は楕円形になると思われる。規模は長軸長1.8m・現存短軸長1.03m・確認面からの深さ0.36mである。長軸方向はN-9°-Eである。底面は浅い皿状である。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして近世の肥前系磁器の染付蕎麦猪口(近世31)とリング状鉄製品(鉄7)が出土している。

(15) SK-005(第232・251・254図、第5・49表、図版158・160)

第II区北東側(15)A区の22FF-68・78グリッドに所在する。北側約50cmに(15)SK-003が隣接し、南側は第14次調査地点との境で調査できなかった。平面形は長楕円形になると思われる。規模は現存長軸長1.36m・短軸長0.54m・確認面からの深さ0.2mである。長軸方向はN-6°-Eである。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして板碑(石10)と砥石(石44)が出土している。図示したもの以外には在地産のやや大形のカワラケ杯と擂鉢の破片が出土している。

(15) SK-001(第232図、第5表)

第II区北東側(15)A区の22FF-69グリッドに所在する。(15)SD-001の上面で、(15)SK-002と並んで検出されたものである。平面形は不整の楕円形で、断面は浅い皿状である。底面は硬くしまっている。規模は長軸長3.32m・短軸長3.0m・確認面からの深さ0.23mである。長軸方向はN-90°-Wである。

遺物は図示できなかったが、近世の京・信楽系陶器の灰釉灯明皿や(15)SD-001出土の灰釉灰落し(近世58)に類似した陶器片などが出土している。

(15) SK-002(第232図、第5表)

第II区北東側(15)A区の22FF-69・79グリッドに所在する。(15)SD-001の上面で、(15)SK-001と並んで検出されたものである。平面形は不整の楕円形で、断面は浅い皿状である。底面は硬くしまっている。規模は長軸長3.9m・短軸長3.0m・確認面からの深さ0.17mである。長軸方向はN-34°-Eである。

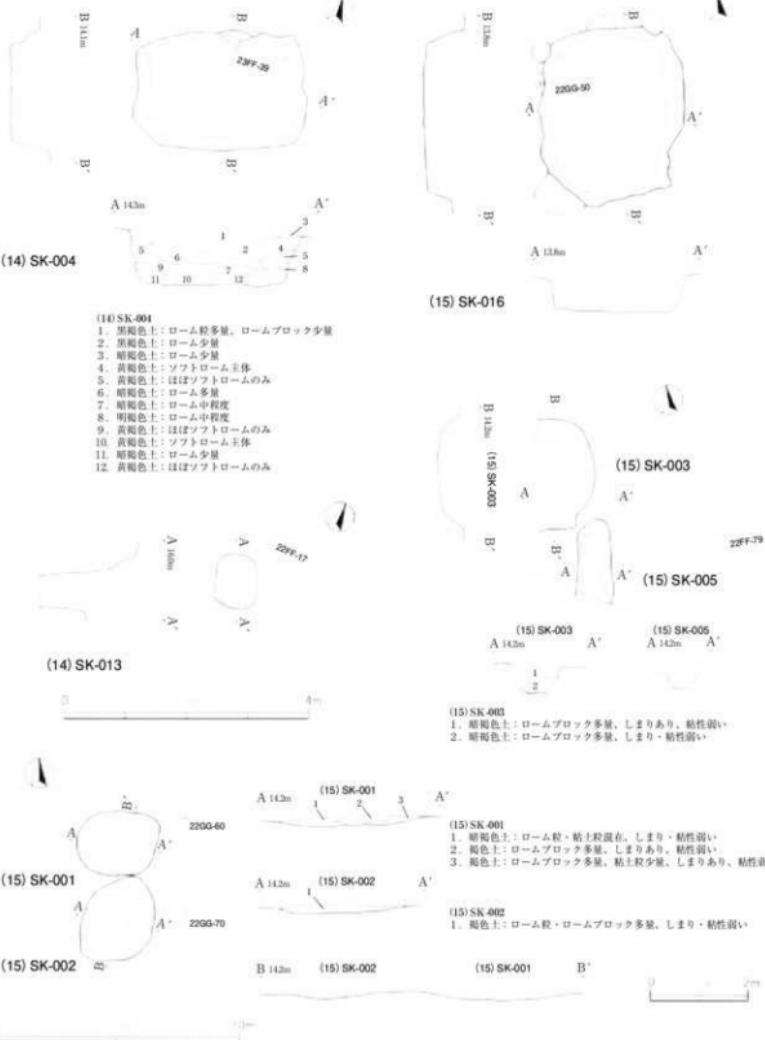
遺物は図示できなかったが、近世の瀬戸・美濃系磁器の赤絵染付丸碗などの破片が出土している。

溝

(15) SD-001(第231・233・253～256図、第6・47・49・50表、図版21・154・156・160・161)

第II区東側(15)A区の22FF-49・59・69・79グリッドに所在する。南側は(14)SD-001につながり、同一の溝である。北側は調査地点境まで続いているが、第19次調査地点の隣接地区は広い範囲で擾乱を受けており、本遺構が続いているか否かは不明である。東側に(15)SK-016と(15)SB-001～003(発掘調査時の22GGピット群)がある。溝の中に小ピットが複数見られるが、詳細は不明である。規模は現存総延長13.3m・幅1.5m～3.8m・確認面からの深さ0.14m～0.6mである。走行方向はN-7°-Eである。埋土は自然堆積であるが、部分的に硬くしまった土層の堆積が見られる。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして、近世の瀬戸・美濃系陶器の灰釉灰落し(近世58)・鉄釉灯明皿(近世71)・鉄釉灯明受皿(近世74)と砥石(石24・49・61)、刀子(鉄4)、鉄釘(鉄8)、板状鉄製品(鉄15)が出土している。鉄釉灯明皿は(15)SB-001～004の出土遺物と接合している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器の鉄釉袴腰香炉と在地産内耳土器などの破片が出土している。



第232図 第II区地下式坑・井戸・土坑

(14) SD-001(第231・256・257図、第6・50表、図版22・161)

第II区南東側(14)C区の22FF-89・99、23FF-09・19・29、23GG-00・10・20・30グリッドに所在する。土坑や溝と重複するが、(14)SD-004を除いては、いずれも新旧関係は不明である。(14)SD-004は土層断面の観察から本遺構より新しい。北側は(14)SD-001につながり、同一の溝である。23GG-00グリッド周辺は調査できなかった。南側は調査地点境まで続き、詳細は不明であるが、(1)SD-001の南側の溝につながると思われる。規模は現存総延長22.6m・幅1.2m~2.13m・確認面からの深さ0.06m~0.12mである。走行方向はN-7°-Wである。本遺構は、底面の断面観察などから(1)SD-001と同様に2条~3条の溝が重複しているものと思われる。埋土はローム粒を多量に含んだ暗褐色土が主体で、北側の一部では硬化面が見られる。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして板状鉄製品(鉄19)と鉄滓(鉄26)が出土している。図示したもの以外には在地産擂鉢などの破片が出土している。

(14) SD-002(第231図、第6表、図版22)

第II区南東側(14)C区の23GG-00グリッドに所在する。西側は(14)SD-001につながる。東側は調査地点境まで続いているが、隣接する第15次調査地点では検出されていないことから、土坑の可能性もある。北側は調査できなかった。規模は現存総延長2.0m・幅0.84m・確認面からの深さ0.15mである。走行方向はN-102°-Eである。

遺物は図示できなかつたが、中世の貿易陶磁器の白磁小杯の小破片と在地産カワラケ皿などの破片が出土している。

(14) SD-004(第231図、第6表、図版22)

第II区南東側(14)C区の23GG-10グリッドに所在する。西側は(14)SD-001につながり、土層断面の観察から本遺構の方が新しい。東側は調査地点境まで続いているが、隣接する第15次調査地点では検出されていないことから、(14)SD-002と同様に土坑の可能性もある。北2.0mに(14)SD-002がある。規模は現存総延長1.3m・幅0.54m・確認面からの深さ0.11mである。走行方向はN-72°-Eである。埋土は黒褐色土と褐色土で、いずれもしまり、粘性とともに弱い。

遺物は出土していない。

(14) SD-006(第231図、第6表)

第II区南東側(14)C区の22FF-89、22GG-80グリッドに所在する。西側は(1)SD-001につながり、東側は調査地点境まで続いているが、隣接する第15次調査地点では検出されていないことから、(14)SD-002などと同様に土坑の可能性もある。規模は現存総延長2.1m・幅2.0m・確認面からの深さ0.4mである。走行方向はN-77°-Eである。

遺物は出土していない。

(14) SD-010(第231図、第6表、図版23)

第II区南東側(14)C区南端の23FF-38・39グリッドに所在する。(14)SK-004と重複し、埋土の観察から本遺構の方が新しいと思われる。規模は現存総延長7.0m・幅0.68m・確認面からの深さ0.14mである。走行方向はN-76°-Eである。西側は調査地点境まで続いており、(1)SD-001の北側の溝につながると思われる。東側は一部調査できなかつたが、(14)SD-001の東側では検出されていない。本遺構の東側にある(14)SK-008については、本遺構との新旧関係などは不明であるが、(14)SK-008の深さは33cmで、本遺構と比

べて2倍以上の深さがあり、(14)SD-001の西側に連続して見られる土坑と同じ性格のものと思われる。

遺物は出土していない。

(14) SD-009(第231・256・257図、第6・50表、図版22・161)

第II区北西側(14)D区の22FF-15~17・25・35・45・46・55・56グリッドに所在する。北側は北東へ屈曲して調査地点境まで続いているが、第19次調査地点の隣接地区は広い範囲で擾乱を受けており、本遺構が続いているか否かは不明である。また、北側で(14)SK-013と、南側で(14)SD-012と重複している。規模は現存総延長24m・幅1.8m~2.3m・確認面からの深さ0.70m~0.81mである。走行方向はN-2°-Wで、北端で東へ61°(N-63°-E)屈曲する。ほぼ中央部で(14)SD-011と交差し、南側は(8)SD-001につながり、同一の溝である。両者の幅に差があるのは、それぞれの確認面の標高差によるものである。断面形は逆台形あるいは「V」字形である。埋土は暗褐色土を主体としているが、部分的に硬くしまった暗褐色土の堆積が見られる。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして鉄釘(鉄10)、羽口(鉄20)、鉄滓(鉄21・22・24・25・32)が出土し、鉄滓については、これら以外に小片も含め49点出土している。図示したもの以外には板碑、近世土器などの小破片が出土している。

(14) SD-011(第231図、第6表、図版22)

第II区北西側(14)D区の22FF-26・33~36グリッドに所在する。西側は(6)SD-030につながり、同一の溝である。東側は調査地点境まで続いているが、第19次調査地点の隣接地区は広い範囲で擾乱を受けており、本遺構が続いているか否かは不明である。(14)SD-009と直交しているが新旧関係は不明である。規模は現存総延長12.5m・幅1.25m~1.8m・確認面からの深さ0.38m~0.48mである。走行方向はN-79°-Eである。断面形は(6)SD-030と同じ浅い鍋底形である。

遺物は近世陶器小破片が1点出土しているだけである。

(14) SD-012(第231図、第6表)

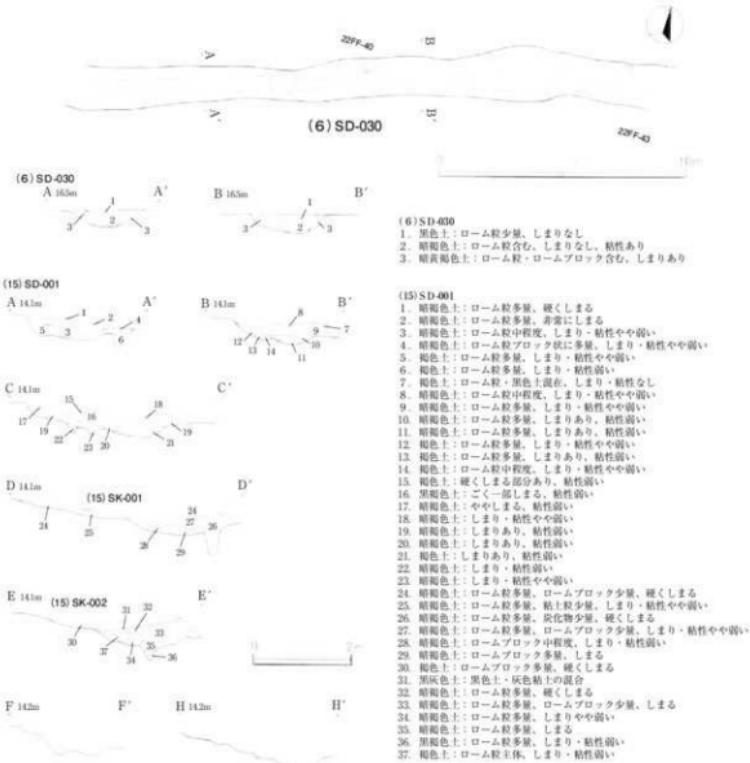
第II区北西側(14)D区の22FF-55グリッドに所在する。東側で(14)SD-009と重複しているが、(14)SD-009の東側では検出されていない。規模は現存総延長2.6m・幅0.84m・確認面からの深さ0.25m~0.49mである。走行方向はN-79°-Wである。断面形は箱型である。発掘調査時に溝と判断したが、土坑の可能性も考えられる。

遺物は出土していない。

(8) SD-001(第231・249・259図、第6・46・51表、図版23・149・163)

第II区ほぼ中央部を南北に走る22FF-55・56・65・66・75・76・85・86・95・96、23FF-05・06グリッドに所在する。北側は(14)SD-009につながり、同一の溝である。南側の屈曲した部分には(8)SD-002がつながる。東側は調査地点境まで続いているが、隣接する第14次調査地点では検出されていない。規模は現存総延長24.0m・幅1.3m~1.9m・確認面からの深さ0.56m~0.66mである。走行方向はN-2°-Wで、南端で東へ114°(N-112°-E)屈曲する。断面形はやや深い鍋底形あるいは逆台形である。(14)D区に近接した溝の両側には、溝の上端に沿って長軸長2.5m・現状での幅0.8mの掘り込みが見られる。あるいは2.5m×2.5mの方形の土坑とも考えられるが、詳細は不明である。埋土は黒色土が主体となっているが、部分的に硬くしまった黄褐色土の堆積が見られる。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして中世の在地産内耳土器(中世50)と寛永通寶(銭38)が出土してい



第233図 第II区(6)SD-030・(15)SD-001断面

る。図示したもの以外には近世の在地産の内耳土器や擂鉢などの破片が出土している。

(8) SD-002(第231図、第6表、図版23)

第II区南側のはば中央を南北に走る22FF-96、23FF-16・26・36・46グリッドに所在する。北側は(8)SD-001の屈曲部分につながっているが、新旧関係などは不明である。南側は調査地点境まで続いているが、第1次調査地点との境で調査できなかった。(1)SD-001につながると思われるが、(1)SD-001の南側では(8)SD-002の続きと思われるような溝は検出されていない。規模は現存総延長15.5m・幅1.0m～1.35m・確認面からの深さ0.19m～0.3mである。走行方向はN-9°-Eである。断面形は逆台形である。

遺物は出土していない。

(6) SD-030(第231・233図、第6表、図版23)

第II区北西側から第6次調査地点を東西に横切る22EE-48・49・57～59、22FF-31～33・40～42グリッドに所在する。東側は(14)SD-011につながり、同一の溝である。西側は調査地点境まで続いている。規模は現存総延長24.5m・幅1.28m～1.68m・確認面からの深さ0.31m～0.39mである。走行方向はN-72°-Eである。(1)SD-001とは走行方向がほぼ同じで、距離は45mほどある。断面形は浅い鍋底形で、所々にピットが見られるが性格は不明である。

遺物は出土していないが、周辺グリッド一括で取り上げたものとして第256図の管状鉄製品(鉄12)や中世の瀬戸・美濃窯製品の碗、常滑窯製品の大甕などの破片が出土している。

3 第III区(第234図)

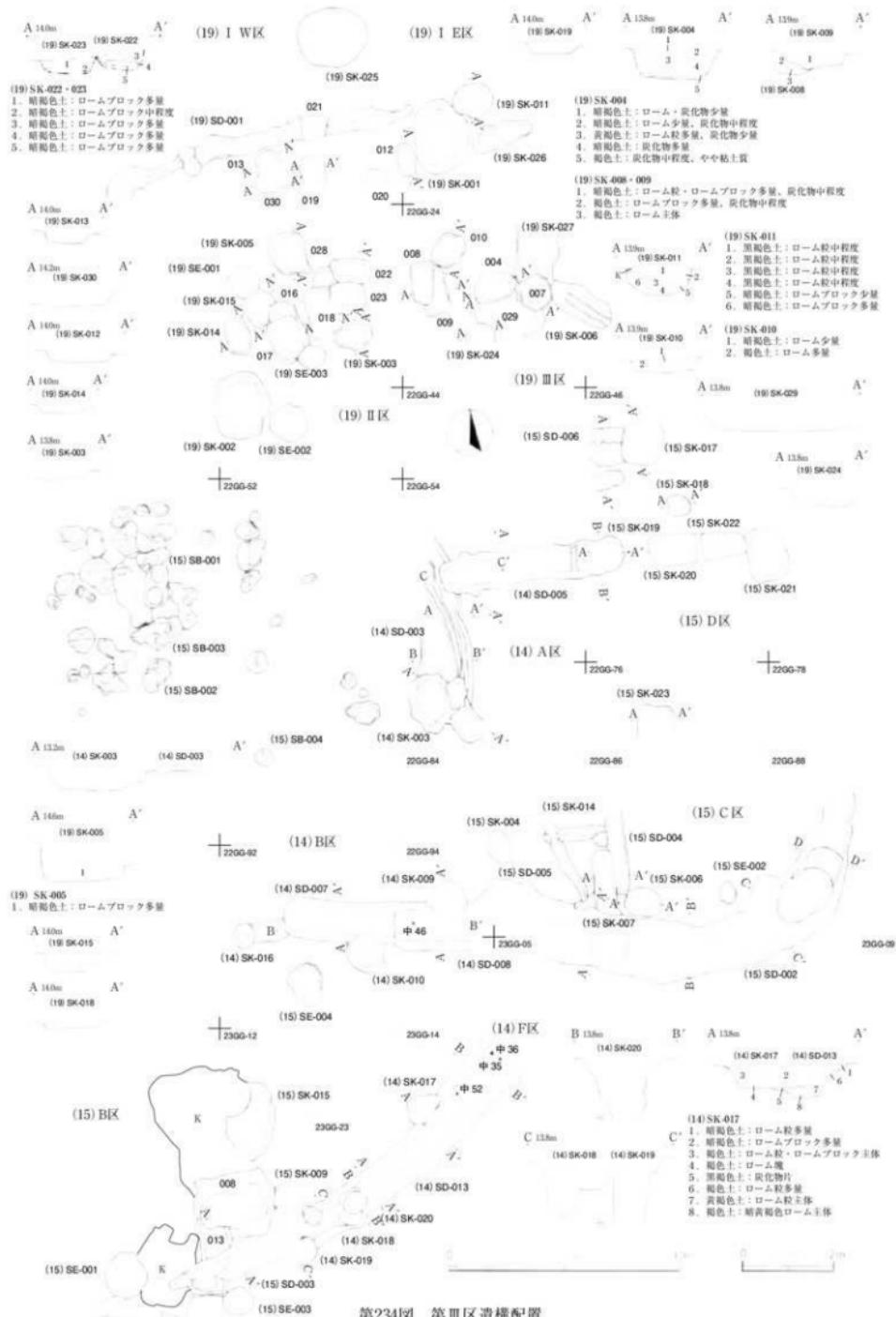
第III区は第II区の東側で第14次調査地点のA区((14) A区)とB区((14) B区)・F区((14) F区)、第15次調査地点のA区((15) A区)の一部とB区((15) B区)～D区((15) D区)、第19次調査地点((19) I W区・I E区・II区・III区)を含む範囲とした。

この範囲は遺構の分布密度が最も濃い範囲であり、掘立柱建物跡3棟・柱穴列1基・地下式坑1基・井戸12基・火葬遺構2基・土坑45基・溝11条が検出された。本範囲の北側と東側からは遺構が検出されず、特に東側では標高12mほどで湧水が認められる。また、南側も第I区の東側からは遺構が検出されていないことなどから、第II区から第III区にかけての遺構が密集する範囲が居住区域を形成していたと思われる。掘立柱建物跡3棟と柱穴列1基は、発掘調査時において22GGピット群として遺物の取上げや記録作成を行っていたものであり、整理作業時において図面上で復元し、掘立柱建物跡はSB-001～003、柱穴列はSB-004の記号を付して記述することとした。

各調査地点でのグリッド一括で取り上げた遺物として主なものは、次のとおりである。

第14次調査地点は第247・248図の中世の瀬戸・美濃窯製品の平碗(中世8)・腰折皿(中世15)、常滑窯製品の甕(中世27)・壺(中世28)、在地産カワラケ小皿(中世34)、図版156の近世の瀬戸・美濃系陶器の銷釉擂鉢(近世68)と第250図の常滑窯製品の転用砥石(土2・3)、瀬戸・美濃窯製品の擂鉢の転用砥石(土5)、第253図の石臼(石17)、第257図の鉄滓(鉄23)が出土している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器の灰釉鉢や在地産内耳土器などの破片が出土している。

第15次調査地点は第247・248図の中世の瀬戸・美濃窯製品の縁釉皿(中世14)・丸皿(中世16)・瓶子(中世24)、在地産カワラケ杯(中世30)、図版152・155・157の近世の瀬戸・美濃系陶器の鉄釉灰釉掛分端反皿(近世41)・銷釉舟徳利(近世60)、在地産カワラケ小皿(近世75)と第250図の常滑窯製品の甕の転用砥石(土1)、第252～254図の石臼(石16)、砥石(石26・40・45・47・60)、第256図の刀子(鉄3)、板状鉄製品(鉄



第234図 第III区遣構配置

17)、第258図の嘉祐元寶(銭3)、寛永通寶(銭19)が出土している。鎧軸舟徳利は(14)SK-010と(14)SK-003・SD-003・SD-005の出土遺物と接合している。

第19次調査地点はI W区が最も多く、図版150・152・154の近世の肥前系磁器の染付碗(近世16)、瀬戸・美濃系陶器の灰釉輪禪皿(近世34)・鎧軸筒形香炉(近世57)と第251図の板碑(石7)、第256図の砥石(石62)が出土している。図示したもの以外には中世の瀬戸・美濃窯製品の擂鉢、近世の肥前系波佐見産磁器の染付丸碗、肥前系磁器の染付杯・染付蕎麦猪口・染付徳利、在地産内耳土器などの破片が出土している。II区では第248図の中世の在地産のカワラケ杯(中世32)・カワラケ小皿(中世39)、図版154の近世の瀬戸・美濃系陶器の鎧軸筒形香炉(近世57)と第250図の瀬戸・美濃窯製品の擂鉢の転用砥石(土4)などが出土している。鎧軸筒型香炉は(1)SK-022と(1)SD-001の出土遺物と接合している。IE区とIII区からは遺物がほとんど出土していない。

掘立柱建物跡

(15)SB-001(第235・247・248・250~254・256・258・259図、第4・46~51表、図版21・26・148~152・156~163)

第III区西側中央から第II区(15)A区の22FF-59・69、22GG-50・51・60・61グリッドに所在する。(15)SB-002・003と重複(建替え)するが、新旧関係は不明である。北東角の柱穴は(15)SD-001と重複するが、新旧関係は不明である。東側2.6mに梁行方向をほぼ同じくする(15)SB-004がある。3間×1間の掘立柱建物になると思われる。規模は、南側の桁行芯々距離が西から順に2.6m・2.36m・1.48m、北側の桁行が西から順に2.6m・2.06m・1.8mである。東側の梁行が4.16m、西側の梁行が4.56mである。南側の桁行方向はN-84°-Eである。柱穴の形状は不整形で、柱を抜き取ったと思われる。柱穴の規模は、径がおむね80cm、確認面からの深さ50cm~80cmであるが、南東角から1つ西側の柱穴は20cmと浅く、南東角の柱の抜き取り痕跡の可能性も考えられる。埋土の状況は不明である。

遺物は発掘調査時に22GGピット群及びグリッド単位で取り上げられ、遺構ごとに区分することができないので、以下では(15)SB-001~004出土遺物として取り扱うことにする。

中世の遺物は中国産の青磁稜花皿(中世1)、瀬戸・美濃窯製品の天目茶碗(中世3・5)・綠釉皿(中世13)・志野丸皿(中世17)、在地産のカワラケ小皿(中世41)が出土している。

近世の遺物は瀬戸・美濃系陶器の白天目茶碗(近世1)、京・信楽系陶器の鉄絵丸腰碗(近世5)、肥前系磁器の染付丸碗(近世13)・染付端反碗(近世21)、瀬戸・美濃系磁器の染付丸腰筒碗(近世27)、肥前系磁器の染付端反杯(近世29)、瀬戸・美濃系陶器の鉄軸灰釉掛分端反皿(近世40)・鉄軸灯明皿(近世71)・鉄軸灯明受皿(近世73)、在地産のカワラケ小皿(近世76)が出土している。

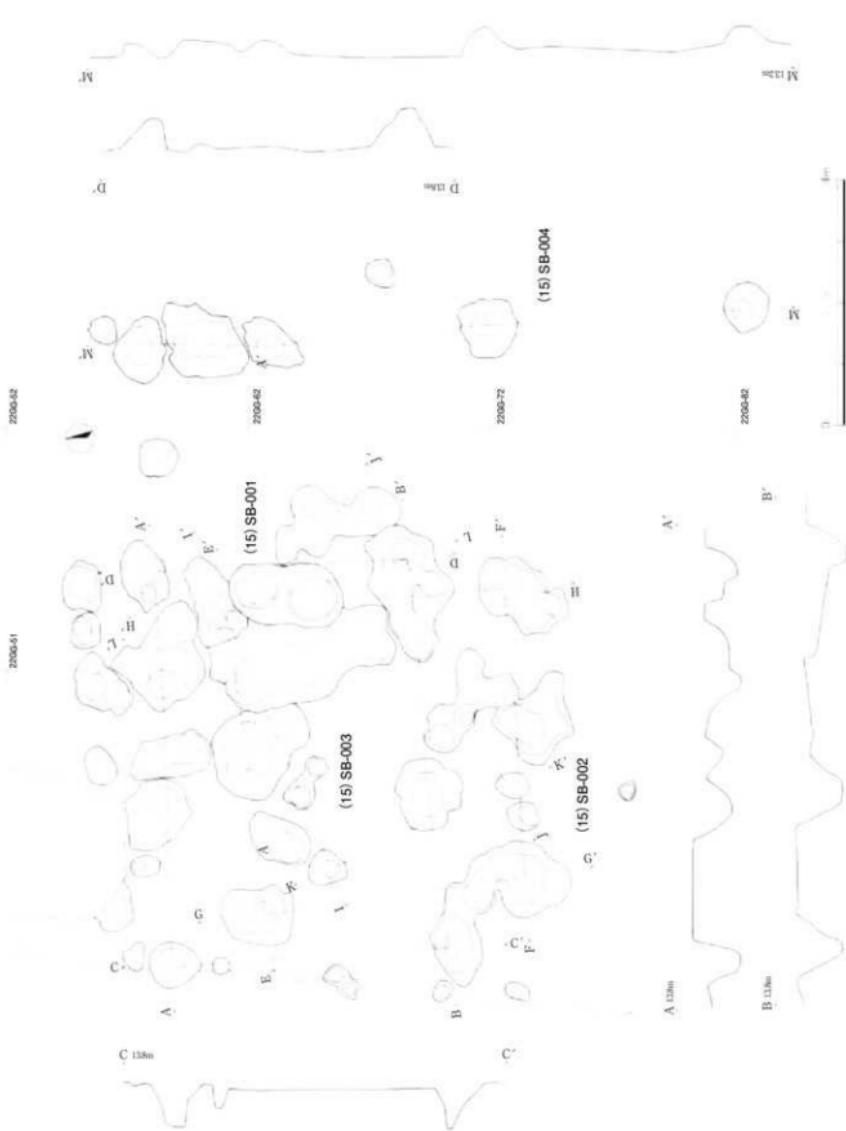
そのほかの遺物は板碑(石5・11)、石臼(石12・18)、砥石(石21・25・34・37・38・41・42・46・52・54・56・58)、鎌(鉄2)、刀子(鉄5)、淳化元寶(銭1)、寛永通寶(銭8・9・17・18・20)、銭種名不明(銭41~44)が出土している。

鉄軸灯明皿は(15)SD-001の出土遺物、石臼(石12)は(15)SK-020の出土遺物と接合している。また、図示したもの以外には中世の瀬戸・美濃窯製品の志野丸皿や近世の肥前系陶器の絵唐津折緑鉢、肥前系磁器の染付丸腰筒碗、瀬戸・美濃系陶器の片口鉢、在地産の内耳土器などの破片資料が数多く出土している。

(15)SB-002(第235・236図、図版21・26)

第III区西側中央から第II区(15)A区の22FF-59・69・79、22GG-50・51・60・61・70・71グリッドに所在する。2間×1間の掘立柱建物になると思われる。規模は、南側の桁行芯々距離が西から順に2.56m・2.2m、北

第235圖 第Ⅲ區掘立柱建物跡・柱穴列



第236図 第Ⅲ区掘立柱建物跡断面

側の桁行が西から順に2.82m・2.2mである。東側の梁行が4.6m、西側の梁行が4.3mである。南側の桁行方向はN-86°-Eである。(15)SB-001とは柱穴を共有せずに、桁行方向をほぼ同じにして、南側に1.7mずれた位置関係である。柱穴の形状は不整形で、柱を抜き取ったと思われる。柱穴の規模は径1.0m～1.2m・確認面からの深さ0.5m～0.8mである。埋土の状況は不明である。

遺物は(15)SB-001と同様である。

(15) SB-003(第235・236図、第4表、図版21・26)

第III区西側中央から第II区(15)A区の22GG-51・60・61・70グリッドに所在する。1間×1間の掘立柱建物になると思われる。規模は、南側の桁行芯々距離が4.06m、北側の桁行が4.58mである。東側の梁行為3.12m、西側の梁行為3.16mである。南側の桁行方向はN-64°-Eである。南東角の柱穴は(15)SB-001と共有し、北東の柱穴は(15)SB-002と共有する。北西と南西の柱穴の形状は不整の円形である。柱穴の規模は、(15)SB-001・002と共有するものを除くと径40cm~50cm・確認面からの深さ50cm~60cmである。埋土の状況は不明である。

遺物は(15)SB-001と同様である。

柱穴列

(15) SB-004(第235図、第4表、図版21・26)

第III区西側中央の22GG-52・62・72・82グリッドに所在する。4つの柱穴がほぼ南北に並んでいる。規模は、柱穴の芯々距離は北側から順に2.2m・3.6m・4.24mで均一ではない。走行方向はN-3°-Wである。柱穴の規模は径0.7m~1.0m、確認面からの深さは北側から3番目が0.5mで、そのほかはいずれも0.22mである。埋土の状況は不明である。

遺物は(15)SB-001と同様である。

地下式坑

(19) SK-002(第237・247図、第5・46表、図版31・33・148)

第III区北側(19)I W区の22GG-31・32・41・42グリッドに所在する。東側約10cmに(19)SE-002が隣接する。主室の平面形は長方形で、角は明瞭であるが、各辺はやや膨らむ。規模は長軸長2.98m・短軸長2.46m・確認面からの深さ0.72mである。底面の規模は長軸長2.0m・短軸長1.68mである。長軸方向はN-1°-Eである。出入口は検出されなかった。埋土の状況から2層・3層は天井部が崩落した土層と考えられる。北側の辺には、底面から40cmほど上にテラス状の段が見られる。また、東側の上端部が張り出しているよう見られる。このことから、長軸方向を西側に傾ける方形の土坑が重複している可能性も考えられる。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして中世の瀬戸・美濃窯製品の折縁深皿(中世19)が出土している。

井戸

(14) SK-016(第237図、第5表、図版25)

第III区南側(14)B区の22GG-92・23GG-02グリッドに所在する。東へ延びる浅い掘り込みによって(14)SD-007と重複するが、本遺構と浅い掘り込みとの新旧関係などは不明である。平面形はやや南北に長い梢円形である。規模は長軸長1.06m・短軸長0.92m・確認面からの深さ0.9mである。長軸方向はN-5°-Wである。断面形は円筒状で、深さ60cm~70cmから下は緩やかにすぼまる。底面は凹凸が見られる。底面付近は湧水し、水没する。

遺物は図示できなかったが、遺構一括で取り上げたものとして在地産の内耳土器の破片が出土している。

(14) SK-010(第237・247・248・251・253図、第5・46・47・49表、図版25・148・152・153・155・158・159)

第III区南側(14)B区の23GG-03グリッドに所在する。北側で(14)SD-007と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は梢円形になると思われる。規模は現存長軸長1.84m・短軸長1.56m・確認面からの深さ1.43mである。長軸方向はN-47°-Wである。断面形は「U」字形をしている。底面は湧水し、水没する。

遺物は板碑(石2)が3層上面から出土している。遺構一括で取り上げた遺物として中世の瀬戸・美濃窯

製品の丸碗(中世9・10)、在地産のカワラケ杯(中世33)・カワラケ小皿(中世38)・捕鉢(中世45)、近世の瀬戸・美濃系陶器の志野丸皿(近世37)、肥前系陶器の絵唐津折縁鉢(近世48)、瀬戸・美濃系陶器の錫釉舟徳利(近世60)と石臼(石20)が出土している。錫釉舟徳利は(14)SK-003・SD-003・SD-005と(15)23GG-12の出土遺物、石臼は(15)SD-002の出土遺物と接合している。図示したもの以外には近世の志戸呂産陶器の鉄釉腰折碗、在地産の内耳土器などの破片が出土している。

(15) SE-001(第237図、第5表、図版27)

第Ⅲ区南西側(15)B区の23GG-30・31グリッドに所在する。南側は(15)SD-003と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は、東側が搅乱を受けているが、円形になると思われる。規模は長軸長2.0m、現存短軸長1.9mである。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ約0.6mから下は直径1.2mの円筒形になる。確認面から深さ1.5m(標高12.14m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。埋土の状況は3層~8層が自然堆積で、9層・10層が比較的水平に堆積していることから、人為的に埋められものと思われる。

遺物は図示できなかったが、近世瓦片が出土している。

(15) SK-004(第237・249・251図、第5・46・49表、図版29・149・158)

第Ⅲ区中央(15)C区西端の22GG-84・85・94・95グリッドに所在する。東側約1.5mに(15)SD-005が隣接する。平面形はやや不整な楕円形である。規模は長軸長1.52m・短軸長1.1mである。長軸方向はN-20°-Wである。断面形は円筒状である。確認面から深さ70cm(標高12.28m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。埋土の状況は自然堆積と思われる。

遺物は確認面から30cmほどの深さで板碑(石1)が出土している。遺構一括で取り上げた遺物として中世の在地産の内耳土器(中世51)が出土している。

(15) SE-004(第237・249・253図、第5・46・49表、図版28・149・160)

第Ⅲ区南西側(15)B区北東端の23GG-02・03グリッドに所在する。北側約1.0mに(14)SD-007がある。平面形は不整な楕円形である。規模は長軸長1.9m・短軸長1.6mである。長軸方向はN-6°-Wである。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ0.3m~0.4mから下は長軸長1.2m・短軸長1.0mの円筒状になる。確認面から深さ70cm(標高12.36m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして中世の在地産の内耳土器(中世53)と砥石(石29)が出土している。

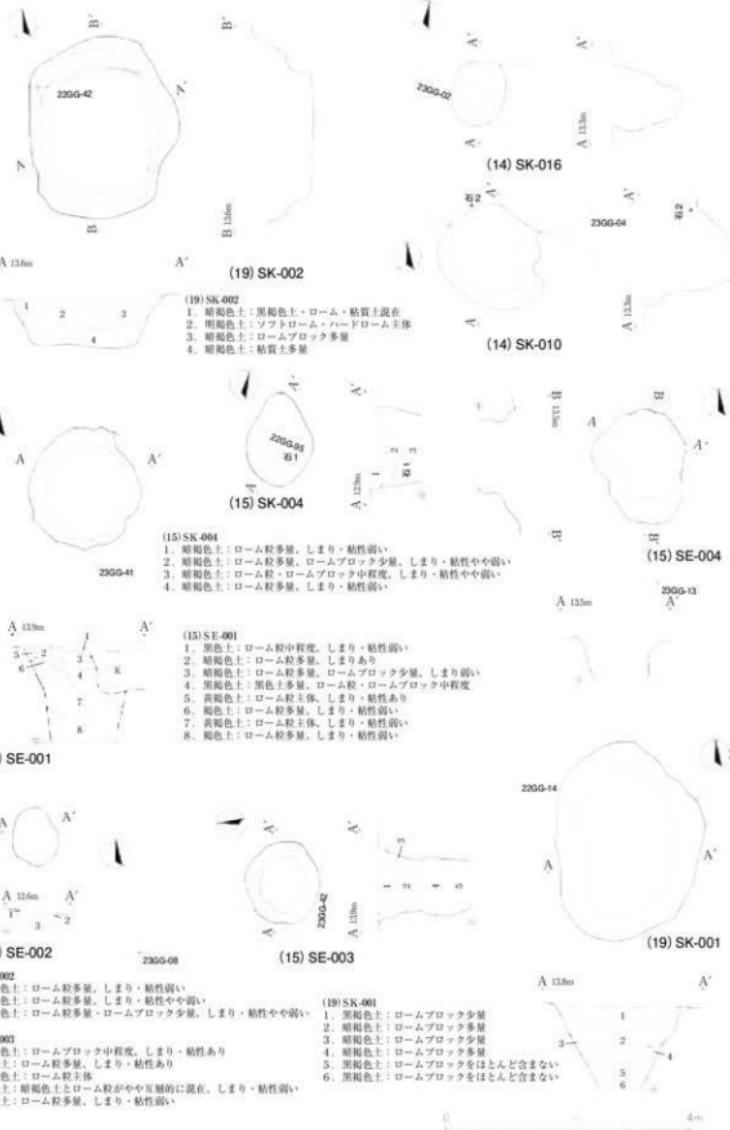
(15) SE-002(第237図、第5表、図版28)

第Ⅲ区東側(15)C区の22GG-97グリッドに所在する。南側約50cmに(15)SD-002が隣接する。平面形は不整な楕円形である。規模は長軸長97cm・短軸長75cmである。長軸方向はN-1°-Wである。断面形は円筒状である。確認面から深さ35cm(標高12.16m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。埋土の状況は自然堆積と思われる。

遺物は出土していない。

(15) SE-003(第237図、第5表、図版28)

第Ⅲ区南西側(15)B区の23GG-32・42グリッドに所在する。北西側で(15)SD-003と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形である。規模は長軸長1.38m・短軸長1.24mである。長軸方向はN-73°-Wである。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ約70cmから下は直径90cmほどの円筒状になる。確認面から深さ1.45m(標高12.14m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。埋土の状況は1層~3層が自然堆



第237図 第Ⅲ区地下式坑・井戸(1)

積で、4層・5層が水平に堆積していることから人為的に埋められたと思われる。

遺物は出土していない。

(19) SK-001(第237・248・251図、第5・46・47・49表、図版33・148・152・158)

第Ⅲ区北端(19) I E区の22GG-04・14グリッドに所在する。北東側で(19)SK-011と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形である。規模は長軸長3.26m・短軸長2.4mである。長軸方向はN-3°-Eである。断面形は朝顔形に開く形状である。確認面から深さ1.34m(標高12.16m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして中世の在地産のカワラケ杯(中世31)・カワラケ小皿(中世42・43)、近世の瀬戸・美濃系陶器の灰釉折縁皿(近世35)と板磚(石4・8)が出土している。

(19) SK-025(第238・247図、第5・46表、図版33・148)

第Ⅲ区北端(19) I W区の21GG-92・93、22GG-02・03グリッドに所在する。第Ⅲ区で最も北にある。南側約2.0mに(19)SD-001がある。平面形は上端部が楕円形で、下の方が角の丸い長方形である。規模は長軸長3.07m・短軸長2.58mである。長軸方向はN-83°-Eである。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ1.0m～1.1mから下は長軸長2.2m・短軸長1.8mの円筒状になる。確認面から深さ1.9m(標高12.2m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして中世の瀬戸・美濃窯製品の擂鉢(中世21)が出土している。図示したもの以外には在地産の擂鉢が出土している。

(19) SE-001(第238・247図、第5・46表、図版33・148)

第Ⅲ区北側(19) II区の22GG-22グリッドに所在する。南東側で(19)SK-015と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は、現状ではやや不整な円形である。規模は現存長軸長1.3m・短軸長1.3mである。長軸方向はN-35°-Wと思われる。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ約60cmから下は直径70cmほどの円筒状になる。確認面から深さ1.58m(標高12.22m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。埋土の状況は水平堆積で、人為的に埋められたと思われる。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして中世の瀬戸・美濃窯製品の擂鉢(中世20)が出土している。図示したもの以外には(15)SB-001～004から出土した近世の瀬戸・美濃系陶器の鉄釉灰釉掛分端反皿(近世40)に類似する破片などが出土している。

(19) SE-002(第238図、第5表、図版33)

第Ⅲ区北側(19) II区の22GG-42グリッドに所在する。西側約10cmに(19)SK-002が隣接し、北側約1.7mに(19)SE-003がある。平面形は不整な円形である。規模は長軸長1.56m・短軸長1.5mである。長軸方向はN-35°-Wである。断面形は、現状では朝顔形に開く形状である。確認面から深さ88cm(標高12.26m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は図示できなかったが、中世の貿易陶磁器の白磁香炉や在地産の内耳土器などの小破片が出土している。

(19) SE-003(第238図、第5表、図版32)

第Ⅲ区北側(19) II区の22GG-32・33グリッドに所在する。北西側で(19)SK-017と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形である。規模は長軸長1.23m・現存短軸長1.0mである。長軸方向はN-79°-Eである。断面形は円筒状である。確認面から深さ98cm(標高12.30m)で湧水があり、それ以下は調査で

きなかった。

遺物は近世以降の土器小破片が2点出土しただけである。

火葬遺構

(19) SK-026(第238図、第5表、図版33)

第Ⅲ区北端(19) I E区の22GG-14・15グリッドに所在する。西側約20cmに(19)SK-001が、北側約40cmに(19)SK-011が隣接する。平面形は不整の長楕円形である。焼土や被熱部分は見られないが、平面形状から火葬遺構と判断した。規模は長軸長2.68m・短軸長1.12m・確認面からの深さ0.22mである。長軸方向はN-74°-Eである。北側にはテラス状の段が見られる。

遺物は出土していない。

(19) SK-006(第238図、第5表、図版33)

第Ⅲ区北端(19) I E区の22GG-25・26・35・36グリッドに所在する。北西側で(19)SK-007・027と重複するが、新旧関係は不明である。規模は長軸長3.06m・短軸長1.31m・確認面からの深さ0.18mであるが、北西側端部の底面などは明確に検出できなかった。長軸方向はN-58°-Wである。長軸底面のほぼ中央部に幅30cm~40cm、深さ約7cmの細い溝状の掘り込みがある。この形状は(1)SK-015の南側部分に類似している。焼土や被熱部分などは見られないが、埋土の2層中に少量炭化物が含まれていることなどから火葬遺構と判断した。

遺物は出土していない。

土坑

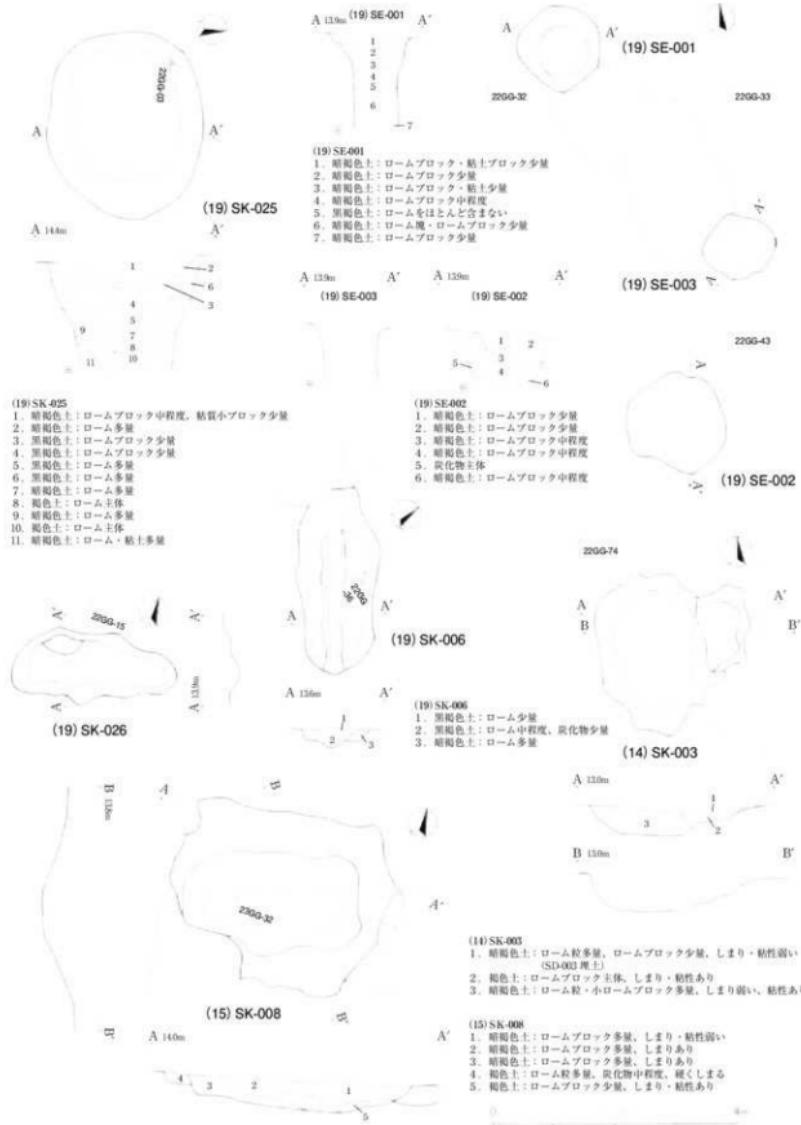
(14) SK-003(第238・247・252・254・255図、第5・46・47・49表、図版24・148・153・155・159・160)

第Ⅲ区中央(14) A区の22GG-74グリッドに所在する。東側で(14)SD-003と重複し、本遺構の方が古い。発掘調査当初は本遺構と(14)SD-003・SD-005との新旧関係等が不明であったことから、遺物は(14)SK-003・SD-003・SD-005一括として取り上げている。西側に(15)SB-001などの掘立柱建物跡と柱穴列がある。平面形は楕円形で、東側は張り出し、底面より一段高くなっている。規模は長軸長2.62m・短軸長1.7m・確認面からの深さ0.63mである。長軸方向はN-9°-Wである。張出し部は長軸長1.24m・短軸長0.8mで、底面との比高は0.1m~0.2mである。埋土はローム粒やロームブロックを多量に含んでおり、人為的に埋められたと思われる。

遺物は(14)SK-003・SD-003・SD-005の遺構一括で取り上げたものとして古瀬戸後期様式第Ⅲ期の瀬戸・美濃窯製品の平碗(中世7)、近世の肥前系陶器の絵唐津折縁鉢(近世49)、瀬戸・美濃系陶器の銷軸舟徳利(近世60)と石臼(石15)、砥石(石43・64)が出土している。銷軸舟徳利は(14)SK-010と(15)23GG-12の出土遺物と接合している。図示したもの以外には在地産の内耳土器・カワラケ杯、板碑などの破片が出土している。

(15) SK-008(第238図、第5表、図版27)

第Ⅲ区南西側(15) B区の23GG-21・22・31・32グリッドに所在する。東側で(15)SK-009、南側で(15)SK-013・(15)SD-003と重複する。また、北側は大きな搅乱を受けている。本遺構は(15)SK-009・SK-013より新しいが、(15)SD-003との新旧関係は不明である。平面形は不整な長方形である。規模は長軸長3.6m・短軸長2.8m・確認面からの深さ0.67mである。長軸方向はN-68°-Eである。埋土はロームブロックを多量に含み、しまりのある暗褐色土が主体であり、人為的に埋められたと思われる。



第238図 第III区井戸(2)・火葬遺構・土坑(1)

遺物は図示できなかったが、中世の常滑窯製品の甕、近世瓦、板碑、砥石などの小破片が出土している。

(15) SK-020(第239・252図、第5・49表、図版30・159)

第Ⅲ区東側(15)D区の22GG-56・57グリッドに所在する。東側に(15)SK-022が隣接し、西側1mに(15)SK-019があり、いずれも長軸方向がほぼ同じである。平面形は長方形である。規模は長軸長2.1m・短軸長1.37mである。長軸方向はN-84°-Eである。確認面から深さ62cm(標高12.16m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして石臼(石12)が出土し、(15)SB-001~004の出土遺物と接合している。図示したもの以外には中世の常滑窯製品の捏鉢、瀬戸・美濃窯製品の縁釉皿、在地産の擂鉢などの破片が出土している。

(15) SK-022(第239・257図、第5・50表、図版30・161)

第Ⅲ区東側(15)D区の22GG-57グリッドに所在する。西側に(15)SK-020が隣接する。東側は長軸方向をほぼ90°回転させた(15)SK-021に接しているが、新旧関係等は不明である。平面形は長方形で、底面は浅い鍋底形である。規模は長軸長1.92m・短軸長1.1m・確認面からの深さ0.43mである。長軸方向はN-87°-Eである。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして鉄滓(鉄30)が出土している。図示したもの以外には在地産の擂鉢などの小破片が出土している。

(15) SK-021(第239・254図、第5・49表、図版30・160)

第Ⅲ区東側(15)D区の22GG-57・58・67・68グリッドに所在する。西側は長軸方向をほぼ90°回転させた(15)SK-022に接しているが、新旧関係等は不明である。平面形は長方形である。規模は現存長軸長2.4m・短軸長1.72mである。長軸方向はN-7°-Wである。確認面からの深さは28cmであるが、北東側は湧水があり、調査できなかった。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして砥石(石50)が出土している。図示したもの以外には胎土中に雲母粒を多量に含んだ近世の在地産の内耳土器や須質質の擂鉢などの破片が出土している。

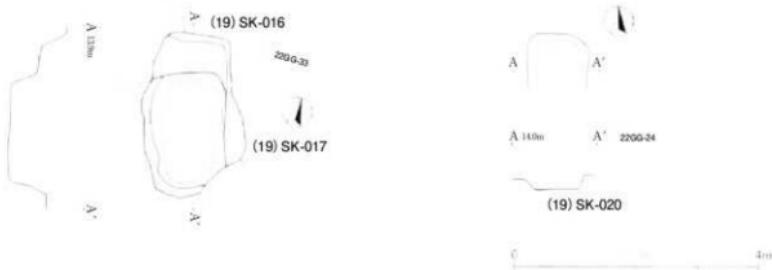
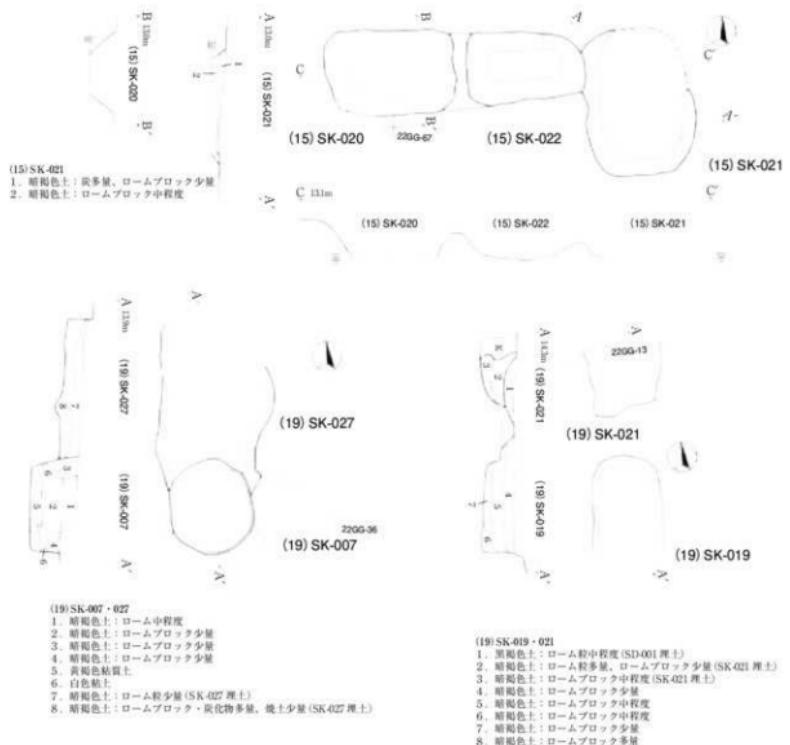
(19) SK-007(第239・254図、第5・49表、図版33・160)

第Ⅲ区北側(19)Ⅲ区の22GG-25・35グリッドに所在する。北側で(19)SK-027と重複し、本遺構の方が新しい。また、東側で(19)SK-006、南西側で(19)SK-029と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形である。規模は長軸長1.55m・短軸長1.34m・確認面からの深さ0.81mである。長軸方向はN-6°-Wである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは箱形である。埋土の堆積状況から人為的に埋められたものと思われる。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして砥石(石39・59)が出土している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器の灰釉皿・黄瀬戸鉢・灰釉徳利、肥前系磁器の染付丸碗・染付端反杯と板碑などの破片が出土している。

(19) SK-027(第239図、第5表、図版33)

第Ⅲ区北側(19)Ⅲ区の22GG-25グリッドに所在する。南側で(19)SK-007と重複し、本遺構の方が古い。北側は水道管が敷設されていたため調査できなかった。平面形は不整な長方形あるいは楕円形になると思われる。規模は現存長軸長2.7m・短軸長1.84m・確認面からの深さ0.4mである。長軸方向はN-1°-Eである。本遺構は形状が(19)SK-006に類似していることや、底面付近に炭化物や焼土を含んだ土層が堆積してい



第239図 第Ⅲ区土坑(2)

ることなどから、火葬遺構の可能性も考えられる。

遺物は出土していない。

(19) SK-016(第239図、第5表、図版32)

第Ⅲ区北側(19)Ⅱ区の22GG-32グリッドに所在する。南側で(19)SK-017、北西側で(19)SK-015と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は南北に長い長方形になると思われる。規模は長軸長(南北長)0.8m・短軸長1.28m・確認面からの深さ0.48mである。長軸(南北)方向はN-7°-Wである。

遺物は出土していない。

(19) SK-017(第239・248図、第5・46表、図版32・148)

第Ⅲ区北側(19)Ⅱ区の22GG-32グリッドに所在する。北側で(19)SK-016、南東側で(19)SE-003と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は長方形である。規模は長軸長2.0m・短軸長1.31m・確認面からの深さ0.83mである。長軸方向はN-14°-Wである。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして中世の在地産のカワラケ杯(中世37)が出土している。図示したもの以外には中世の瀬戸・美濃窯製品の擂鉢などの小破片が出土している。

(19) SK-019(第239図、第5表、図版31)

第Ⅲ区北側(19)Ⅱ区の22GG-12・13グリッドに所在する。北側64cmに(19)SK-021が隣接する。南側は水道管が敷設されていたため調査できなかった。平面形は長方形と思われるが、北側の短辺は丸みをもつ。規模は現存長軸長1.58m・短軸長1.12m・確認面からの深さ0.28mである。主軸方向はN-2°-Eである。

遺物は図示できなかったが、近世の瀬戸・美濃系陶器で見込み蛇の目釉剥ぎの灰釉皿などの破片が出土している。

(19) SK-021(第239・247~249・251・253図、第5・46・49表、図版31・148・149・158・160)

第Ⅲ区北側(19)Ⅱ区の22GG-12・13グリッドに所在する。(19)SD-001と重複し、本遺構の方が古い。北側は搅乱を受けている。南側64cmで(19)SK-019が隣接する。平面形は南北に長い長方形になると思われる。規模は現存長軸長(南北長)0.8m・現存短軸長1.16m・確認面からの深さ0.21mである。主軸方向はN-6°-Wである。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして中世の瀬戸・美濃窯製品の天目茶碗(中世6)、在地産のカワラケ杯(中世29)・擂鉢(中世47)と板碑(石9)、砥石(石33)が出土している。

(19) SK-020(第239図、第5表、図版31)

第Ⅲ区北側(19)Ⅱ区の22GG-13グリッドに所在する。北東側約1mに(19)SK-012がある。南側は水道管が敷設されていたため調査できなかった。平面形は南北に長い長方形になると思われる。規模は現存長軸長(南北長)90cm・短軸長98cm・確認面からの深さ29cmである。主軸方向はN-1°-Wである。

遺物は図示できなかったが、近世の瀬戸・美濃系陶器の灰釉徳利、在地産の胎土中に雲母粒を多量に含んだ内耳土器・擂鉢と板碑の小破片などが出土している。

溝

(14) SD-003(第234・240図、第6表、図版24)

第Ⅲ区中央(14)A区の22GG-54・64・74グリッドに所在する。南側で(14)SK-003、北側で(14)SD-005と重複する。出土遺物は(14)SK-003・SD-003・SD-005一括として取り上げている。本遺構は(14)SK-003より新しいが、(14)SD-005との新旧関係は不明である。北側は調査地点境まで続いているが、隣接する第

19次調査地点では検出されていない。南側も調査地点境まで続いており、(15)SD-005につながる可能性がある。規模は現存総延長7.6m・幅1.2m~2.34m・確認面からの深さ0.1mである。走行方向はN-19°-Wである。本遺構は1本の溝としているが、東側のやや幅の狭い溝と西側の幅の広い溝が重複あるいは掘り直しされている可能性も考えられる。

遺物は(14)SK-003と同じである。

(14) SD-005(第234・240図、第6表、図版25)

第III区中央(14)A区の22GG-54~56・64~66グリッドに所在する。西側で(14)SD-003と重複しているが、新旧関係は不明である。東側は下水管が敷設されていたために調査できなかった部分があるが、調査地点境で(15)SK-019につながる。規模は現存総延長2.3m・幅1.58mである。走行方向はN-79°-Eである。確認面からの深さは西側で56cmであるが、東側は深さ約50cm(標高12.5m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。本遺構の東側に陸橋状の立ち上がりが見られ、この陸橋から(15)SK-019の東端までの距離が約2mで、これは(15)SK-019の西側の立ち上がりになり、この部分で両遺構が重複していると思われる。このことから、本遺構は(15)SK-019などとともに一連の土坑列の一つである可能性も考えられる。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は(14)SK-003・SD-003・SD-005の遺構一括で取り上げたものとは別に、図示できなかったが遺構内から在地産の擂鉢の小破片が出土している。

(14) SD-007(第234・240・247・248図、第6・46表、図版24・148)

第III区南側(14)B区の22GG-92・93、23GG-02・03グリッドに所在する。西側は浅い掘り込みによって(14)SK-016につながる。南側で(14)SK-010と重複し、東側は(14)SD-008につながるが、いずれも新旧関係は不明である。規模は現存総延長4.8m・幅1.36m・確認面からの深さ0.6mである。走行方向はN-87°-Wである。本遺構の深さは(14)SD-008より浅く、明確な段差が見られることから、東西方向に長い土坑の可能性もある。埋土の状況は、ロームブロックを多量に含んでいる土層が水平堆積していることから、人為的に埋められたと思われる。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして中世の貿易陶磁器の白磁面取盃(中世2)、瀬戸・美濃窯製品の瓶子(中世23・25)が出土している。図示したもの以外には在地産の胎土中に雲母粒を含んだ近世の内耳土器・擂鉢と板碑などの破片が出土している。

(14) SD-008(第234・240・247・249図、第6・46表、図版25・148・149)

第III区南側(14)B区の22GG-93・94、23GG-03・04グリッドに所在する。西側は(14)SD-007につながり、北側で(14)SK-009と重複するが、いずれも新旧関係は不明である。東側は隣接する(15)SD-002に向かって続いているが、つながるか否かは不明である。規模は現存総延長3.4m・幅2.08m・確認面からの深さ0.86mである。走行方向はN-88°-Eである。確認面から深さ約70cm(標高12.1m)で湧水があり、本遺構はかろうじて底面を検出できたが、重複する(14)SK-009は底面まで調査できなかった。本遺構も(14)SD-007と同様に東西方向に長い土坑の可能性がある。

遺物は湧水面付近から中世の在地産の擂鉢(中世46)が出土している。遺構一括で取り上げた遺物として中世の瀬戸・美濃窯製品の縁釉皿(中世12)と図示できなかったが在地産のカワラケ杯・擂鉢・内耳土器の破片が出土している。

(14) SD-013(第234・240・248・249・254・256・257図、第6・46・47・49・50表、図版26・148・149・152・160・161)

第Ⅲ区南端(14)F区の23GG-14・15・23・24・32・33グリッドに所在する。(14)SK-017～SK-020と重複しているが、(14)SK-017は本遺構より新しく、それ以外の土坑との新旧関係は不明である。南西側は隣接する(15)SD-003につながり、同一の溝である。北東側も調査地点境まで続いているが、隣接する(15)C区では検出されていない。規模は現存総延長13.2m・幅1.6m～2.12m・確認面からの深さ0.6m～0.82mである。走行方向はN-49°-Eである。南西が浅く、北東に向かって深くなっている。断面形はやや深い逆台形であり、(15)SD-003に類似する。重複している(14)SK-019・SK-020は、いずれも確認面から深さ約1.3m(標高12.16m)で湧水したが、発掘調査時の所見では、(14)SK-019は更に45cm、(14)SK-020は更に10cmほどで底面になる。

遺物は中世の在地産のカワラケ杯(中世35・36)・内耳土器(中世52)が底面近くから出土している。遺構一括で取り上げた遺物として中世の在地産のカワラケ杯(中世40)・擂鉢(中世44)・茶釜(中世48・49)、近世の瀬戸・美濃系陶器の鉄絵折縁皿(近世36)と砥石(石48)、鉄釘(鉄9)、半球形鉄製品(鉄14)、板状鉄製品(鉄18)、鉄滓(鉄27～29)が出土している。図示したもの以外には胎土中に雲母粒を多量に含んだ近世の在地産の内耳土器と板碑などの破片が出土している。

(15) SD-002(第234・240・251～254・257・258図、第6・49～51表、図版29・158～162)

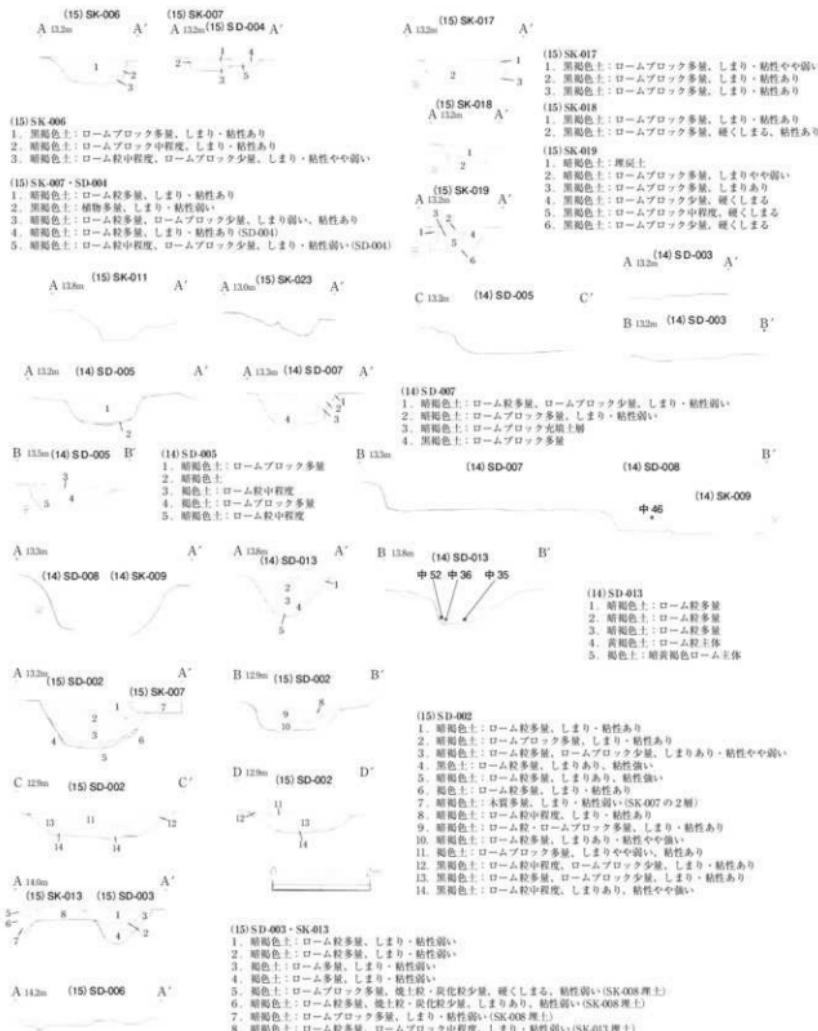
第Ⅲ区南東側(15)C区の22GG-88・95～98、23GG-05～08グリッドに所在する。本遺跡の中で最も東にある遺構である。西から北へ弧を描くように続いているが、北側は標高約12.0mで湧水したため、溝が自然に消滅するのか溝の端部となるのかは判断できなかった。北側で(15)SK-007と重複し、本遺構の方が古い。西側は(14)SD-008に向かって続いているが、つながるか否かは不明である。規模は現存総延長20.7m・幅1.5m～2.7mである。確認面からの深さは16cm～98cmであるが、溝の底面に土坑が掘り込まれている場所や極端に浅い場所を除くと、平均して40cm～50cmである。走行方向はN-99°-Eであるが、東端で北へ98°(N-17°-E)曲線状に屈曲する。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして板碑(石3・6)、石臼(石14・20)、砥石(石36・53)、鉄滓(鉄31・33・34)、明道元寶(銭2)が出土している。石臼(石20)は(14)SK-010出土遺物と接合している。図示したもの以外には中世の瀬戸・美濃窯製品の天目茶碗・擂鉢、近世の瀬戸・美濃系陶器の銷軸擂鉢、在地産の擂鉢と板碑、近世瓦などの破片が出土している。

(15) SD-003(第234・240図、第6表、図版27)

第Ⅲ区南西端(15)B区の23GG-30～32・40・41グリッドに所在する。(15)SE-001、(15)SK-013などと重複する。本遺構より(15)SK-013の方が古いが、(15)SE-001との新旧関係は不明である。(15)SK-013付近に段があり、これを境に南西側の深さが0.4m、北東側の深さが0.7m前後となっている。南西側は調査地点境まで続いているが、隣接する(1)SD-001や(14)SD-001との新旧関係などは不明である。北東側は隣接する(14)SD-013につながり、同一の溝である。規模は現存総延長9.2m・幅0.6m～1.5m・確認面からの深さ0.35m～0.72mである。走行方向はN-69°-Eである。断面形はやや深い逆台形で、(14)SD-013に類似する。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は図示できなかったが、(14)SD-013から出土した擂鉢(中世44)に類似した在地産の擂鉢と近世瓦、火打石などの破片が出土している。



第240図 第III区土坑・溝断面

(15) SD-004(第234・240図、第6表、図版28)

第Ⅲ区南東側(15)C区の22GG-86・96グリッドに所在する。西側で(15)SK-007・SK-014と重複し、本遺構の方が(15)SK-007より古いが、(15)SK-014との新旧関係は不明である。南側は溝の端部になり、北側は現道の下まで続いているが、(15)D区では検出されていない。規模は現存総延長3.5m・幅0.75m・確認面からの深さ0.09m～0.11mである。走行方向はN-6°-Wである。

遺物は図示できなかったが、近世以降の土器の小破片が出土しているだけである。

(15) SD-005(第234図、第6表、図版28)

第Ⅲ区南東側(15)C区の22GG-85・95・96グリッドに所在する。北側で(15)SK-014と重複し、南側で(15)SD-002につながるが、いずれも新旧関係は不明である。北端部は調査地点まで続いているが、走行方向などから考えると隣接する(14)SD-003の一部につながると思われる。規模は現存総延長4.3m・幅0.26m～0.52m・確認面からの深さ0.17m～0.19mである。走行方向はN-26°-Wである。

遺物は出土していない。

(15) SD-006(第234・240図、第6表)

第Ⅲ区東側(15)D区の22GG-46グリッドに所在する。東側で(15)SK-017と重複するが、新旧関係は不明である。西側は調査地点まで続いているが、隣接する第19次調査地点では検出されていない。土坑である可能性も考えられる。規模は現存総延長1.6m・幅1.6m・確認面からの深さ0.13mである。走行方向はN-85°-Eである。

遺物は図示できなかったが、板碑と近世以降の土器の小破片が出土している。

(19) SD-001(第234図、第6・47表、図版30・31・152)

第Ⅲ区北端(19)I W区・I E区の22GG-03・04・10～14グリッドに所在する。北側は一部搅乱を受けている。(19)SK-021と重複し、本遺構の方が新しい。北東側は溝の端部となる。西側は広い範囲で搅乱を受けているため、本遺構がどこまで続いているのかは不明である。規模は現存総延長13.6m・幅0.3m～0.8m・確認面からの深さ0.19m～0.42mである。走行方向はN-73°-Eである。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして近世の瀬戸・美濃系陶器の灰釉輪禿皿(近世34)が出土し、(19)I W区の出土遺物と接合している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器の丸碗・擂鉢、肥前系磁器の染付碗、在地産の内耳土器・擂鉢と板碑などの破片が出土している。

4 第3・11次調査地点(第241図)

両調査地点ともに遺跡の南側に当たる。第3次調査地点は23EE～25EEグリッドの範囲にあり、現道を挟んで南北2地点に分かれている。東側は未調査地を挟んで第1次調査地点に近接している。北側の調査地点のほぼ中央で溝1条を検出したが、確認調査で終了した。調査地点一括で取り上げた遺物としては、第258図の寛永通寶(銭16)と近世土器片が少量出土しただけである。

第11次調査地点は24FF・24GGと25GG～25IIグリッドの範囲の2地点に分かれている。北側の調査地点は第1・2・7・13次調査地点に隣接するが、遺構は検出されなかった。南側の調査地点は、北側が現道を挟んで第10・18・20次調査地点に隣接し、東側が遺跡範囲外である。西側トレンチで溝1条を検出したが、東側の3本のトレンチは、いずれも現表土上面から深さ0.7m～1.2m(標高約11.6m)の暗褐色土層で湧水があり、それ以下は調査できず確認調査で終了した。遺構外一括で取り上げた遺物としては、近世土器などの破片が少量出土しただけである。

溝

(3) SD-001(第241図、第6表)

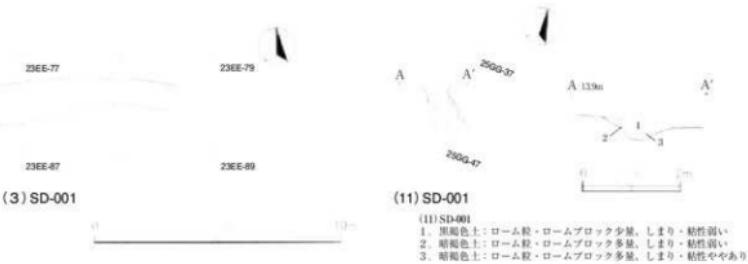
第3次調査地点の23EE-76~78グリッドに所在する。東西両側は調査地点境まで続いている。遺構の規模等は確認調査時の全測図に記録されたものである。規模は現存総延長8m・幅1.1m~1.6mで、深さは記録がなく不明である。走行方向はN-89°-Eである。発掘調査時の所見では、底面の状況はいびつであると記録されている。東側は未調査地点であるが、(1)SD-001につながる可能性がある。

遺物は出土していない。

(11) SD-001(第241図、第6表、図版34)

第11次調査地点の25GG-36・37グリッドに所在する。確認トレンチの範囲内での精査で終了し、拡張は行っていない。南東から北西へ走ると思われるが、現道を挟んだ北側の第2・7次調査地点及び隣接する南側の第18次調査地点では検出されていない。規模は現存総延長2.1m・幅0.9m~1.26m・確認面からの深さ0.38m~0.46mである。走行方向はN-45°-Wである。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は出土していない。



第241図 (3) SD-001・(11) SD-001

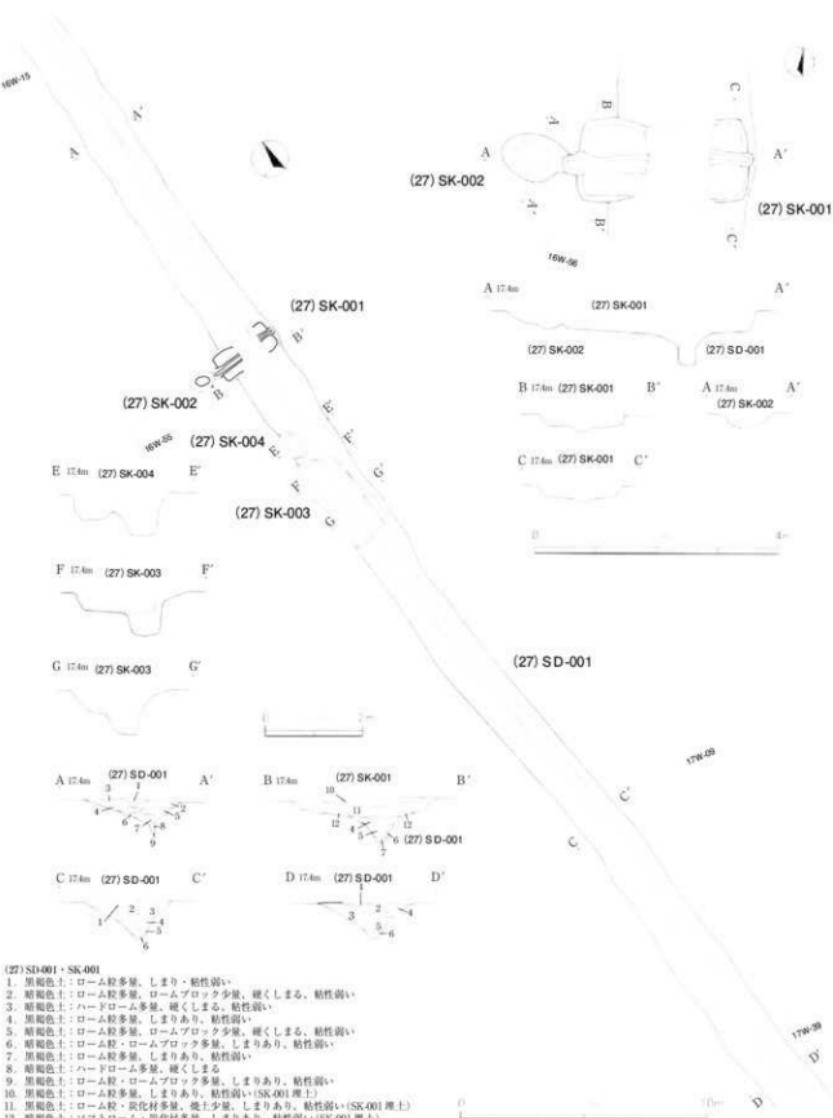
5 第27次調査地点(第242図)

遺跡西端に当たる15W・16V~16X・17W・17X・18Xグリッドの範囲にある。西側は国道16号を挟んで内山遺跡があり、東側は第28次調査地点に隣接する。検出された遺構は火葬遺構1基・土坑3基・溝1条であり、溝は調査地点の中央部を南北に走り、土坑などは溝に重複する状態で検出された。重複する遺構間の新旧関係などは不明である。本調査地点からは遺構内も含めて上層の遺物は出土していない。

火葬遺構

(27) SK-001(第242図、第5表、図版34)

調査地点北側の16W-46グリッドに所在する。(27)SD-001と直交する形で重複し、発掘調査時の所見では本遺構の方が新しい。西側で(27)SK-002と重複するが、同一遺構なのか、新旧関係があるかなどは不明である。形状は長方形の土坑であるが、長軸方向の中央に土坑の長軸より長く、細い溝が掘り込まれている。この形状は(19)SK-006に類似している。規模は現存長軸長2.74m・短軸長1.38m・確認面からの深さ0.2mである。中央部は検出できなかった。長軸方向はN-75°-Eである。細い溝は現存長3.4m・幅0.3m~0.4m・土坑底面からの深さ約0.07mである。埋土は炭化材を多量に含んでいる。本遺構も平面形状など



第242図 (27) SK-001(火葬遺構)~004・SD-001

から火葬遺構と判断した。

遺物は出土していない。

溝

(27) SD-001(第242図、第6表、図版34)

調査地点中央部をほぼ南北に走る、16W-05・15・16・25・26・35・36・46・56・66・67・76・77・87・97・98、17W-07・08・17・18・28・38・39グリッドに所在する。規模は現存総延長55m・幅1.8m~2.2m・確認面からの深さ0.7m~0.89mである。走行方向はN-14°-Wである。北側は調査地点境まで続いている。南側も調査地点境まで続いており、国道を挟んだ内山遺跡で検出された溝((1)SD-001及び(3)SD-001)につながると思われる。断面形は「V」字形又は薺研形である。埋土の状況は自然堆積であるが、上層には硬くしまった部分があり、道路としても使用されていたと思われる。

遺物は出土していない。

6 第25次調査地点(第243図)

遺跡北側のはば中央に当たる14AA~14CC・15AA~15CC・16BBグリッドの範囲にある。東側は第22次調査地点に隣接する。検出された遺構は井戸2基・土坑6基・溝3条で、調査地点の西側に集中している。これより東側には、隣接する第22次調査地点も含めて遺構は検出されていない。(25)SK-001は(25)SD-002、(25)SK-008は(25)SD-001と重複するが、新旧関係は不明である。

本調査地点では、(25)SD-001から多量の近世陶磁器などの遺物が出土している。一方、遺構外一括で取り上げた遺物としては第252図の石臼(石13)、第254図の砥石(石57)のほかには、図示できなかったが近世の瀬戸・美濃系陶器の捕鉢などの破片がわずかに出土しているだけである。

井戸

(25) SK-003(第243・244図、第5表、図版35)

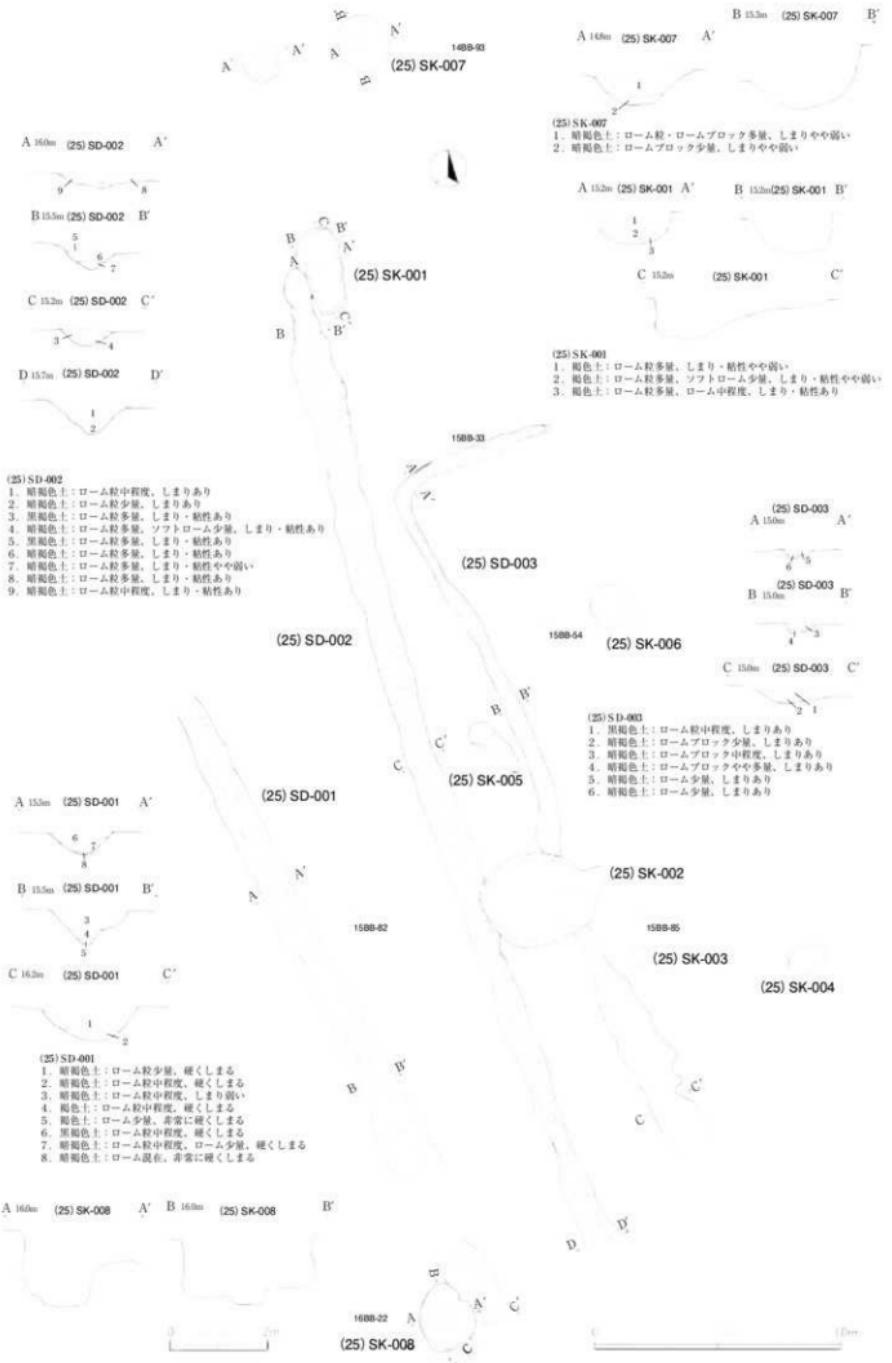
調査地点南西側の15BB-84・85グリッドに所在する。西側約0.7mに(25)SD-003、東側5.8mに(25)SK-004がある。平面形はほぼ円形である。規模は長軸長0.87m・短軸長0.82mである。長軸方向はN-8°-Wである。断面形は円筒状で、緩やかにすぼまると思われる。確認面から深さ0.9m(標高13.6m)で湧水があり、それ以下は調査できなかったが、発掘調査時の所見では、そこから更に1m以上深くなる。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は出土していない。

(25) SK-006(第243・244図、第5・47表、図版35・150・153・154)

調査地点西側のはば中央の15BB-44グリッドに所在する。西側約4.3mに(25)SD-003がある。平面形はほぼ円形であるが、東側に円形の張出しが見られる。規模は長軸長2.04m・短軸長1.78mである。長軸方向はN-77°-Wである。断面形は円筒状で、緩やかにすぼまると思われる。確認面から深さ0.8m(標高13.6m)で湧水があり、それ以下は調査できなかったが、発掘調査時の所見では、そこから更に1.0m以上深くなる。東側の張出しあは長さ40cm・確認面からの深さ26cmである。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして近世の肥前系波佐見産磁器の染付丸碗(近世10・17)・染付丸皿(近世45)、肥前系唐津陶器の灰釉象嵌鉢(近世50)が出土している。染付丸皿は(25)SD-001の出土遺物と接合している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器の灰釉筒形香炉と(25)SD-001から出土した近世43に類似する瀬戸・美濃系陶器の長石釉大皿などの破片が出土している。



第243図 (25) SK-001~008・SD-001~003

土坑

(25) SK-002(第243・244・250・255図、第5・47~49表、図版35・149・156・160)

調査地点南西側の15BB-73・74・83・84グリッドに所在する。(25) SD-002・SD-003と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。平面形は不整な楕円形で、西側の壁はしっかりと立ち上がっているが、東側の壁は確認面が低いこともあり、だらだらと立ち上がっている。規模は長軸長5.06m・短軸長3.76m・確認面からの深さ0.92mである。長軸方向はN-68°-Eである。埋土の状況は自然堆積であり、複数の土坑が重複しているような状況は見られない。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして近世の肥前系磁器の染付徳利(近世65)、瀬戸・美濃系陶器の鉄釉灯明皿(近世72)と中世の瀬戸・美濃窯製品の擂鉢の転用砥石(土6)、砥石(石63)が出土している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器の灯明受皿・擂鉢、近世常滑窯製品の壺などの破片が出土している。

(25) SK-004(第243・244図、第5表、図版35)

調査地点南側の15BB-86グリッドに所在する。本遺構より東側には遺構は検出されていない。重複する遺構はないが、西側5.8mに(25) SK-003がある。平面形は楕円形である。規模は長軸長1.6m・短軸長1.14mである。長軸方向はN-72°-Eである。確認面から深さ50cm(標高13.6m)で湧水があり、それ以下は調査できなかったが、発掘調査時の所見では、そこから更に70cmほどで底面になる。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は出土していない。

(25) SK-005(第243・244・250図、第5・48表、図版35・149)

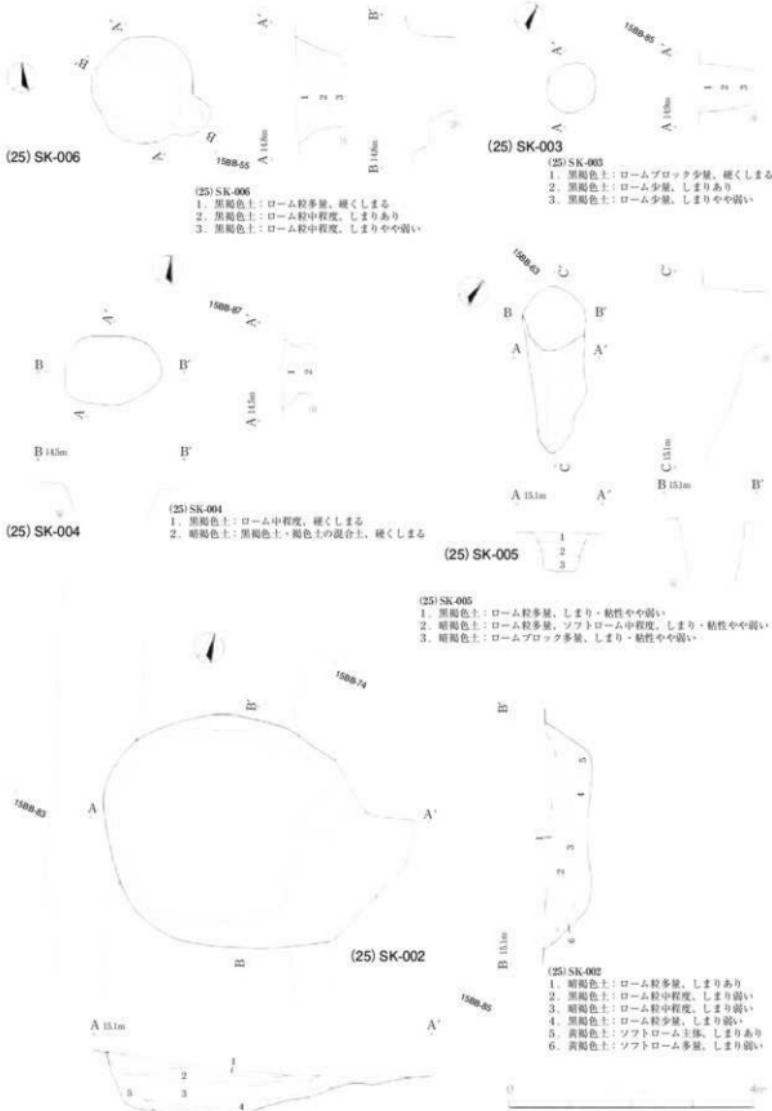
調査地点南西側の15BB-63グリッドに所在する。(25) SD-002と(25) SD-003の間にあり、重複する遺構はない。平面形は長楕円形であるが、円形の深い土坑と南東側に伸びる溝状の掘り込みがつながったような形状である。規模は長軸長2.7m・短軸長1.05mである。長軸方向はN-46°-Wである。土坑部分の断面形は円筒状で、確認面から深さ1.0m(標高13.6m)で湧水があり、それ以下は調査できなかったが、発掘調査時の所見では、そこから更に0.8mほどで底面になる。溝状の掘り込みは土坑に向かって緩やかに傾斜し、確認面から70cmほどの深さで土坑につながる。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして中世の瀬戸・美濃窯製品の擂鉢の転用砥石(石7)が出土している。図示したもの以外には陶磁器などの小破片がわずかに出土しているだけである。

溝

(25) SD-001(第243・254・259図、第6・47・49・51表、図版36・150~157・160・163)

調査地点西端の15BB-50・60・61・70・71・81・82・91・92、16BB-02・12・13・22・23グリッドに所在する。南東側端部で(25) SK-008と重複するが、新旧関係は不明である。北西側及び南東側は調査区間まで続いているが、隣接地はいずれも未調査地区である。南東側の16BB-02グリッド付近では、長さ3mほど搅乱を受けており検出できなかった。発掘調査時の所見では「この部分には、かつて家の入口部であったとの話があり、両方の溝の向きや形状がほかと異なることから、門のような構造物によって溝が途切れていた可能性がある」としている。規模は現存総延長28.7m・幅1.1m~2.1m・確認面からの深さ0.31m~0.52mである。走行方向はN-26°-Wである。溝の中には径0.4m~0.5m・溝底面からの深さ0.26m~0.5mの小ビットが1.0m~1.5m間隔で並んでいる。途切れている部分の両側には土坑があり、いずれも長軸方向が溝の走行方向と同じである。土坑の規模は、南東側は長軸長1.68m・短軸長0.8m・溝底面からの深さ0.28m、



第244図 (25) SK-003・006(井戸), SK-002・004・005(土坑)

北西側は長軸長1.9m・短軸長1.08m・溝底面からの深さ0.32mである。溝の断面形は「V」字形又は鍋底形である。埋土の状況は全体的に硬くしまっているが、小ピットとの関連などについては不明である。

遺物は近世の陶磁器を中心にして数多く出土し、全て遺構一括で取り上げたものである。陶磁器碗は瀬戸・美濃系陶器の丸碗(腰錫碗)(近世3)・灰釉腰折碗(近世6)、京・信楽系陶器の鉄絵丸碗(近世4)、肥前系波佐見産磁器の染付丸碗(近世9・11・12・18~20)、肥前系磁器の染付丸碗(近世14・15)・青磁染付角腰筒碗(近世24・25)・染付角腰筒碗(近世26)、瀬戸・美濃系陶器の染付端反碗(近世22・23)が出土している。

陶磁器碗蓋・皿は肥前系磁器の染付碗蓋(近世28)・染付荷麦猪口(近世30・32・33)、瀬戸・美濃系陶器の志野鉄絵丸皿(近世38)・銅線釉丸皿(近世42)・長石釉大皿(近世43)、肥前系磁器の青磁染付深皿(近世44)、肥前系波佐見産磁器の染付大皿(近世45・46)が出土している。

そのほかの陶磁器は肥前系唐津産陶器の灰釉象嵌鉢(近世51)、瀬戸・美濃系陶器の黄釉鉢(近世52)、肥前系磁器の染付鉢(近世54)、瀬戸・美濃系陶器の灰釉筒形香炉(近世56)・灰釉舟徳利(近世61)・柿釉徳利(近世62)・飴釉徳利(近世63)、肥前系磁器の染付瓶(近世64)、瀬戸・美濃系陶器の飴釉土瓶蓋(近世66)・鉄釉油差し(近世67)・鉄釉擂鉢(近世70)が出土している。このうち肥前系波佐見産磁器の染付丸皿(近世45)は(25)SK-006出土遺物と接合している。

在地産の土器やそのほかの遺物は、在地産のかわらけ小皿(近世81)・灯明皿として使用したと思われるかわらけ皿(近世85)・灯明受皿(近世86)・有脚灯明受皿(近世87)・内耳土器(近世88)、砥石(石51)・寛永通寶(銭29・30)が出土している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器の鉄釉壺・(17)SD-001から出土した近世59に類似する柿釉煙硝壺・灯明皿・灯明受皿、肥前系磁器の染付徳利などの破片が多数出土している。

(25) SD-002(第243・253図、第6・49表、図版36・160)

調査地点西側の14BB-90・91、15BB-01・11・21・31・32・41・42・52・62・63・72・73・83・93・94、16BB-03・04・14グリッドに所在する。北側の15BB-00グリッド周辺は擾乱を受けているため検出できなかつたが、北端部の調査地点境にあるピットが本遺構に伴うものと判断した。(25)SK-001・SK-002と重複し、(25)SK-002の方が新しいが、(25)SK-001との新旧関係は不明である。北側及び南側は調査地点境まで続いているが、隣接地はいずれも未調査地区である。規模は現存総延長50.6m・幅0.7m~1.6m・確認面からの深さ0.16m~0.29mである。走行方向はN-16°-Wである。溝の中にはピットがほぼ1m間隔で並び、規模は長軸長0.7m~1.2m・短軸長0.5m~0.6m・溝底面からの深さ0.12m~0.29mである。溝の断面形は「V」字形又は鍋底形である。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして砥石(石23)が出土している。図示したもの以外には胎土中に雲母粒を多量に含んだ近世の在地産の内耳土器などの破片が出土している。

(25) SD-003(第243図、第6・47表、図版36・150・156)

調査地点西側の15BB-23・32・33・42・43・53・63・64・73・74・84・94・95、16BB-05グリッドに所在する。(25)SK-002と重複し、新旧関係は本遺構の方が古い。南側は調査地点境まで続いているが、隣接地は未調査地区である。規模は現存総延長36.6m・幅0.4m~1.8m・確認面からの深さ0.11m~0.37mである。走行方向はN-24°-Wであるが、北端で東へ91°(N-67°-E)屈曲して、長さ6.5mほどで溝の端部となる。断面形は鍋底形である。埋土の状況は自然堆積である。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして近世の瀬戸・美濃系陶器の天目茶碗(近世2)・錫釉擂鉢(近世

69)が出土している。

7 第17・26・33・34次調査地点(第245図)

第17次調査地点は遺跡のほぼ中央部に当たる14DD・14CC・15CC~15EE・16CC~16EE・17CC~17FF・18DD~18FF・19EE・19FFグリッドの範囲にあり、調査面積が最も広い調査地点である。南側で第6次調査地点、北側で第22・25次調査地点、西側で第30・34次調査地点に隣接する。東側は遺跡範囲外である。遺構は溝1条のみ検出された。遺構外一括で取り上げた遺物については、調査面積が広いにもかかわらず近代以降の土器片がごくわずかに出土しただけである。

第26次調査地点は遺跡の北東端部に当たる10BB~10EE・11AA~11EE・12BB~12EEグリッドの範囲にある。北側と東側は遺跡範囲外である。南側で第22次調査地点、西側で第3次調査地点を取り囲むように隣接する。遺構は土坑1基と溝1条が検出された。なお、発掘調査時において石器集中地点(第11ブロック)をA区、(26)SD-001を含まない西側をB区、その東側をC区としている。本調査地点も調査面積が広いにもかかわらず、遺物は近世陶器や土器などがごくわずかに出土しただけである。

第33次調査地点は遺跡の北端部に当たる10BB~10DD・11AA~11DD・12AA・12BBグリッドの範囲にある。西側は遺跡範囲外で、そのほかは第26次調査地点に囲まれている。遺構は溝1条のみ検出された。遺物は、調査対象面積が広いにもかかわらず、(33)SD-001から土器師壺片1点が出土しただけである。

第34次調査地点は遺跡のほぼ中央部に当たる18CCグリッドの範囲((34)A区)と、北西側の14X・14Y・15X・15Yグリッドの範囲((34)B区)の2か所に分かれている。東側で第17次調査地点に近接するが、そのほかは未調査地区である。遺構は溝3条が検出された。本調査地点一括で取り上げた遺物として第250図の中世の瀬戸・美濃窯製品の擂鉢の転用砥石(土8)、A区一括で取り上げた遺物として図版154・157の近世の肥前系磁器の染付型打八角鉢(近世53)と在地産のカワラケ小皿(近世77~80)が出土している。

土坑

(26)SK-002(第245図、第5表、図版38)

調査地点南端の12CC-56・57グリッドに所在する。西側3.5mに(26)SD-001があり、重複する遺構はない。平面形はやや不整な円形で、北東側に円形の掘り込みが見られる。規模は長軸長1.23m・短軸長1.14m・確認面からの深さ0.23mである。長軸方向はN-63°-Wである。内側の掘り込みの規模は径56cm・土坑底面からの深さ18cmである。埋土の状況は自然堆積と思われる。

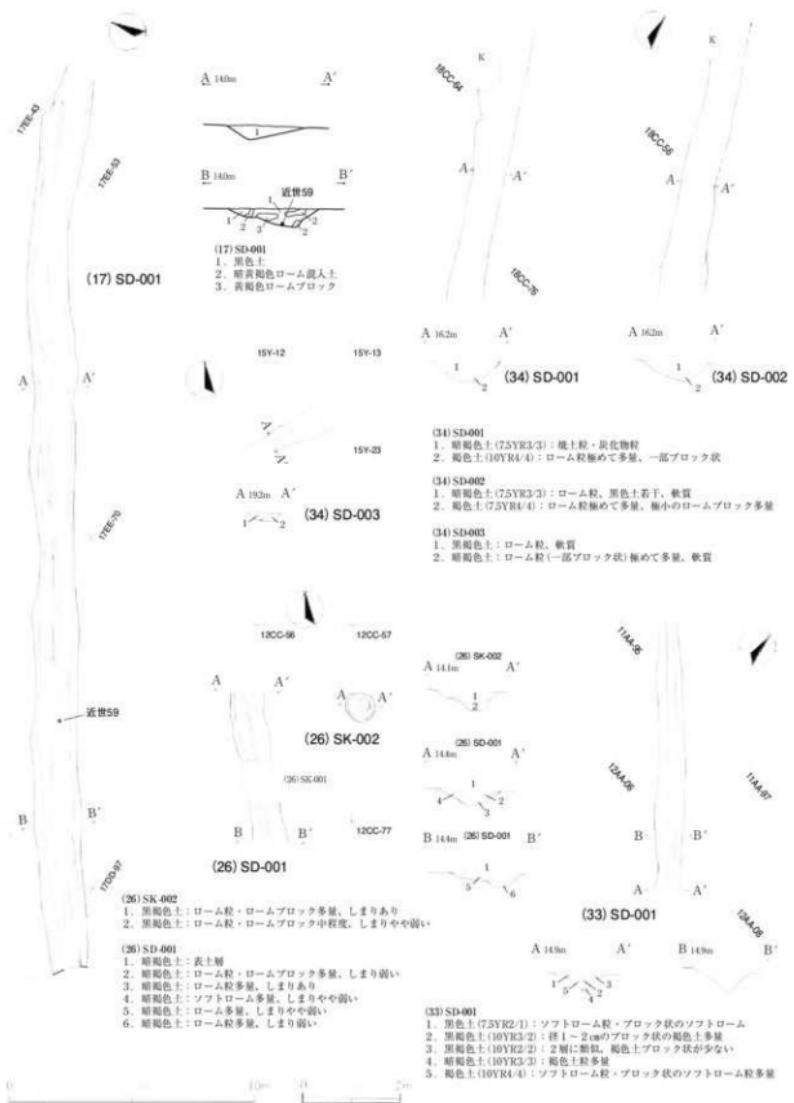
遺物は図示できなかったが、砥石が出土している。

溝

(17)SD-001(第245図、第6・47表、図版36・37・154)

調査地点ほぼ中央の17EE-42・43、17EE-50~52、17DD-68・69、17EE-60・61、17DD-77~79、17DD-86~88、17DD-96グリッドに所在する。西側は広範囲に擾乱を受けており、これ以上続くのかどうかは不明である。東側は標高12.68mで湧水があり、これ以上は調査できなかった。規模は現存総延長37.3m、幅1.4m~1.8m・確認面からの深さ0.23m~0.41mである。走行方向はN-57°-Eである。断面形は「V」字形又は薬研形である。

遺物は底面から近世の瀬戸・美濃系陶器の柿釉煙硝壷(近世59)が出土している。図示したもの以外には中世の瀬戸・美濃窯製品の天目茶碗、近世の瀬戸・美濃系陶器の志野丸皿、在地産の擂鉢と板碑などの破片が出土している。



第245図 (17) SD-001, (26) SK-002・SD-001, (33) SD-001, (34) SD-001~003

(26) SD-001(第245図、第6表、図版38)

調査地点南端の12CC-55・56・65・66・76グリッドに所在する。(26)SK-001(縄文時代陥穴)と重複し、東側3.5mに(26)SK-002がある。北側は未調査地区まで続いている。南側も調査地点境まで続いているが、隣接する第22次調査地点では検出されていない。規模は現存総延長6.2m・幅1.22m~1.42m・確認面からの深さ0.17m~0.25mである。走行方向はN-11°-Wである。

遺物は出土していない。

(33) SD-001(第245図、第6表、図版37・38)

調査地点西端の11AA-85・95~97、12AA-06・07グリッドに所在する。北東側4mに縄文時代の(33)SX-001があるが、重複する遺構はない。両端部は調査地点境まで続いているが、北西側は遺跡範囲外、南東側は未調査地区となっている。規模は現存総延長10.9m・幅0.76m~1.22m・確認面からの深さ0.7m~0.9mである。走行方向はN-49°-Wである。

遺物は土師器甕口縁部の小破片が1点出土しているだけである。

(34) SD-001(第245・256・259図、第6・50・51表、図版39・161・163)

(34) A区の18CC-54・64・65・75グリッドに所在する。北東側に7mの距離をあけて(34)SD-002が並走している。両遺構は両端部が調査地点境まで続いているが、隣接地はいずれも未調査地区である。しかし、走行方向などから、北西側100mにある第25次調査地点の(25)SD-001-002につながる可能性も考えられる。底面は部分的に3か所精査して検出した。規模は現存総延長11.6m・幅1.4m~1.6m・確認面からの深さ0.4mである。走行方向はN-32°-Wである。断面形は鍋底形である。

遺物は遺構一括で取り上げたものとして板状鉄製品(鉄16)、寛永通寶(銭32)が出土している。図示したもの以外には近世の肥前系磁器の染付丸碗、瀬戸・美濃系陶器の鉄釉灯明受皿などの破片が出土している。

(34) SD-002(第245図、第6表、図版39)

(34) A区の18CC-35・36・46・56・57・67グリッドに所在する。南西側に7mの距離をあけて(34)SD-001が並走している。底面は部分的に3か所を精査して検出した。規模は現存総延長11.6m・幅1.4m~1.8m・確認面からの深さ0.37mである。走行方向はN-32°-Wである。断面形は鍋底形である。

遺物は近世以降の土器破片が2点出土しているだけである。

(34) SD-003(第245図、第6表、図版38)

(34) B区の15Y-12・21~23グリッドに所在する。上層確認トレンチで検出したが、近接するトレンチでは検出されていない。また、東側に隣接する第23次調査地点でも検出されていない。規模は現存総延長3.7m・幅0.5m~1.3m・確認面からの深さ0.16mである。走行方向はN-65°-Eである。

遺物は出土していない。

8 第31次調査地点(第246図)

遺跡の北側で12X・12Y・13X~13Z・14Y~14AA・15Z・15AAグリッドの範囲にあり、近接する3か所に分かれている。検出された遺構は野馬土手1条・野馬堀1条・溝2条である。北側と南側は第23・32次調査地点に隣接する。調査は確認調査で終了した。遺構内から出土した遺物はなく、5トレンチ一括で取り上げたものとして第259図の寛永通寶(銭31)が出土している。また、近代と思われるが、4トレンチ一括で取り上げた遺物として「下総流山町根郷 佐野屋」の墨書きなどがある急須が出土している。

(31) 野馬土手(第246図)

南側調査地点の14Z-47・48・57・58・68・78・79・88・89・98・99、14AA-90、15Z-09・19、15AA-00・10・11グリッドに所在する。南側の市道沿いに続いている野馬土手につながるものと考えられる。本野馬土手より北側には、現状で視認できる土手状の高まりは見られない。東側は現道により削平されている。北側と南側も削平されていると思われる。規模は現存総延長29m・幅4.0m～6.0m・現地表面からの高さ0.3m～0.4mである。現状では北西から南東に続いている。土手本体に対するトレンチを設定していないため詳細な記録がなく、盛土の状況などは不明である。1～4・6トレンチの調査により、想定していた野馬土手の下端部より内側で野馬堀(31)SD-001が検出されたことから、現状で見られる高まりは、土手の崩壊土層である可能性が高く、土手本体は大部分が削平されていると思われる。

遺物は出土していない。

野馬堀(31)SD-001(第246図、第6表、図版39)

南側調査地点の1～4・6トレンチで検出され、推定も含めて14Z-46・47・57・58・67・68・77～79・88・89・98・99、15Z-09・19、15AA-00・10・20・21・30・31・40・41グリッドに所在する。規模は現存総延長43m・幅3.24m・確認面からの深さ1.0mである。走行方向はN-25°-Wである。土層断面B-B'の観察では、右側の深い溝を人為的に埋めた後、左側に深さ50cm～60cmの溝を掘り直していると思われるが、土層断面C-C'ではそのような状況は明確に観察できない。野馬堀は、北側の調査地点では確認できなかつたが、北側に分岐している市道に沿って、低地へと続していくものと思われる。

遺物は出土していない。

溝

(31) SD-002(第246図、第6表、図版39)

南側調査地点の1～5トレンチで検出され、推定も含めて14Z-54・64・65・75・76・86・87・97・98、15Z-07・08・18・19・29、15AA-20・30・40グリッドに所在する。規模は現存総延長44m・幅0.56m～1.2m・確認面からの深さ0.18m～0.36mである。走行方向は一番南側の1トレンチから2トレンチの少し手前までは(31)SD-001とほぼ同じN-27°-Wで、2トレンチから北はN-38°-Wである。

遺物は出土していない。

(31) SD-003(第246図、第6表、図版39)

北西側調査地点の10・12トレンチで検出され、推定も含めて13X-48・49・58・59・69、13Y-50・60・61・71グリッドに所在する。北西側と南東側のトレンチでは溝は検出されていない。規模は現存総延長16m・幅0.7m～0.8m・確認面からの深さ0.36m～0.5mである。走行方向はN-47°-Wである。規模や走行方向などから、(31)SD-002と同じ溝の可能性も考えられる。

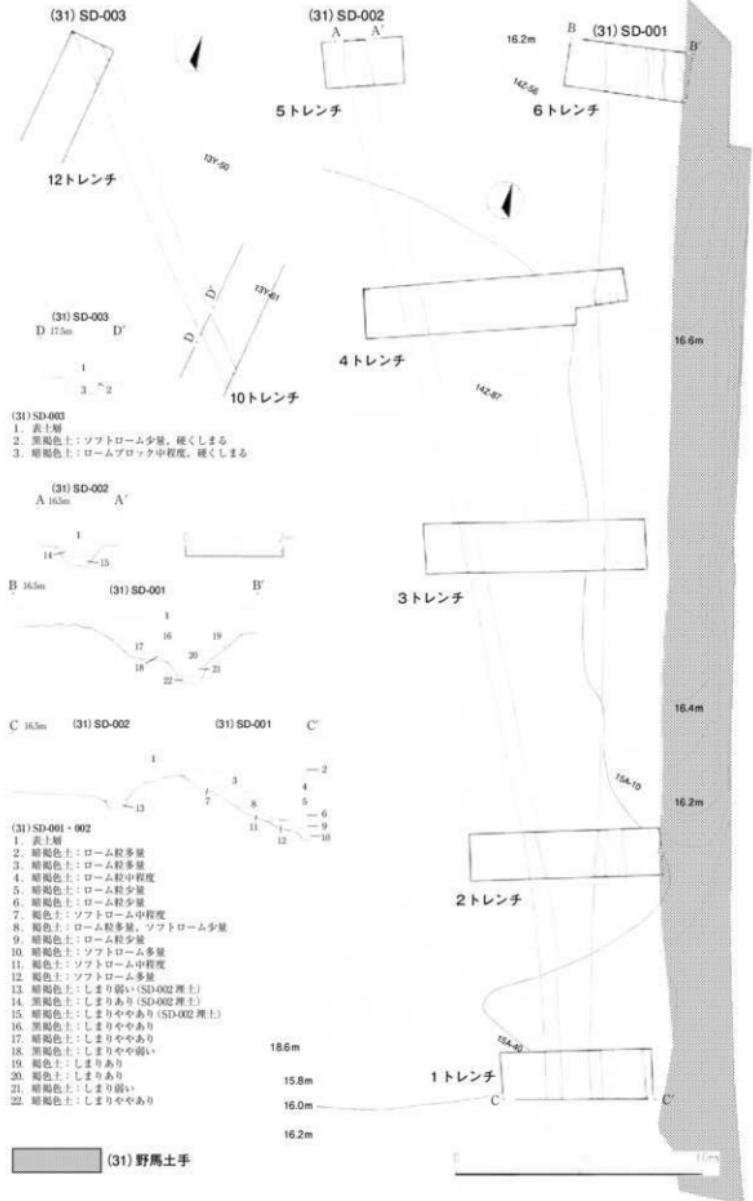
遺物は出土していない。

9 その他の調査地点(第9・10図)

遺構が検出されなかった調査地点について、遺物の出土状況などの概要を記述することとする。第4・9・16・20・28次調査地点については、当該時期の遺物が全く出土していない。

第10・12・13・18・21・22次調査地点については、土器片などが少量出土したが、いずれも小破片であるため時期や器種などは不明である。

第2次調査地点は遺跡の南側に当たる24GG・24HHグリッドを中心とする範囲にあり、第1次調査地点



第246図 (31) 野馬土手・野馬堀・溝

の南東側である。主な遺物はトレンチ等一括で取り上げたものとして第253図の砥石(石30)、第258図の寛永通寶(銭12~15)、そのほかに近世の瀬戸・美濃系陶器の天目茶碗、常滑窯製品の甕などの小破片が出土している。天目茶碗は(1)SK-020と(1)23FF-60の出土遺物と接合している。

第5次調査地点は遺跡の南側に当たる24EE・25EEグリッドの範囲にあり、南北3か所に分かれている。主な遺物はトレンチ等一括で取り上げたものとして図版150の近世の肥前系波佐見産磁器の染付丸碗(近世8)が出土している。図示したもの以外には体部が浅く、胎土中に雲母粒をほとんど含んでいない近世の在地産の内耳土器の破片が出土している。

第23次調査地点は遺跡の北側に当たる14Y~16Y・14Z~16Z・15AAグリッドの範囲にある。第31次調査地点と東側と北側で隣接する。主な遺物はグリッド一括で取り上げたものとして第258・259図の元祐通寶(銭5)・寛永通寶(銭35)・文久永寶(銭40)・銭種不明(銭36)が出土している。銭35と銭36は錯着している。図示したもの以外には中世の常滑窯製品の甕の転用砥石1点が出土しており、これらが出土遺物の全てである。

第24次調査地点は遺跡の南側に当たる26GG・27GG・27HHグリッドを中心とする範囲にあり、東側で第18次調査地点に隣接する。主な遺物はグリッド一括で取り上げたものとして第258・259図の寛永通寶(銭21~28・34)・天保通寶(銭39)・銭種不明(銭37)の11枚の銭貨が出土している。銭27は銭28・34と錯着している。天保通寶を除く10枚は26GG-36グリッドから出土したものであるが、出土状況等は不明である。そのほかには近世以降の土器の小破片がわずかに出土しているだけである。

第29次調査地点は遺跡の北東側に当たる13CC~13EE・14CCグリッドの範囲にある。第22次調査地点に南北を挟まれる位置である。主な遺物はトレンチ一括で取り上げたものとして第253図の石臼(石19)と砥石(石35)が出土している。図示したもの以外には近世の瀬戸・美濃系陶器や肥前系磁器と思われる小破片が出土している。

第30次調査地点は遺跡のほぼ中央部に当たる16CCグリッドを中心とする範囲にあり、東側で第17次調査地点、北側で第25次調査地点に隣接する。主な遺物はトレンチ一括で取り上げたものとして第247図の中世の瀬戸・美濃窯製品の天目茶碗(中世4)、第253図の砥石(石22・28)が出土している。図示したもの以外には(25)SD-001から出土した近世26と同手と思われる近世の肥前系磁器の染付角腰筒碗や在地産の播鉢・胎土中に雲母粒を含んだ近世の内耳土器などの破片が出土している。

10 出土遺物

出土した陶磁器・土器の時期は中世～近代以降までの幅広い時期にわたるものであり、中世の遺物量に比べると、近世のものが主体を占めている。報告に当たっては、陶磁器・土器を「中世陶磁器・土器」と「近世陶磁器・土器」に区分した。「中世陶磁器・土器」の中には一部近世初頭の遺物を含め、中世の遺物については細片を除き原則的に全てを図示することとした。「近世陶磁器・土器」については、器種や産地などが分かるものを中心として、写真と組み合わせて図示することとした。土製品や板碑などは種別ごとにまとめるこことし、近代以降については割愛した。なお、遺構別の主要遺物の概要については第52表「遺構別主要遺物観察表」に、遺構別の出土遺物の数量については第53表「遺構別出土遺物一覧表」に示した。

中世陶磁器・土器(第247~249図、図版148・149、第46表)

1・2は貿易陶磁器である。1は青磁稜花皿の口縁部破片である。外面には蓮弁文が、内面口縁部には波状文が見られる。時期は15世紀後半と考えられる。2は白磁面取蓋の口縁部破片である。15世紀代のも

のと考えられる。(14)SD-007から出土した。

3~25は瀬戸・美濃窯製品の陶器である。3~6は天目茶碗である。3・4は体部の20%程度が遺存しているが、口縁部はいずれもごくわずかしか遺存していない。3の釉は褐色である。5の体部は厚手の作りである。釉は光沢を帯びた黒褐色である。高台部分はほとんど遺存していないが、削り出し高台である。大窯第1段階の所産と考えられる。6は(19)SK-021から出土したもので、接合しない同一個体片と合わせると口縁部の約50%が遺存していることとなる。高台付近は鋳釉によって鉄化粧が施され、色調は暗赤褐色である。削り出し高台と思われる。大窯第3~4段階頃の所産と考えられる。7~10は碗である。7・8は平碗で、7は内外面に灰オリーブ色の灰釉が施される。古瀬戸後期様式Ⅲ期に位置付けられるものと考えられる。(14)SK-003・SD-003・SD-005から出土した。8は底部の破片である。内面と外面上端付近に灰釉が見られる。高台は削り出し高台である。古瀬戸後期様式に位置付けられるものと考えられる。9・10は丸碗である。いずれも口縁部の破片で(14)SK-010から出土したものであるが、口縁部の形状が異なり、別個体と考えられる。いずれも内外面全面に灰釉が施されている。

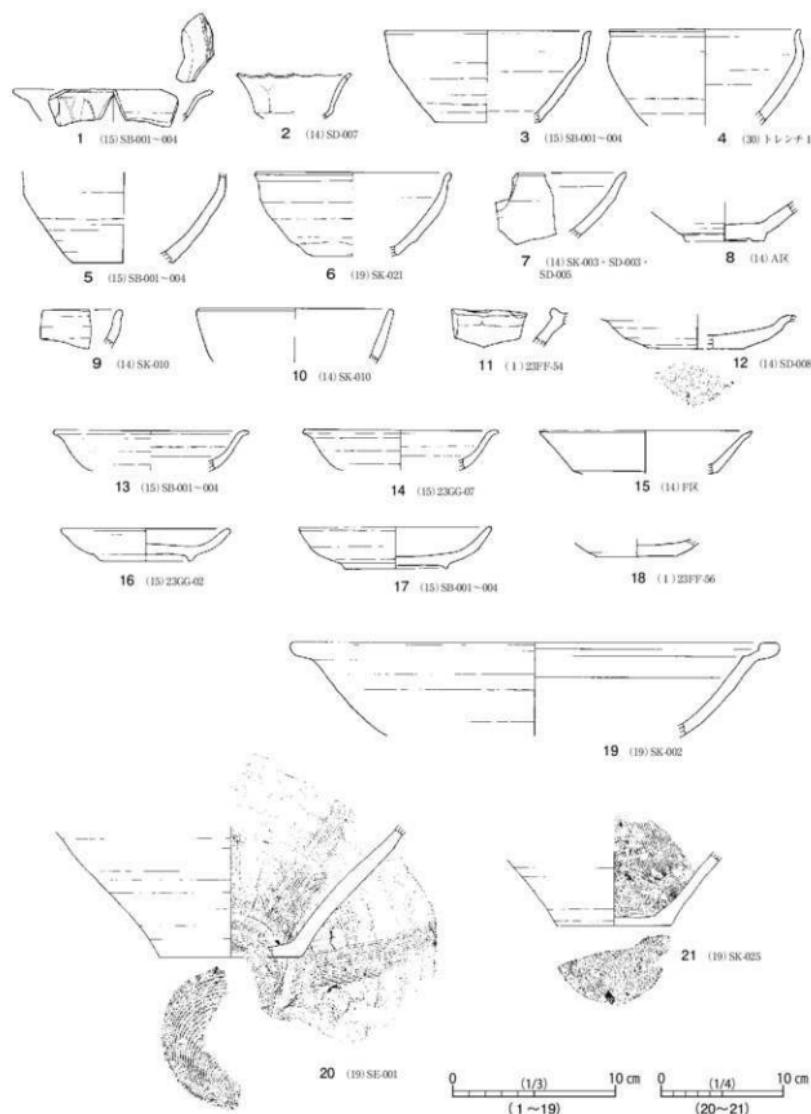
11~19は皿である。11は遺存状態が悪いが折線中皿である。口縁部にわずかに灰釉が認められる。古瀬戸後期様式Ⅱ期に位置付けられるものと考えられる。12~14は縁釉皿である。12は全体の40%程度が遺存している。口縁部はわずかしか遺存していないが、内面口縁部のみに灰釉が認められる。古瀬戸後期様式Ⅳ期新段階に位置付けられるものと考えられる。(12)SD-008から出土した。13・14はいずれも口縁部の20%程度が遺存しており、内面口縁部のみに灰釉が認められる。挟み皿の可能性がある。大窯第1段階頃の所産と思われる。15は全体に薄手の作りで、内外面全面に黒色の鉄釉が施されている。腰折皿と思われる。古瀬戸後期様式Ⅳ期新段階に位置付けられるものと考えられる。16は丸皿で、内外面とも全面的に灰釉が見られる。釉の色調は灰白色~オリーブ灰色である。大窯第4段階以降の所産と考えられる。17・18は志野丸皿である。17は全体の40%程度が遺存している。高台は削り出し高台である。内外面全面に施釉されている。大窯第4段階以降の所産と考えられる。18は底部の30%程度が遺存している。19は折線深皿である。口縁部の20%程度が遺存している。内外面に灰釉がハケ塗りされる。古瀬戸後期様式Ⅱ期に位置付けられるものと考えられる。(19)SK-002から出土した。

20・21は擂鉢である。20は、口縁部は遺存していないが、全体の40%程度が遺存している。内外面に鋳釉が施される。胎土は黒色土を多く含んでいる。大窯期以降の所産と考えられる。(19)SE-001から出土した。21は底部の50%程度が遺存している。内外面全面に鋳釉が施されている。大窯第1~2段階頃の所産と考えられる。(19)SK-025から出土した。

22~25は瓶子である。22・23は胴部破片で、いずれも外面に灰釉が施され、印花文が認められる。古瀬戸中期様式Ⅱ期に位置付けられるものと考えられる。24は底部破片である。外面にわずかに灰釉が見られる。25は底部の30%程度が遺存している。外面には灰釉が見られる。古瀬戸中期様式Ⅱ期に位置付けられるものと考えられる。23・25は(14)SD-007から出土したもので、同一個体の可能性も考えられる。

26~28は常滑窯製品の陶器である。26は片口鉢の口縁部破片である。内面は使用により平滑になっている。内外面ともににぶい褐色である。8型式に比定されるものと考えられる。(1)SK-005から出土した。27は甕の口縁部破片である。7型式に比定されるものと考えられる。28は甕の底部破片である。

29~33・35~37はカワラケ杯、34・38~43はカワラケ小皿である。29は全体の30%程度が遺存している。胎土は白色粒子をやや多く含んでいる。30は全体の25%程度が遺存している。31は50%程度が遺存してい



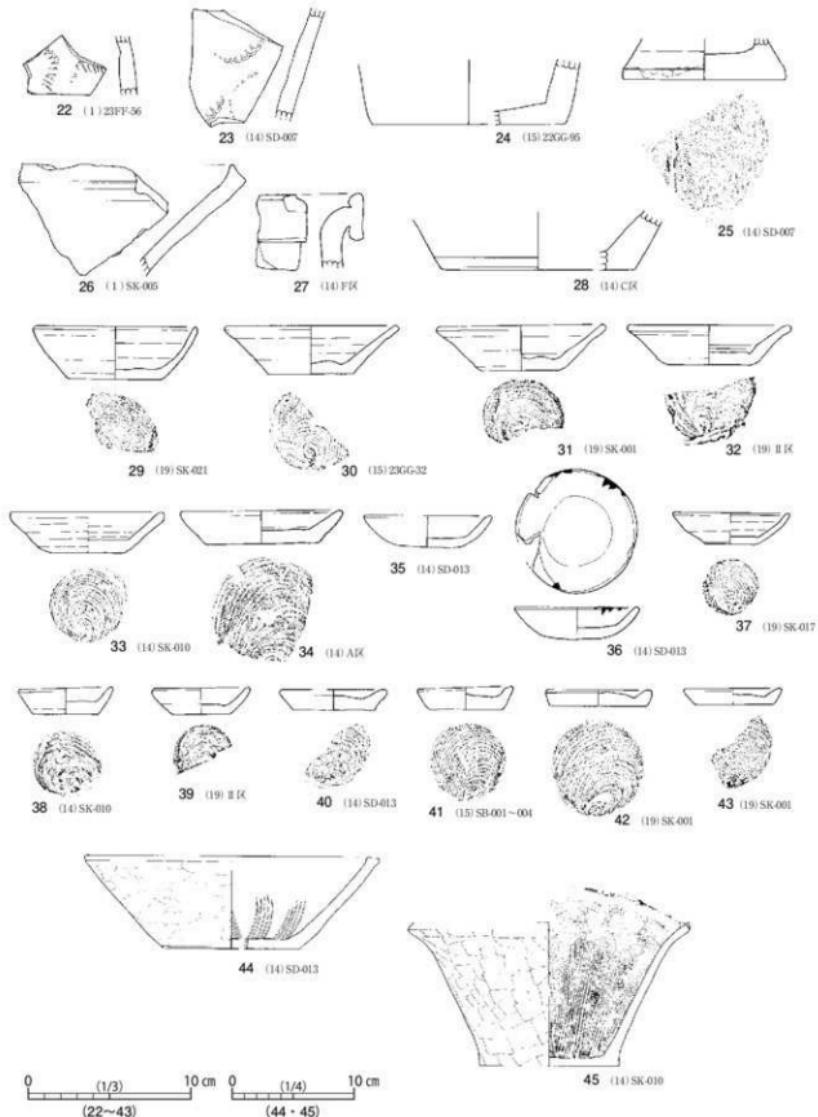
第247図 中世陶磁器・土器(1)

る。見込みは平坦でなく、同心円状に凹凸が著しい。32は30%程度が遺存している。33は70%程度が遺存している。34は50%程度が遺存している。胎土は白色粒子を多量に含んでいる。35は80%程度が遺存している。底部外面の回転糸切り痕がナデ消され、丸底状である。36は90%程度が遺存している。35と同様、底部外面の回転糸切り痕がナデ消され、丸底状である。内外面口縁部にはススが付着している。37は60%程度が遺存している。胎土は雲母粒を少量含んでいる。38はほぼ完形で、胎土は3mm~5mm大の赤色スコリアを含んでいる。39は40%程度が遺存している。胎土はきめが細かい。器面はやや摩耗し、底部外面の回転糸切り痕ははっきりしない。40は50%程度が遺存している。内面中央部が厚く盛り上がり、容器としてはほとんど内容量を見込めない形状である。胎土は白色粒子をやや多く含んでいる。41はほぼ完形である。40と同様の形状で、胎土は白色粒子と少量の雲母粒を含んでいる。42もほぼ完形で、40と同様の形状である。43は40%程度が遺存しており、40と同様の形状である。図示した15点のカワラケのうち、遺構から出土したものは10点で、29が(19)SK-021から、31・42・43が(19)SK-001から、33・38が(14)SK-010から、37が(19)SK-017から、35・36・40が(14)SD-013から出土した。

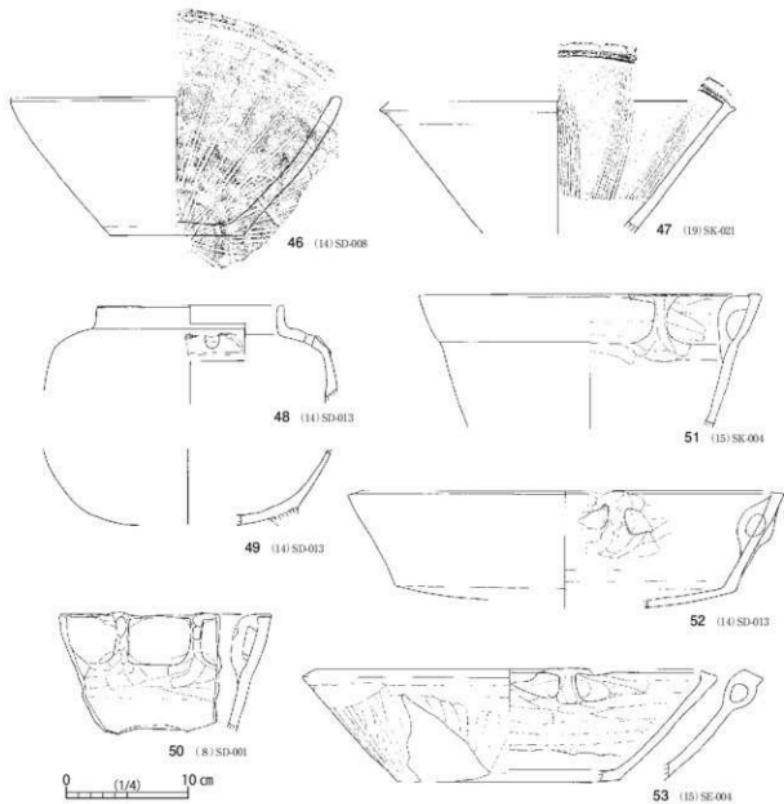
44~47は在地産播鉢である。44は全体の30%程度が遺存している。外面は指ナデにより器面に若干の凹凸が生じている。底部外面はナデ調整である。胎土は赤色スコリア・雲母粒を少量含んでいる。色調は暗褐色である。(14)SD-013から出土した。45は全体の40%程度が遺存しており、片口部分が遺存する。播目は見込み部分にもわずかに認められる。外面は細かくヘラナデされているが、器面に凹凸が生じている。底部外面はナデ調整である。胎土は雲母粒を少量含んでいる。色調は褐色である。(14)SK-010から出土した。46は50%程度が遺存している。播目は見込み部分にも放射状に認められる。外面にはロクロ目が若干残る。底部外面はナデ調整である。胎土は白色粒子・赤色スコリアを含んでいる。色調は黒褐色である。(14)SD-008から出土した。47は口縁部の25%程度が遺存している。外面は目の細かいハケ調整が縱方向に入っており、口縁部はヨコナデである。口唇部は中央がわずかに窪んでおり、内面側の端部は使用により摩滅している。胎土は白色粒子を多く含んでおり、色調は黒褐色である。(19)SK-021から出土した。

48・49は瓦質の茶釜である。いずれも(14)SD-013から出土し、同一個体と見られる。ほかにも同一個体と見られる接合しない破片が多数出土している。48は上半部で、口縁部の60%程度が遺存しているが、器面は内外面ともほとんど剥落している。49は下半部で、最大径の60%程度が遺存している。外面はわずかに器表面が遺存しており、ハケ調整痕が見られる。下端には脚部が貼付されていた痕跡が2か所認められ、本来は3か所あったと見られる。48・49とも、胎土は赤色スコリアを含んでいる。色調は淡褐色であるが、49は器表面部分のみ黒褐色である。

50~53は内耳土器である。50は口縁部の20%程度が遺存している。口径を復元すると29.8cmとなる。幅の細い耳状の部分が近接して2か所遺存している。色調は灰色~灰褐色であり、焼成は良好である。外面に薄くススが付着している。(8)SD-001から出土した。古瀬戸後期様式Ⅲ期併行のものと考えられる。51は口縁部の30%程度が遺存している。幅の細い耳状の部分が1か所遺存している。胎土は白色粒子を多量に含んでいる。色調は全体的に灰黄色である。外面に薄くススが付着する。(15)SK-004から出土した。52は口縁部の50%程度が遺存している。底部はほとんど遺存していないが、丸底になると見られる。耳状の部分がほぼ対面に2か所遺存している。外面はハケ状のヘラによる調整が縱方向に施される。調整痕は底部にも見られる。胎土は雲母粒と赤色スコリアを少量含んでいる。外面は全面的に、内面は底部付近に薄くススが付着している。(14)SD-013から出土した。16世紀末~17世紀初頭のものと考えられる。53は



第248图 中世陶磁器・土器(2)



第249図 中世陶磁器・土器(3)

口縁部の60%程度が遺存している。耳状の部分は1か所遺存している。外面にはススが少し付着し、内面の底部付近は器面が著しく剥落している。胎土は雲母粒、白色粒子を含んでいる。色調は褐色である。(15) SE-004から出土した。

近世陶磁器・土器(図版150~157、第47表)

1~27は碗で、1~6は陶器碗である。1~3は瀬戸・美濃系である。1は内外面とも灰釉の施された白天目茶碗である。釉の色調は灰白色である。17世紀後半頃のものと考えられる。2は内面に黒褐色の鉄釉が施された天目茶碗で、底部のみ完存する。高台は削り出し高台である。外面は露胎である。露胎部は

灰色～灰褐色である。3は丸碗で、体部外面の中ほどにヘラ彫沈線を施す。灰釉と体部下半に鉛釉を掛け分ける腰錫碗で、いわゆるせんじ碗である。4・5は京・信楽系の鉄絵丸腰碗である。いずれも透明釉を施し、口縁部外面に草花文を描く。6は瀬戸・美濃系の灰釉腰折碗である。貫入をもつ灰釉を施し、体部外面に呉須による唐草文を描く。1・5は(15)SB-001～004、2は(25)SD-003、3・4・6は(25)SD-001から出土した。

7～27は磁器碗である。7～12・17～20は肥前系波佐見産の染付丸碗で、くらわんか手である。7・11・17は外面に二重網目文を施す。8・9は外面に草花文を施し、8は高台内側にも草花文を施す。10は外面に丸に桐葉文、12は外面に菱形に桐葉文と桐葉文を施す。18は外面に花輪文、高台内側に変形字銘を施す。19は外面に唐草文と思われる文様、高台内側に唐草文を施す。20は外面に唐草文、高台内側に変形字銘を施す。13～16は肥前系の染付丸碗である。13は初期伊万里で、外面に細目文を施す。14は外面に、15は内外面に二重網目文を施す。16は外面に唐草文、高台内側に「大明年製」と思われる銘が施される。21は肥前系の染付端反碗である。外面に草花文、内面口縁部に連弧帶状文、見込みに草花文か山水文を施す。22・23は瀬戸・美濃系の染付端反碗で、いずれも呉須の発色が鮮やかで、釉薬に微小な気泡が多数含まれている。22は外面に草花文、23は外面に山水文を施す。24・25は肥前系の青磁染付角腰筒碗である。いずれも内面に四方擗文、見込みにコンニャク印判五弁花を施す。26は肥前系の染付角腰筒碗である。外面に半裁菊花輪と斜格子文、見込みに崩れた手書き五弁花を施す。27は瀬戸・美濃系の染付丸腰筒碗である。22・23と同様に呉須の発色が鮮やかで、釉薬に微小な気泡が多数含まれている。外面の模様は不明である。7は(1)SD-001、8は(5)B1トレーナー、9・11・12・14・15・18～20・22～26は(25)SD-001、10・17は(25)SK-006、13・21・27は(15)SB-001～004、16は(19)1W区から出土した。

28は肥前系磁器の染付碗蓋である。外面に山水文と詩句文、摘み内側に詩句文、内面に手書き四弁花を施す。詩句文は、外面は「山頂(月に貢)夜孤輪(月に兎)」、摘み内側は「載月」である。「山頂載夜孤輪月」と読むのであろうか。(25)SD-001から出土した。

29は肥前系磁器の染付端反杯である。外面に草花文を施す。(15)SB-001～004から出土した。

30～33は肥前系磁器の染付蕪麦猪口である。30・33は外面に草花文、32は外面に山水文を施す。31は蛇の目凹型高台で、外面に矢羽連続文、見込みに変形字銘を施す。30・32・33は(25)SD-001、31は(15)SK-003から出土した。

34～46は皿である。34～43は瀬戸・美濃系の陶器皿である。34は灰釉輪禿皿の底部破片である。見込みには印花文が認められる。高台は削り出し高台である。35は灰釉折縁皿である。高台は貼付高台である。高台内部は露胎である。見込みに砂目が見られる。(19)SK-001から出土した。36は鉄絵折縁皿である。見込み部分には褐色の放射状鉄絵を施す。胎土は灰白色である。高台は削り出し高台である。内外面とも全体的にスス状の付着物が見られる。37は志野丸皿である。長石釉が施され、その上に銅緑色釉が掛けられる。38は志野鉄絵丸皿である。長石釉が施され、草花の鉄絵が描かれる。39は灰釉丸皿である。見込みに重ね焼き痕が見られる。40・41は鉄釉灰釉掛分端反皿である。内外面全てに鉄釉と灰釉を左右に掛け分けている。42は銅緑釉丸皿である。外面は灰釉、内面は銅緑釉で内外面を掛け分けている。見込み蛇の目釉剥ぎである。43は長石釉大皿で、見込み蛇の目釉剥ぎである。34・39は接合資料で、34は(19)SD-001と(19)1W区の出土遺物、39は(1)SK-020と(1)SD-005の出土遺物と接合している。35は(19)SK-001、36は(14)SD-013、37は(14)SK-010、38・42・43は(25)SD-001、40は(15)SB-001～004、41は(15)23GG-06から出土

した。

44~46は磁器皿である。44は肥前系の青磁染付深皿で、蛇の目凹型高台である。内面に山水文、高台内側に変形字鉢と思われるものを施す。45・46は肥前系波佐見産の染付丸皿である。いずれも見込み蛇の目釉剥ぎ、内面花唐草文、見込みにコンニャク印判五弁花を施す。いずれも(25)SD-001から出土し、45は(25)SK-006の出土遺物と接合している。

47~54は鉢である。47~52は陶器鉢である。47は瀬戸・美濃系の灰釉折縁鉢である。内側に銅緑色釉が施される。見込みに樹書きの三重の同心円文が描かれ、その内側に菊の印刻花文が施される。48・49は肥前系の絵唐津折縁鉢である。口縁部の遺存部分が少ないが、型打ちの四方鉢である。いずれも灰釉が施され、内面に草文を描き、見込みに目痕が4つ見られる。50・51は肥前系唐津産の灰釉象嵌鉢で、三島手である。50は内面に唐草文と蝶旋文、51は印刻花文と蝶旋文が描かれる。52は瀬戸・美濃系の黄釉鉢である。見込みに目痕が3つ見られる。47は(1)SK-022、48は(14)SK-010、50は(25)SK-006、51・52は(25)SD-001から出土した。45は(25)SK-006と(25)SD-001の出土遺物と接合している。

53・54は肥前系磁器である。53は染付型打ち八角鉢である。蛇の目凹型高台で、外面と見込みに七宝文、内面に八方区画内格子文と草花文を施す。54は染付鉢で、口縁部内外面に輪宝文を施す。53は(34)一括で取り上げた遺物で、54は(25)SD-001から出土した。

55・56は瀬戸・美濃系陶器の灰釉筒形香炉である。55は体部外面に錫の半菊文を施す。56は体部外面に錫の半菊文の一部が見られる。57は瀬戸・美濃系陶器の錫釉筒形香炉である。体部外面にヘラ形沈線を施す。55は(1)SD-001、56は(25)SD-001から出土した。57は(1)SK-022・(1)SD-001・(19)I W区・(19)II区の出土遺物と接合している。

58は瀬戸・美濃系陶器の灰釉灰落しである。体部外面に鉄絵が描かれているが、詳細は不明である。口唇部端に打痕が多数見られる。(15)SD-001から出土した。

59は瀬戸・美濃系陶器の柿釉煙硝燭である。(17)SD-001から出土した。

60~63は瀬戸・美濃系陶器の徳利である。60・61は舟徳利で、60は錫釉、61は灰釉を施す。62・63はべこかん徳利で、62は柿釉、63は飴釉を施す。62は体部上半に釘書きの「ト七」の文字がある。61~63は(25)SD-001から出土した。60は(14)SK-010、(14)SK-003・SD-003・SD-005、(15)23GG-12の出土遺物と接合している。

64は肥前系磁器の染付瓶である。口縁部～頸部に蛸唐草文、体部に色絵の松竹梅に鳥文(松竹梅と鳥文は表裏の位置関係で描かれている)、体部下端に雷文を施す。(25)SD-001から出土した。

65は肥前系磁器の染付徳利である。外面に山水文と思われる文様を施す。(25)SK-002から出土した。

66~74は瀬戸・美濃系陶器である。66は飴釉土瓶蓋である。67は鉄釉油差しである。把手部分と底部で接合しないが、同一個体と思われる。いずれも(25)SD-001から出土した。68~70は插鉢で、68・69はいずれも口縁部破片で、錫釉が施される。68は插目が遺存していないが、69は内面下端に插目がわずかに見られる。70は鉄釉が施される。68は(14)D区一括で取り上げた遺物で、69は(25)SD-003、70は(25)SD-001から出土した。71・72は鉄釉灯明皿である。71は(15)SB-001~004・(15)SD-001・(15)22FF-69の出土遺物と接合している。72は見込みに重ね焼き痕が見られる。(25)SK-002から出土した。73・74は鉄釉灯明受皿である。73は(15)22GG-53、74は(15)SD-001から出土した。

75~88は在地産の土器である。75~82はカワラケ小皿、83~85はカワラケ皿である。75は胎土に雲母粒

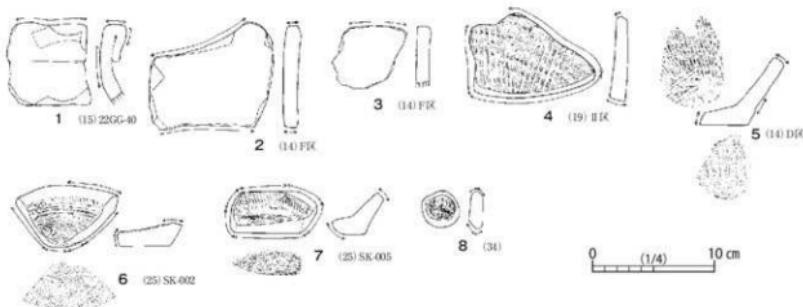
を少量含み、口唇部は1か所にススが薄く付着している。77～80は胎土が緻密で、混入物がほとんど見られない。84・85は内外面にススが付着し、85は特に著しく、灯明皿として使用していたと思われる。86は灯明受皿である。内外面にススが付着している。87は有脚灯明受皿で、脚部内面を除いて透明釉を施す。裾部内面に墨書が見られるが、意味は不明である。88は内耳土器である。胎土に金雲母粒を含み、外面はススが付着している。底部内側の中央部に半菊花印が押されている。体部に3か所と底部に2か所補修孔が見られる。75は(15)22GG-55、76は(15)SB-001～004、81・85～88は(25)SD-001、82～84は(14)SK-013から出土し、77～80は(34)A区一括で取り上げた遺物である。

土製品(第250図、図版149、第48表)

1～8は転用砥石である。1～3は中世～近世初頭の常滑窯製品の陶器破片の転用である。1は壺の口縁部破片を転用したものである。内外面に自然釉が見られるが、使用部分は釉が剥離している。(15)22GG-40から出土した。2・3は壺か片口鉢と見られる破片を転用したもので、いずれも(14)F区から出土した。2は破断面の上下が主に使用されており、3は図の正面と破断面の一部が使用されている。4～8は中世～近世初頭の瀬戸・美濃窯製品の擂鉢の破片を転用したものである。4は破断面のほとんどが使用されている。(19)II区から出土した。5は底部の破片で、破断面のほぼ全部及び外面の一部が使用されている。(14)D区から出土した。6は底部の破片で破断面のほぼ全部が使用されている。(25)SK-002から出土した。7も底部の破片で、破断面の全部が使用されている。(25)SK-005から出土した。8は破断面の全部が使用され、破片の形状は円形状である。第34次調査地点一括で取り上げた遺物である。

石製品(第251～255図、図版158～160、第49表)

1～11は板碑である。全体が分かれるものが1点(1)、頭部から身部の破片が4点(2～5)、身部の縁が残っている破片が4点(6～9)、身部の破片が2点(10・11)である。種子が見られるのは1・2・10で、頭部が残る5点は、頭部の下に二条線が彫られていない。1はほぼ完形品で、身部と基礎部の右側の一部が欠損している。種子と蓮座が彫られている。種子はキリーク(阿弥陀如来)の異体で、蓮座には蓮の実が

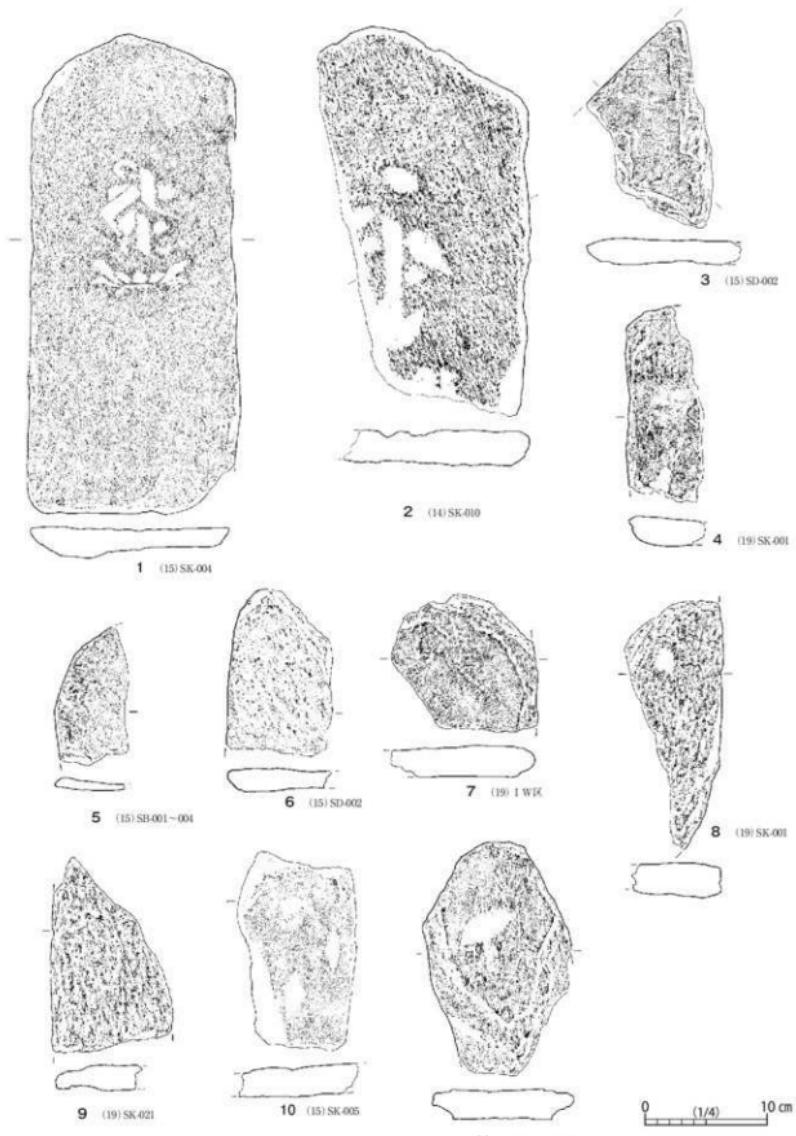


第250図 土製品

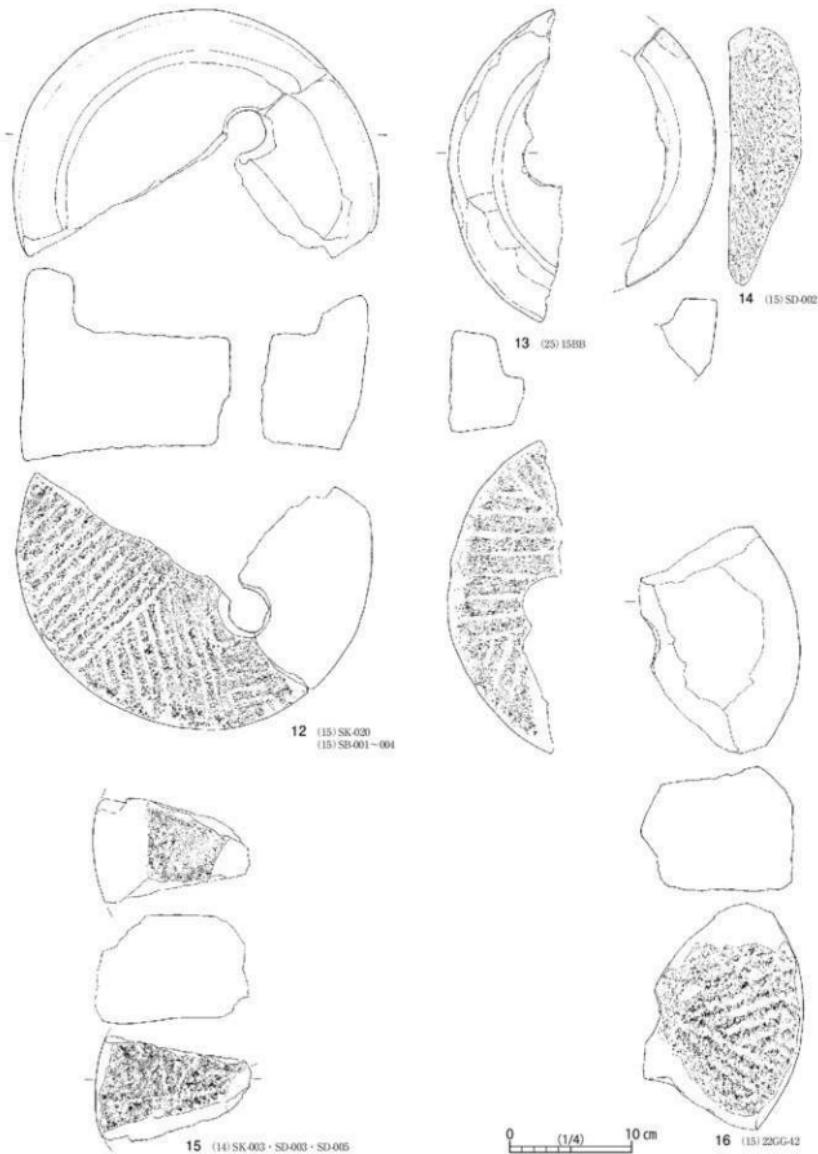
ない。種子・蓮座ともに彫り込みは1mm未満と浅く、平らに彫られている。紀年銘などは見られない。縁端部は基礎部底面を除いて、粗く削って平滑にしている。(15)SK-004から出土した。2は頭部から身部上部の右側部分の破片である。上部中央に種子が彫られ、その下には蓮座ではなく、右下に種子の一部が見られる。いずれの種子も文字は不明であるが、三尊種子の可能性が考えられる。種子の彫り込みは「V」字形で、深さは3mm~4mmあるが、鋭さが見られない。一番上の「点」の彫り込みは更に鋭さがなく、形状もはつきりとしない。縁端部には調整痕跡は見られない。(14)SK-010から出土した。3は節理の方向から頭部の破片と判断した。縁端部は削って平滑にしている。(15)SD-002から出土した。4は頭部から身部の破片で、縁端部は角をつぶす程度の調整が見られる。(19)SK-001から出土した。5は頭部の破片で、縁端部は削って平滑にしている。裏面は節理に沿って破断した面である。6・7は身部の破片で、縁端部は角をつぶす程度の調整が見られる。6は(15)SD-002、7は(19)I W区から出土した。8は遺存している下半分の縁部が緩やかにすぼまることから、身部から基礎部にかけての破片と判断した。縁端部には調整痕跡は見られない。(19)SK-001から出土した。9は身部の破片で、縁部が遺存しているが、端部には調整痕跡は見られない。(19)SK-021から出土した。10は表面に種子の一部と思われる「点」が3つ見られるが、どのような文字になるか不明である。彫り込みは「V」字形で、深さは2mm~3mmである。(15)SK-005から出土した。11は表裏面に工具痕が見られる。5と11は(15)SB-001~004から出土した。

12~20は石臼で、全て打ち割られたような状態である。12~19は上臼、20は下臼で、全て挽き臼である。12は(15)SK-020と(15)SB-001~004の出土遺物が接合している。もの入れ・ものくばり・軸受けの一部が見られる。13はもの入れの一部が見られる。12に比べて溝の間隔が広い。(25)15BBから出土した。14は上縁部の破片である。(15)SD-002から出土した。15は上縁部が打ち割られているが、軸受けの一部が見られる。溝は著しく摩滅し、不鮮明である。(14)SK-003・SD-003・SD-005から出土した。16・17はいずれもくぼみ部分の成形が粗く、工具痕が残る。上縁部は直立するものではなく、くぼみ部分から曲線的に立ち上がる。溝の幅もやや広く、ほかの石臼とは性格・用途が異なるのではないかと思われる。もの入れの一部が見られるが、17は推定径からすると中心に近い位置にある。16は(15)22GG-42、17は(14)D区一括で取り上げた遺物である。18・19も溝が著しく摩滅し、不鮮明である。18は(15)SB-001~004から出土し、19は(29)14CC-32一括で取り上げた遺物である。20は(14)SK-010と(15)SD-002の出土遺物が接合している。溝は著しく摩滅し、特に内側はほとんど残っていない。軸受けは見られない。

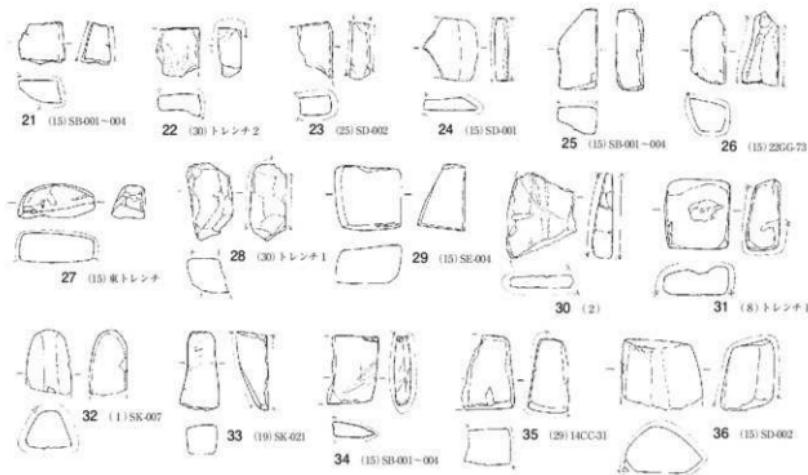
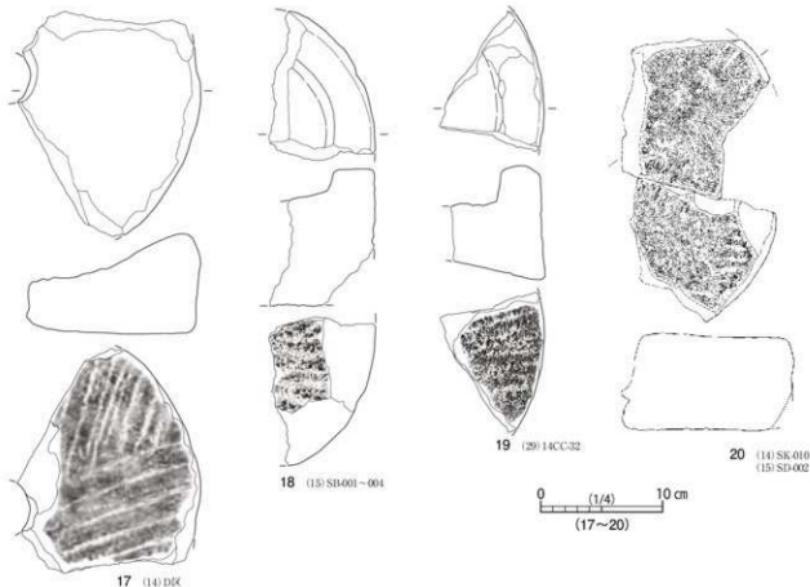
21~64は砾石である。遺構から出土したものを掲載した。24・28・50は砂岩で、それ以外は全て流紋岩である。28は使用面があまり摩滅していないが、そのほかは全てよく使い込まれている。31・37・44・55・59・64は完形品で、51・52はほぼ完形品である。31・52・64は全ての面が使用されている。31はほぼ中央部が粗く彫り窪められ、その内側も含めてススが付着している。36は携帯用の紐を通すための小孔が見られる。26・38・57・60・62・63は破断面を整形し使用している。52・57には断面箱型のやや深い条線が見られ、鋸の刃の痕と思われる。29・30・32・64には断面「V」字形の条線が見られる。43にはやや幅広の条線が見られる。39は被熱し、表面の一部が黒ずみ縦方向の細かいヒビが入っている。21・25・34・37・38・41・42・46・52・54・56・58は(15)SB-001~004、32は(1)SK-007、55は(1)SK-012、43・64は(14)SK-003・SD-003・SD-005、48は(14)SD-013、24・49・61は(15)SD-001、29は(15)SE-004、36・53は(15)SD-002、44は(15)SK-005、50は(15)SK-021、33は(19)SK-021、39・59は(19)SK-007、23は(25)SD-002、51は(25)SD-001、63は(25)SK-002から出土した。



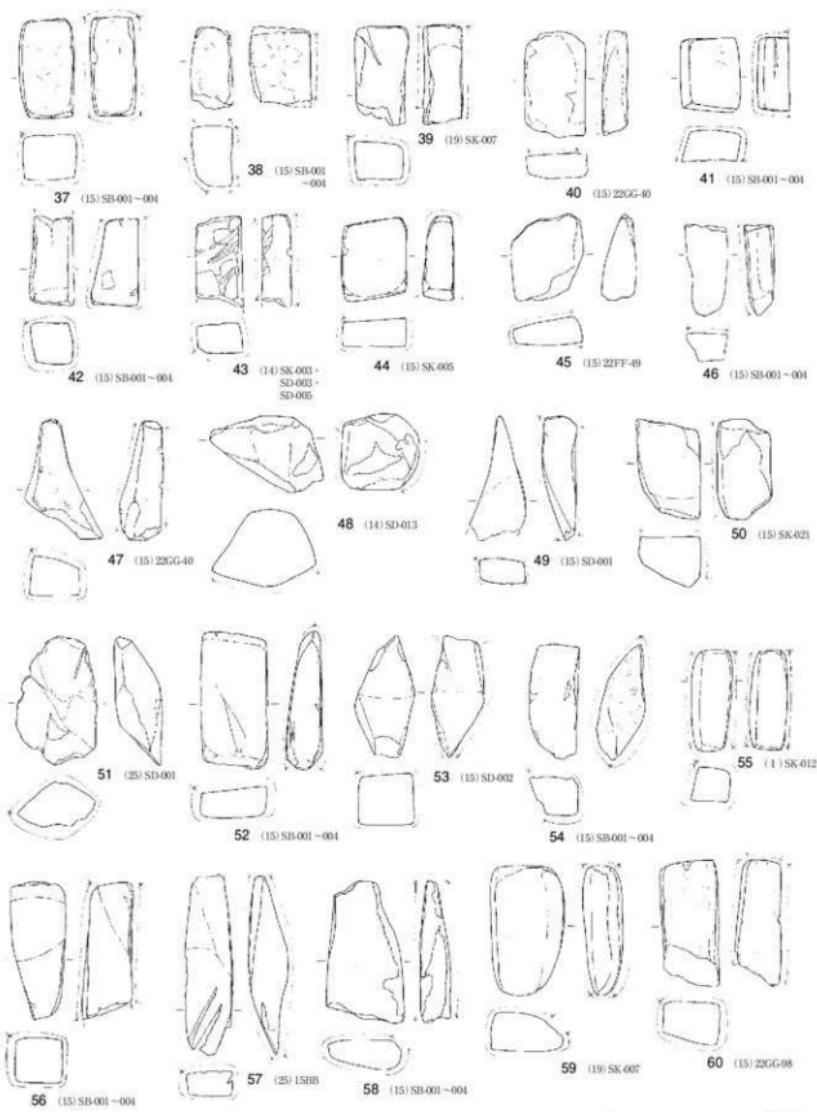
第251図 石製品(1)



第252図 石製品(2)



第253図 石製品(3)



0 (1/3) 10 cm

第254図 石製品(4)

鉄製品・製鉄関連遺物(第256・257図、図版161、第50表)

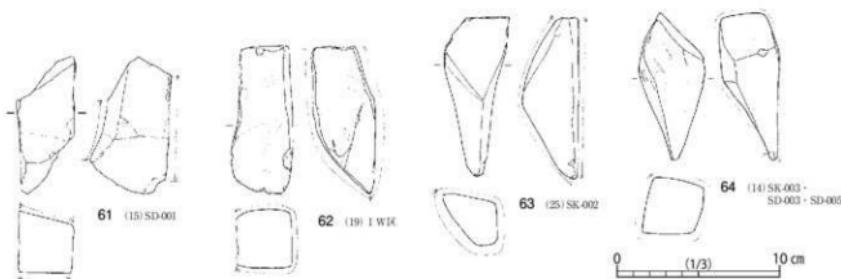
1は鉄製の羽釜で、(1)23FF-62一括で取り上げた遺物である。2は鉄製の鎌で、(15)SB-001～004から出土した。3～5は鉄製の刀子である。3は(15)22GG-65一括で取り上げた遺物で、4は(15)SD-001、5は(15)SB-001～004から出土した。6・7はリング状の鉄製品で、6は(1)23FF-19一括で取り上げた遺物で、7は(15)SK-003から出土した。8～11は鉄釘である。8は(15)SD-001、9は(14)SD-013、10は(14)SD-009、11は(1)SD-001から出土した。12～19は鉄製であるが、用途などは不明である。形状は、12は管状、13は棒状、14は半球形で中央に溝が見られ、15～19は板状であるが、15は先端部が半円形で、基部だけ袋状に折り返されている。16も同じ形態になると思われる。14・18は(14)SD-013、15は(15)SD-001、16は(34)SD-001、19は(14)SD-001から出土し、12は(6)21FF、13は(1)23FF-05、17は(15)22GG-54一括で取り上げた遺物である。

20～34は製鉄関連遺物である。20は羽口の先端部である。21～23は椀型滓である。21・22には木炭痕が見られ、下部に炉底材が融着している。26・33・34は流動滓、それ以外は炉内滓である。24・28～31には木炭痕が見られる。20～22・24・25・32は(14)SD-009、26は(14)SD-001、27～29は(14)SD-013、30は(15)SK-022、31・33・34は(15)SD-002から出土し、23は(14)C区一括で取り上げた遺物である。

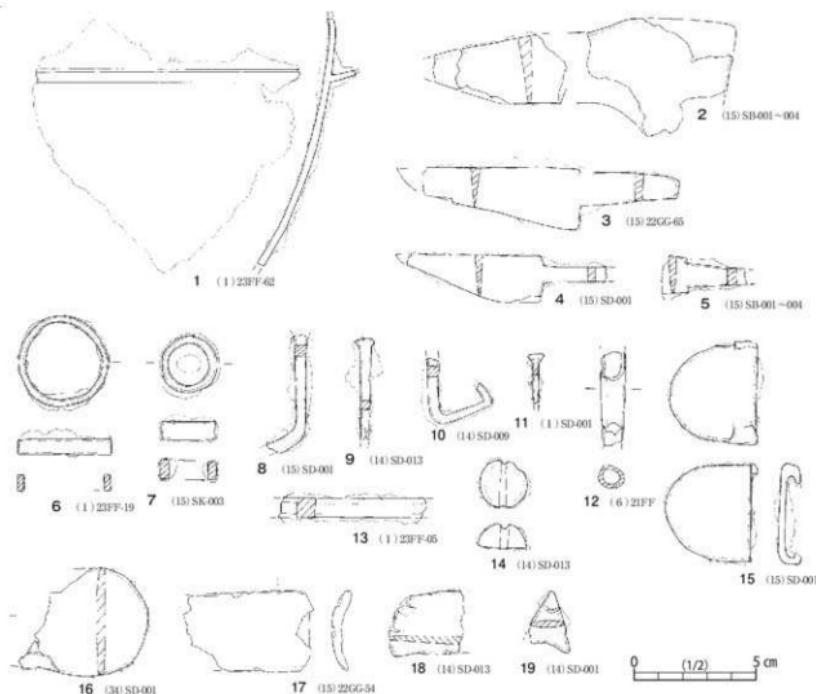
銭貨(第258・259図、図版162・163、第51表)

1～5は中世の銭貨である。1は淳化元寶、2は明道元寶、3は嘉祐元寶、4・5は元祐通寶である。1は(15)SB-001～004、2は(15)SD-002、4は(1)SK-009Aから出土し、3は(15)22FF、5は(23)14Z-70一括で取り上げた遺物である。

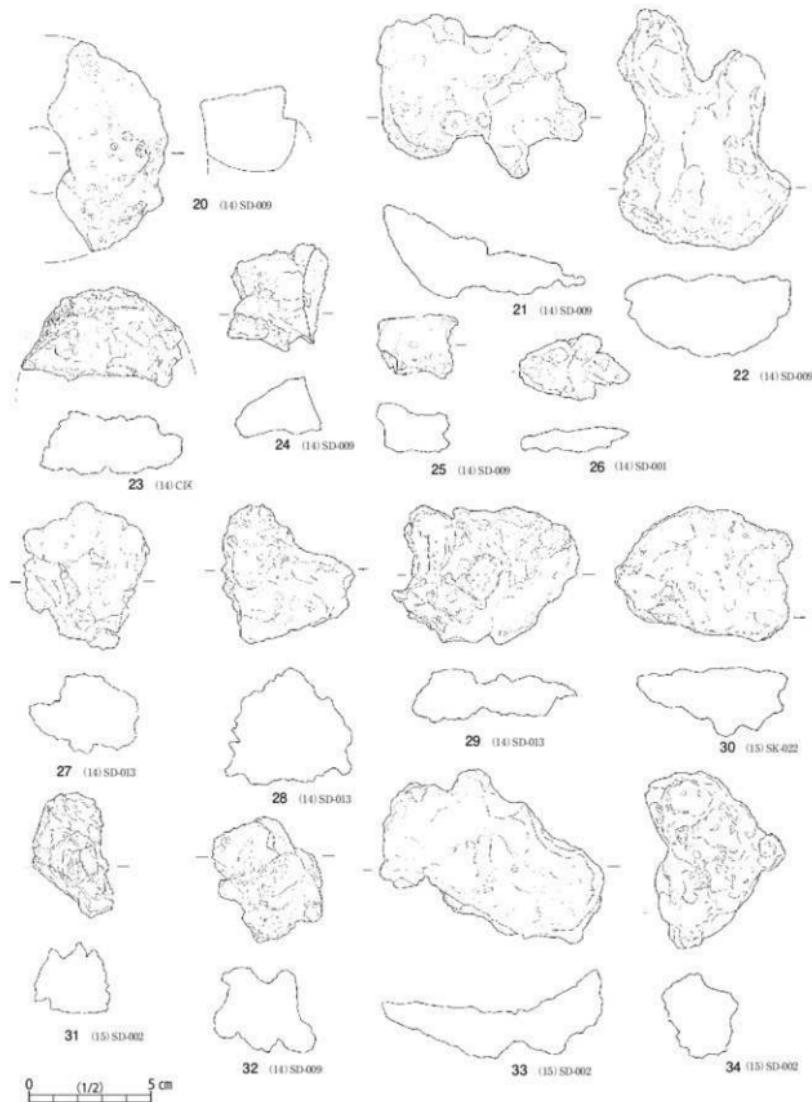
6～35・38～40は近世の銭貨である。36・37・41～44は銭種名が分からないが、近世の銭貨と考えられる。6～35・38は寛永通寶、39は天保通寶、40は文久永寶である。16は「通」の部分に径1mm未満の孔が二つ開けられている。17は3枚鋗着したまで、一番下(右側の拓影図)は破片で文字かどうか判然としない。22は「寶」の上の径1mmほどの穴が一つ開けられている。28・34・37は鋗着した状態で出土した。35・36と41・42は融着したままである。6は(1)SK-001、7・33は(1)SK-020、8・9・17・18・20・41～44は(15)SB-001～004、10は(1)SD-001、29・30は(25)SD-001、32は(34)SD-001、38は(8)SD-001から出土し、11は(1)23FF-55、12～15は(2)トレンチ1、16は(3)トレンチ3、19は(15)22GG-40、21～28・34・37は(24)26GG-36、31は(31)トレンチ5、39は(24)26GG-31、40は(23)14Z一括で取り上げた遺物である。



第255図 石製品(5)



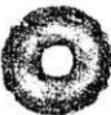
第256図 鉄製品・製鉄関連遺物(1)



第257図 鉄製品・製鉄関連遺物(2)



1 (15) SB-001~004



2 (15) SD-002



3 (15) 22FF



4 (1) SK-009A



5 (23) 142-70



6 (1) SK-001



7 (1) SK-020



8 (15) SB-001~001



9 (15) SB-001~004



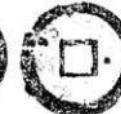
10 (1) SD-001



11 (1) 23FF55



12 (2) トレンチ1



13 (2) トレンチ1



14 (2) トレンチ1



15 (2) トレンチ1



16 (3) トレンチ3



17 (15) SB-001~004



18 (15) SB-001~004



19 (15) 22GG-40



20 (15) SB-001~004

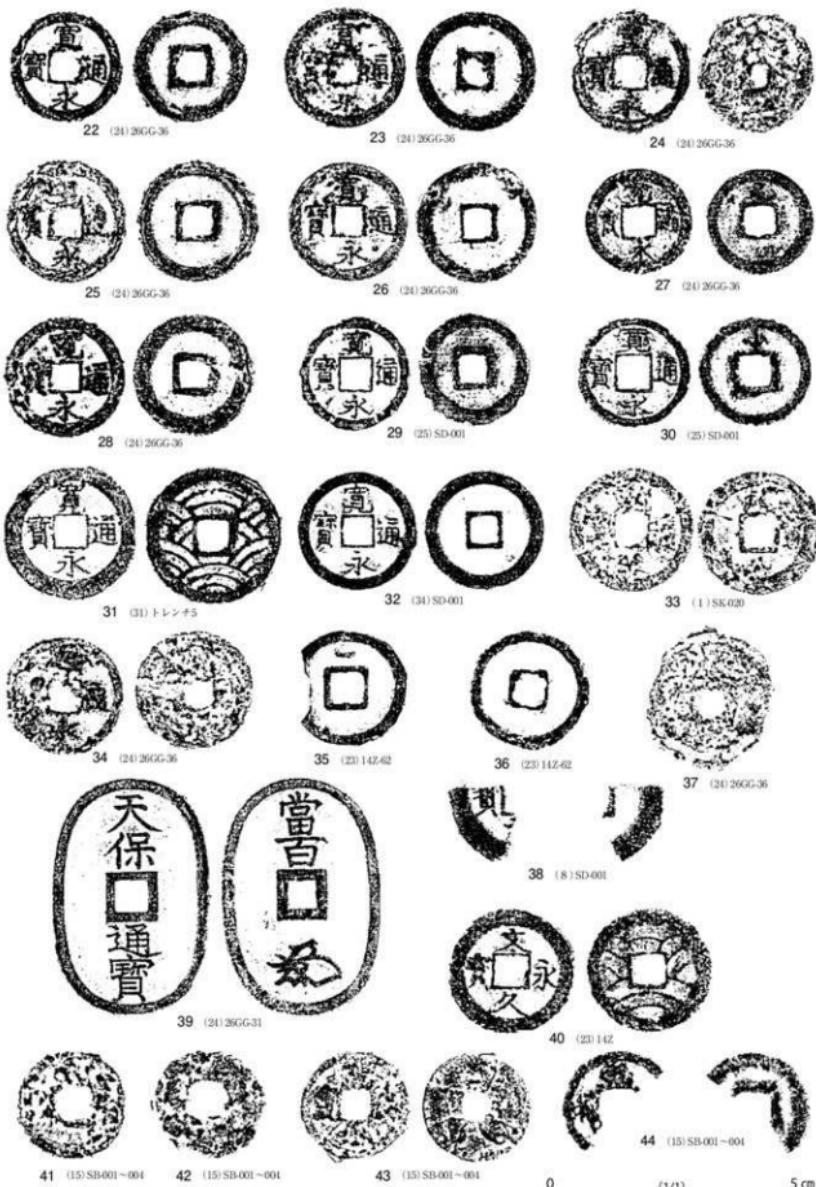


21 (24) 26GG-36



0 (1/1) 5 cm

第258図 銭貨(1)



第259図 銭貨(2)

表46 中世陶磁器・土器觀察表

THE JOURNAL OF CLIMATE

種別番号	通 帳 号	種 分	系 地	材 質	器 様	法 量: cm	運 作 度	内 容	備 考	
32-8865-37	19 SS-017	1 有底盆	カラクタヘ:	7.2	3.0	1.9	49%	内野原細色(5YR7-6)	16.4~17.0	
32-8865-38	14 SS-010	1 有底盆	カラクタ小瓶	5.8	2.1	1.6	95%	内野原細色(7YR7-6)	16.4~17.0	
32-8865-39	(19) SS-010	1 有底盆	カラクタ小瓶	(5.8)	(2.6)	1.6	49%	内野原細色(5YR7-6)	16.4~17.0	
32-8865-40	14 SS-013	1 有底盆	カラクタ小瓶	6.4	5.0	1.3	50%	内野原細色(5YR6-4)	16.4~17.0	
32-8865-41	15 SS-001 ~ -004	1 有底盆	カラクタ小瓶	5.8	4.5	1.4	95%	内野原細色(5YR6-3)	16.4~17.0	
32-8865-42	19 SS-001	1 有底盆	カラクタ小瓶	6.5	6.0	1.0	95%	内野原細色(7YR7-6)	16.4~17.0	
32-8865-43	19 SS-001	1 有底盆	カラクタ小瓶	(5.8)	(4.8)	1.0	49%	内野原細色(7YR5-2)	16.4~17.0	
32-8865-44	14 SS-013	1 有底盆	瓶体	(24.0)	(11.0)	7.5	30%		16.0~	
32-8865-45	14 SS-010	1 有底盆	瓶体	(22.0)	(10.2)	1.6	49%		16.0~	
32-8865-46	14 SS-008	1-3-5 有底盆	瓶体	(26.8)	(11.0)	11.2	90%		16.0~	
32-8865-47	19 SS-021	1 有底盆	瓶体	(27.6)	—	(10.8)	149%25%		16.0~	
32-8865-48	14 SS-013	1 有底盆	瓶体	(15.0)	—	(8.0)	149%60%	瓶	16.0~	
32-8865-49	14 SS-013	1 有底盆	瓶体	—	—	(3.0)	149%60%	瓶	16.0~	
32-8865-50	18 SS-001	1 有底盆	瓶体	(29.6)	—	(9.8)	149%29%	瓶	16.0~15.0	
32-8865-51	15 SS-004	1 有底盆	瓶体	(27.7)	—	(10.9)	149%30%	白色の糸や多 外箱スリット付	15.0~	
32-8865-52	14 SS-013	1-4 有底盆	瓶体	(31.4)	33.4	27.6	(9.6)	149%30%	入式手番	16.4~17.0
32-8865-53	15 SS-004	1 有底盆	瓶体	(31.6)	33.2	9.2	149%60%	白地柄付・金富仕 外箱スリット付	16.4~17.0	

第47表 近世陶磁器・土器調査表

種別番号	通 帳 号	種 分	系 地	材 質	器 様	法 量: cm	運 作 度	内 容	備 考
406150-1	15 SS-001 ~ -004	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	(9.0)	—	(4.3)	149%10~15%	外輪	17.0~ 22.0/17.0
406150-2	15 SS-003	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	—	(4.2)	(2.3)	149%10~15%	外輪	17.0~
406150-3	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	9.0	4.9	5.4	45%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~17.0
406150-4	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	(8.8)	(2.7)	5.4	45%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~17.0
406150-5	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	(10.0)	—	(4.2)	149%10~15%	外輪	16.0~17.0
406150-6	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	(10.7)	6.6	6.1	45%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~17.0
406150-7	11 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	(10.1)	(4.2)	5.5	25%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~17.0
406150-8	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	(10.2)	4.3	5.4	45%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~17.0
406150-9	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	9.6	3.8	5.3	60%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~17.0
406150-10	15 SS-006	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	(9.5)	—	5.5	30%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~
406150-11	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	(8.5)	3.5	4.5	30%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	—
406150-12	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	8.7	3.4	4.5	30%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	—
406150-13	15 SS-001 ~ -004	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	(9.0)	—	(4.9)	149%10~15%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	17.0~ 22.0/17.0
406150-14	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	(8.2)	—	—	149%10~15%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~
406150-15	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	—	—	—	149%10~15%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~
406150-16	15 SS-004	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	—	(4.2)	(2.5)	149%10~15%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~ 17.0/16.0
406150-17	15 SS-006	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	—	3.6	(3.6)	149%10~15%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~
406150-18	15 SS-001	1 瓶口・瓦底・開口	日々茶碗	—	(4.0)	(2.6)	149%10~15%	外輪と内輪と手輪と分けた 各部の形状	16.0~

地圖編號	地圖 編 號	地 名	面 積	村 員	班 級	1/10 比例	1/25 比例	1/50 比例	測 量 面 積	內 容	符 號
1401155-62 25/SU001	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	-	27	86	21.1	75%	-<二>合小地圖	測量上半小圖	1/10	154.~198.
1401155-63 25/SU001	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	-	(76)	(15.6)	地圖 -	地圖(%)	-<一>合小地圖	1/10	154.~198.	
1401155-64 25/SU001	1	肥田村	稻田 -	1.7	7.4	26.0	95%	[198版 - 198版的全文 地形圖 - 198版 - 198版]	地形圖 - 198版	158.	158.
1401155-65 25/SU002	1	肥田村	稻田 -	-	(3.2)	(3.6)	地圖 - 1/10	地圖(50%)	外山山水之水	1/10	-
1401155-66 25/SU001	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	廟口土庫	5.9	-	1.2	90%	-	1/10	154.~198.	
1401155-67 25/SU001	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	廟口土庫	(6.4)	5.4	(6.0)	地圖 -	地圖(100%)	1/10	160.~19	
1401155-68 141.B16	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	稻田	-	-	(2.4)	1/10	地圖(100%)	1/10	177.	
1401155-69 25/SU003	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	稻田	-	-	(4.1)	1/10	地圖(100%)	1/10	177.	
1401155-70 25/SU001	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	稻田	-	(12.0)	(11.0)	地圖 -	地圖(50%)	164P - 1塊	164P - 1塊	
1401155-71 115/SU001 - 001 ~ SD	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	稻田	10.4	4.7	20	75%	-	1/10	154.~	
1401155-72 115/SU002	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	稻田	(10.0)	4.4	1.9	65%	見山山水地圖	1/10	150.	
1401155-73 15/25G-55	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	稻田	9.6	4.4	1.9	100%	-	1/10	158.~	
1401155-74 15/SU001	1	廟口 - 美濃 - 阿瑪 - 菲律賓	稻田	(9.6)	4.6	2.1	35%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	158.	
1401155-75 15/25G-55	1	在地村	稻田	5.6	3.5	1.5	90%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	177.	
1401155-76 15/SU001 ~ 004	1	在地村	稻田	5.6	3.4	1.5	90%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	177.	
1401155-77 134.A1K	1	在地村	稻田	5.6	4.1	0.9	100%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	177.	
1401155-78 134.A1K	1	在地村	稻田	5.4	3.8	0.9	95%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	177.	
1401155-79 134.A1K	1	在地村	稻田	4.4	3.4	0.7	95%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	177.	
1401155-80 134.A1K	1	在地村	稻田	3.6	2.6	0.6	80%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	177.	
1401155-81 125/SU001	1	在地村	稻田	3.5	3.2	1.1	95%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	180.	
1401155-82 141.SB-013	1	在地村	稻田	4.7	3.1	0.9	90%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	158.~198.	
1401155-83 141.SB-013	1	在地村	稻田	7.0	3.5	1.2	90%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	158.~198.	
1401155-84 141.SB-013	1	在地村	稻田	6.0	3.9	1.4	60%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	158.~198.	
1401155-85 25/SU001	1	在地村	稻田	9.4	4.6	1.8	30%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	18代 有明顯山丘地圖	
1401155-86 25/SU001	1	在地村	稻田	6.2	3.4	3.1	80%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	18代	
1401155-87 25/SU001	1	在地村	稻田	7.3	6.9	7.4	80%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	18代	
1401155-88 25/SU001	1	在地村	稻田	36.4	31.2	5.1	98%	[外海兩山以北 - 檳榔山以南] 1/10	1/10	18 ~ 19 地圖元年版(2) - 地圖(2)	

第48表 土製品銀錠表

标本号	产地	性别	年龄	形态	测量	图名	种名	科名	属名	种加词	基原	备注	采				
豫250001	(35.225±5.4)	1	龟甲	67	69	22	11.4	龟形海螺	豫250005	11.0/16	1	龟形海螺	60	77	5.5	116.6	豫250001-1-壳顶缺损
豫250002	1	龟甲	90	100	1.4	10.5	余部稍窄小孔口环带	豫250006	125.5/100	1	龟形海螺	61	80.5	8.6	119	豫250002-1-壳顶缺损	
豫250003	(14.1)7.5K	1	龟甲	53	60	1.1	40.3	余部稍窄小孔口环带	豫250007	75/58.005	1	龟形海螺	61	71	4.1	67.0	豫250003-1-壳顶缺损
豫250004	(19.9)15.	1	龟甲	69	103.5	1.4	94.7	壳口稍膨	豫250008	131	1	龟形海螺	61	30	3.1	11.8	豫250004-1-壳顶缺损

第49表 石製品觀察表

表 550 鐵製品・製鐵関連物觀察表

3551表 錢貨計測表

表52 遺構別主要遺物觀察表

中野彌年等：中古關口山小指式〇期、後占藏口絶期後式〇期、人=人頭〇投矛、○型式=管滑金屬品(中野彌年)

考 観 察 地 名	種 類	科 名	材質 名	形 状	幅 寸	内 容	付 記
(1) SK-0001	真	6	真	淡水層 陶器	1068~ 8型式(14cm)	直立水 内側使用により平滑	内側 外側面上に赤い褐色
(1) SK-0005	中	26	金魚室	陶器	1070~ 8型式(14cm)	直立水 内側使用に赤い褐色	
(1) SK-0007	632		灰岩	灰岩	1086~	直立水 内側使用に赤い褐色	
(1) SK-0008A	真	4		灰岩	1084~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	(1) SD-0056上・直立水 (1) 23BF-60、(2) T2B上・直立水と板合
(1) SK-012	435	近世7 編7	織田・美濃系 陶器	陶器	1084~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	(1) SD-0056上・直立水 (1) 23BF-60、(2) T2B上・直立水と板合
(1) SK-020	真7 編7	織田・美濃系 陶器	陶器	1084~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SD-0056上・直立水 (1) 23BF-60、(2) T2B上・直立水と板合
(1) SK-022	近世7 編7	織田・美濃系 陶器	陶器	1084~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SD-0056上・直立水 (1) 23BF-60、(2) T2B上・直立水と板合
(1) SK-0001	近世7 編7	織田・美濃系 陶器	陶器	1084~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(1) SD-0065	近世9 編9	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(1) SK-017	中世11 編11	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(1) SK-022	中世11 編11	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(1) SK-023	真6 編6	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(1) SK-024	真13 編13	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(2) レンチ等	-	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(3) レンチ等	真16	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(4) レンチ等	真12	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(5) レンチ等	真13	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(6) SD-00042	真15	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(7) SD-0001	中世50 編50	在施設 在施設	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(8) SD-0001	真38	在施設 在施設	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(8) レンチ等	真31	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(11) SK-010	中世9 編9	織田・美濃系 陶器	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(12) SK-0001	中世33 編33	在施設 在施設	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合
(13) SK-0001	中世28 編28	在施設 在施設	陶器	1068~ 1171~ 1068~	直立水 内側使用に赤い褐色	横書き三重紋様文と特・同様の赤い褐色	(1) SK-022、(9) 1 WK、(1) T2B上・直立水と板合

遺 墓	群 号	群 国	地 畳	材 质	名 称	编 年 等	内 容	備 考
(14)SK-010	中庭15 近庭37 近庭48 近庭60 -	在地畠 圃口・水漬系 圃口・水漬系 圃口・水漬系 -	陶器 陶器 陶器 陶器 -	志野・丸 輪付鉢 輪付鉢 輪付鉢 -	16代 17世 17世 17世- 16代- 中世	灰石地、側柱色刷 灰地、内面朱文、見込み日系4つ 焼打ち四脚 灰母子を含む		(14)SK-003-SD-000-0005、(15)23GG-12H:土器物と板合
(14)SK-012	近庭52 近庭82 近庭83 近庭84 -	在地畠 圃口・水漬系 在地畠 -	陶器 陶器 陶器 -	安山岩 41日 -	16代 18代- 18代 19代- 19代- 19代- 19代- 中世	カワラケ小皿 カワラケ皿 カワラケ皿 内耳上器 内耳上器		(15)SD-0028H:土器物と板合
(14)SK-013	-	-	-	-	19代- 18~			SK-0108H:土器物に断続
(14)SD-001	真19 真26	在地畠 -	陶器 灰青		流动作			
(14)SD-002	-	在地畠		カワラケ	18代- 19代 燒直5柄)			
(14)SK-003 SD-003 + 005	中庭7 近庭19 近庭60 -	圃口・水漬系 圃口・水漬系 在地畠 -	陶器 陶器 陶器 -	輪付鉢 輪付鉢 内耳上器 小形カワラケ杯	17世- 17世- 17世- 中世	灰地、内面朱文、見込み日系4つ 焼打ち四脚か 灰母子を多量に含む		(14)SK-010-古墳と同形 (14)SK-010、(15)23GG-12H:土器物と板合
(14)SD-005	-	在地畠	陶器		16代- 17代			
(14)SD-007	中庭2 中庭23 中庭25 -	中国、 圃口・水漬系 在地畠 -	陶器 陶器 陶器 -	白陶頭部蓋 瓶子 灰青 内耳上器	15代 中世 中世 16代 16代 16代	灰地 灰地 灰地 内耳上器	灰地 灰地 灰地 灰母子を含む	(14)SD-008H:土器物と板合
(14)SD-008	中庭22 中庭46	圃口・水漬系 在地畠 在地畠 在地畠	陶器 陶器 陶器 陶器	桶地 桶地 桶地 桶地	燒直 16代 16代 16代 16代 16代	灰地 灰地 灰地 灰地 内耳上器	内耳上器の火候極	
(14)SD-009	真10	陶器 真21 真22 真25 真22	内耳上器 内耳上器 内耳上器 内耳上器 内耳上器	瓦口 灰青 灰青 灰青 灰青	16代 16代 16代 16代 16代	瓦口 灰青 灰青 灰青 灰青	瓦口 灰青 灰青 灰青 灰青	
(14)SD-013	中庭35 中庭40 中庭44 中庭46 中庭49	在地畠 在地畠 在地畠 在地畠 在地畠	陶器 陶器 陶器 陶器 陶器	カワラケ杯 カワラケ小皿 内耳上器 内耳上器 内耳上器	16代 16代 16代 16代 16代	瓦質 瓦質 瓦質 瓦質 瓦質		

通 番	機種	番号	产地	材質	名 称	編 号 等	内 容	備 考
15.SB0001 ~ 004	625		波板岩	波板岩	波板岩			
	(225F/59)	634	風石	風石	風石			
	(225F/69)	637	波板岩	波板岩	波板岩			
	(225F/79)	638	風石	風石	風石			
	(235-40-31/32)	641	波板岩	波板岩	波板岩			
	(235-40-41/42)	642	波板岩	波板岩	波板岩			
	(235-47-38-71/72)	643	波板岩	波板岩	波板岩			
	652		風石	風石	風石			
	654		波板岩	波板岩	波板岩			
	656		風石	風石	風石			
	658		波板岩	波板岩	波板岩			
	真2		謙	謙	謙			
	真5		刀子	刀子	刀子			
	真1		序化(古質)	序化(古質)	序化(古質)			
	真8		淡水湖質	淡水湖質	淡水湖質			
	真9		淡水湖質	淡水湖質	淡水湖質			
	真17		淡水湖質	淡水湖質	淡水湖質			
	真18		淡水湖質	淡水湖質	淡水湖質			
	真20		淡水湖質	淡水湖質	淡水湖質			
	真41		不明	不明	不明			
	真42		不明	不明	不明			
	真43		不明	不明	不明			
	真44		不明	不明	不明			
	-	宝 信 系 統	陶器	陶器	陶器	18.8~ - 19.0 18.8~ - 19.0	戸頭買入の多い、透明な灰釉	(15.SB0001)戸頭十進物+難鏡
	-	宝 信 系 統	陶器	陶器	陶器	18.8~ - 19.0		
	-	画 日・美濃系	昭燈	昭燈	昭燈	19.0~ -		
	波世1		昭燈	昭燈	昭燈	18.8~ - 19.0	短脚久引透鏡文 見込み電影字體 板の凹凸面両面	(15.SB0001)戸頭十進物+難鏡
	波7		リソノ吹	リソノ吹	リソノ吹	15.0~ -	短脚スズ台着	
	15.SB001	在野原 右1	青母口呂呂 鉢	青母口呂呂 鉢	青母口呂呂 鉢	15.0~ - 16.0 16.0~	人形	(15.SB0001)戸頭十進物+難鏡
	15.SB002	-	在 野 原	波板岩	カワチケ杯	15.0~ - 16.0 16.0~		
	15.SB003	波世1	在 野 原	波板岩	カワチケ杯	15.0~ - 16.0 16.0~		
	15.SB004	-	在 野 原	青母口呂呂 鉢	カワチケ杯	15.0~ - 16.0 16.0~		
	15.SB005	-	在 野 原	波板岩	カワチケ杯	15.0~ - 16.0 16.0~		
	15.SB006	-	在 野 原	青母口呂呂 鉢	カワチケ杯	15.0~ - 16.0 16.0~		
	15.SB009	-	画 日・美濃系	陶器	カワチケ杯	15.0~ - 16.0 16.0~		
	15.SB013	-	在 野 原	波板岩	カワチケ杯	15.0~ - 16.0 16.0~		
	15.SB020	-	画 日・美濃系	波板岩	カワチケ杯	15.0~ - 16.0 16.0~		
	412	-	安山岩	安山岩	安山岩	17.0~ - 不開	透明明瞭 乳也質	(15.SB001) ~ (004)戸頭十進物+難鏡
	413	-	安山岩	砂岩	砂岩	17.0~ - 不開	透明明瞭 乳也質	
	420	-	安山岩	波板岩	波板岩	16.0~ - 17.0 中空	短脚スズ台着	
	中空53	在 野 原	波板岩	波板岩	波板岩	16.0~ - 17.0 中空		
	6129		風石	風石	風石	16.0~ - 17.0 中空		
	近58	画 日・美濃系	陶器	陶器	陶器	18.0~ - 18.0~	乳也質 1.0厚板に打抜多數	(15.SB001)戸頭十進物+難鏡
	瓦171	画 日・美濃系	陶器	陶器	陶器	18.0~ - 18.0~	乳也質 1.0厚板に打抜多數	(15.SB001) 戸頭十進物+難鏡

通 帳	博 国	番 号	地 産	材 質	名 称	編 号	内 容	備 考
(15)SK-001	-	631 639 661 良4 真15	瀬戸・美濃系 在地産 瀬戸・美濃系 在地産	陶器 砂岩 風化岩 風化岩 刀子 板状	陶器 内耳口・器 風化岩 風化岩 刀子 板状	174-1 15歳- 16歳	体感重く口直と底板の比較ができない	
(15)SK-002	-	613 614 615 616 617 620 623 625 631 633 634 良2	瀬戸・美濃系 在地産 瀬戸・美濃系 在地産	陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器	陶器 内耳口・器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器	167- A2 (16歳) 167- 167- 167- 167- 167- 167- 167- 167- 167- 167- 167-	(14)SK-0008十進物と複合	
(15)SK-003	-	618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 8010 8011 8012 8013 8014 8015 8016 8017 8018 8019 8020 8021 8022 8023 8024 8025 8026 8027 8028 8029 8030 8031 8032 8033 8034 8035 8036 8037 8038 8039 8040 8041 8042 8043 8044 8045 8046 8047 8048 8049 8050 8051 8052 8053 8054 8055 8056 8057 8058 8059 8060 8061 8062 8063 8064 8065 8066 8067 8068 8069 8070 8071 8072 8073 8074 8075 8076 8077 8078 8079 8080 8081 8082 8083 8084 8085 8086 8087 8088 8089 8090 8091 8092 8093 8094 8095 8096 8097 8098 8099 80100 80101 80102 80103 80104 80105 80106 80107 80108 80109 80110 80111 80112 80113 80114 80115 80116 80117 80118 80119 80120 80121 80122 80123 80124 80125 80126 80127 80128 80129 80130 80131 80132 80133 80134 80135 80136 80137 80138 80139 80140 80141 80142 80143 80144 80145 80146 80147 80148 80149 80150 80151 80152 80153 80154 80155 80156 80157 80158 80159 80160 80161 80162 80163 80164 80165 80166 80167 80168 80169 80170 80171 80172 80173 80174 80175 80176 80177 80178 80179 80180 80181 80182 80183 80184 80185 80186 80187 80188 80189 80190 80191 80192 80193 80194 80195 80196 80197 80198 80199 80200 80201 80202 80203 80204 80205 80206 80207 80208 80209 80210 80211 80212 80213 80214 80215 80216 80217 80218 80219 80220 80221 80222 80223 80224 80225 80226 80227 80228 80229 80230 80231 80232 80233 80234 80235 80236 80237 80238 80239 80240 80241 80242 80243 80244 80245 80246 80247 80248 80249 80250 80251 80252 80253 80254 80255 80256 80257 80258 80259 80260 80261 80262 80263 80264 80265 80266 80267 80268 80269 80270 80271 80272 80273 80274 80275 80276 80277 80278 80279 80280 80281 80282 80283 80284 80285 80286 80287 80288 80289 80290 80291 80292 80293 80294 80295 80296 80297 80298 80299 80200 80201 80202 80203 80204 80205 80206 80207 80208 80209 802010 802011 802012 802013 802014 802015 802016 802017 802018 802019 802020 802021 802022 802023 802024 802025 802026 802027 802028 802029 802030 802031 802032 802033 802034 802035 802036 802037 802038 802039 802040 802041 802042 802043 802044 802045 802046 802047 802048 802049 802050 802051 802052 802053 802054 802055 802056 802057 802058 802059 802060 802061 802062 802063 802064 802065 802066 802067 802068 802069 802070 802071 802072 802073 802074 802075 802076 802077 802078 802079 802080 802081 802082 802083 802084 802085 802086 802087 802088 802089 802090 802091 802092 802093 802094 802095 802096 802097 802098 802099 8020100 8020101 8020102 8020103 8020104 8020105 8020106 8020107 8020108 8020109 8020110 8020111 8020112 8020113 8020114 8020115 8020116 8020117 8020118 8020119 8020120 8020121 8020122 8020123 8020124 8020125 8020126 8020127 8020128 8020129 8020130 8020131 8020132 8020133 8020134 8020135 8020136 8020137 8020138 8020139 8020140 8020141 8020142 8020143 8020144 8020145 8020146 8020147 8020148 8020149 8020150 8020151 8020152 8020153 8020154 8020155 8020156 8020157 8020158 8020159 8020160 8020161 8020162 8020163 8020164 8020165 8020166 8020167 8020168 8020169 8020170 8020171 8020172 8020173 8020174 8020175 8020176 8020177 8020178 8020179 8020180 8020181 8020182 8020183 8020184 8020185 8020186 8020187 8020188 8020189 8020190 8020191 8020192 8020193 8020194 8020195 8020196 8020197 8020198 8020199 80201100 80201101 80201102 80201103 80201104 80201105 80201106 80201107 80201108 80201109 80201110 80201111 80201112 80201113 80201114 80201115 80201116 80201117 80201118 80201119 80201120 80201121 80201122 80201123 80201124 80201125 80201126 80201127 80201128 80201129 80201130 80201131 80201132 80201133 80201134 80201135 80201136 80201137 80201138 80201139 80201140 80201141 80201142 80201143 80201144 80201145 80201146 80201147 80201148 80201149 80201150 80201151 80201152 80201153 80201154 80201155 80201156 80201157 80201158 80201159 80201160 80201161 80201162 80201163 80201164 80201165 80201166 80201167 80201168 80201169 80201170 80201171 80201172 80201173 80201174 80201175 80201176 80201177 80201178 80201179 80201180 80201181 80201182 80201183 80201184 80201185 80201186 80201187 80201188 80201189 80201190 80201191 80201192 80201193 80201194 80201195 80201196 80201197 80201198 80201199 802011100 802011101 802011102 802011103 802011104 802011105 802011106 802011107 802011108 802011109 802011110 802011111 802011112 802011113 802011114 802011115 802011116 802011117 802011118 802011119 802011120 802011121 802011122 802011123 802011124 802011125 802011126 802011127 802011128 802011129 802011130 802011131 802011132 802011133 802011134 802011135 802011136 802011137 802011138 802011139 802011140 802011141 802011142 802011143 802011144 802011145 802011146 802011147 802011148 802011149 802011150 802011151 802011152 802011153 802011154 802011155 802011156 802011157 802011158 802011159 802011160 802011161 802011162 802011163 802011164 802011165 802011166 802011167 802011168 802011169 802011170 802011171 802011172 802011173 802011174 802011175 802011176 802011177 802011178 802011179 802011180 802011181 802011182 802011183 802011184 802011185 802011186 802011187 802011188 802011189 802011190 802011191 802011192 802011193 802011194 802011195 802011196 802011197 802011198 802011199 8020111100 8020111101 8020111102 8020111103 8020111104 8020111105 8020111106 8020111107 8020111108 8020111109 8020111110 8020111111 8020111112 8020111113 8020111114 8020111115 8020111116 8020111117 8020111118 8020111119 8020111120 8020111121 8020111122 8020111123 8020111124 8020111125 8020111126 8020111127 8020111128 8020111129 8020111130 8020111131 8020111132 8020111133 8020111134 8020111135 8020111136 8020111137 8020111138 8020111139 8020111140 8020111141 8020111142 8020111143 8020111144 8020111145 8020111146 8020111147 8020111148 8020111149 8020111150 8020111151 8020111152 8020111153 8020111154 8020111155 8020111156 8020111157 8020111158 8020111159 8020111160 8020111161 8020111162 8020111163 8020111164 8020111165 8020111166 8020111167 8020111168 8020111169 8020111170 8020111171 8020111172 8020111173 8020111174 8020111175 8020111176 8020111177 8020111178 8020111179 8020111180 8020111181 8020111182 8020111183 8020111184 8020111185 8020111186 8020111187 8020111188 8020111189 8020111190 8020111191 8020111192 8020111193 8020111194 8020111195 8020111196 8020111197 8020111198 8020111199 80201111100 80201111101 80201111102 80201111103 80201111104 80201111105 80201111106 80201111107 80201111108 80201111109 80201111110 80201111111 80201111112 80201111113 80201111114 80201111115 80201111116 80201111117 80201111118 80201111119 80201111120 80201111121 80201111122 80201111123 80201111124 80201111125 80201111126 80201111127 80201111128 80201111129 80201111130 80201111131 80201111132 80201111133 80201111134 80201111135 80201111136 80201111137 80201111138 80201111139 80201111140 80201111141 80201111142 80201111143 80201111144 80201111145 80201111146 80201111147 80201111148 80201111149 80201111150 80201111151 80201111152 80201111153 80201111154 80201111155 80201111156 80201111157 80201111158 80201111159 80201111160 80201111161 80201111162 80201111163 80201111164 80201111165 80201111166 80201111167 80201111168 80201111169 80201111170 80201111171 80201111172 80201111173 80201111174 80201111175 80201111176 80201111177 80201111178 80201111179 80201111180 80201111181 80201111182 80201111183 80201111184 80201111185 80201111186 80201111187 80201111188 80201111189 80201111190 80201111191 80201111192 80201111193 80201111194 80201111195 80201111196 80201111197 80201111198 80201111199 802011111100 802011111101 802011111102 802011111103 802011111104 802011111105 802011111106 802011111107 802011111108 802011111109 802011111110 802011111111 802011111112 802011111113 802011111114 802011111115 802011111116 802011111117 802011111118 802011111119 802011111120 802011111121 802011111122 802011111123 802011111124 802011111125 802011111126 802011111127 802011111128 802011111129 802011111130 802011111131 802011111132 802011111133 802011111134 802011111135 802011111136 802011111137 802011111138 802011111139 802011111140 802011111141 802011111142 802011111143 802011111144 802011111145 802011111146 802011111147 802011111148 802011111149 802011111150 802011111151 802011111152 802011111153 802011111154 802011111155 802011111156 802011111157 802011111158 802011111159 802011111160 802011111161 802011111162 802011111163 802011111164 802011111165 802011111166 802011111167 802011111168 802011111169 802011111170 802011111171 802011111172 802011111173 802011111174 802011111175 802011111176 802011111177 802011111178 802011111179 802011111180 802011111181 802011111182 802011111183 802011111184 802011111185 802011111186 802011111187 802011111188 802011111189 802011111190 802011111191 802011111192 802011111193 802011111194 802011111195 802011111196 802011111197 802011111198 802011111199 8020111111100 8020111111101 8020111111102 8020111111103 8020111111104 8020111111105 8020111111106 8020111111107 8020111111108 8020111111109 8020111111110 8020111111111 8020111111112 8020111111113 8020111111114 8020111111115 8020111111116 8020111111117 8020111111118 8020111111119 8020111111120 8020111111121 8020111111122 8020111111123 8020111111124 8020111111125 8020111111126 8020111111127 8020111111128 8020111111129 8020111111130 8020111111131 8020111111132 8020111111133 8020111111134 8020111111135 8020111111136 8020111111137 8020111111138 8020111111139 8020111111140 8020111111141 8020111111142 8020111111143 8020111111144 8020111111145 8020111111146 8020111111147 8020111111148 8020111111149 8020111111150 8020111111151 8020111111152 8020111111153 8020111111154 8020111111155 8020111111156 80						

道 横	標号	種別	床面	床面	材質	名 称	幅 年 等	付 計	備 考
(19) SK-007	-	廻口・美濃系 廻口・美濃系 廻口・美濃系 廻口・美濃系	陶器 陶器 陶器 陶器	陶器 陶器 陶器 陶器	瓦陶 瓦陶 瓦陶 瓦陶	瓦陶 瓦陶 瓦陶 瓦陶	180cm 18cm~ 18cm~ 18cm~	後 後 後 後	(19) SE-001-中202-倒伏 (19) SK-017土造物上倒伏
	-	639	639	639	639	639	639	639	639
(19) SK-017	中207	在地筋	廻口・美濃系 廻口・美濃系	陶器 陶器	瓦陶 瓦陶	瓦陶 瓦陶	16.8cm~ 15.8cm~	17cm 15cm~	後 倒伏
(19) SK-018	-	廻口・美濃系	陶器	瓦陶	瓦陶	瓦陶	1.1cm~	1.1cm~	倒伏
(19) SK-019	-	廻口・美濃系	陶器	瓦陶	瓦陶	瓦陶	18代~	18代~	見込み蛇口の11番前ぎ
(19) SK-020	-	廻口・美濃系 在地筋	陶器 陶器	瓦陶 瓦陶	瓦陶 瓦陶	瓦陶 瓦陶	18代~ 17cm~	17cm~ 16cm~	瓦陶を多く含む 倒伏
(19) SK-021	中206	廻口・美濃系 中209	在地筋 在地筋	陶器 陶器	瓦陶 瓦陶	瓦陶 瓦陶	1.3~ 1.6cm~	1~ 1.6cm~	倒伏 開始基盤化粧 倒伏
	639	639	633	633	633	633	633	633	633
(19) SK-022	-	在地筋	内耳	内耳	内耳	内耳	17代~	17代~	瓦陶を多く含む 倒伏
(19) SK-023	-	肥沃系	陶器	瓦陶	瓦陶	瓦陶	18代~	18代~	倒伏
(19) SK-024	-	中21	廻口・美濃系 在地筋	陶器 陶器	瓦陶 瓦陶	瓦陶 瓦陶	1.1~ 16代~	21.15cm~ 15cm~	倒伏 倒伏
(19) SK-025	-	中20	廻口・美濃系 廻口・美濃系	陶器 陶器	瓦陶 瓦陶	瓦陶 瓦陶	1.16代~ 1.15代~	1~ 18代~	倒伏 瓦陶を含む 倒伏
(19) SE-001	-	在地筋	内耳	内耳	内耳	内耳	17代~	17代~	瓦陶を多く含む 倒伏
(19) SE-002	-	近34	廻口・美濃系 廻口・美濃系 在地筋	陶器 陶器 陶器	瓦陶 瓦陶 瓦陶	瓦陶 瓦陶 瓦陶	17代~ 19代~ 19代~	17代~ 19代~ 19代~	瓦陶を多く含む 白色地に 黒入をも含む 倒伏
(19) SD-001	-	近16	肥沃系 近57	陶器 陶器	瓦陶 瓦陶	瓦陶 瓦陶	18代~中 18代~	17代~ 18代~	外壁は草文 窓台内側 大明字署落文 見込み草文 体造りは窓へラ倒伏 くらんかく手 草花 文
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(19) I W18	-	6.7	6.62	6.7	6.62	6.7	17cm~ 17cm~	17cm~ 17cm~	(19) SD-001-前土造物と倒伏 (1) SK-022, (1) SE-001, (1) 区出土造物と倒伏
(19) I K	14-22	在地筋	有床筋 近17	陶器 陶器	瓦陶 瓦陶	瓦陶 瓦陶	16.8cm~ 18cm~	17cm~ 18cm~	体造り軸部へラ倒伏文 廻口・美濃系窓落文 倒伏
(23) テリフ等	真5 真5	-	-	-	-	-	1666~ 1668~	1666~ 1668~	(1) SK-022, (1) SE-001, (1) 区出土造物と倒伏 倒伏

第53表 遺構別出土遺物一覽表

（参考文献）：非接触測定を含む総合的測定、特に今後

通 帳	貿易関税等								關口・貿易								近代以降								石炭品・鐵・輸出等								備 考							
	青 鐵	白 鐵	白 銅	青 銅	白 鋼	青 鋼	白 鋼	青 鋼	青 銅	白 銅	青 銅	白 鋼	青 鋼	青 銅	白 銅	青 銅	白 鋼	青 鋼	青 銅	白 銅	青 銅	白 鋼	青 鋼	青 銅	白 銅	青 銅	白 鋼	青 鋼	青 銅	白 銅										
15:SE-001																																								
15:SE-002																																								
15:SE-003																																								
15:SE-004																																								
15:SE-005																																								
15:SE-006																																								
15:SE-14+																																								
15:SE-14-																																								
15:SE-48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2	0	2	4	0	42	23	35	6	30	101	62	64	1	0	0	0	23	4	18	1	6	6	3					
17:SE-001																																								
(17)トレンチ等	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
(17)火薬等																																								
(18)アリット等																																								
(19)SE-001																																								
(19)SE-002																																								
(19)SE-003																																								
(19)SE-005																																								
(19)SE-007																																								
(19)SE-009																																								
(19)SE-012																																								
(19)SE-013																																								
(19)SE-017																																								
(19)SE-018																																								
(19)SE-019																																								
(19)SE-020																																								
(19)SE-021																																								
(19)SE-022																																								
(19)SE-023																																								
(19)SE-024																																								
(19)SE-025																																								
(19)SE-001																																								
(19)SE-002																																								
(19)SE-003																																								
(19)SE-004																																								

第3章　まとめ

旧石器時代 検出された石器集中地点は35地点である。第2章では遺跡範囲の北側から南側に向かい、ブロック番号を記述したため、各々のブロックが属する文化層については触れていない。この章では文化層の観点からブロックを分類し、まとめとしたい。

屋敷内遺跡の所在する台地を形成する立川ローム層の分層は、直下に存在する凝灰質粘土層の影響により分層が困難であることは、前述したとおりである。調査段階での出土層位の記述に不明な点も多いことから、あくまで参考程度に留め、地表面もしくはⅢ層上面からのレベル差により見直しを行った。

○Ⅱ層～Ⅲ層上部文化層

第22ブロック、第30ブロックの2ブロックが該当する。細石刃を石器組成に含む文化層であり、黒曜石が多用される。

○Ⅲ層文化層

第9ブロック、第11ブロック、第14ブロック、第15ブロック、第16ブロック、第18ブロック、第20ブロック、第25ブロック、第27ブロック、第29ブロック、第32ブロックの11ブロックが該当する。両面加工の槍先形尖頭器を石器組成に含み、小型不定形剥片製のナイフ形石器の共伴が認められるブロックも見られる。

○Ⅲ層～Ⅳ層文化層

第1ブロック、第4ブロック、第7ブロック、第12ブロック、第28ブロックの5ブロックが該当する。楕状剥離を有する槍先形尖頭器を石器組成に含み、槍先形尖頭器由来の削片を共伴する。東北地方産と考えられる硬質の頁岩が多用される。また、使用される黒曜石は透明度の高い信州産と考えられる石材が多用される。

○Ⅳ層～Ⅴ層文化層

第8ブロック、第13ブロック、第17ブロック、第19ブロック、第21ブロック、第31ブロック、第33ブロック、第35ブロックの8ブロックが該当する。部厚な素材剥片から作出された角錐状石器を石器組成に含み、やはり部厚な二側縁加工のナイフ形石器を共伴する。黒色安山岩が多用される。

○Ⅵ層文化層

第10ブロック、第23ブロック、第24ブロックの3ブロックが該当する。縦長剥片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器を石器組成に含む。

○Ⅶ層～Ⅸ層文化層

第23ブロック、第24ブロック、第34ブロックの3ブロックが該当する。小規模なブロックが多く、定型的な石器に乏しいが、大型の縦長剥片の作出を技術基盤とする。

○Ⅹ層文化層

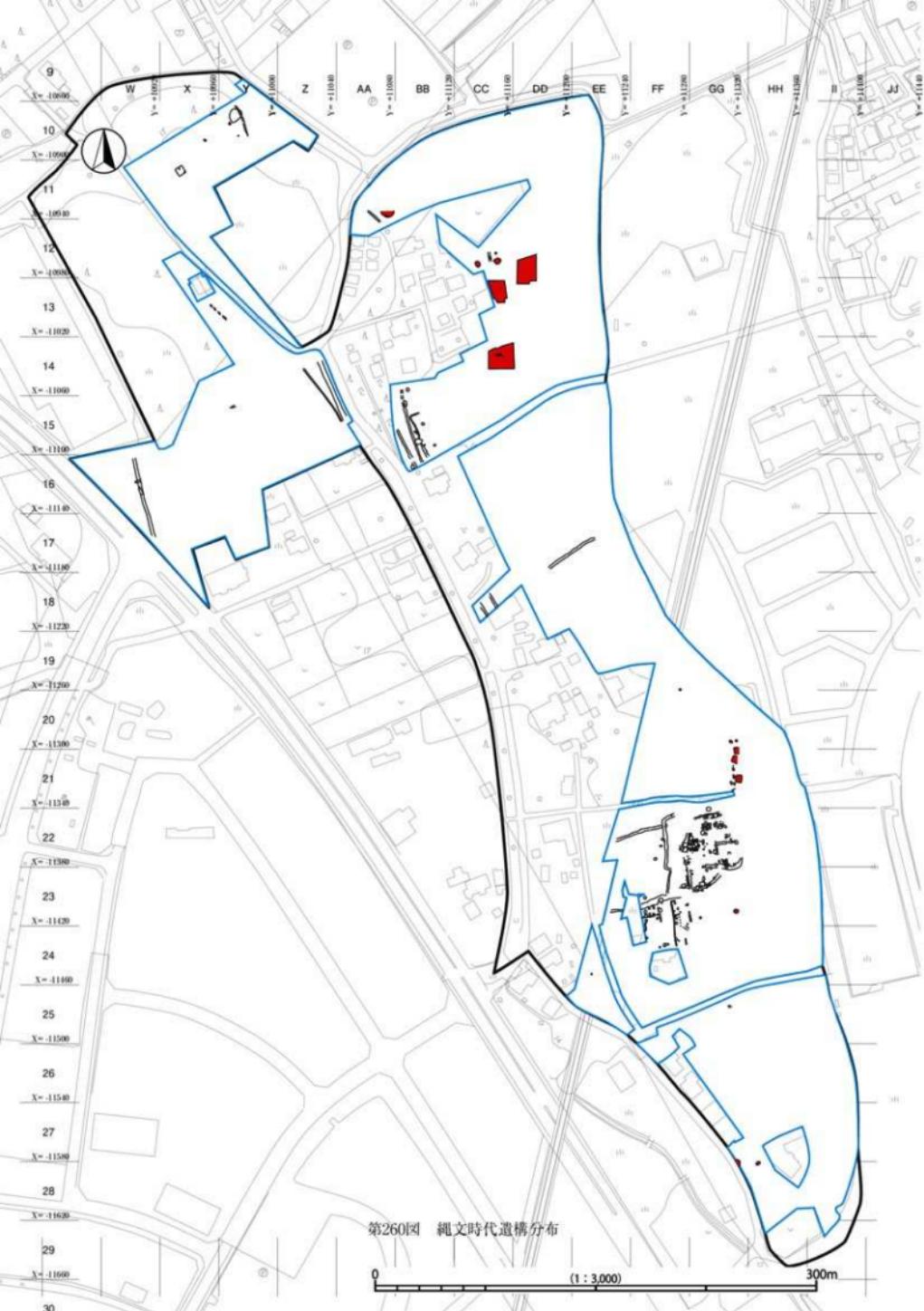
第2ブロック、第3ブロック、第5ブロック、第6ブロック、第26ブロックの5ブロックが該当する。小型不定形剥片製の台形石器、ナイフ形石器を石器組成に含む。第2ブロック、第3ブロック、第5ブロックについては台地北側の緩斜面部に隣接して所在しており、接合資料内での接合関係も認められることから、第6ブロックも含め環状ブロック群を形成している可能性が高い。東方向に同文化層のブロックは検出されておらず開口する状況であるが、径20mを越える規模と考えられる。

各文化層の立地的な特徴は特に認められないが、文化層を越えた観点では、遺跡北側の10X・10Yグリッドの集中区と、遺跡南側の台地端28HHグリッドの集中区に、ブロックの形成と地形的要因の関係が強く窺える。

縄文時代 検出された遺構は竪穴住居跡8軒・竪穴状遺構1基・陥穴4基・土坑11基・ピット群1基・集中地点3か所である(第260図)。時期は竪穴住居跡8軒と陥穴3基、土坑3基が出土遺物から前期黒浜式期である。また、(22)集中地点Aは黒浜式土器が主体で、(22)集中地点Bは前期黒浜式と中期阿玉台式に大きく二分される。(22)集中地点Cは出土土器が2点のみで、中期阿玉台I a式と五領ヶ台式の土器である。遺構の数量は発掘調査した総面積(約10ha)に対して極めて希薄である。比較的まとまって検出した地点は、遺跡のほぼ中央に当たる第16次調査地点の21GG大グリッドで、竪穴住居跡4軒と土坑9基が検出されている。第16次調査地点は、その周辺も発掘調査が実施されており、これ以上の遺構の広がりはないと思われる。遺跡の北側に当たる第33次調査地点(11AA大グリッド)と第26次調査地点(12CC大グリッド)、南側に当たる第21次調査地点(27GG大グリッド)では竪穴住居跡が1軒又は2軒だけである。いずれの地点も周辺に未調査地区があり、新たに遺構が検出される可能性もあるが、大きく広がることは想定できない。黒浜式期の遺構は、利根川に面した台地上にある駒形遺跡や富士見遺跡、大松遺跡などから多数の竪穴住居跡が検出されており、黒浜式期の竪穴住居跡の分布範囲が拡大していく傾向が見られる。本遺跡の竪穴住居跡もこのような拡大傾向の一端ととらえることができるが、居住地区としては環境的にあまり適した場所とは言えなかったと思われる。

古墳時代 検出された地点は、遺跡の北西の端に当たる第32次調査地点だけで、竪穴住居跡1軒・土坑1基・遺物集中地点1か所・溝1条が検出されたが、土坑は竪穴住居跡の炉と考えられるものであり、実際は竪穴住居跡が2軒存在していたと考えられる。これらの遺構の時期は、(32)SI-001出土の土器器高杯・鉢や遺物集中地点出土の土器器高杯の特徴から、全て中期前葉～中葉と思われる。南西側に隣接する内山遺跡から当該時期の竪穴住居跡8軒と竪穴状遺構1基がまとまって検出されているが、(32)SI-001から約500mの距離がある。利根川に面した台地上の駒形遺跡と富士見遺跡でも、両遺跡合わせて8軒の竪穴住居跡がまとまりをもって存在しているが、それ以外では原畠遺跡や寺下前遺跡などで2～3軒の竪穴住居跡が検出されているだけである。本遺跡の北側は未調査地点が多く、今後、当該時期の竪穴住居跡などが検出される可能性も残っているが、原畠遺跡や寺下前遺跡などと同様に小規模な竪穴住居群であったと考えられる。

中世から近世 検出された遺構は、掘立柱建物跡5棟・柱穴列2基・地下式坑4基・井戸20基・火葬遺構7基・土坑90基・ピット1基・溝43条である(第261図)。未調査地区も多く残され、現在も発掘調査が続けられているので、今後、遺構数は増えると思われる。遺構が最も集中しているのは、遺跡の南側に当たる第1・8・14・15・19次調査地点の22FF・22GG・23FF・23GG大グリッドを中心とした範囲で、掘立柱建物跡・柱穴列・地下式坑の全てと井戸18基・火葬遺構6基・土坑80基・溝28条など大部分の遺構がこの範囲に集中している。これらは中世から近世までの年代幅があるが、中世に限ると、この地区からは、第30次調査地点のトレンチ1から出土した瀬戸・美濃窯製品の大窯期の天目茶碗(中世4)を除いた、ほぼ全ての遺物が出土している。一方、遺跡の北側に当たる第25・27・31・34次調査地点からは、野馬堀や溝(構列)などが検出され、特に、第25次調査地点の溝からは、肥前系や瀬戸・美濃系陶磁器や在地産の内耳土器などがまとまって出土している。



遺物の年代及び中世・近世の時期区分については、「千葉県の歴史 資料編 中世Ⅰ 考古資料」と「池子遺跡群」の発掘調査報告書などを参考にして行ったが、本遺跡ではまとめて遺物が出土した遺構が少なく、また、同一遺構から出土した遺物も年代幅が見られることから、中世は細かな時期区分は行わず全て中世とし、近世は2区分して、近世Ⅰを16世紀末～17世紀後半、近世Ⅱを17世紀末～19世紀後半とすることにした。以下に第1・8・14・15・19次調査地点の遺構について、出土遺物の特徴などから、帰属時期を見ていきたい(第262図)。

中世 中世の遺構は遺跡の南側に当たる第1・8・14・15・19次調査地点で検出され、遺物もこの地区に集中している。これらの調査地点以外で図示できた遺物は、第30次調査地点の瀬戸・美濃窯製品の天目茶碗(中世4)、第25・29次調査地点の石臼(石13・19)、第23次調査地点の元祐通寶(銭貨5)だけであり、遺構別主要遺物観察表や遺構別出土遺物一覧表からもそのことがうかがえる。

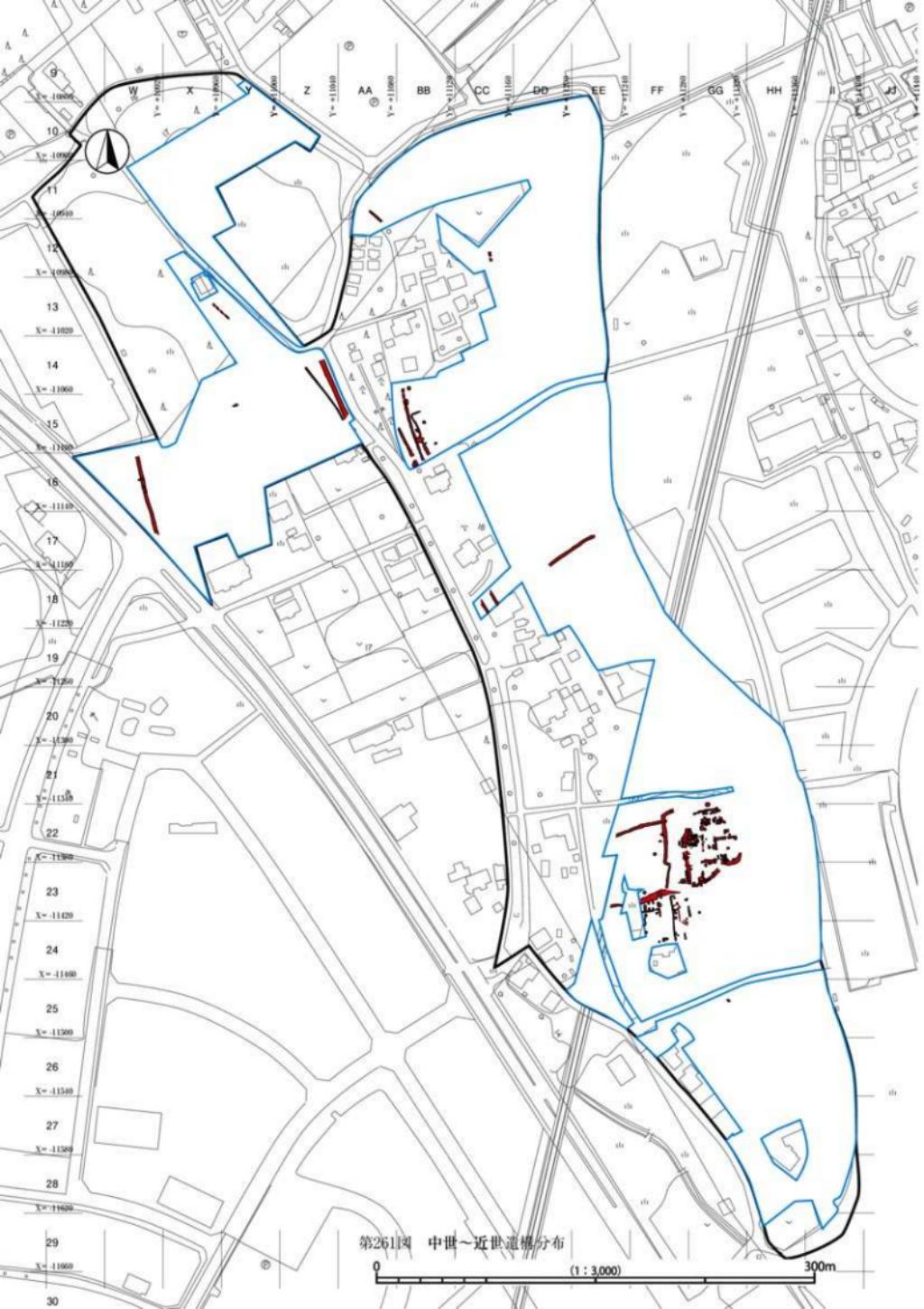
中世の遺構は、地下式坑4基((1)SK-007・(14)SK-004・(15)SK-016・(19)SK-002)、井戸4基((1)SK-005・(15)SK-004・(19)SK-025・(19)SE-001)、土坑9基((1)SK-009A・009B、(14)SK-003、(15)SK-005・006・013・020、(19)SK-018・021)、溝2条((14)SD-007・008)である。

年代の分かる遺物が出土した遺構は、地下式坑(19)SK-002、井戸(1)SK-005・(15)SK-004・(19)SK-025・(19)SE-001、土坑(1)SK-009A・(14)SK-003・(15)SK-005・006・013・020・(19)SK-018・021である。図示できなかった破片資料しか出土していない遺構もあるが、遺物の年代は古瀬戸中期様式Ⅱ期(14世紀初頭)から大窯段階(16世紀代)までの幅広い年代にわたっている。なお、(14)SK-003と(14)SD-003・005の一括資料として取り上げられていた瀬戸・美濃窯製品の平碗(中世7)については、3遺構の重複関係から見て最も古い(14)SK-003に伴うものと考えた。また、遺物は出土していないが(1)SK-007、(14)SK-004、(15)SK-016の地下式坑3基を当該時期の遺構とした。特に、(1)SK-007周辺の23FF-54・56グリッドからは瀬戸・美濃窯製品の古瀬戸中期様式Ⅱ期～大窯第4段階の瓶子や折縁深皿、志野丸皿が出土しており、関連性が注目される。

第1次調査地点にある地下式坑と井戸、土坑の4基が少し離れた場所にあるが、それ以外の地下式坑3基・井戸3基・土坑7基・溝2条が22GG大グリッドを中心とした東西40m・南北55mの範囲内にまとまっている。屋敷と考えられる遺構は検出されなかったが、(15)SB-001～004の一括資料の中には貿易陶磁器の青磁稜花皿(中世1)、瀬戸・美濃窯製品の天目茶碗(中世3・5)と綠釉皿(中世13)、志野丸皿(中世17)、板碑(石5・11)、石臼(石12・18)などがあり、あるいは、これら以外にも復元しえなかつた中世の掘立柱建物跡が存在していた可能性もある。いずれにしても、これらの遺構・遺物が集中している範囲が屋敷地であったと想定される。これらの遺構の東側は地金堀に続く低地となっており、(15)SK-016と(15)SK-020との確認面での標高差は約1mある。また、北側・西側・南側には遺構がなく、遺物量も極めて少ないとから、屋敷地の周囲は水田あるいは畑地であったと思われる。

遺構の時期については、遺物が14世紀初頭～16世紀後半まで幅広く見られるが、15世紀後半～16世紀後半のものは茶碗・皿・丸碗・擂鉢・カワラケなど種類も増え、一つの遺構から複数出土している例も多いことなどから、15世紀後半～16世紀後半が中心であったと考えられる。

近世 近世Ⅰの遺構は、中世と同様に遺跡南側の第8・14・15・19次調査地点で検出されている。第1次調査地点では当該時期の遺物がほとんどなく、唯一、土坑(1)SK-022から美濃・瀬戸系陶器の灰釉折縁鉢(近世47)が出土しているが、(1)SK-022は(1)SD-001と(19)I W区・II区の出土遺物と接合する



18世紀後半の瀬戸・美濃系陶器の鋳軸筒形香炉(近世57)も出土していることから、近世Ⅱの遺構と判断した。

遺構としては、掘立柱建物跡2棟((15)SB-001・002)、柱穴列1基((15)SB-004)、井戸2基((15)SE-004・(19)SE-002)、土坑6基((14)SK-010・(15)SK-019・022・(19)SK-001・017・023)、溝8条((8)SD-001・(14)SD-003・005・009・013・(15)SD-002・003・005)があり、(15)SK-019と(15)SD-005を除いて遺物が出土している。

掘立柱建物跡は3間×1間と2間×1間で、建物としては小規模であるが、桁行方向がほぼ同じで、同じ場所で建て替えが行われている。柱穴が重複していないので新旧関係は不明である。柱穴列は走行方向が掘立柱建物跡の梁行方向とはほぼ同じで、いずれかあるいは両掘立柱建物跡に伴う柵列と思われる。溝は8条検出されたが、(8)SD-001と(14)SD-009、(14)SD-013と(15)SD-003が同じ溝(以下「遺構番号=遺構番号」と表記する。)であることから、実質6条である。(8)SD-001=(14)SD-009と(14)SD-013=(15)SD-003、(15)SD-002の3条の溝は、幅が1.3m～2.7m、確認面からの深さが0.5m～0.8mあり、断面形が逆台形あるいは「V」字形で、そのほかの溝と比べてしっかりと掘られていることから、屋敷地を開む区画溝と思われる。(8)SD-001=(14)SD-009は掘立柱建物跡や柵列の配置に沿ってほぼ南北に掘られ、南・北両端は東側に屈曲するが、東側には同じような溝がないことから、逆「コ」の字形になり、屋敷地の西側の区画として重要な溝であったと思われる。(14)SD-013=(15)SD-003と(15)SD-002は屋敷地の南側と南東側を区画する溝で、両溝はつながらないことから、検出された部分が端部に近く、幅の狭い陸橋が存在し、また、(14)SD-013=(15)SD-003と(8)SD-001=(14)SD-009の間も幅広い陸橋になっていたと思われる。

なお、(14)SK-010と(15)SD-002は、17世紀前半～末の遺物が出土していることから近世Ⅰの遺構としたが、同時に16世紀代の陶磁器や板碑なども出土しており、両遺構が中世末から存在していた可能性は高いといえる。

近世Ⅱの遺構は、前時期に引き続き掘立柱建物跡や井戸・土坑・溝などがある遺跡南側の第1・8・14・15・19次調査地点と、溝が主体で、わずかに井戸や土坑がある遺跡北側の第25・27・31・34次調査地点に集中している。

遺跡南側では、第1次調査地点に当該時期の遺構が見られ、遺構の存在する範囲が拡大する。遺構としては、掘立柱建物跡3棟((1)SB-001・002・(15)SB-003)、柱穴列1基((1)SB-003)、井戸4基((1)SK-001・(14)SK-013・016・(15)SE-001)、土坑13基((1)SK-020・022・(14)SK-008・(15)SK-001～003・009・021・(19)SK-007・019・020・024・027)、火葬遺構6基((1)SK-015～017・021・(19)SK-006・026)、溝12条((1)SD-001・002・004・005・(6)SD-030・(8)SD-002・(14)SD-001・002・010・011・(15)SD-001・(19)SD-001)がある。これらのうち、掘立柱建物跡(1)SB-001・002、柱穴列(1)SB-003、井戸(15)SE-001、土坑(14)SK-008・(19)SK-027、火葬遺構の全て、溝(1)SD-002・004・(6)SD-030・(8)SD-002・(14)SD-010・011は出土遺物がないが、火葬遺構は遺構の形態に類似性があり、そのうちの(27)SK-001が溝(27)SD-001より古いこと、そのほかの遺構は近接する遺構との関連性などから当該時期とした。

掘立柱建物跡(15)SB-003は、規模が1間×1間で、前時期のものと比べて柱間寸法も小さく、桁行方向も明らかに異なる。近世Ⅰから続く屋敷と思われるが、これ以外には建物跡と思われる遺構は検出されていない。(1)SD-001の南側にある掘立柱建物跡(1)SB-001・002は、いずれも規模が3間×1間で、柱穴の径や深さがまちまちで平均して小さく、桁行方向も揃っていない。作業小屋などの簡易的な建物の可能



21

Y = +111240

X = -111340

FF

GG

HH

Y = +111280

Y = +111320

22

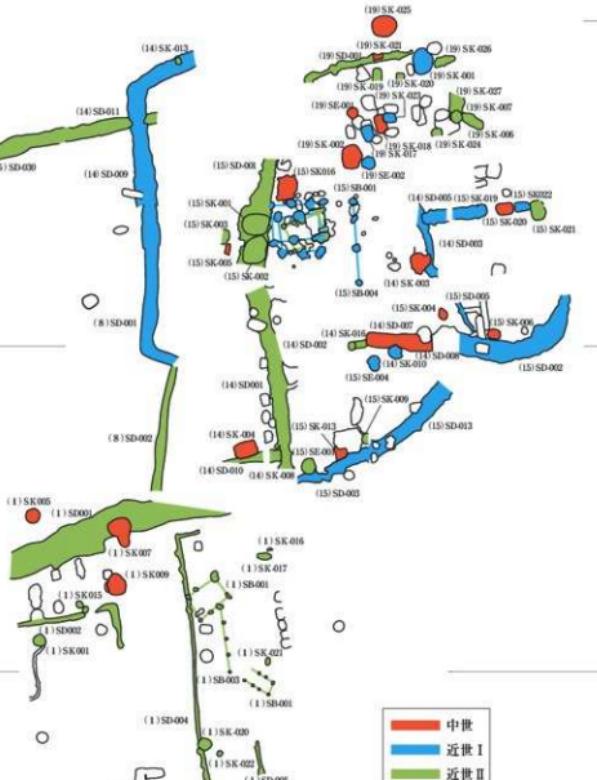
X = -111380

23

X = -111420

24

X = -111460



0 (1 : 600) 60m

第262図 第1・8・14・15・19次調査地点中世～近世II遺構分布

性が考えられる。柱穴列(1)SB-003は走行方向が掘立柱建物跡と異なり、むしろ(1)SD-004に並行している。溝は12条検出されたが、(6)SD-030と(14)SD-011、(14)SD-001と(15)SD-001が同じ溝であることから、実質10条である。南北に走る(14)SD-001=(15)SD-001は、走行方向が東側の(15)SB-003の桁行方向と異なることから、(15)SB-003の廃絶後に掘られたと考えられる。北側は(6)SD-030=(14)SD-011と(19)SD-001によって区画され、両溝の間には陸橋があったと思われる。南側は(6)SD-030=(14)SD-011と走行方向をほぼ同じにする(1)SD-001によって区画され、一部が(14)SD-010につながると思われる。(8)SD-002と北側の(8)SD-001=(14)SD-009については、(8)SD-002の方が浅いが、(8)SD-001=(14)SD-009の深さ40cm前後の埋土中に硬化部分が見られることから、両溝は深さ20cm~40cmの南北に走る長い区画溝となっていたと考えられる。幅が狭く深い溝(1)SD-002・004・005は、いずれも直線的で、(1)SD-002・004は端部がほぼ直角に屈曲している。(1)SD-005は南側の第11次調査地点での東西方向の確認トレンチでは検出されなかったことから、あるいは途中で屈曲している可能性が考えられる。

遺跡北側の第25・27・31・34次調査地点における遺構としては、井戸1基((25)SK-006)、土坑4基((25)SK-002・(27)SK-002~004)、火葬遺構1基((27)SK-001)、溝9条((25)SD-001~003・(27)SD-001・(31)SD-002・003・(34)SD-001・002)、野馬堀1条((31)SD-001)がある。建物跡は見られず、野馬堀とそれに並行する溝が主体となる。溝は9条検出されたが、(25)SD-001と(34)SD-001、(25)SD-002と(34)SD-002、(31)SD-002と003はそれぞれ走行方向などから同一の溝と考えられるので、実質5条である。(25)SD-003は幅が狭く、深い溝で、北端が東に屈曲しており、(1)SD-002・004と同様の形態を示している。この区画溝の東側には井戸1基と近世と思われる土坑2基だけで、そのほかに遺構はない。(25)SD-001・002は底部にピットが連続して見られることから、柵列と考えられるものである。特に、(25)SD-001の途切れている部分の両側に土坑があり、あるいは高田台牧への出入口の木戸であった可能性も想定される。また、一括資料として取り上げられたために詳細な出土状況が不明であるが、ここからは18世紀~19世紀末の肥前系や瀬戸・美濃系の陶磁器などが多量に出土している。(25)SD-002からはほとんど当該時期の遺物が出土していないことから、新たに(25)SD-002を設置するとともに廃絶した(25)SD-001の中に破損した陶磁器類を投棄したと想定することができる。(27)SD-001は西側にある内山遺跡の(1)SD-001=(3)SD-001と同一の溝と判断できるものである。

最後に中世~近世Ⅱの状況を概観すると、中世は15世紀後半~16世紀後半を中心として、遺跡南側の第1・8・14・15・19次調査地点の22GG大グリッドを中心とした場所に、地下式坑や井戸、土坑などを伴う小規模な屋敷地が作られ、その周囲には水田や畠地があったと思われる。近世Ⅰになると、同じ22GG大グリッドを中心として、屋敷地の西側と南側を区画する溝が掘られ、その内側に小規模な掘立柱建物跡による屋敷と井戸や土坑などがあり、屋敷地の北側と東側には中世と同様に水田や畠地が広がっていたと思われる。遺構出土遺物の年代や掘立柱建物跡が建て替えられていることから、当該時期を通して屋敷地が存在していたと考えられる。一方、遺跡北側の第25・31次調査地点を中心とする地区には、時期は明らかにできなかったが、この頃から野馬土手やそれに付随する溝(柵列)が作られるようになると思われる。近世Ⅱになると、南側の屋敷地では引き続き同じ場所に屋敷跡が存在するが、前時期より更に規模の小さな掘立柱建物跡1棟だけで、それ以外に建物跡と思われる遺構は見られない。この南側には作業小屋と思われる簡易的な建物跡が見られる。北側の野馬堀や溝(柵列)は作り替えなどによる補強、増設が行われ、野馬土手は第1~34次調査地点では検出されなかったが、これらは遺跡の西側に沿って南北に続いている

と考えられる。(25)SD-001から肥前系や瀬戸・美濃系陶磁器、在地産の内耳土器・カワラケ・灯明皿などの多種多様な遺物がまとまって出土している。この周辺には、屋敷と思われる建物跡は検出されていないが、これらの陶磁器類を所有し、消費することのできた人物の屋敷(単数あるいは複数)が北東側の未調査地区に存在していたことを示唆するものであり、それらを背景として(27)SD-001のような新田開発に伴うと思われる溝(欄列)が作られていったものと思われる。

参考文献

- 1984 「北海道から沖縄まで 国内出土肥前陶磁 古唐津・伊万里の流通をさぐる」佐賀県立九州陶磁文化館
1990 「江戸遺跡研究会第3回大会 江戸の陶磁器」[発表要旨] [資料編]
1992 「シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅰ」発表要旨 資料集 江戸陶磁土器研究グループ
1995 「池子遺跡群Ⅱ №1-D地点 池子米軍家族住宅建設に伴う調査」かながわ考古学財団調査報告3 財団法人かながわ考古学財団
1992 「シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ」発表要旨 資料集 江戸陶磁土器研究グループ
1996 「池子遺跡群Ⅲ №1-C地点 池子米軍家族住宅建設に伴う調査」かながわ考古学財団調査報告11 財団法人かながわ考古学財団
1997 「池子遺跡群Ⅳ №6地点・№7地点東地区・№7地点西地区・№15地点・№16地点・№17地点・№18地点 池子米軍家族住宅建設に伴う調査」かながわ考古学財団調査報告11 財団法人かながわ考古学財団
1998 「千葉県の歴史 資料編 中世Ⅰ 考古資料」千葉県
1998 「池子遺跡群Ⅵ №5地点・№19地点 池子米軍家族住宅建設に伴う調査」かながわ考古学財団調査報告36 財団法人かながわ考古学財団
1999 「池子遺跡群Ⅷ №1-E地点・№12地点 池子米軍家族住宅建設に伴う調査」かながわ考古学財団調査報告43 財団法人かながわ考古学財団
2000 「千葉県文化財センター 研究紀要20」財団法人千葉県文化財センター
2001 「国説 江戸考古学研究辞典」江戸遺跡研究会 柏書房株式会社
2002 寄贈記念「柴田コレクション ─華麗なる古伊万里の世界─」佐賀県立九州陶磁文化館

写 真 図 版











第16ブロック(東から)



第17ブロック(南から)



第18ブロック(南東から)



第19ブロック(北から)



第20ブロック(西から)



第21ブロック(南から)



第23ブロック(西から)



第24ブロック(南東から)



第25ブロック（南から）



第26ブロック（西から）



第27・28ブロック（南から）



第29ブロック（北から）



第30ブロック（西から）



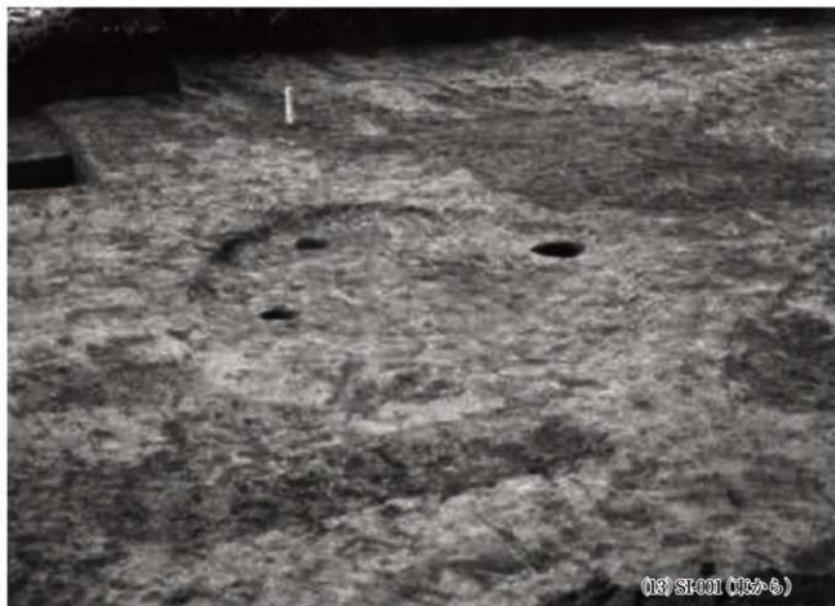
第31ブロック（北東から）



第32・33・35ブロック（北西から）



第34ブロック（北から）

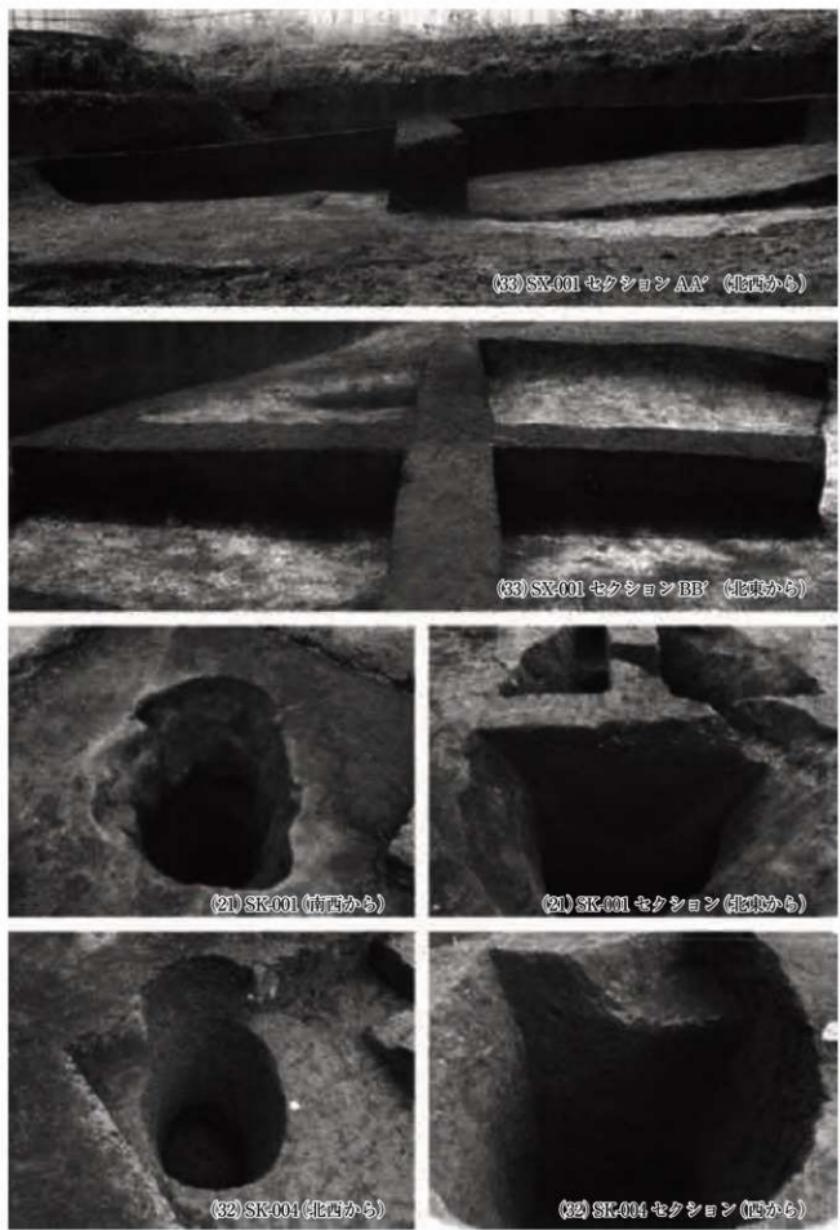


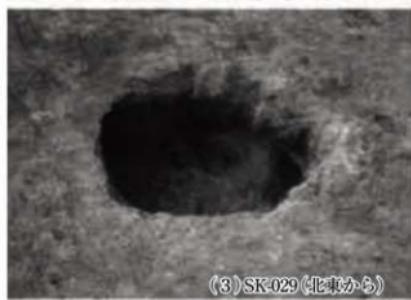
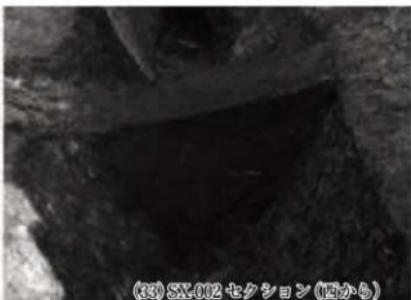
















(32) SI-001 (南西から)



(32) SI-001 遺物出土 (南西から)



(32) SI-001 周壁穴 (南東から)



(32) SI-001 セクションBB' 北側



(32) SI-001 セクションBB' 南側



(32) SD-001 南側(南東から)



(32) SD-001 北側(北西から)



(32) SD-001 セクション



(32) SK-003 (東から)



(32) SX-001 北側(北から)

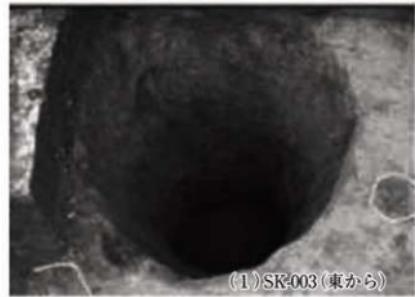
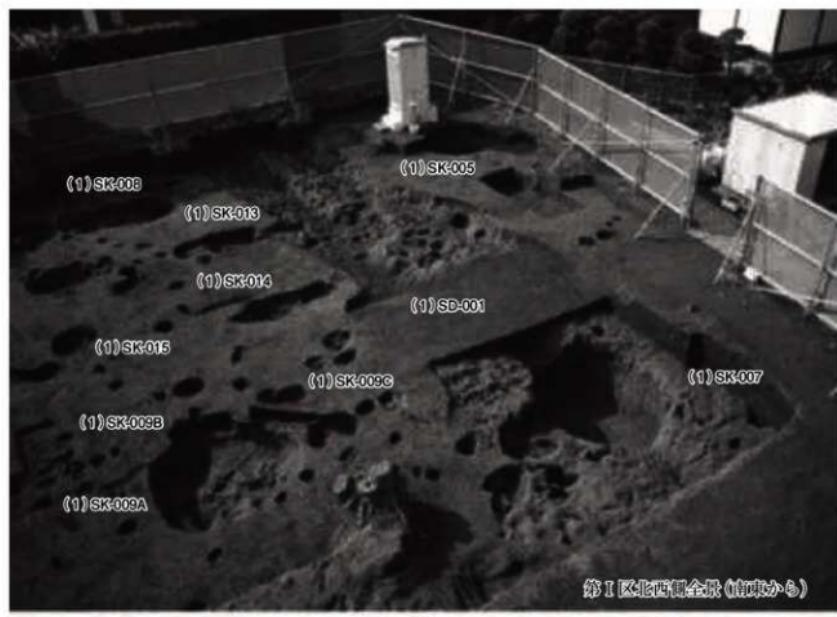


(32) SX-001 南側(南から)



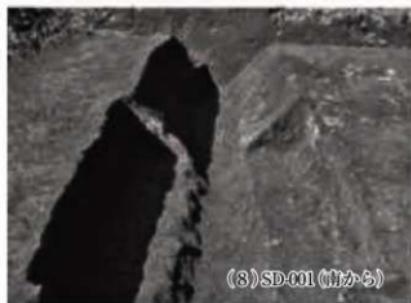






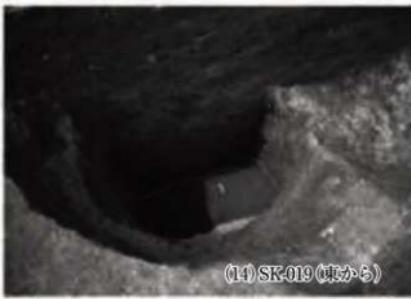
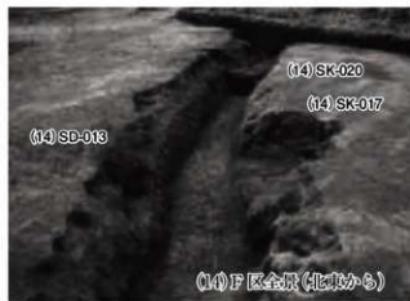


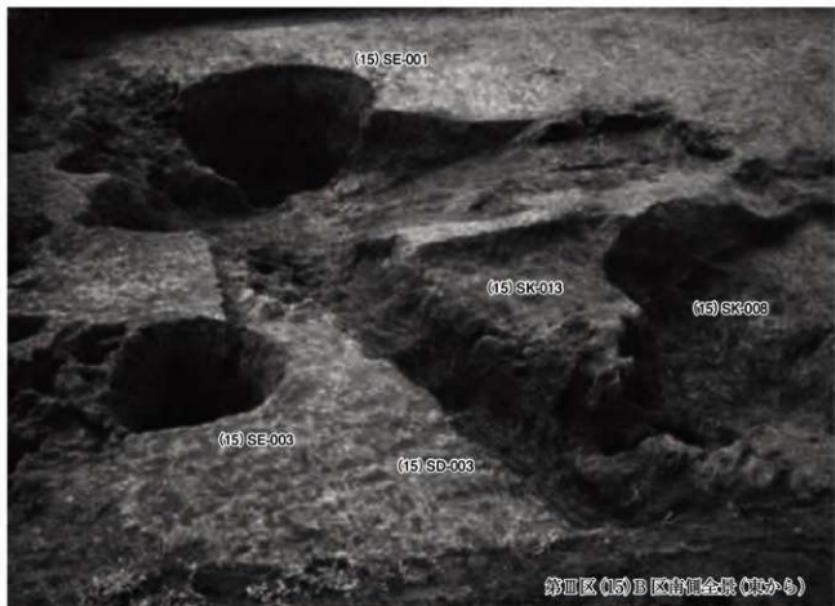














(15) SD-004

(15) SD-005

(15) SK-007

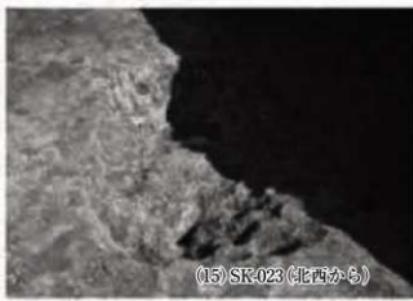
(15) SK-006

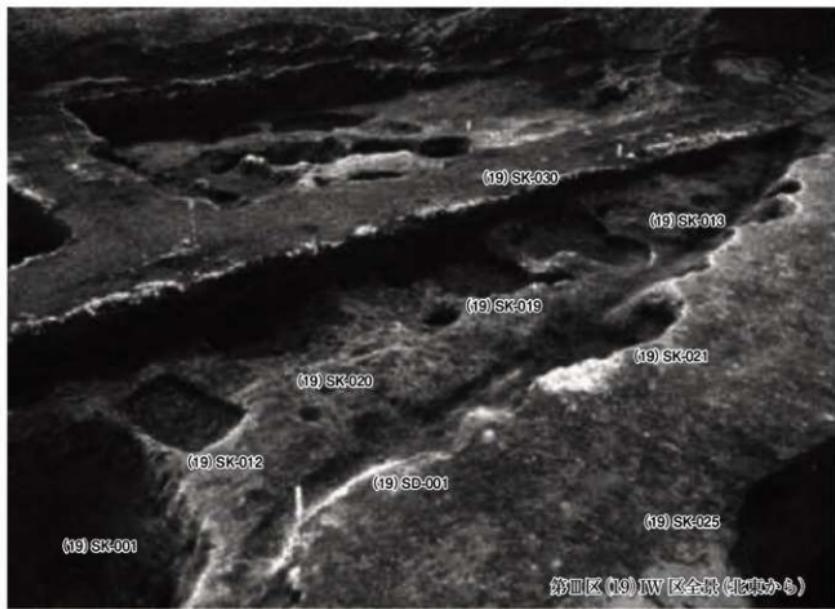
(15) SD-002

第三回 (15) C 回転全景 (右から)

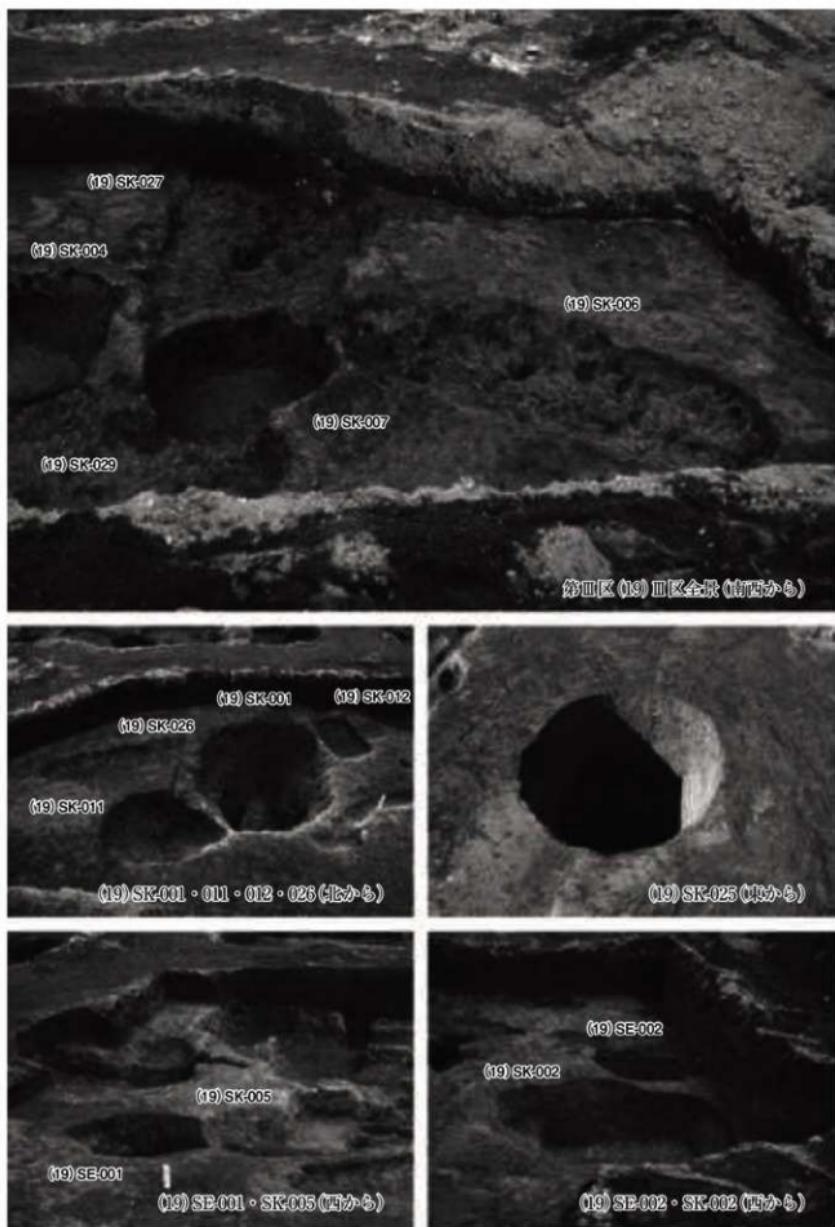


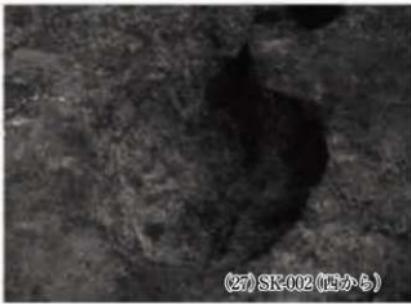


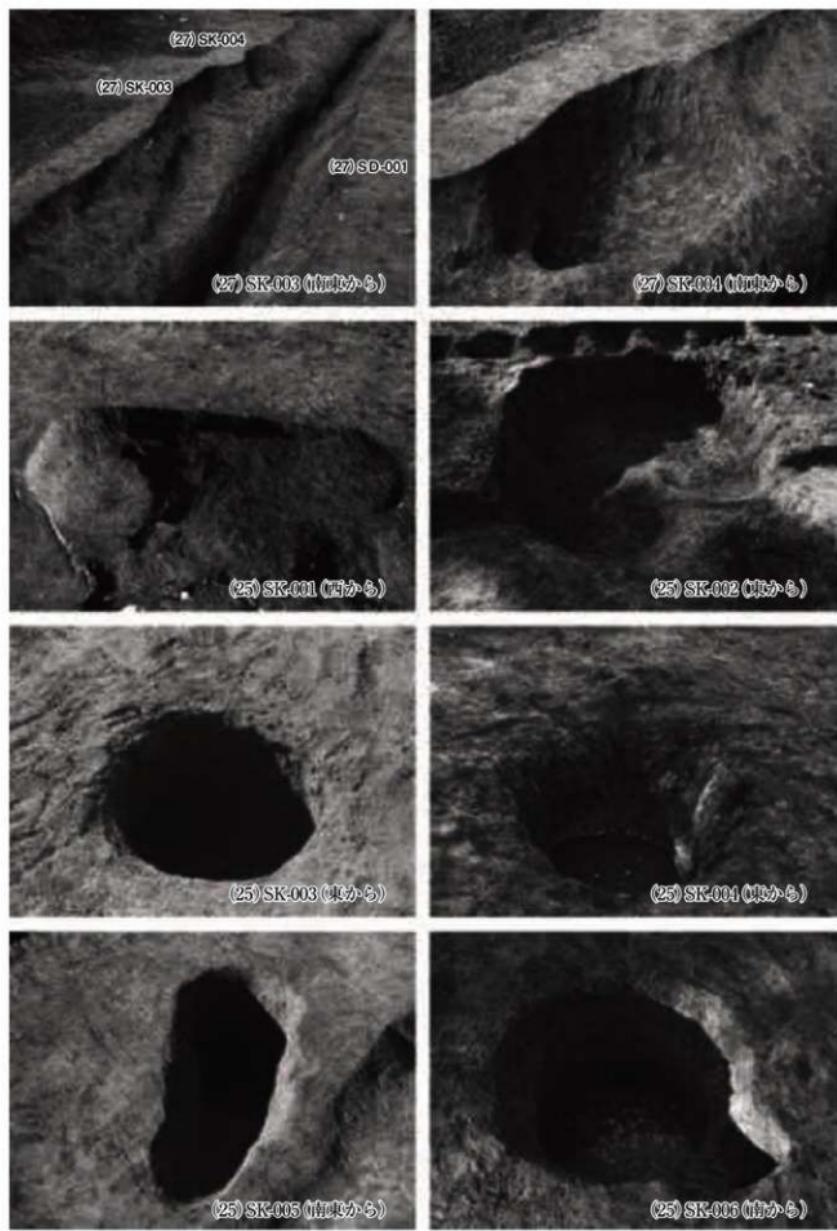


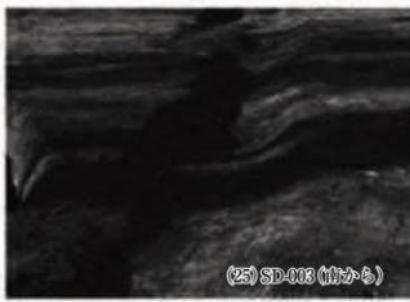
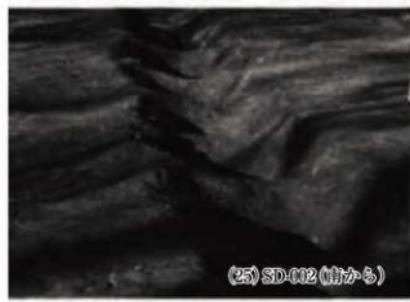




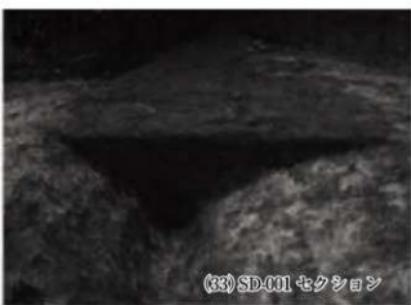














第1ブロック出土遺物(1)



3 10Y-31.13 剥片 黑曜石

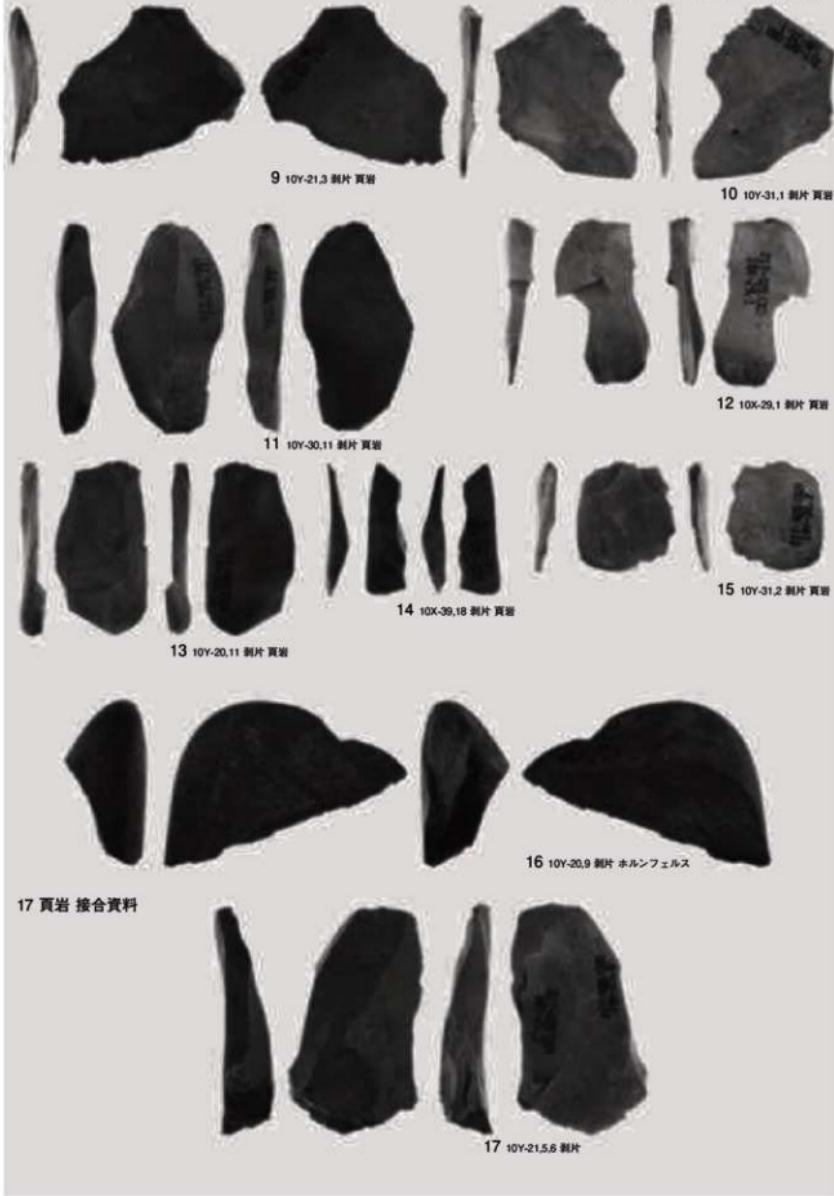
4 10X-48.7 断面底ある剥片 黑曜石



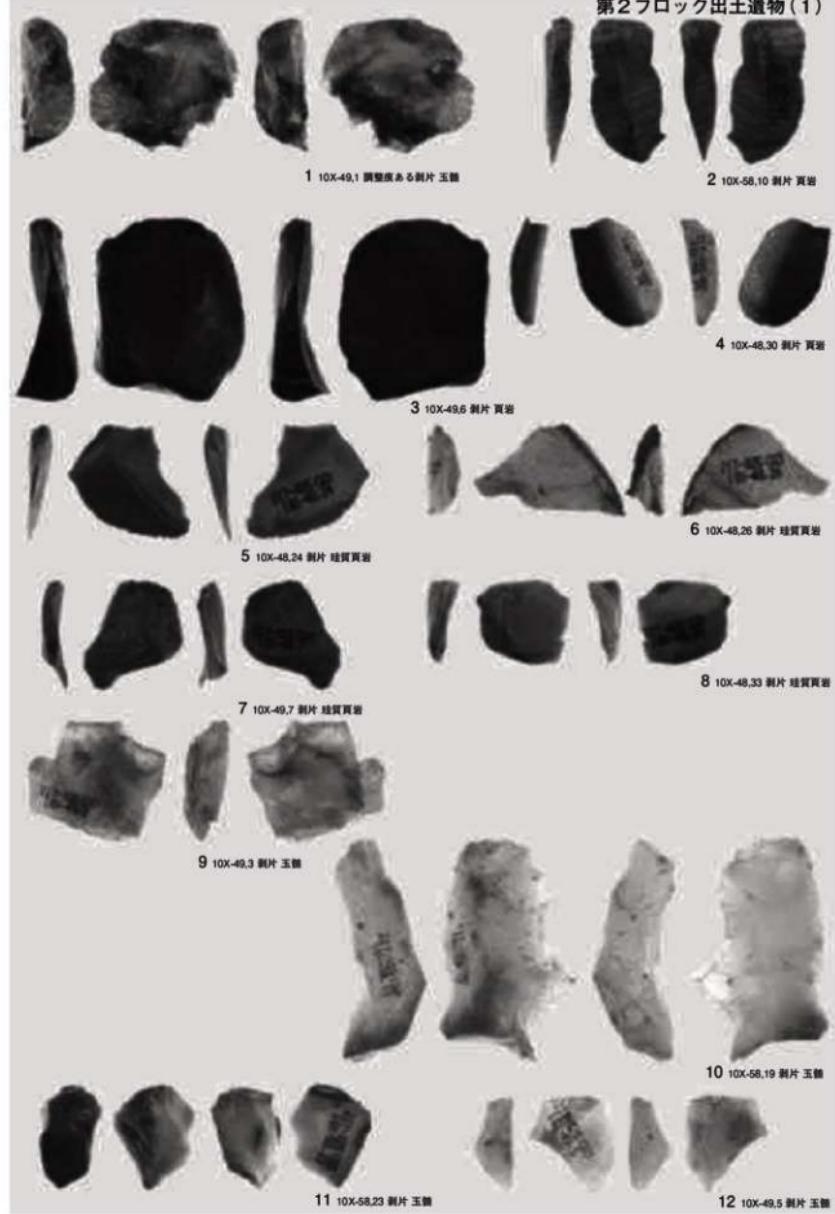
6 10Y-31.14 剥片 黑曜石



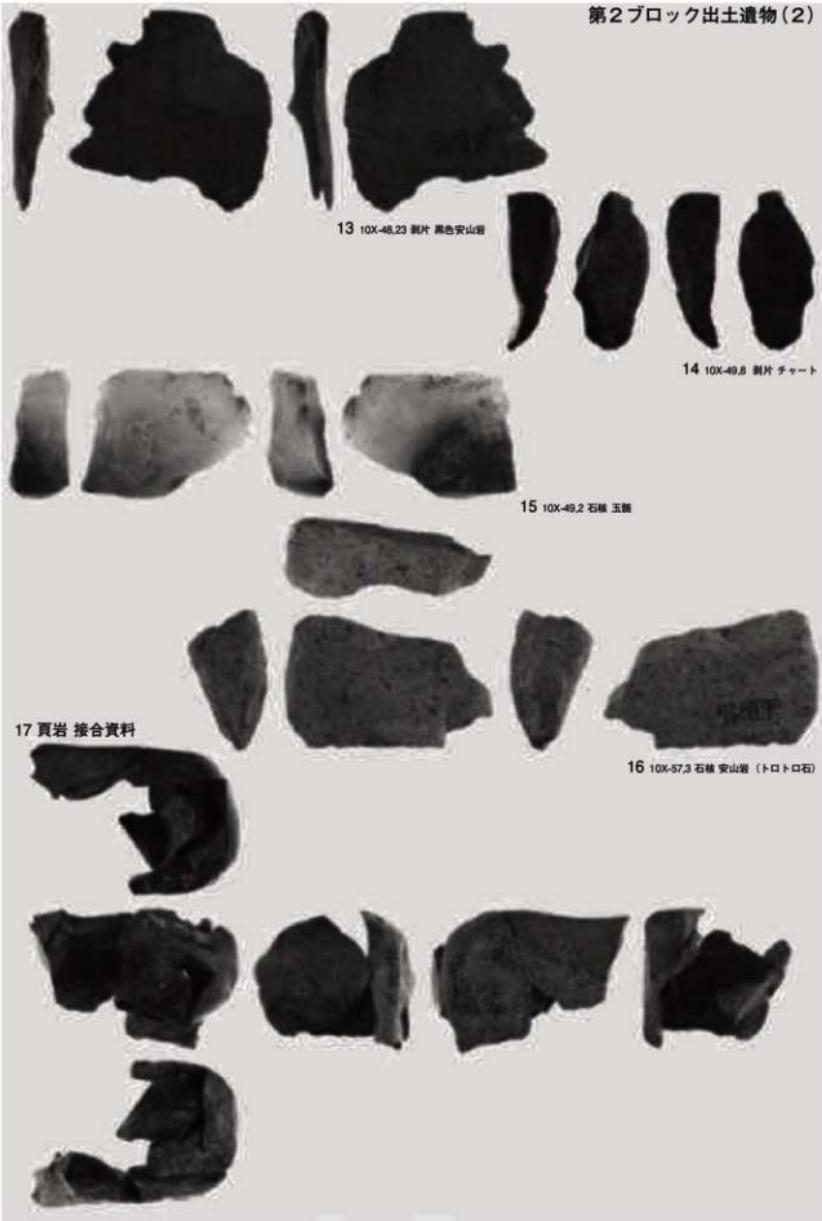
第1ブロック出土遺物(2)



第2ブロック出土遺物(1)



第2ブロック出土遺物(2)



17 灰岩 接合資料

第2ブロック出土遺物(3)



17-1 10X-48.19 剥片



17-2 10X-48.32 調整痕ある剥片



17-3 10X-48.27 剥片



17-4 10X-48.20 調整痕ある剥片



17-5 10X-48.16 調整痕ある剥片



17-6 10X-48.28 剥片



17-7 10X-48.15 剥片



17-8 10X-58.8 調整痕ある剥片



17-9 10X-48.22 調整痕ある剥片

18 灰岩 接合資料



18 10X-58.9 調整痕ある剥片



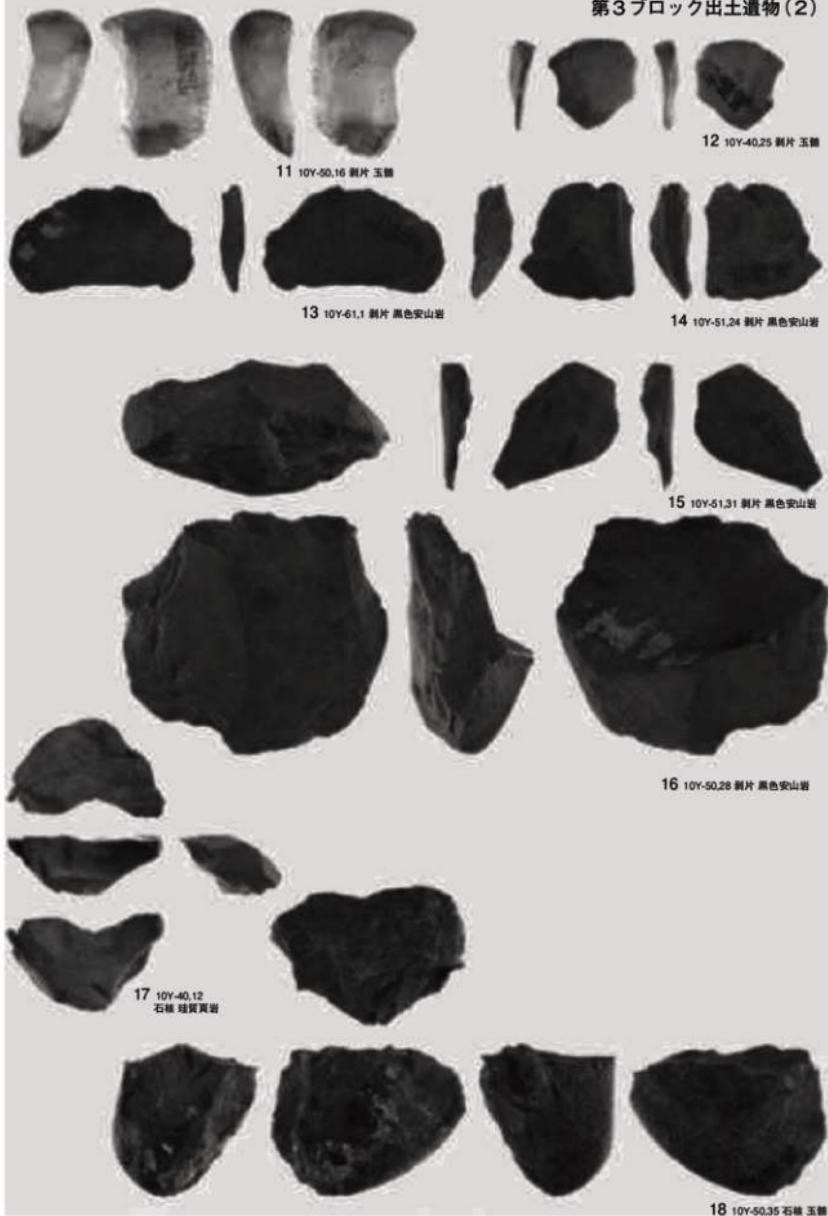
18-1 10X-58.20 剥片

19 10X-58.7
砂岩

第3ブロック出土遺物(1)



第3 ブロック出土遺物(2)



19 流紋岩 接合資料



第3ブロック出土遺物(3)

19-1 10Y-60.2 剥片



20 黒色安山岩 接合資料



19-2 10Y-60.1 剥片

21 黒色安山岩 接合資料

20-1 10Y-50.27
調整度ある剥片

20-2 10Y-50.36 剥片

21-2 10Y-51.4 剥片

21-1 10Y-51.34 剥片

21 黒色安山岩 接合資料



第3ブロック出土遺物(4)

21-3 10Y-60, 4 剥片
10Y-51,15 剥片

22 黒色安山岩 接合資料



22-1 10Y-51,5 剥片

23 黒色安山岩 接合資料



22-2 10Y-51,25 剥片



23-1 10X-58,28 剥片
(第2ブロック)



23-2 10Y-51,36 剥片
10Y-51,29 剥片

24 珪質頁岩 接合資料

第3ブロック出土遺物(5)



25 珪質頁岩 接合資料

25 10Y-40,17 使用痕ある剥片
10Y-40,18 剥片

26 珪質頁岩 接合資料

26-1 10Y-51,9 剥片

26-2 10Y-51,33 剥片

27 頁岩 接合資料

第3 ブロック出土遺物(6)



27-1 10Y-50.33 削片



27-2 10Y-40.5 削片

第4 ブロック出土遺物(1)

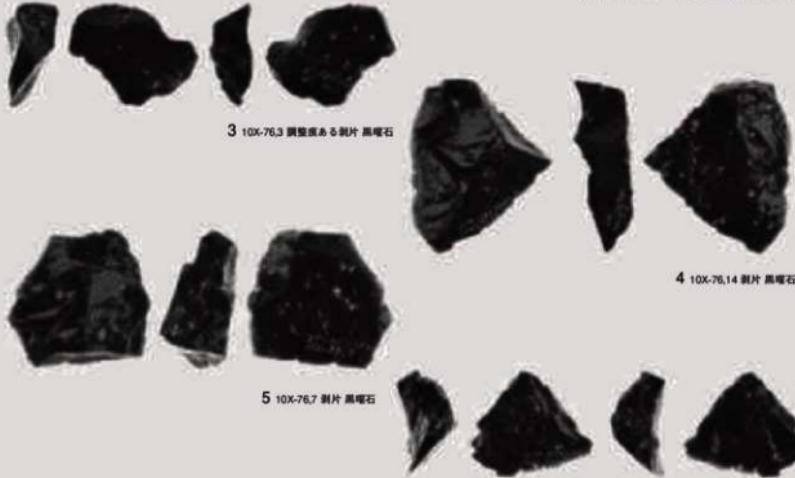


1 10X-76.6 ナイフ形石器 黒曜石



2 10X-76.2 調整痕ある削片 黒曜石

第4ブロック出土遺物(2)



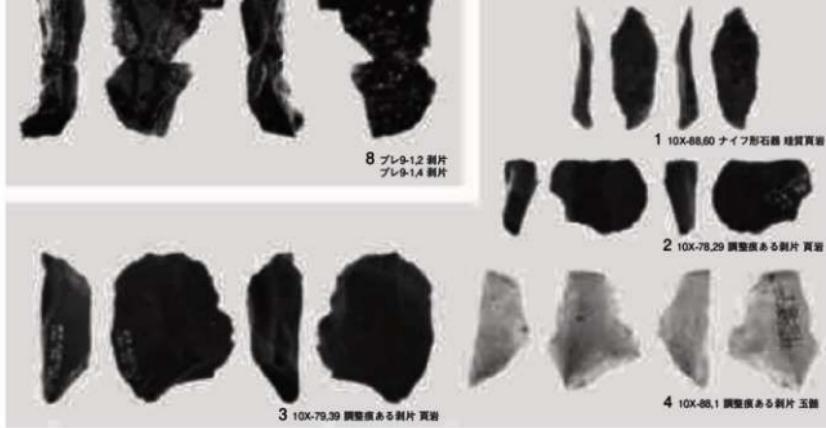
7 黒曜石 接合資料



8 黒曜石 接合資料



第5ブロック出土遺物(1)



第5ブロック出土遺物(2)



5 10X-76.39 剥片 砂質頁岩



6 10X-86.20 剥片 砂質頁岩



7 10X-86.8 剥片 ホルンフェルス



8 10X-88.85 剥片 黒色安山岩



9 10X-97.14 剥片 砂質頁岩

第5ブロック出土遺物(3)



10 10X-78.1 剥片 黒色安山岩



11 10X-97.4 剥片 ホルンフェルス



12 10X-67.2 剥片 黒色安山岩



13 10X-78.37 剥片 黒色安山岩



14 10X-89.6 剥片 流紋岩



15 10X-76.24a 剥片 結質頁岩



16 10X-96.1a 剥片 結質頁岩



17 10X-79.69 剥片 結質頁岩



18 10X-76.30 剥片 結質頁岩

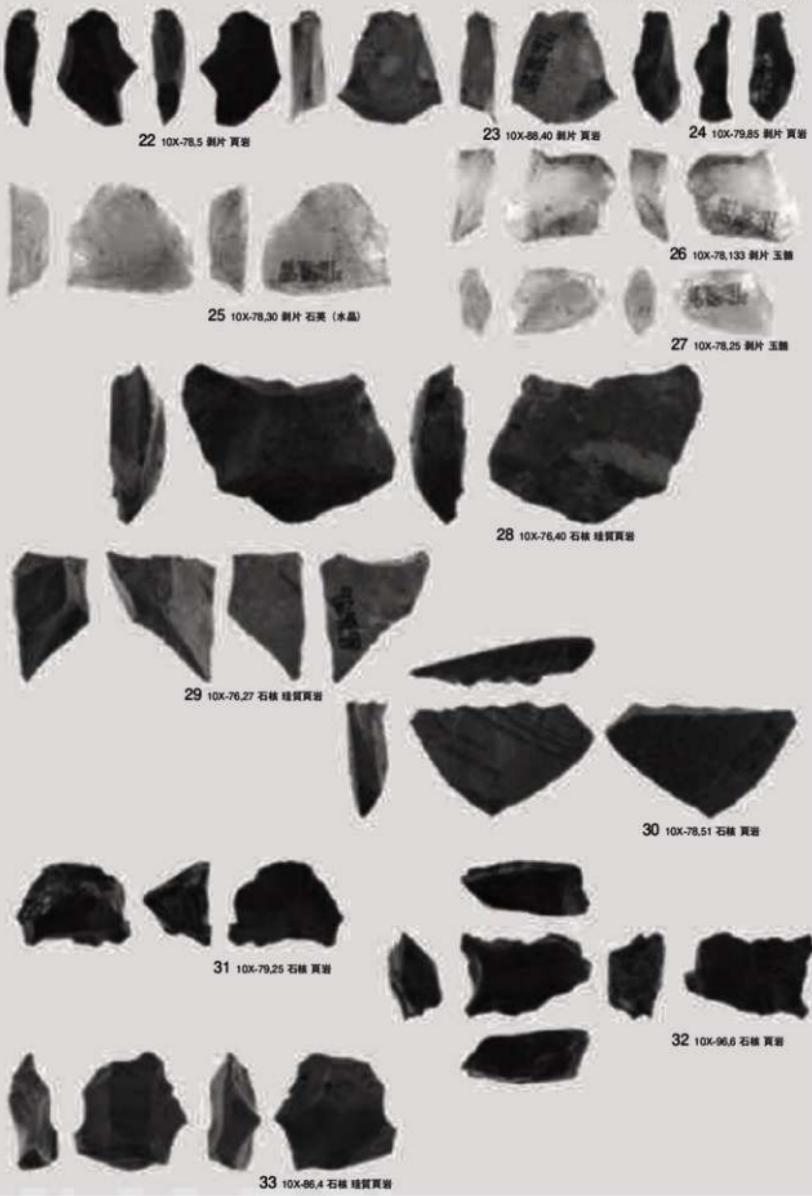


19 10X-88.18 剥片 結質頁岩

20 10X-88.22 剥片 黄岩

21 10X-98.2 剥片 黄岩

第5ブロック出土遺物(4)



第5ブロック出土遺物(5)

34 灰岩 接合資料



第5ブロック出土遺物(6)

35 黒色安山岩 接合資料



35 10X-96.2 剥離面ある削片
10X-97.9 石錠

36 白岩 接合資料



36 10X-77.11 石錠

36-1 10X-77.7 削片

37 頁岩 接合資料

第5 ブロック出土遺物(7)



38 頁岩 接合資料

(第2 ブロック)

38-1 10X-57.1 剥片

38-2 10X-78.127 剥片

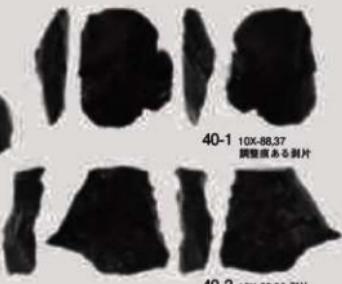
第5ブロック出土遺物(8)



39 磁岩 接合資料



40 磁岩 接合資料



41 灰岩 接合資料



第5 ブロック出土遺物(9)



42 灰岩 接合資料



42-1 10X-78.57 剥片



42-2 10X-78.40 剥片

43 灰岩 接合資料

43 10X-88.92 剥片
10X-89.11 剥片

44 灰岩 接合資料

44 10X-96.4 剥片
10X-96.5 削整度ある剥片

45 灰岩 接合資料



45-1 10X-78.11 剥片

45-2 10X-78.89 剥片

45-3 10X-78.91
削整度ある剥片45-4 10X-78.114
削整度ある剥片

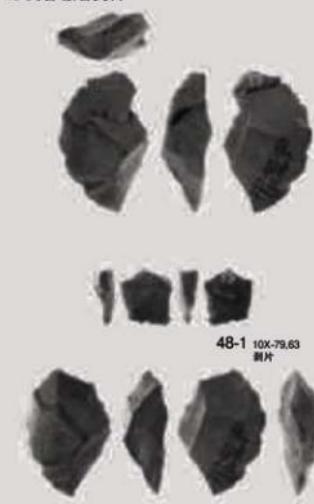
46 灰岩 接合資料



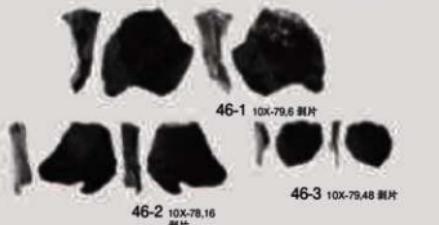
47 灰岩 接合資料



48 灰岩 接合資料



第5ブロック出土遺物(10)



46-2 10X-78.16 剥片

46-3 10X-78.48 剥片

47-1 10X-89.33 合形石器

47-1' 10X-78.22 台形石器

47-2 10X-89.31 調整痕ある剥片

47-3 10X-79.65 剥片

47-4 10X-78.88 調整痕ある剥片

49 灰岩 接合資料



(第3ブロック)

49-1 10Y-89.30 調整痕ある剥片

49-2 10X-89.22 合形石器

第5ブロック出土遺物(11)



50 珪質頁岩 混合資料

第五ブロック出土遺物(12)



50-2 10x-78.12 削片



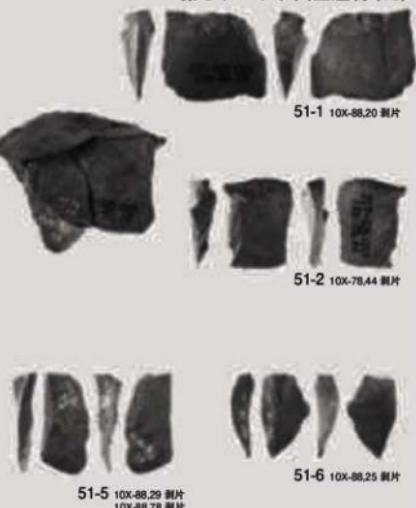
50-5 10x-47.17 砕片



51 瓦質頁岩 接合資料



第5ブロック出土遺物(13)



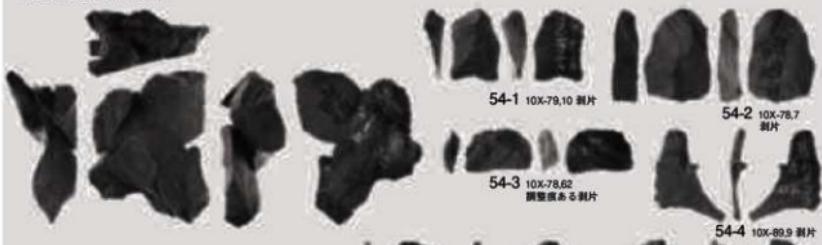
52 瓦質頁岩 接合資料



53 瓦質頁岩 接合資料

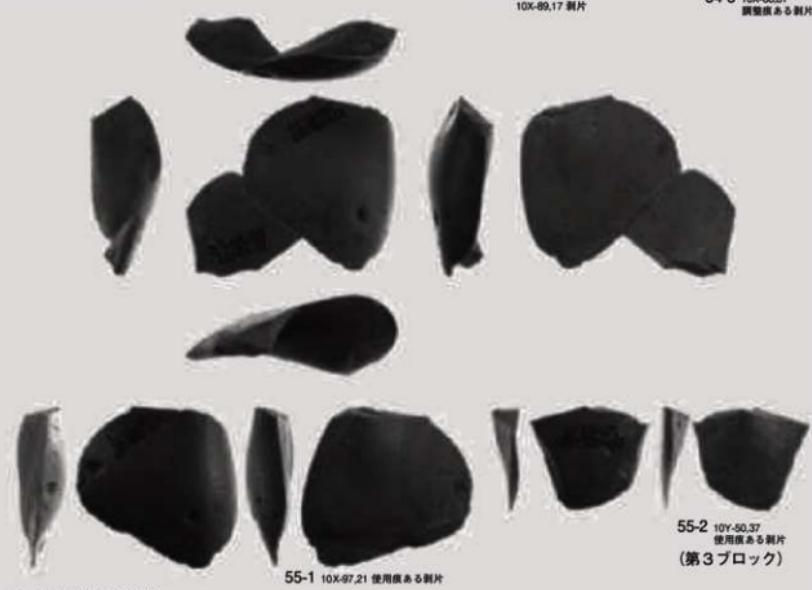


54 珪質頁岩 接合資料



第5ブロック出土遺物(14)

55 珪質頁岩 接合資料

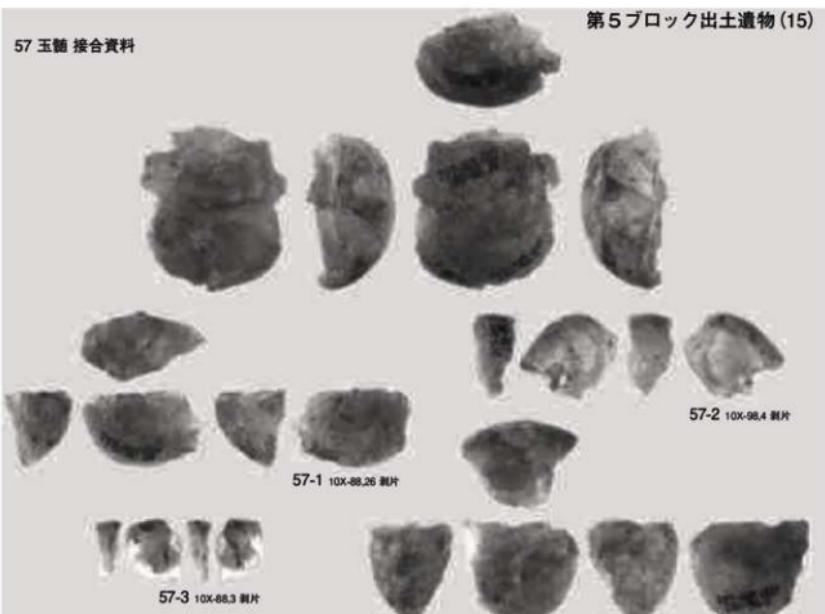


56 珪質頁岩 接合資料

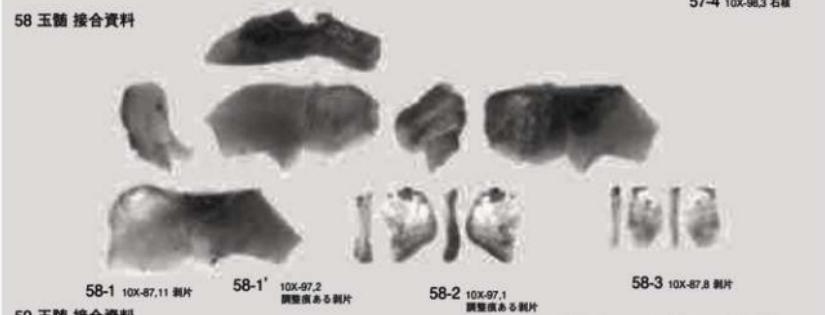


第5ブロック出土遺物(15)

57 玉髓 接合資料



58 玉髓 接合資料



59 玉髓 接合資料



60 石英 接合資料



第5ブロック出土遺物(16)



60-1 10X-88.24 削片



61 流紋岩 接合資料



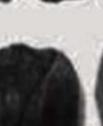
61-1 10X-79.11 削片

60-2 10X-88.79 石核

62 ホルンフェルス 接合資料



62-1 10X-86.10 削片



62-2 10X-97. 6 削片

10X-88.45

開窓底ある削片

第5ブロック出土遺物(17)

63 黒色安山岩 接合資料

63-1 10Y-50,21 削片
(第3ブロック)63-2 10Y-51,20 削片
(第3ブロック)

63-3 10X-88,43 削片

第5ブロック出土遺物(18)

64 黒色安山岩 接合資料



64-1 10X-97.20 剥片



64-2 10X-97.16 剥片

64 黒色安山岩 接合資料



第5 ブロック出土遺物 (19)



65 珪質頁岩 接合資料



66 黒色安山岩 接合資料



66 10X-78.19 剥片
10X-78.54 剥片

第6 ブロック出土遺物 (1)

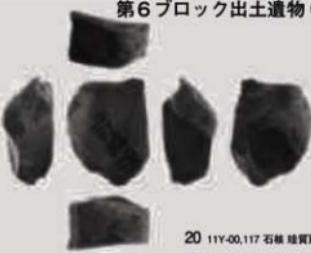


5 11Y-00.1 剥片 瓷器

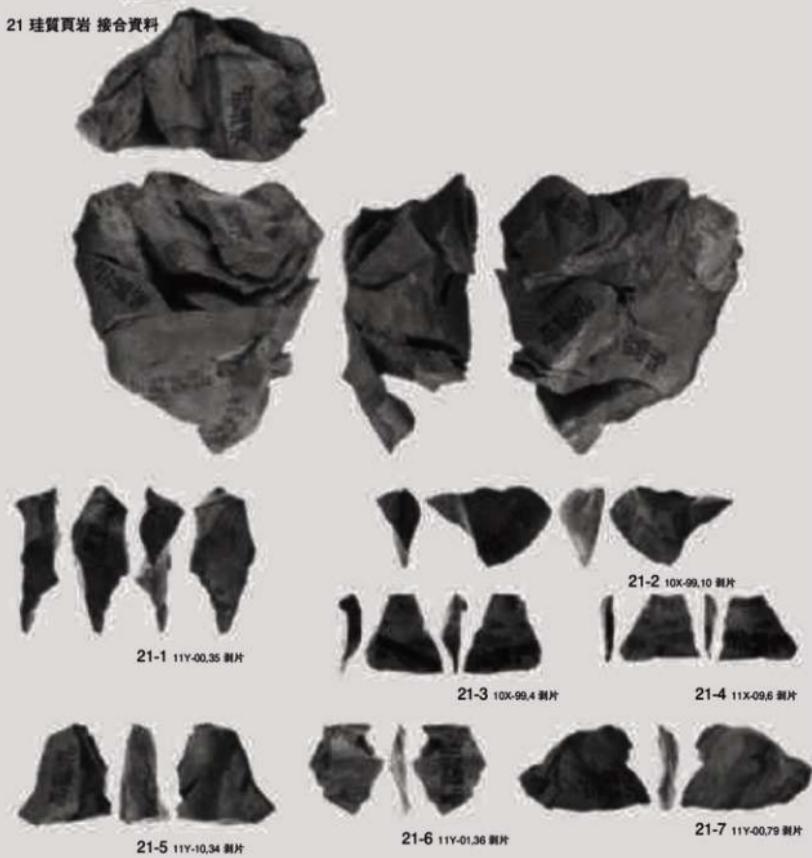
第6ブロック出土遺物(2)



第6ブロック出土遺物(3)



21 珪質頁岩 接合資料



21 珪質頁岩 接合資料

第6 ブロック出土遺物(4)



21-8 10Y-93.11 剥片



21-9 11Y-00.47 剥片



21-10 10Y-90.22 剥片



21-11 11Y-00.92 使用痕ある剥片

21-12 10X-09.7 使用痕ある剥片
21-13 11Y-00.50 剥片

21-14 11X-19.1 剥片



21-15 11X-08.3 剥片

21-16
10Y-90.21
剥片

21-17 11Y-00.31 剥片

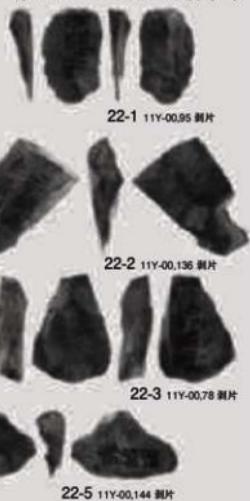


21-18 11Y-00.66 使用痕ある剥片

22 珪質頁岩 接合資料



第6 ブロック出土遺物(5)



23 珪質頁岩 接合資料



24 珪質頁岩 接合資料



25 チャート 接合資料

第6 ブロック出土遺物(6)



25-1 11Y-00.62 剥片



25-3 11Y-00.128 剥片



25-4 11Y-00.87 剥片



25-2 11Y-00.107 剥片



25-6 11Y-00.44 剥片

25-5 11Y-00.71
調整痕ある剥片

25-7 11Y-00.98 剥片



25-8 11Y-00.119 剥片



25-9 11Y-00.38 剥片



25-10 11Y-00.52 剥片

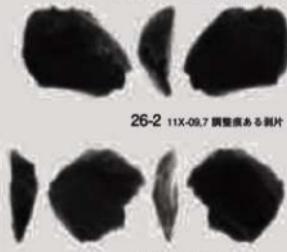


25-11 11Y-00.46 石核

26 チャート 接合資料



第6 ブロック出土遺物(7)



26-1 11X-09,13 楕形石器

26-2 11X-09,7 調整痕ある削片

26-3 11X-09,14 削片

27 チャート 接合資料



27-1 11Y-00,97 調整痕ある削片

27-2 11Y-00,121 石核

28 頁岩 接合資料



28-1 11Y-00,88 削片



28-2 11Y-00,139 削片

29 灰岩 接合資料



第6ブロック出土遺物(8)



29-1 11Y-01,15 剥片



29-2 11Y-01,10 剥片



29-3 11Y-01,31 橢形石器

30 灰岩 接合資料



30 11Y-00,131 剥片
11X-09, 9 石核

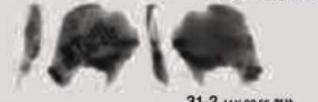


30-1 11Y-00,131 剥片

31 灰岩 接合資料

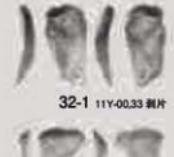


31-1 11Y-00,29 剥片



31-2 11Y-00,55 剥片

32 玉髓 接合資料



32-1 11Y-00,33 剥片



32-2 11Y-00,86 剥片



32-3 10X-99,6
調整痕ある剥片



32-4 11Y-00,96 石核

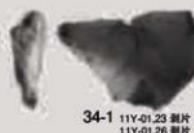
33 玉隨 接合資料



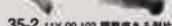
第6 ブロック出土遺物(9)



34 玉隨 接合資料



35 石英 接合資料



36 珪質頁岩 接合資料



36 11Y-00,133 剥片
11Y-00,120 滑整痕ある剥片



第7ブロック出土遺物(1)



15 県岩 接合資料

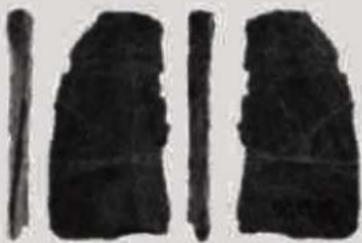
15 11Y-10.2 剥片
11Y-10.3 剥片

第7ブロック出土遺物(2)



16 11Y-01.1 原石 安山岩(トロトロ石)

第8ブロック出土遺物

1 プレ-17-1.23
使用底ある剥片 チャート

2 プレ-17-1.5 石核 県岩

第9ブロック出土遺物(1)



1 11W-08.1 石核 黒色安山岩

第9ブロック出土遺物(2)

2 黒色安山岩 接合資料



2 11W-27.1 剥片
11W-09.1 剥片

2-1 11W-09.1 剥片

第10ブロック出土遺物



1 12AA-35.1 剥片 玉筋

第11ブロック出土遺物



1 12BB-29.1 ナイフ形石器 ホルンフェルス



2 12CC-20.1 剥片 黑曜石



3 12CC-20.3 剥片 流紋岩

第12ブロック出土遺物(1)



11 チャート 接合資料



12 チャート 接合資料

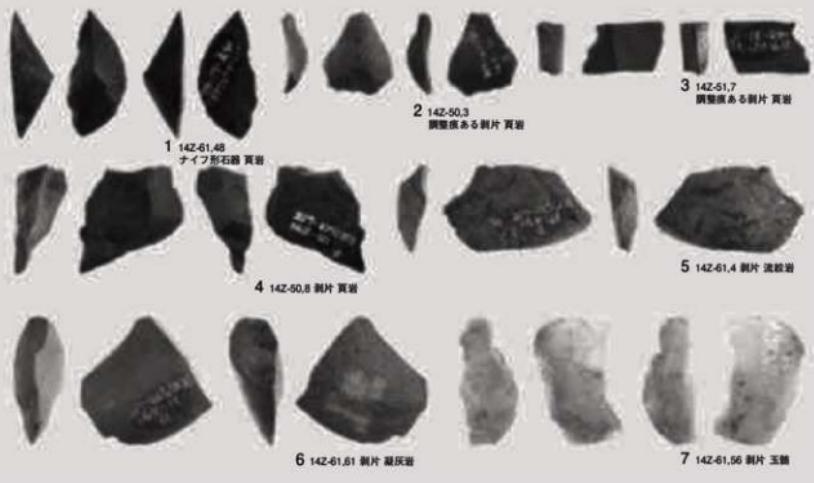
第12ブロック出土遺物(2)



第13ブロック出土遺物



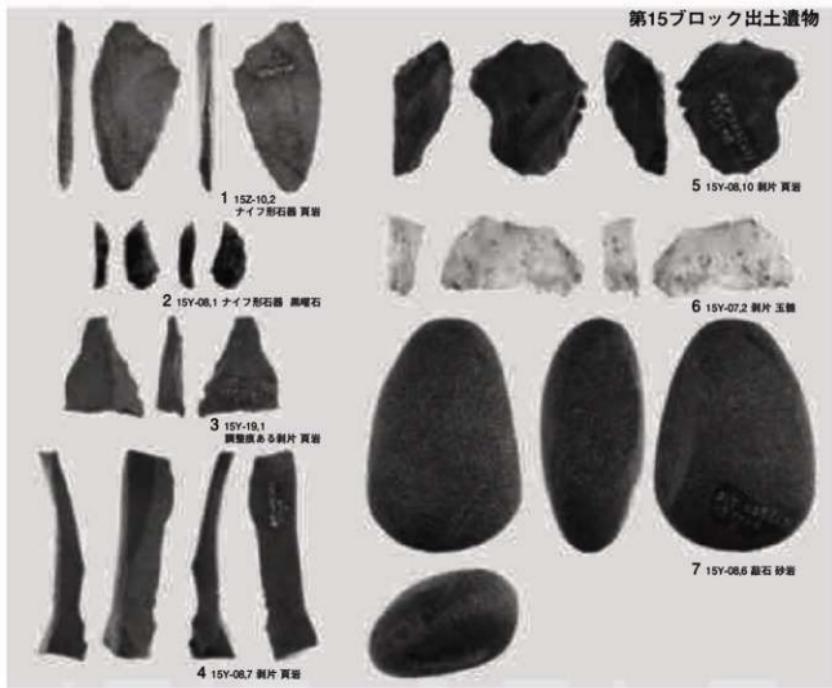
第14ブロック出土遺物(1)



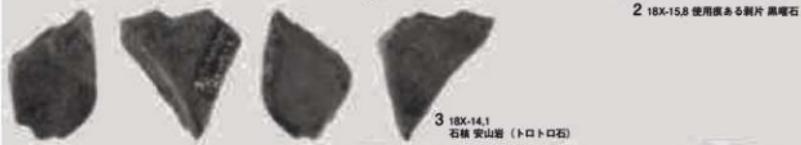
第14ブロック出土遺物(2)



第15ブロック出土遺物



第16ブロック出土遺物



5 頁岩 接合資料

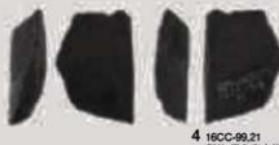


5-2 18X-25.3 石核

第17ブロック出土遺物(1)



1 16CC-99.20 ナイフ形石器 玉髓

2 16CC-99.8
調整痕ある剥片 黒色安山岩3 16CC-99.42
調整痕ある剥片 黒色安山岩4 16CC-99.21
剥片 黒色安山岩

5 16CC-99.13 剥片 細質頁岩



6 16CC-99.18 剥片 ホルンフェルス

第17ブロック出土遺物(2)

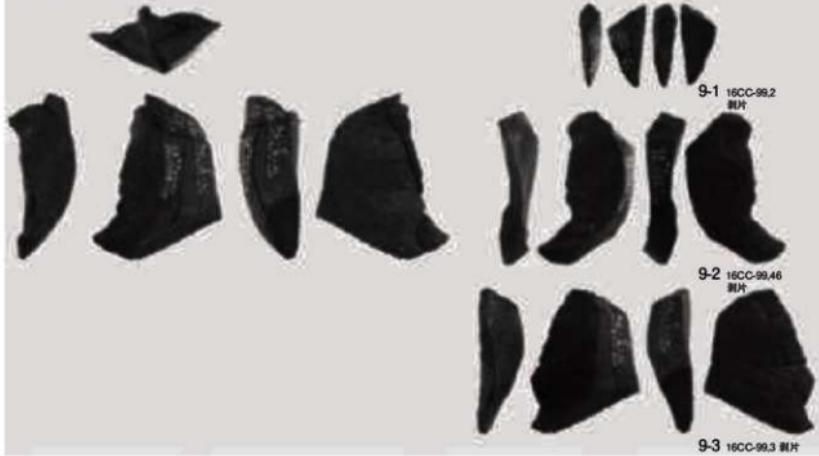


7 16CC-98.1 石核 ホルンフェルス



8 16CC-99.12 石核 ホルンフェルス

9 ホルンフェルス 接合資料

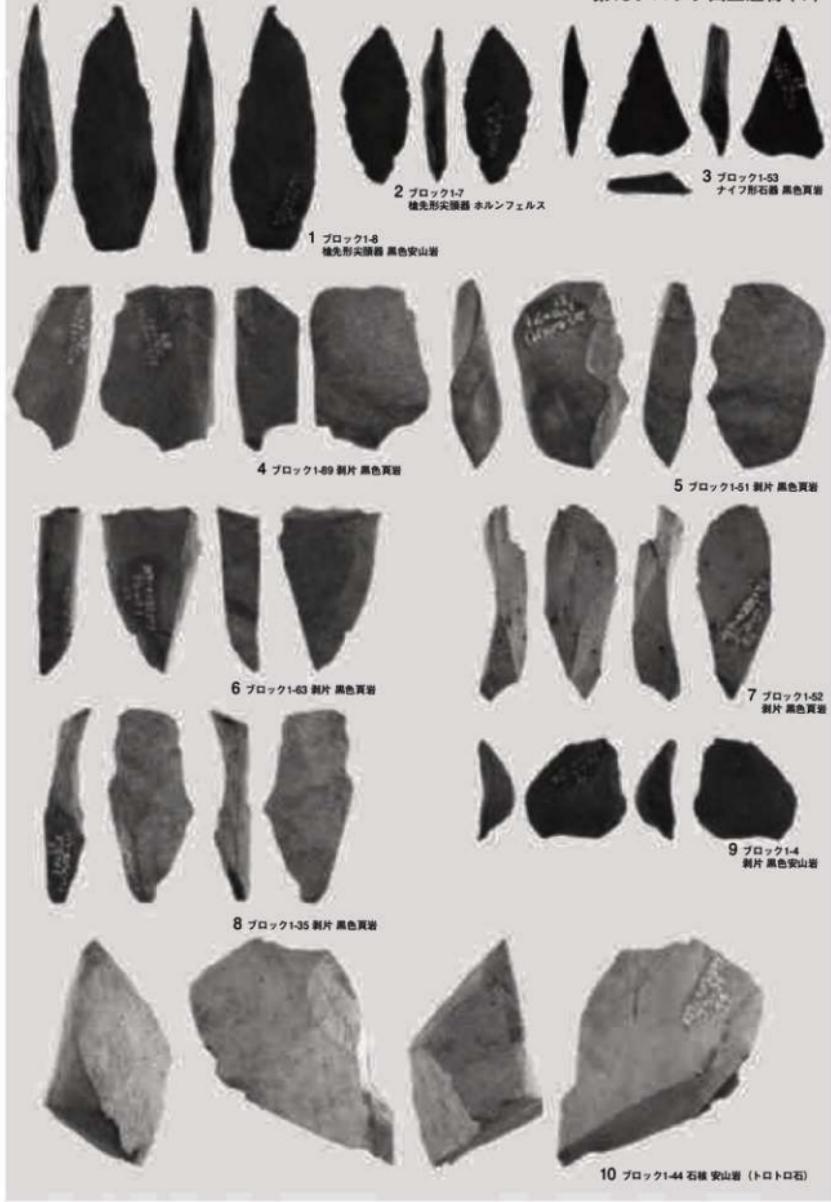


9-1 16CC-99.2 剥片

9-2 16CC-99.46 剥片

9-3 16CC-99.3 剥片

第18ブロック出土遺物(1)



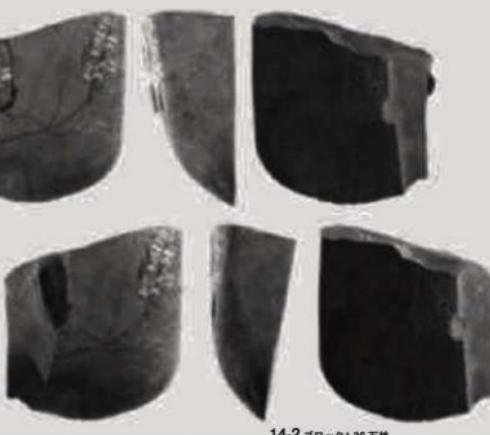
第18ブロック
出土遺物(2)



13 黒色頁岩 接合資料

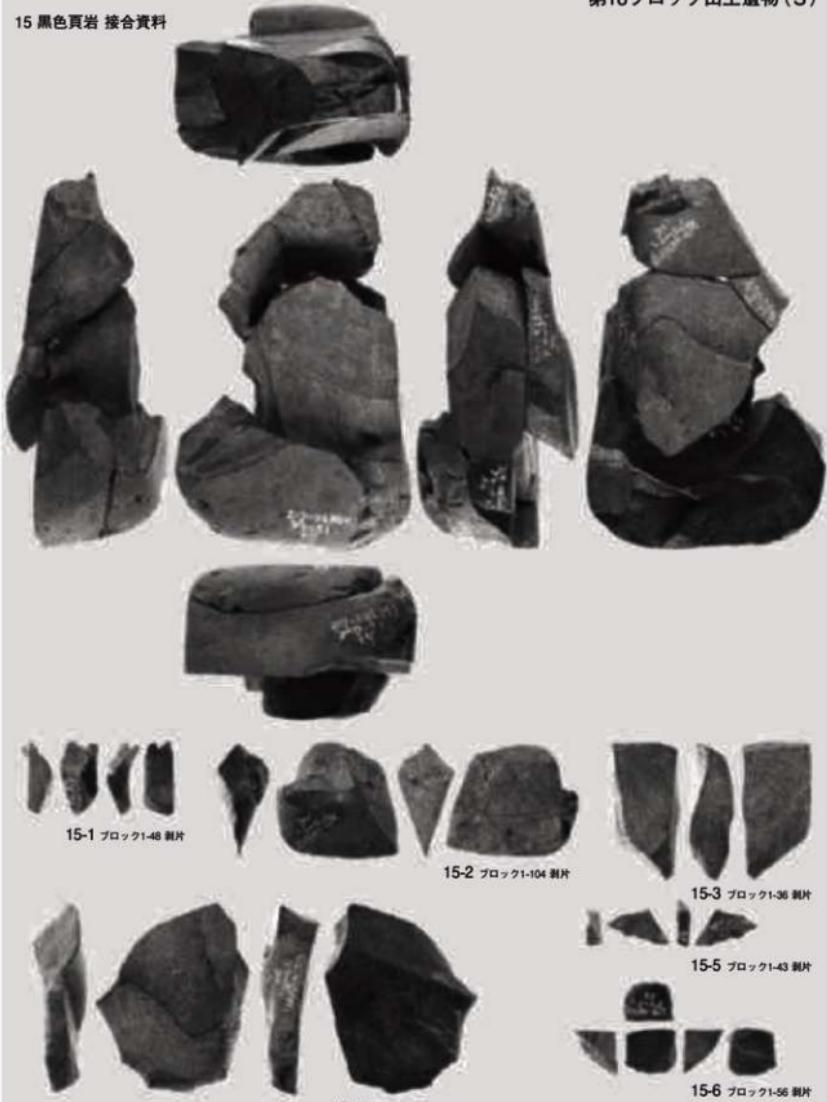


14 黒色頁岩 接合資料



第18ブロック出土遺物(3)

15 黒色頁岩 接合資料



15 黒色頁岩 接合資料



第18ブロック出土遺物(4)

15-7 ブロック1-65 挿器



15-8 ブロック1-88
開削底ある剥片



15-9 ブロック1-29 石核

16 黒色頁岩 接合資料



16-1 ブロック1-45
剥片



16-2 ブロック1-54 挿器

第19ブロック出土遺物(1)



4 チャート 接合資料



5 黒色頁岩 接合資料



第19ブロック出土遺物(2)



5-1 18DD-76.15 調整度ある剥片

5-2 18DD-86.84 剥片

第20ブロック出土遺物(1)



1 20FF-19.4 植先形尖頭器 頁岩

4 19FF-99.6 剥片 ホルンフェルス



2 20FF-09.12 植器 宮山岩



3 20FF-08.5 剥片 黒色頁岩

第20ブロック出土遺物(2)



第21ブロック出土遺物



第22ブロック出土遺物

第23ブロック出土遺物(1)



1 23HH-40.5 ナイフ形石器 黒色頁岩

3 23HH-40.6 調整痕ある剥片 黒曜石

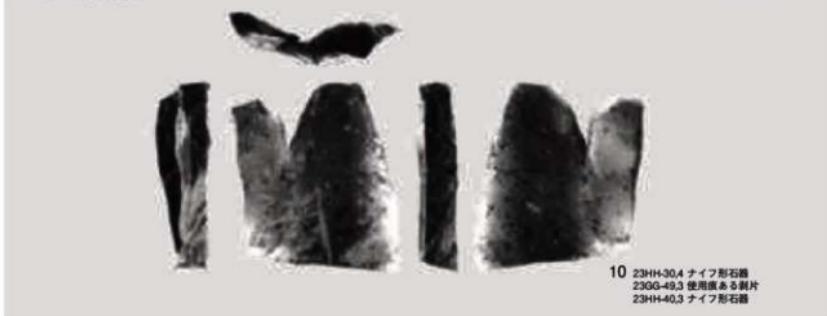
4 23GG-38.3 剥片 黒曜石

5 23GG-39.4 剥片 黒曜石

第23ブロック出土遺物(2)



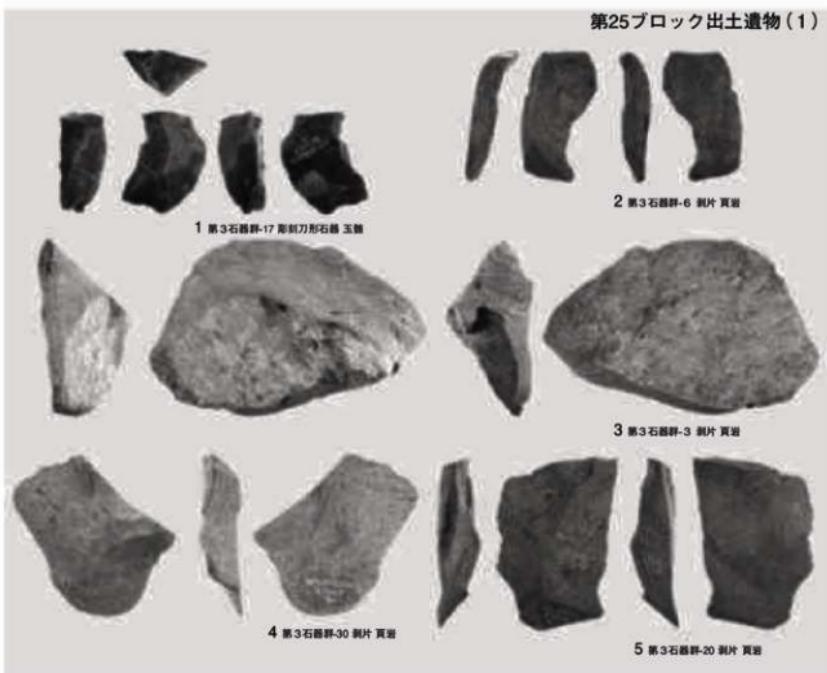
10 黒曜石 接合資料



第23ブロック出土遺物 (3)



第24ブロック出土遺物



第25ブロック出土遺物(2)



6 第3石器群-19 剣片 ホルンフェルス



7 第3石器群-7 剣片 ホルンフェルス



8 第3石器群-23 剣片 チャート



9 第3石器群-29 剣片 黒色安山岩



10 第3石器群-12 石核 ホルンフェルス

11 紙岩 接合資料

11 第3石器群-1 剑片
第3石器群-2 剑片

第25ブロック出土遺物(3)

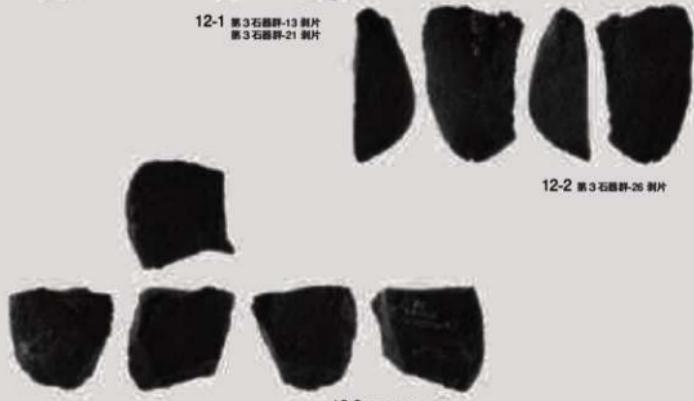
12 黒色安山岩 接合資料



12-1 第3石器群-13 削片
第3石器群-21 削片

12-2 第3石器群-26 削片

12-3 第3石器群-28 石核

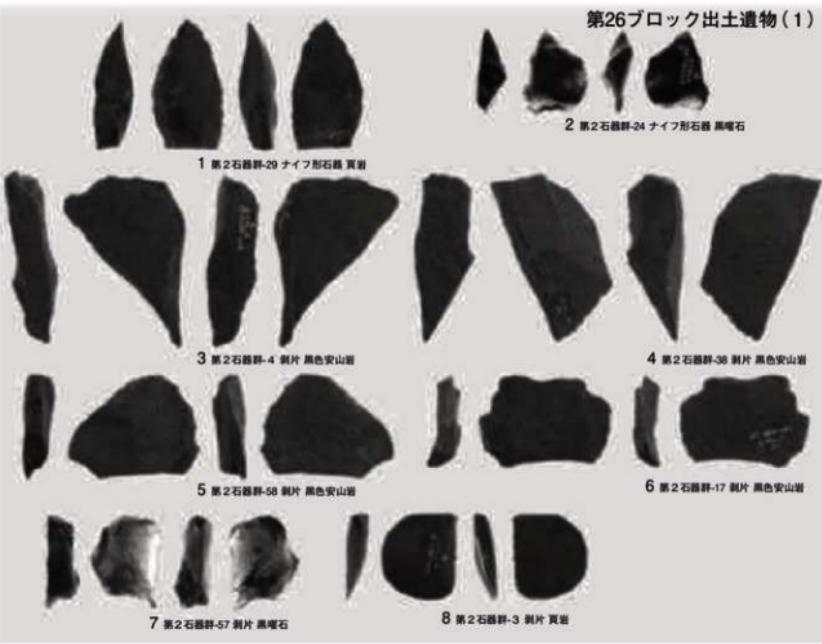


13 安山岩（トロトロ石）接合資料

第25ブロック出土遺物(4)

13 第3石器群-31 剥片
第3石器群-5 石核

第26ブロック出土遺物(1)



1 第2石器群-29 ナイフ形石器 頁岩

2 第2石器群-24 ナイフ形石器 黒曜石

3 第2石器群-4 剥片 黑色安山岩

4 第2石器群-38 剥片 黑色安山岩

5 第2石器群-58 剥片 黑色安山岩

6 第2石器群-17 剥片 黑色安山岩

7 第2石器群-57 剥片 黑曜石

8 第2石器群-3 剥片 頁岩

第26ブロック出土遺物(2)



9 第2石器群-32 石核 黒色安山岩

10 黒色安山岩 接合資料



10-1 第2石器群-43
調整度ある剥片



10-2 第2石器群-59 調整度ある剥片



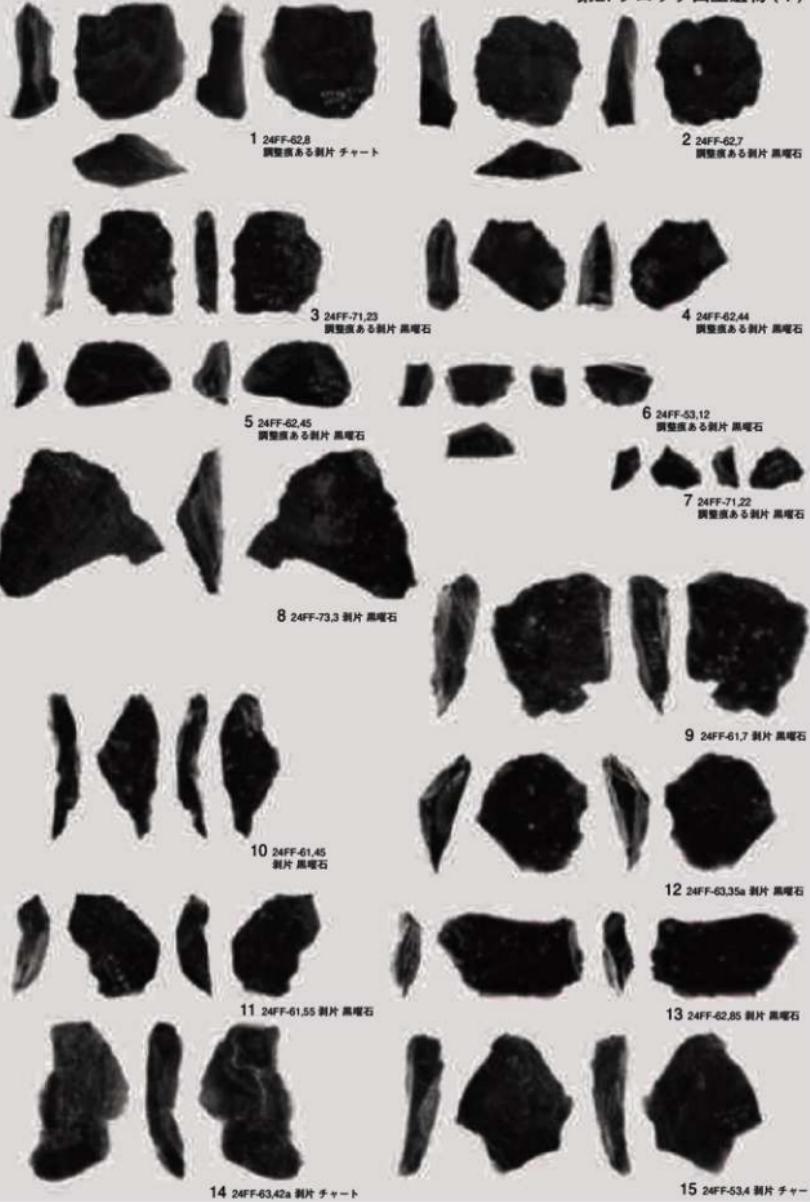
10-3 第2石器群-45 剥片

11 黒色安山 接合資料



11 第2石器群-2 剥片
第2石器群-14 條形石器

第27ブロック出土遺物(1)



第27ブロック出土遺物(2)



16 24EE-59.3 石核 黒曜石



17 24FF-61.41 石核 黒曜石



18 24FF-62.33 石核 チャート

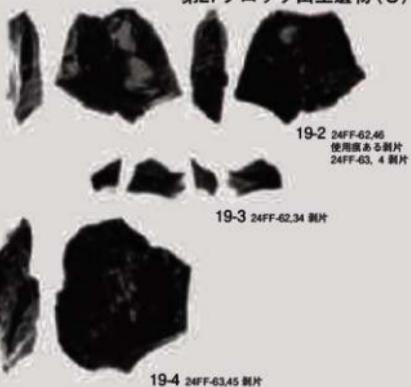
19 黒曜石 接合資料



19 黒曜石 接合資料



第27ブロック出土遺物(3)



20 黒曜石 接合資料



21 黒曜石 接合資料



21 黒曜石 接合資料



21-3 24FF-62.58a 石核

第27ブロック出土遺物(4)

22 黒曜石 接合資料



22-1 24FF-62.3
調整痕ある剥片



22-2 24FF-62.6 調整痕ある剥片
24FF-62.41 使用痕ある剥片



22-3 24FF-62.12 接器



22-3' 24FF-72.3
調整痕ある剥片



22-3'' 24FF-62.54 使用痕ある剥片

22 黒曜石 接合資料



22-4 24FF-62.5a 石核



23 黒曜石 接合資料



23-1 24FF-62.50 削片



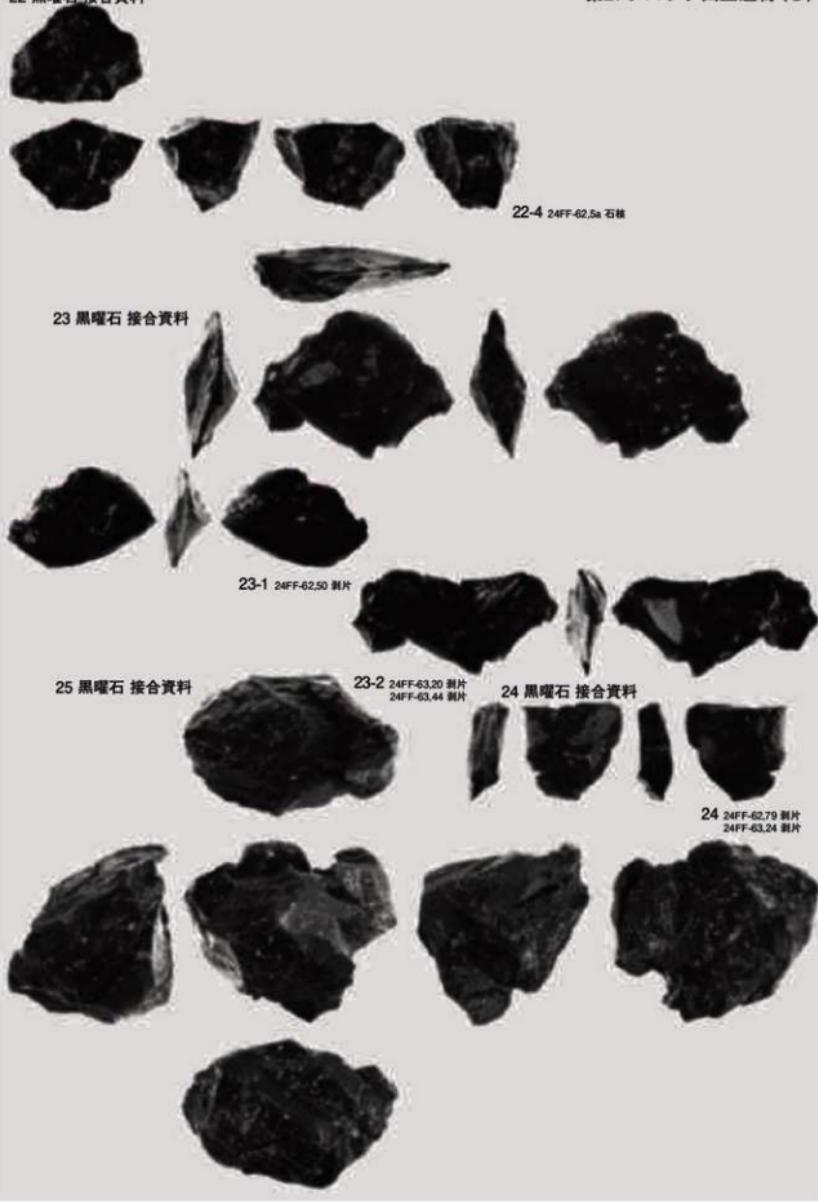
25 黒曜石 接合資料

23-2 24FF-63.20 削片
24FF-63.44 削片

24 黒曜石 接合資料

24 24FF-62.79 削片
24FF-63.24 削片

第27ブロック出土遺物(5)

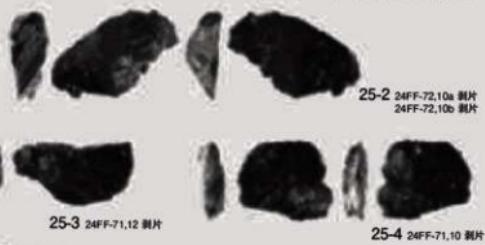


25 黒曜石 接合資料



25-1 24FF-72.5 剣片

第27ブロック出土遺物(6)



25-2 24FF-72.10a 剣片
24FF-72.10b 剣片

25-3 24FF-71.12 剣片

25-4 24FF-71.10 剣片



25-5 24FF-71.19 石核

26 黒曜石 接合資料



26 24FF-71.20 石核
24FF-71.6 剣片

27 黒曜石 接合資料

27 24FF-60,11 剥片
24FF-60,12 剥片

29 黒曜石 接合資料

29 24FF-62,80 調整度ある剥片
24FF-62,57 調整度ある剥片

第27ブロック出土遺物(7)

28 黒曜石 接合資料

28 24FF-71, 5 剥片
24FF-71,13 剥片

31 チャート 接合資料

31-1 24FF-62,97 剥片
31-2 24FF-63,25 剥片

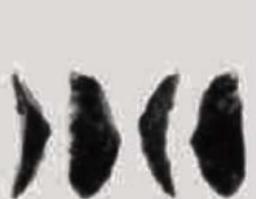
30 黒曜石 接合資料

30 24FF-62,86 剥片
24FF-63,12 剥片

32 チャート 接合資料

32 24FF-62,22a 剥片
24FF-62,22b 剥片

第28ブロック出土遺物(1)

1 24FF-41,33
ナイフ形石器 黒曜石2 24FF-41,29
ナイフ形石器 黒曜石3 24FF-41,15
ナイフ形石器 黒曜石

第28ブロック出土遺物(2)



4 24FF-41.32 剥片 黒曜石



5 24FF-40.3 剥片 黒曜石



6 24FF-41.44 剥片 黒曜石



7 24FF-41.40 剥片 黒曜石



8 24FF-41.8 石核 黒曜石



9 24FF-41.19a 石核 黒曜石

第28ブロック出土遺物(3)



10 24FF-40.6 石核 安山岩



11 黒曜石 接合資料



11-2 24FF-40.5 剥片

11-1 24FF-41.41
使用痕ある剥片

11-3 24FF-41.39 剥片

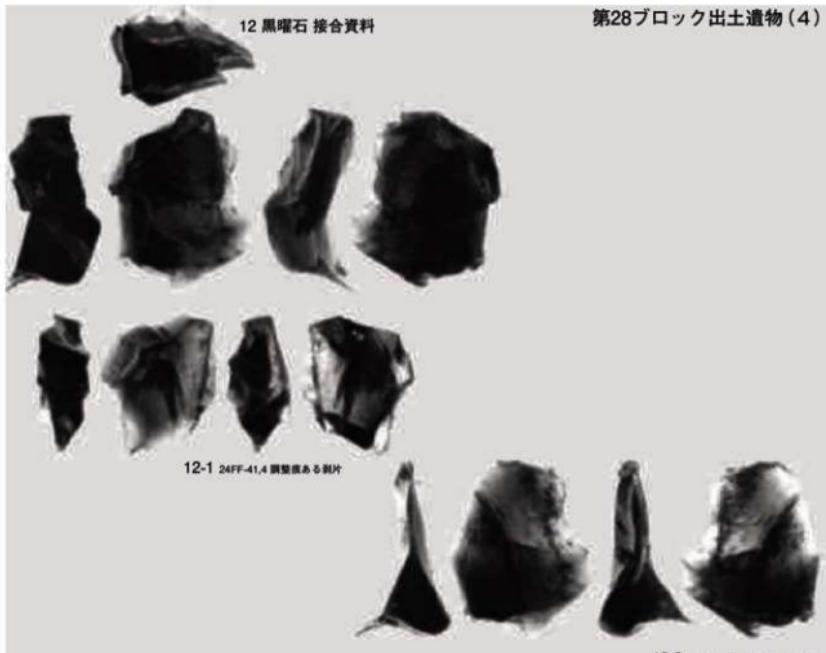
11-5 24FF-41.30 剥片

11-6 24FF-41.17 刮削痕ある剥片

11-4 24FF-41.21 剥片

12 黒曜石 接合資料

第28ブロック出土遺物(4)



12-1 24FF-41.4 調整度ある剥片

12-2 24FF-41.20 使用度ある剥片

13 黒曜石 接合資料



13-1 24FF-41.9 剥片
24FF-41.31
使用度ある剥片

13-2 24FF-41.37
使用度ある剥片

13-3 24FF-41.25
調整度ある剥片

14 黒曜石 接合資料

14 24FF-41.38a 使用度ある剥片
24FF-41.38b 使用度ある剥片

第28ブロック出土遺物(5)

15 黒曜石 接合資料

15 24FF-41.43 使用痕ある剥片
24FF-41.46 剥片

第29ブロック出土遺物



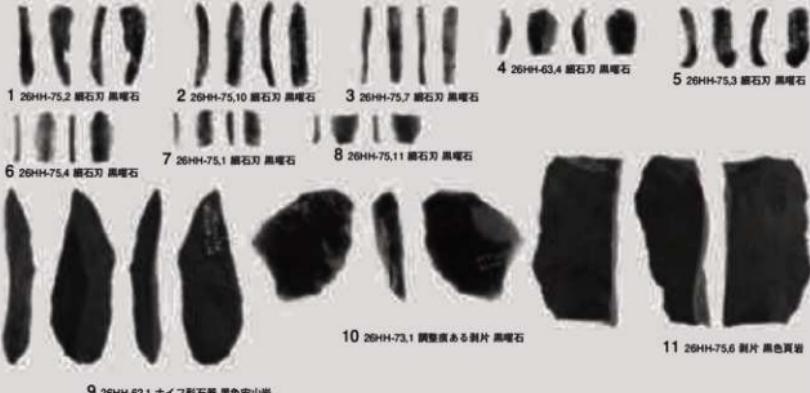
1 25FF-55.3 剥片 安山岩(トロトロ石)



2 25FF-55.4 剥片 黒色安山岩

3 25FF-45.3 剥片 黒色安山岩

第30ブロック出土遺物(1)



1 26HH-75.2 剥石刀 黒曜石

2 26HH-75.10 剥石刀 黒曜石

3 26HH-75.7 剥石刀 黒曜石

4 26HH-63.4 剥石刀 黒曜石

5 26HH-75.3 剥石刀 黒曜石

6 26HH-75.4 剥石刀 黒曜石

7 26HH-75.1 剥石刀 黒曜石

8 26HH-75.11 剥石刀 黒曜石

10 26HH-73.1 刃面痕ある剥片 黒曜石

11 26HH-75.6 剥片 黒色頁岩

9 26HH-62.1 ナイフ形石器 黒色安山岩

第30ブロック出土遺物(2)



12 26H+63.2 剥片 黒色安山岩

第31ブロック出土遺物(1)



2 27GG-07.2 ナイフ形石器 流紋岩

3 27GG-07.3 ナイフ形石器 黒色

1 27GG-06.4 ナイフ形石器
安山岩(トロトロ石)



4 27GG-16.13 剥片 黒色安山岩

5 27GG-16.20 剥片 黒色安山岩



6 27GG-16.15 剥片 黒色安山岩

7 27GG-17.5 剥片 黒色安山岩



8 27GG-07.4 剥片 黒色安山岩

9 27GG-07.7 剥片 ホルンフェルス

第31ブロック出土遺物(2)
11 ホルンフェルス 接合資料



10 27GG-16.18 削片 黒色安山岩



11-1 27GG-16.9 削片

11-2 27GG-16.24 削片



12-1 27GG-07.6 削片



12-3 27GG-17.2 削片

12-2 27GG-06.3 削片



12-4 27GG-06.2 削片



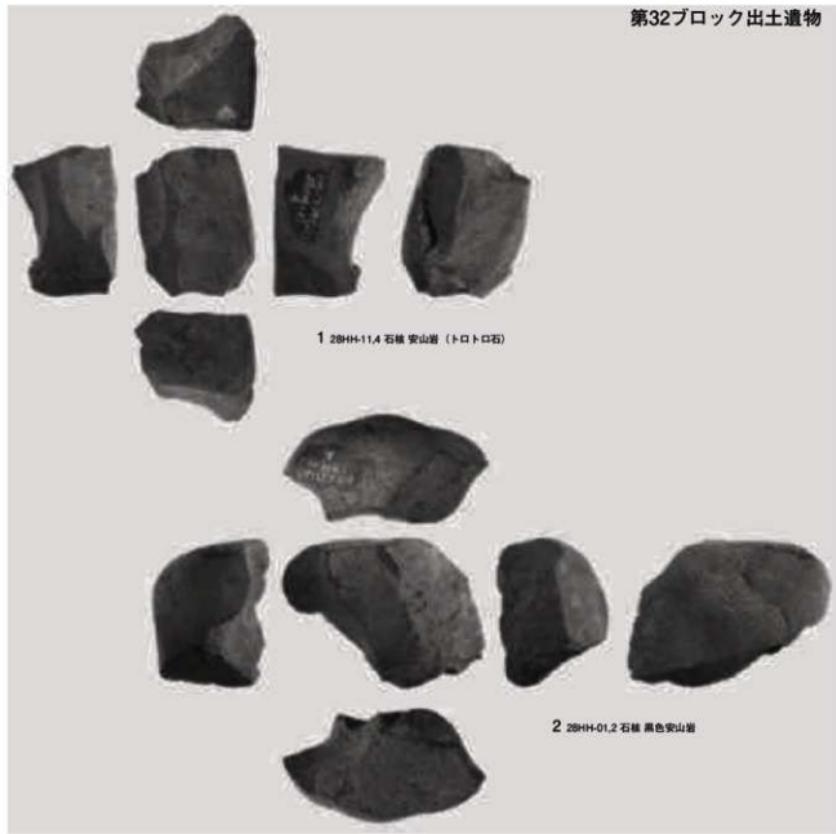
12-5 27GG-16.3 削片

13 黒色安山岩 接合資料

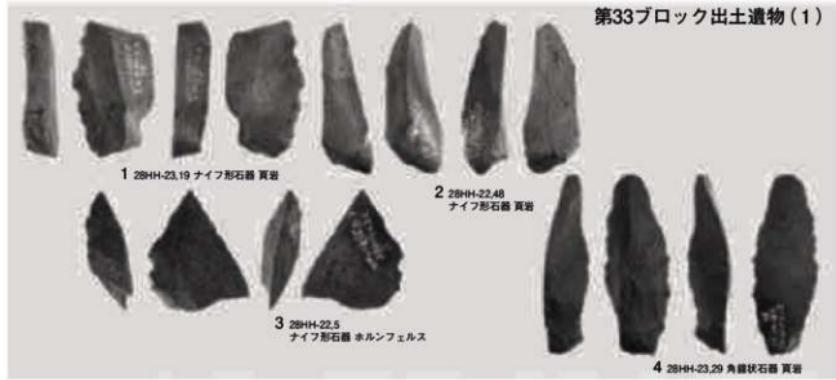
第31ブロック出土遺物(3)



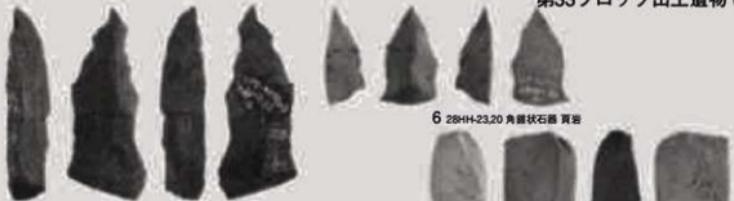
第32ブロック出土遺物



第33ブロック出土遺物（1）



第33ブロック出土遺物(2)



5 28HH-22.28 角錐状石器
28HH-22.39 角錐状石器 黒色安山岩

6 28HH-23.20 角錐状石器 白岩

7 28HH-22.47 調整痕ある剥片 白岩

8 28HH-22.8 調整痕ある剥片 黒色安山岩

10 28HH-23.26 剥片 黒色安山岩

9 28HH-22.10 剥片 ホルンフェルス

11 28HH-23.13 剥片 白岩

12 28HH-23.44 剥片 黒色安山岩

13 28HH-23.37 剥片 ホルンフェルス

14 28HH-23.30 剥片 白岩

第33ブロック出土遺物(3)



第33ブロック出土遺物(4)

21 灰岩 接合資料



21-1 2BHH-23.48 剥片

21-2 2BHH-23.2 剥片



21-3 2BHH-23.40 石核

22 頁岩 接合資料

第33ブロック出土遺物(5)



22-1 28HH-22.43 削片

22-2 28HH-22.14 削片

22-3 28HH-23.52 削片

22-4 28HH-32.2 削片
(第35ブロック)22-5 28HH-22.23
使用痕ある削片

22-6 28HH-23.6 石核



22-7 28HH-22.3 削片

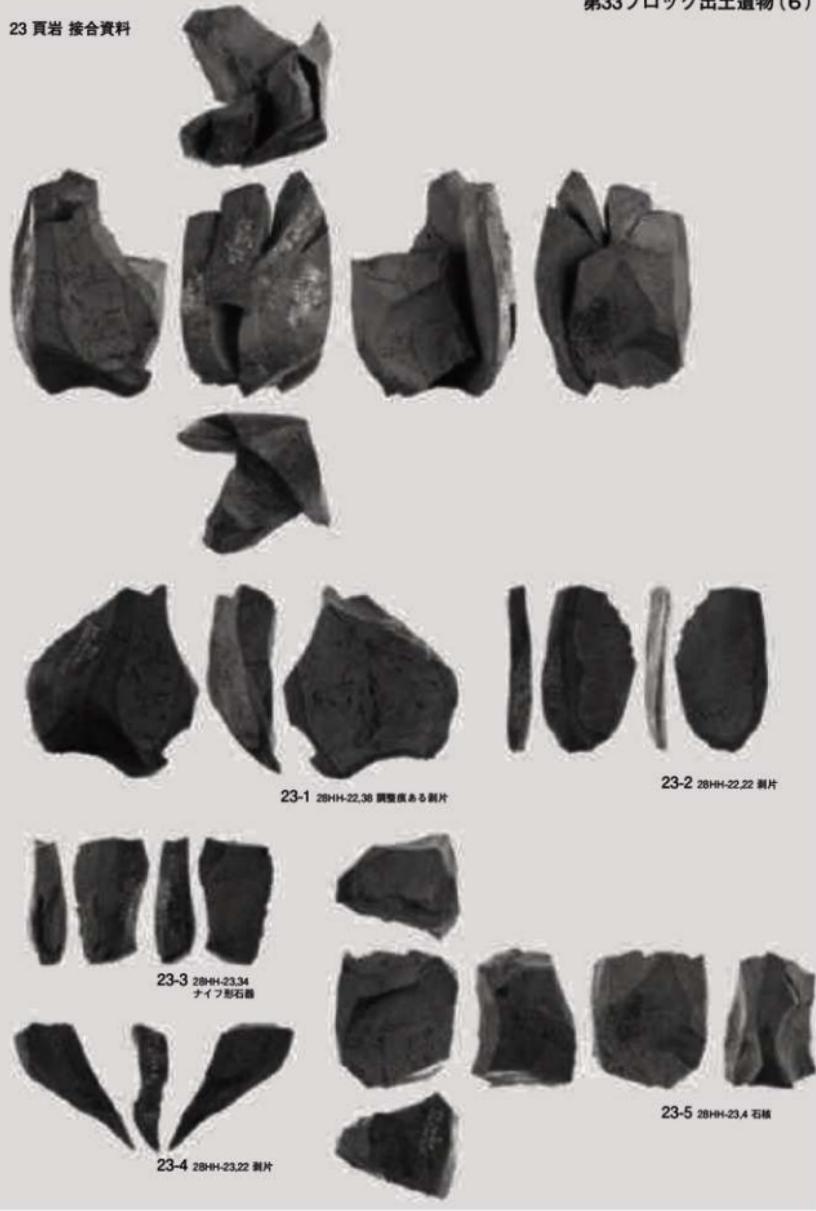
22-8 28HH-13.12
調整痕ある削片

22-9 28HH-23.10 石核



第33ブロック出土遺物(6)

23頁岩 接合資料

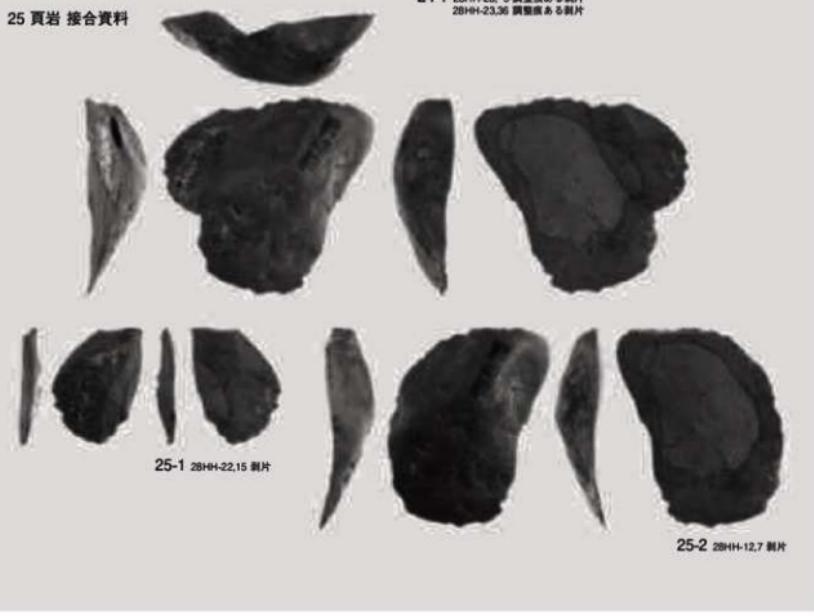


24 頁岩 接合資料

第33ブロック出土遺物(7)



25 頁岩 接合資料



26 ホルンフェルス 接合資料

第33ブロック出土遺物(8)



27 ホルンフェルス 接合資料

(第35
ブロック)

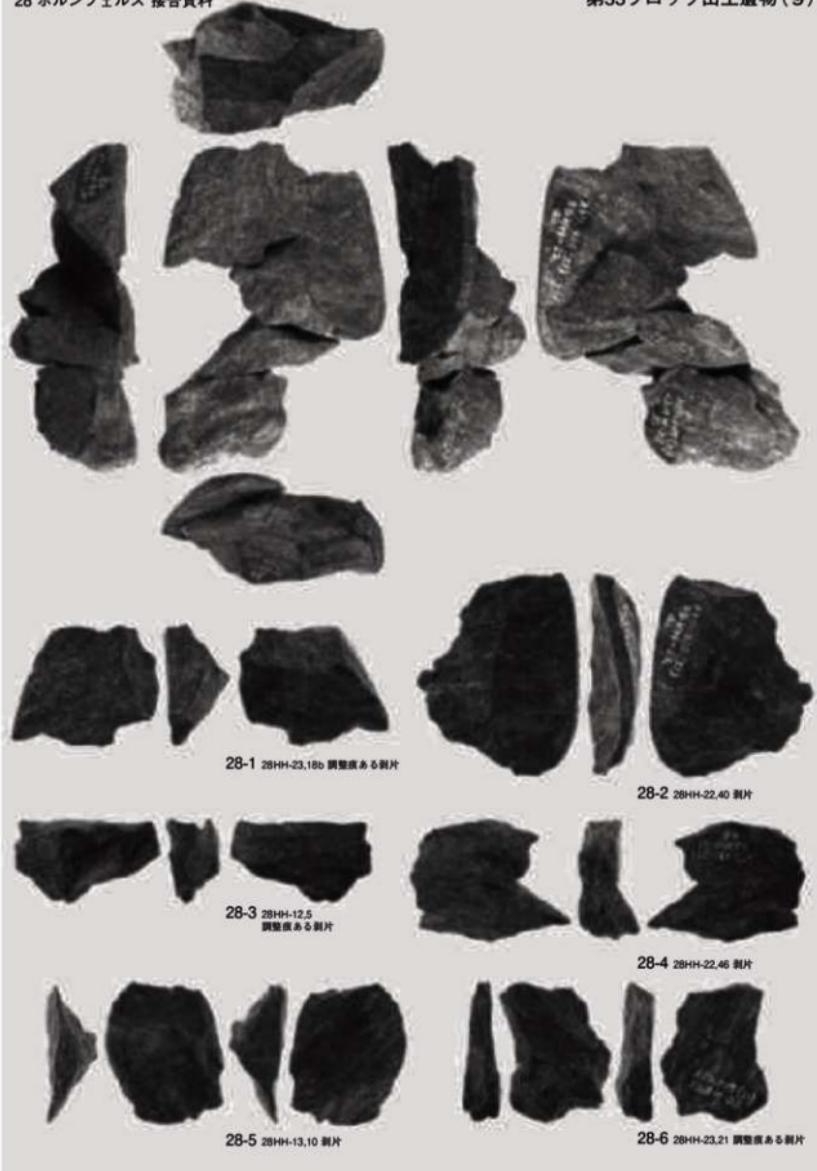
27-1 28HH-31.49 剥片

27-2 28HH-22.24 剥片



28 ホルンフェルス 接合資料

第33ブロック出土遺物(9)



29 ホルンフェルス 接合資料

第33ブロック出土遺物 (10)



29-1 28HH-13,11 剣片



29-2 28HH-22,31 剣片



29-3 28HH-22,37 剣片



29-4 28HH-22,9 調整度ある剣片



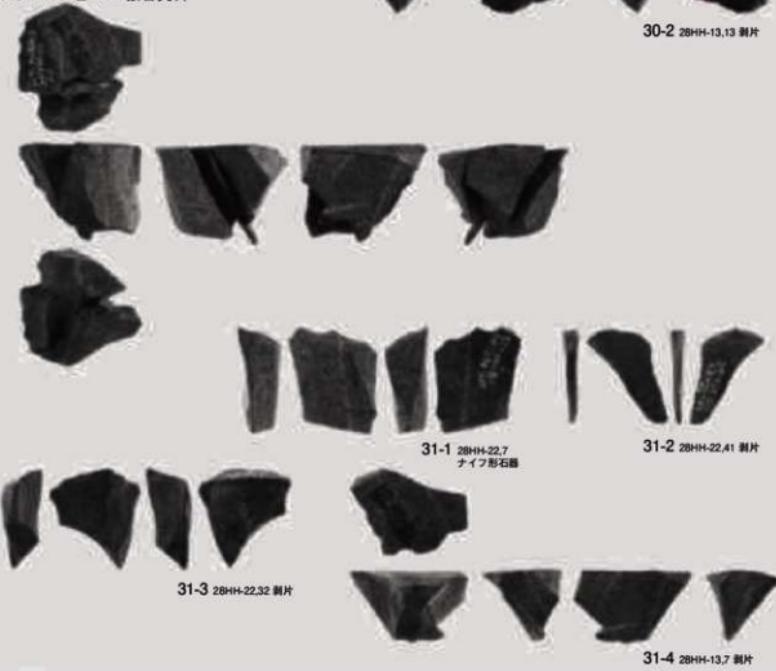
29-5 28HH-22,33 石核

30 ホルンフェルス 接合資料

第33ブロック出土遺物(11)



31 ホルンフェルス 接合資料



32 黒色安山岩 接合資料



第33 ブロック出土遺物 (12)



33 黒色安山岩 接合資料



34 黒色安山岩 接合資料

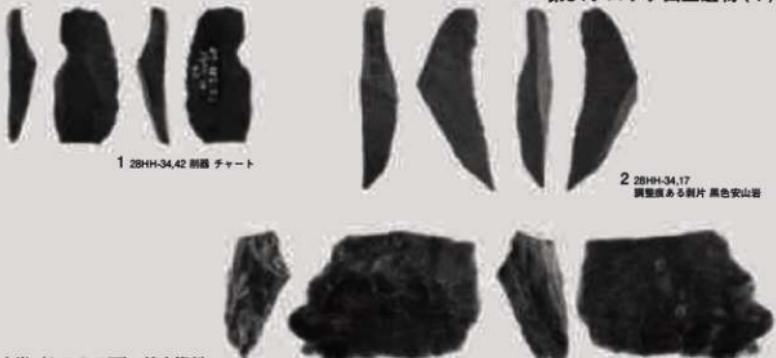


第33ブロック出土遺物(13)

35 灰岩 接合資料



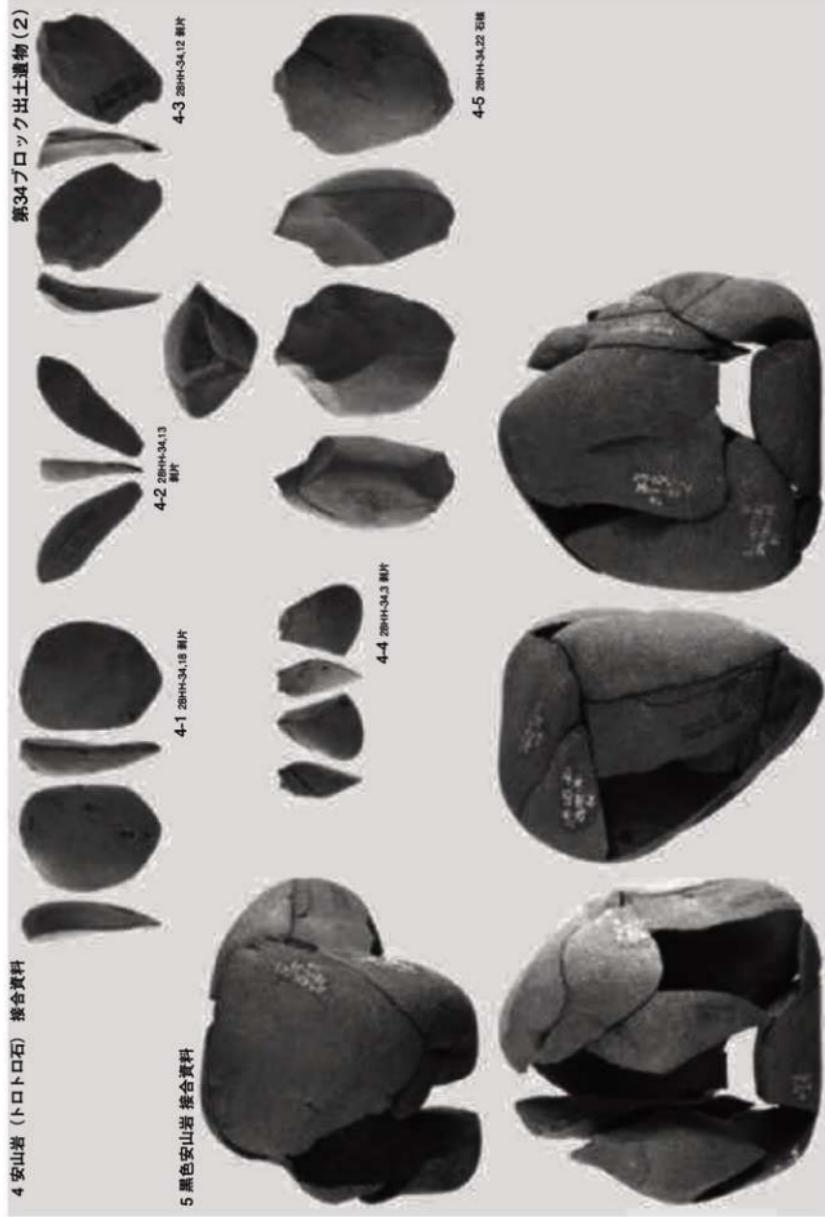
第34ブロック出土遺物(1)



4 安山岩(トロトロ石) 接合資料



4 安山岩(トロトロ石) 接合資料



第34ブロック出土遺物(2)

5 黒色安山岩 接合資料



5-1 28HH-34.44 石核

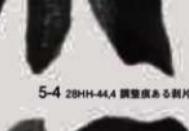
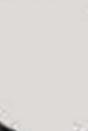


5-2 28HH-34.40 削片

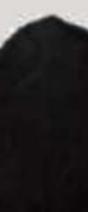


5-3 28HH-44.3 削片

5-4 28HH-44.4 削葉底ある削片



5-5 28HH-34.38 石核

5-6 28HH-34.21 削片
28HH-34.36 削片

5-7 28HH-34.46 削片

5-8 28HH-34.39 削葉底ある削片

第34ブロック出土遺物(3)

5 黒色安山岩 接合資料



5-9 2BHH-34.10 削片



5-10 2BHH-34.9 石核

5-11 2BHH-34.28 削片



5-12 2BHH-34.43 削片

6 黒色安山岩 接合資料



第34ブロック出土遺物(4)

6 黒色安山岩 接合資料



6-1 28HH-34.2 剥片

第34ブロック出土遺物(5)



6-2 28HH-44.1 剥片

6-3 28HH-34.7 剥片
28HH-34.30 剥片6-6 28HH-34.5 剥片
28HH-44.2 剥片6-4 28HH-33.2
剥離底ある剥片

6-5 28HH-34.29 剥片



6-7 28HH-34.19 剥片



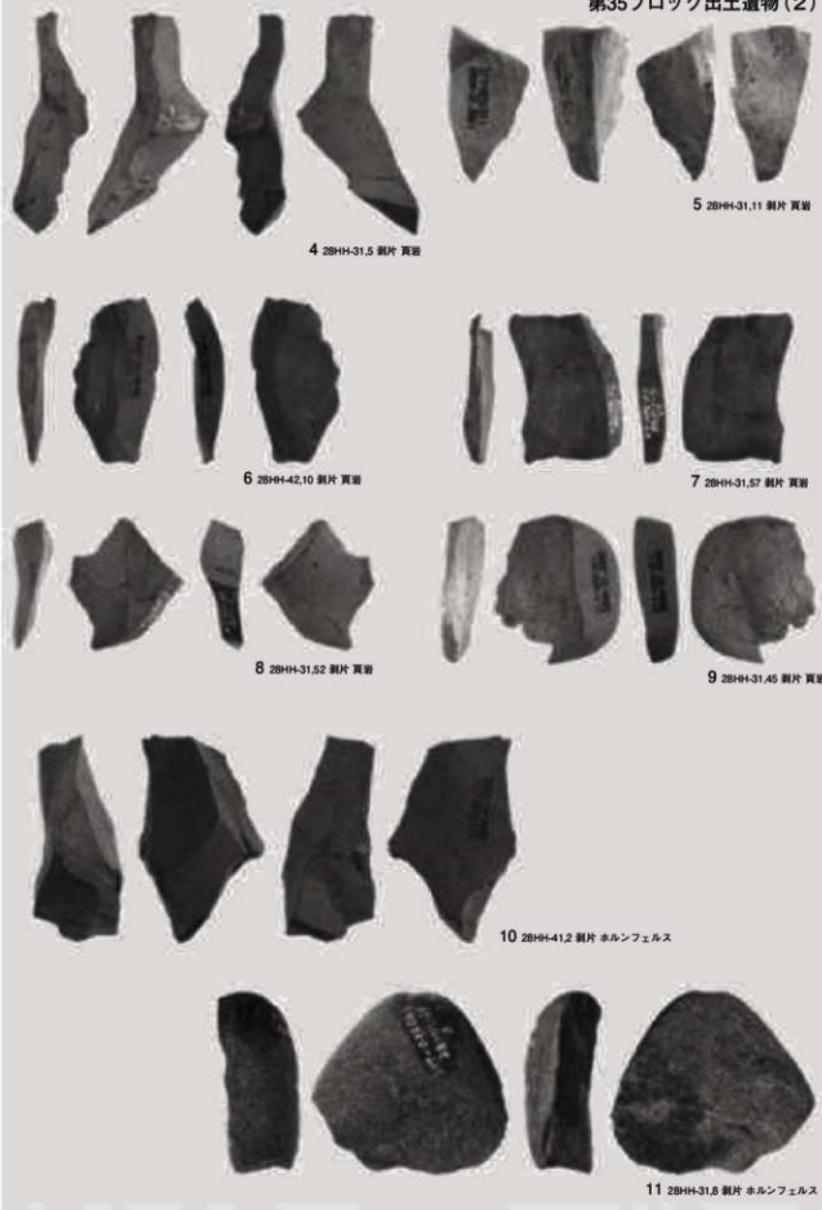
6-8 28HH-34.24 石核

2 28HH-31.22
ナイフ形石器 黄岩3 28HH-31.19
角盤状石器 黄岩

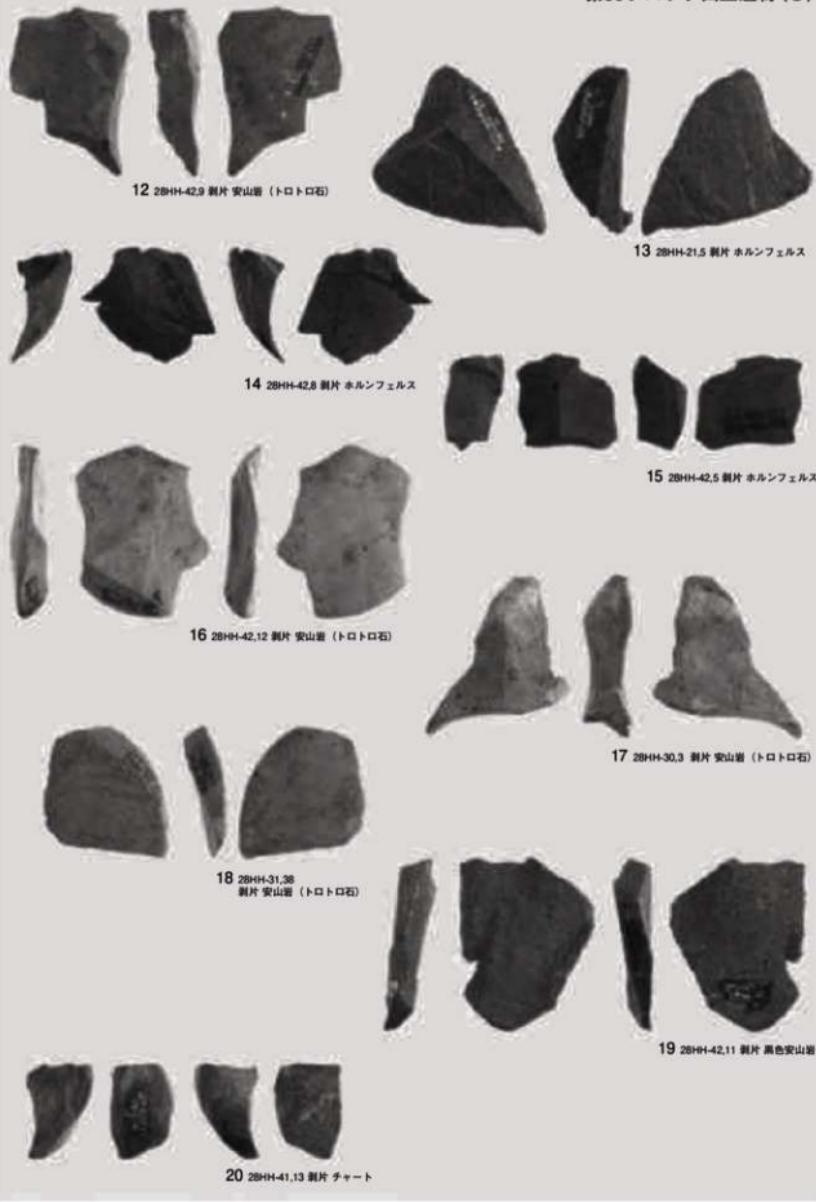
第35ブロック出土遺物(1)

1 28HH-41.6
ナイフ形石器 ホルンフェルス

第35ブロック出土遺物(2)



第35ブロック出土遺物(3)



第35ブロック出土遺物(4)



21 28HH-42.15 石核 黒岩



22 28HH-31.29 石核 黒岩



23 28HH-31.6 石核 安山岩



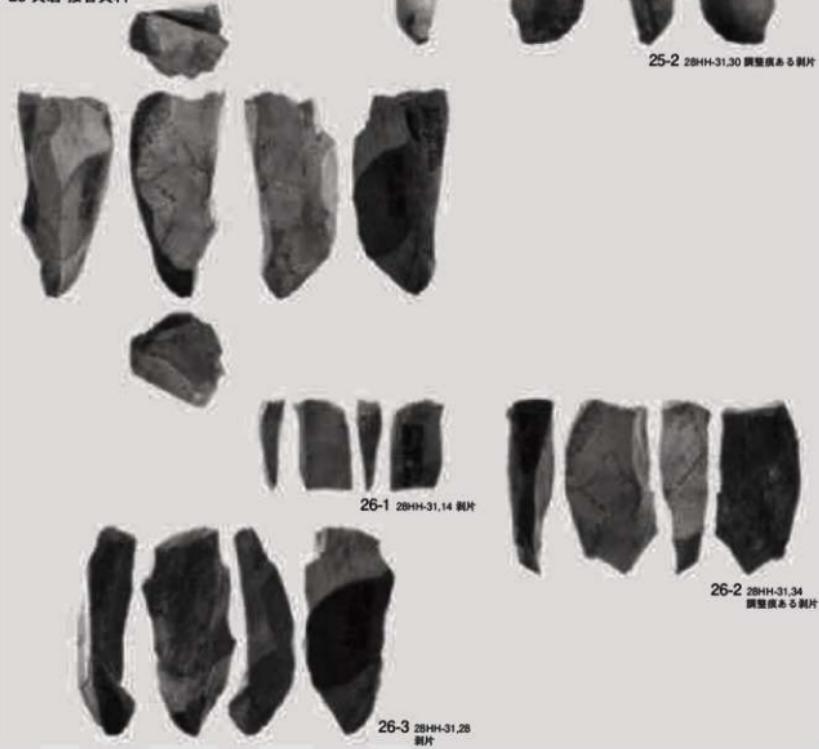
24 28HH-31.3 石核 黒色安山岩

第35ブロック出土遺物(5)

25 頁岩 接合資料



26 頁岩 接合資料



第35ブロック出土遺物(6)



28 チャート 接合資料



28-1 28HH-53,1 使用痕ある剥片

第35ブロック出土遺物(7)



29 灰岩 接合資料

29 28HH-31,56 剥片
28HH-31,15 剥片

30 黒色安山岩 接合資料

30 28HH-31,40 剥片
28HH-31,51a 剥片

単独出土遺物(1)



1 14CC-16,1 植先形尖頭器 ホルンフェルス



2 15Z-74,1 植先形尖頭器 チャート



3 トレンチ-3 植先形尖頭器 灰岩

単独出土遺物(2)



4 第2トレンチ-1 横先形尖端器 玄武岩

5 17BB-39.2 ナイフ形石器 黒色玄武岩

6 12DD-65.4
ナイフ形石器 黒色安山岩

7 20FF-75.2 ナイフ形石器 玄武岩

8 24FF-40.1
ナイフ形石器 丸質玄武岩

9 21HH-01.1
調整痕ある剥片 黑曜石

10 23GG-35.1
調整痕ある剥片 玄武岩

11 SD-001.4
剥片 黑色安山岩

12 プレ-13-1.1 剥片 玄武岩

13 SK-011.1 剥片 玄武岩

単独出土遺物(3)

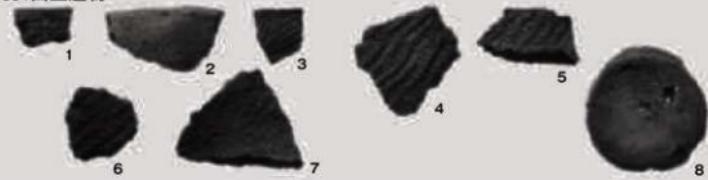


14 B区-1 刃片 黒色安山岩

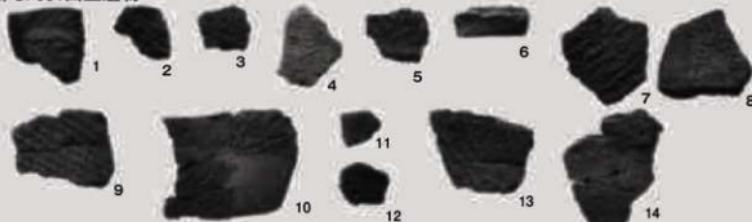


15 A-1.3 鋸石 砂岩

(13) SI-001出土遺物



(16) SI-001出土遺物



(16) SI-002出土遺物



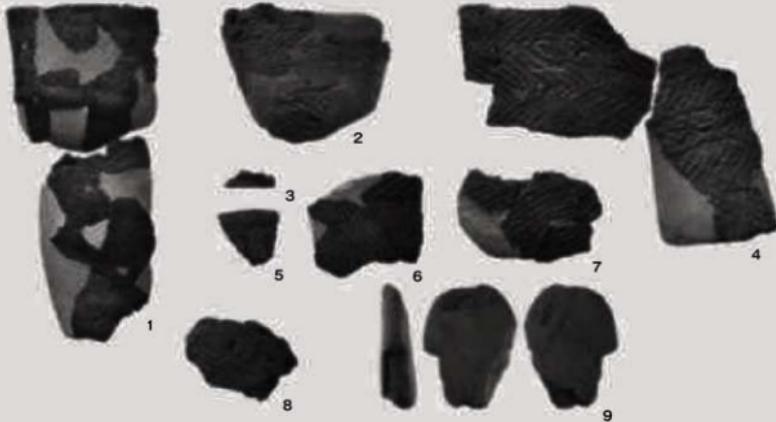
(16) SI-003出土遺物



(16) SI-004出土遺物



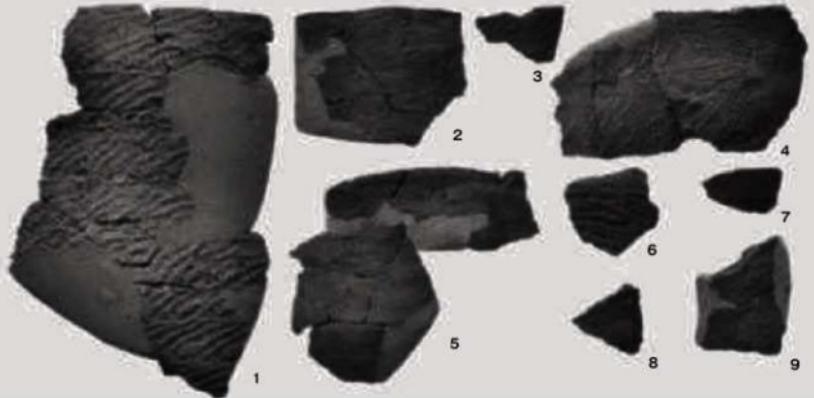
(21) SI-001出土遺物



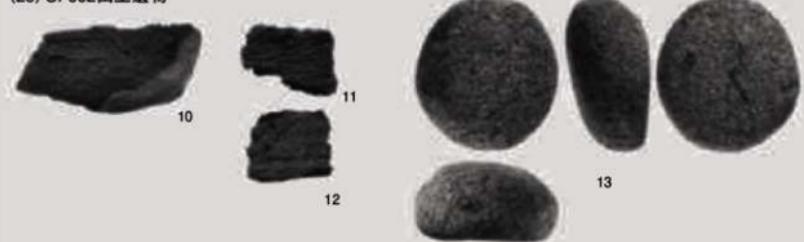
(26) SI-001出土遺物



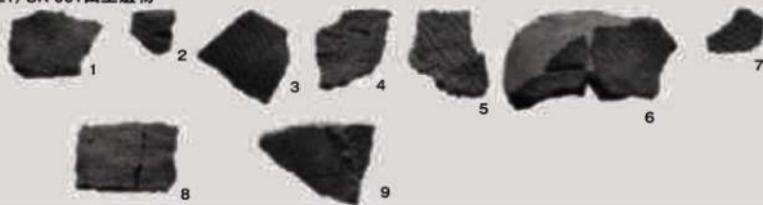
(26) SI-002出土遺物



(26) SI-002出土遺物



(21) SK-001出土遺物



(26) SK-001出土遺物



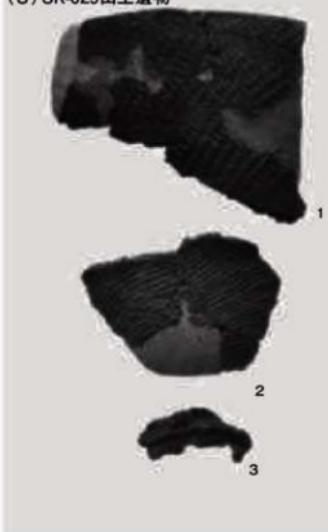
(16) SK-003出土遺物



(16) SK-006出土遺物



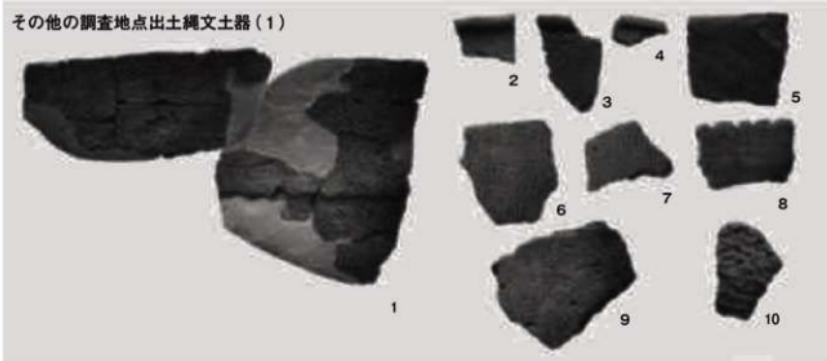
(3) SK-029出土遺物



第22次調査地点出土土器



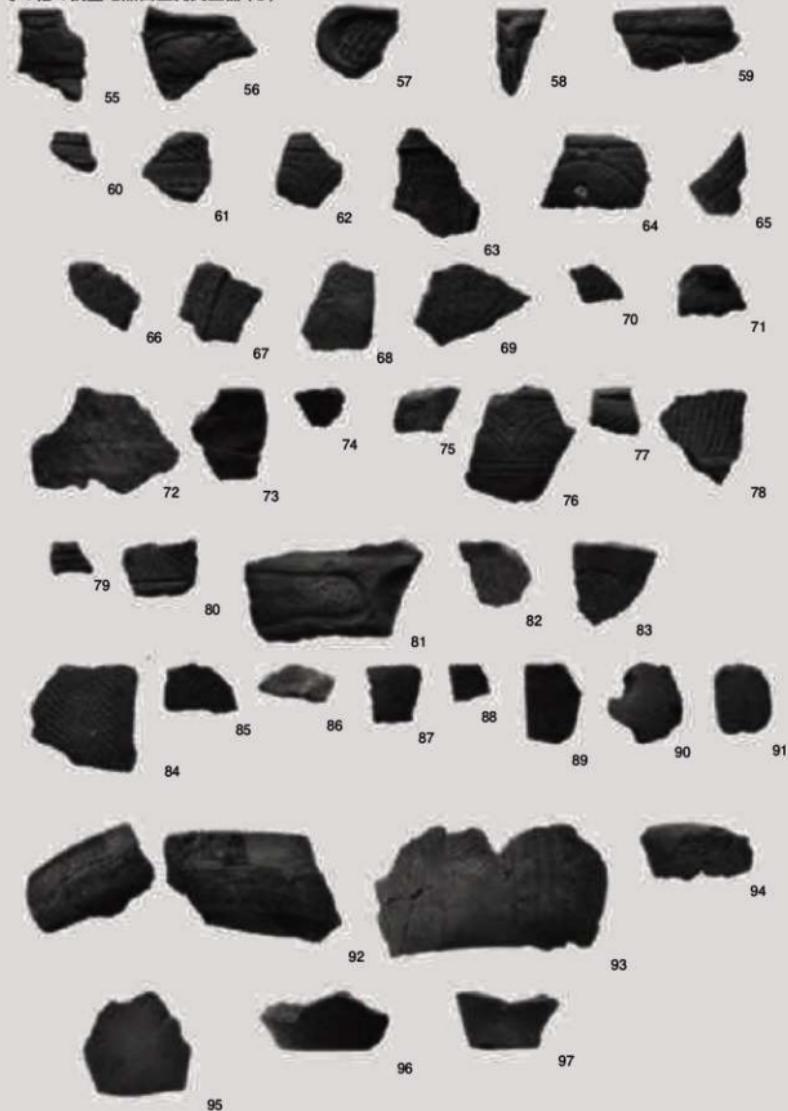
その他の調査地点出土縄文土器(1)



その他の調査地点出土縄文土器(2)



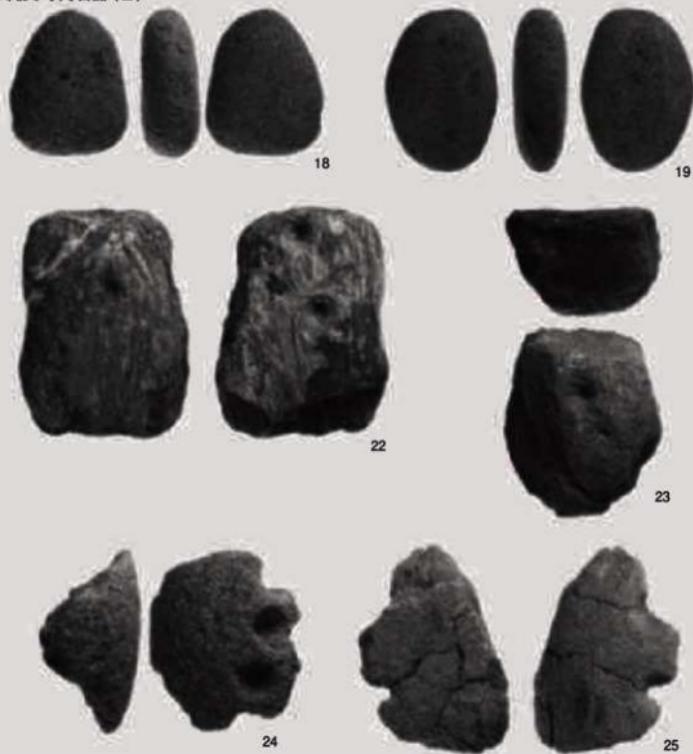
その他の調査地点出土縄文土器(3)



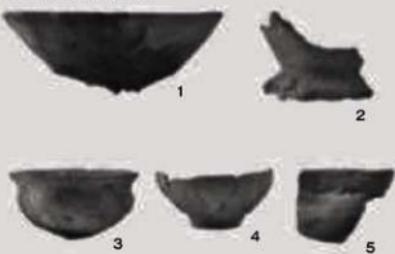
その他の縄文時代石器(1)



その他の縄文時代石器(2)



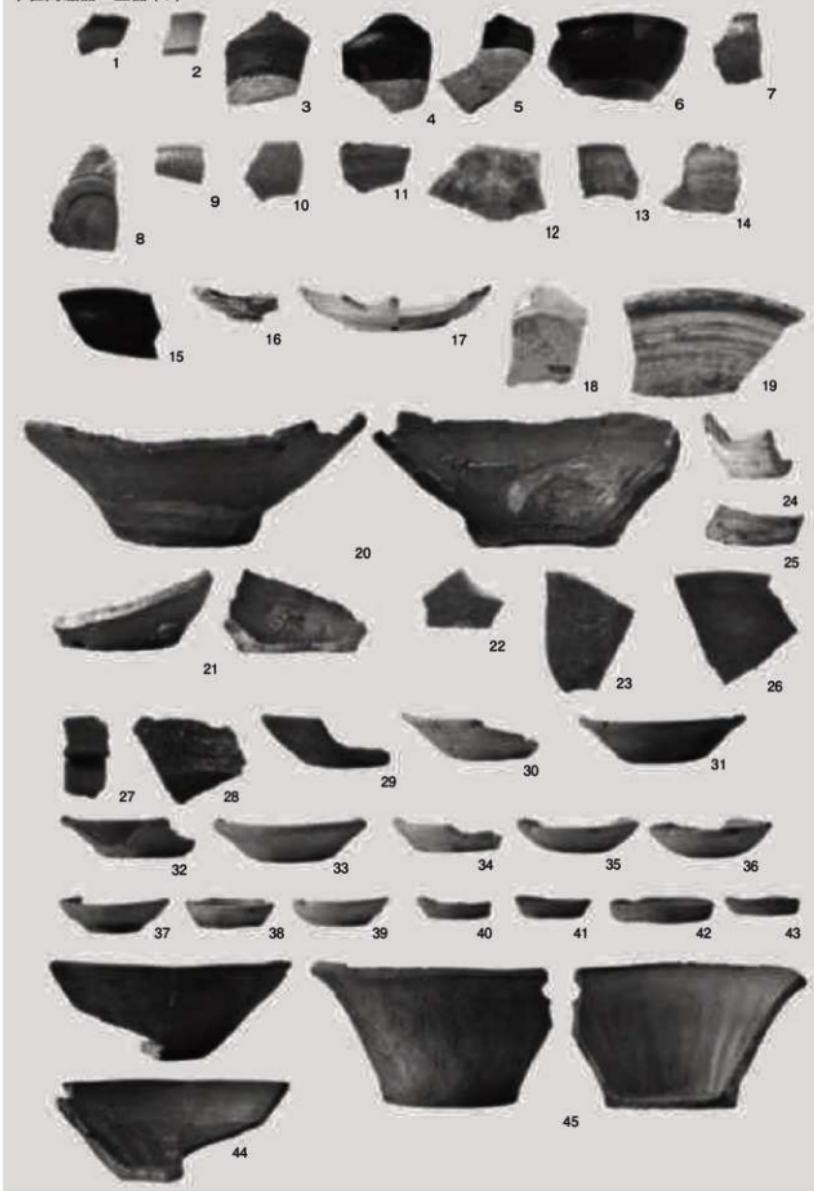
(32) SI-001出土遺物



(32) SX-001出土遺物



中世陶磁器・土器(1)



中世陶磁器・土器(2)



46



47



50



51



48

49

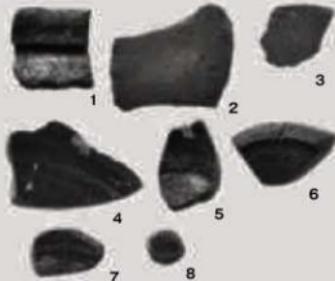


52

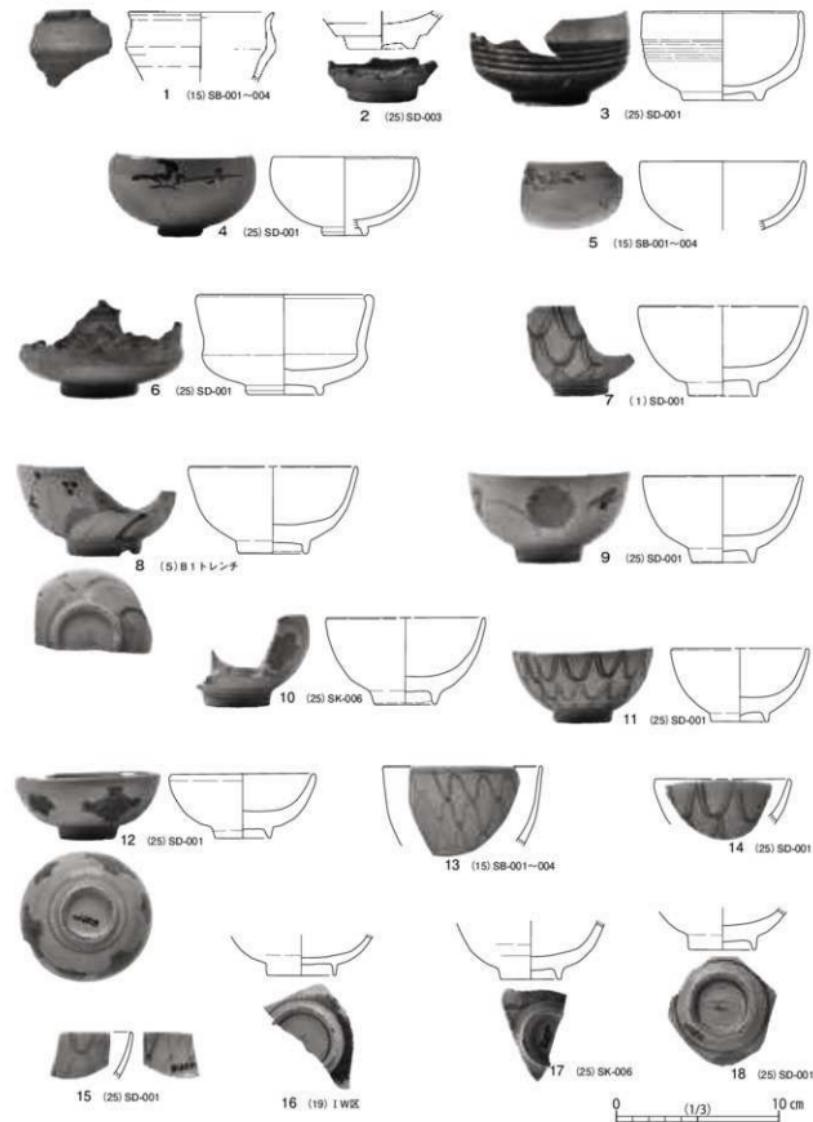


53

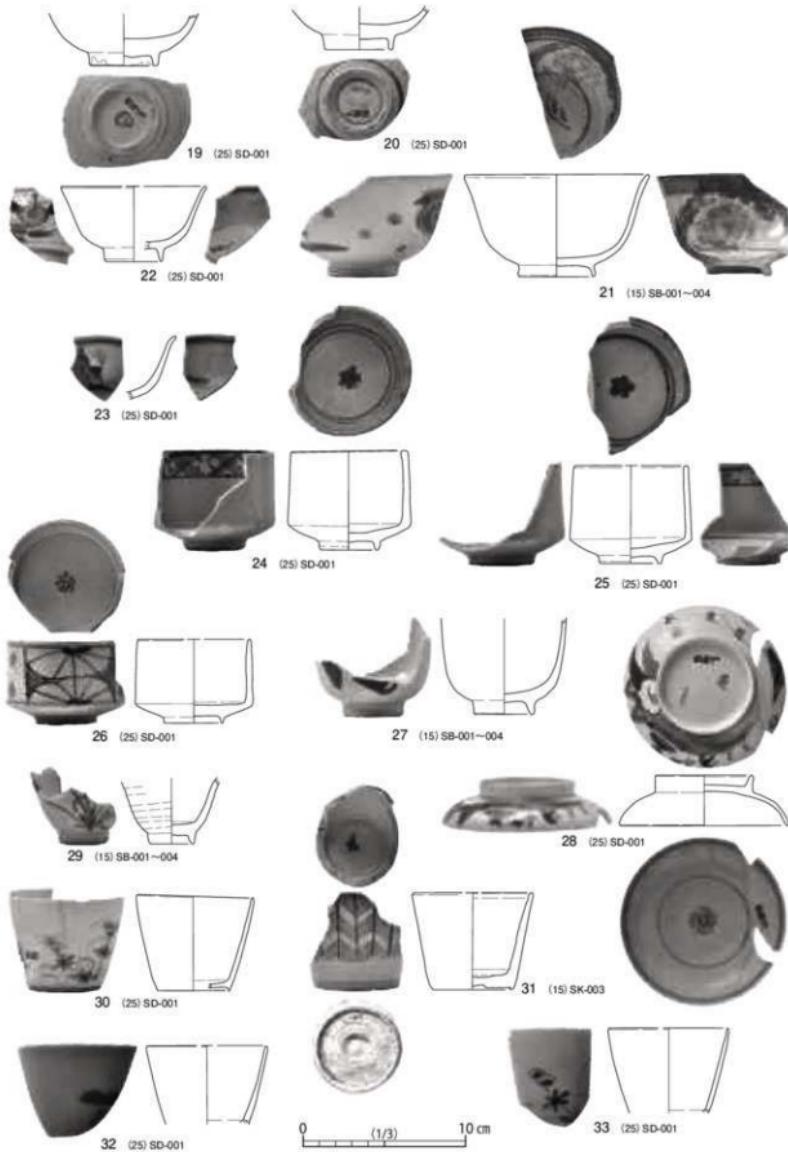
土製品



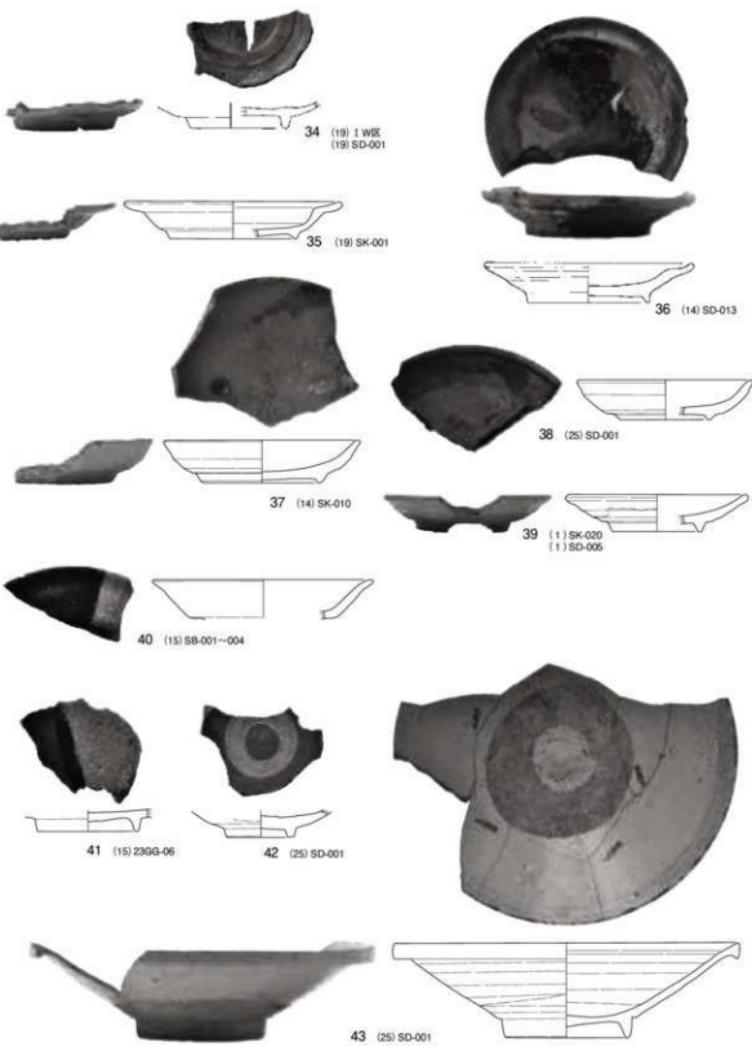
近世陶磁器・土器(1)



近世陶磁器・土器(2)

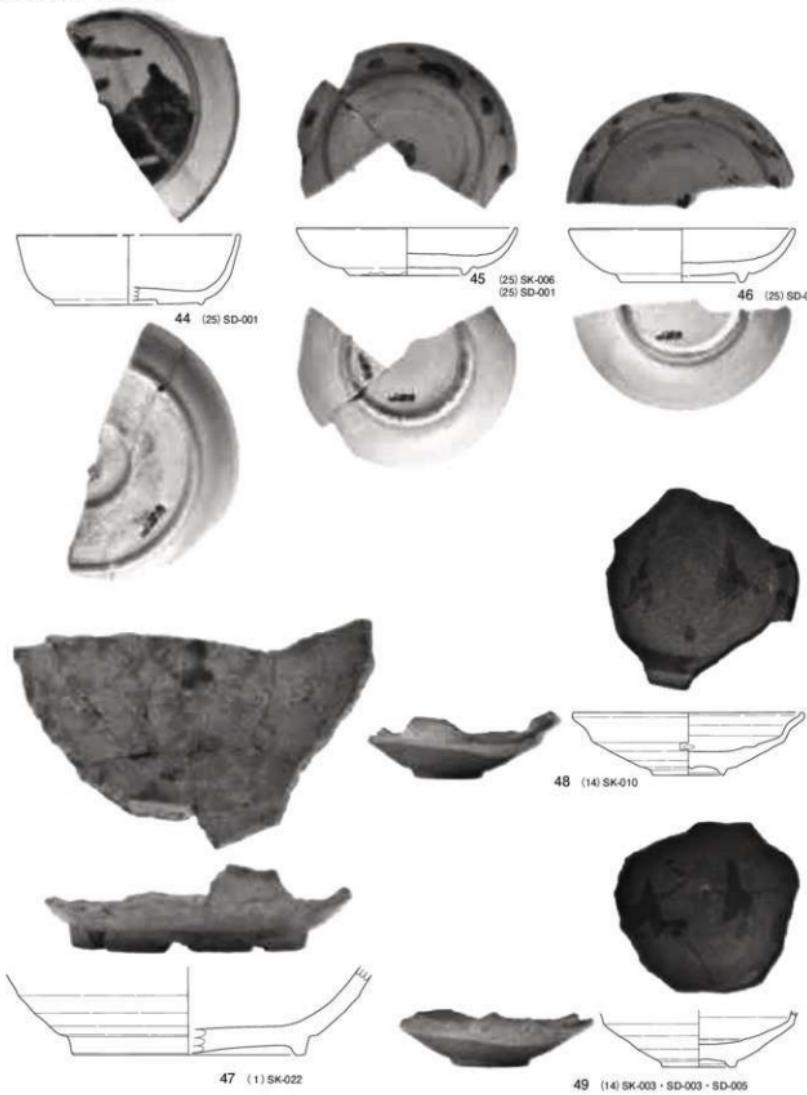


近世陶磁器・土器(3)



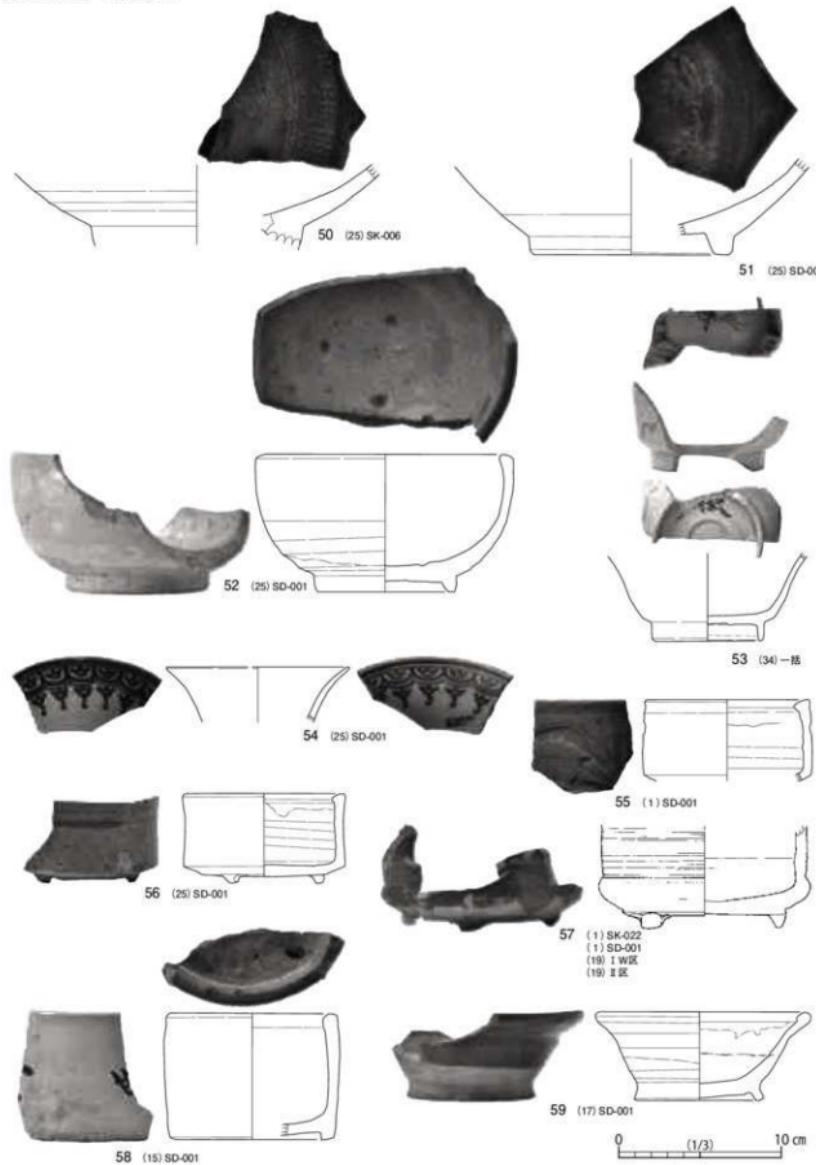
0 (1/3) 10 cm

近世陶磁器・土器(4)



0 (1/3) 10 cm

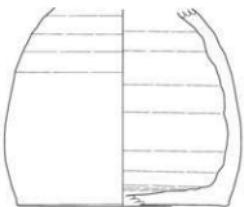
近世陶磁器・土器(5)



近世陶磁器・土器(6)



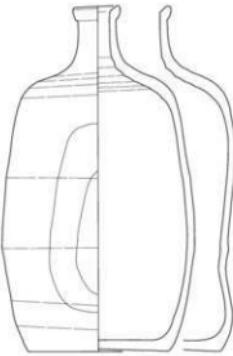
60 (14) SK-010
(14) SK-003・SD-003・SD-005
(15) 23GG-12



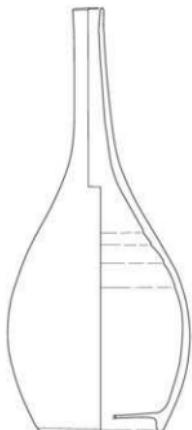
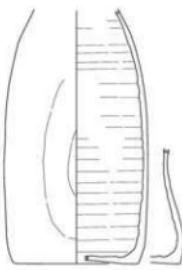
61 (25) SD-001



62 (25) SD-001



63 (25) SD-001



64 (25) SD-001



0 (1/3) 10 cm

近世陶磁器・土器(7)



65 (25) SK-002



67 (25) SD-001



66 (25) SD-001



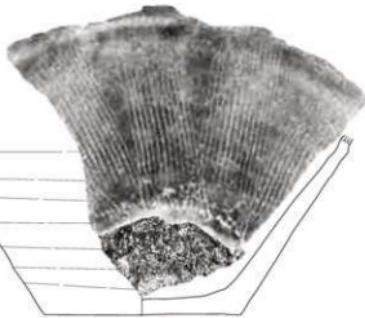
68 (14) D区



69 (25) SD-003



70 (25) SD-001

71 (15) SB-001~004
(15) SD-001
(15) 22FF-69

72 (25) SK-002



73 (15) 22GG-53

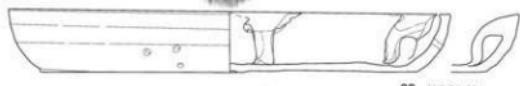
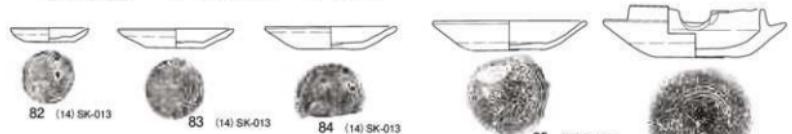
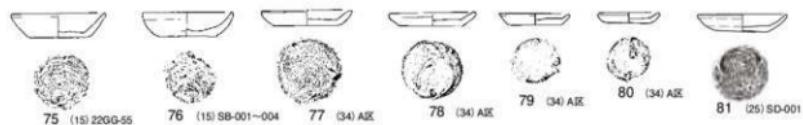


74 (15) SD-001



(1/3)

近世陶磁器・土器(8)



0 (1/4) 10 cm

石製品(板碑)



石製品(石臼)



12



13



14



15



16



17



18



19



20

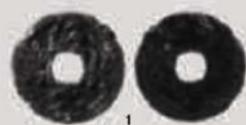
石製品(砥石)



鉄製品・製鉄関連遺物



錢貨(1)



1



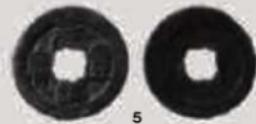
2



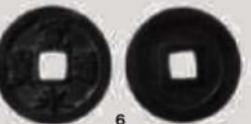
3



4



5



6



7



8



9



10



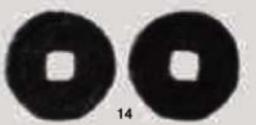
11



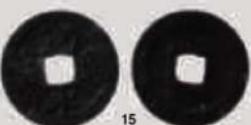
12



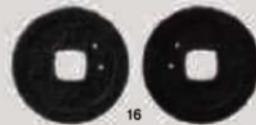
13



14



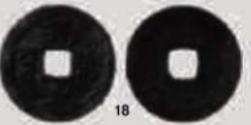
15



16



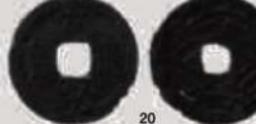
17



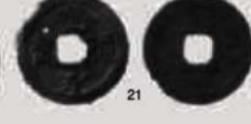
18



19

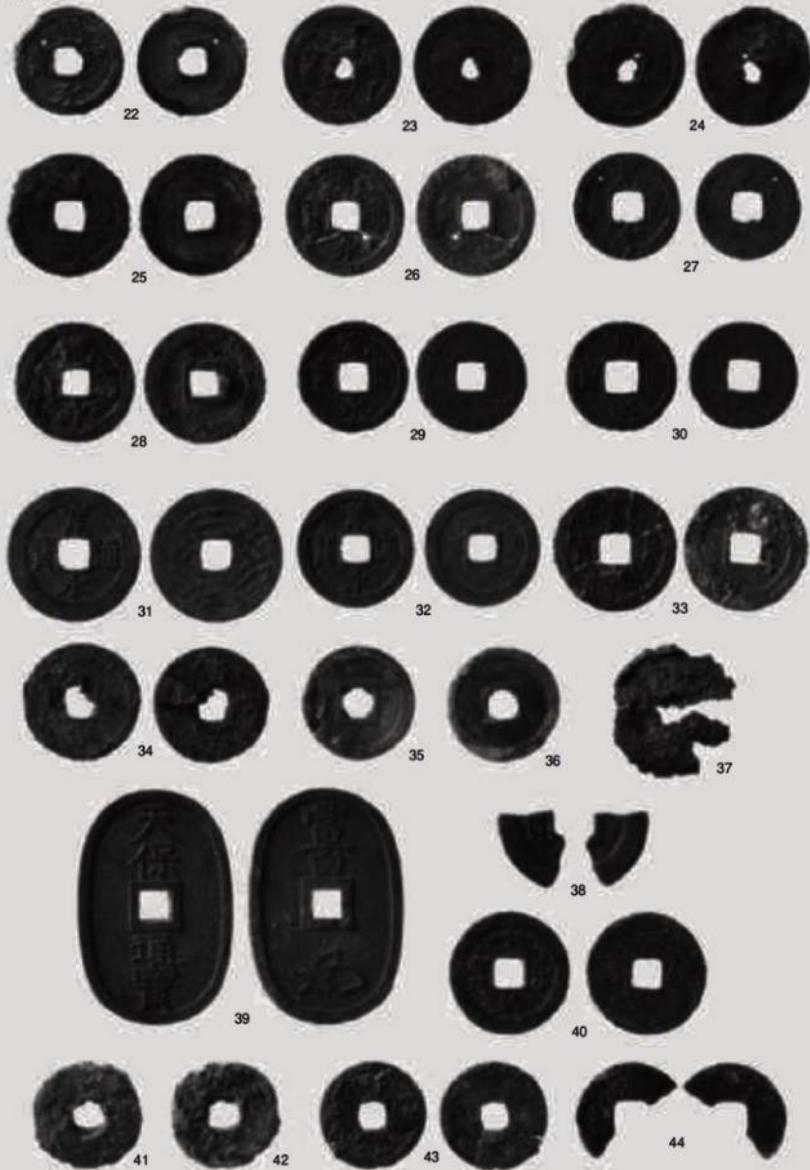


20



21

錢貨(2)



報告書抄録

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第36集

柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書8

—柏市屋敷内遺跡—

令和3年3月25日発行

編集・発行 千葉県教育委員会
千葉市中央区市場町1-1

印 刷 株式会社白樺写真工芸
千葉市稲毛区山王町102-5
